

# 第 32 回 港区民世論調査

令和 2 年（2020 年）3 月

港 区

## 港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

## はじめに

区は、港区に暮らし、働き、学び、訪れる、すべての人が心豊かに安心して快適に過ごすことができる「区民の誰もが誇りに思えるまち・港区」の実現に向け、参画と協働を区政運営の基本姿勢として、各地区の総合支所を中心に様々な施策に取り組んでいます。

区政運営のための計画策定や施策の推進にあたっては、区民の皆さんの多様なご意見やご要望を把握・分析し、的確かつ迅速に反映させることが重要です。

区は、広聴はがきや広聴メールなどで区民の声を受け付けるほか、区政モニター制度、区民意見募集（パブリックコメント）などの各種の広聴事業を実施しています。「港区民世論調査」も、区政への関心や定住意向などの経年変化を把握するために、2年に一度実施しており、今回は32回目となります。

今回の調査では、区民の皆さんの区政に対する意識や生活の変化など毎回行っている調査項目に加え、「みなとタバコルール」、「プラスチックごみ」、「災害対策」など、区民の皆さんの生活に関係が深い事項を中心に全10項目についてお伺いしました。

区は、この調査結果を今後の区政運営の基礎資料として広く活用してまいります。

第32回港区民世論調査にご協力いただきました皆さんに、心からお礼を申し上げます。

令和2年3月

港区長 武井雅昭



---

<b>第1章</b>	<b>調査の概要</b>	<b>1</b>
1	調査目的	3
2	調査項目	3
3	調査設計	3
4	回収結果	3
5	居住地区／区域区分	4
6	居住地区／区域別回収結果	5
7	報告書の見方	6
8	標本誤差	7
<b>第2章</b>	<b>調査回答者の属性</b>	<b>9</b>
1	性別	11
2	年代別	11
3	性／年代別	11
4	住居形態別	12
5	職業別	12
6	居住地区別	12
7	国籍別	13
8	回答種別	13
<b>第3章</b>	<b>調査結果の詳細</b>	<b>15</b>
1	定住意向	17
(1)	居住期間	17
(2)	定住意向	19
(3)	転出意向理由	22
2	区政全般	28
(1)	区政への関心度	28
(2)	区長名の認知状況	31
(3)	区の行政サービスなどの情報入手方法	33
(4)	区からの情報の提供状況の的確さ	34
(5)	「みなとコール（コールセンター）」の認知状況	36
(6)	「区民の声センター」の認知状況	37
(7)	区民からの意見等に、区の考え方等をホームページで公表していることの認知状況	38
3	区基本計画	40
(1)	「港区基本計画」後期3年の計画改定に対する認知状況	40

# 目次

---

(2)	「みなとタウンフォーラム」の認知状況	43
(3)	港区基本計画に対する考え	46
(4)	重点課題のうち、特に重点的に取り組むべき課題	106
(5)	港区の状況	109
4	やさしい日本語	161
(1)	「やさしい日本語」の認知状況	161
5	みなとタバコルール	164
(1)	喫煙の状況	164
(2)	「みなとタバコルール」に対する認知状況	166
(3)	今後のたばこ対策として必要だと思う取組	169
6	プラスチックごみ	172
(1)	海洋プラスチックごみに対する関心度	172
(2)	プラスチック製品を捨てる際の分別状況	175
(3)	プラスチック製品を減らすために行っている取組	178
(4)	最も不要だと感じている使い捨てプラスチック製品	181
7	災害対策	184
(1)	自宅で行っている家具の転倒・移動・落下対策	184
8	生活安全	186
(1)	普段の生活の中での不安	186
(2)	学びたい知識	189
9	平和	191
(1)	「港区平和都市宣言」の認知状況	191
(2)	「平和の灯」の認知状況	193
(3)	平和の大切さを伝えるために必要な取組	196
10	港区の職員に対する印象	198
(1)	港区の職員に対する印象	198
(2)	港区の職員に対する近年の印象の変化	223
付録①	調査票	249
付録②	相関表	281

# 第1章 調査の概要



## 1 調査目的

区政に関する区民の意向・要望及び区民の生活意識などを把握し、その結果を今後の区政運営の基礎的な資料として活用する。

## 2 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 区政全般
- (3) 区基本計画
- (4) やさしい日本語
- (5) みなとタバコルール
- (6) プラスチックごみ
- (7) 災害対策
- (8) 生活安全
- (9) 平和
- (10) 港区の職員に対する印象

## 3 調査設計

- |          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| (1) 調査地域 | 港区全域                            |
| (2) 調査対象 | 港区在住の満18歳以上の男女個人（外国人を含む）        |
| (3) 標本数  | 2,000 標本                        |
| (4) 標本抽出 | 住民基本台帳からの層化無作為抽出（5地区に分類し対象者を抽出） |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送又はインターネットによる回収           |
| (6) 調査期間 | 令和元年10月29日（火）～11月14日（木）         |
| (7) 調査機関 | 株式会社ケー・デー・シー                    |

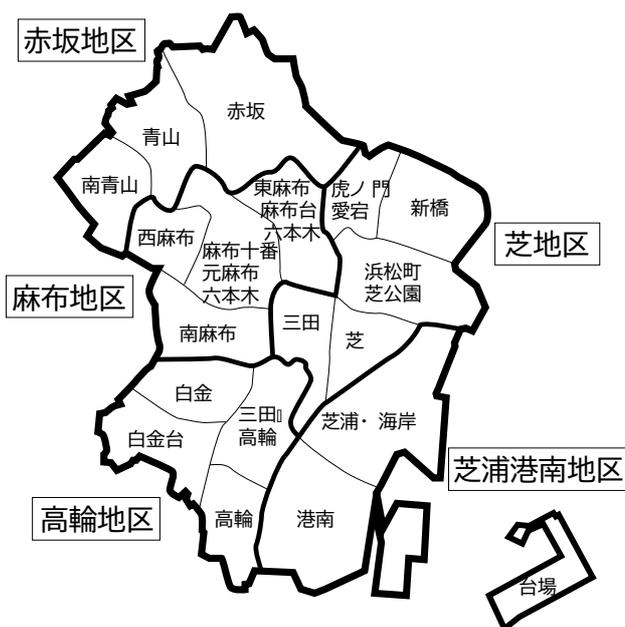
## 4 回収結果

- |           |  |
|-----------|--|
| (1) 標本数   | 2,000 標本   |
| (2) 有効回収数 | 658人（内訳／日本国籍631人、外国籍27人）<br>※インターネットによる回答155人を含む |
| (3) 有効回収率 | 32.9%  |

## 5 居住地区／区域区分

居住地区の集計にあたっては、地域的特性を把握するために、各総合支所管轄に基づき、港区内を5地区、19区域に分けた。対象地区・区域の総合支所管轄および該当町丁目は次のようになる。

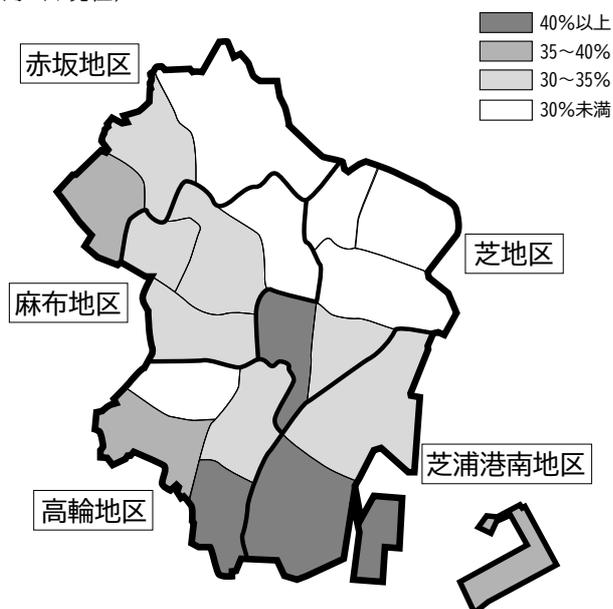
地区	区域	町丁目
芝地区	1 新橋	東新橋1～2丁目、新橋1～6丁目、西新橋1～3丁目
	2 虎ノ門・愛宕	虎ノ門1～5丁目、愛宕1～2丁目
	3 浜松町・芝公園	浜松町1～2丁目、芝大門1～2丁目、芝公園1～4丁目、海岸1丁目
	4 芝	芝1～5丁目
	5 三田	三田1～3丁目
麻布地区	6 東麻布・麻布台・六本木	麻布台1～3丁目、東麻布1～3丁目、麻布永坂町、麻布狸穴町、六本木1～4丁目
	7 麻布十番・元麻布・六本木	麻布十番1～4丁目、元麻布1～3丁目、六本木5～7丁目
	8 南麻布	南麻布1～5丁目
	9 西麻布	西麻布1～4丁目
赤坂地区	10 赤坂	元赤坂1～2丁目、赤坂1～9丁目
	11 青山	南青山1～2丁目、北青山1～2丁目
	12 南青山	南青山3～7丁目、北青山3丁目
高輪地区	13 三田・高輪	三田4～5丁目、高輪1～2丁目
	14 高輪	高輪3～4丁目
	15 白金	白金1～6丁目
	16 白金台	白金台1～5丁目
芝浦港南地区	17 芝浦・海岸	芝浦1～4丁目、海岸2～3丁目
	18 港南	港南1～5丁目
	19 台場	台場1～2丁目



## 6 居住地区／区域別回収結果

		満18歳以上の人口 (外国人含む) (構成比)	標本数	有効 回収数	有効 回収率
港区全体		219,972人 (100.0%)	2,000	658	32.9%
芝地区	小計	36,482人 (16.6%)	330	107	32.4%
	1 新橋	5,650人 (2.6%)	51	14	27.5%
	2 虎ノ門・愛宕	3,260人 (1.5%)	29	5	17.2%
	3 浜松町・芝公園	6,123人 (2.8%)	57	16	28.1%
	4 芝	12,729人 (5.8%)	115	39	33.9%
	5 三田	8,720人 (4.0%)	78	33	42.3%
麻布地区	小計	52,229人 (23.7%)	484	140	28.9%
	6 東麻布・麻布台・六本木	13,576人 (6.2%)	128	26	20.3%
	7 麻布十番・元麻布・六本木	14,971人 (6.8%)	141	43	30.5%
	8 南麻布	14,303人 (6.5%)	129	42	32.6%
	9 西麻布	9,379人 (4.3%)	86	29	33.7%
赤坂地区	小計	32,215人 (14.6%)	280	88	31.4%
	10 赤坂	17,198人 (7.8%)	152	43	28.3%
	11 青山	5,881人 (2.7%)	48	16	33.3%
	12 南青山	9,136人 (4.2%)	80	29	36.3%
高輪地区	小計	52,821人 (24.0%)	480	155	32.3%
	13 三田・高輪	19,798人 (9.0%)	179	57	31.8%
	14 高輪	7,741人 (3.5%)	70	28	40.0%
	15 白金	15,301人 (7.0%)	143	36	25.2%
	16 白金台	9,981人 (4.5%)	88	34	38.6%
芝浦地区 港南	小計	46,225人 (21.0%)	426	164	38.5%
	17 芝浦・海岸	25,123人 (11.4%)	232	77	33.2%
	18 港南	16,609人 (7.6%)	152	72	47.4%
	19 台場	4,493人 (2.0%)	42	15	35.7%
(無回答)				4	

(※人口は令和元年9月1日現在)



## 7 報告書の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ間）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい間）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ・時系列比較を見る上で、港区民世論調査は、調査回によって次のように標本設定が異なるので、注意が必要である。

調査回	調査方法	標本数	有効回収数
第1回（昭和51年）～第9回（昭和60年）	面接法	2,000 標本	1,600 標本程度
第10回（昭和61年）	郵送法	15,000 標本	9,114 標本
第11回（昭和62年）～第19回（平成7年）	郵送法	5,000 標本	3,100 標本程度
第20回（平成8年）	郵送法	2,000 標本	1,205 標本
第21回（平成9年）	郵送法	2,000 標本	1,203 標本
第22回（平成11年）	郵送法	2,000 標本	1,204 標本
第23回（平成13年）	郵送法	2,000 標本	1,003 標本
第24回（平成15年）	郵送法	2,000 標本	1,030 標本
第25回（平成17年）	郵送法	2,000 標本	730 標本
第26回（平成19年）	郵送法	2,000 標本	858 標本
第27回（平成21年）	郵送法	2,000 標本	911 標本
第28回（平成23年）	郵送法	2,000 標本	696 標本
第29回（平成25年）	郵送法	2,000 標本	653 標本
第30回（平成27年）	郵送法	2,000 標本	952 標本
第31回（平成29年）	郵送法	2,000 標本	826 標本
第32回（令和元年）	郵送法	2,000 標本	658 標本

## 8 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（ $n$ ）、②回答の比率（ $p$ ）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$N$  = 母集団数（港区の18歳以上の人口）  
 $n$  = 比率算出の基数（回答者数）  
 $p$  = 回答の比率（%）

今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

回答比率（ $p$ ） 基数（ $n$ ）	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
658	±2.34	±3.11	±3.57	±3.81	±3.89
600	±2.45	±3.26	±3.74	±4.00	±4.08
500	±2.68	±3.57	±4.09	±4.38	±4.47
400	±3.00	±4.00	±4.58	±4.90	±5.00
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.65	±5.77

注) この表の見方

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査にあてはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答者数が658人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.81%以内（56.19%～63.81%）である」とみることができる。

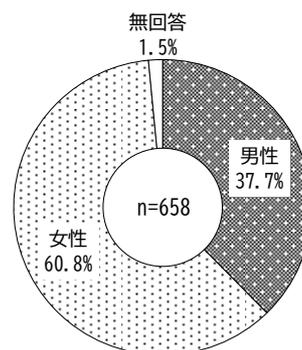


## 第2章 調査回答者の属性



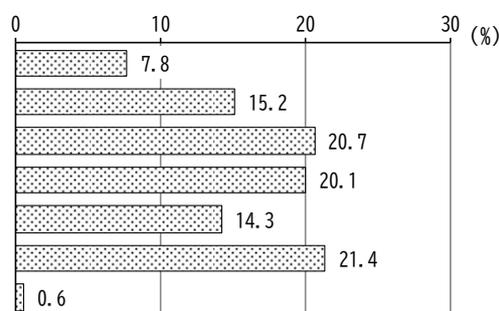
### 1 性別

	基数	構成比 (%)
1 男性	248	37.7
2 女性	400	60.8
( 無 回 答 )	10	1.5
合 計	658	100.0



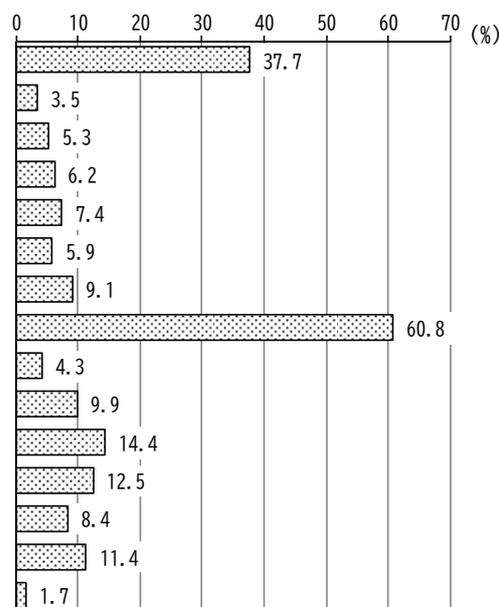
### 2 年代別

	基数	構成比 (%)
1 18～20歳代	51	7.8
2 30歳代	100	15.2
3 40歳代	136	20.7
4 50歳代	132	20.1
5 60歳代	94	14.3
6 70歳以上	141	21.4
( 無 回 答 )	4	0.6
合 計	658	100.0



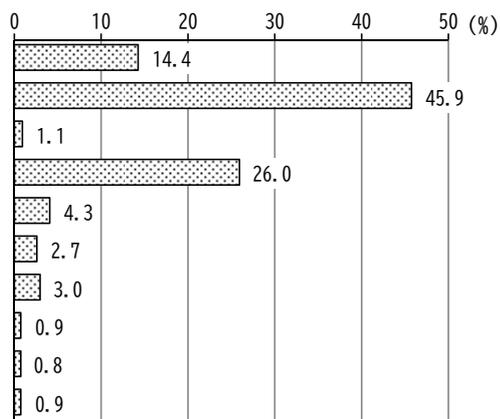
### 3 性／年代別

	基数	構成比 (%)
1 男性	248	37.7
2 18～29歳	23	3.5
3 30～39歳	35	5.3
4 40～49歳	41	6.2
5 50～59歳	49	7.4
6 60～69歳	39	5.9
7 70歳以上	60	9.1
8 女性	400	60.8
9 18～29歳	28	4.3
10 30～39歳	65	9.9
11 40～49歳	95	14.4
12 50～59歳	82	12.5
13 60～69歳	55	8.4
14 70歳以上	75	11.4
( 無 回 答 )	11	1.7
合 計	658	100.0



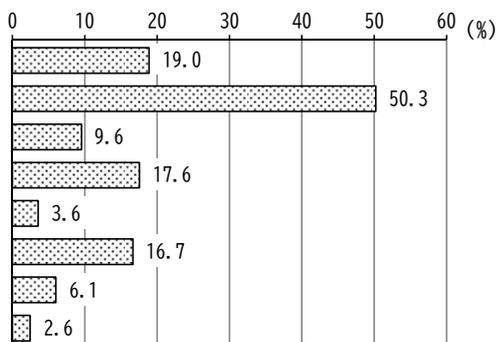
### 4 住居形態別

	基数	構成比 (%)
1 持家（一戸建）	95	14.4
2 持家（マンション）	302	45.9
3 借家（一戸建）	7	1.1
4 民間の賃貸マンション・アパート	171	26.0
5 都営住宅・区営住宅・区立住宅	28	4.3
6 UR（旧公団）・公社の賃貸住宅	18	2.7
7 社宅・公務員宿舎	20	3.0
8 寮・寄宿舎・住み込み・間借り	6	0.9
9 その他	5	0.8
（無回答）	6	0.9
合計	658	100.0



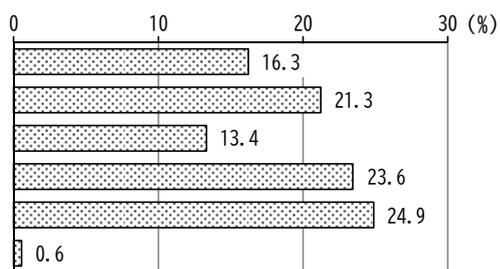
### 5 職業別

	基数	構成比 (%)
1 自営業主・家族従業	92	19.0
2 会社員・団体職員・公務員	280	50.3
3 アルバイト・パートタイマー	58	9.6
4 家事専業	94	17.6
5 学生	20	3.6
6 無職	83	16.7
7 その他	26	6.1
（無回答）	5	2.6
合計	658	100.0



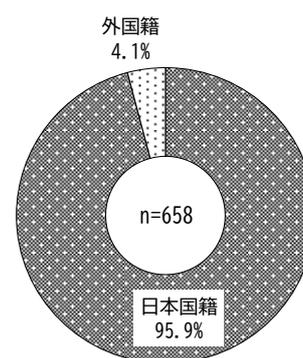
### 6 居住地区別

	基数	構成比 (%)
1 芝地区	107	16.3
2 麻布地区	140	21.3
3 赤坂地区	88	13.4
4 高輪地区	155	23.6
5 芝浦港南地区	164	24.9
- （無回答）	4	0.6
合計	658	100.0



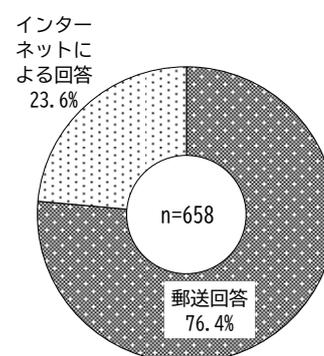
## 7 国籍別

	基数	構成比 (%)
1 日本国籍	631	95.9
2 外国籍	27	4.1
合 計	658	100.0



## 8 回答種別

	基数	構成比 (%)
1 郵送回答	503	76.4
2 インターネットによる回答	155	23.6
合 計	658	100.0





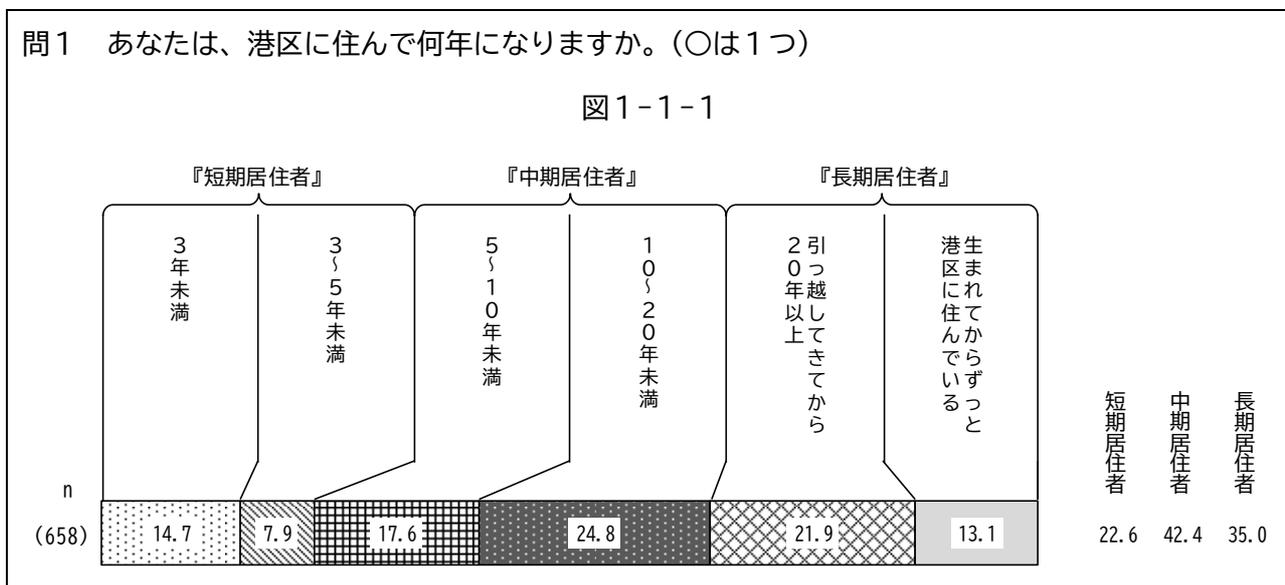
## 第3章 調査結果の詳細



# 1 定住意向

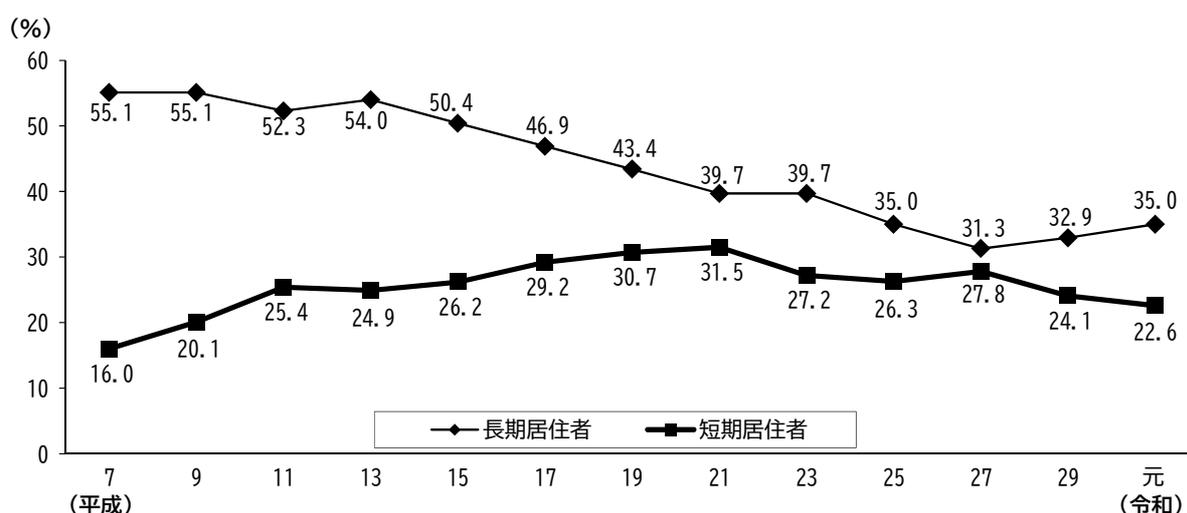
## (1) 居住期間

◇『長期居住者』が3割半ば、『中期居住者』が4割を超え、『短期居住者』が2割を超える



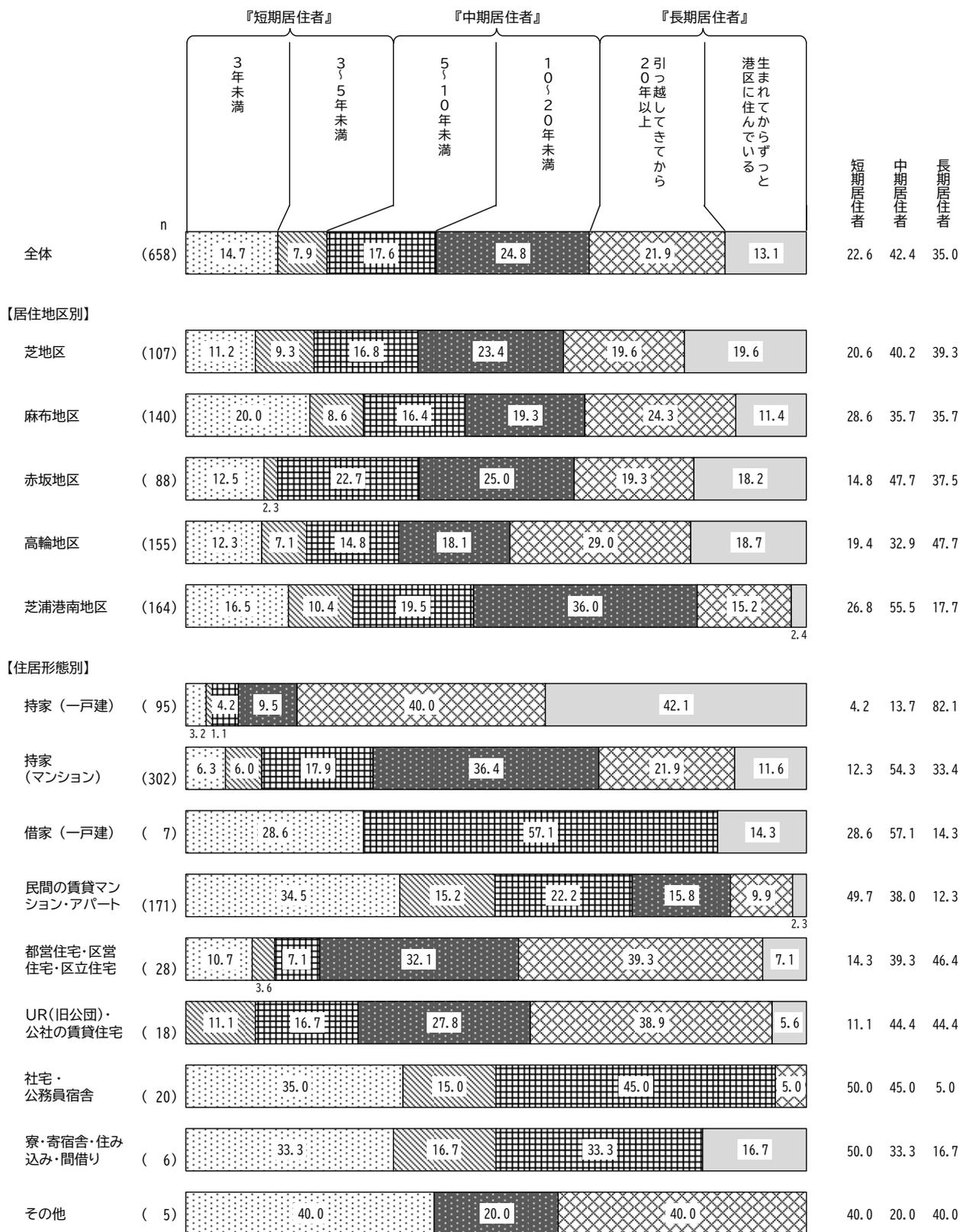
港区に住んで何年になるか聞いたところ、「10～20年未満」(24.8%)が2割半ばで最も多く、これに「5～10年未満」(17.6%)を合わせた『中期居住者』(42.4%)は4割を超えている。また、「引越してきてから20年以上」(21.9%)と「生まれてからずっと港区に住んでいる」(13.1%)を合わせた『長期居住者』(35.0%)は3割半ばとなり、「3年未満」(14.7%)と「3～5年未満」(7.9%)を合わせた『短期居住者』(22.6%)は2割を超えている。(図1-1-1)

図1-1-2 居住期間 (時系列比較)



過去の調査と比較すると、『長期居住者』は平成13年度調査以降減少傾向にあったが平成27年度調査から増加に転じ、今年度調査では平成29年度調査から2.1ポイント増加している。また、増加傾向にあった『短期居住者』は、平成21年度をピークにおおむね減少しており、今回調査では平成29年度調査から1.5ポイント減少している。(図1-1-2)

図1-1-3 居住期間（居住地区、住居形態別）

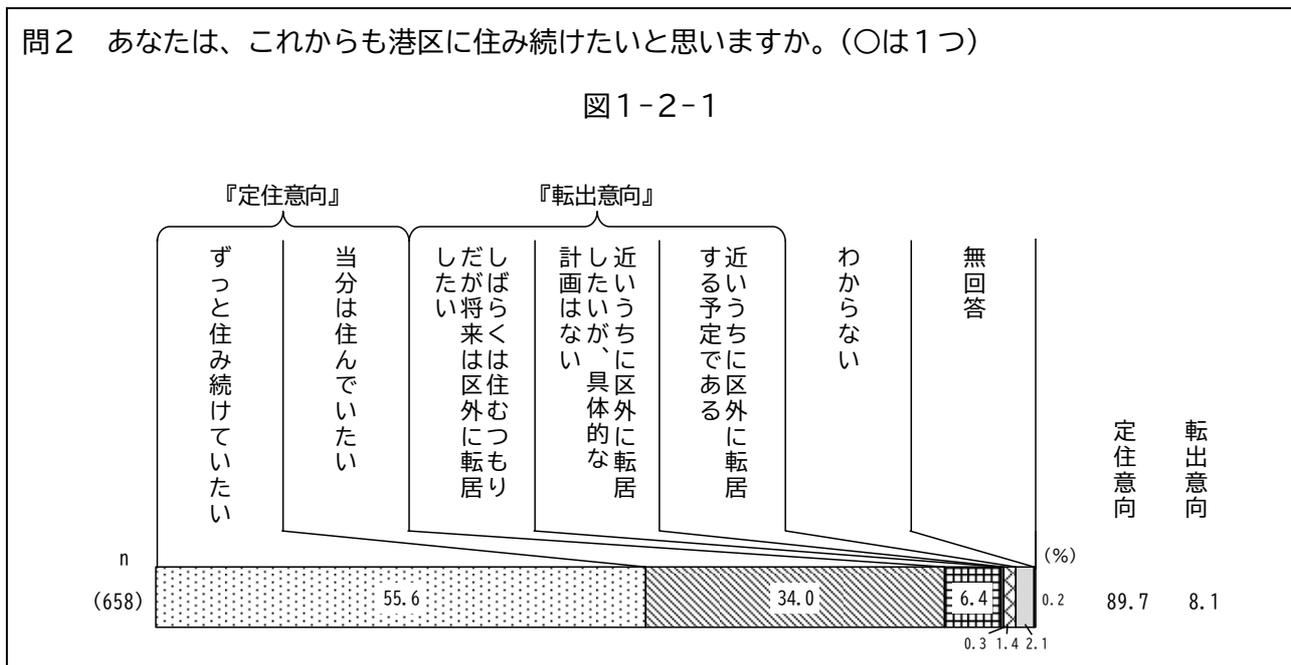


居住地区別で見ると、『長期居住者』は高輪地区（47.7%）で5割近くと最も多く、芝地区（39.3%）で約4割、赤坂地区（37.5%）で4割近く、麻布地区（35.7%）で3割半ばとなっている。

住居形態別で見ると、『長期居住者』は持家（一戸建）（82.1%）で8割を超え、都営住宅・区営住宅・区立住宅（46.4%）で4割半ばとなっている。（図1-1-3）

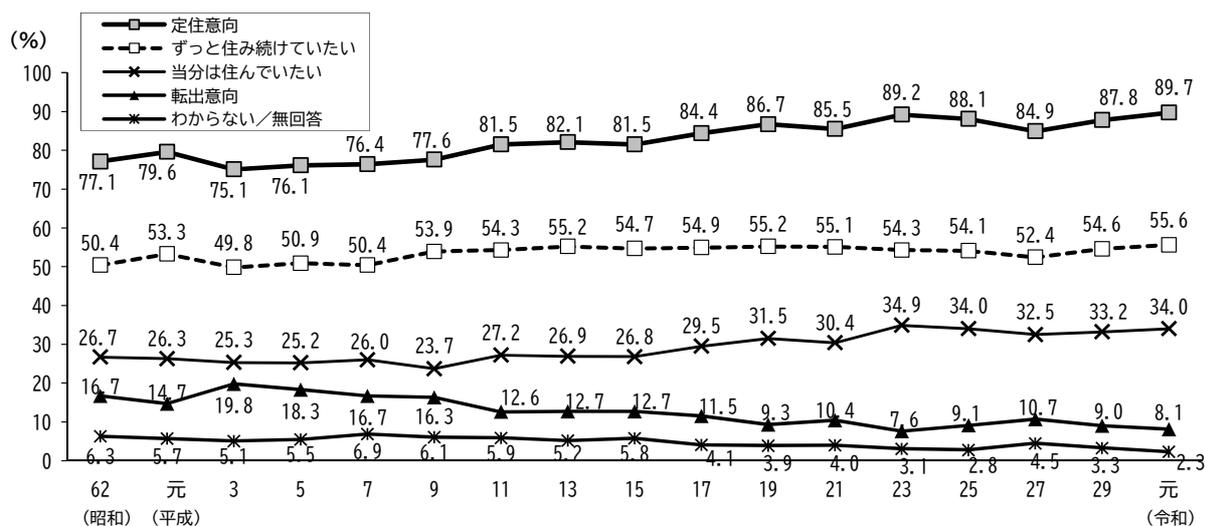
## (2) 定住意向

◇『定住意向』が9割



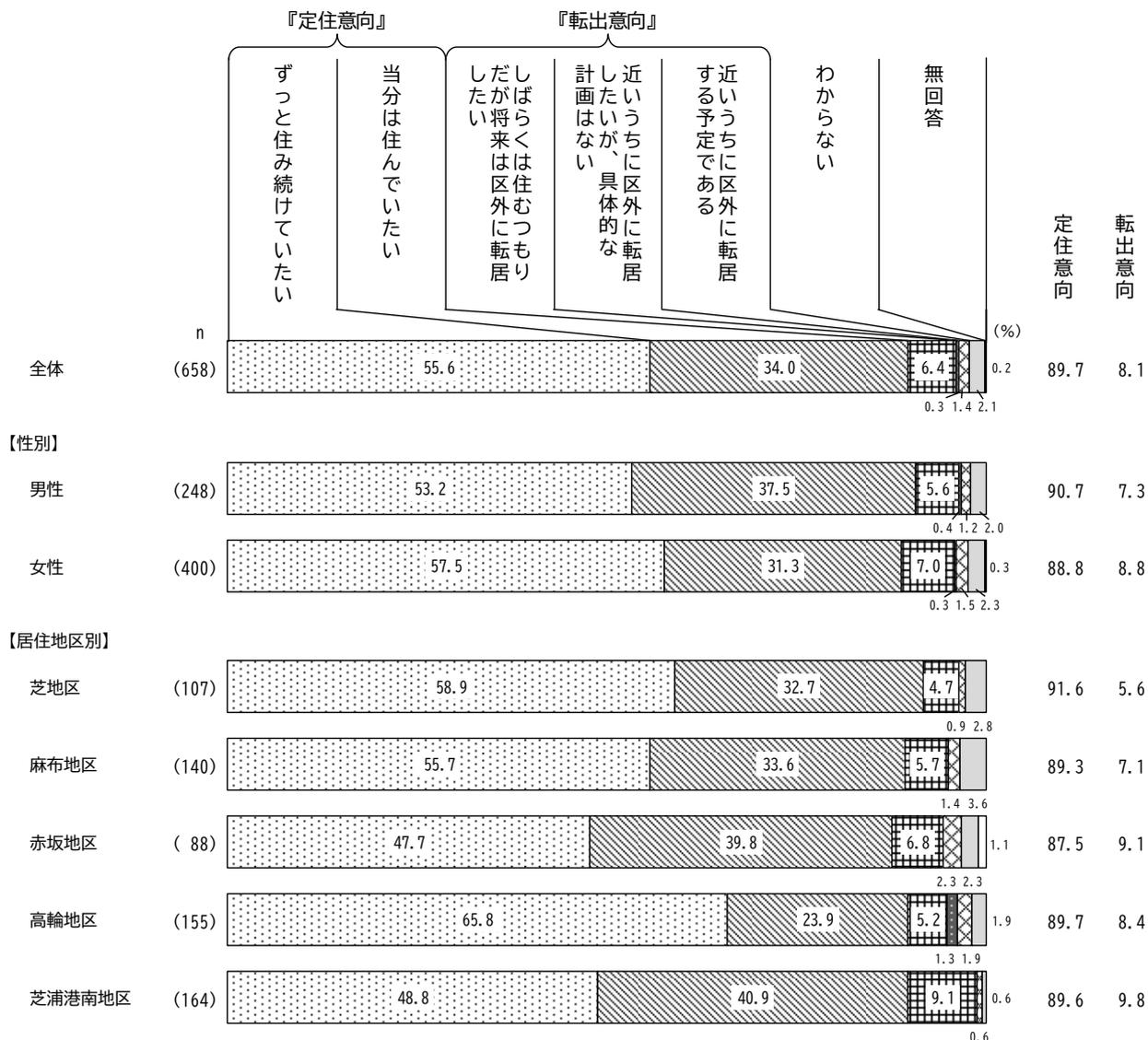
これからも港区に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けていたい」(55.6%)が5割半ばで最も多く、これに「当分は住んでいたい」(34.0%)を合わせた『定住意向』(89.7%)は9割となっている。一方、「しばらくは住むつもりだが将来は区外に転居したい」(6.4%)と「近いうちに区外に転居したいが、具体的な計画はない」(0.3%)と「近いうちに区外に転居する予定である」(1.4%)を合わせた『転出意向』(8.1%)は1割近くとなっている。(図1-2-1)

図1-2-2 定住意向 (時系列比較)



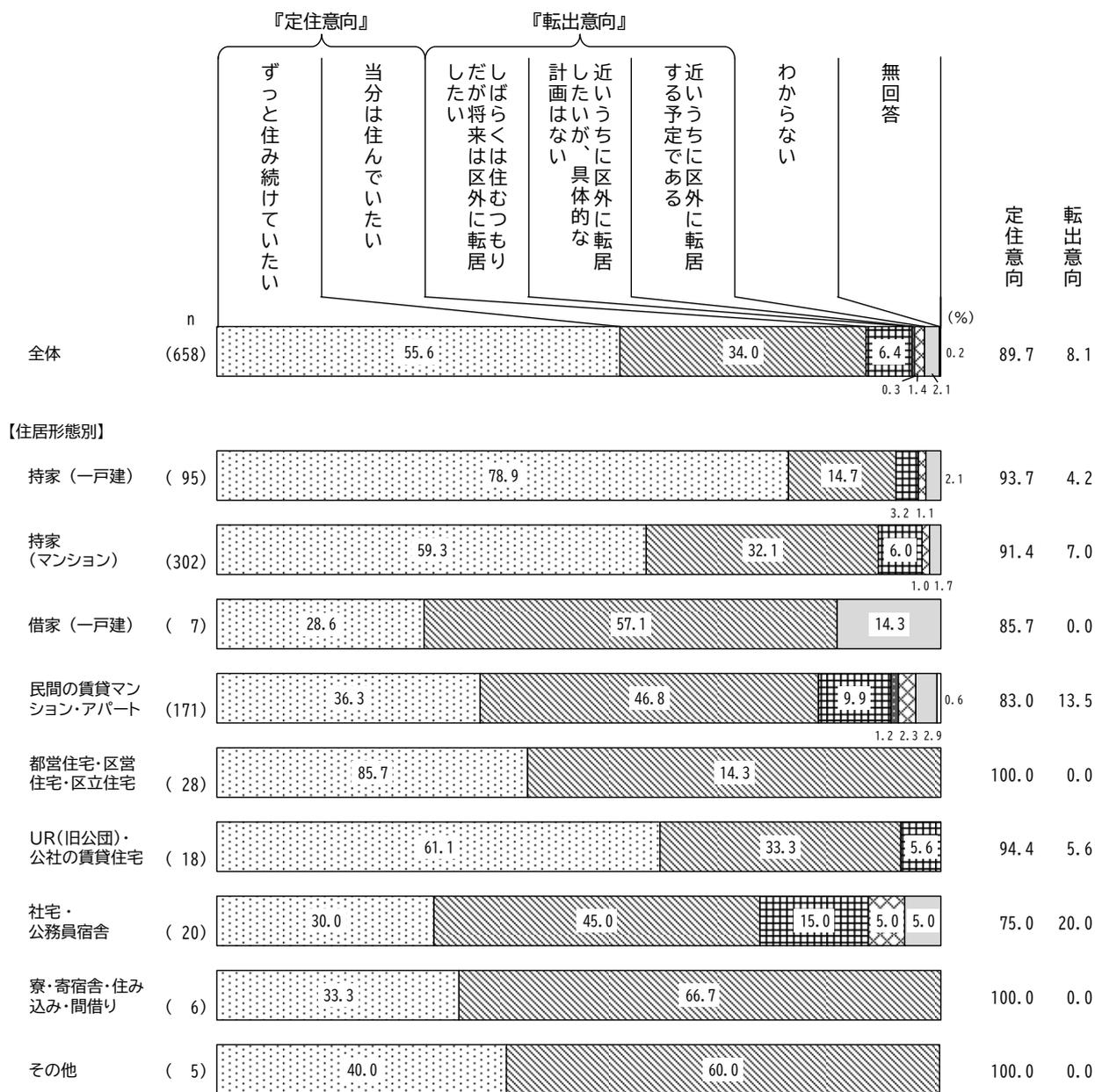
過去の調査と比較すると、『定住意向』は平成29年度調査より1.9ポイント増加し、平成11年度調査以降、引き続き8割以上を占めている。(図1-2-2)

図1-2-3 定住意向（性別・居住地区別）



性別で見ると、『定住意向』は男性（90.7%）が女性（88.8%）より1.9ポイント多くなっている。居住地区別で見ると、『定住意向』は芝地区（91.6%）で9割を超えて最も多く、高輪地区（89.7%）と芝浦港南地区（89.6%）では9割、麻布地区（89.3%）で約9割、赤坂地区（87.5%）で9割近くとなっている。一方、『転出意向』は全地区で1割以下となり、芝浦港南地区（9.8%）で1割、赤坂地区（9.1%）で約1割となっている。（図1-2-3）

図1-2-4 定住意向（住居形態別）



住居形態別でみると、『定住意向』は都営住宅・区営住宅・区立住宅、寮・寄宿舎・住み込み・間借り（100.0%）、UR（旧公団）・公社の賃貸住宅（94.4%）、持家（一戸建）（93.7%）、持家（マンション）（91.4%）では9割を超えている。

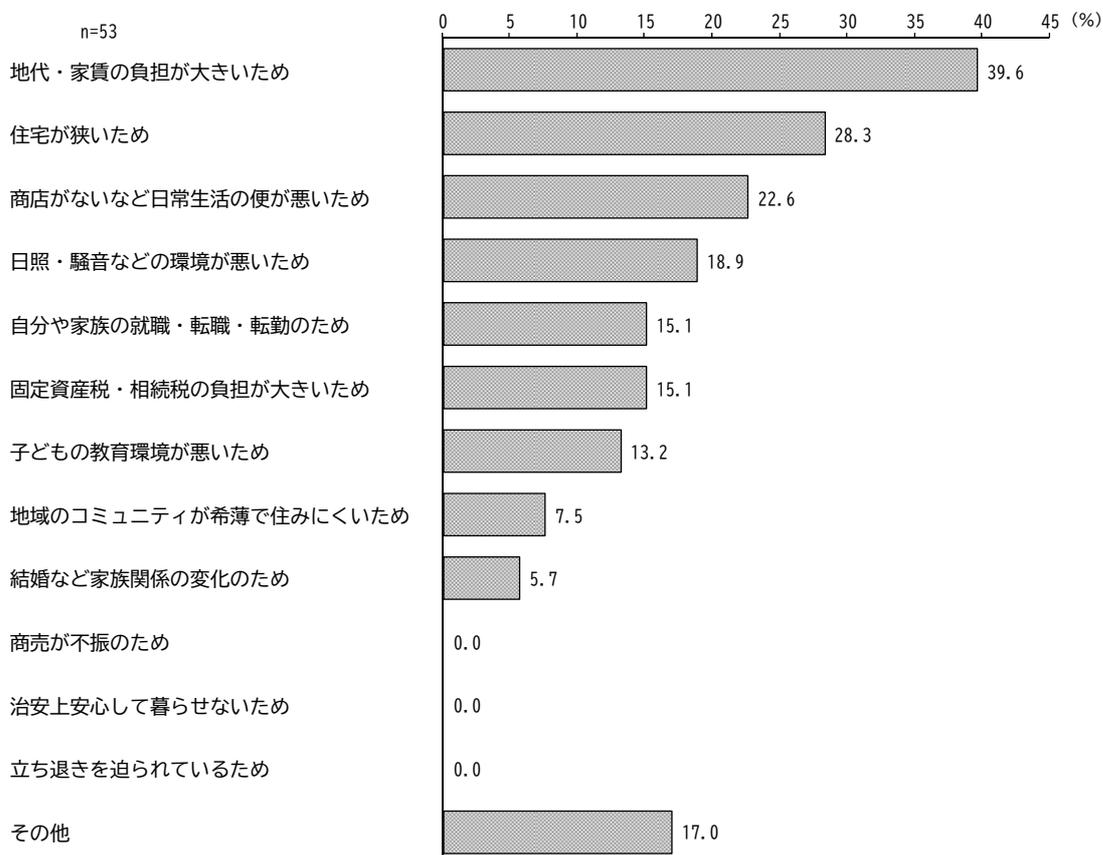
一方、『転出意向』は社宅・公務員宿舎（20.0%）で2割、民間の賃貸マンション・アパート（13.5%）で1割を超えている。（図1-2-4）

(3) 転出意向理由

◇「地代・家賃の負担が大きいため」が4割

問2-1 あなたが区外に転居したい、または転居する理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図1-3-1 転出意向理由



転出意向のある人に、その理由を聞いたところ、「地代・家賃の負担が大きいため」(39.6%)が4割で最も多く、次いで「住宅が狭いため」(28.3%)、「商店がないなど日常生活の便が悪いため」(22.6%)、「日照・騒音などの環境が悪いため」(18.9%)と続いている。(図1-3-1)

図1-3-2 転出意向理由（時系列比較）

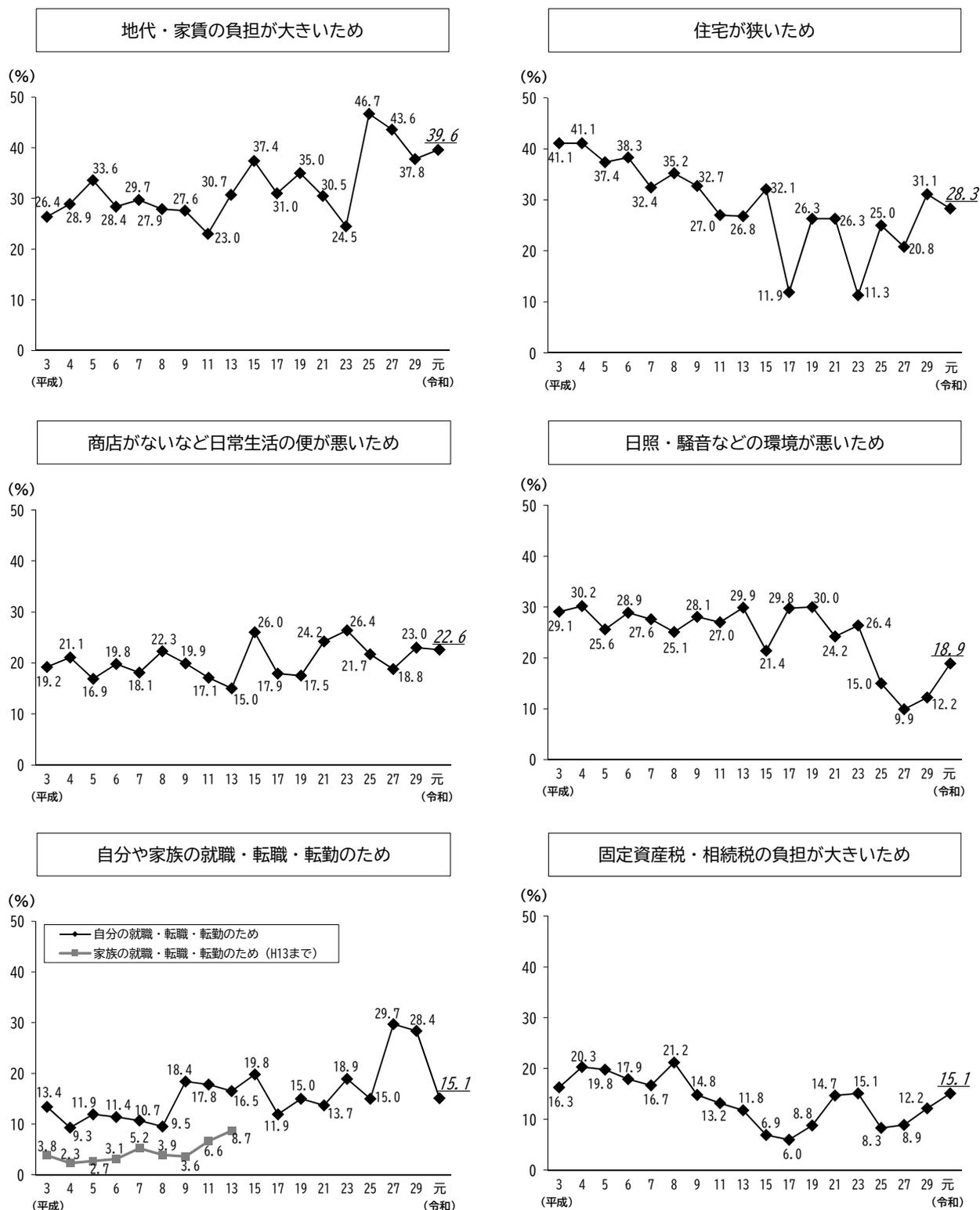
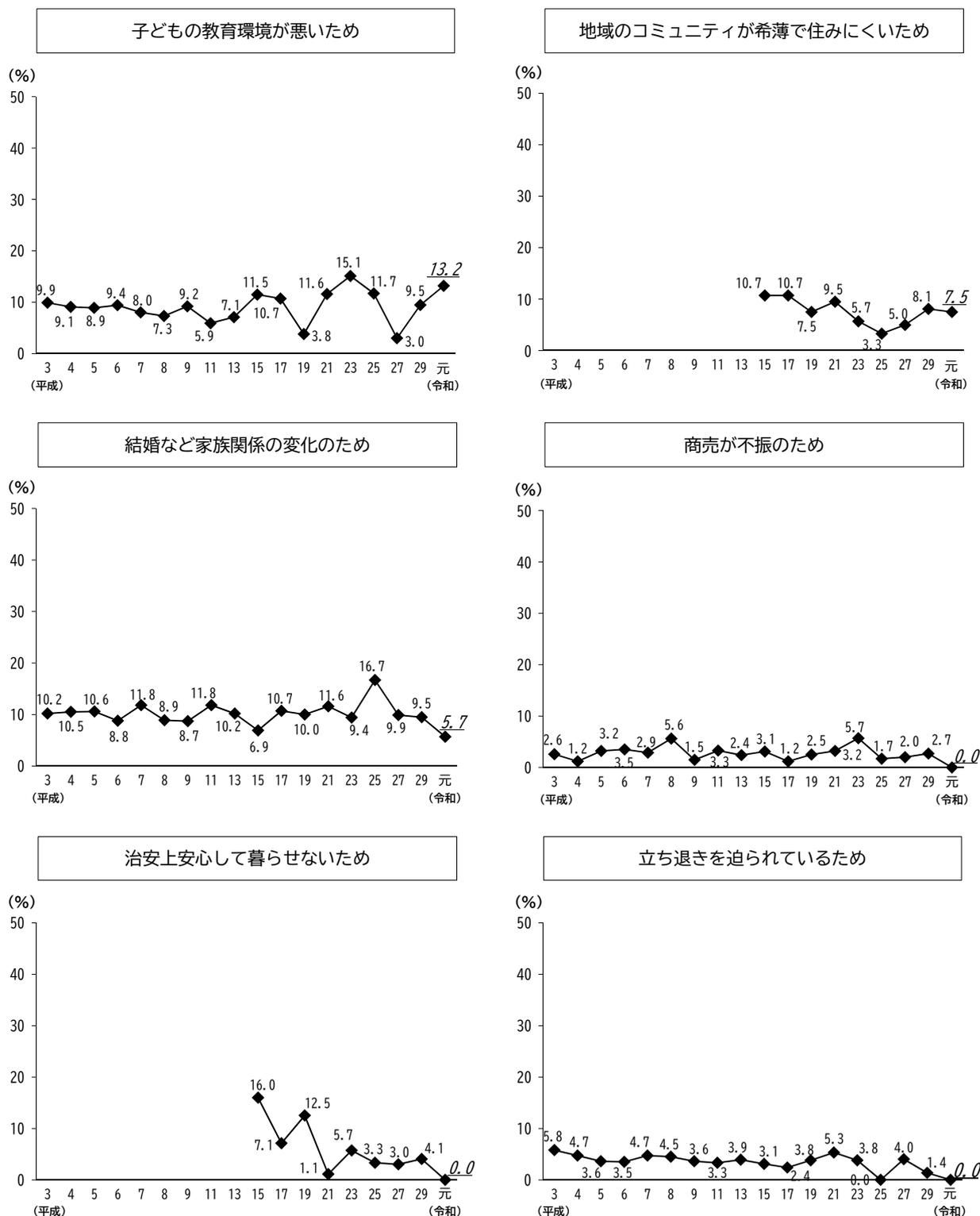


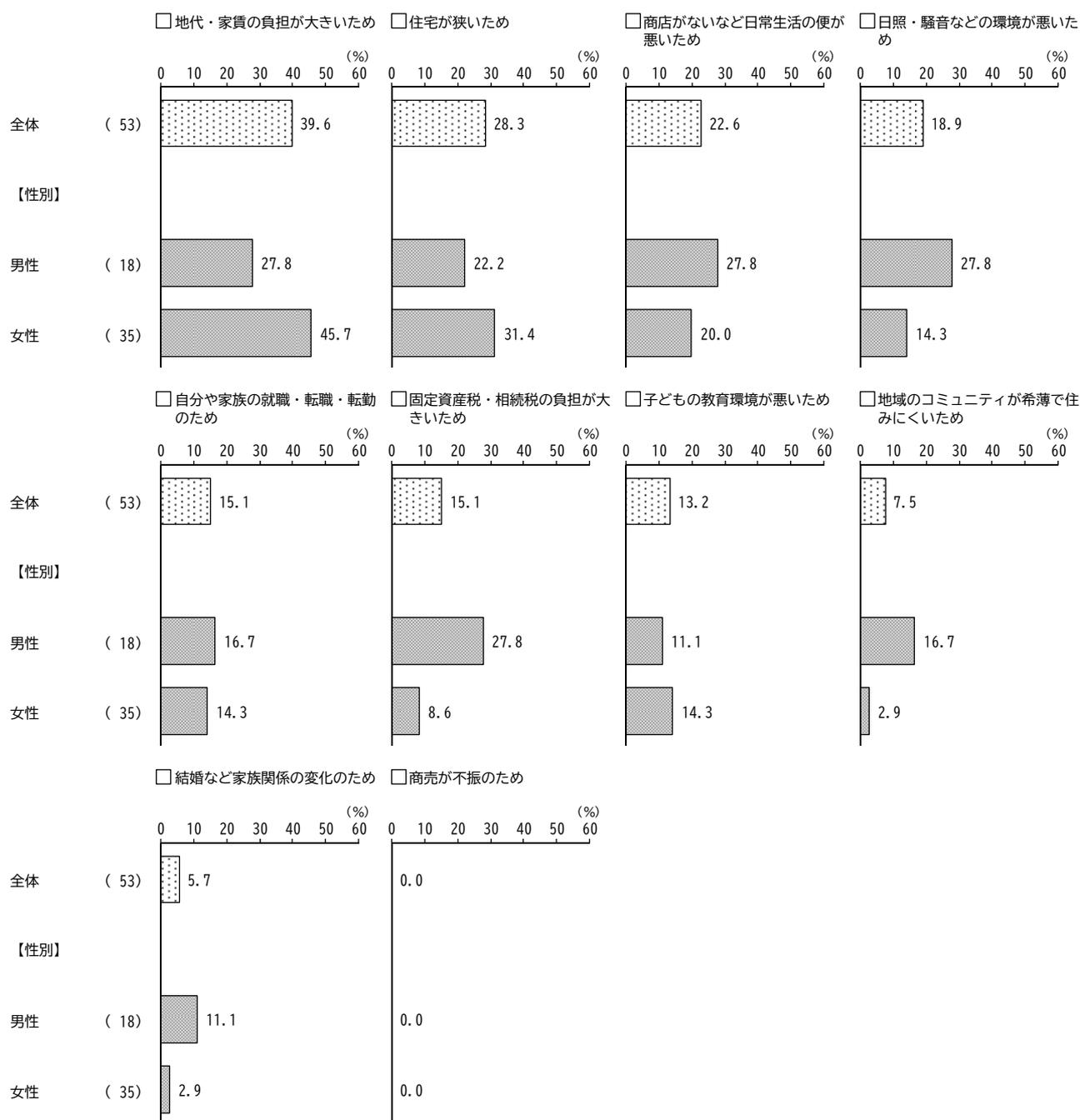
図1-3-2 転出意向理由（時系列比較）



平成29年度調査と比較すると、「自分や家族の就職・転職・転勤のため」は13.3ポイント、「治安上安心して暮らせないため」は4.1ポイント、「結婚など家族関係の変化のため」は3.8ポイント、それぞれ減少している。

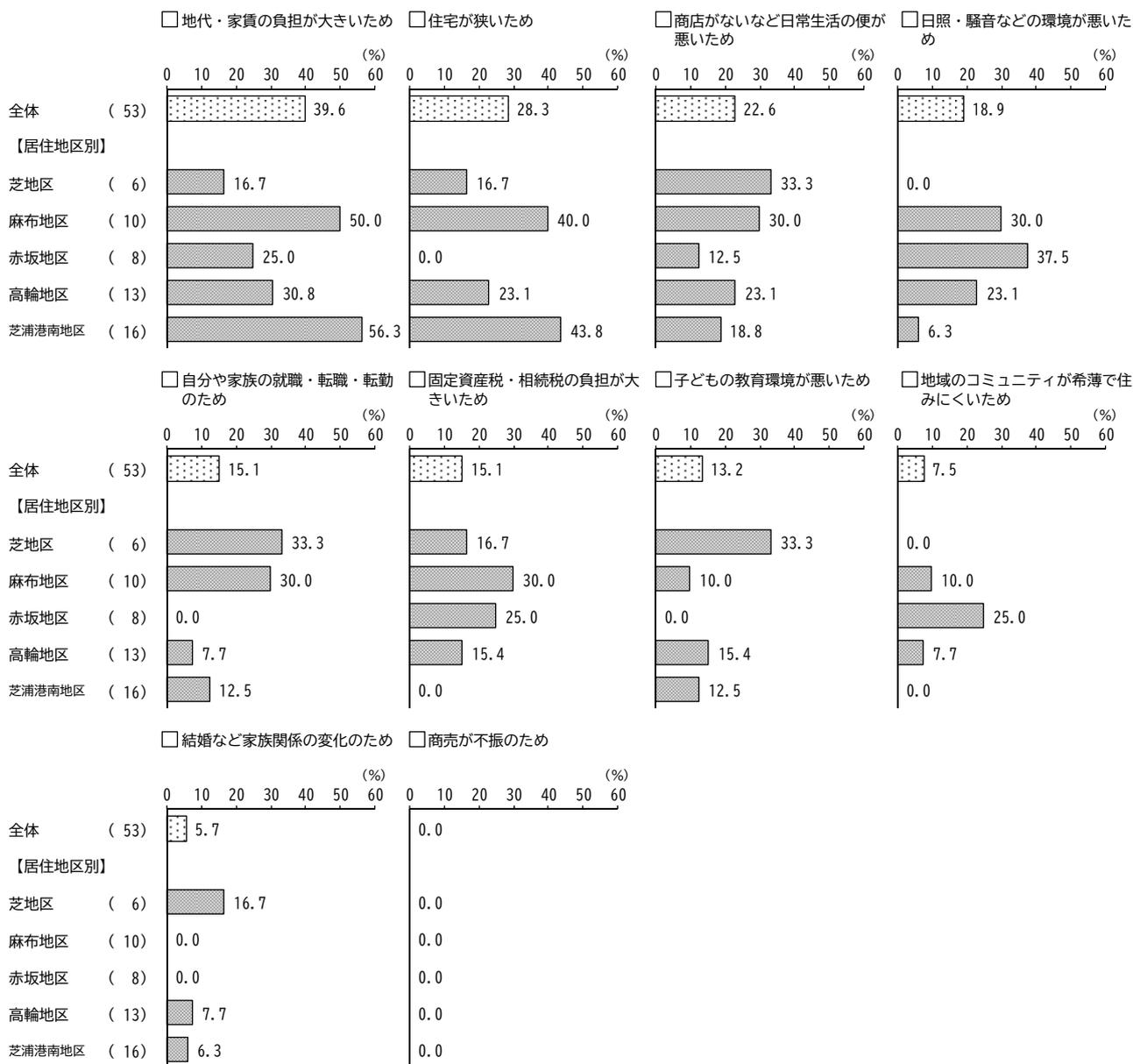
一方、「日照・騒音などの環境が悪いため」は6.7ポイント、「子どもの教育環境が悪いため」は3.7ポイント、「固定資産税・相続税の負担が大きいため」は2.9ポイント、「地代・家賃の負担が大きいため」は1.8ポイント、それぞれ増加している。(図1-3-2)

図1-3-3 転出意向理由（性別）（上位10項目）



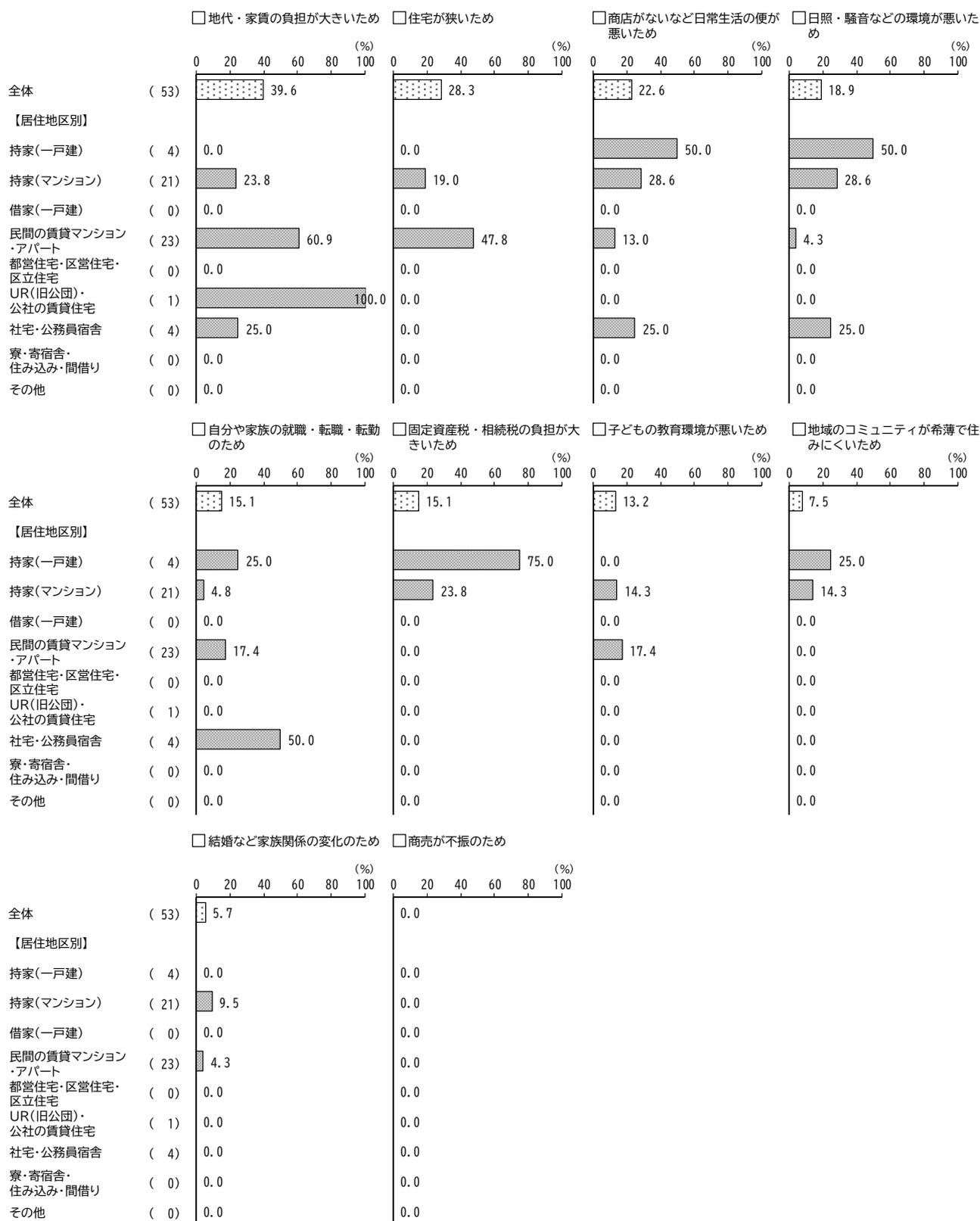
性別で見ると、「固定資産税・相続税の負担が大きい」は男性（27.8%）が女性（8.6%）より19.2ポイント、「地域のコミュニティが希薄で住みにくい」は男性（16.7%）が女性（2.9%）より13.8ポイント、「日照・騒音などの環境が悪い」は男性（27.8%）が女性（14.3%）より13.5ポイント、それぞれ多くなっている。一方、「地代・家賃の負担が大きい」は女性（45.7%）が男性（27.8%）より17.9ポイント、「住宅が狭い」は女性（31.4%）が男性（22.2%）より9.2ポイント、「子どもの教育環境が悪い」は女性（14.3%）が男性（11.1%）より3.2ポイント、それぞれ多くなっている。（図1-3-3）

図1-3-4 転出意向理由（居住地区別）（上位10項目）



居住地区別で見ると、「地代・家賃の負担が大きいため」は芝浦港南地区（56.3%）で5割半ば、麻布地区（50.0%）で5割となっている。また、「住宅が狭いため」は芝浦港南地区（43.8%）で4割を超え、麻布地区（40.0%）で4割となっている。（図1-3-4）

図1-3-5 転出意向理由（住居形態別）（上位10項目）

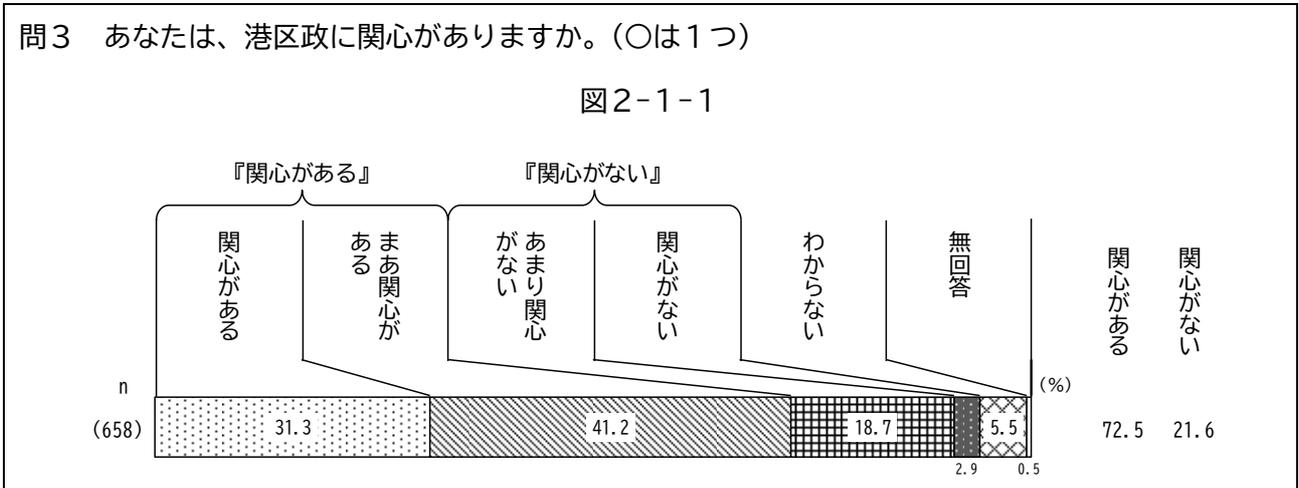


住居形態別でみると、「地代・家賃の負担が大きい」は民間の賃貸マンション・アパート(60.9%)で約6割となっている。「固定資産税・相続税の負担が大きい」は持家(一戸建)(75.0%)で7割半ば、持家(マンション)(23.8%)で2割を超えている。(図1-3-5)

## 2 区政全般

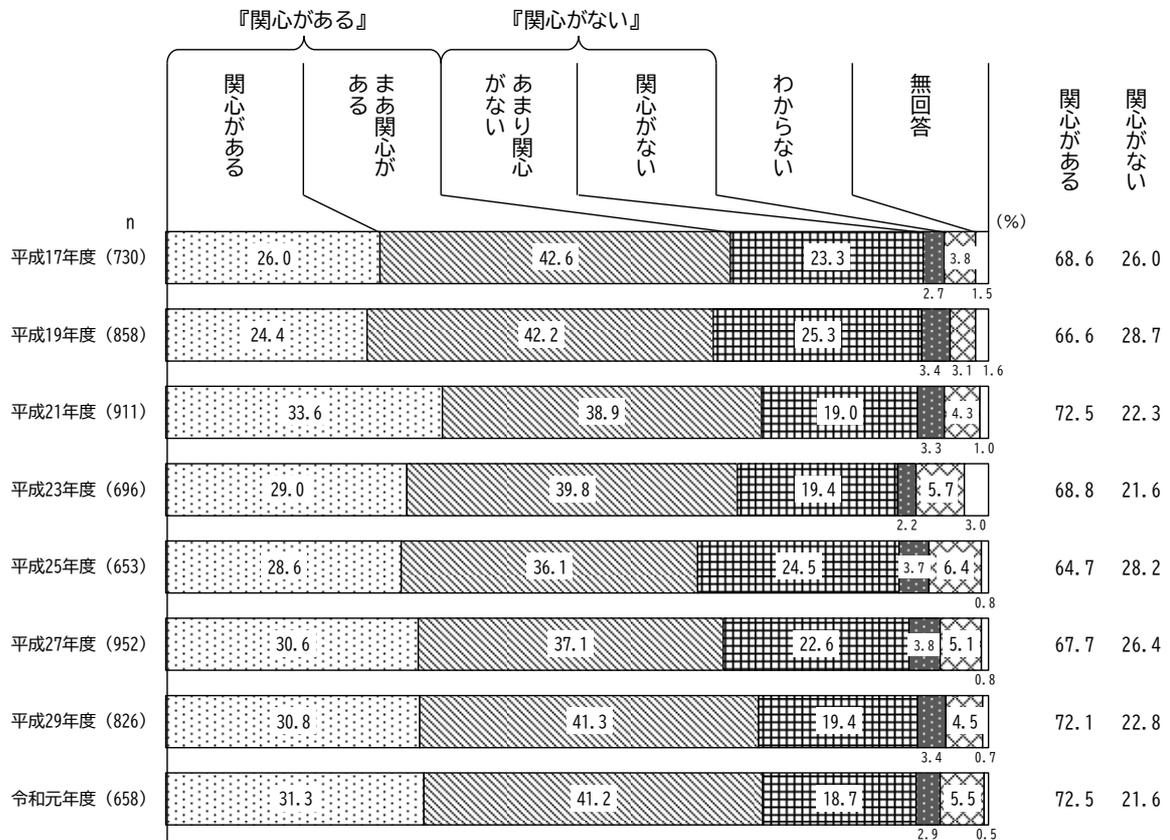
### (1) 区政への関心度

◇ 『関心がある』が7割を超える



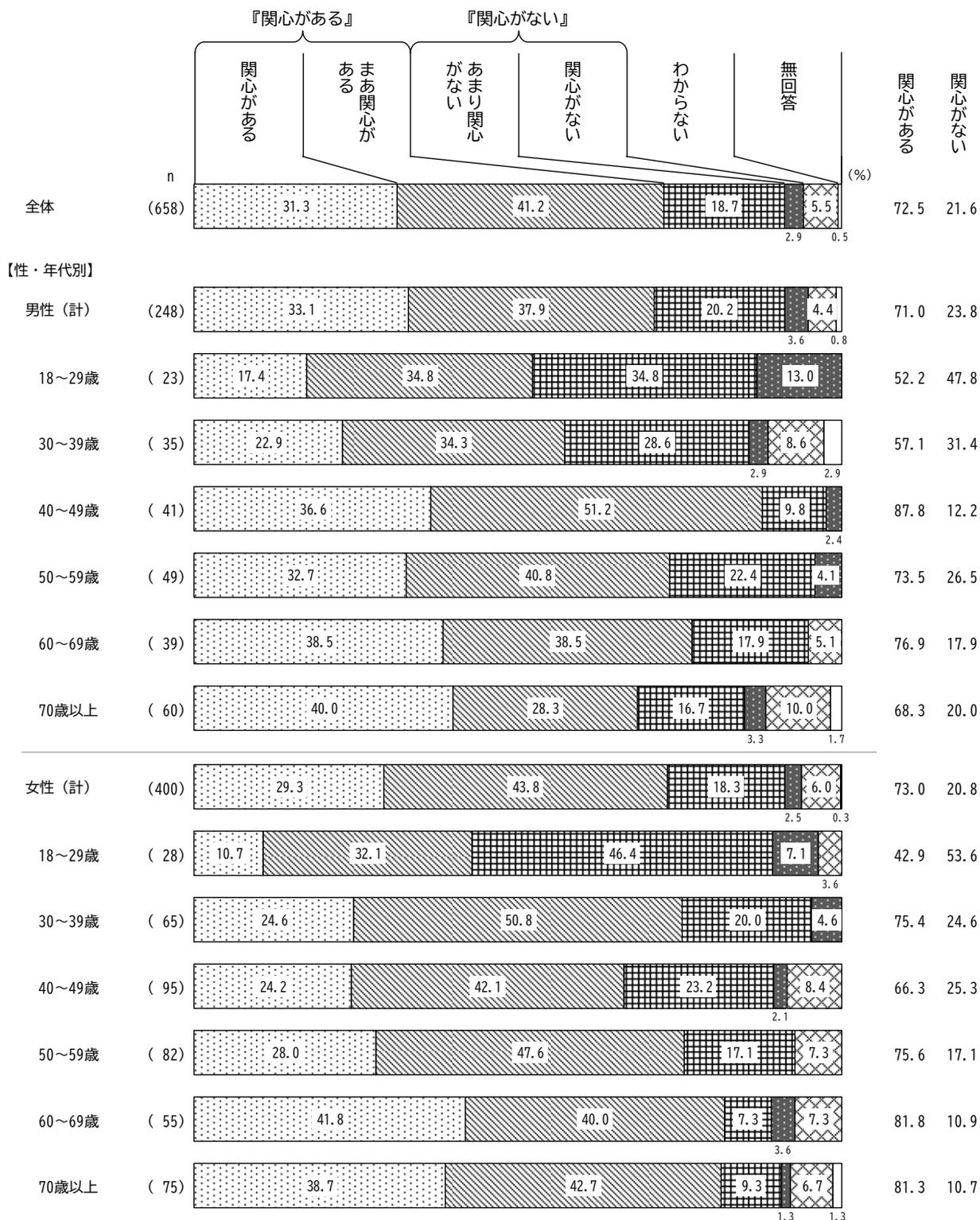
港区政に関心があるか聞いたところ、「まあ関心がある」(41.2%)が4割を超えて最も多く、これに「関心がある」(31.3%)を合わせた『関心がある』(72.5%)は7割を超えている。一方、「あまり関心がない」(18.7%)と「関心がない」(2.9%)を合わせた『関心がない』(21.6%)は2割を超えている。(図2-1-1)

図2-1-2 区政への関心度(時系列比較)



『関心がある』は平成29年度調査より0.4ポイント増加している。(図2-1-2)

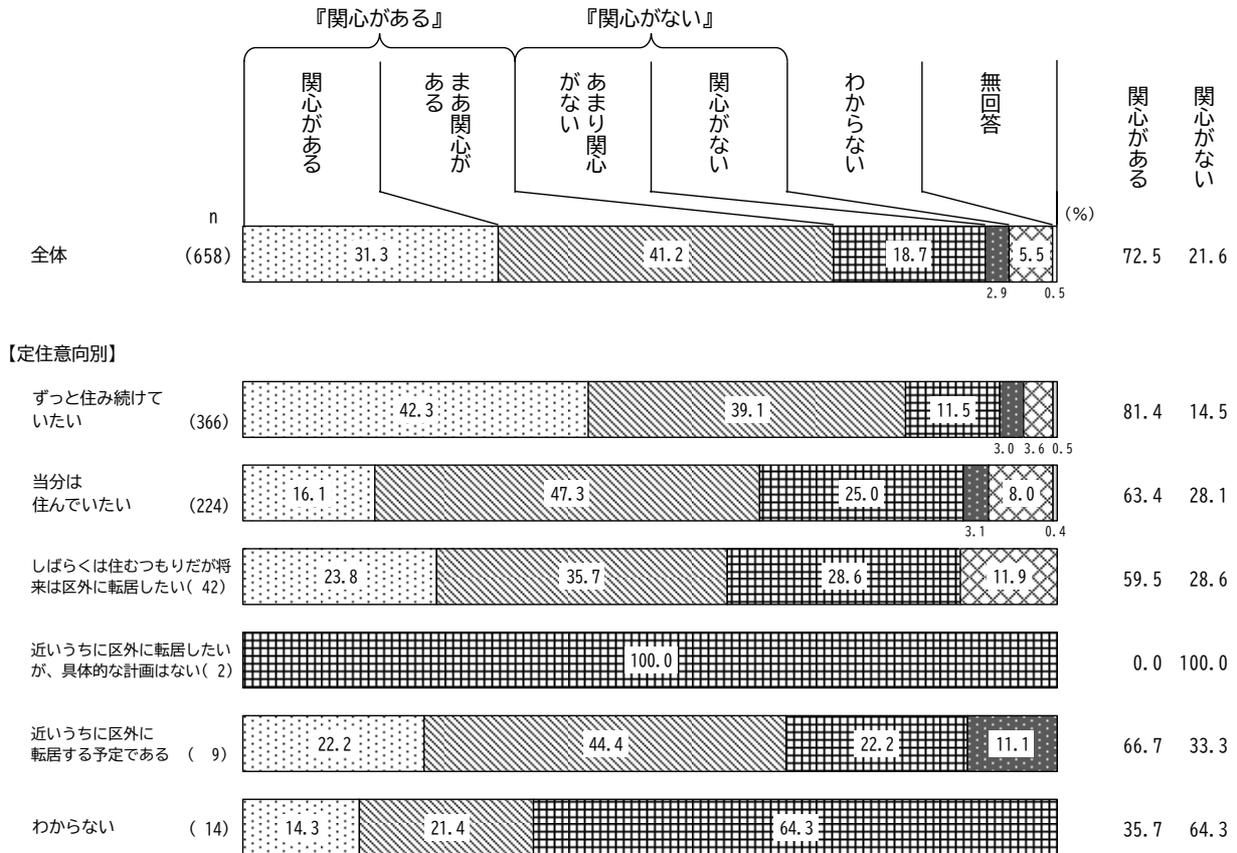
図2-1-3 区政への関心度（性・年代別）



性別で見ると、『関心がある』は男性（71.0%）が女性（73.0%）より2.0ポイント、全体（72.5%）より1.5ポイント少なくなっている。

性・年代別で見ると、『関心がある』は男性40~49歳（87.8%）で9割近く、女性60~69歳（81.8%）で8割を超えている。一方、『関心がない』は男女ともに18~29歳で最も多く、この年代では女性（53.6%）が5割を超え、男性（47.8%）が5割近くとなっている。（図2-1-3）

図2-1-4 区政への関心度（定住意向別）

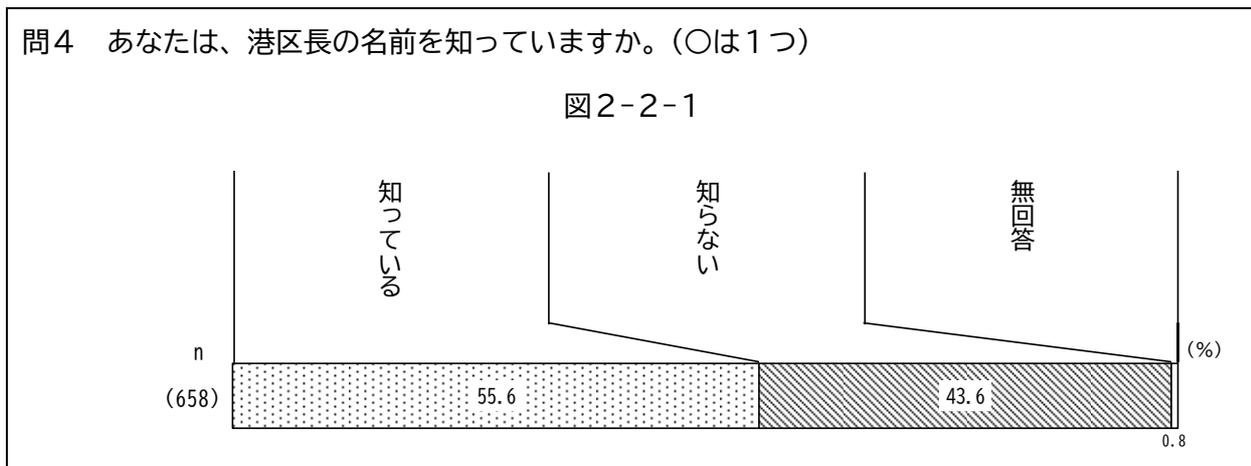


定住意向別で見ると、回答数によってばらつきがあるものの、『関心がある』はおおむね定住意向が高くなるほど割合が多く、「ずっと住み続けたい」(81.4%)とと思っている人では8割を超えている。

一方、『関心がない』は「しばらくは住むつもりだが将来は区外に転居したい」(28.6%)で3割近くとなっている。(図2-1-4)

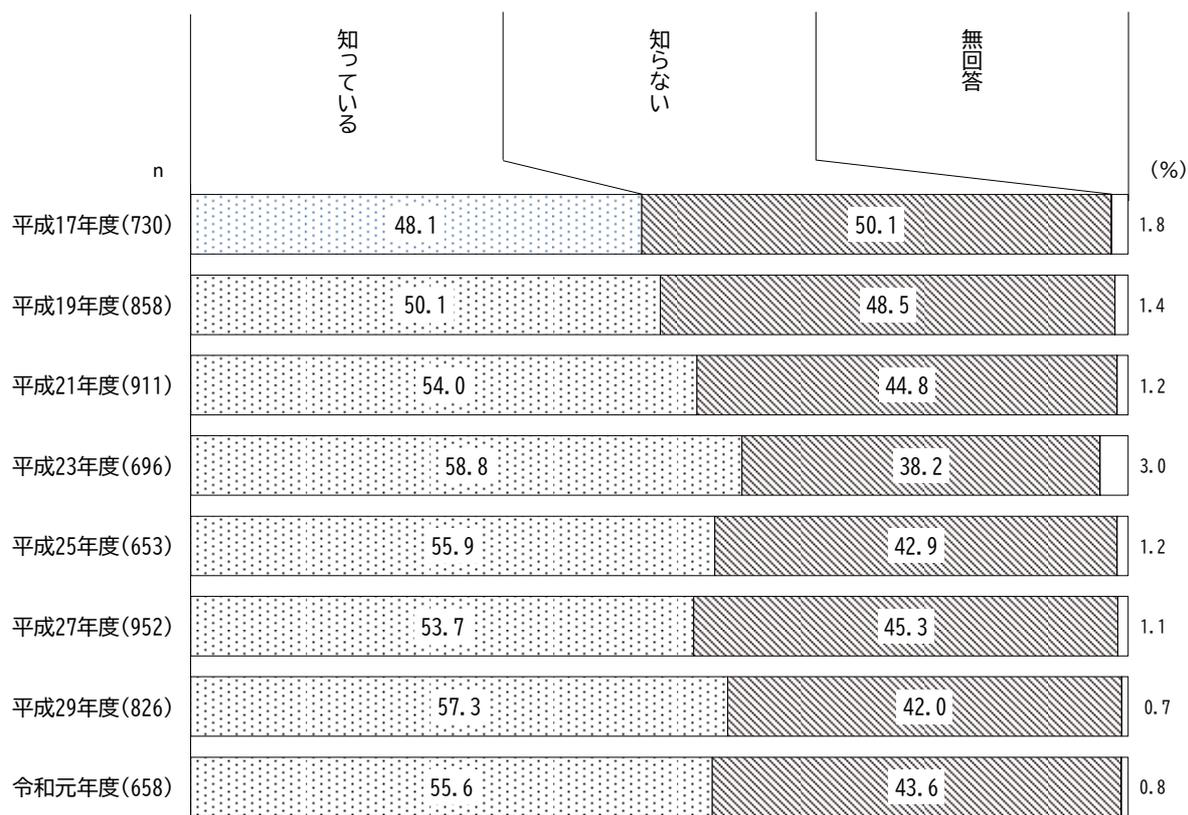
## (2) 区長名の認知状況

◇ 「知っている」が5割半ば



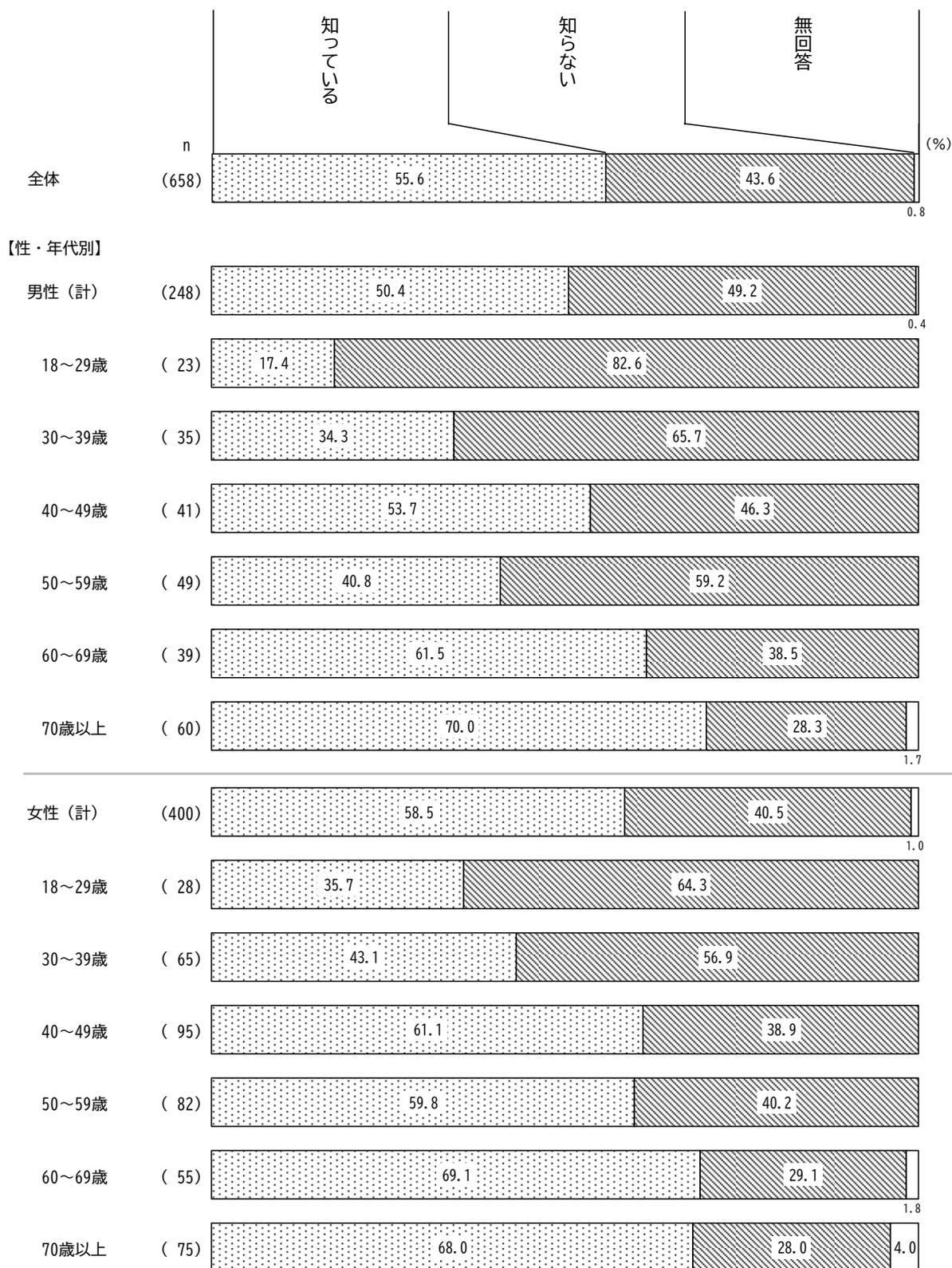
港区長の名前を知っているか聞いたところ、「知っている」(55.6%)が5割半ばで、「知らない」(43.6%)が4割を超えている。(図2-2-1)

図2-2-2 区長名の認知状況(時系列比較)



過去の調査と比較すると、平成23年度調査以降減少傾向にあった「知っている」は、前回調査で増加したものの、今回調査においては前回調査から1.7ポイント減少している。(図2-2-2)

図2-2-3 区長名の認知状況（性・年代別）



性別で見ると、「知っている」は女性（58.5%）が男性（50.4%）より 8.1 ポイント多くなっている。

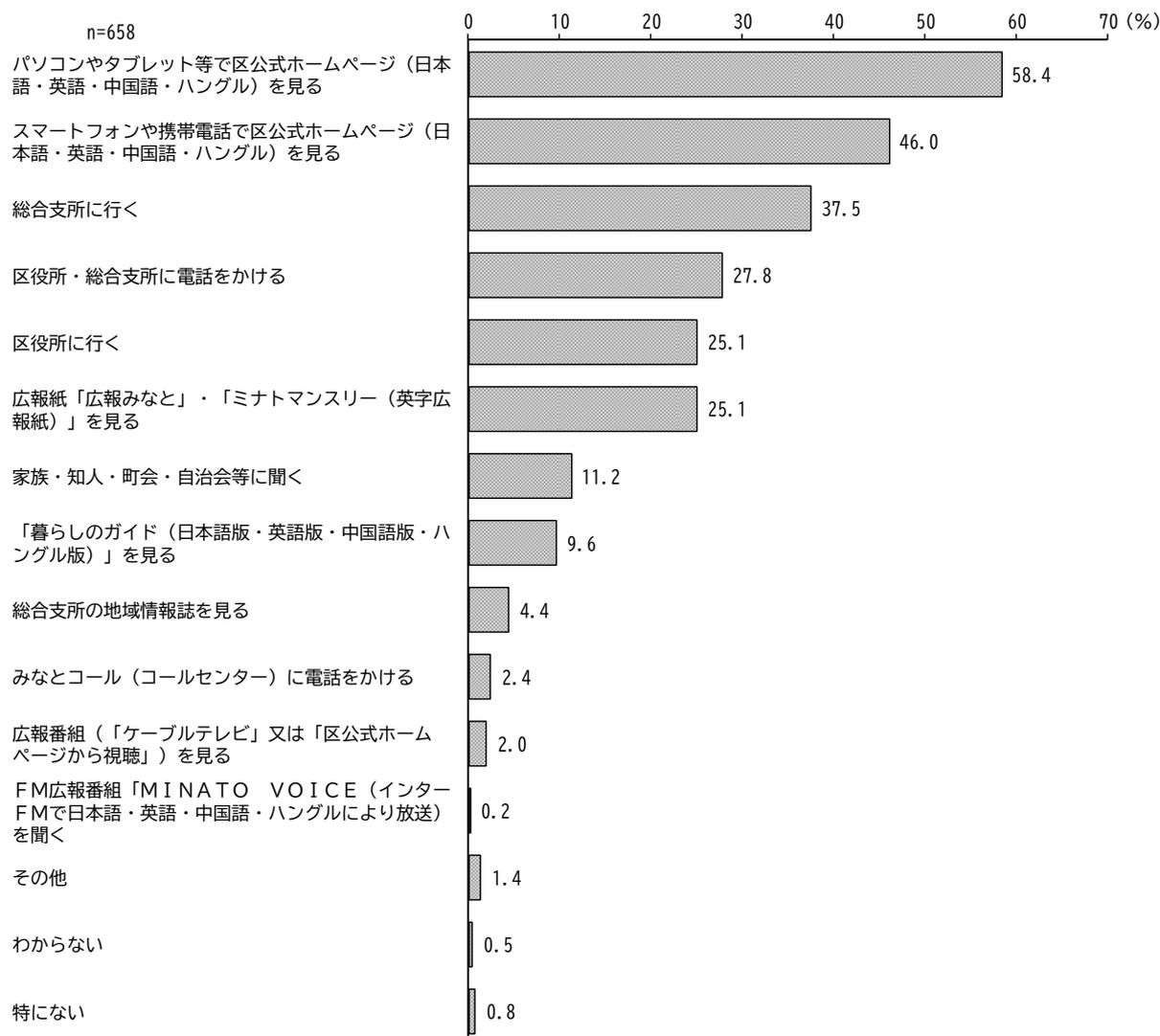
性・年代別で見ると、「知っている」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が多く、男性は70歳以上（70.0%）で7割となっている。一方、「知らない」は男性18～29歳（82.6%）で8割を超え、女性18～29歳（64.3%）で6割半ばとなっている。（図2-2-3）

### (3) 区の行政サービスなどの情報入手方法

◇ 「パソコンやタブレット等で区公式ホームページ（日本語・英語・中国語・ハングル）を見る」が6割近く、「スマートフォンや携帯電話で区公式ホームページ（日本語・英語・中国語・ハングル）を見る」が4割半ば

問5 あなたは区の行政サービスや手続きの方法を知りたいとき、どのように情報を入手しますか。  
（〇はいくつでも）

図2-3-1



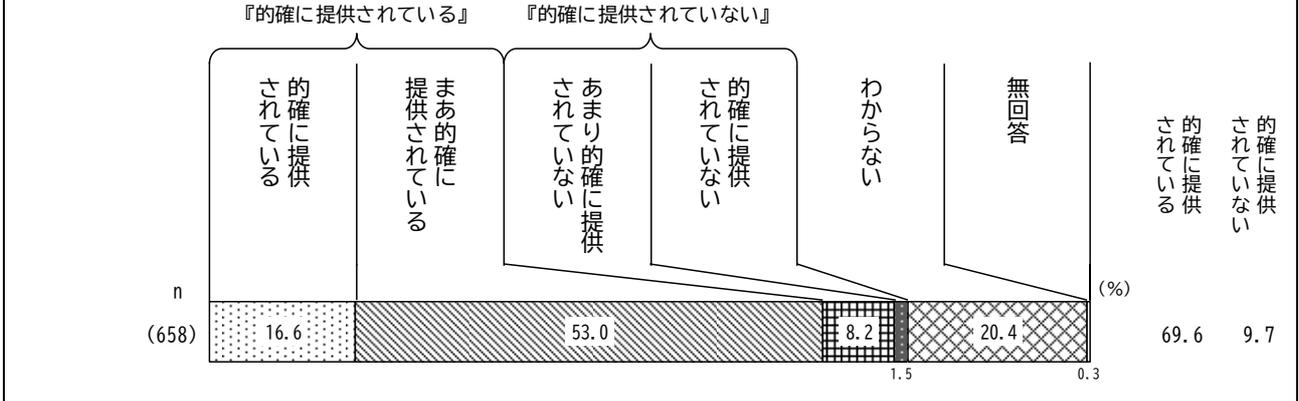
区の行政サービスや手続きの方法を知りたいとき、どのように情報を入手するか聞いたところ、「パソコンやタブレット等で区公式ホームページ（日本語・英語・中国語・ハングル）を見る」（58.4%）が6割近くで最も多く、次いで「スマートフォンや携帯電話で区公式ホームページ（日本語・英語・中国語・ハングル）を見る」（46.0%）、「総合支所に行く」（37.5%）、「区役所・総合支所に電話をかける」（27.8%）と続いている。（図2-3-1）

(4) 区からの情報の提供状況の的確さ

◇ 『的確に提供されている』が7割

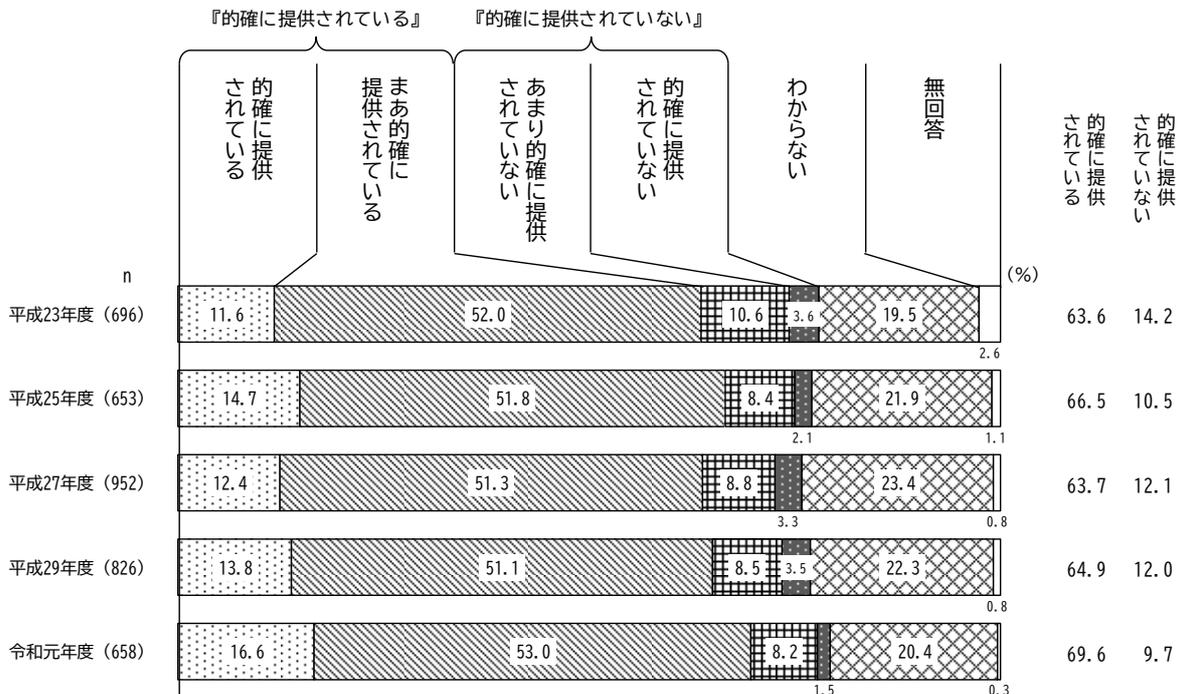
問6 区では、「広報みなと」や「区公式ホームページ」をはじめ、さまざまな方法で区政に関する情報をお伝えしています。区から必要な情報が的確に提供されていると思いますか。(○は1つ)

図2-4-1



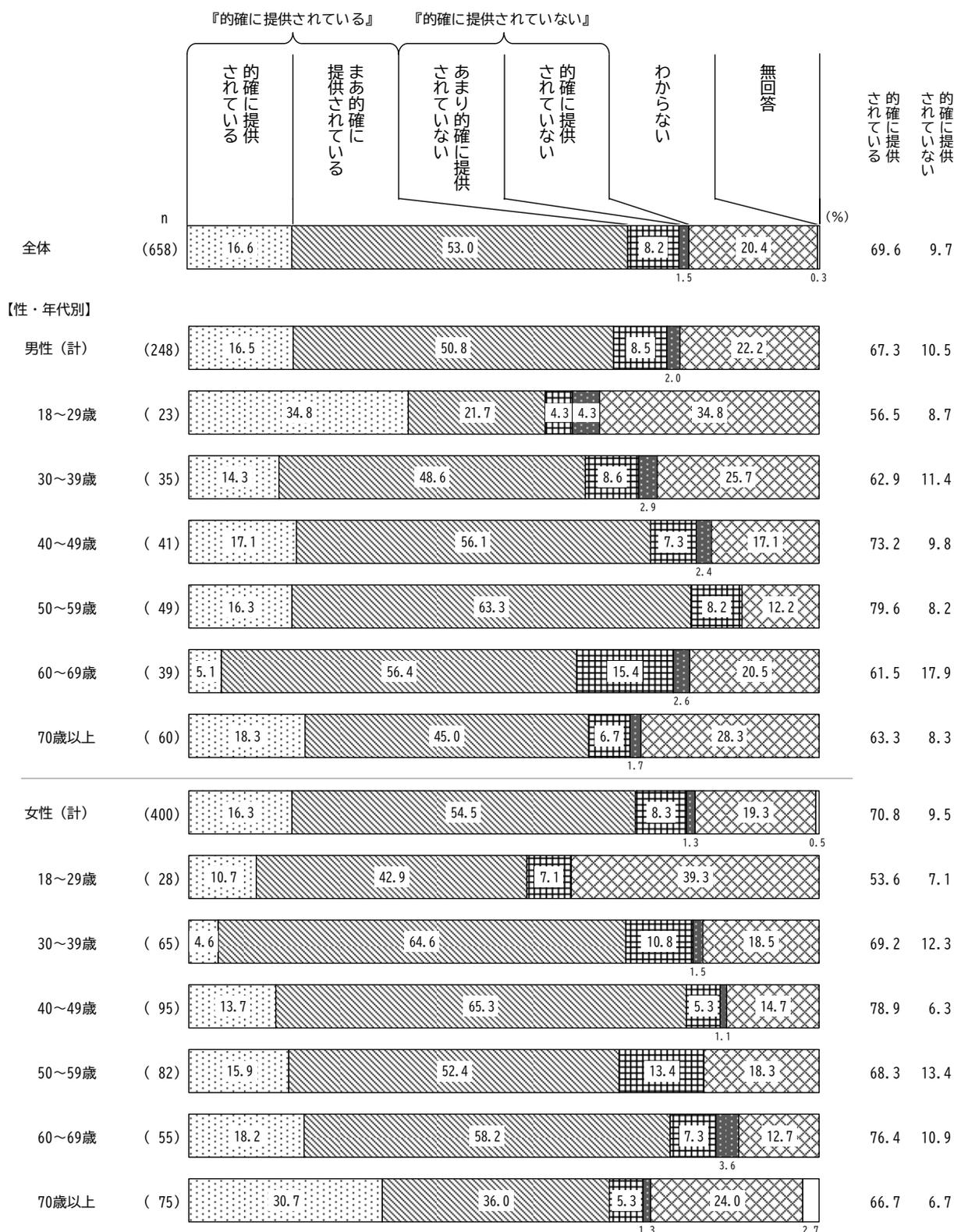
区から必要かつ十分な情報が的確に提供されていると思うか聞いたところ、「まあ的確に提供されている」(53.0%)が5割を超えて最も多く、これに「的確に提供されている」(16.6%)を合わせた『的確に提供されている』(69.6%)は7割となっている。一方、「あまり的確に提供されていない」(8.2%)と「的確に提供されていない」(1.5%)を合わせた『的確に提供されていない』(9.7%)は1割となっている。また、「わからない」(20.4%)は2割となっている。(図2-4-1)

図2-4-2 区からの情報の提供状況の的確さ(時系列比較)



平成29年度調査と比較すると、『的確に提供されている』は4.7ポイント増加し、『的確に提供されていない』は2.3ポイント減少している。(図2-4-2)

図2-4-3 区からの情報の提供状況の的確さ（性・年代別）



性別で見ると、『的確に提供されている』は女性（70.8%）が男性（67.3%）より 3.5 ポイント多くなっている。

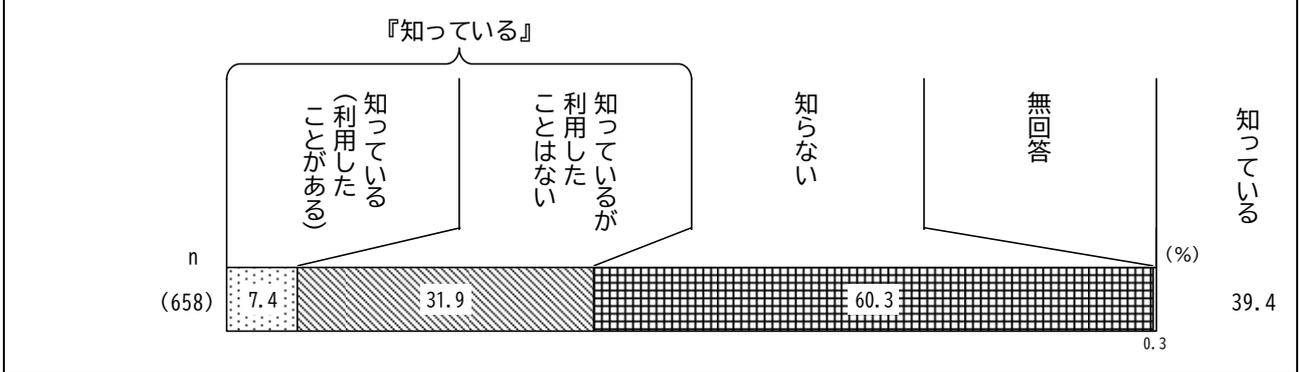
性・年代別で見ると、『的確に提供されている』は男性 50～59 歳（79.6%）、男性 40～49 歳（73.2%）、女性 40～49 歳（78.9%）、女性 60～69 歳（76.4%）で7割以上となっている。一方、『的確に提供されていない』は男性 60～69 歳（17.9%）で2割近くとなっている。（図2-4-3）

(5) 「みなとコール（コールセンター）」の認知状況

◇ 『知っている』が約4割

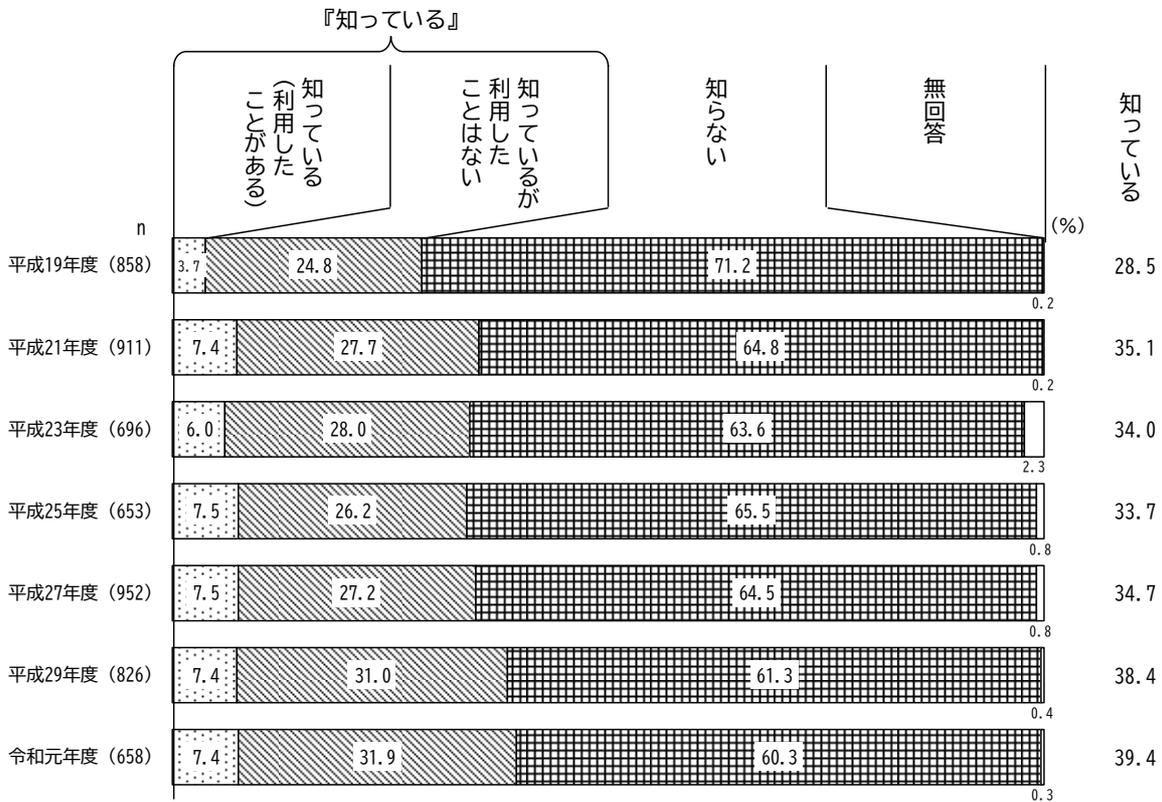
問7 区のサービス内容や施設案内、イベント情報などの問い合わせに「みなとコール（コールセンター）」が夜間や休日でも対応しています。あなたは「みなとコール（コールセンター）」を知っていますか。（○は1つ）

図2-5-1



「みなとコール（コールセンター）」を知っているか聞いたところ、「知っている（利用したことがある）」（7.4%）と「知っているが利用したことはない」（31.9%）を合わせた『知っている』（39.4%）は約4割となっている。一方、「知らない」（60.3%）は6割となっている。（図2-5-1）

図2-5-2 「みなとコール（コールセンター）」の認知状況（時系列比較）



平成29年度調査と比較すると、『知っている』（39.4%）は1.0ポイント増加している。

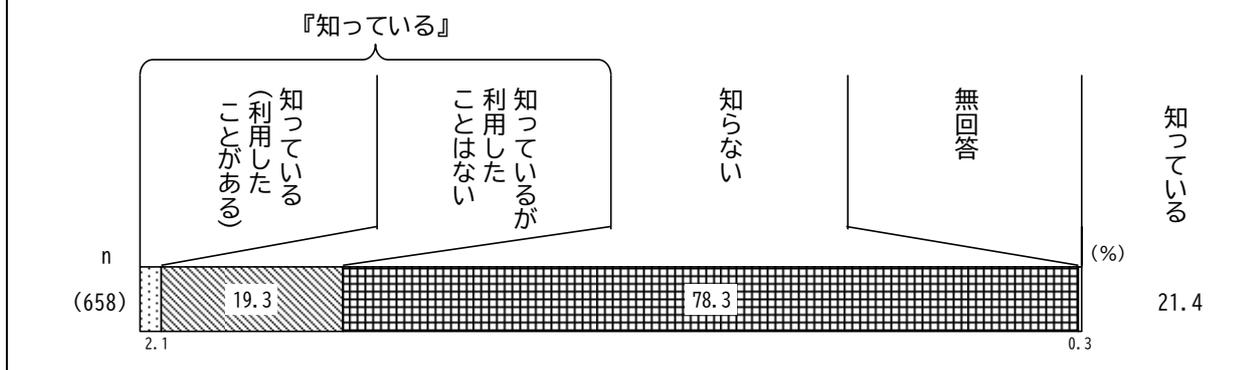
(図2-5-2)

### (6) 「区民の声センター」の認知状況

◇ 『知っている』が2割を超え、「知らない」が8割近く

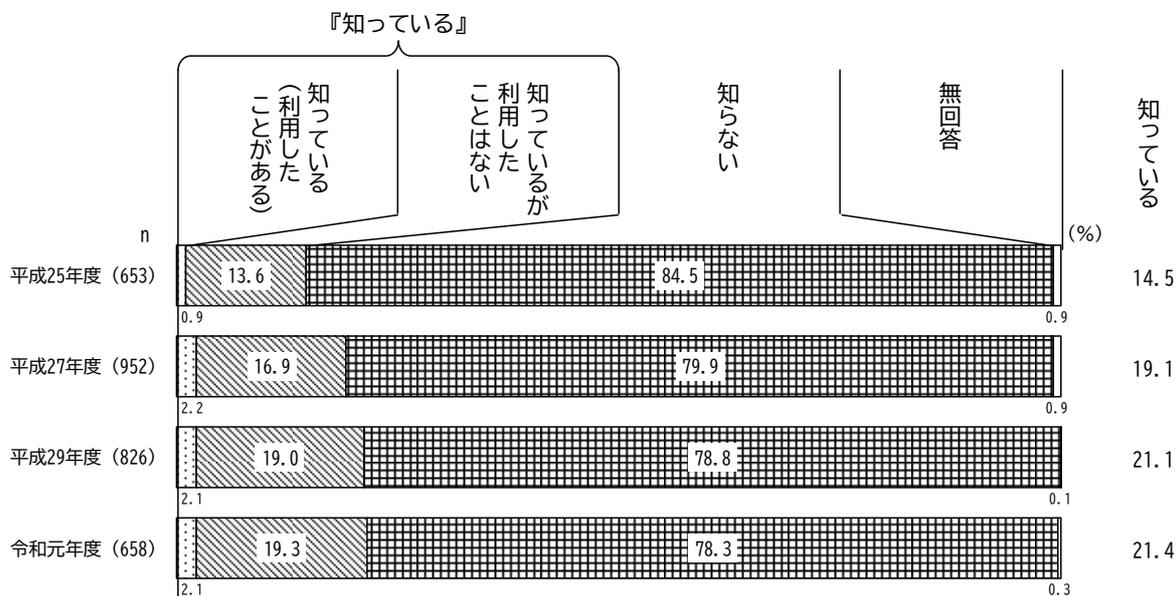
問8 区政に対する区民の皆さまのご意見やご提案等をお伺いする「区民の声センター」を設置しています。あなたは「区民の声センター」を知っていますか。(○は1つ)

図2-6-1



「区民の声センター」を知っているか聞いたところ、「知っている (利用したことがある)」(2.1%)と「知っているが利用したことはない」(19.3%)を合わせた『知っている』(21.4%)は2割を超えている。一方、「知らない」(78.3%)は8割近くとなっている。(図2-6-1)

図2-6-2 「区民の声センター」の認知状況 (時系列比較)



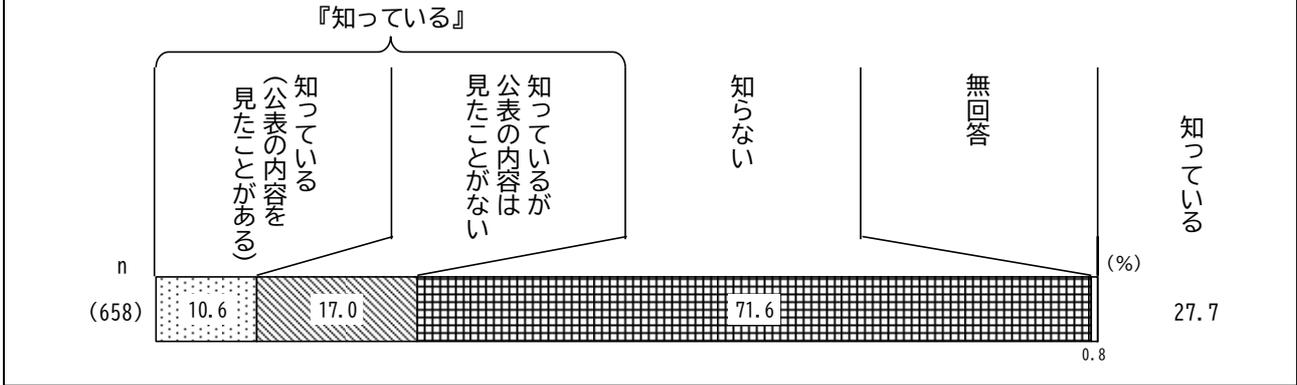
平成29年度調査と比較すると、『知っている』は0.3ポイント増加している。(図2-6-2)

(7) 区民からの意見等に、区の考え方等をホームページで公表していることの認知状況

◇ 『知っている』が3割近く、「知らない」が7割を超える

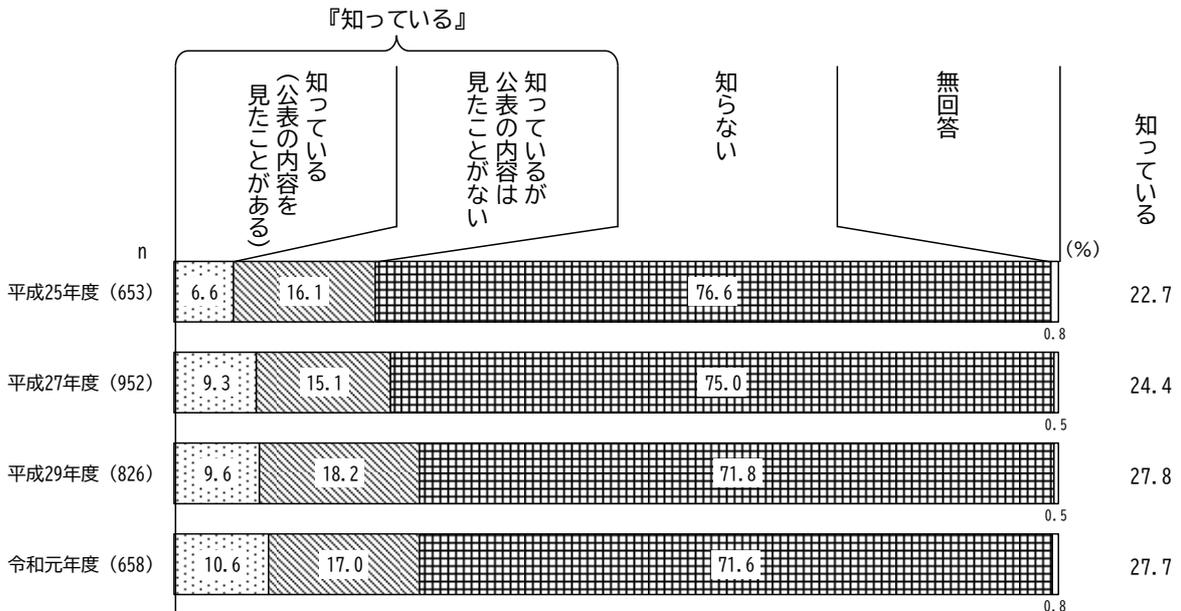
問9 区民の皆さまからいただいたご意見やご提案等と、それに対する区の対応や考え方等の要旨を区公式ホームページ等で公表しています。あなたはこのことを知っていますか。(○は1つ)

図2-7-1



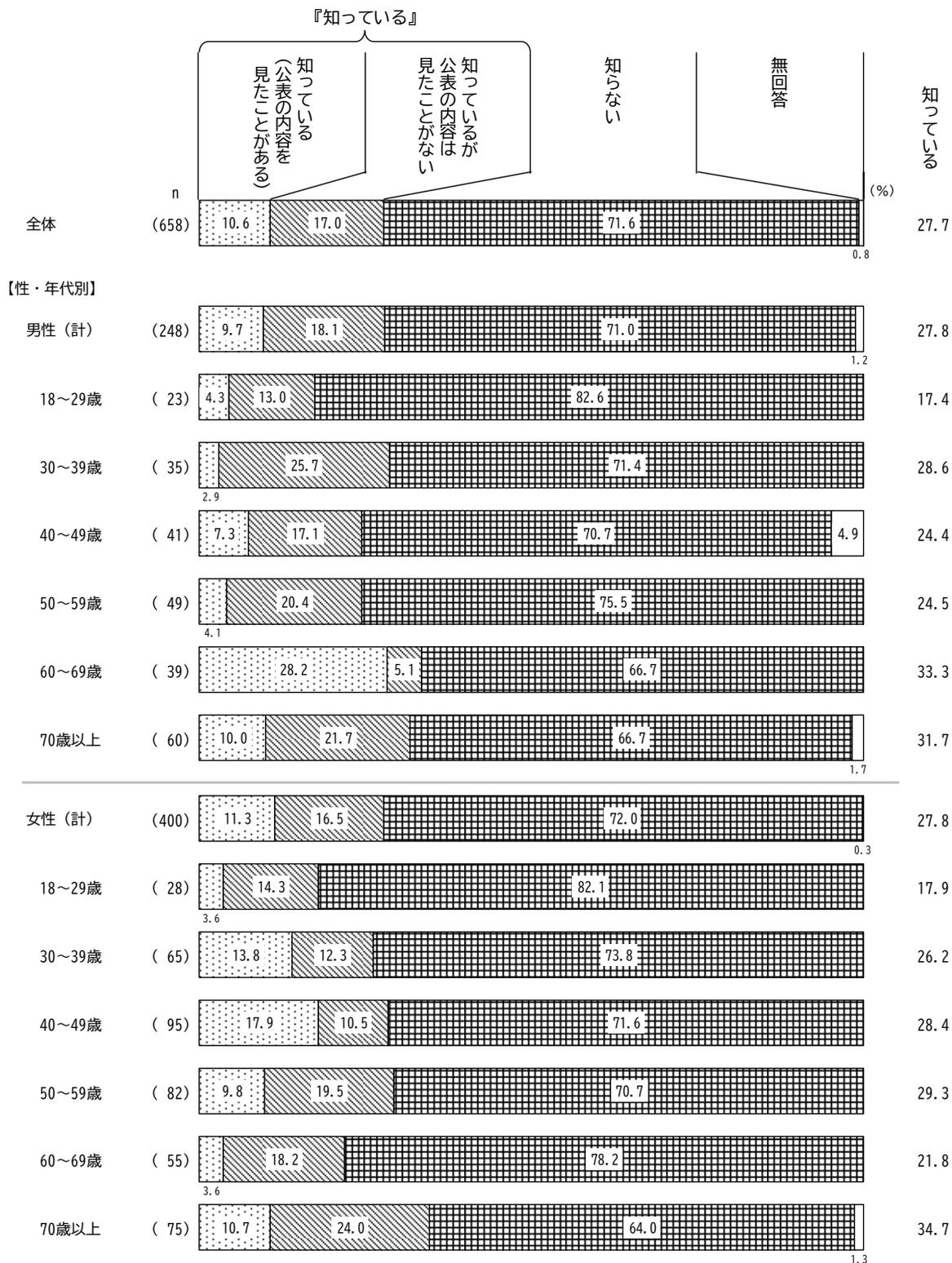
区民からの意見や提案、それに対する区の対応や考え方等の要旨を区公式ホームページ等で公表していることを知っているか聞いたところ、「知っている (公表の内容を見たことがある)」(10.6%)と「知っているが公表の内容は見たことがない」(17.0%)を合わせた『知っている』(27.7%)は3割近くとなっている。一方、「知らない」(71.6%)は7割を超えている。(図2-7-1)

図2-7-2 区民からの意見等に、区の考え方等をホームページで公表していることの認知状況 (時系列比較)



平成29年度調査結果と比較すると、全体として大きな違いは見られないものの、『知っている』は0.1ポイント減少している。平成25年度以降「知っている (公表の内容を見たことがある)」の割合は増加しており、今回調査では平成29年度調査から1.0ポイント増加した。(図2-7-2)

図2-7-3 区民からの意見等に、区の考え方等をホームページで公表していることの認知状況  
(性・年代別)



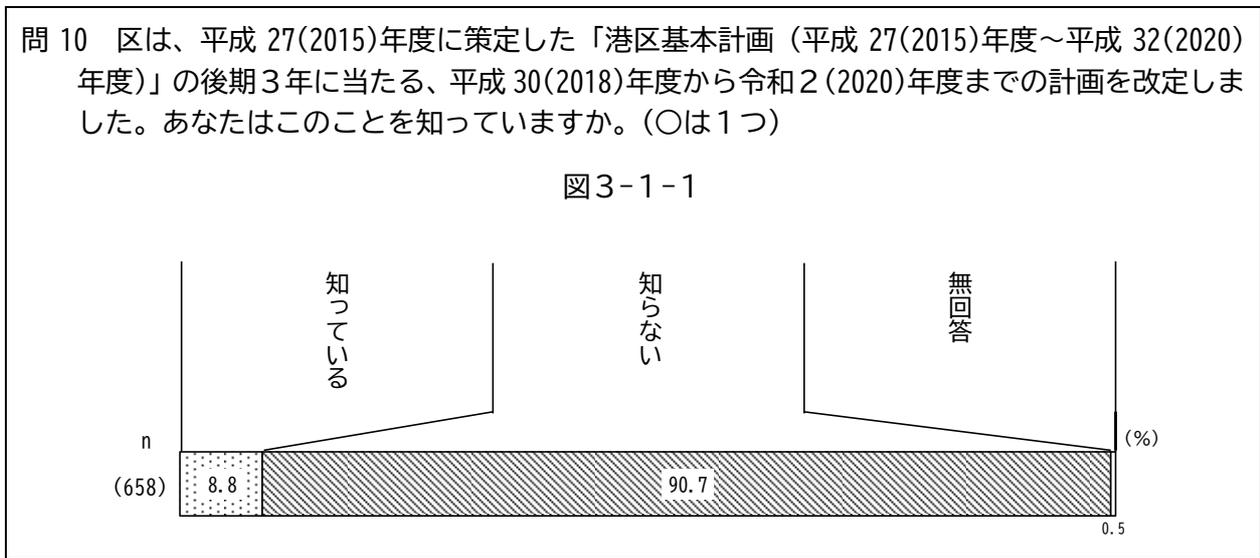
性別でみると、男女間で違いは見られない。

性・年代別でみると、『知っている』は女性 70 歳以上 (34.7%) で 3 割半ば、男性 60~69 歳 (33.3%)、男性 70 歳以上 (31.7%) で 3 割を超えている。一方、「知らない」は男性 18~29 歳 (82.6%)、女性 18~29 歳 (82.1%) で 8 割を超えている。(図 2-7-3)

### 3 区基本計画

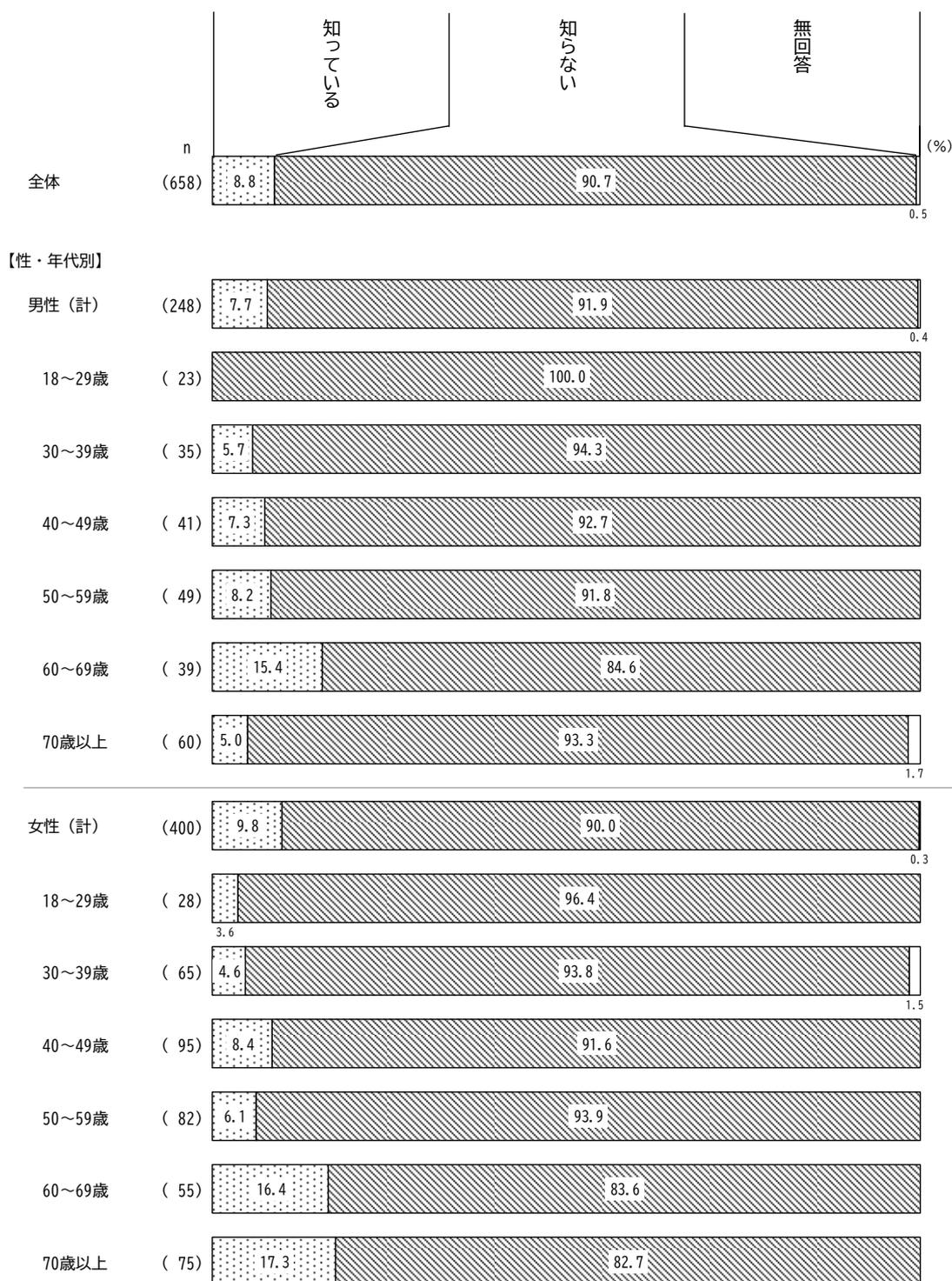
#### (1) 「港区基本計画」後期3年の計画改定に対する認知状況

◇ 「知らない」が約9割



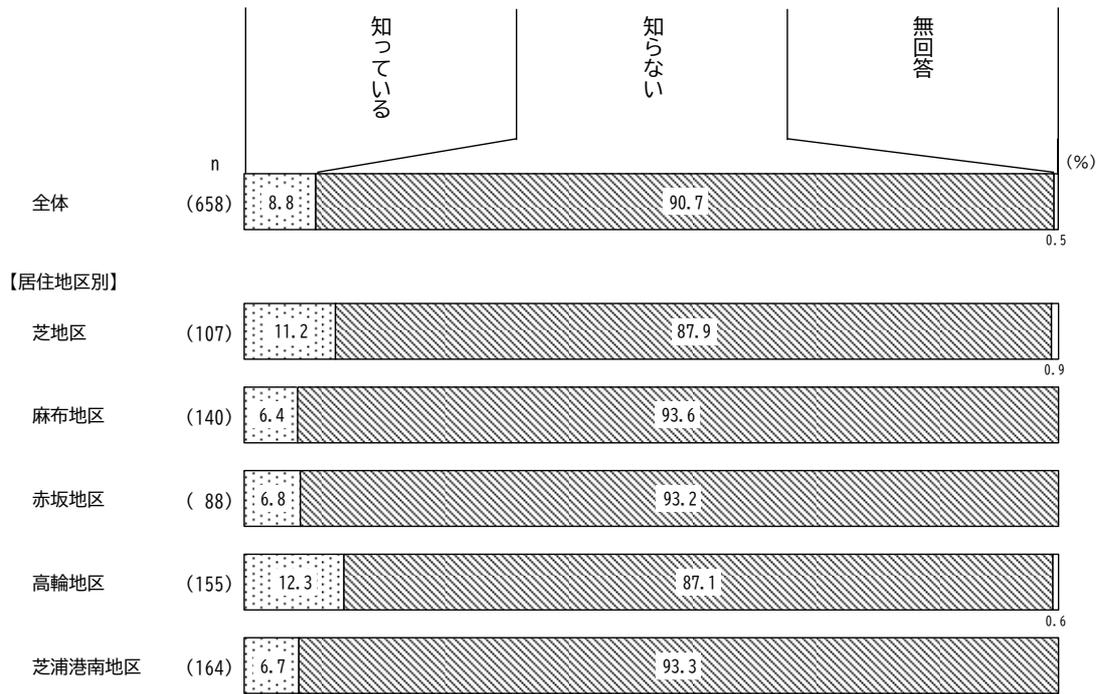
「港区基本計画（平成 27(2015) 年度～平成 32(2020) 年度）」の後期3年に当たる、平成 30(2018)年度から令和 2(2020)年度までの計画が改定されたことを知っているか聞いたところ、「知っている」(8.8%)は1割近く、「知らない」(90.7%)が約9割となっている。(図3-1-1)

図3-1-2 「港区基本計画」後期3年の計画改定に対する認知状況（性・年代別）



性別で見ると、「知っている」は女性（9.8%）が男性（7.7%）より2.1ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、「知っている」は女性70歳以上（17.3%）で2割近く、女性60~69歳（16.4%）、男性60~69歳（15.4%）で1割半ばとなっている。一方、「知らない」は男性18~29歳（100.0%）で全数、女性18~29歳（96.4%）で9割半ばとなっている。（図3-1-2）

図3-1-4 「港区基本計画」後期3年の計画改定に対する認知状況（居住地区別）



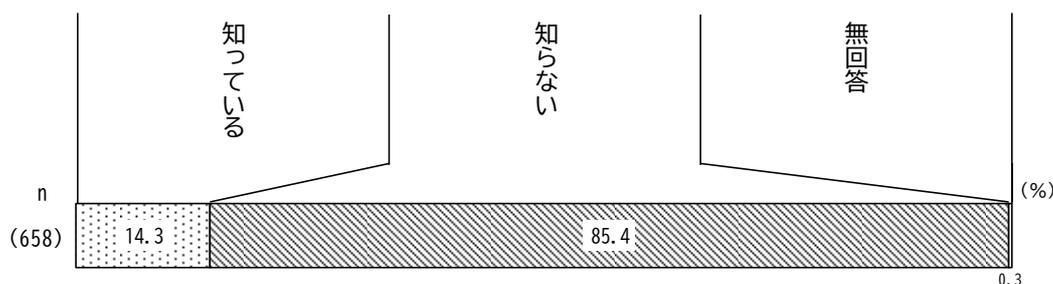
居住地区別で見ると、「知っている」は高輪地区（12.3%）、芝地区（11.2%）で1割を超えている。  
 (図3-1-4)

## (2) 「みなとタウンフォーラム」の認知状況

◇ 「知らない」が8割半ば

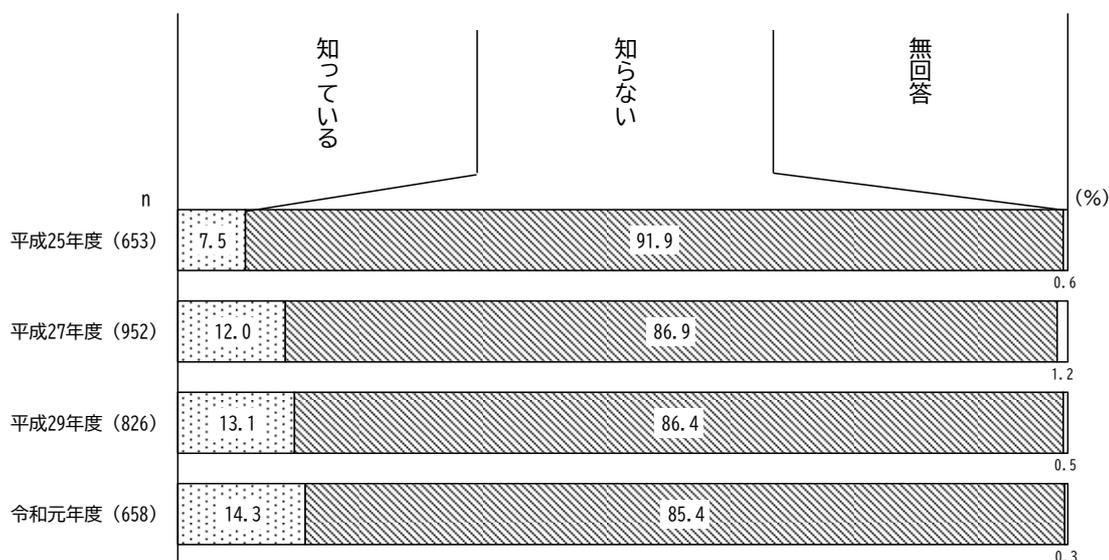
問 11 港区基本計画の策定や見直しの際に、港区に住み、働き、学ぶ皆さんが主体となって、意見を出し合い、区に提言を行う区民参画組織として「みなとタウンフォーラム」が設置されていることを知っていますか。(○は1つ)

図3-2-1



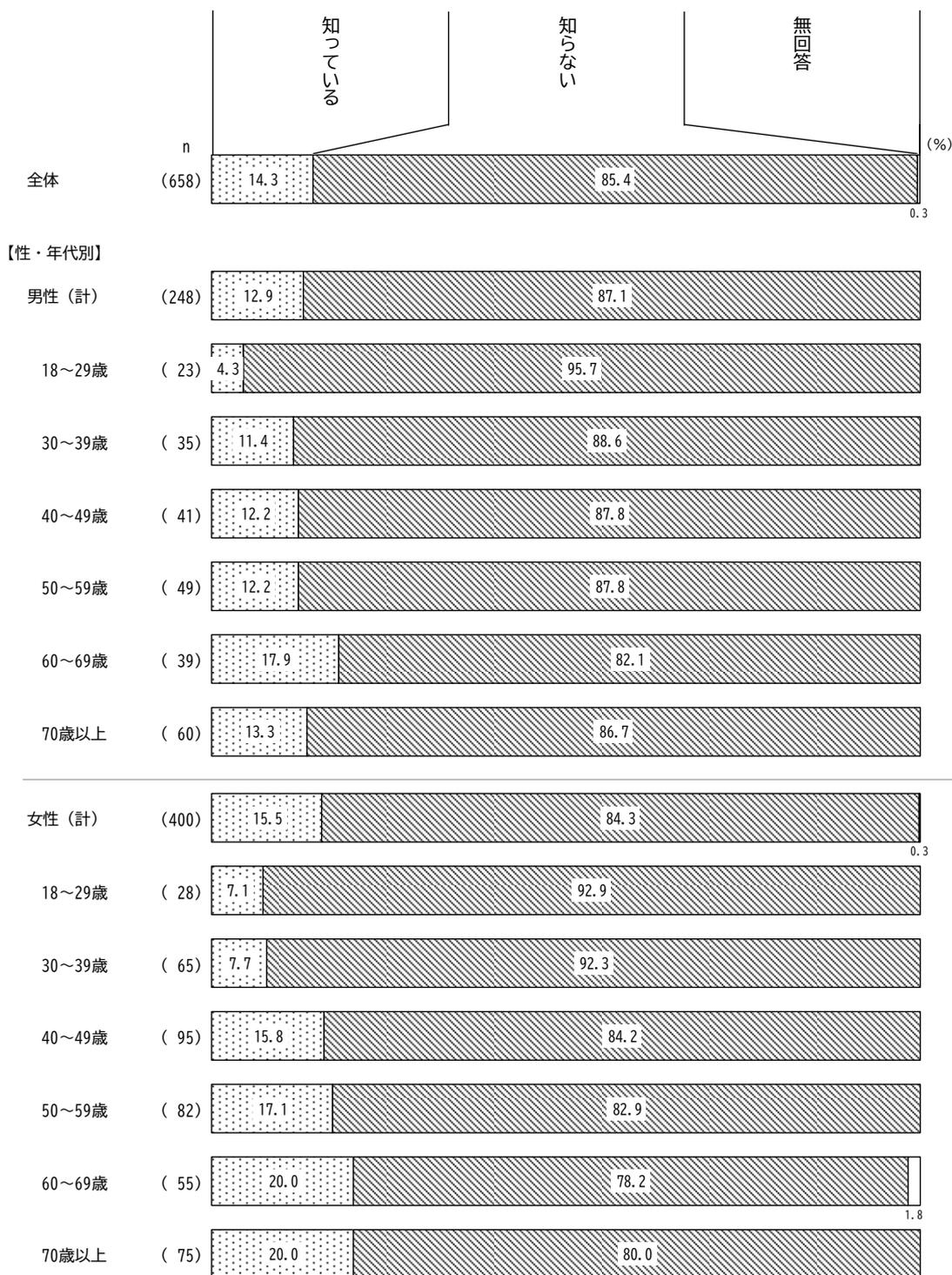
「みなとタウンフォーラム」が設置されていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(14.3%)は1割半ば、「知らない」(85.4%)は8割半ばとなっている。(図3-2-1)

図3-2-2 「みなとタウンフォーラム」の認知状況 (時系列比較)



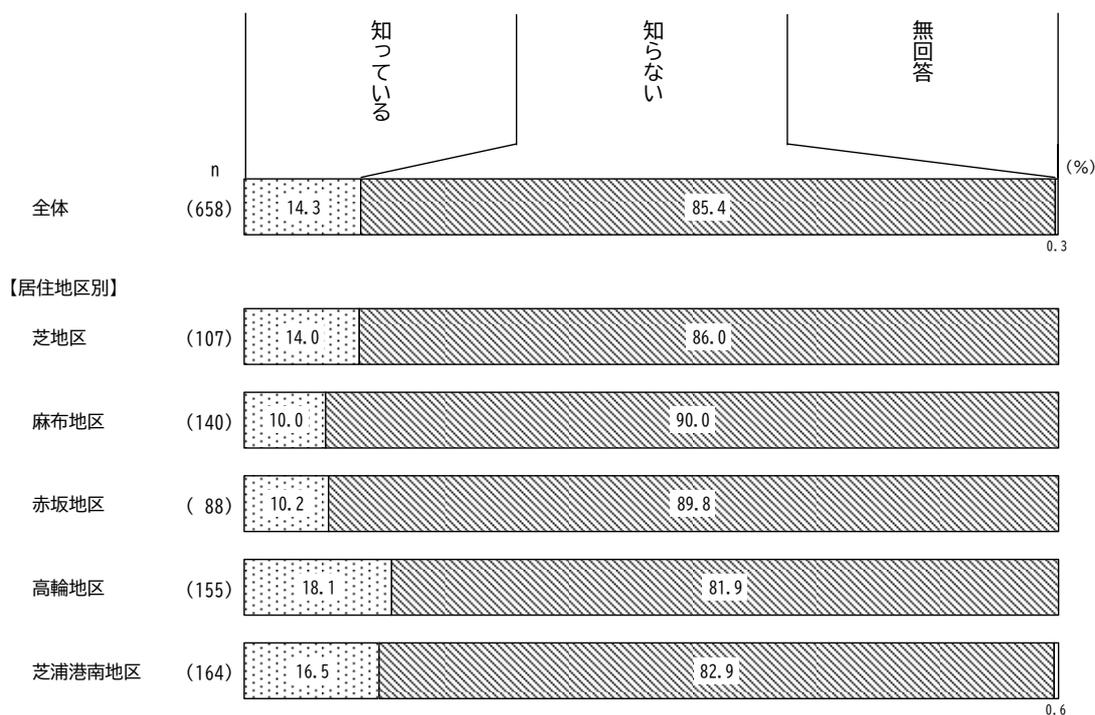
平成29年度調査結果と比較すると、「知っている」は1.2ポイント増加している。(図3-2-2)

図3-2-3 「みなとタウンフォーラム」の認知状況（性・年代別）



性別で見ると、「知っている」は女性（15.5%）が男性（12.9%）より2.6ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、「知っている」は女性60~69歳及び女性70歳以上（20.0%）で2割、男性60~69歳（17.9%）、女性50~59歳（17.1%）で2割近くとなっている。一方、「知らない」は男性18~29歳（95.7%）で9割半ば、女性18~29歳（92.9%）、女性30~39歳（92.3%）で9割を超えている。  
 （図3-2-3）

図3-2-4 「みなとタウンフォーラム」の認知状況（居住地区別）



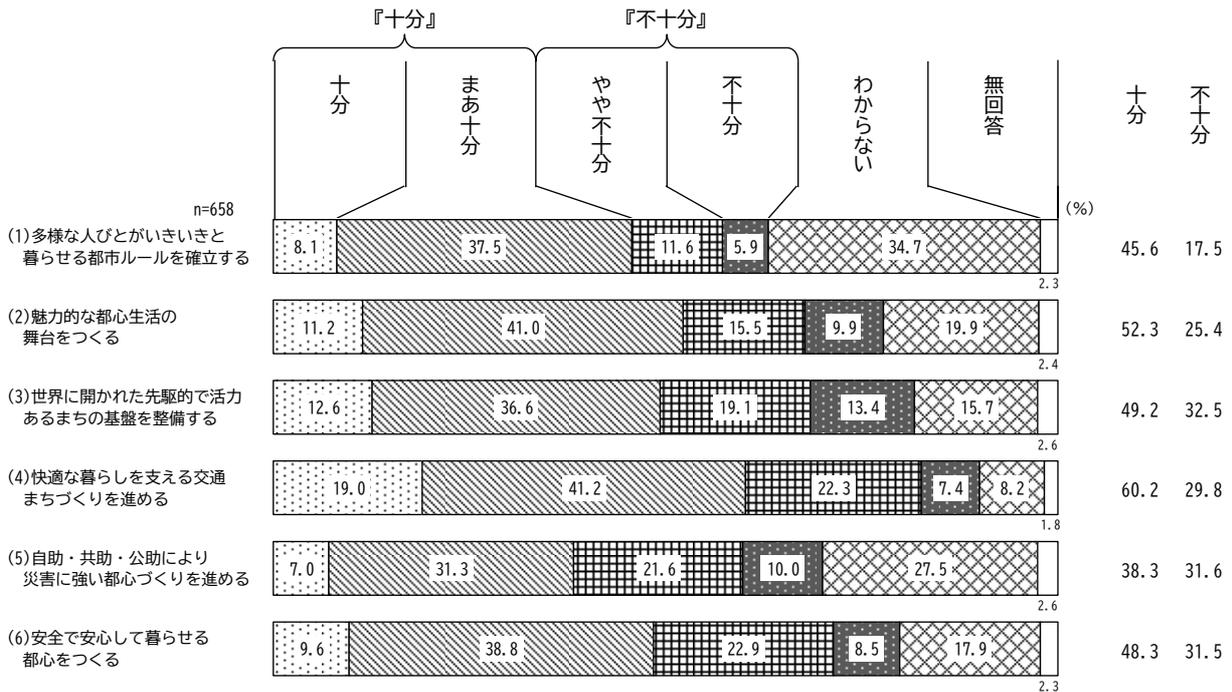
居住地区別で見ると、『知っている』は高輪地区（18.1%）と芝浦港南地区（16.5%）でともに2割近くとなっている。一方、『知らない』は麻布地区（90.0%）と赤坂地区（89.8%）で9割となっている。（図3-2-4）

(3) 港区基本計画に対する考え

問12 港区基本計画は、6つの基本政策で構成されています。以下の政策を実現するために、現在区が実施している取組が十分と感ずるかどうかお答えください。(〇はそれぞれ一つずつ)

(基本政策1) 都心の活力と安全・安心・快適な暮らしを支えるまちをつくる

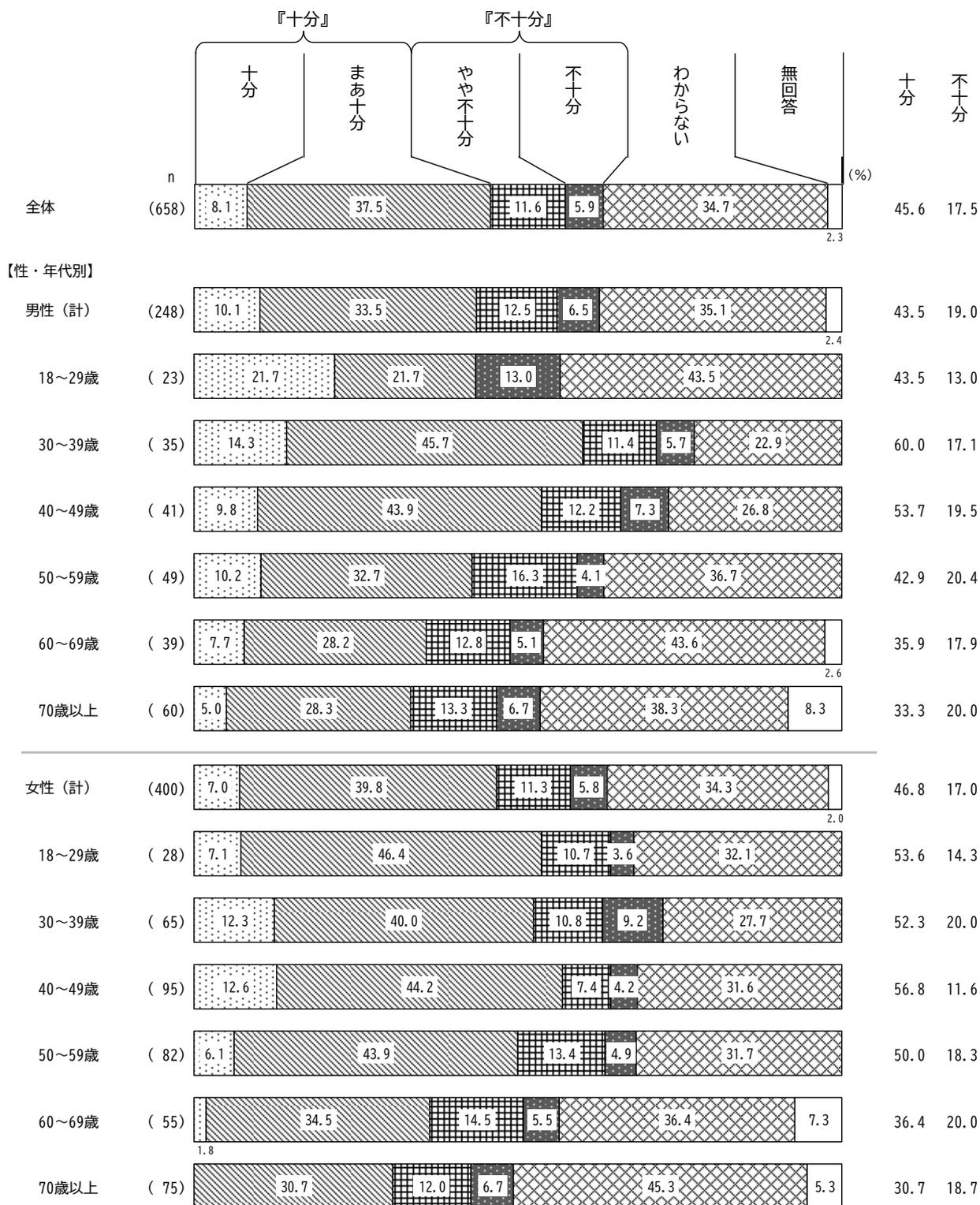
図3-3-1



基本政策1「都心の活力と安全・安心・快適な暮らしを支えるまちをつくる」について聞いたところ、「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』と感じる割合が多い政策は、「快適な暮らしを支える交通まちづくりを進める」(60.2%)で6割、「魅力的な都心生活の舞台をつくる」(52.3%)で5割を超えている。

一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』と感じる割合が多い政策は、「世界に開かれた先駆的で活力のあるまちの基盤を整備する」(32.5%)、「自助・共助・公助により災害に強い都心づくりを進める」(31.6%)、「安全で安心して暮らせる都心をつくる」(31.5%)で、ともに3割を超えている。また、「わからない」は「多様な人びとがいきいきと暮らせる都市ルールを確立する」(34.7%)で、3割半ばとなっている。(図3-3-1)

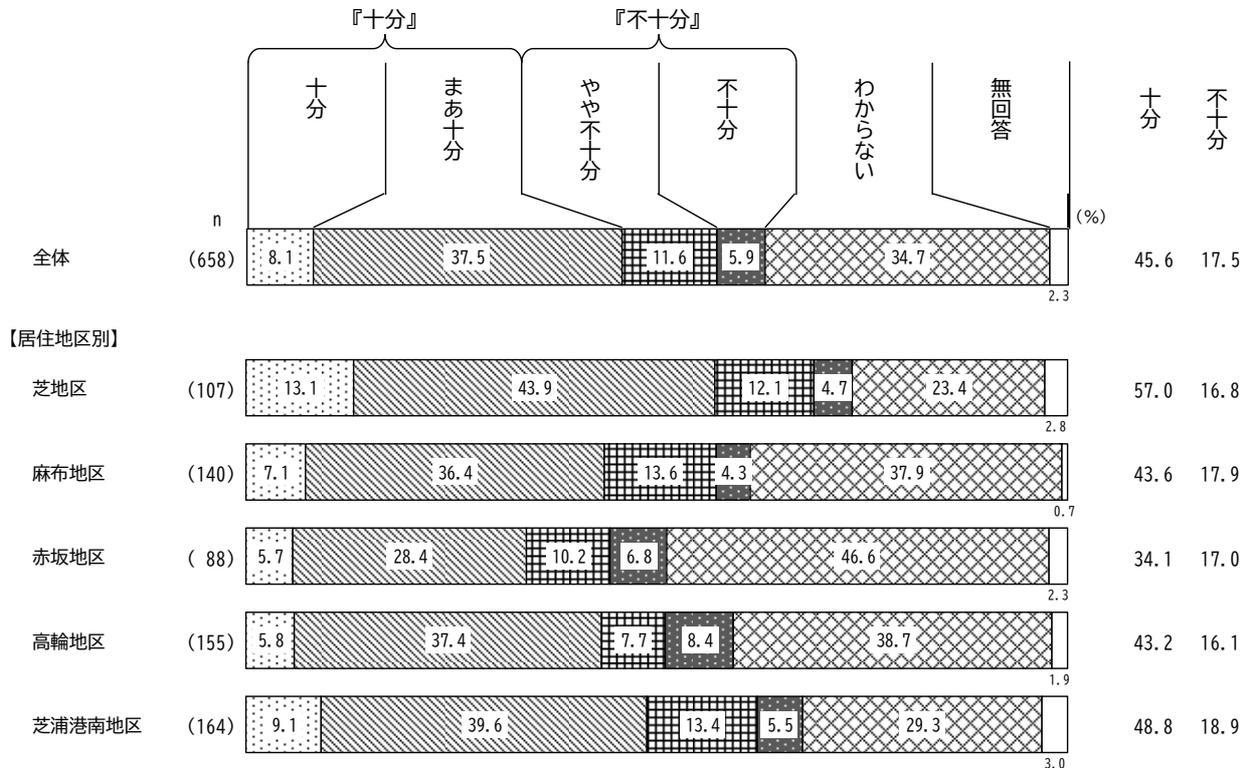
政策(1) 多様な人びとがいきいきと暮らせる都市ルールを確立する  
(性・年代別) 図3-3-2



政策(1)を性別で見ると、『十分』は女性(46.8%)が男性(43.5%)より3.3ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(19.0%)が女性(17.0%)より2.0ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は男性30~39歳(60.0%)で約6割、女性40~49歳(56.8%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は男性50~59歳(20.4%)で2割を超え、女性30~39歳、女性60~69歳(20.0%)で2割となっている。(図3-3-2)

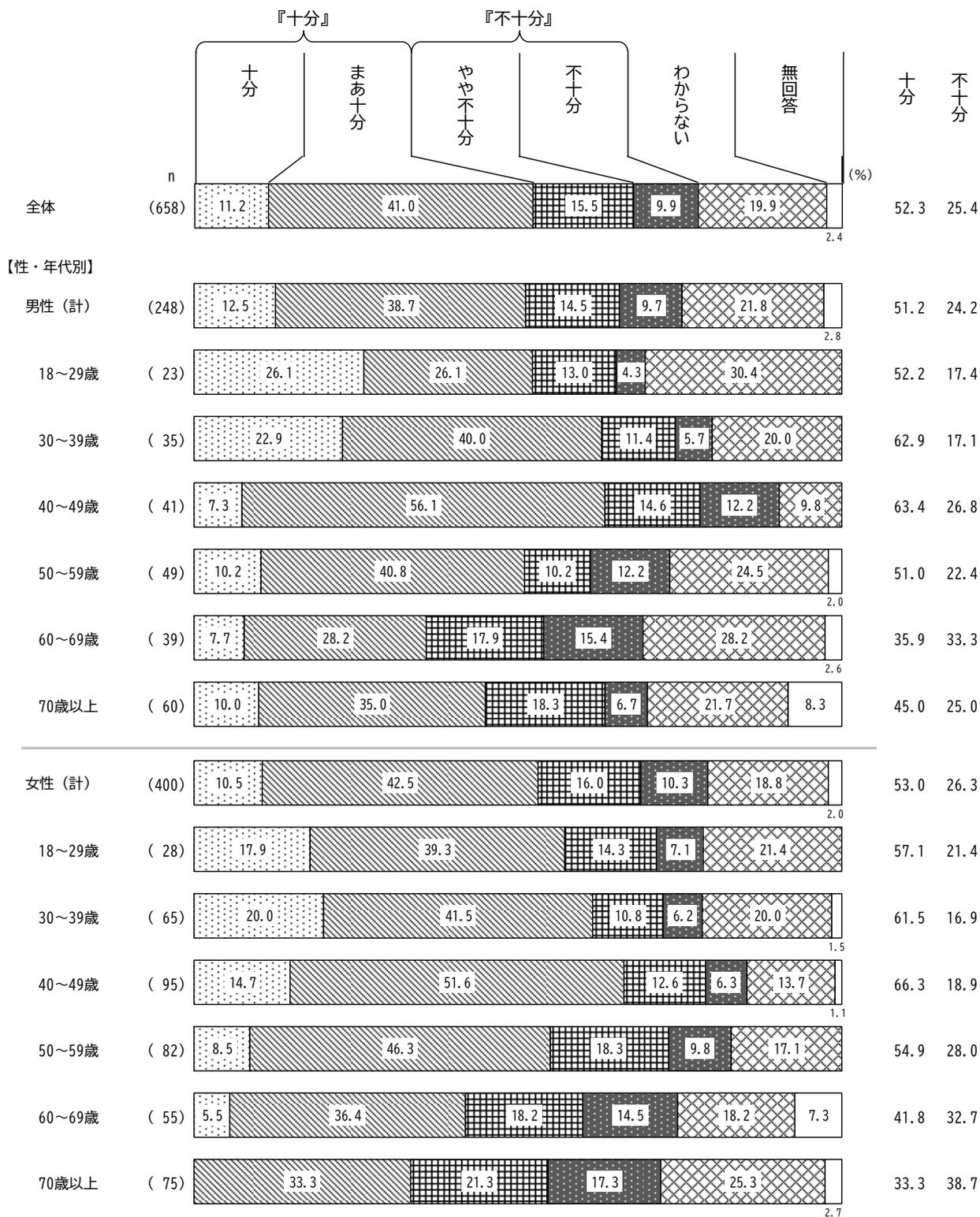
政策(1) 多様な人びとがいきいきと暮らせる都市ルールを確立する  
(居住地区別) 図3-3-3



政策(1)を居住地区別で見ると、『十分』は芝地区(57.0%)で6割近く、芝浦港南地区(48.8%)で5割近くとなっている。一方、『不十分』は芝浦港南地区(18.9%)で2割近くとなっている。

(図3-3-3)

政策(2) 魅力的な都心生活の舞台をつくる  
(性・年代別) 図3-3-4

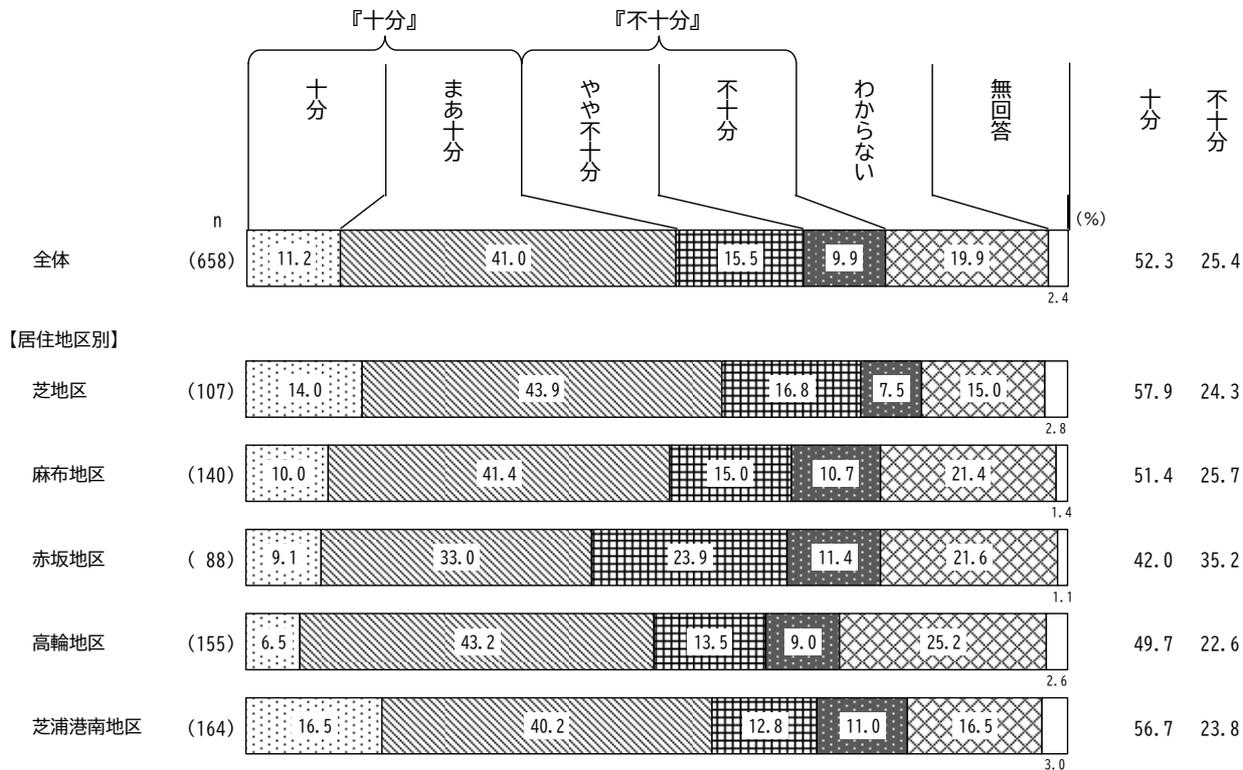


政策(2)を性別で見ると、『十分』は女性(53.0%)が男性(51.2%)より1.8ポイント多くなっている。一方、『不十分』は女性(26.3%)が男性(24.2%)より2.1ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(66.3%)で6割半ば、男性40~49歳(63.4%)で6割を超えている。一方、『不十分』は女性70歳以上(38.7%)で4割近くとなっている。

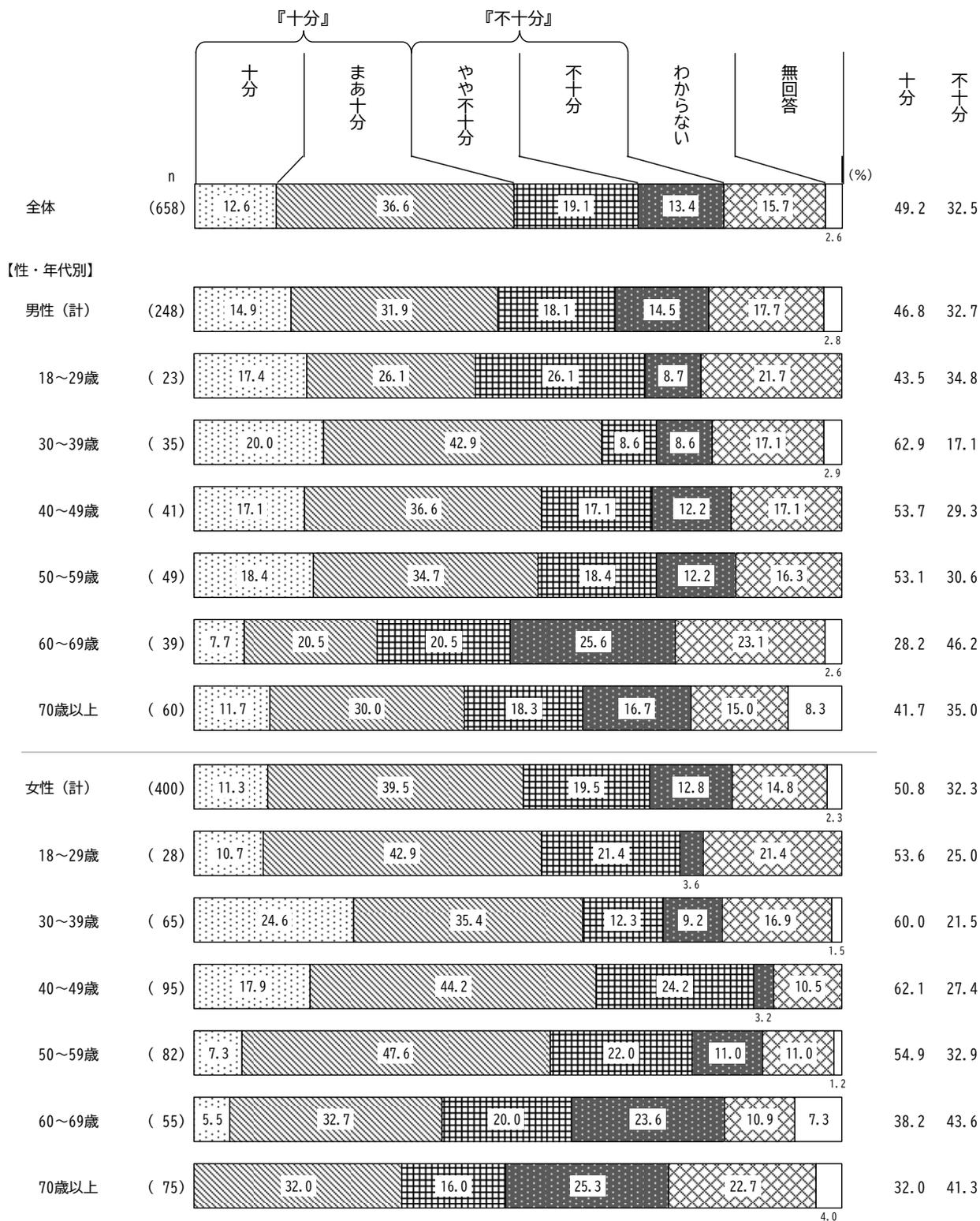
(図3-3-4)

政策(2) 魅力的な都心生活の舞台をつくる  
(居住地区別) 図3-3-5



政策(2)を居住地区別で見ると、『十分』は芝地区(57.9%)、芝浦港南地区(56.7%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(35.2%)で3割半ばとなっている。(図3-3-5)

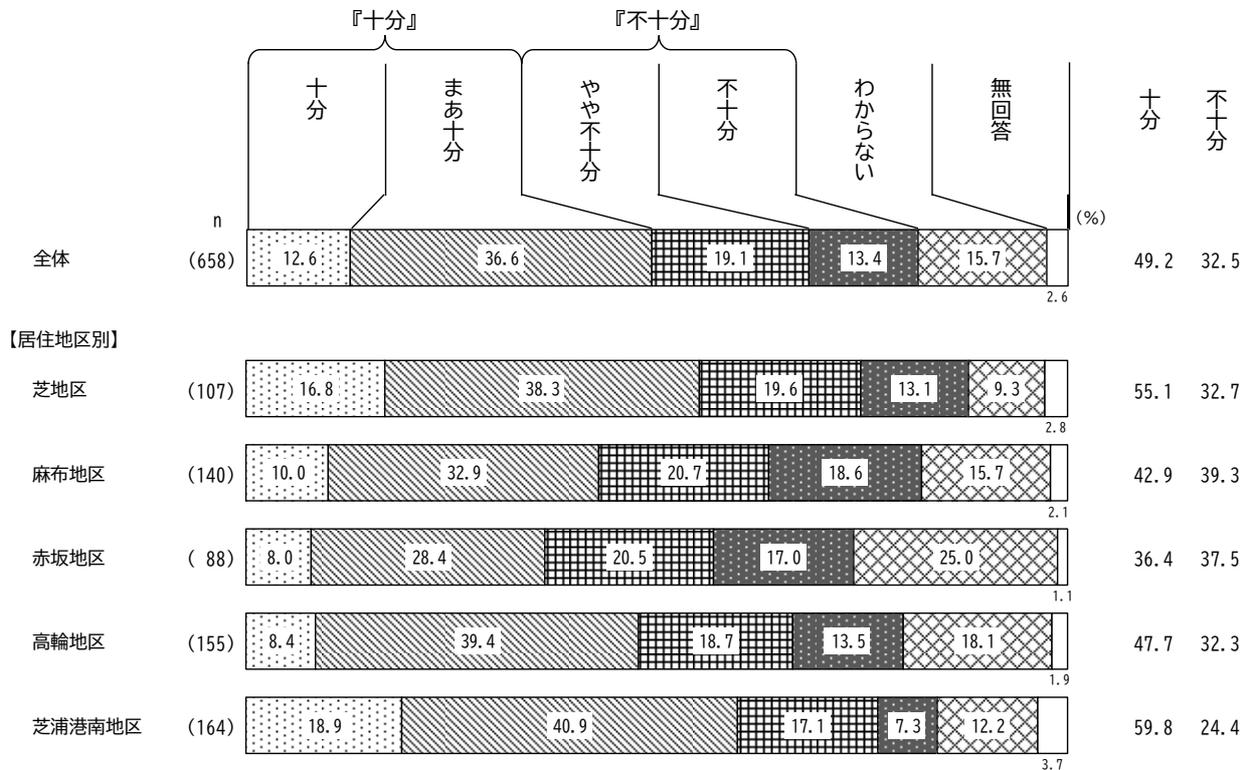
政策(3) 世界に開かれた先駆的で活力あるまちの基盤を整備する  
(性・年代別) 図3-3-6



政策(3)を性別で見ると、『十分』は女性 (50.8%) が男性 (46.8%) より 4.0 ポイント多くなっている。

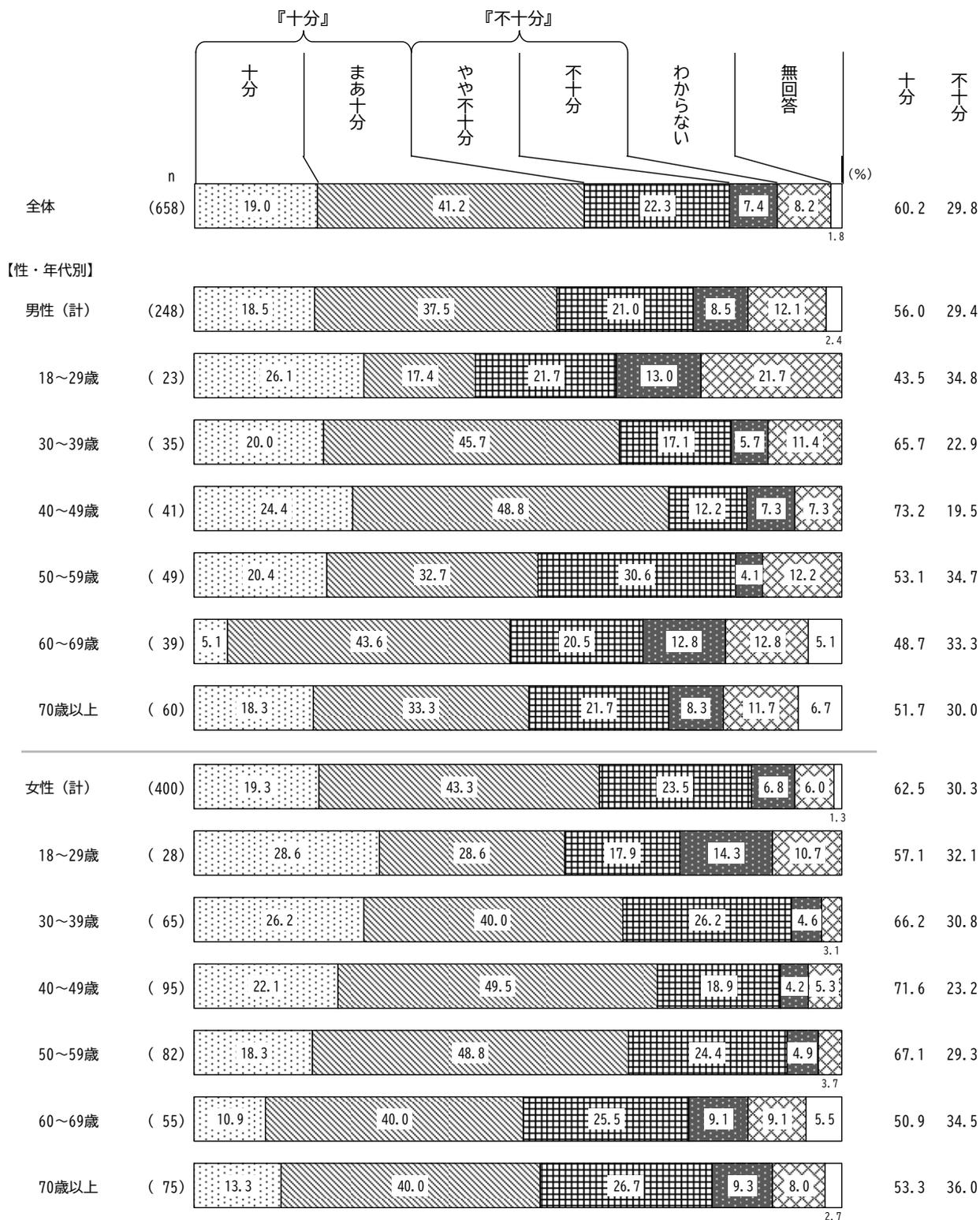
性・年代別で見ると、『十分』は男性 30~39 歳 (62.9%)、女性 40~49 歳 (62.1%) で 6 割を超えている。一方、『不十分』は男性 60~69 歳 (46.2%) で 4 割半ばとなっている。(図 3-3-6)

政策(3) 世界に開かれた先駆的で活力あるまちの基盤を整備する  
(居住地区別) 図3-3-7



政策(3)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(59.8%)で6割、芝地区(55.1%)で5割半ばとなっている。一方、『不十分』は麻布地区(39.3%)で約4割となっている。(図3-3-7)

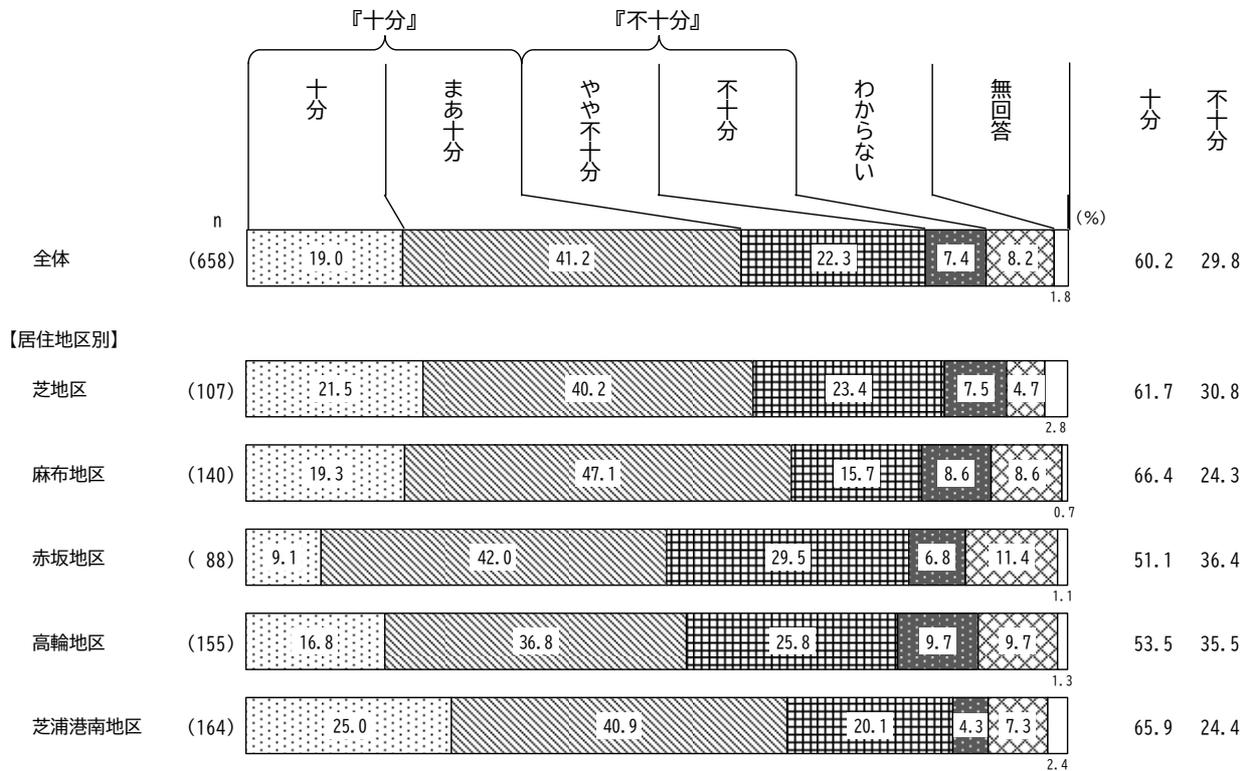
政策(4) 快適な暮らしを支える交通まちづくりを進める  
(性・年代別) 図3-3-8



政策(4)を性別でみると、『十分』は女性(62.5%)が男性(56.0%)より6.5ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男女間で大きな違いは見られない。

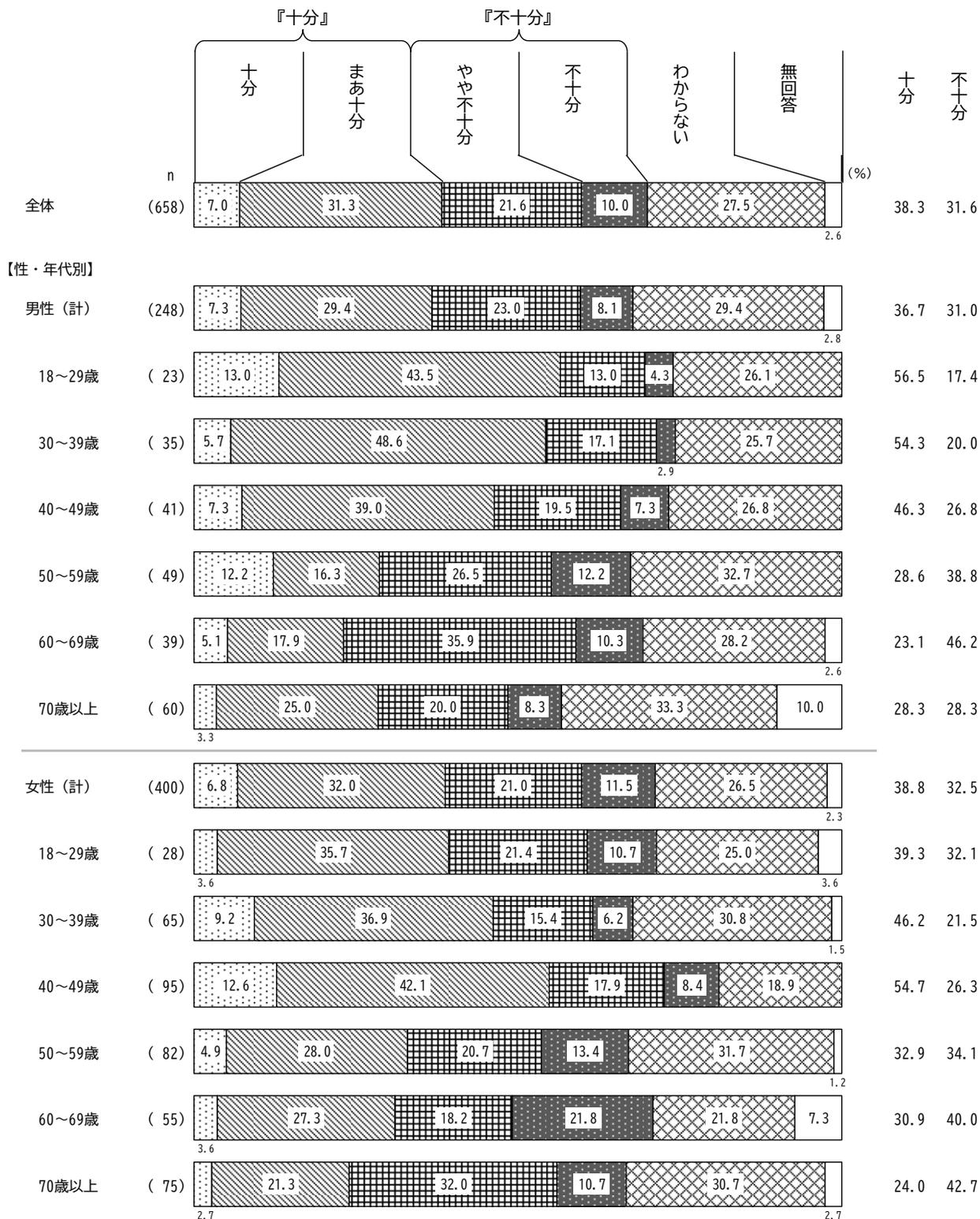
性・年代別でみると、『十分』は男性40~49歳(73.2%)、女性40~49歳(71.6%)で7割を超える。一方、『不十分』は女性70歳以上(36.0%)で3割半ばとなっている。(図3-3-8)

政策(4) 快適な暮らしを支える交通まちづくりを進める  
(居住地区別) 図3-3-9



政策(4)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区(66.4%)、芝浦港南地区(65.9%)で6割半ばとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(36.4%)で3割半ばとなっている。(図3-3-9)

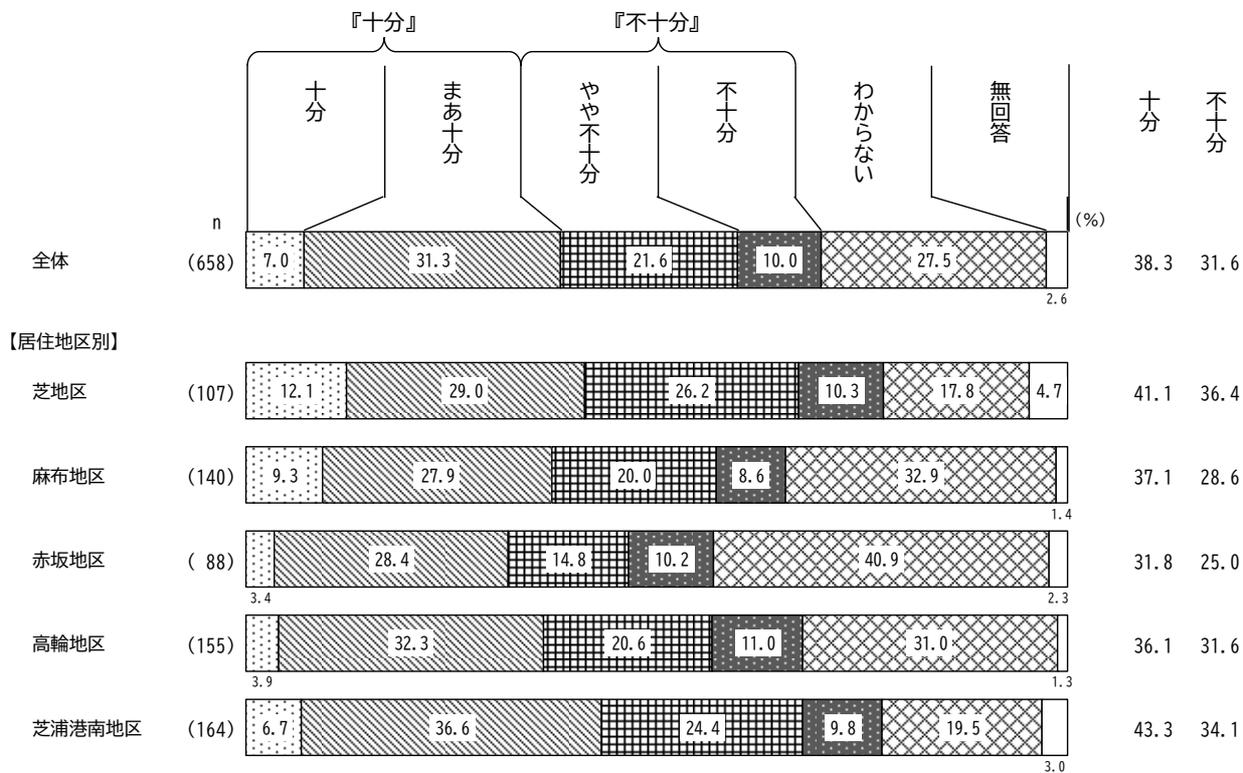
政策(5) 自助・共助・公助により災害に強い都心づくりを進める  
(性・年代別) 図3-3-10



政策(5)を性別で見ると、『十分』は女性(38.8%)が男性(36.7%)より2.1ポイント多くなっている。一方、『不十分』は女性(32.5%)が男性(31.0%)より1.5ポイント多くなっている。

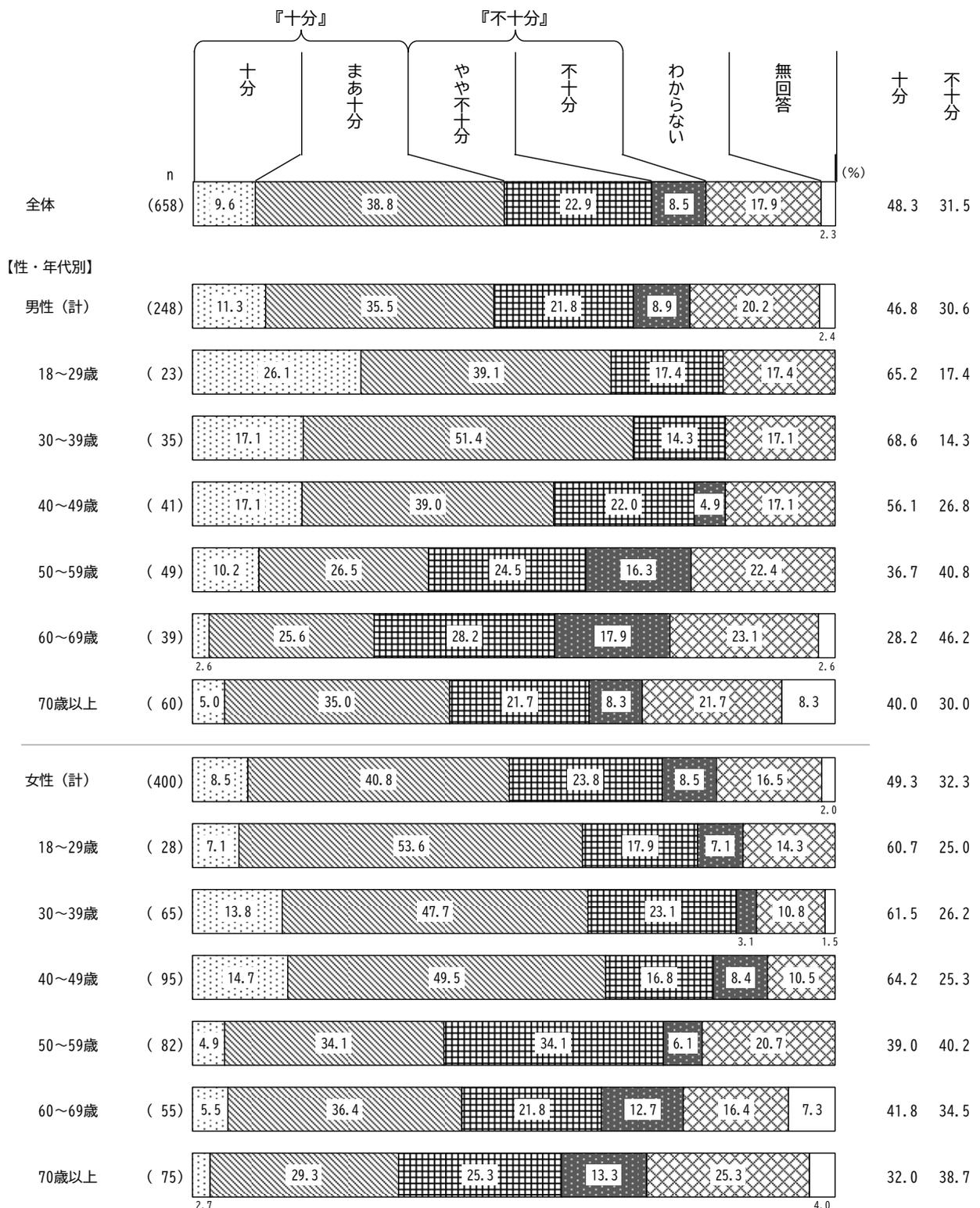
性・年代別で見ると、『十分』は男性18~29歳(56.5%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は男性60~69歳(46.2%)で4割半ばとなっている。(図3-3-10)

政策(5) 自助・共助・公助により災害に強い都心づくりを進める  
(居住地区別) 図3-3-11



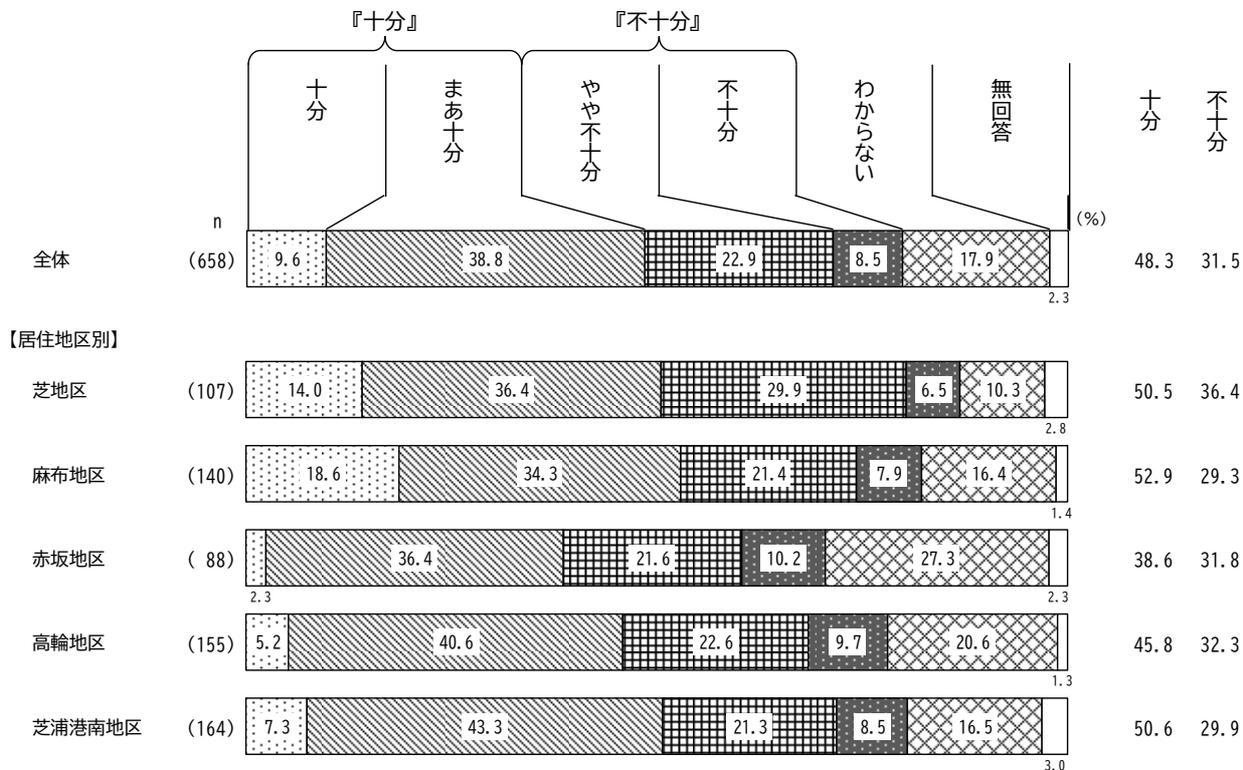
政策(5)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(43.3%)、芝地区(41.1%)で4割を超えている。一方、『不十分』は芝浦港南地区(34.1%)で3割半ばとなっている。(図3-3-11)

政策(6) 安全で安心して暮らせる都心をつくる  
(性・年代別) 図3-3-12



政策(6)を性別で見ると、『十分』は女性(49.3%)が男性(46.8%)より2.5ポイント多くなっている。一方、『不十分』は女性(32.3%)が男性(30.6%)より1.7ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『十分』は男性30~39歳(68.6%)で7割近くとなっている。一方、『不十分』は男性60~69歳(46.2%)で4割半ばとなっている。(図3-3-12)

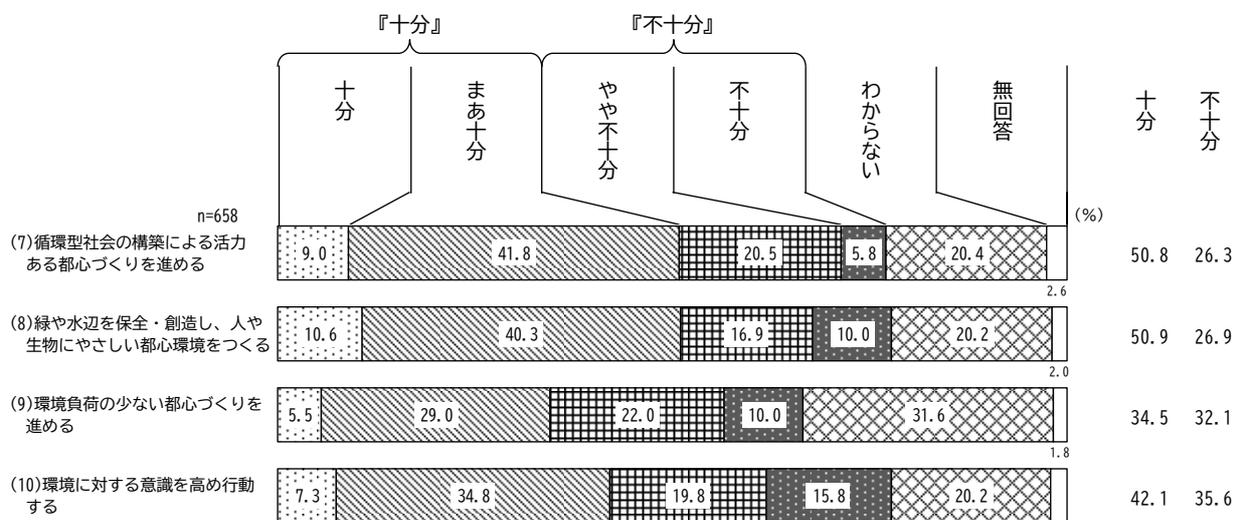
政策(6) 安全で安心して暮らせる都心をつくる  
(居住地区別) 図3-3-13



政策(6)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区(52.9%)で5割を超え、芝浦港南地区(50.6%)、芝地区(50.5%)で約5割となっている。一方、『不十分』は芝地区(36.4%)で3割半ばとなっている。(図3-3-13)

(基本政策2) 環境にやさしい都心をみなで考えつくる

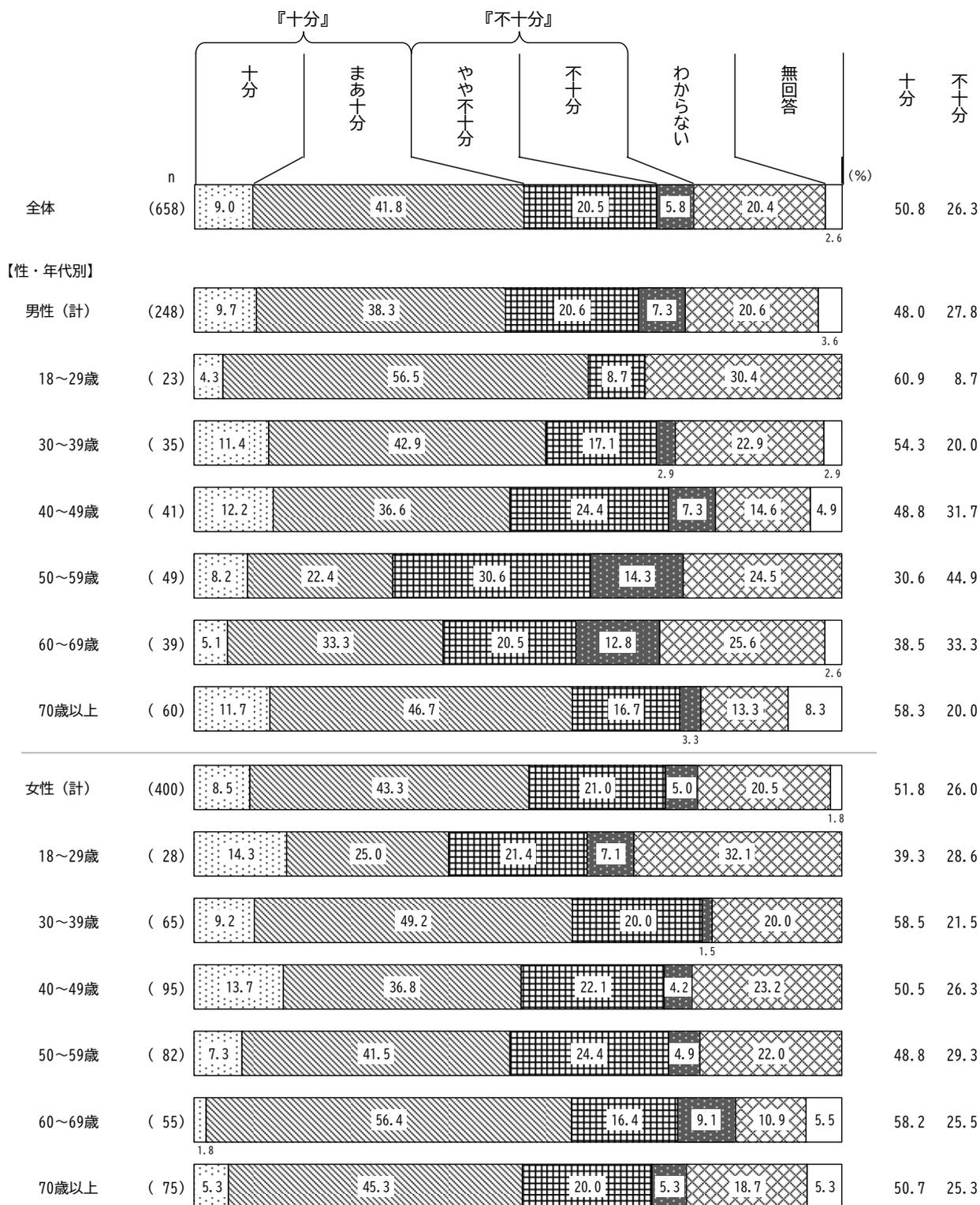
図3-3-14



基本政策2「環境にやさしい都心をみなで考えつくる」について聞いたところ、「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』と感じる割合が多い政策は、「緑や水辺を保全・創造し人や生物にやさしい都心環境をつくる」(50.9%)で約5割、「循環型社会の構築による活力ある都心づくりを進める」(50.8%)も約5割となっている。

一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』と感じる割合が多い政策は、「環境に対する意識を高め行動する」(35.6%)で3割半ばとなっている。(図3-3-14)

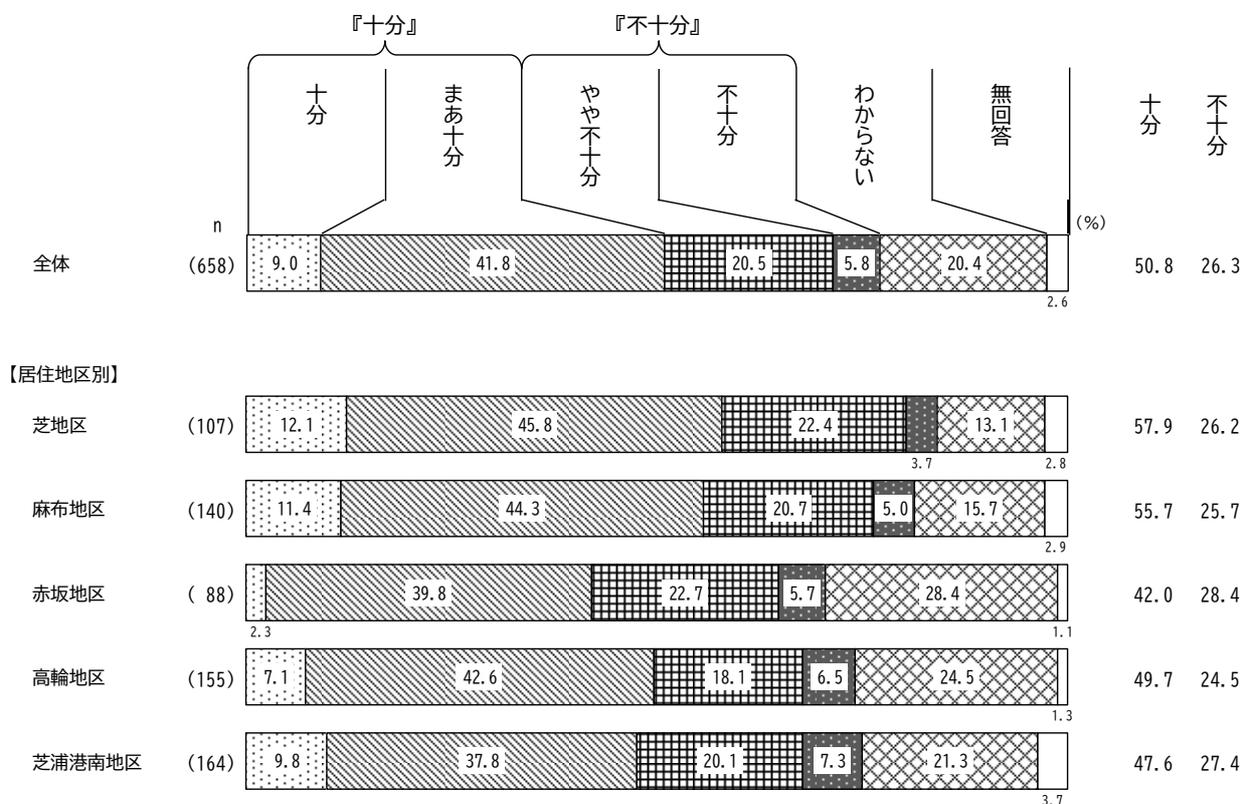
政策(7) 循環型社会の構築による活力ある都心づくりを進める  
(性・年代別) 図3-3-15



政策(7)を性別でみると、『十分』は女性(51.8%)が男性(48.0%)より3.8ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男女間で大きな違いは見られない。

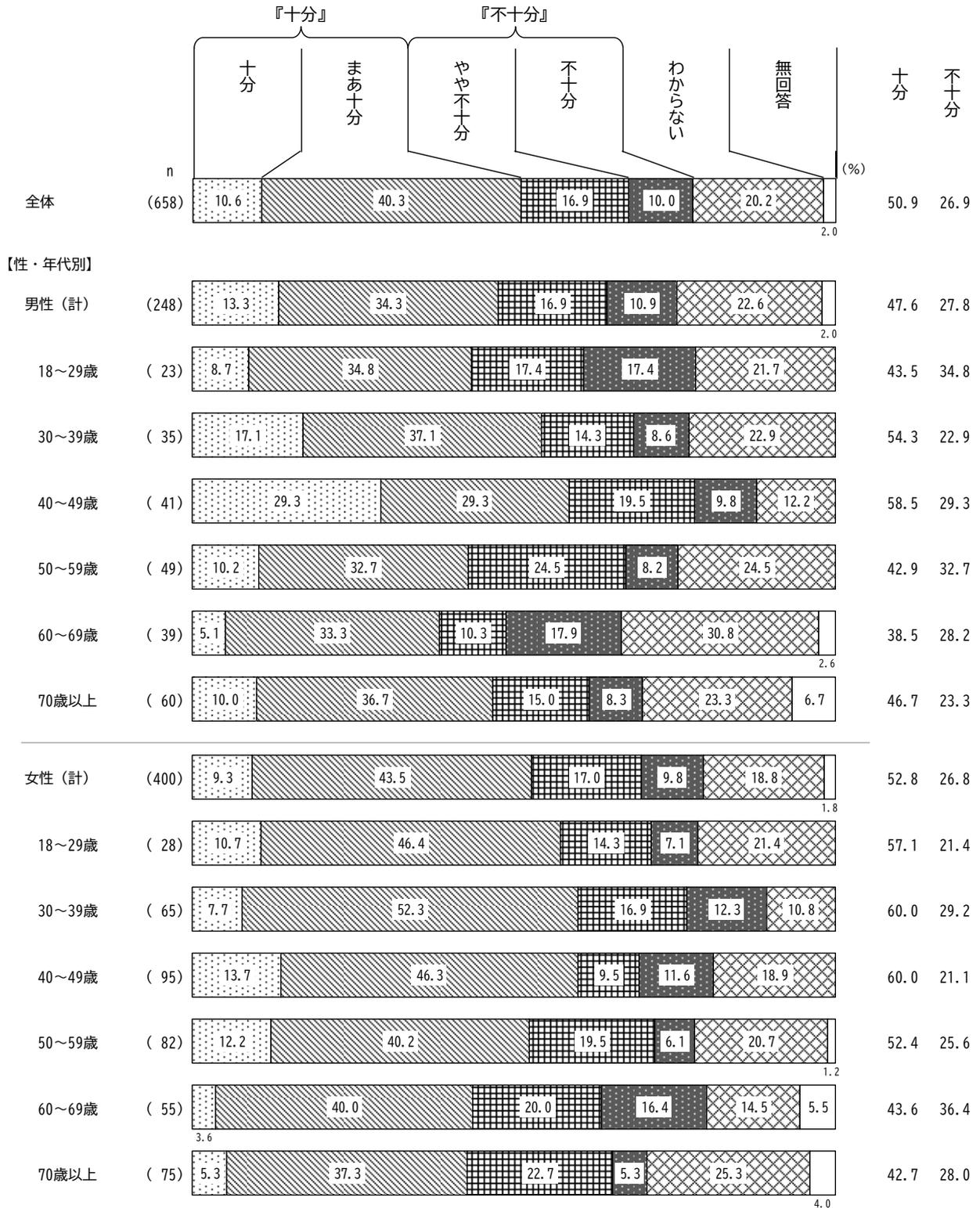
性・年代別でみると、『十分』は男性18~29歳(60.9%)で約6割、女性30~39歳(58.5%)、女性60~69歳(58.2%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は男性50~59歳(44.9%)で4割半ばとなっている。(図3-3-15)

政策(7) 循環型社会の構築による活力ある都心づくりを進める  
(居住地区別) 図3-3-16



政策(7)を居住地区別で見ると、『十分』は芝地区(57.9%)で6割近く、麻布地区(55.7%)で5割半ばとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(28.4%)で3割近くとなっている。(図3-3-16)

政策(8) 緑や水辺を保全・創造し、人や生物にやさしい都心環境をつくる  
(性・年代別) 図3-3-17

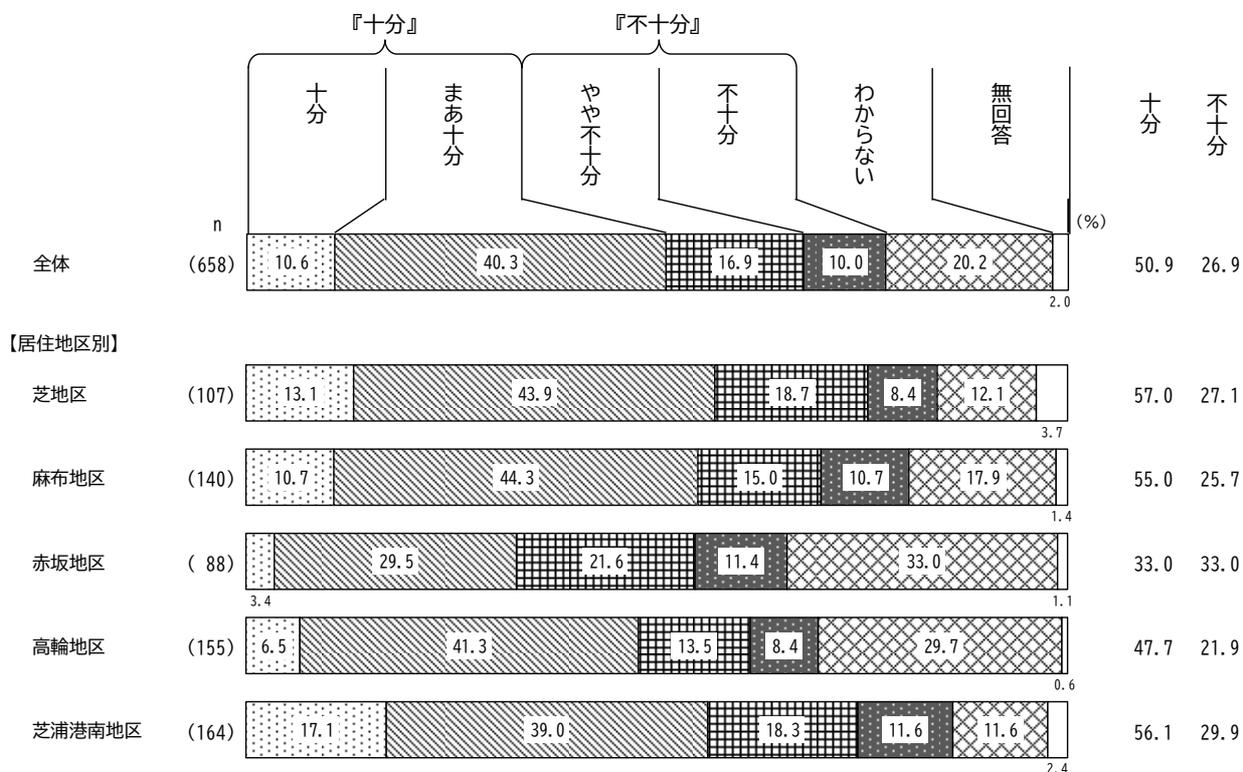


政策(8)を性別で見ると、『十分』は女性(52.8%)が男性(47.6%)より5.2ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(27.8%)が女性(26.8%)より1.0ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は女性30~39歳・40~49歳(60.0%)で6割、男性40~49歳代(58.5%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は女性60~69歳代(36.4%)で3割半ばとなっている。

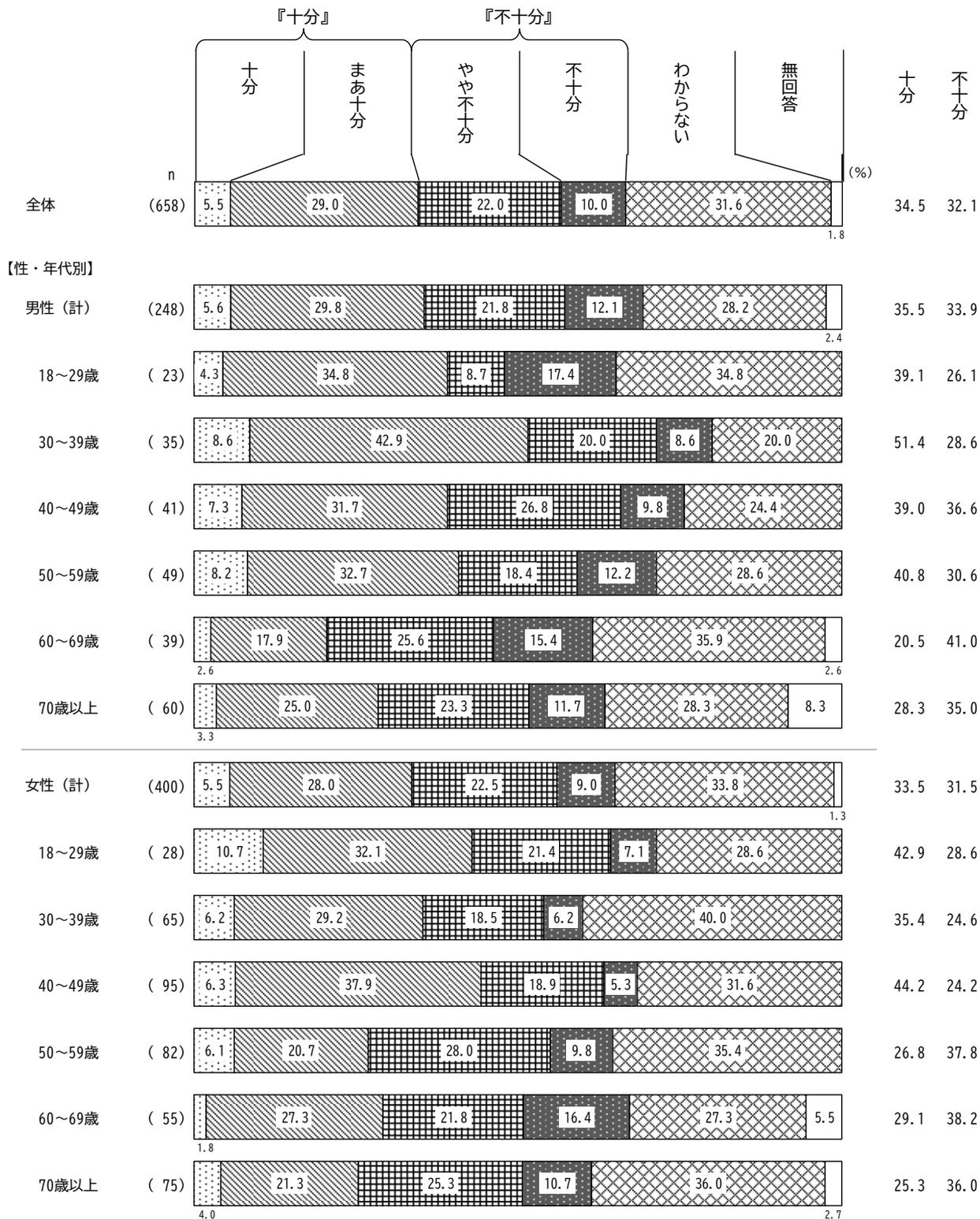
(図3-3-17)

政策(8) 緑や水辺を保全・創造し、人や生物にやさしい都心環境をつくる  
(居住地区別) 図3-3-18



政策(8)を居住地区別で見ると、『十分』は芝地区(57.0%)で6割近く、芝浦港南地区(56.1%)で5割半ばとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(33.0%)で3割を超えている。(図3-3-18)

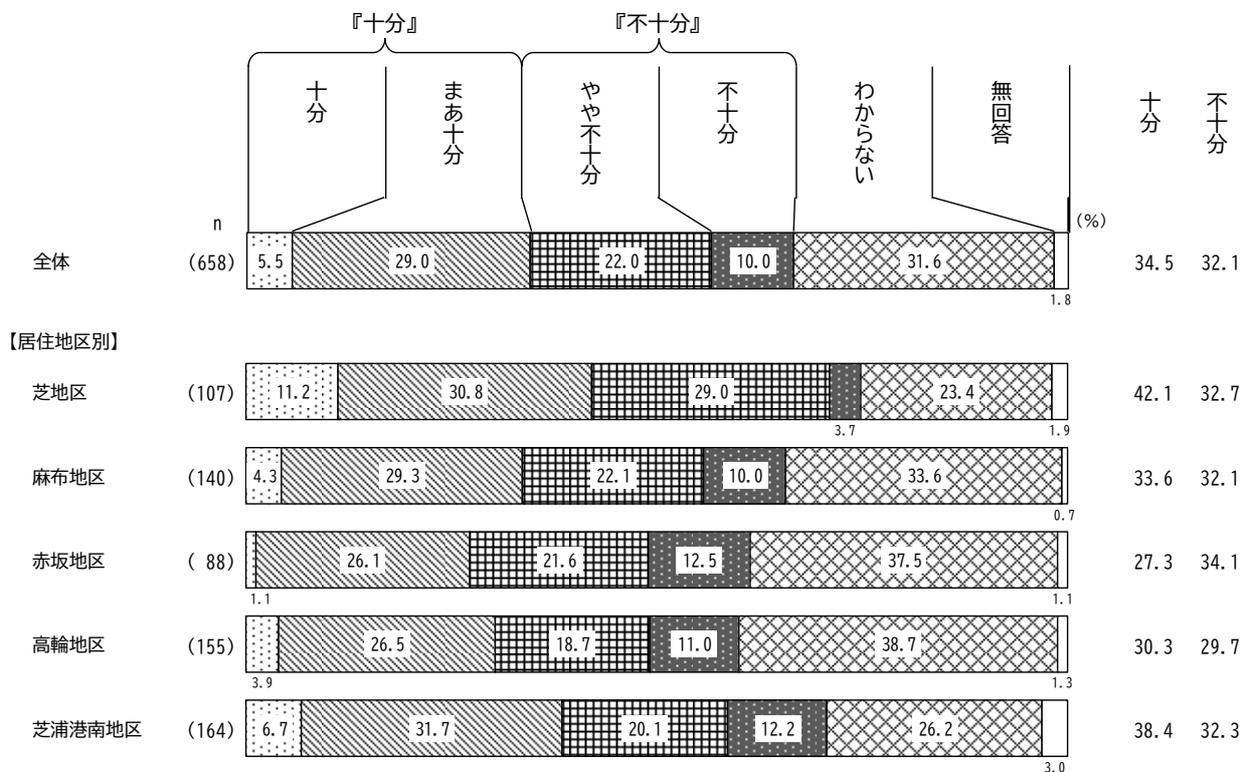
政策(9) 環境負荷の少ない都心づくりを進める  
(性・年代別) 図3-3-19



政策(9)を性別で見ると、『十分』は男性(35.5%)が女性(33.5%)より2.0ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(33.9%)が女性(31.5%)より2.4ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は男性30~39歳(51.4%)で5割を超えている。一方、『不十分』は女性60~69歳(38.2%)で4割近くとなっている。(図3-3-19)

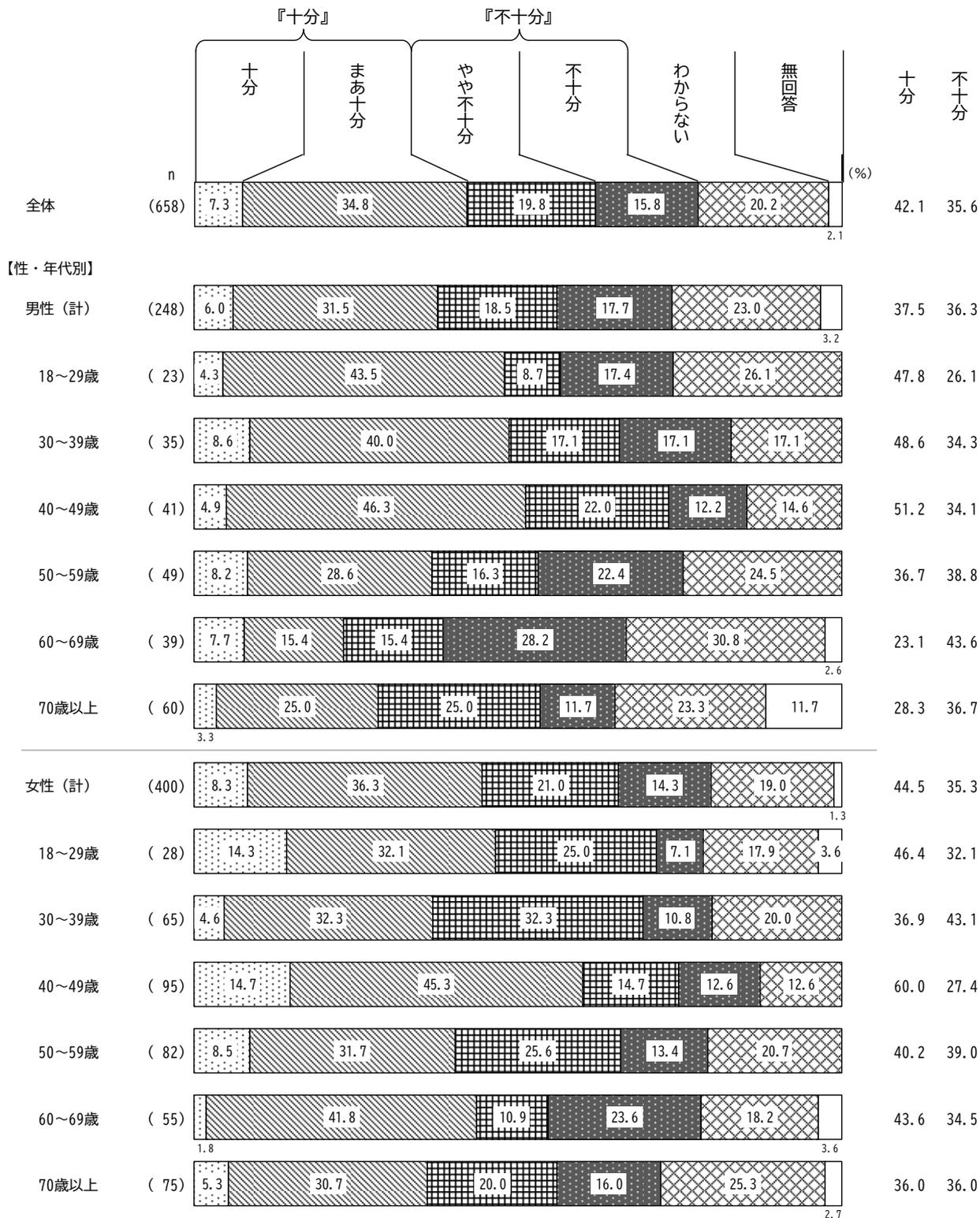
政策(9) 環境負荷の少ない都心づくりを進める  
(居住地区別) 図3-3-20



政策(9)を居住地区別で見ると、『十分』は芝地区（42.1%）で4割を超え、芝浦港南地区（38.4%）で4割近くとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区（34.1%）で3割半ばとなっている。

(図3-3-20)

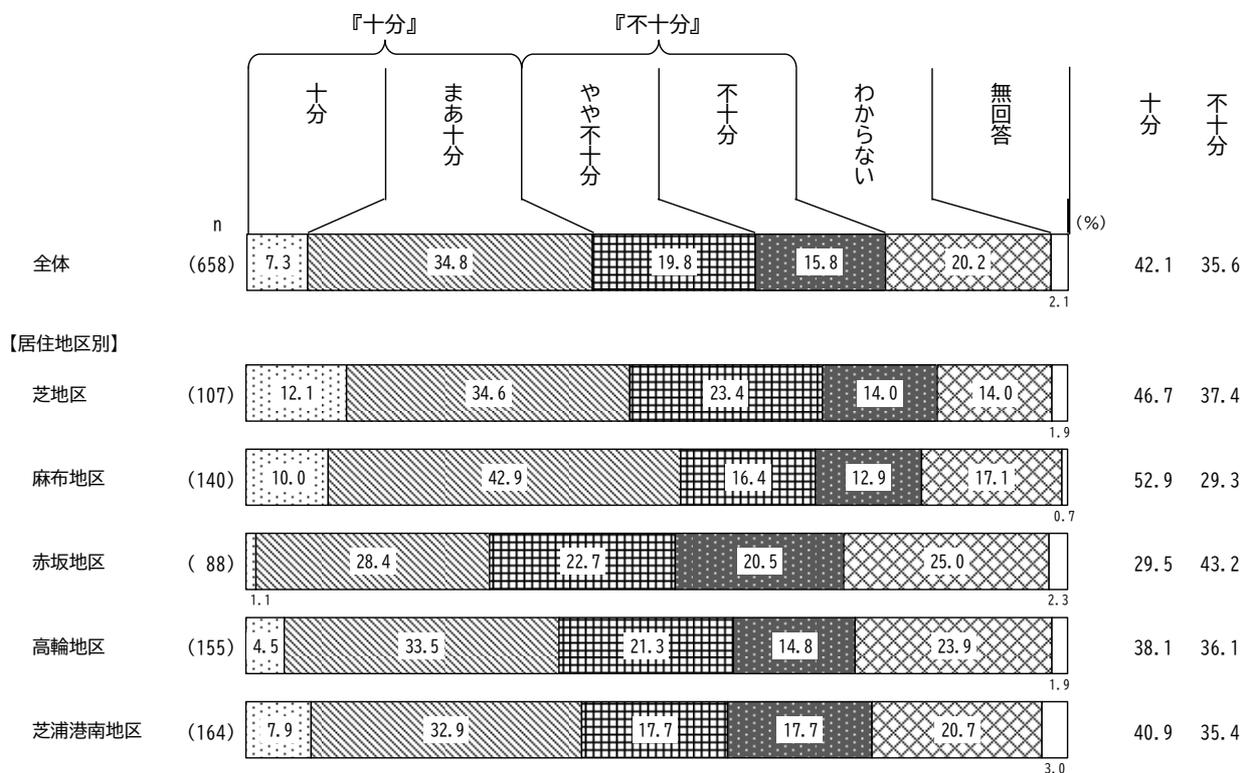
政策(10) 環境に対する意識を高め行動する  
(性・年代別) 図3-3-21



政策(10)を性別で見ると、『十分』は女性(44.5%)が男性(37.5%)より7.0ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(36.3%)が女性(35.3%)より1.0ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(60.0%)で6割となっている。一方、『不十分』は男性60~69歳(43.6%)、女性30~39歳(43.1%)で4割を超えている。(図3-3-21)

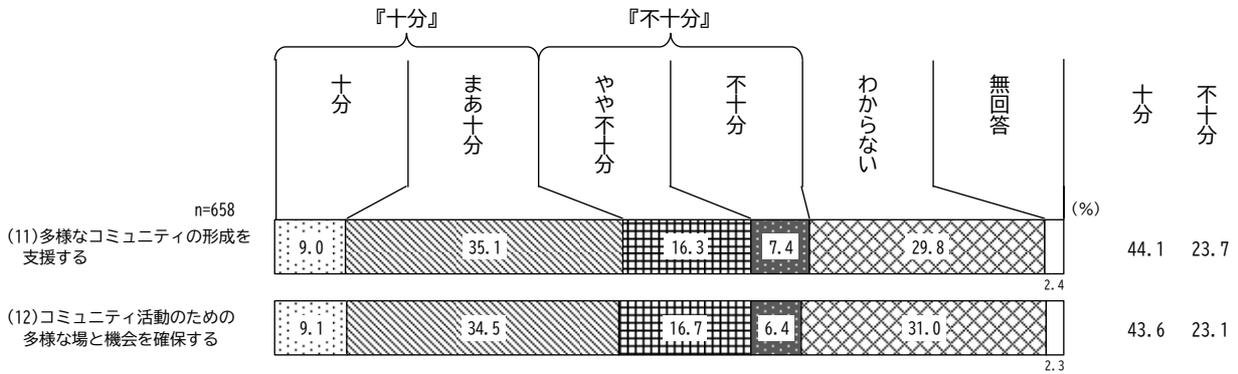
政策(10) 環境に対する意識を高め行動する  
(居住地区別) 図3-3-22



政策(10)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区(52.9%)で5割を超え、芝地区(46.7%)で5割近くとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(43.2%)で4割を超えている。(図3-3-22)

(基本政策3) 地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくる

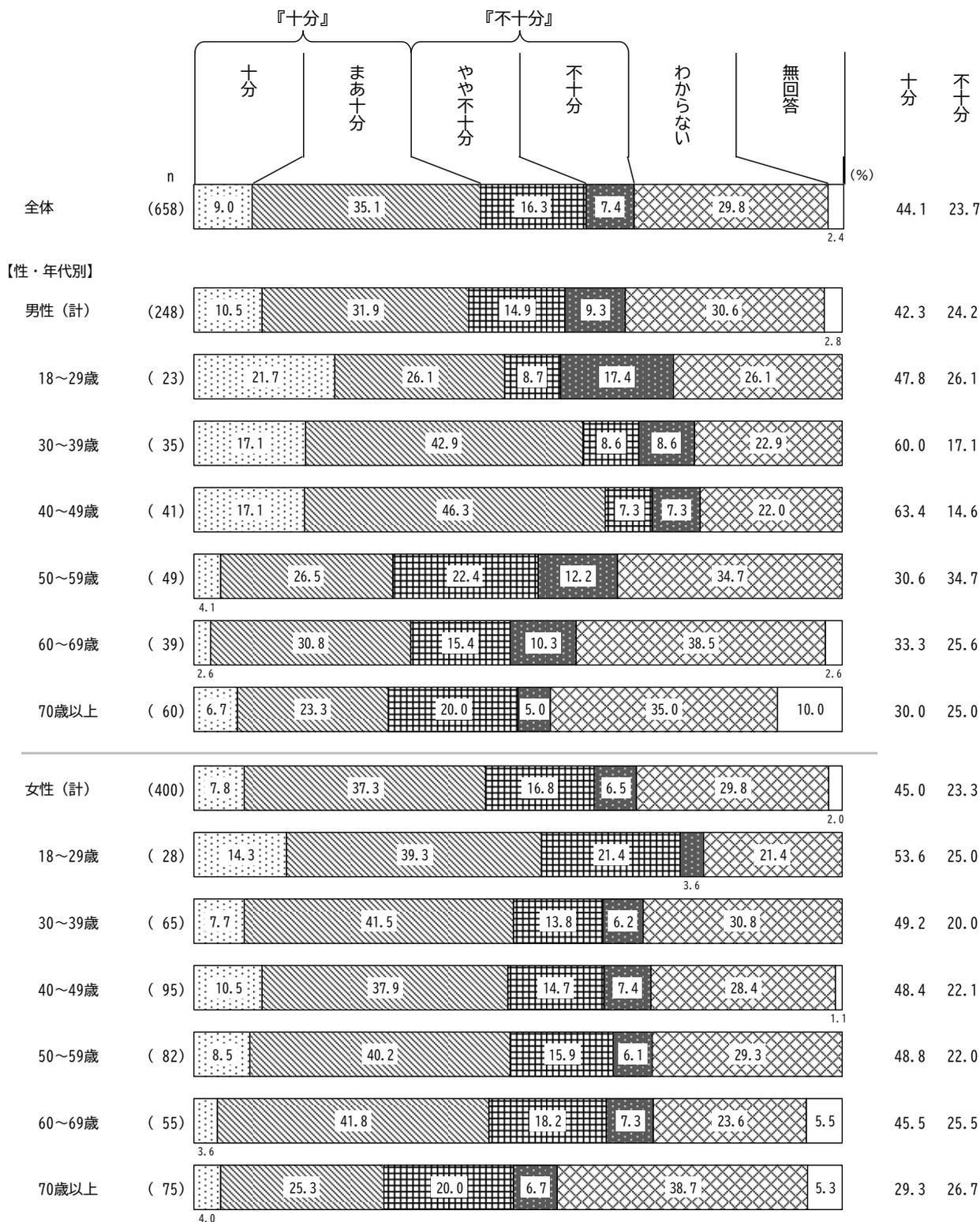
図3-3-23



基本政策3「地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくる」について聞いたところ、「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』と感じる割合が多い政策は、「多様なコミュニティの形成を支援する」(44.1%)で4割半ばとなっている。一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』と感じる割合が多い政策も、「多様なコミュニティの形成を支援する」(23.7%)で2割を超えている。

(図3-3-23)

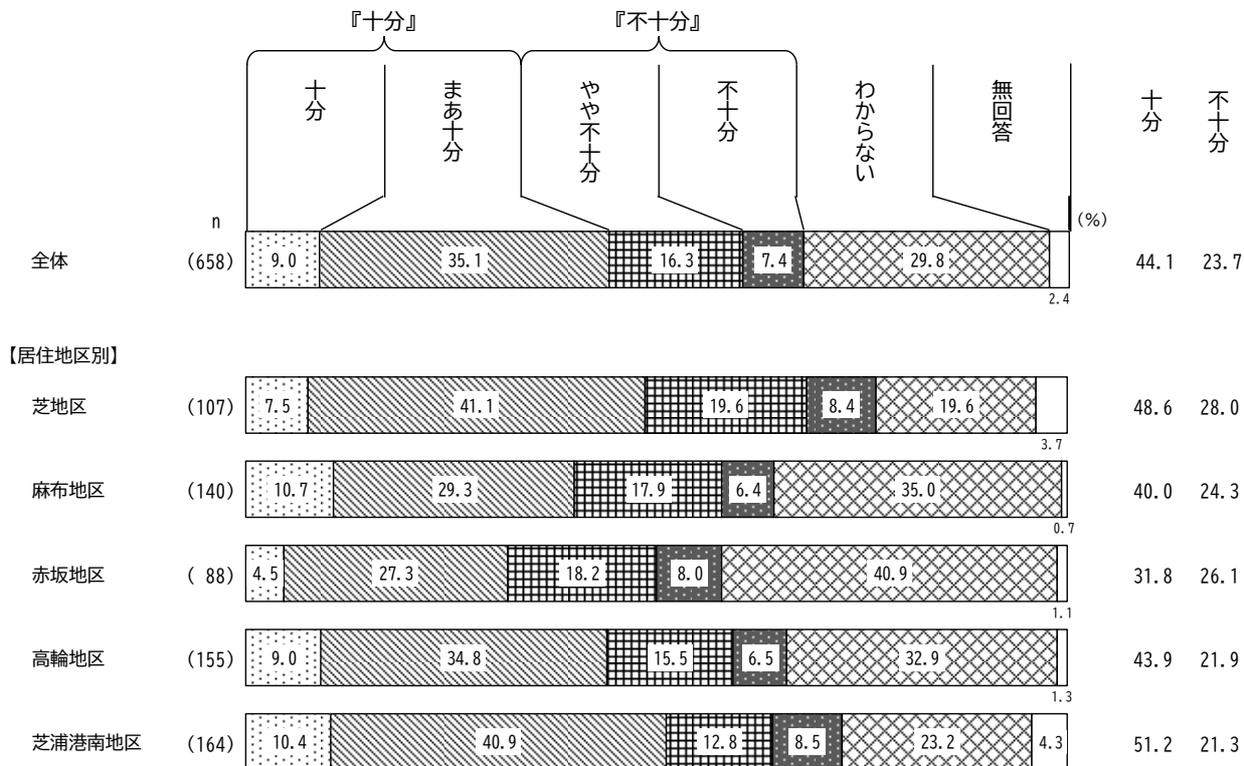
政策(11) 多様なコミュニティの形成を支援する  
(性・年代別) 図3-3-24



政策(11)を性別で見ると、『十分』は女性（45.0%）が男性（42.3%）より 2.7 ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性（24.2%）が女性（23.3%）より 0.9 ポイント多くなっている。

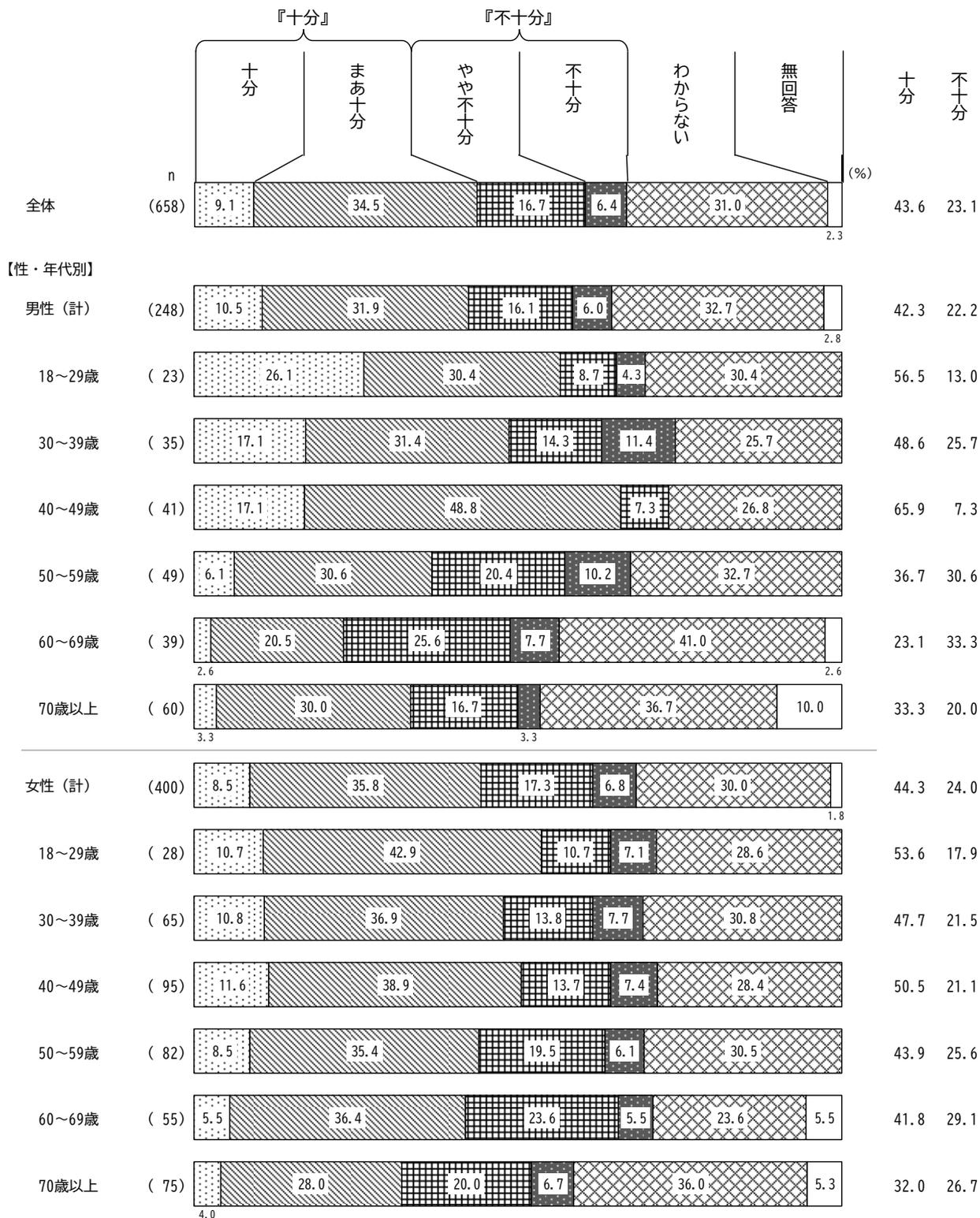
性・年代別で見ると、『十分』は男性 40~49 歳（63.4%）で6割を超える。一方、『不十分』は男性 50~59 歳（34.7%）で3割半ばとなっている。（図3-3-24）

政策(11) 多様なコミュニティの形成を支援する  
(居住地区別) 図3-3-25



政策(11)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(51.2%)で5割を超え、芝地区(48.6%)で5割近くとなっている。一方、『不十分』は芝地区(28.0%)で3割近くとなっている。(図3-3-25)

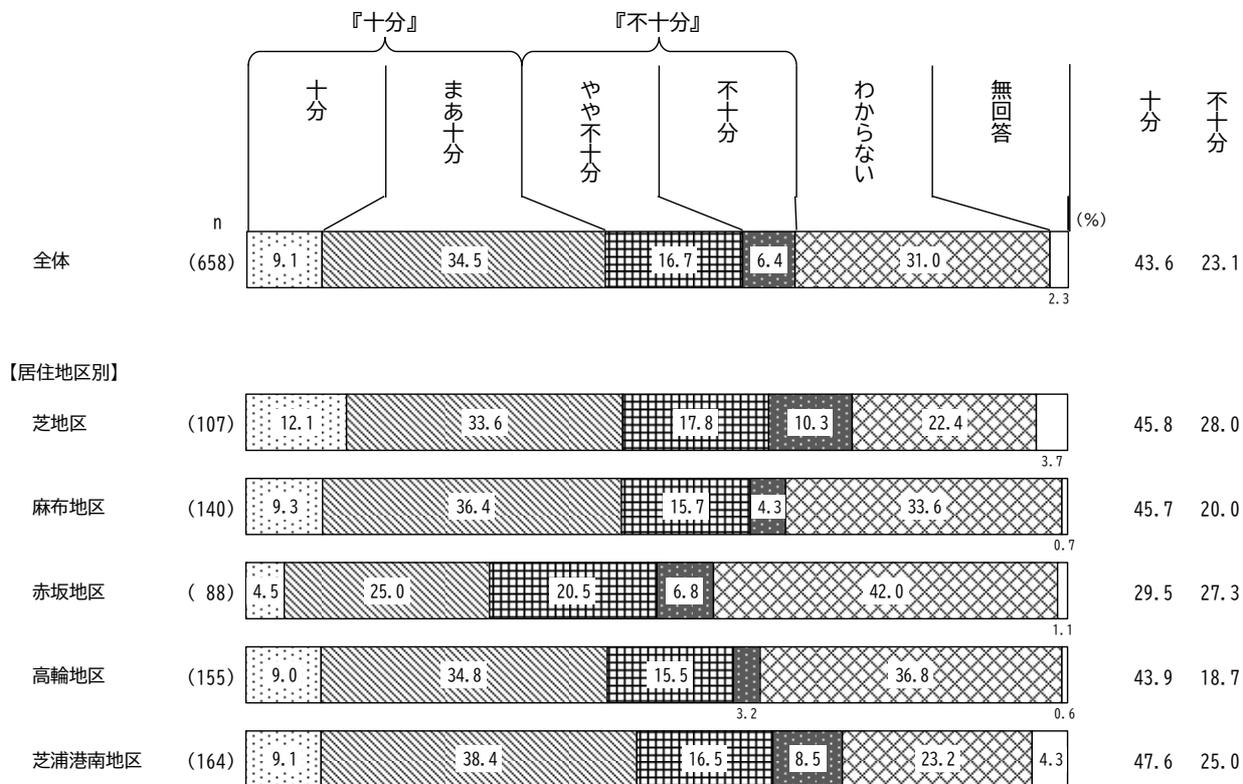
政策(12) コミュニティ活動のための多様な場と機会を確保する  
(性・年代別) 図3-3-26



政策(12)を性別で見ると、『十分』は女性(44.3%)が男性(42.3%)より2.0ポイント多くなっている。一方、『不十分』は女性(24.0%)が男性(22.2%)より1.8ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は男性40~49歳(65.9%)で6割半ばとなっている。一方、『不十分』は男性60~69歳(33.3%)で3割を超えている。(図3-3-26)

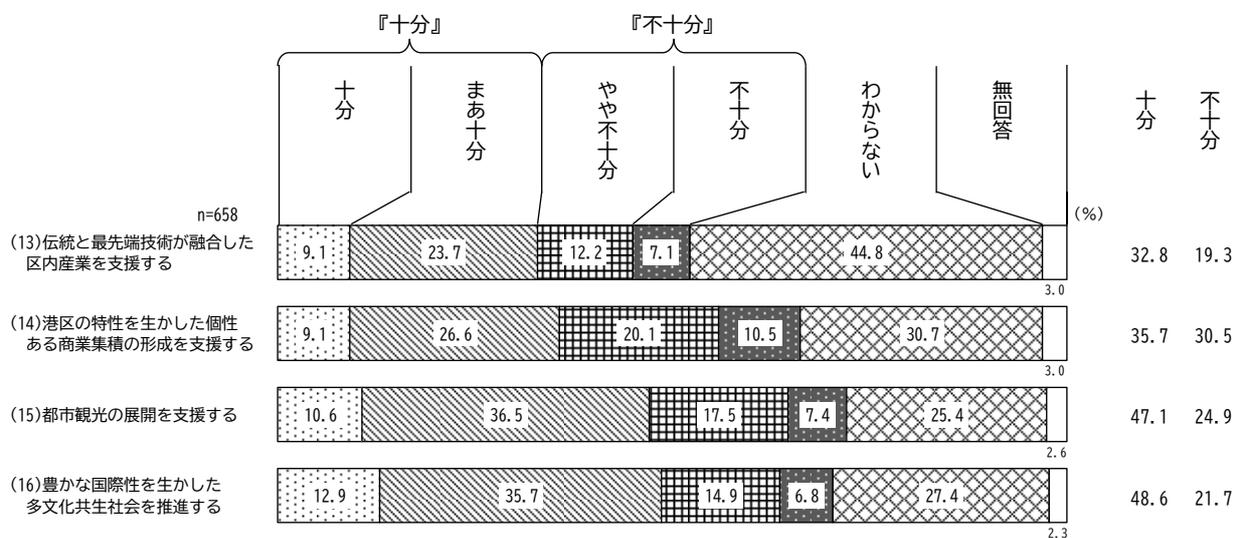
政策(12) コミュニティ活動のための多様な場と機会を確保する  
(居住地区別) 図3-3-27



政策(12)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(47.6%)で5割近く、芝地区(45.8%)で4割半ばとなっている。一方、『不十分』は芝地区(28.0%)で3割近くとなっている。(図3-3-27)

(基本政策4) 港区からブランド性ある産業・文化を発信する

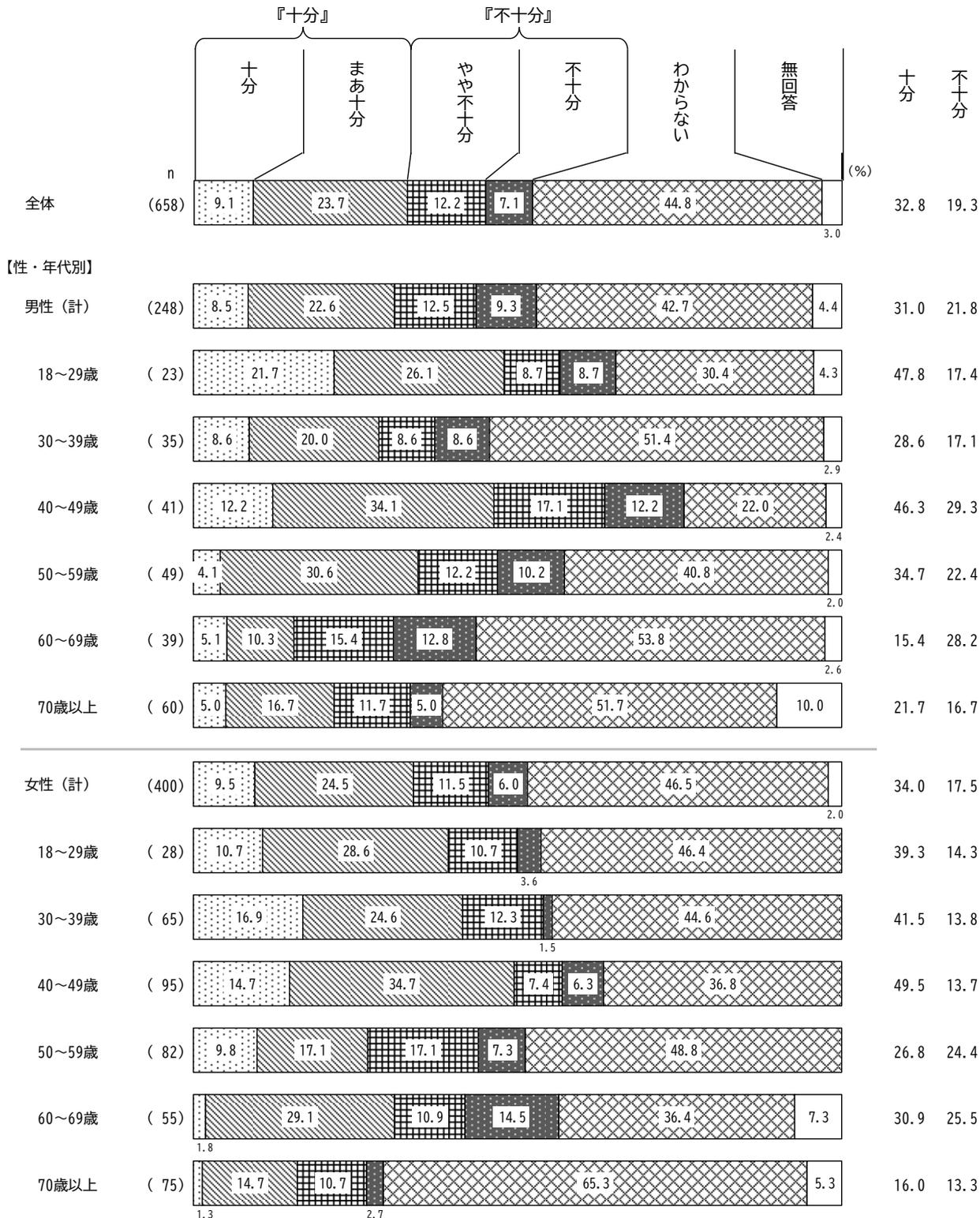
図3-3-28



基本政策4「港区からブランド性ある産業・文化を発信する」について聞いたところ、「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』と感じる割合が多い政策は、「豊かな国際性を生かした多文化共生社会を推進する」(48.6%)、「都市観光の展開を支援する」(47.1%)で5割近くとなっている。

一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』と感じる割合が多い政策は、「港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する」(30.5%)で約3割となっている。(図3-3-28)

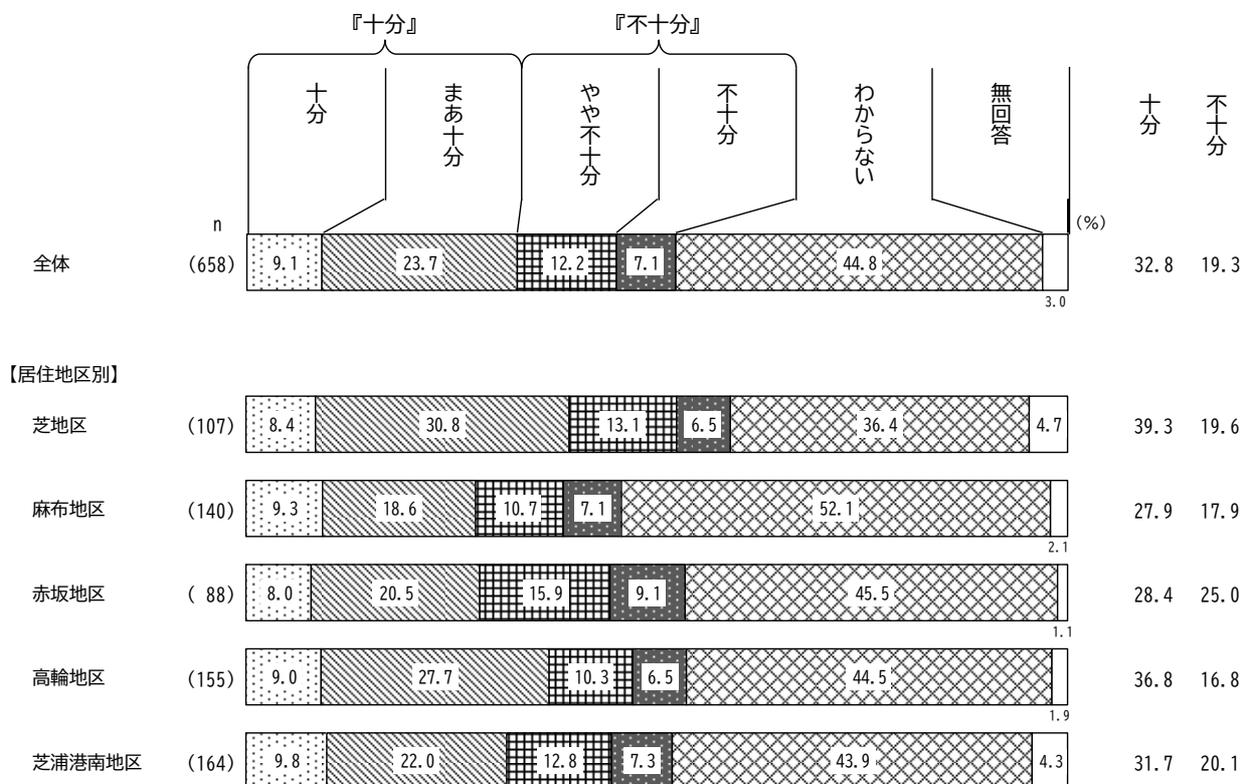
政策(13) 伝統と最先端技術が融合した区内産業を支援する  
(性・年代別) 図3-3-29



政策(13)を性別で見ると、『十分』は女性(34.0%)が男性(31.0%)より3.0ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(21.8%)が女性(17.5%)より4.3ポイント多くなっている。

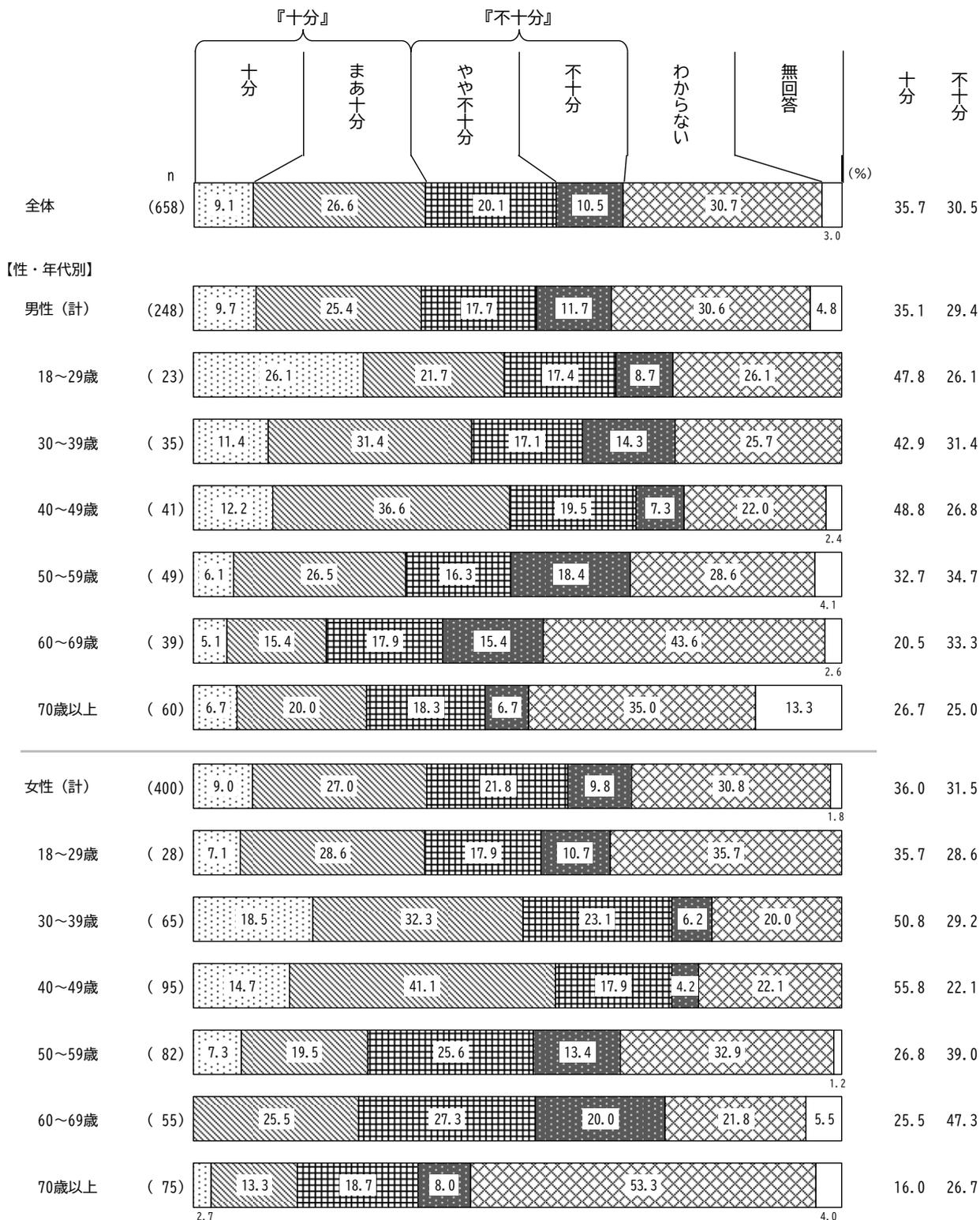
性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(49.5%)で5割となっている。一方、『不十分』は男性40~49歳(29.3%)で約3割となっている。(図3-3-29)

政策(13) 伝統と最先端技術が融合した区内産業を支援する  
(居住地区別) 図3-3-30



政策(13)を居住地区別でみると、『十分』は芝地区(39.3%)で約4割、高輪地区(36.8%)で4割近くとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(25.0%)で2割半ばとなっている。(図3-3-30)

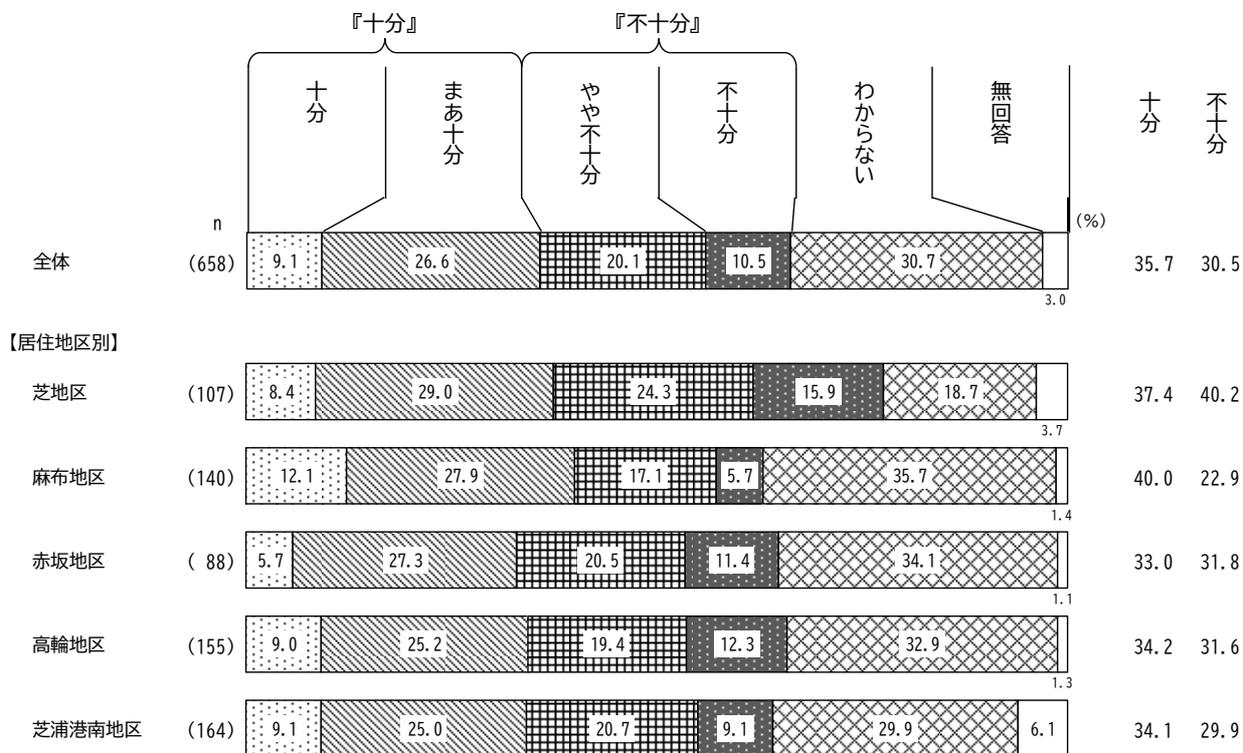
政策(14) 港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する  
(性・年代別) 図3-3-31



政策(14)を性別で見ると、『十分』は女性(36.0%)が男性(35.1%)より0.9ポイント多くなっている。一方、『不十分』は女性(31.5%)が男性(29.4%)より2.1ポイント多くなっている。

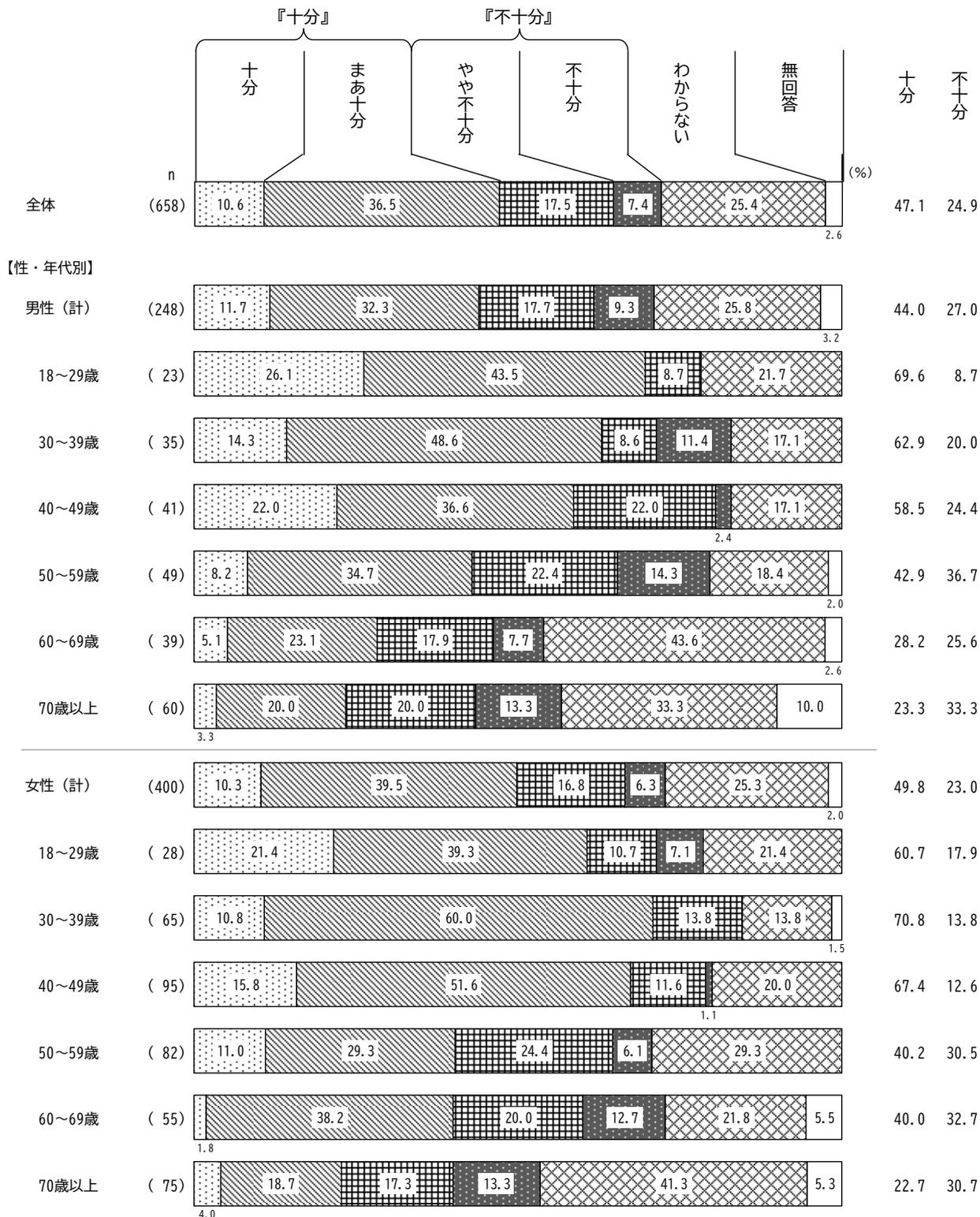
性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(55.8%)で5割半ばとなっている。一方、『不十分』は女性60~69歳(47.3%)で5割近くとなっている。(図3-3-31)

政策(14) 港区の特性を生かした個性ある商業集積の形成を支援する  
(居住地区別) 図3-3-32



政策(14)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区(40.0%)で4割、芝地区(37.4%)で4割近くとなっている。一方、『不十分』は芝地区(40.2%)で4割となっている。(図3-3-32)

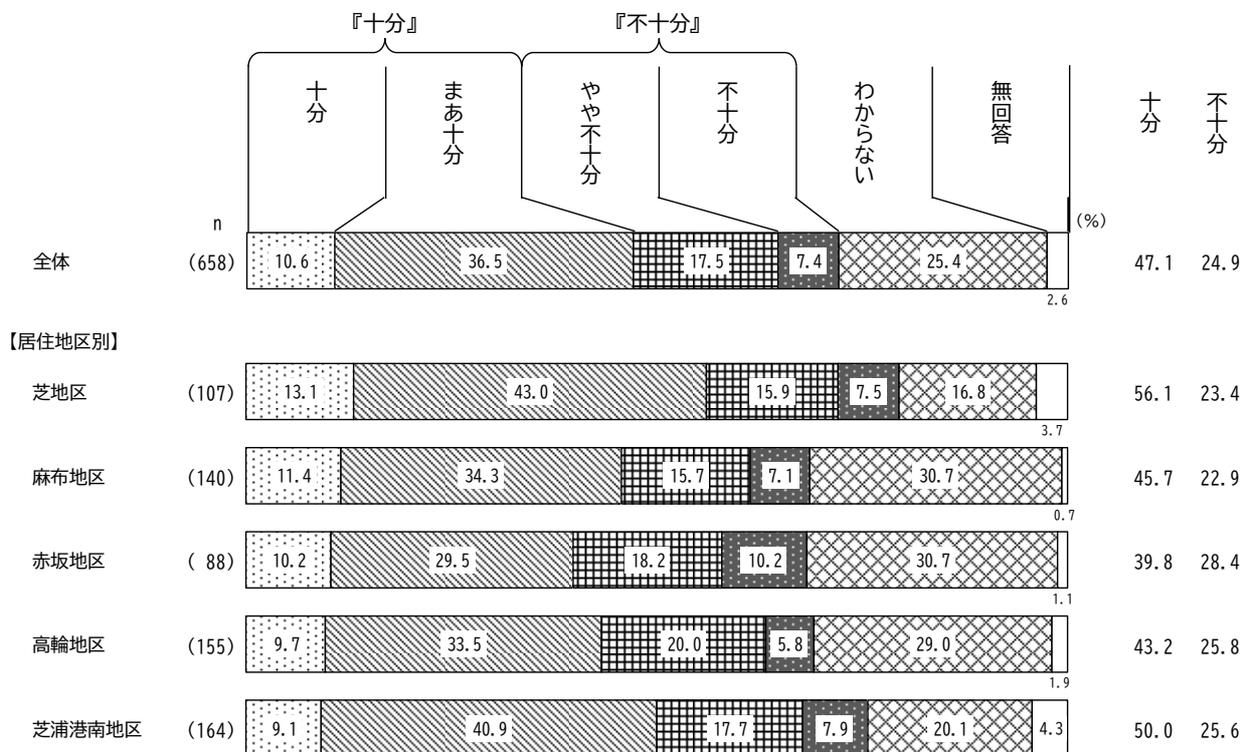
政策(15) 都市観光の展開を支援する  
(性・年代別) 図3-3-33



政策(15)を性別で見ると、『十分』は女性(49.8%)が男性(44.0%)より5.8ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(27.0%)が女性(23.0%)より4.0ポイント多くなっている。

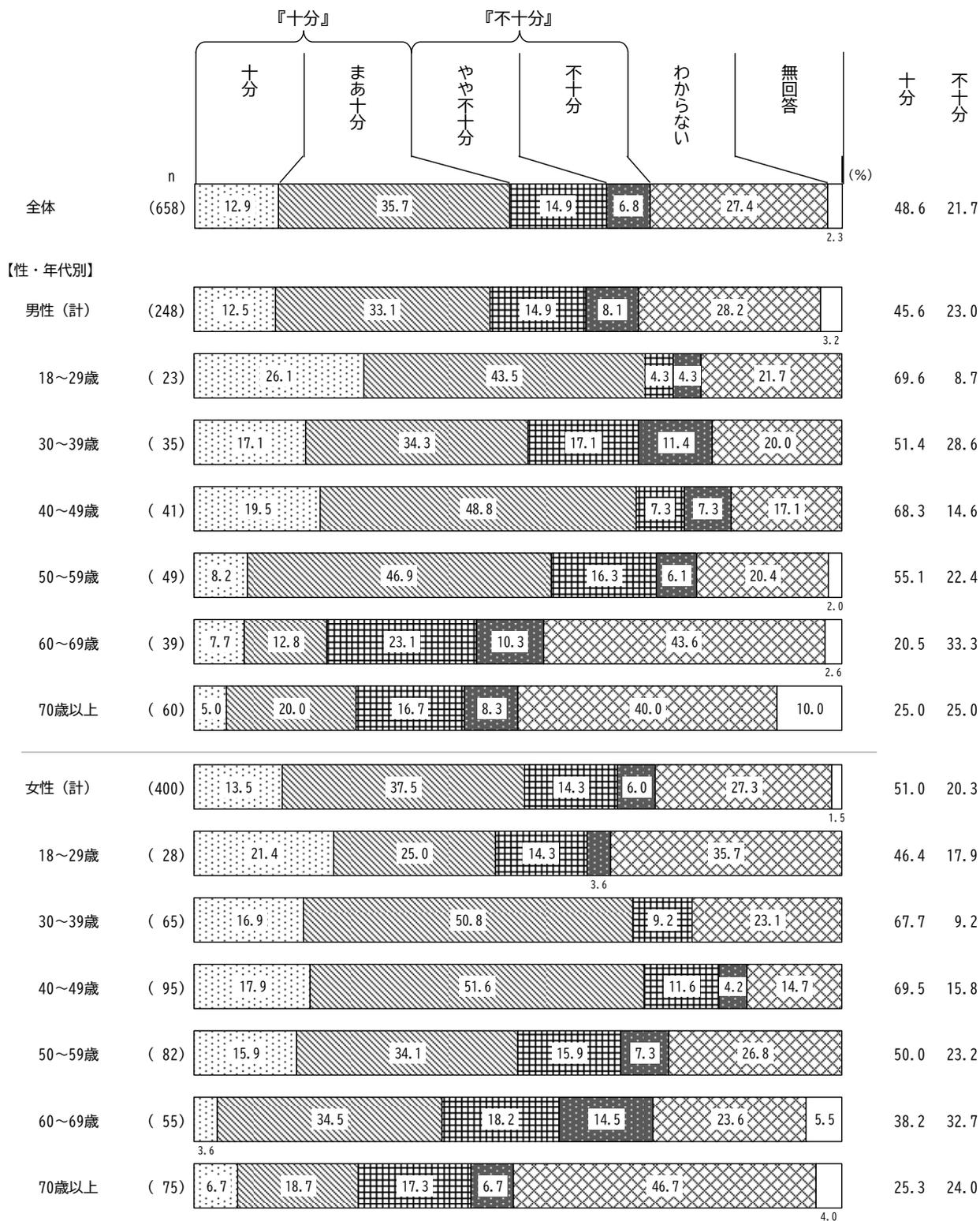
性・年代別で見ると、『十分』は女性30~39歳(70.8%)で約7割となっている。一方、『不十分』は男性50~59歳(36.7%)で4割近くとなっている。(図3-3-33)

政策(15) 都市観光の展開を支援する  
(居住地区別) 図3-3-34



政策(15)を居住地区別で見ると、『十分』は芝地区(56.1%)で5割半ば、芝浦港南地区(50.0%)で5割となっている。一方、『不十分』は赤坂地区(28.4%)で3割近くとなっている。(図3-3-34)

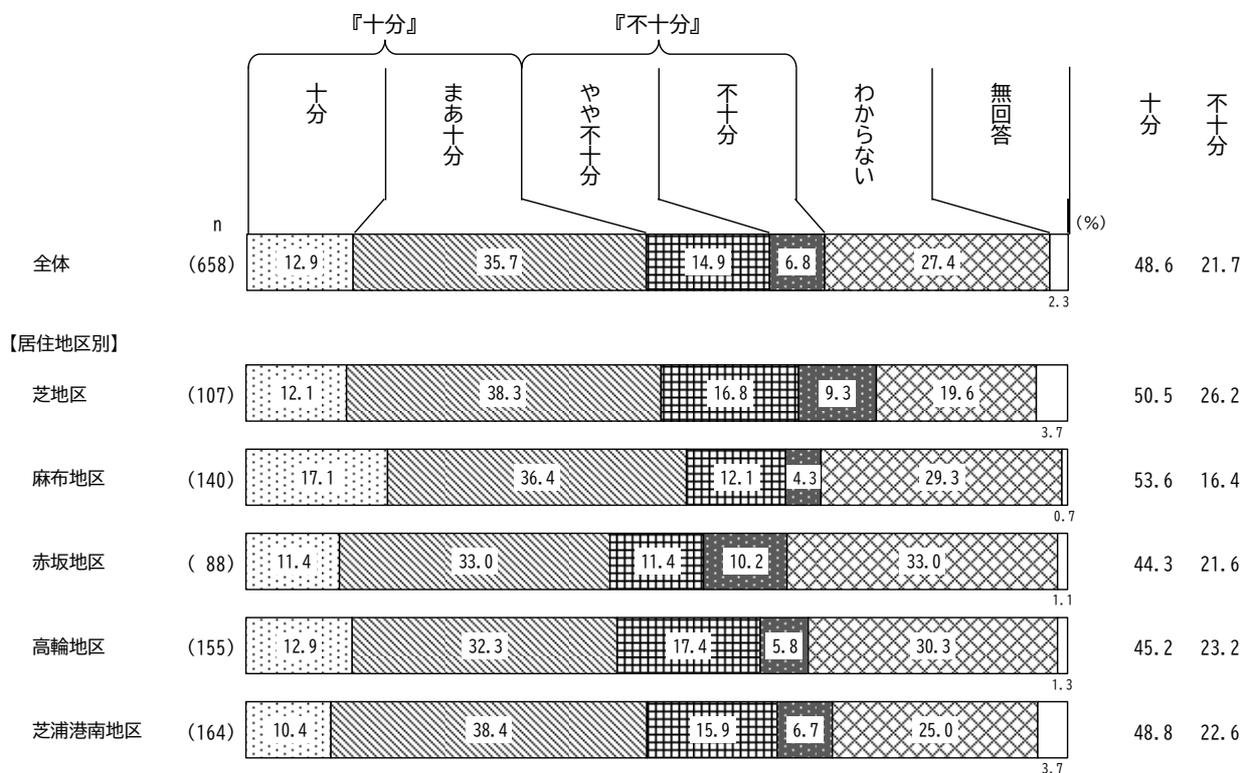
政策(16) 豊かな国際性を生かした多文化共生社会を推進する  
(性・年代別) 図3-3-35



政策(16)を性別で見ると、『十分』は女性(51.0%)が男性(45.6%)より5.4ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(23.0%)が女性(20.3%)より2.7ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は男性18~29歳(69.6%)で7割となっている。一方、『不十分』は男性60~69歳(33.3%)で3割を超えている。(図3-3-35)

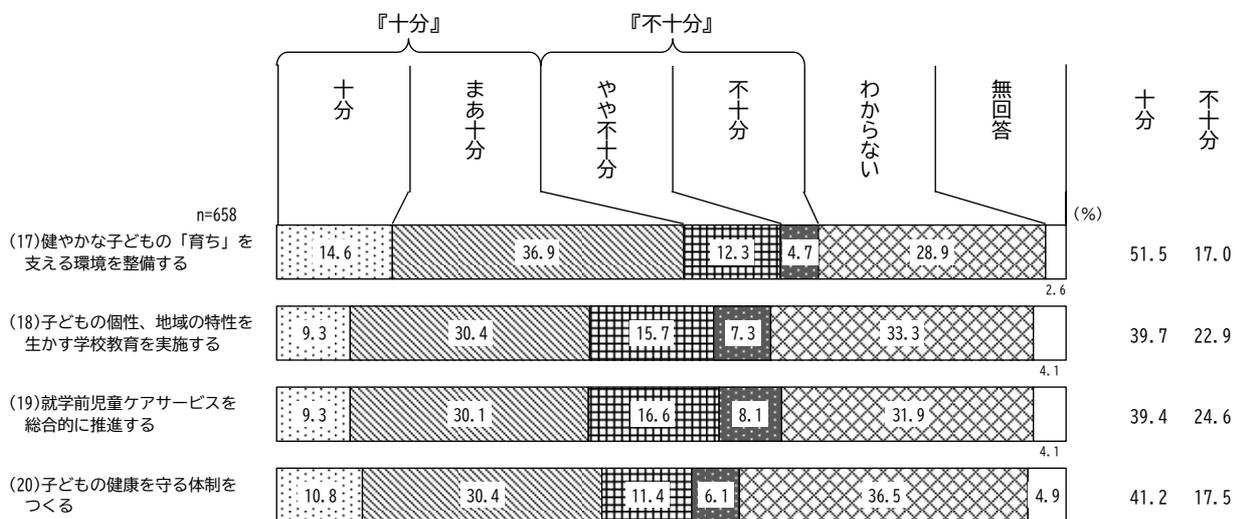
政策(16) 豊かな国際性を生かした多文化共生社会を推進する  
(居住地区別) 図3-3-36



政策(16)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区(53.6%)で5割を超え、芝地区(50.5%)で約5割となっている。一方、『不十分』は芝地区(26.2%)で2割半ばとなっている。(図3-3-36)

(基本政策5) 明日の港区を支える子どもたちを育む

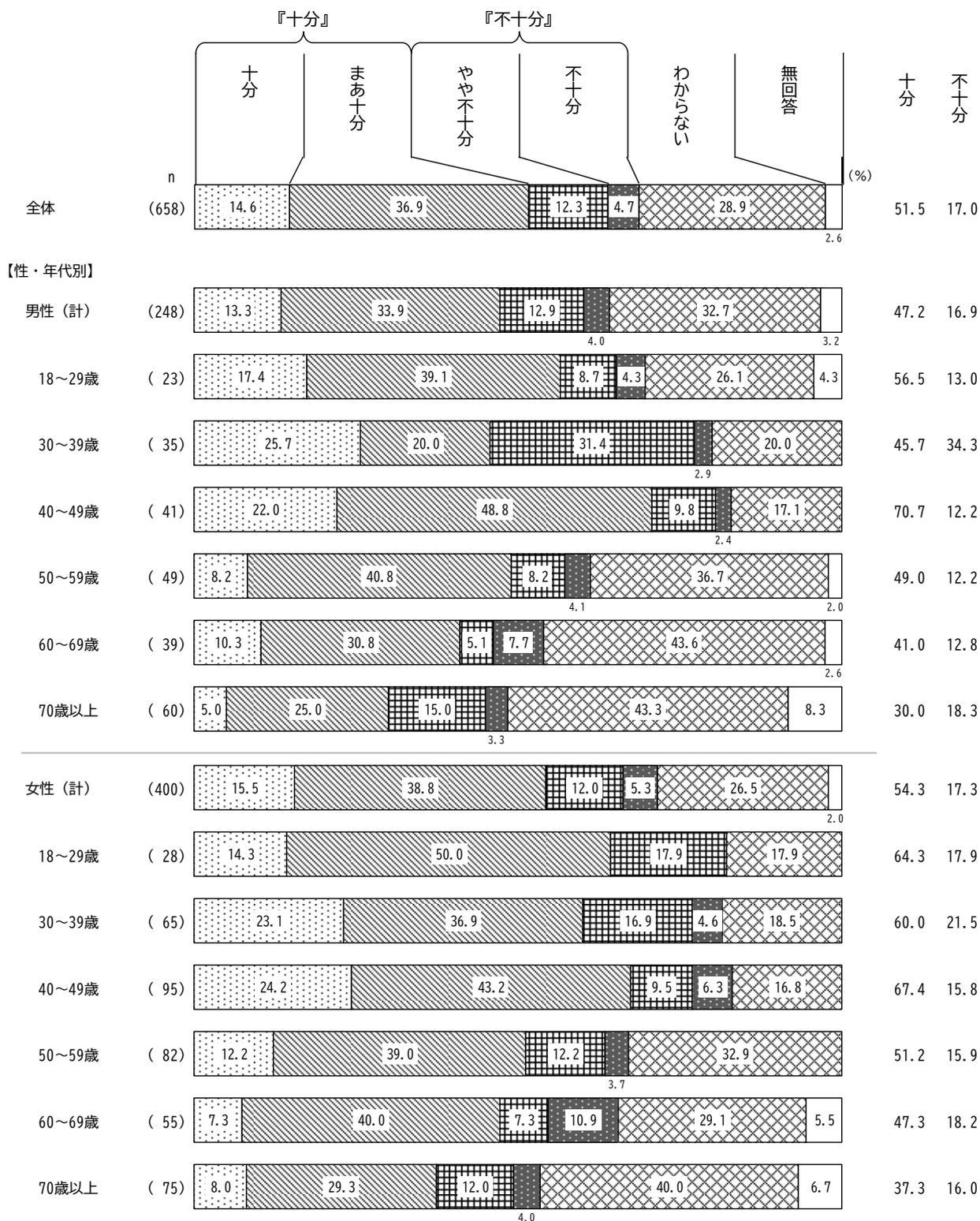
図3-3-37



基本政策5「明日の港区を支える子どもたちを育む」について聞いたところ、「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』と感じる割合が多い政策は、「健やかな子どもの「育ち」を支える環境を整備する」(51.5%)で5割を超え、「子どもの健康を守る体制をつくる」(41.2%)で4割を超えている。

一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』と感じる割合が多い政策は、「就学前児童ケアサービスを総合的に推進する」(24.6%)で2割半ばとなっている。(図3-3-37)

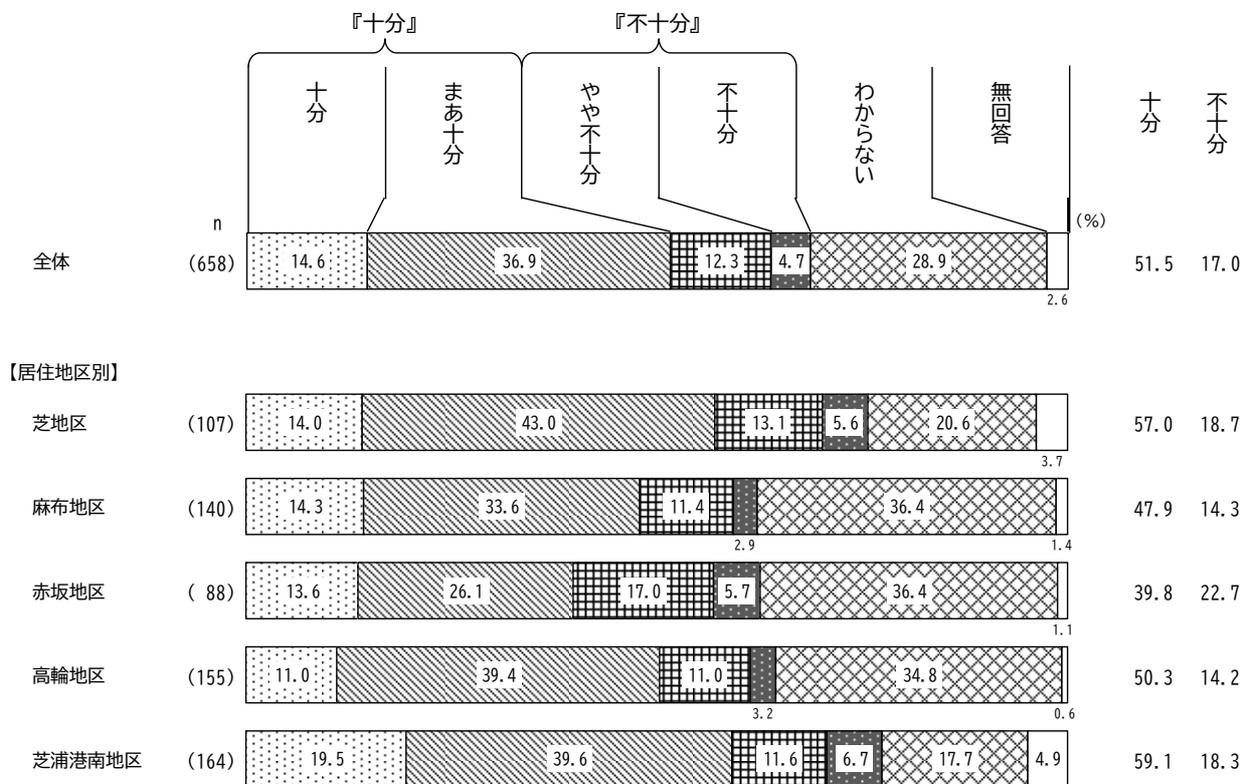
政策(17) 健やかな子どもの「育ち」を支える環境を整備する  
(性・年代別) 図3-3-38



政策(17)を性別で見ると、『十分』は女性(54.3%)が男性(47.2%)より7.1ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男女間で大きな違いは見られなくなっている。

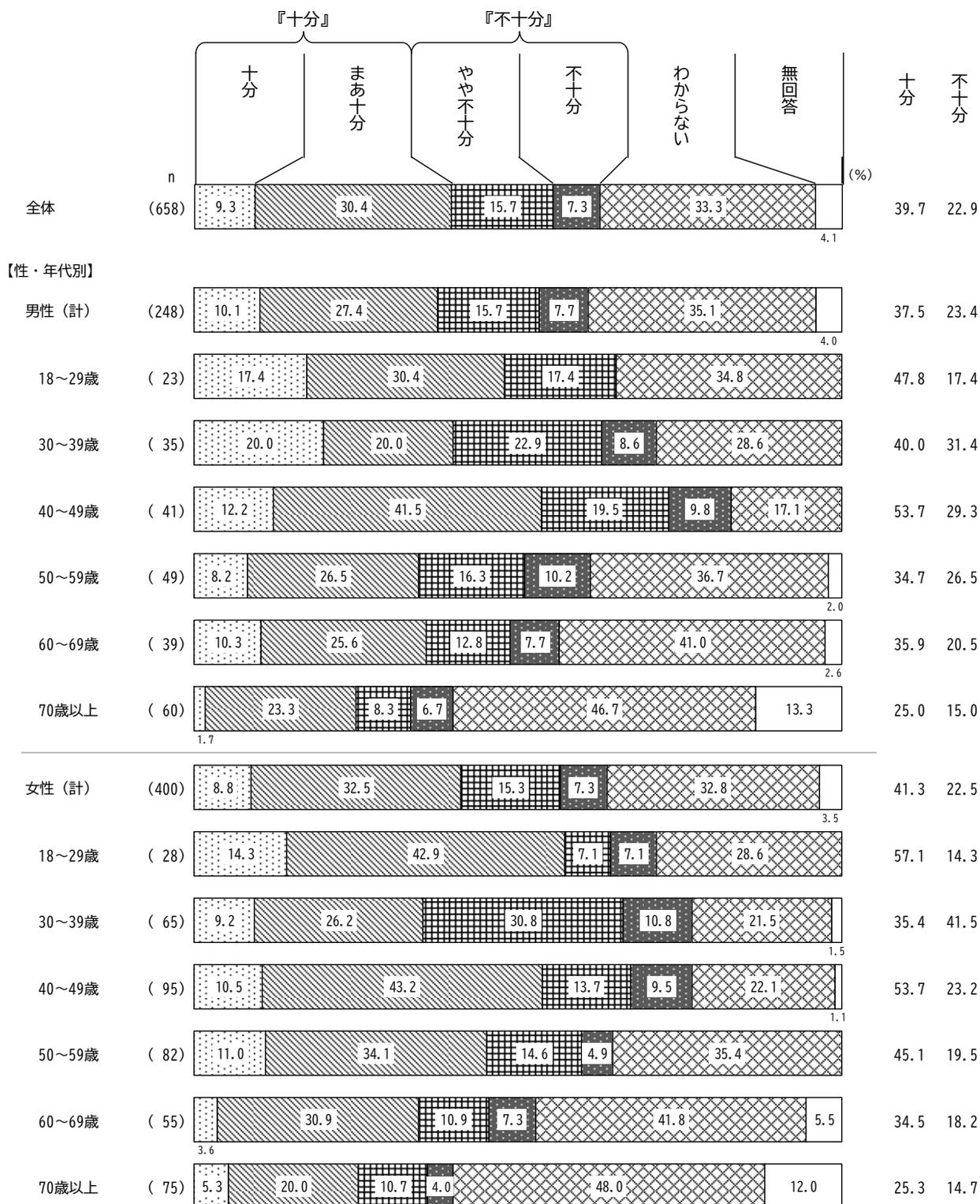
性・年代別で見ると、『十分』は男性40~49歳(70.7%)で約7割となっている。一方、『不十分』は男性30~39歳(34.3%)で3割半ばとなっている。(図3-3-38)

政策(17) 健やかな子どもの「育ち」を支える環境を整備する  
(居住地区別) 図3-3-39



政策(17)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区、芝浦港南地区(59.1%)で約6割、芝地区(57.0%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(22.7%)で2割を超えている。(図3-3-39)

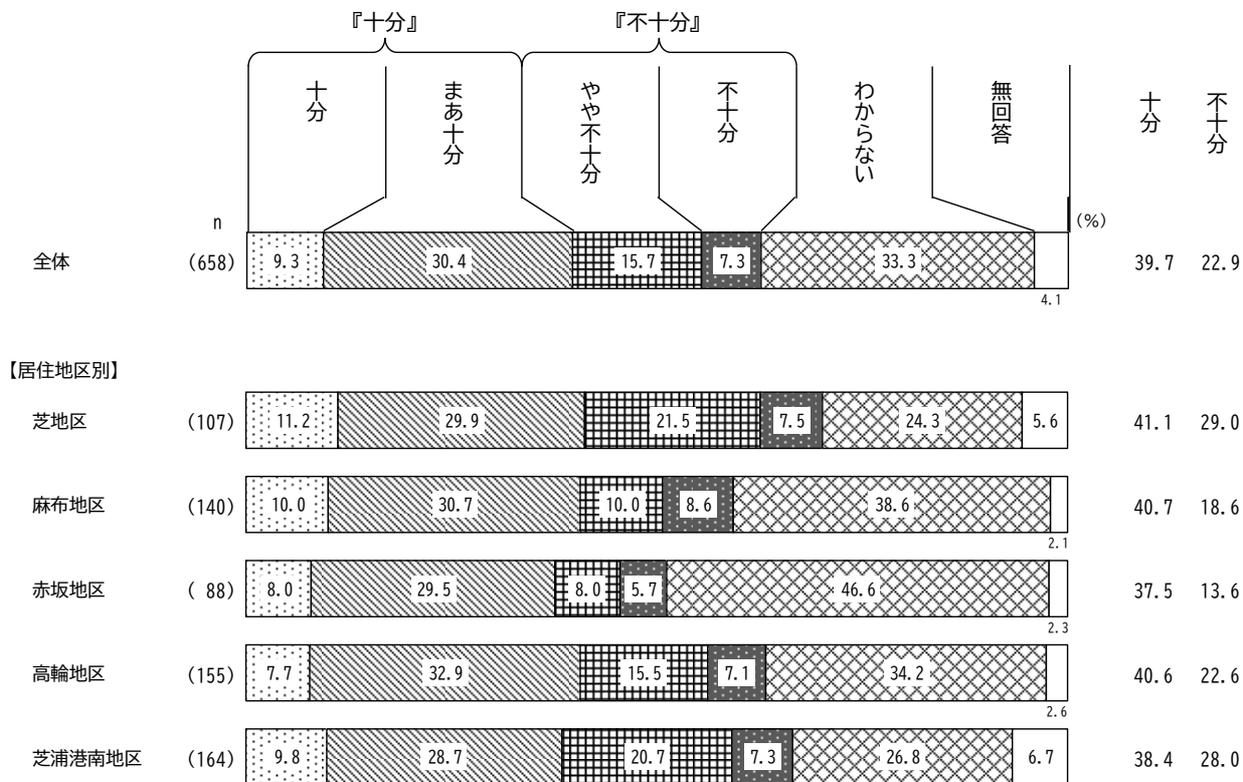
政策(18) 子どもの個性、地域の特性を生かす学校教育を実施する  
(性・年代別) 図3-3-40



政策(18)を性別で見ると、『十分』は女性(41.3%)が男性(37.5%)より3.8ポイント多くなっている。一方、『不十分』は男性(23.4%)が女性(22.5%)より0.9ポイント多くなっている。

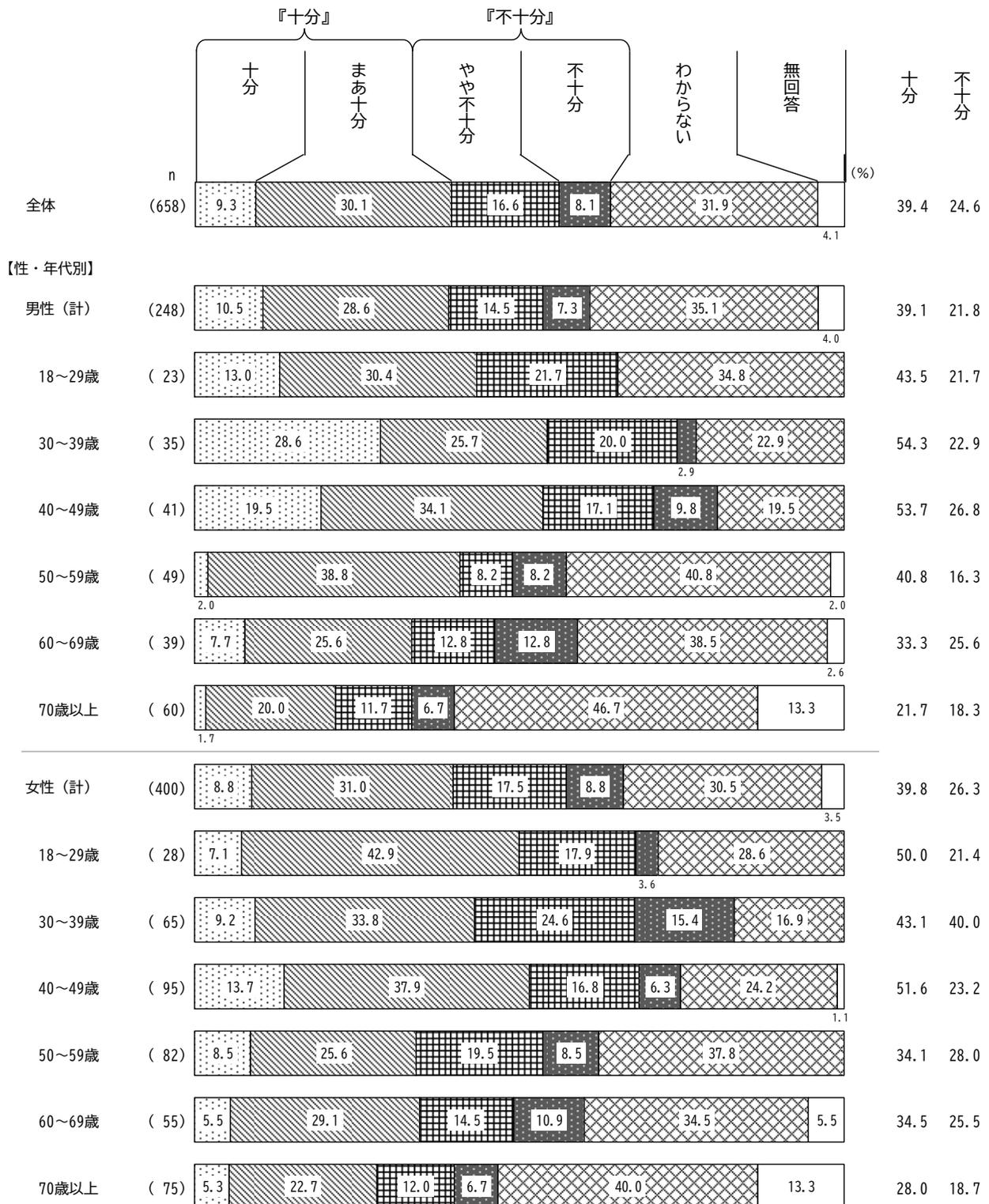
性・年代別で見ると、『十分』は女性18~29歳(57.1%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は女性30~39歳(41.5%)で4割を超えている。(図3-3-40)

政策(18) 子どもの個性、地域の特性を生かす学校教育を実施する  
(居住地区別) 図3-3-41



政策(18)を居住地区別でみると、『十分』は芝地区(41.1%)で4割を超え、麻布地区(40.7%)で約4割となっている。一方、『不十分』は芝地区(29.0%)で約3割となっている。(図3-3-41)

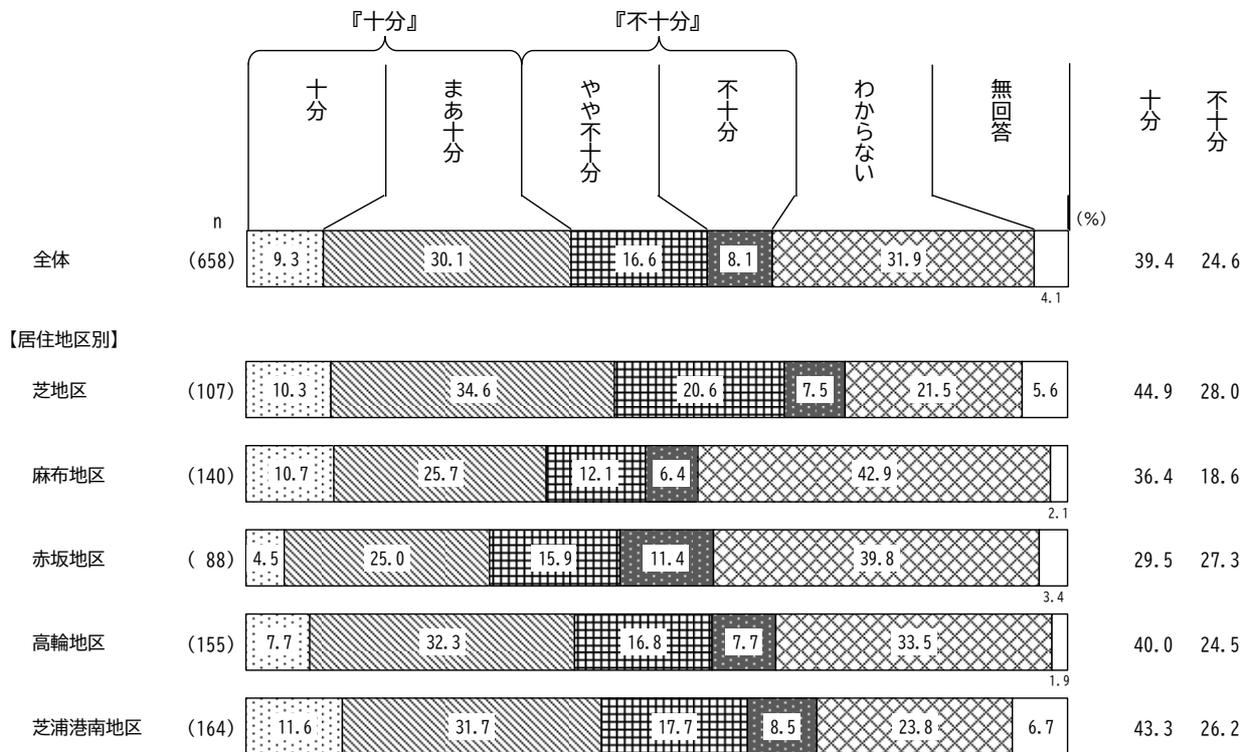
政策(19) 就学前児童ケアサービスを総合的に推進する  
(性・年代別) 図3-3-42



政策(19)を性別で見ると、『十分』は男女間で大きな違いは見られない。一方、『不十分』は女性(26.3%)が男性(21.8%)より4.5ポイント多くなっている。

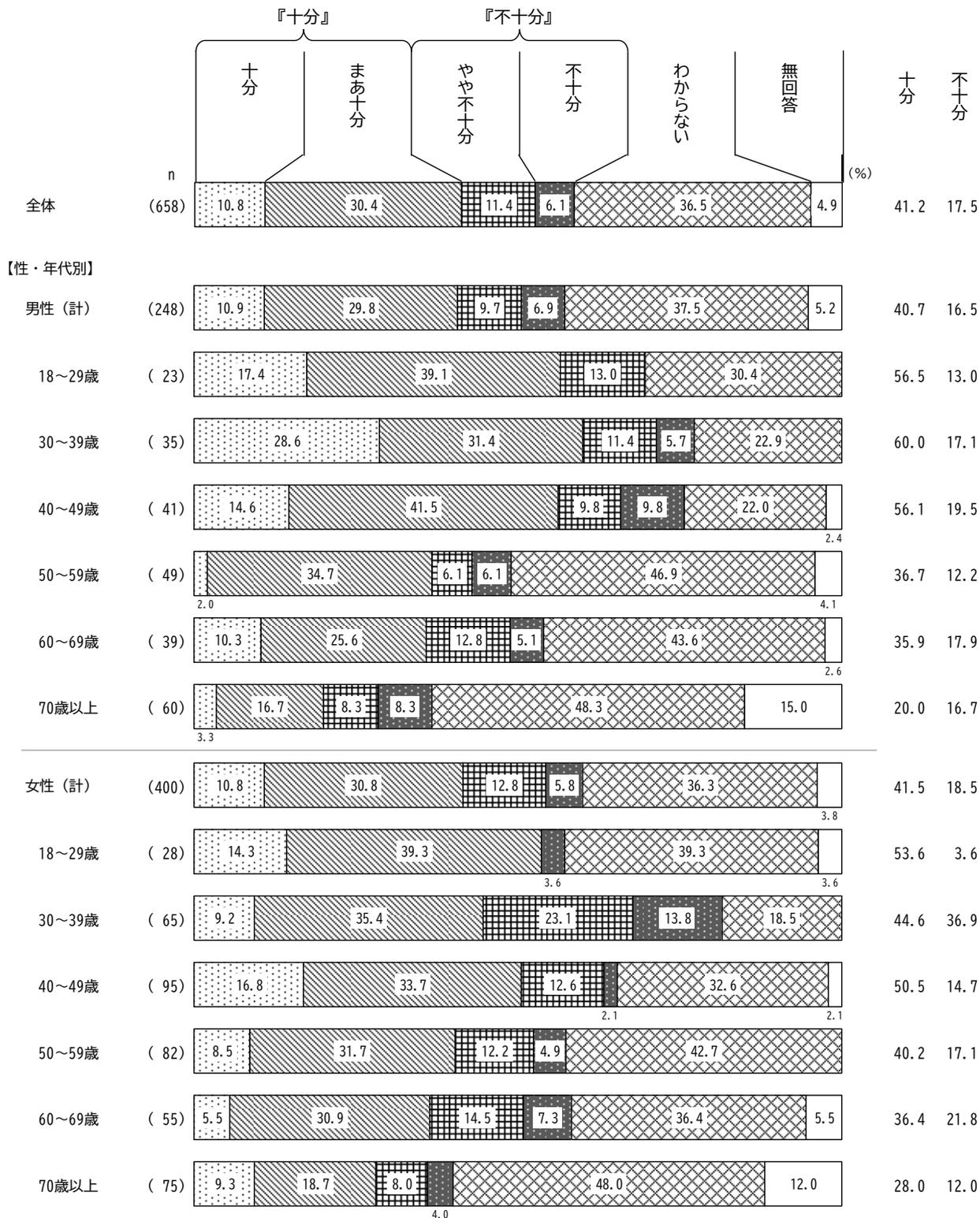
性・年代別で見ると、『十分』は男性30~39歳(54.3%)で5割半ば、女性40~49歳(51.6%)で5割を超えている。一方、『不十分』は女性30~39歳(40.0%)で4割となっている。(図3-3-42)

政策(19) 就学前児童ケアサービスを総合的に推進する  
(居住地区別) 図3-3-43



政策(19)を居住地区で見ると、『十分』は芝地区（44.9%）で4割半ば、芝浦港南地区（43.3%）で4割を超えている。一方、『不十分』は芝地区（28.0%）で3割近くとなっている。（図3-3-43）

政策(20) 子どもの健康を守る体制をつくる  
(性・年代別) 図3-3-44

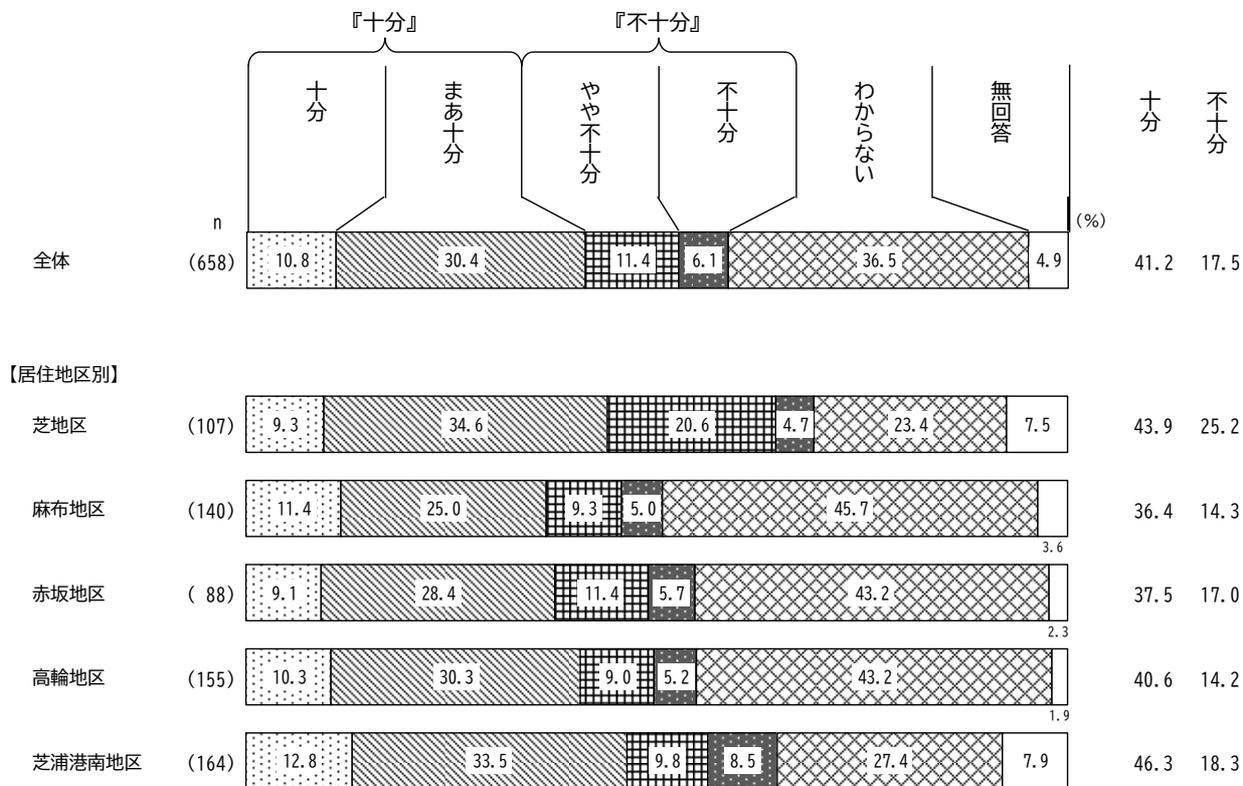


政策(20)を性別で見ると、『十分』は女性(41.5%)が男性(40.7%)より0.8ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は男性30~39歳(60.0%)で6割と最も多く、男性18~29歳(56.5%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は女性30~39歳(36.9%)で4割近くとなっている。

(図3-3-44)

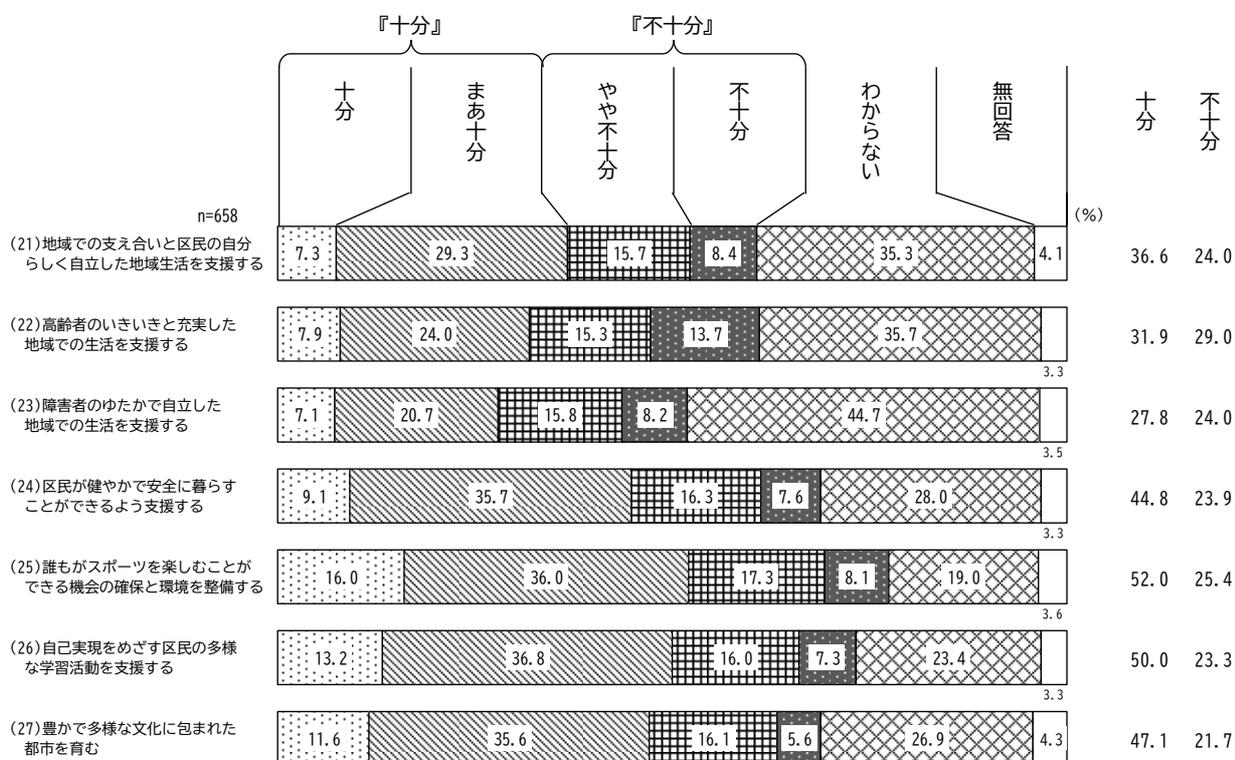
政策(20) 子どもの健康を守る体制をつくる  
(居住地区別) 図3-3-45



政策(20)を居住地区で見ると、『十分』は芝浦港南地区(46.3%)で4割半ば、芝地区(43.9%)で4割を超えている。一方、『不十分』は芝地区(25.2%)で2割半ばとなっている。(図3-3-45)

(基本政策6) 生涯を通じた心ゆたかで健康な都心居住を支援する

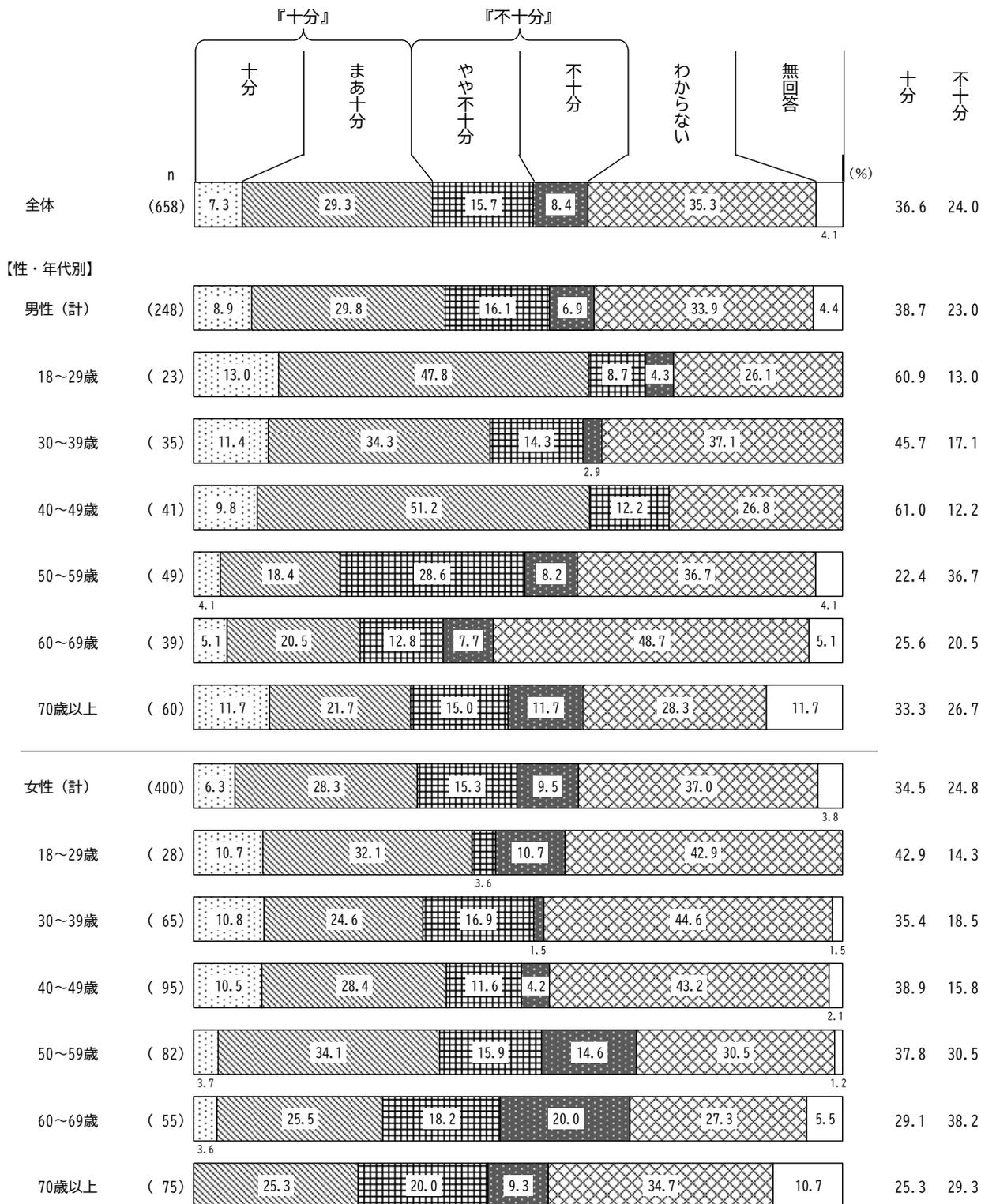
図3-3-46



基本政策6「生涯を通じた心ゆたかで健康な都心居住を支援する」について聞いたところ、「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』と感じる割合が多い政策は、「誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する」(52.0%)で5割を超え、「自己実現をめざす区民の多様な学習活動を支援する」(50.0%)で5割となっている。

一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』と感じる割合が多い政策は、「高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する」(29.0%)で約3割となっている。(図3-3-46)

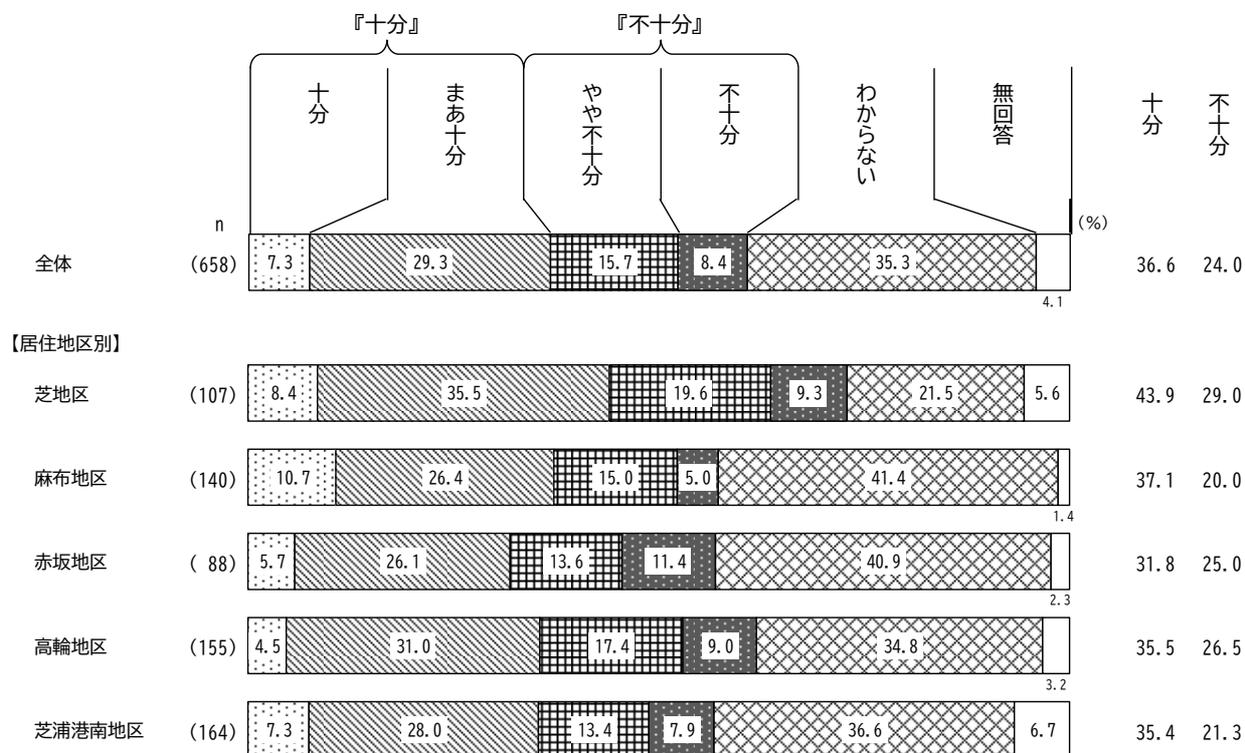
政策(21) 地域での支え合いと区民の自分らしく自立した地域生活を支援する  
(性・年代別) 図3-3-47



政策(21)を性別で見ると、『十分』は男性(38.7%)が女性(34.5%)より4.2ポイント多くなっている。

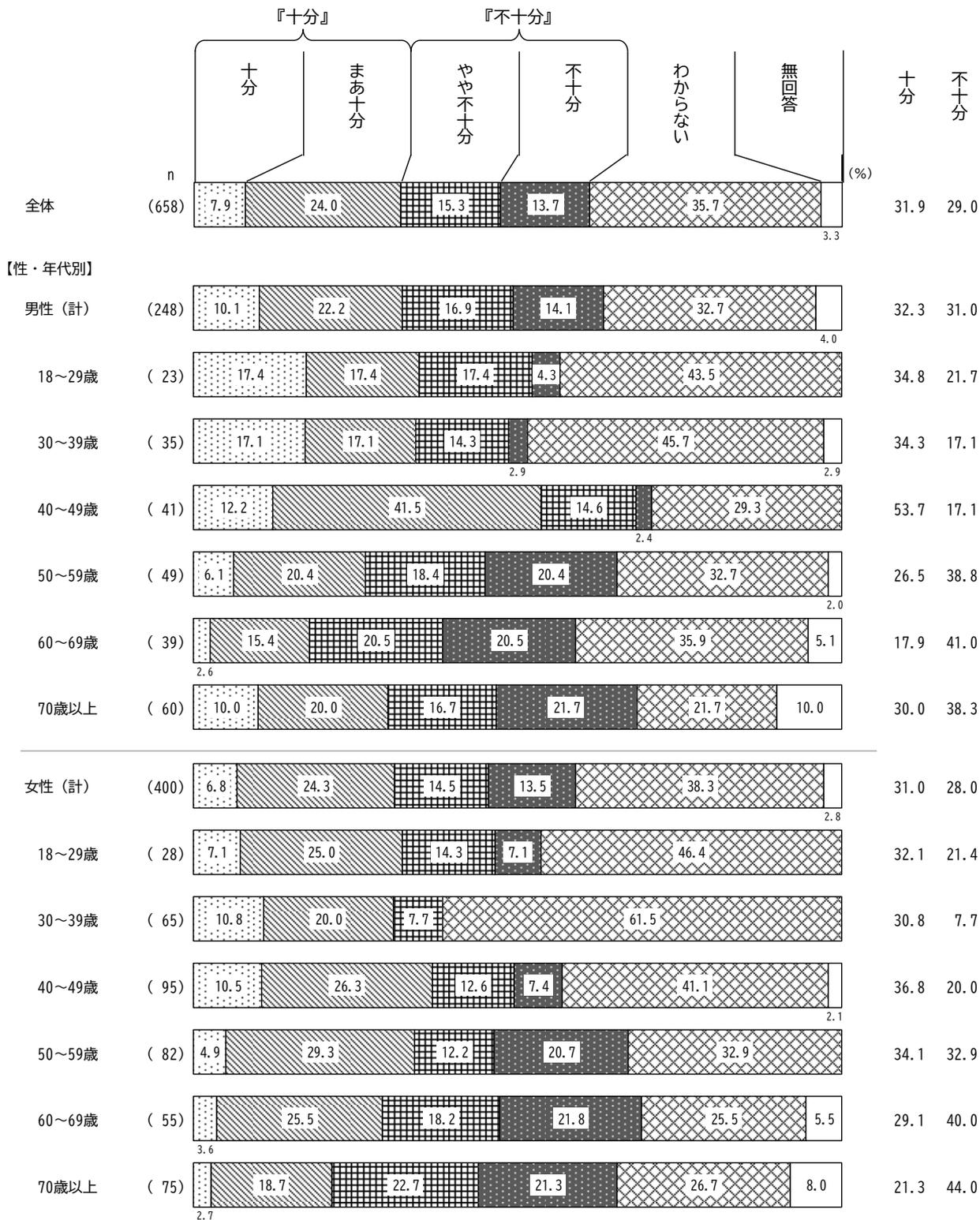
性・年代別で見ると、『十分』は男性40~49歳(61.0%)で6割を超えて最も多く、男性18~29歳(60.9%)で約6割となっている。一方、『不十分』は女性60~69歳(38.2%)で4割近くとなっている。(図3-3-47)

政策(21) 地域での支え合いと区民の自分らしく自立した地域生活を支援する  
(居住地区別) 図3-3-48



政策(21)を居住地区で見ると、『十分』は芝地区（43.9%）で4割を超え、麻布地区（37.1%）で4割近くとなっている。一方『不十分』は芝地区（29.0%）で約3割となっている。（図3-3-48）

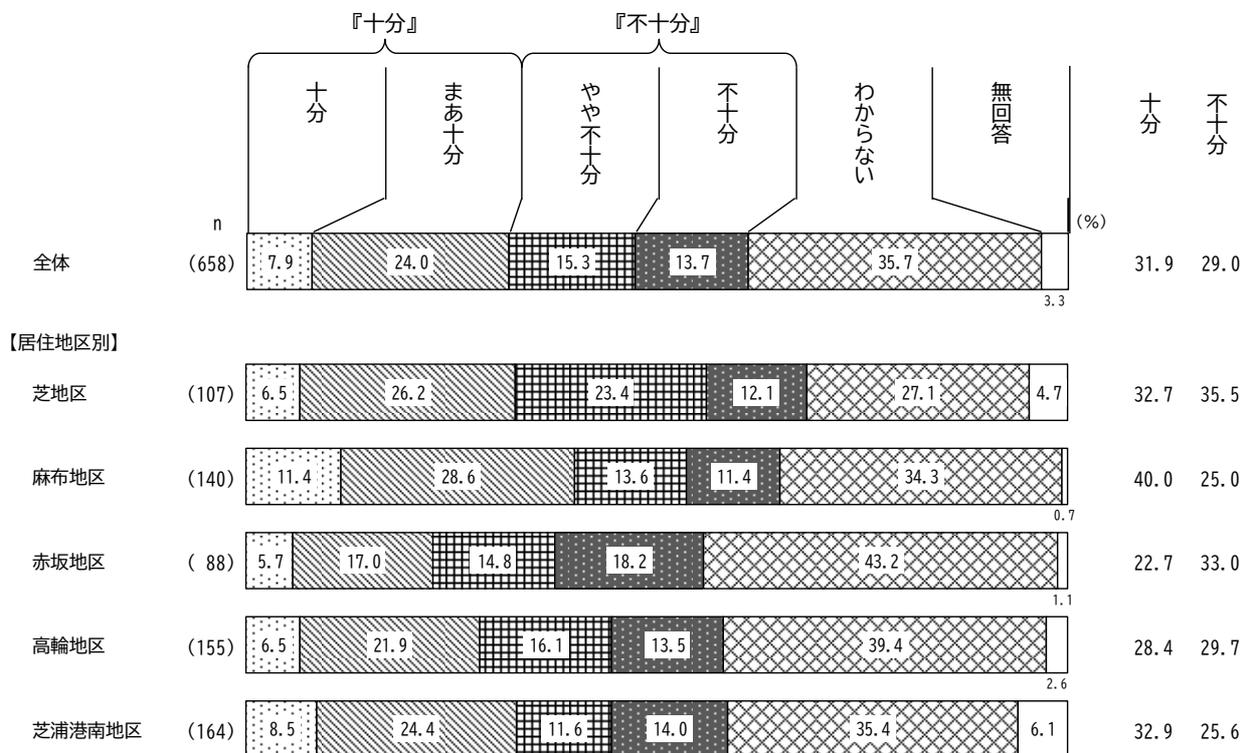
政策(22) 高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する  
(性・年代別) 図3-3-49



政策(22)を性別で見ると、『十分』は男性（32.3%）が女性（31.0%）より 1.3 ポイント多くなっている。

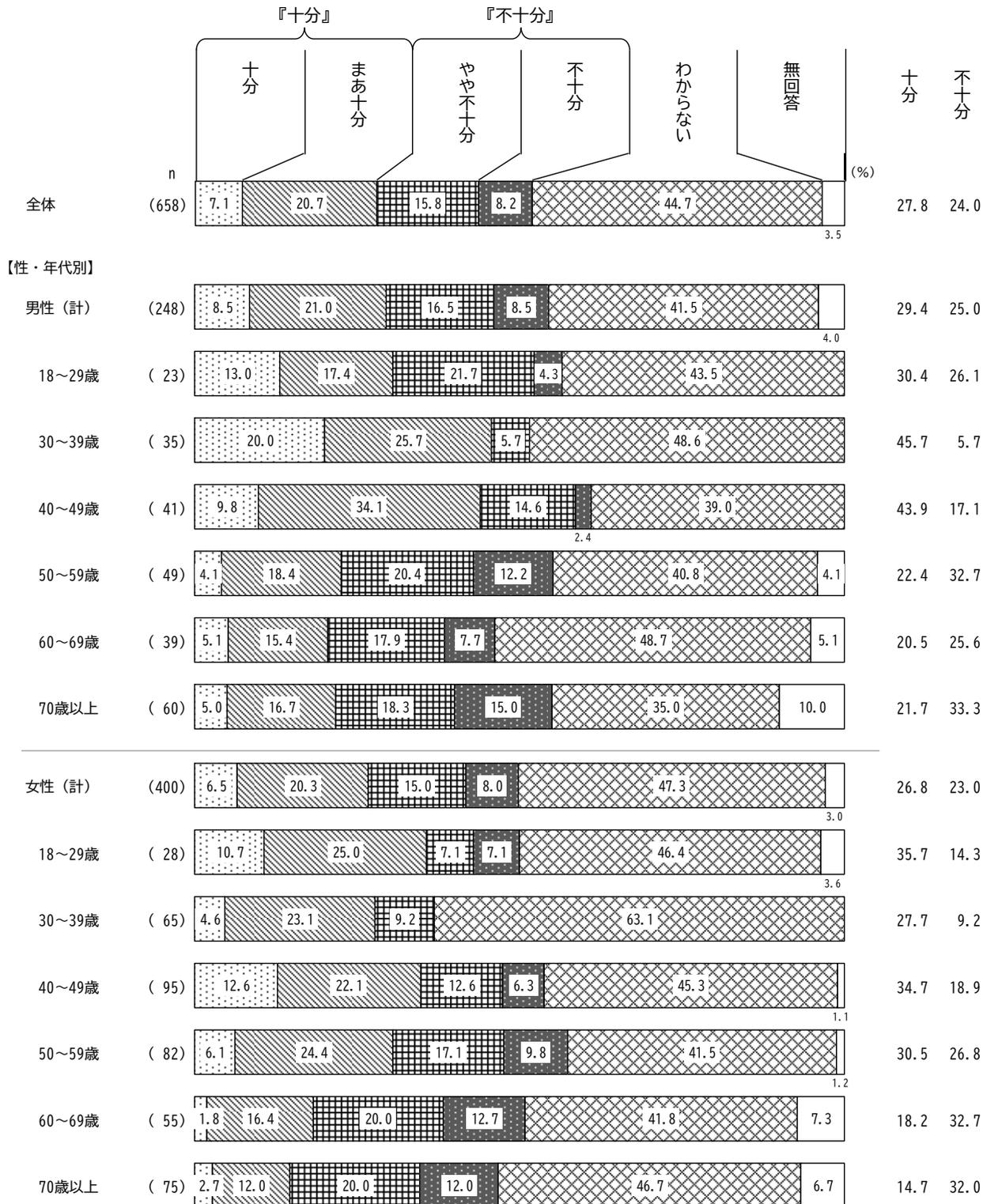
性・年代別で見ると、『十分』は男性 40~49 歳（53.7%）で 5 割を超えて最も多く、女性 40~49 歳（36.8%）で 4 割近くとなっている。一方、『不十分』は女性 70 歳以上（44.0%）で 4 割半ばとなっている。（図3-3-49）

政策(22) 高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する  
(居住地区別) 図3-3-50



政策(22)を居住地区別で見ると、『十分』は麻布地区(40.0%)で4割、芝浦港南地区(32.9%)で3割を超えている。一方、『不十分』は芝地区(35.5%)で3割半ばとなっている。(図3-3-50)

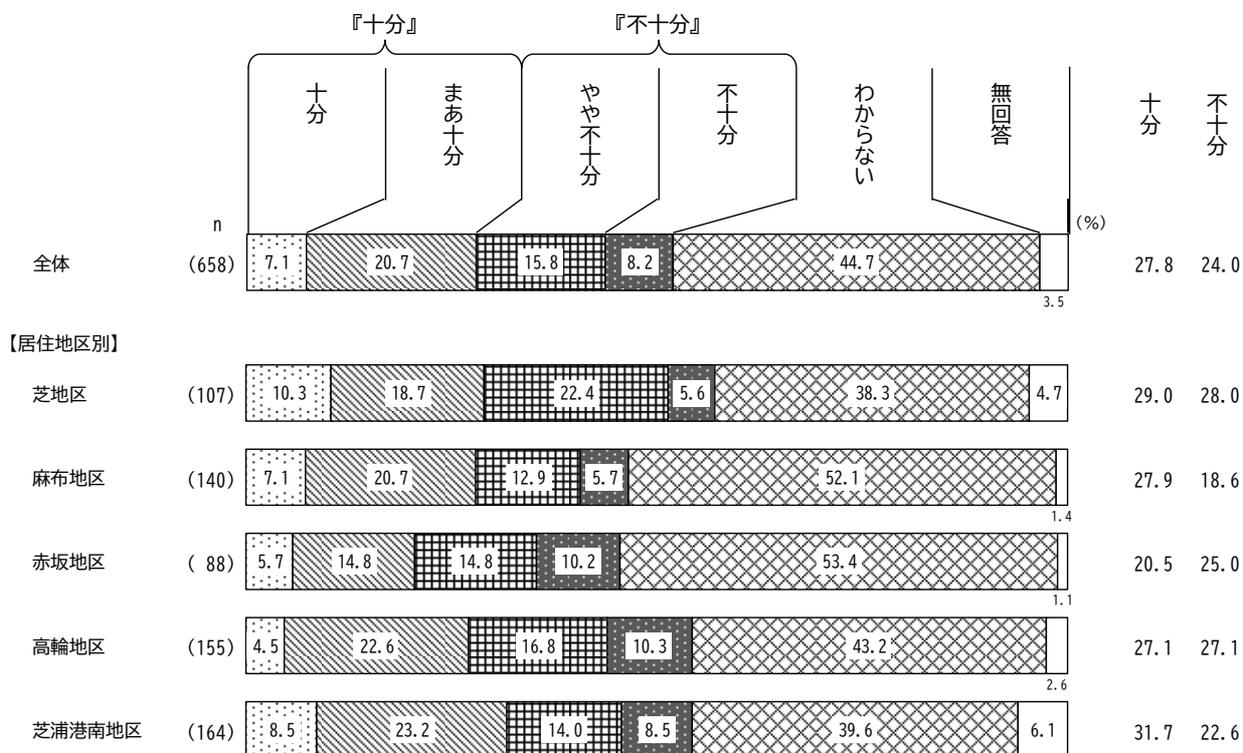
政策(23) 障害者のゆたかで自立した地域での生活を支援する  
(性・年代別) 図3-3-51



政策(23)を性別で見ると、『十分』は男性(29.4%)が女性(26.8%)より2.6ポイント多くなっている。

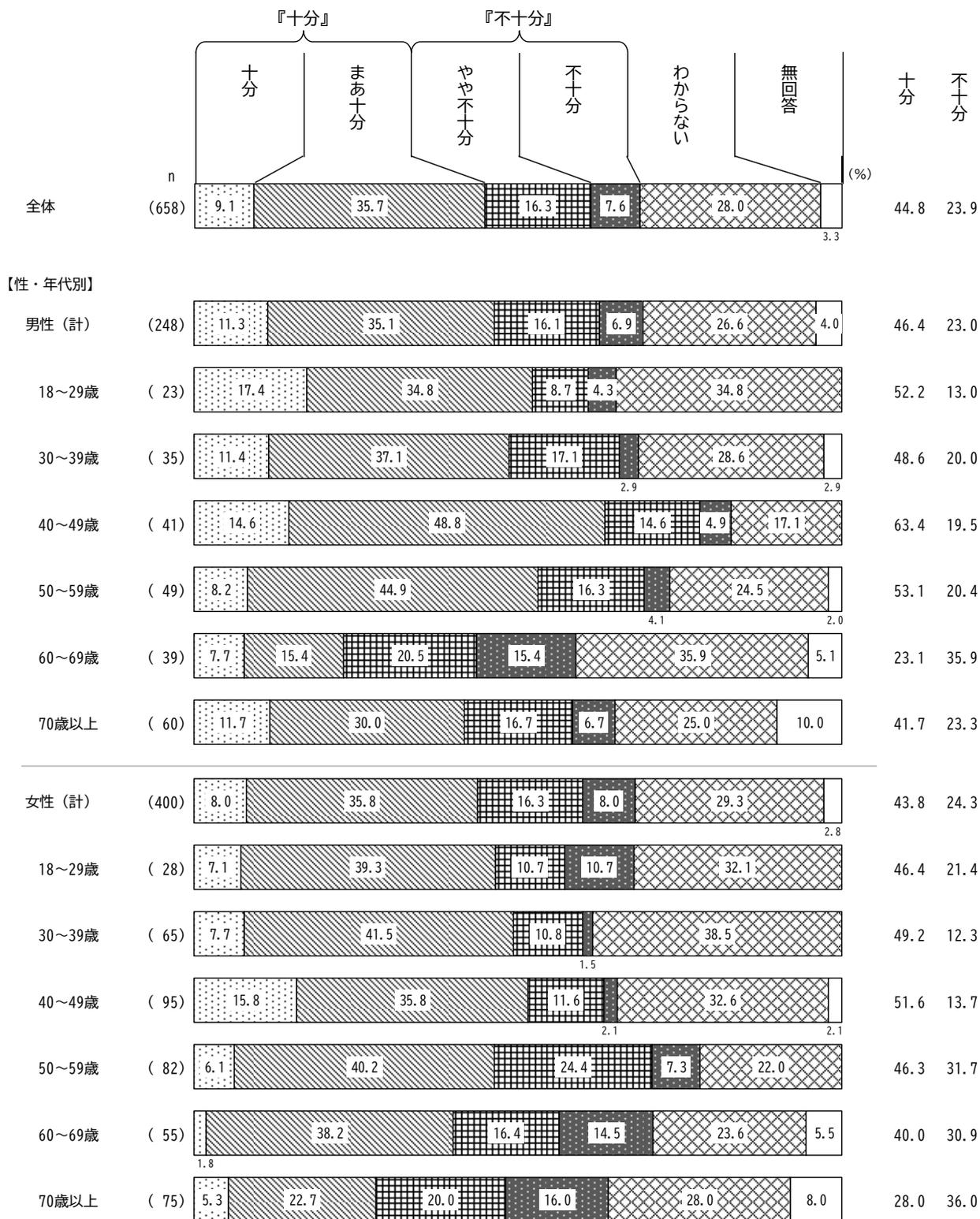
性・年代別で見ると、『十分』は男性30~39歳(45.7%)で4割半ばと最も多く、男性40~49歳(43.9%)で4割を超えている。一方、『不十分』は男性70歳以上(33.3%)で3割を超えている。(図3-3-51)

政策(23) 障害者のゆたかで自立した地域での生活を支援する  
(居住地区別) 図3-3-52



政策(23)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(31.7%)で3割を超え、芝地区(29.0%)で約3割となっている。一方『不十分』は芝地区(28.0%)3割近くとなっている。(図3-3-52)

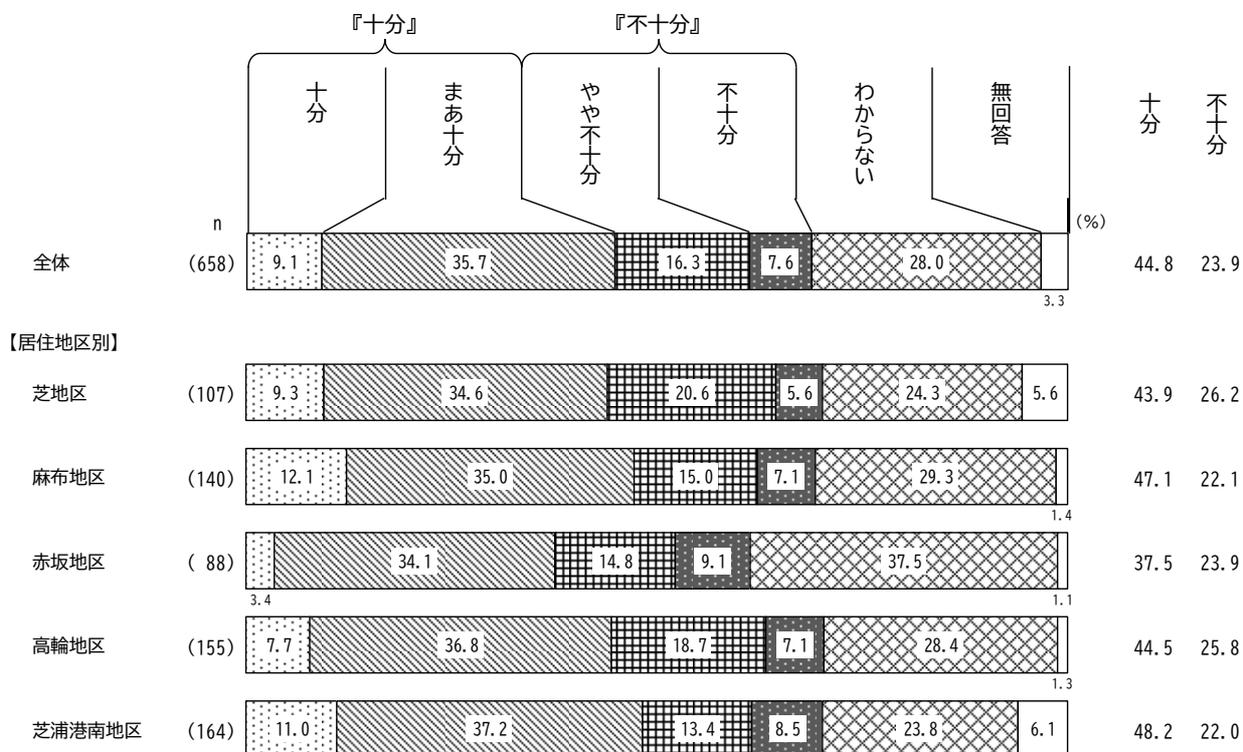
政策(24) 区民が健やかで安全に暮らすことができるよう支援する  
(性・年代別) 図3-3-53



政策(24)を性別で見ると、『十分』は男性(46.4%)が女性(43.8%)より2.6ポイント多くなっている。

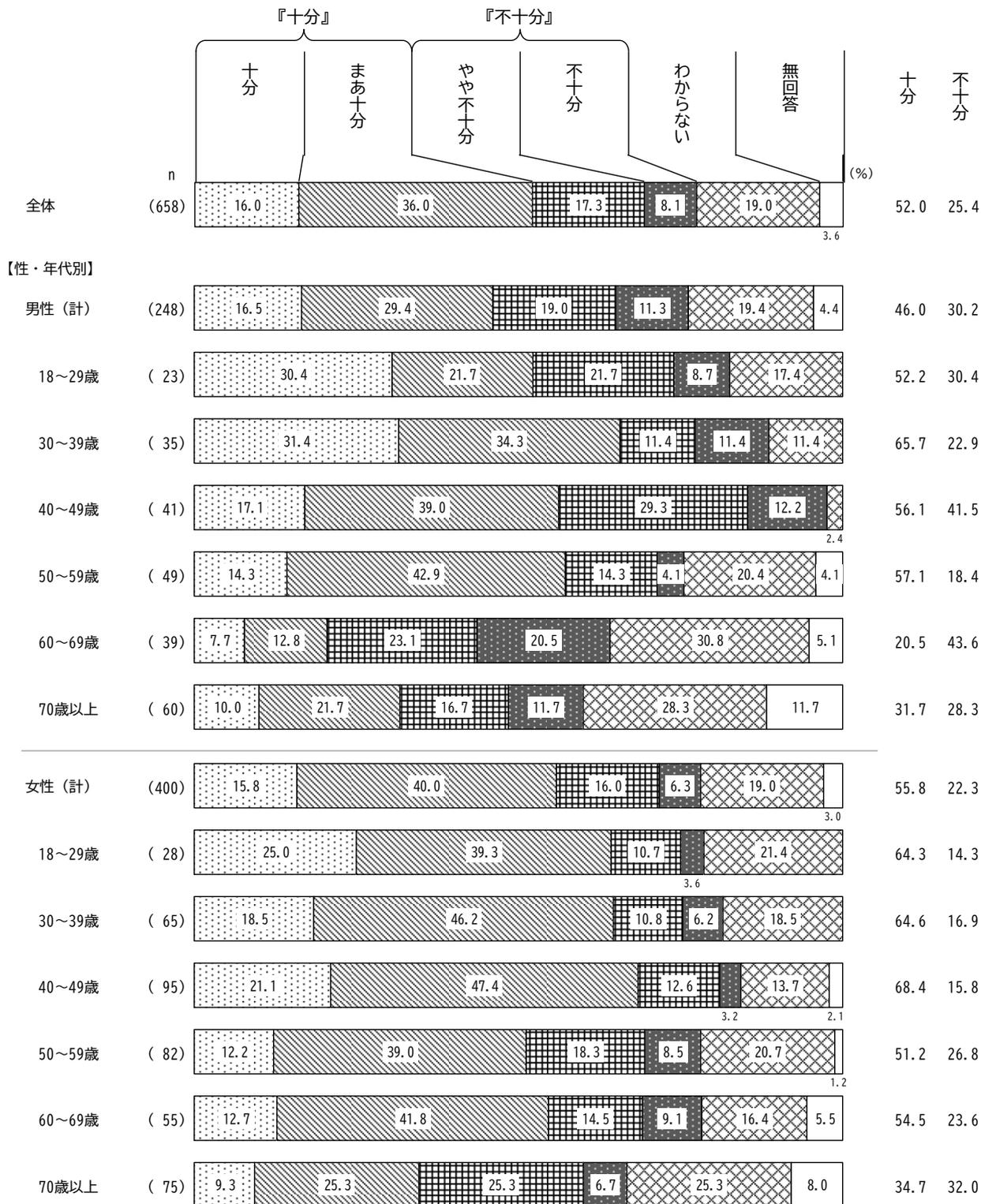
性・年代別で見ると、『十分』は男性40~49歳(63.4%)で6割を超えている。一方、『不十分』は女性70歳以上(36.0%)で3割半ばとなっている。(図3-3-53)

政策(24) 区民が健やかで安全に暮らすことができるよう支援する  
(居住地区別) 図3-3-54



政策(24)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(48.2%)で5割近く、麻布地区(47.1%)で5割近くとなっている。一方、『不十分』は芝地区(26.2%)で2割半ばとなっている。(図3-3-54)

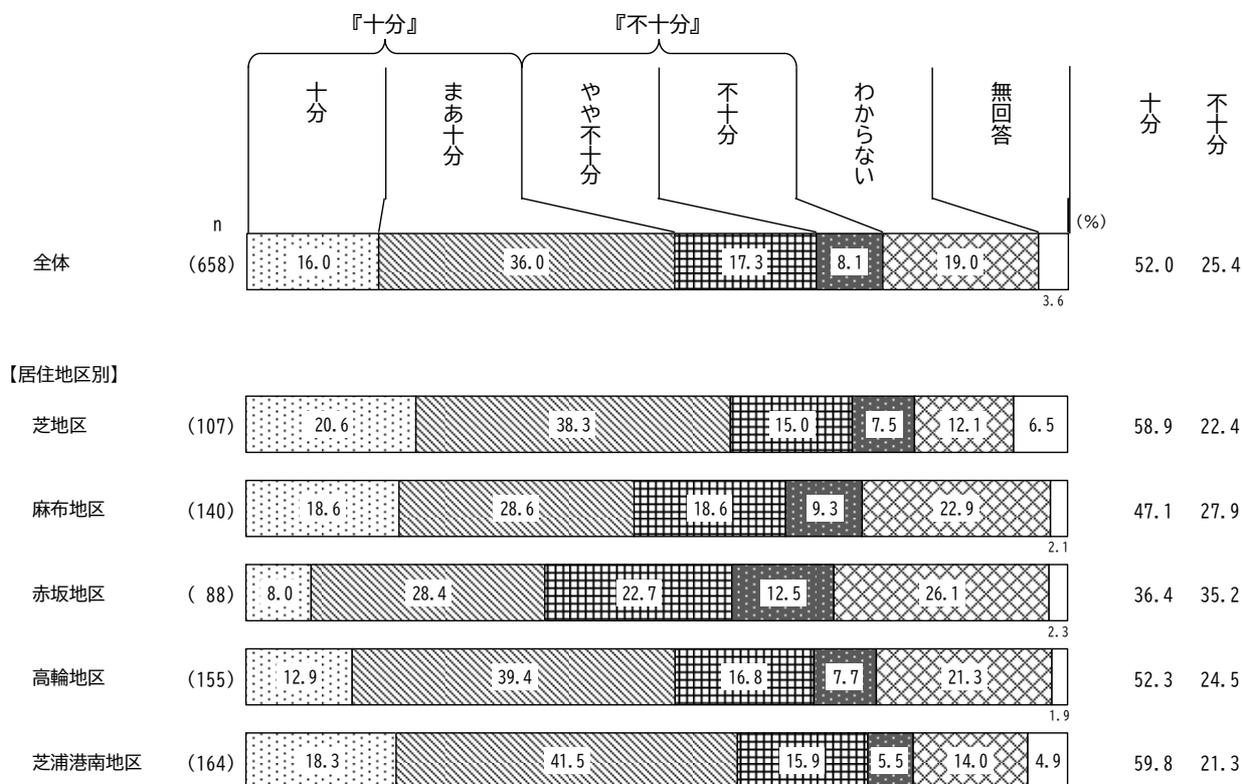
政策(25) 誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する  
(性・年代別) 図3-3-55



政策(25)を性別で見ると、『十分』は女性(55.8%)が男性(46.0%)より9.8ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(68.4%)で7割近く、男性30~39歳(65.7%)で6割半ばとなっている。

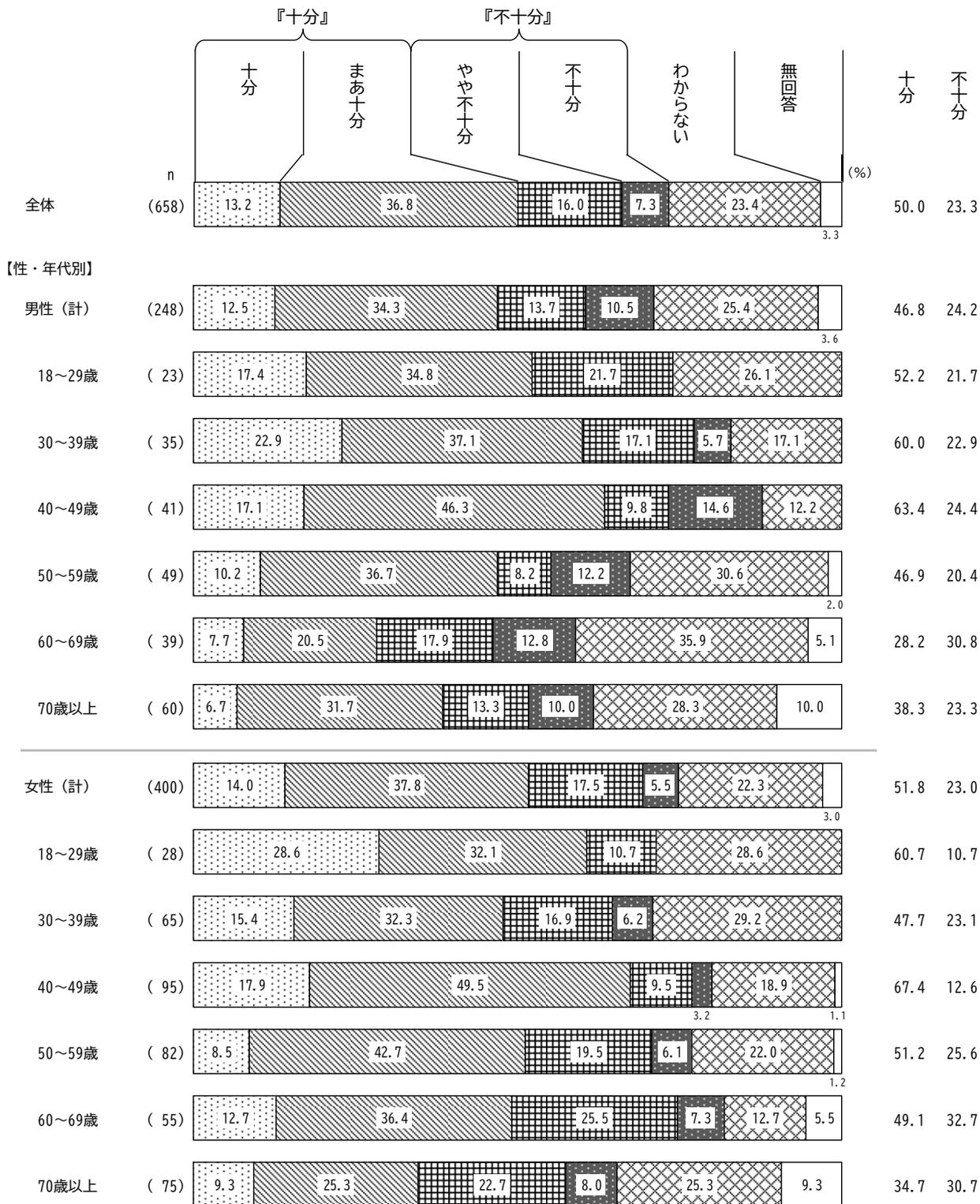
一方、『不十分』は男性60~69歳(43.6%)で4割を超えている。(図3-3-55)

政策(25) 誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する  
(居住地区別) 図3-3-56



政策(25)を居住地区別で見ると、『十分』は芝浦港南地区(59.8%)で6割、芝地区(58.9%)で6割近くとなっている。一方、『不十分』は赤坂地区(35.2%)で3割半ばとなっている。(図3-3-56)

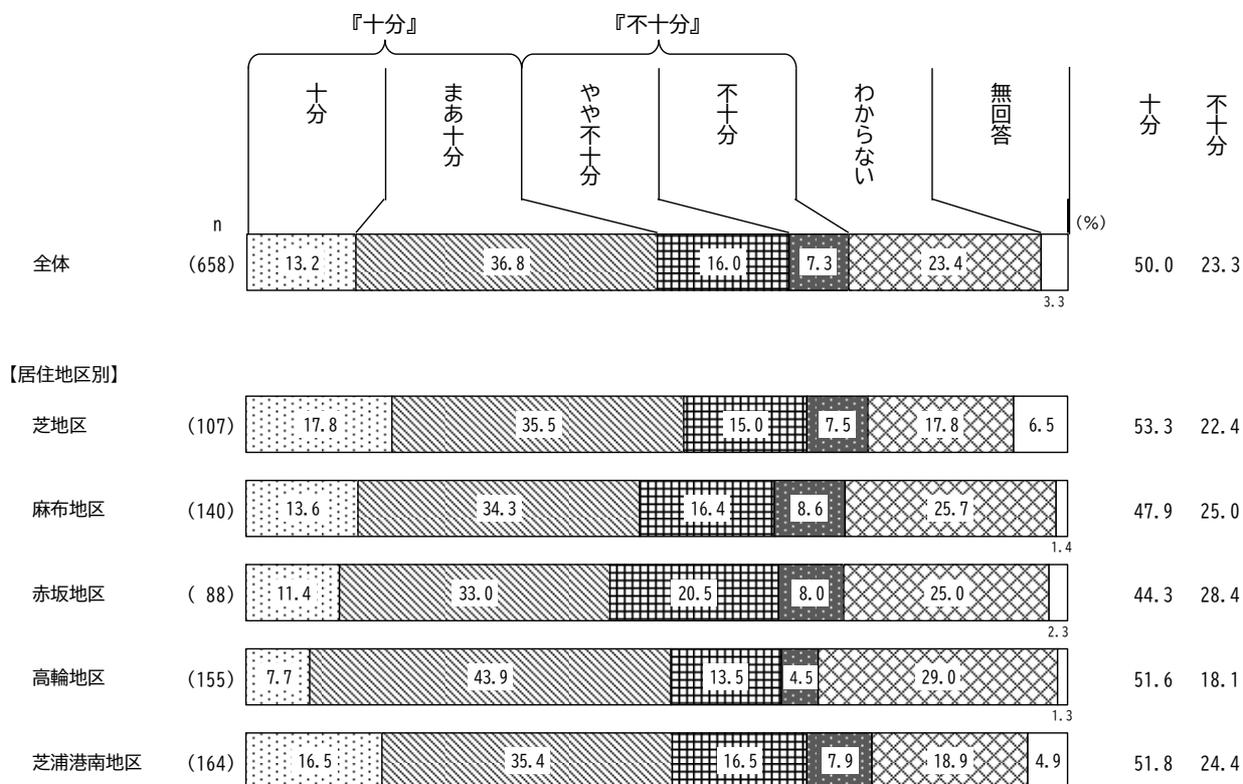
政策(26) 自己実現をめざす区民の多様な学習活動を支援する  
(性・年代別) 図3-3-57



政策(26)を性別で見ると、『十分』は女性(51.8%)が男性(46.8%)より5ポイント多くなっている。

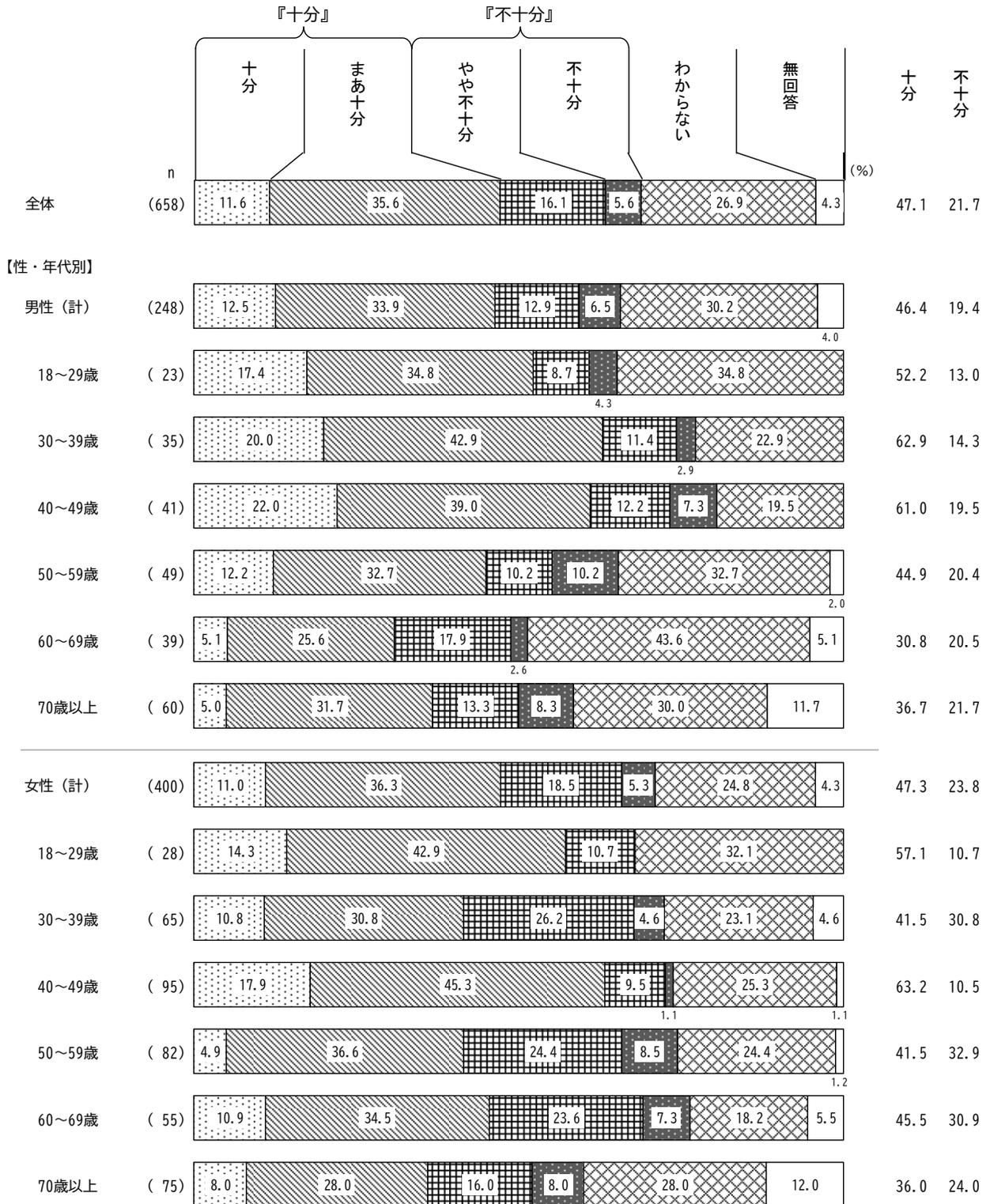
性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(67.4%)で7割近く、男性40~49歳(63.4%)で6割を超えている。一方、『不十分』は女性60~69歳(32.7%)が3割を超え、男性60~69歳(30.8%)で約3割となっている。(図3-3-57)

政策(26) 自己実現をめざす区民の多様な学習活動を支援する  
(居住地区別) 図3-3-58



政策(26)を居住地区別でみると、『十分』は芝地区(53.3%)、芝浦港南地区(51.8%)で5割を超えている。一方、『不十分』は赤坂地区(28.4%)で3割近くとなっている。(図3-3-58)

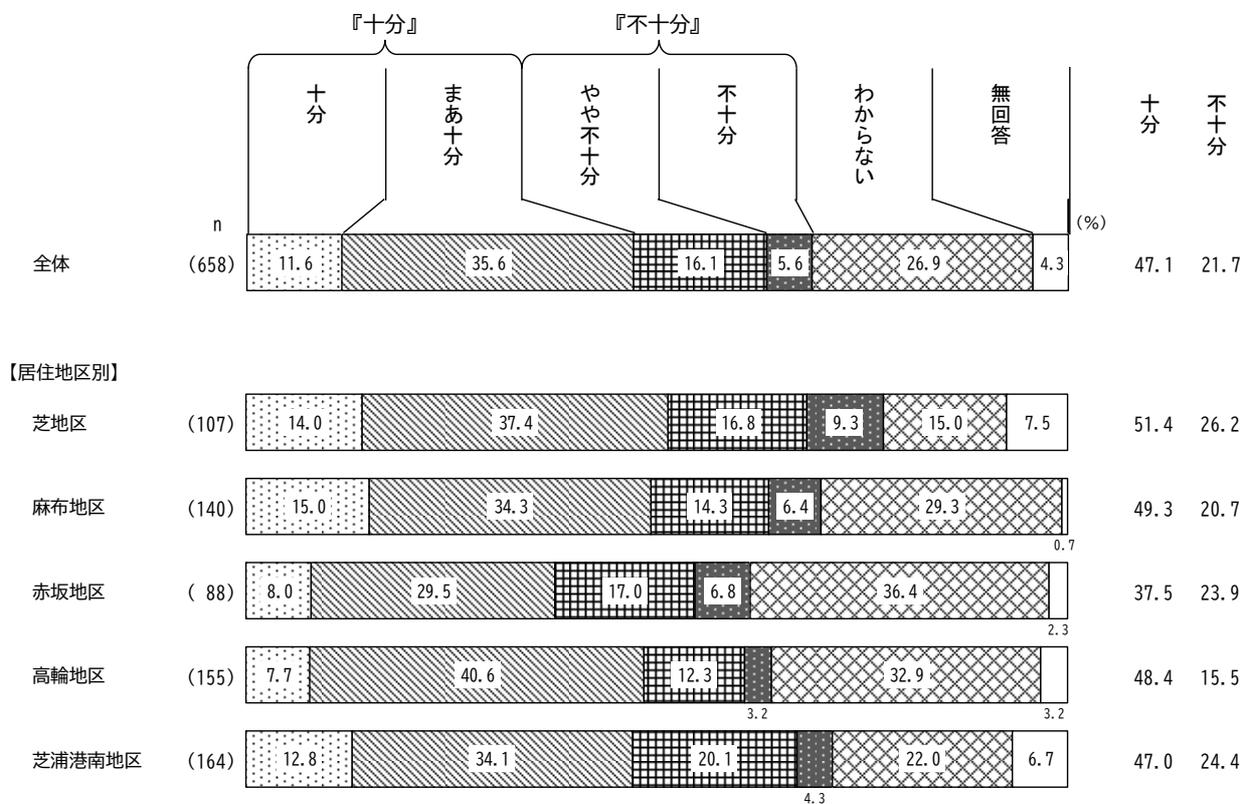
政策(27) 豊かで多様な文化に包まれた都市を育む  
(性・年代別) 図3-3-59



政策(27)を性別で見ると、『十分』は女性(47.3%)が男性(46.4%)より0.9ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、『十分』は女性40~49歳(63.2%)で6割を超えている。一方、『不十分』は女性50~59歳(32.9%)で3割を超え、女性60~69歳(30.9%)で約3割となっている。(図3-3-59)

政策(27) 豊かで多様な文化に包まれた都市を育む  
(居住地区別) 図3-3-60



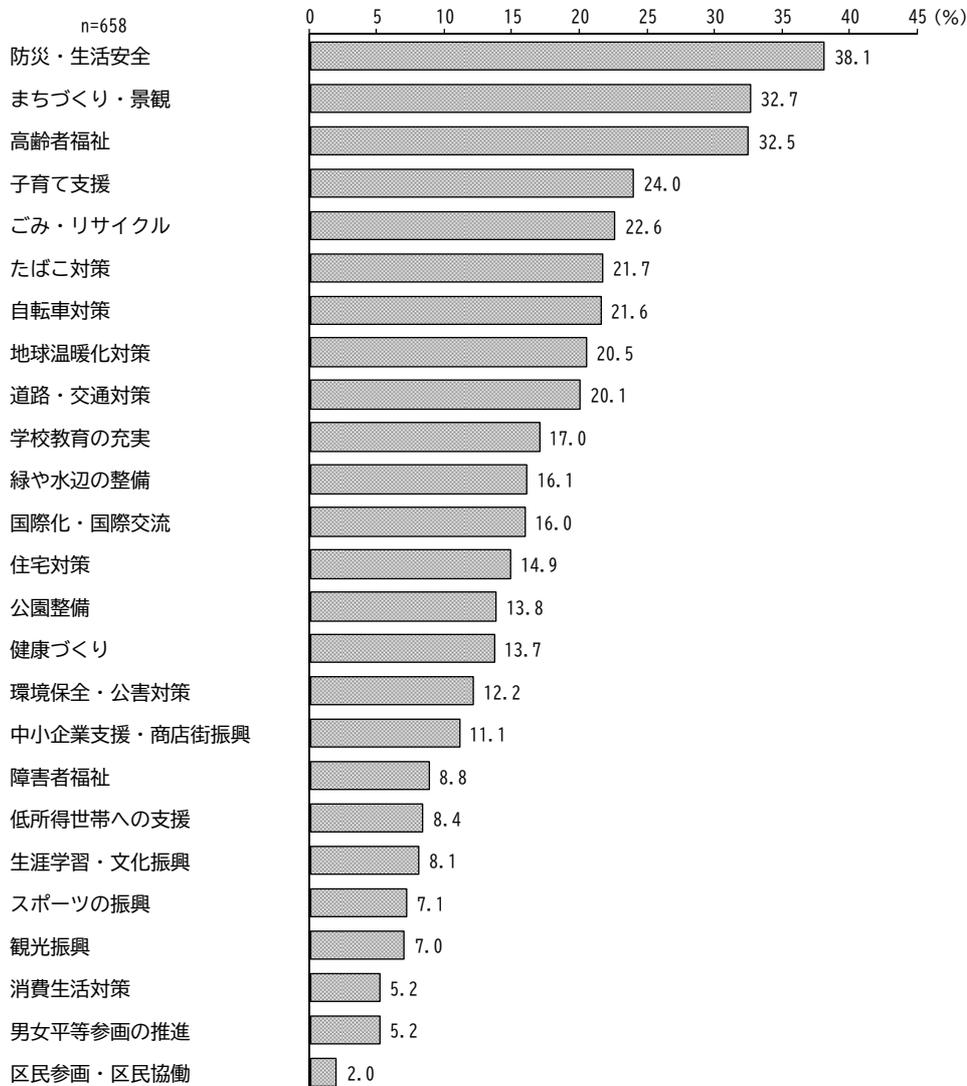
政策(27)を居住地区別でみると、『十分』は芝地区(51.4%)で5割を超え、麻布地区(49.3%)で約5割となっている。一方、『不十分』は芝地区(26.2%)で2割半ばとなっている。(図3-3-60)

(4) 重点課題のうち、特に重点的に取り組むべき課題

◇ 「防災・生活安全」が4割近く、「まちづくり・景観」、「高齢者福祉」が3割を超える

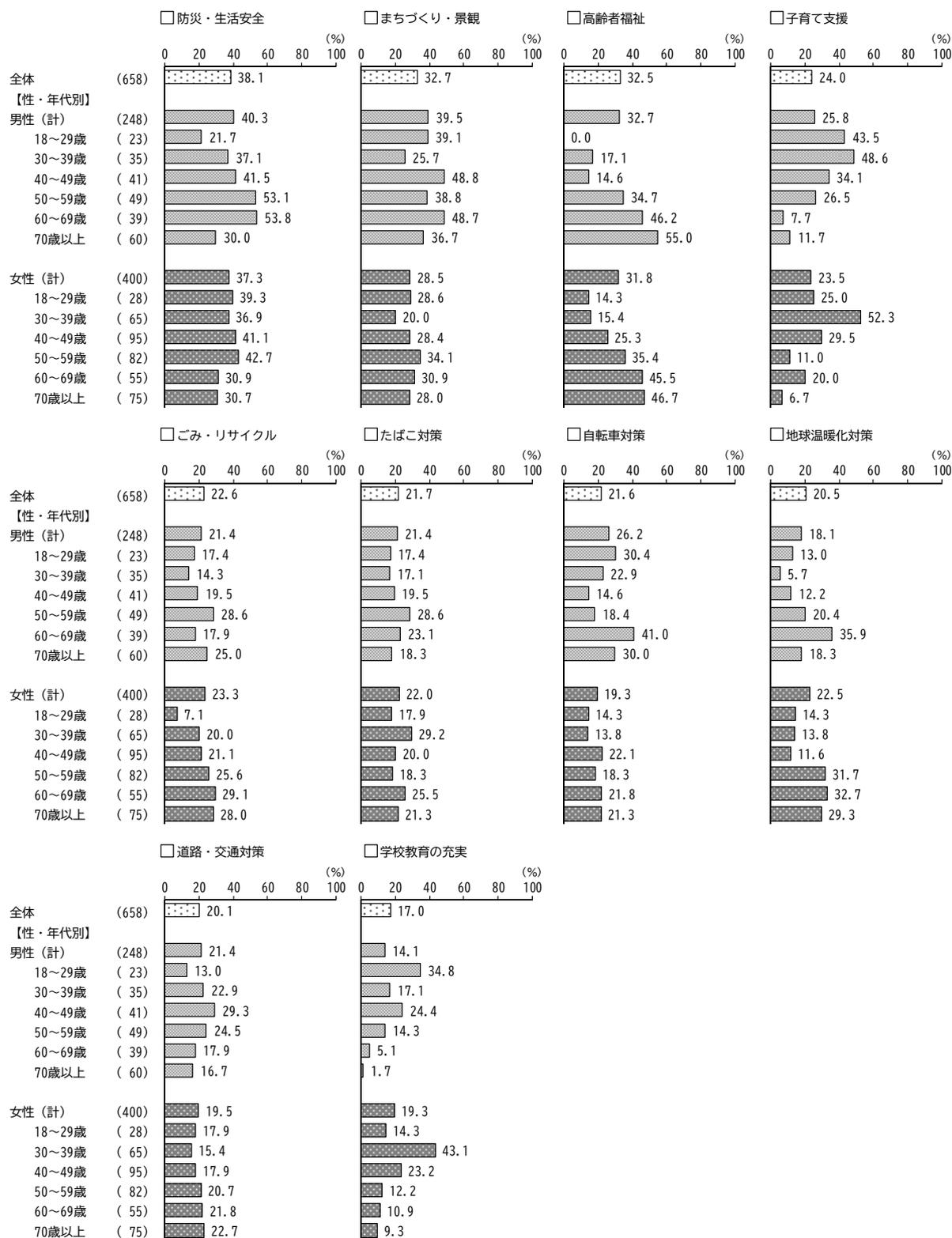
問13 今後、港区が特に重点的に取り組むべきと思うものを選んでください。(〇は5つまで)

図3-4-1



今後、港区が特に重点的に取り組むべき政策を聞いたところ、「防災・生活安全」(38.1%)が4割近くで最も多く、次いで「まちづくり・景観」(32.7%)「高齢者福祉」(32.5%)、「子育て支援」(24.0%)となっている。(図3-4-1)

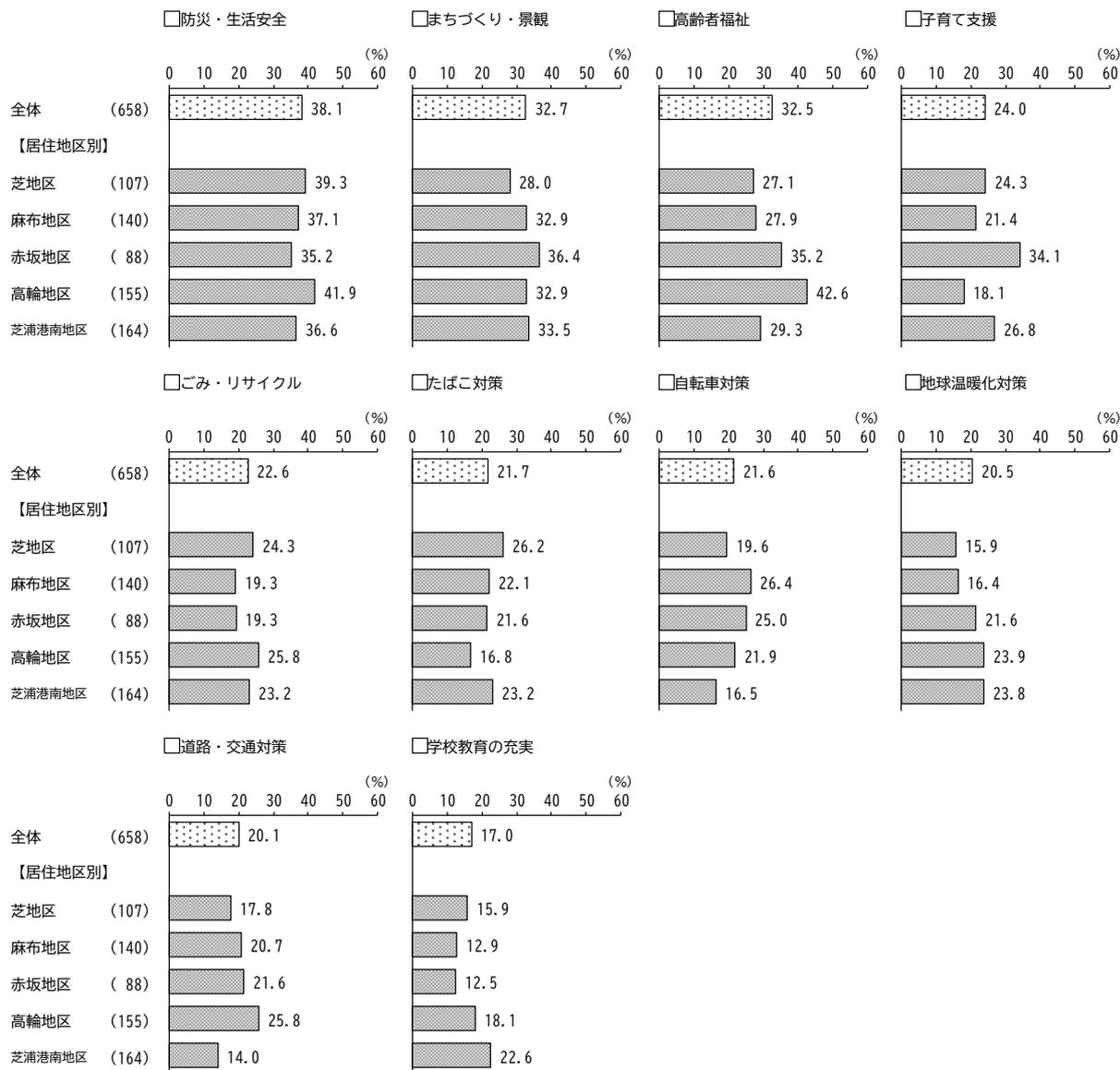
図3-4-2 重点課題のうち、特に重点的に取り組むべき課題  
(性・年代別)(上位10項目)



性別でみると、「防災・生活安全」は男性（40.3%）、女性（37.3%）で最も多くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者福祉」はおおむね年代が高くなるほど割合が多く、男性18～29歳が0.0%であるのに対し、男性70歳以上（55.0%）で5割半ば、女性18～29歳（14.3%）で1割半ばであるのに対し、女性70歳以上（46.7%）では5割近くとなっている。（図3-4-2）

図3-4-3 重点課題のうち、特に重点的に取り組むべき課題  
(居住地区別) (上位10項目)



居住地区別でみると、「高齢者福祉」は高輪地区（42.6%）で4割を超え、赤坂地区（35.2%）で3割半ばとなっている。「防災・生活安全」は高輪地区（41.9%）で4割を超え、「まちづくり・景観」は赤坂地区（36.4%）で3割半ばとなっている。「道路・交通対策」は高輪地区（25.8%）で2割半ばとなっている。（図3-4-3）

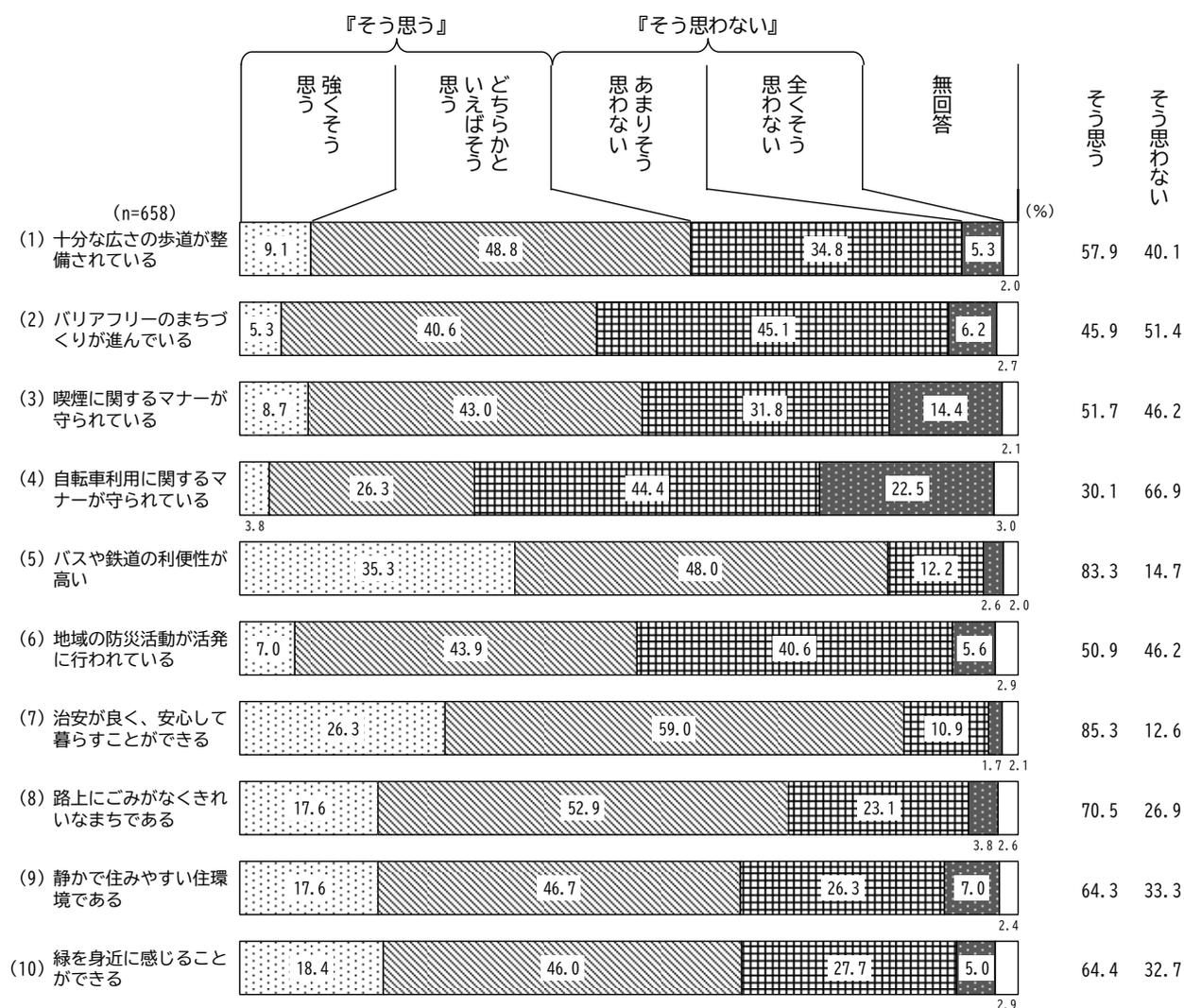
(5) 港区の状況

問14 次のことについて、あなたは港区の状況をどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

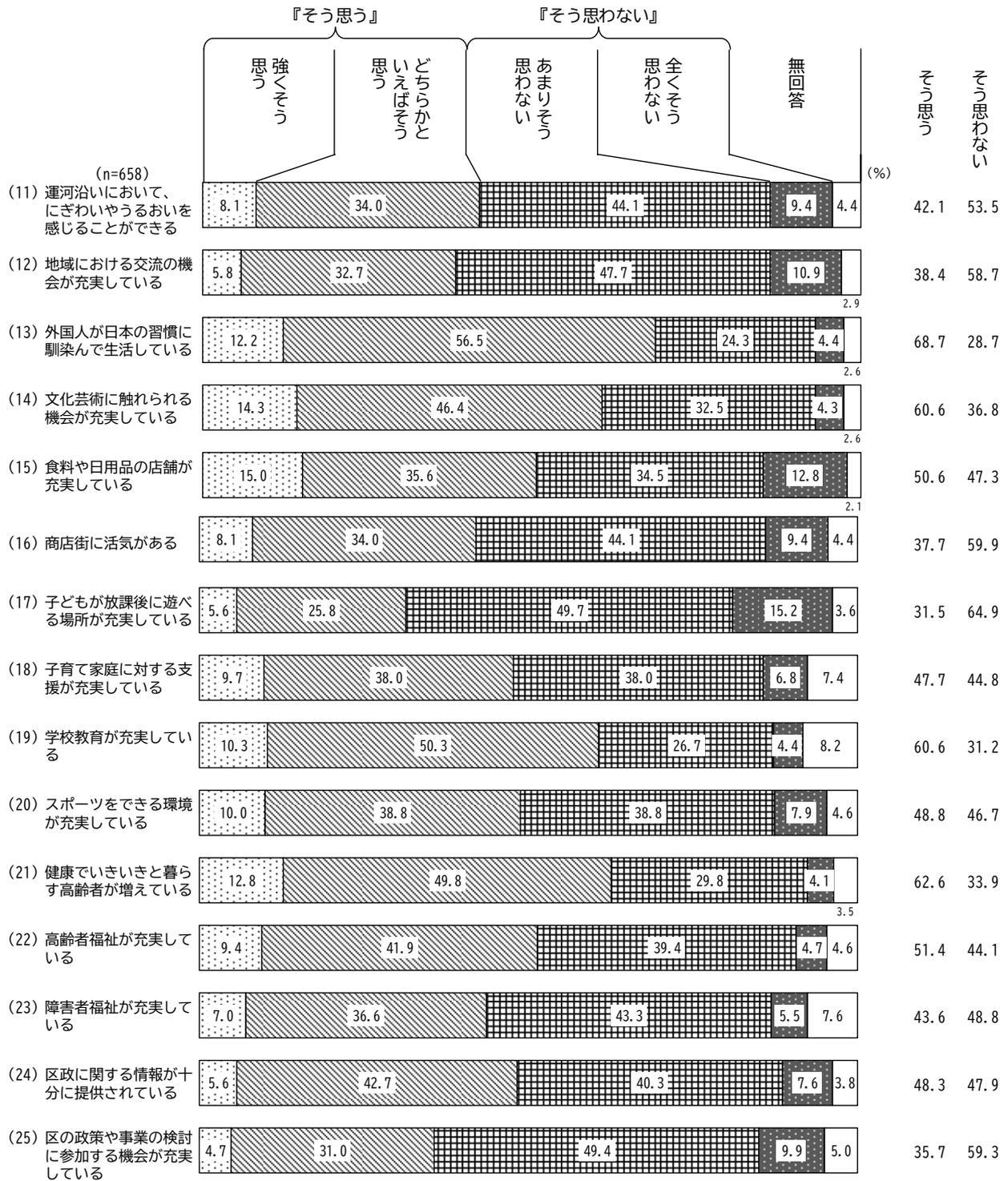
25の政策目標を掲げ、港区において実現されていると思うかを聞いたところ、「強くそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と感じる割合が最も多い政策は、「治安が良く、安心して暮らすことができる」(85.3%)で8割半ばとなっている。次いで、「バスや鉄道の利便性が高い」(83.3%)で8割を超え、「路上にごみがなくきれいなまちである」(70.5%)で約7割となっている。

一方、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた『そう思わない』と感じる割合が最も多い政策は、「自転車利用に関するマナーが守られている」(66.9%)で7割近くとなっている。次いで、「子どもが放課後遊べる場所が充実している」(64.9%)で6割半ば、「商店街に活気がある」(59.9%)で6割となっている。(図3-5-1)

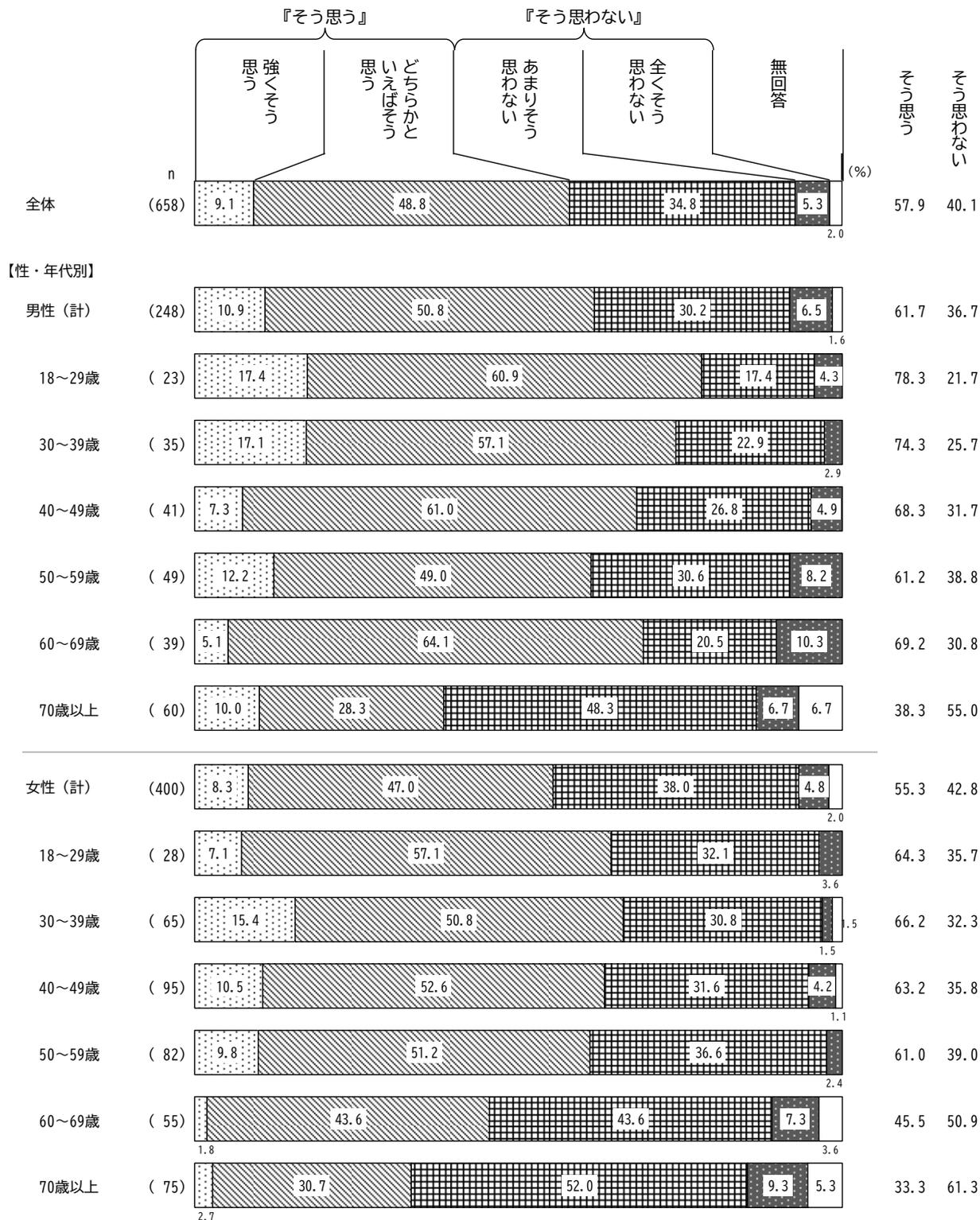
図3-5-1



### 第3章 調査結果の詳細

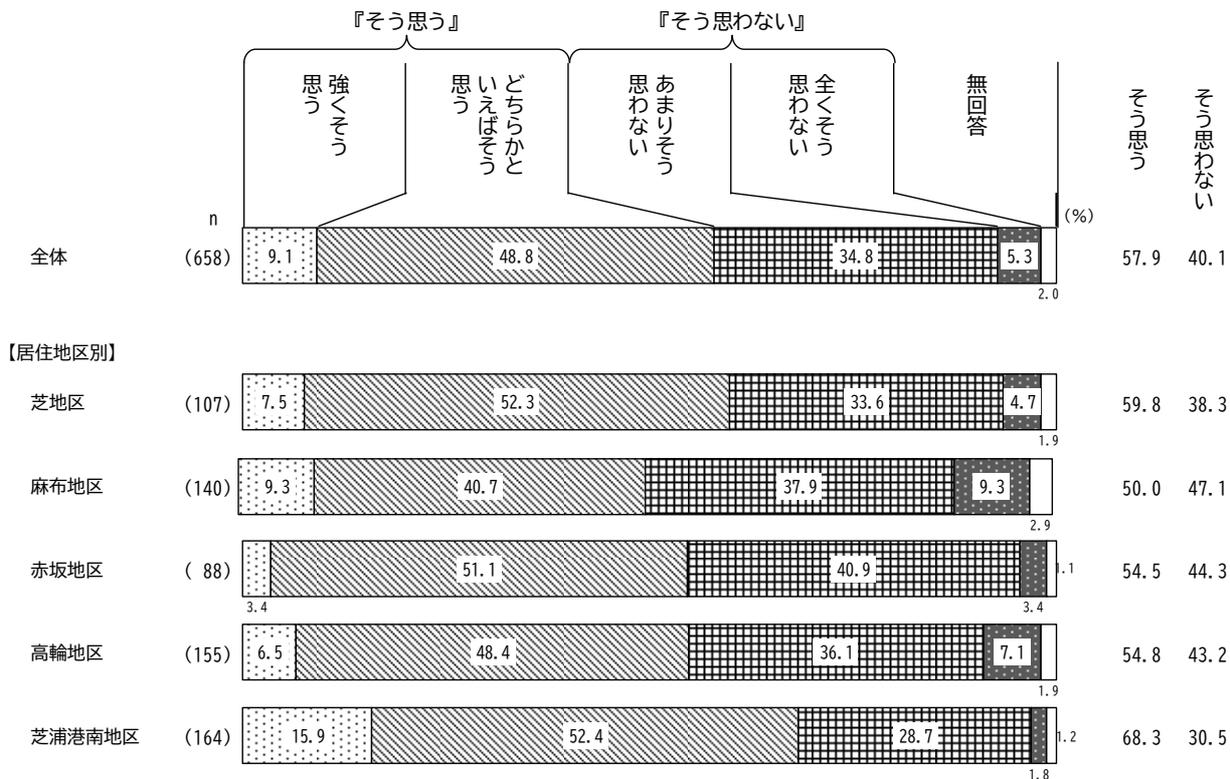


政策目標 (1) 十分な広さの歩道が整備されている  
(性・年代別) 図3-5-2



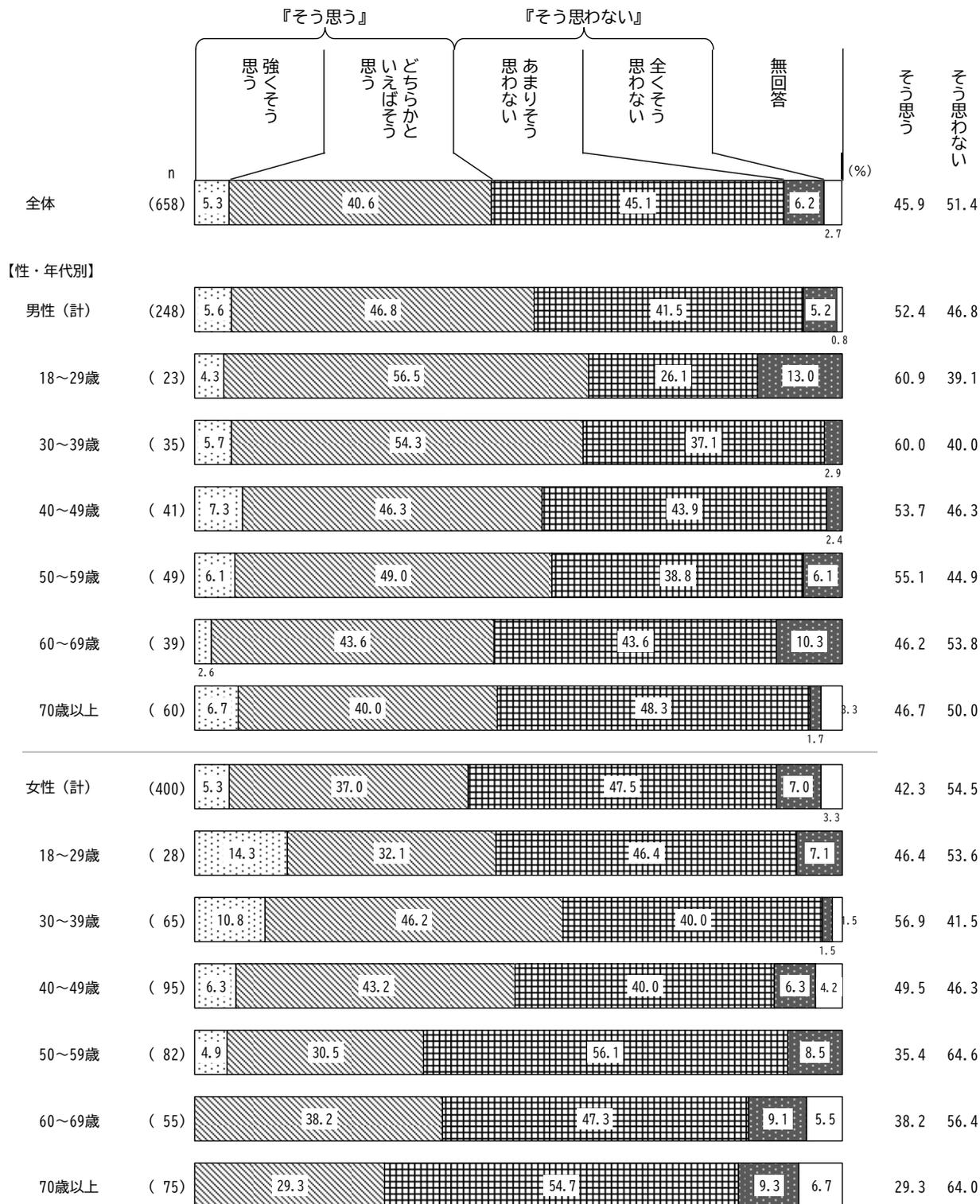
性別で見ると、『そう思う』は男性 (61.7%) が女性 (55.3%) より 6.4 ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 18~29 歳 (78.3%) で 8 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は女性 70 歳以上 (61.3%) で 6 割を超えている。(図3-5-2)

政策目標（1）十分な広さの歩道が整備されている  
（居住地区別）図3-5-3



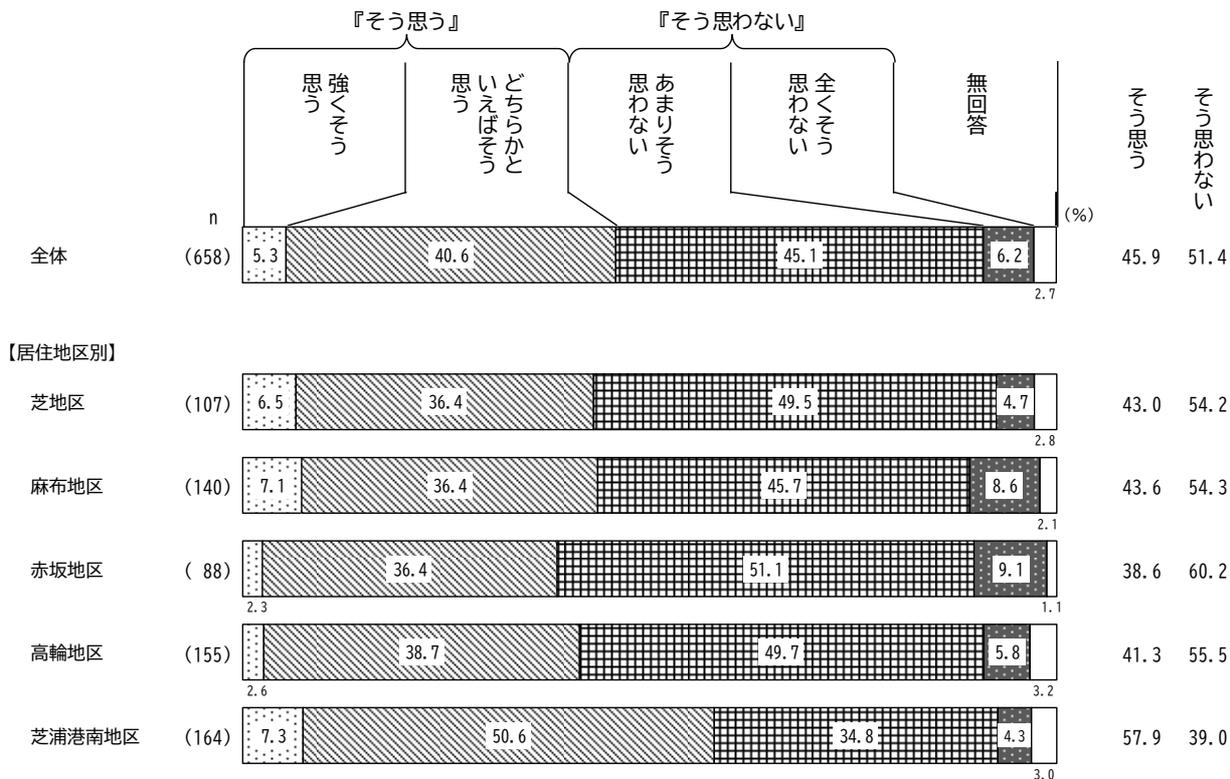
居住地区別でみると、『そう思う』は芝浦港南地区（68.3%）で7割近く、芝地区（59.8%）で6割となっている。一方、『そう思わない』は麻布地区（47.1%）で5割近くとなっている。（図3-5-3）

政策目標 (2) バリアフリーのまちづくりが進んでいる  
(性・年代別) 図3-5-4



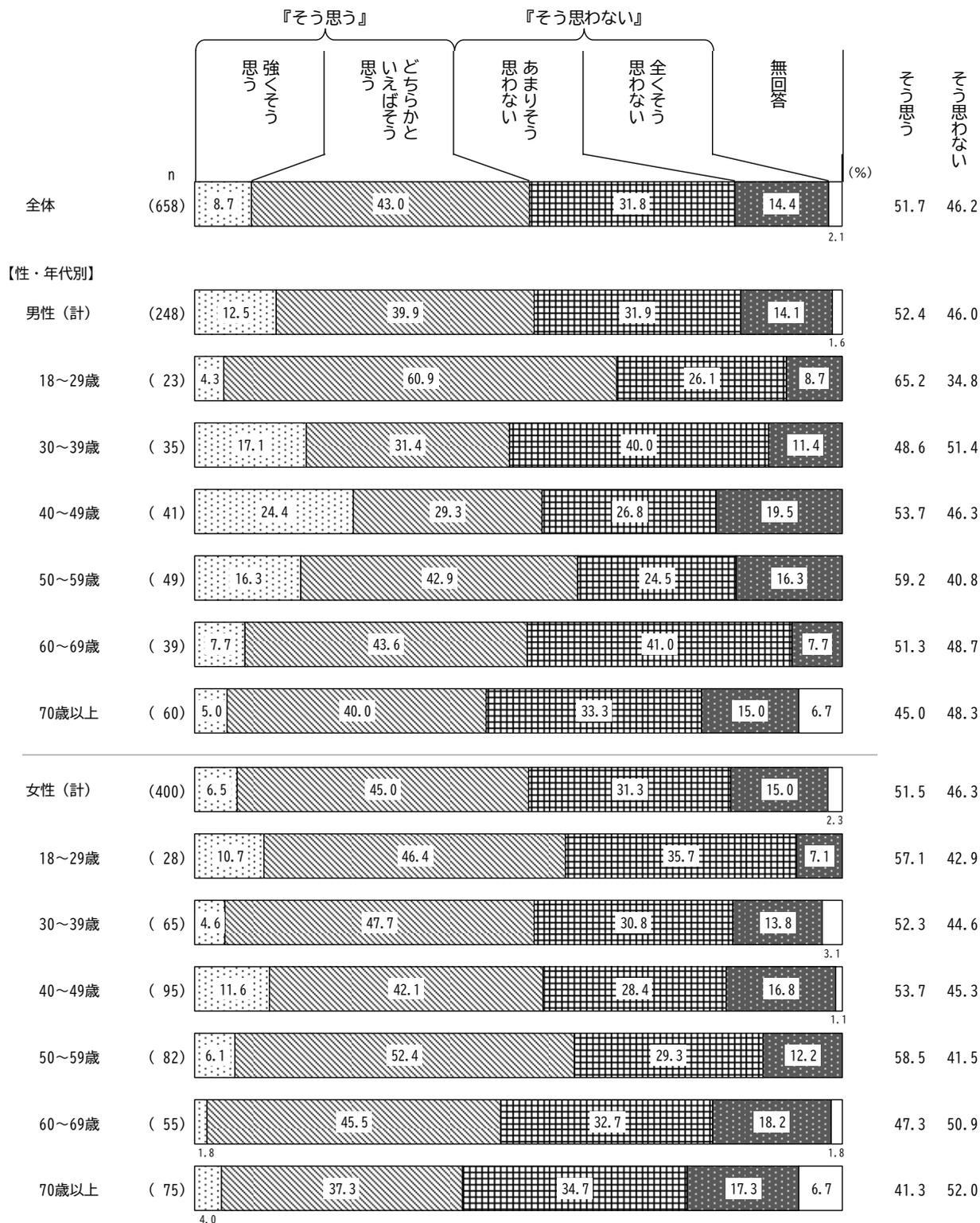
性別で見ると、『そう思う』は男性 (52.4%) が女性 (42.3%) より 10.1 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 18~29 歳 (60.9%) で約 6 割となっている。一方、『そう思わない』は、女性 50~59 歳 (64.6%) で 6 割半ばとなっている。(図 3-5-4)

政策目標 (2) バリアフリーのまちづくりが進んでいる  
(居住地区別) 図3-5-5



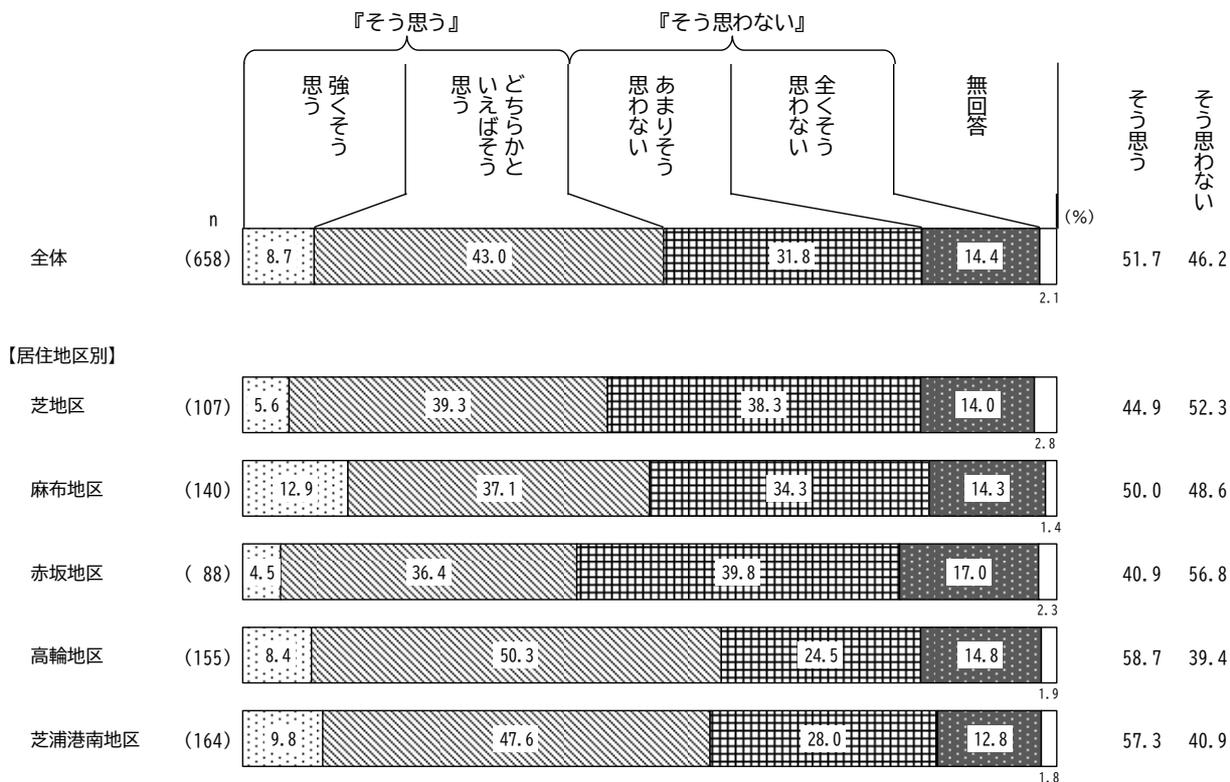
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（57.9%）で6割近く、麻布地区（43.6%）で4割を超えている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（60.2%）で6割となっている。（図3-5-5）

政策目標 (3) 喫煙に関するマナーが守られている  
(性・年代別) 図3-5-6



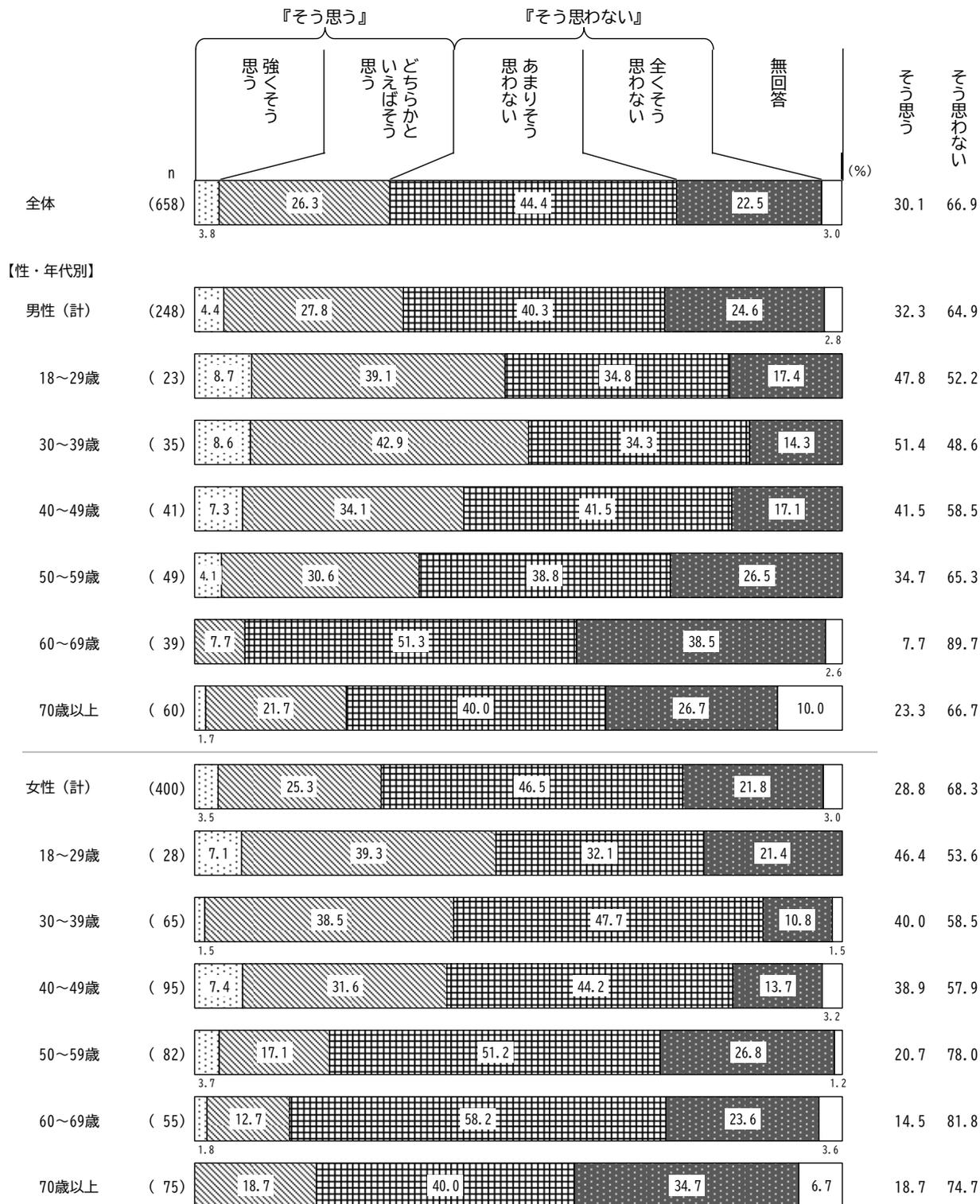
性別で見ると、『そう思う』は男性 (52.4%) が女性 (51.5%) より 0.9 ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 18~29 歳 (65.2%) で 6 割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は女性 70 歳以上 (52.0%)、男性 30~39 歳 (51.4%) で 5 割を超えている。(図3-5-6)

政策目標 (3) 喫煙に関するマナーが守られている  
(居住地区別) 図3-5-7



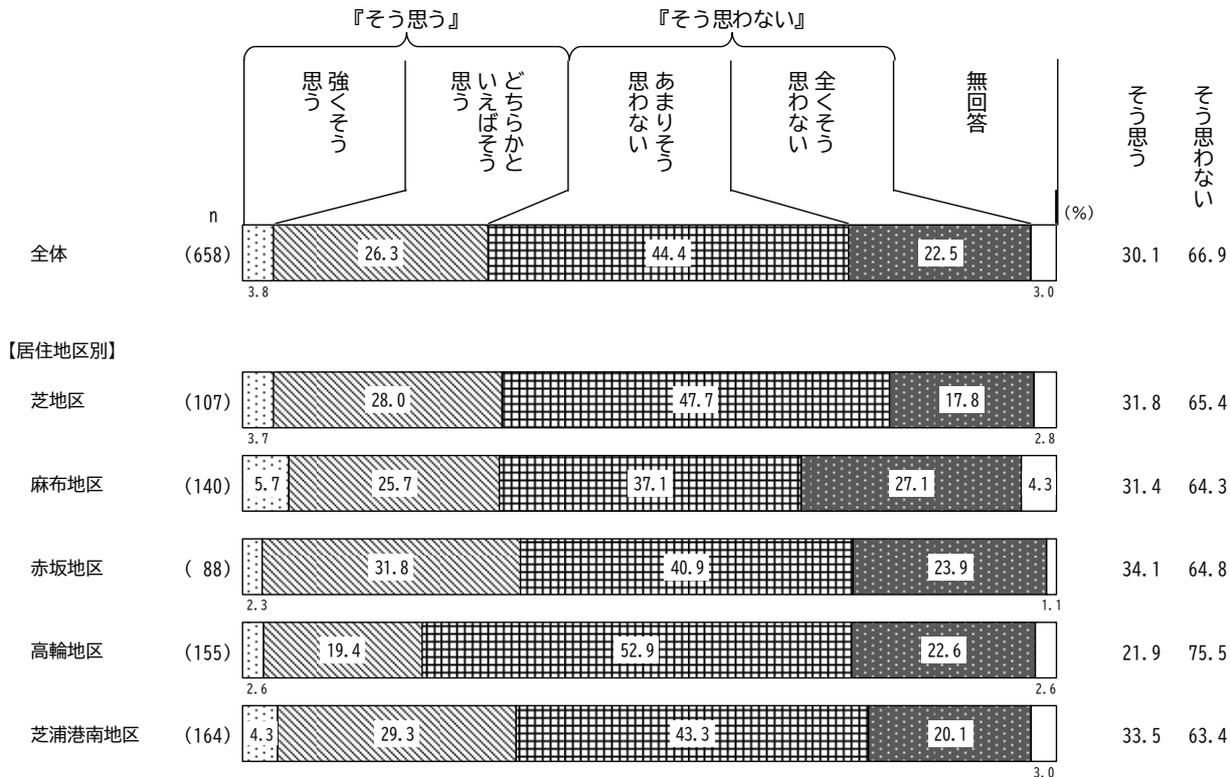
居住地区別で見ると、『そう思う』は高輪地区 (58.7%)、芝浦港南地区 (57.3%) で6割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区 (56.8%) で6割近くとなっている。(図3-5-7)

政策目標 (4) 自転車利用に関するマナーが守られている  
(性・年代別) 図3-5-8



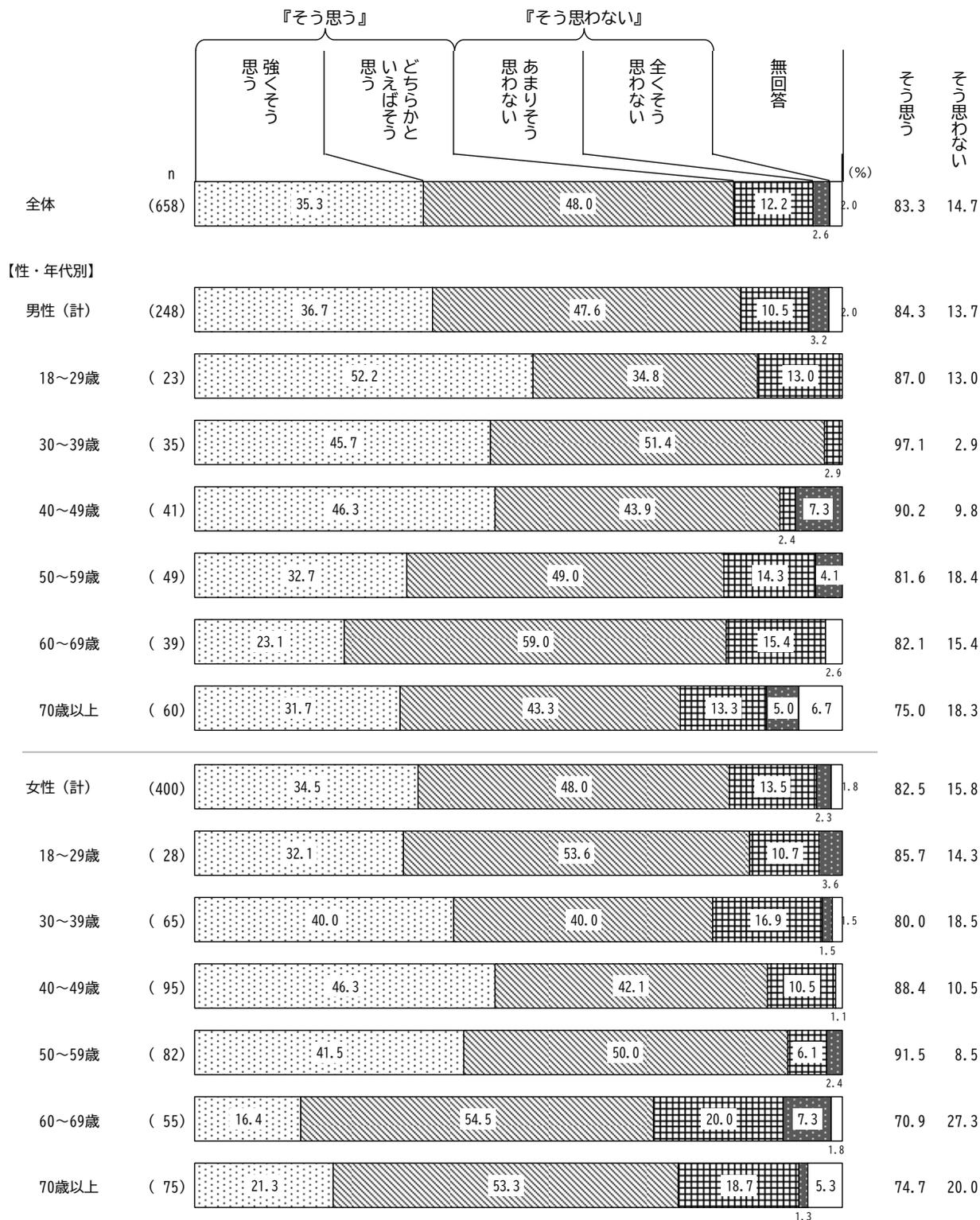
性別で見ると、『そう思う』は男性(32.3%)が女性(28.8%)より3.5ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性30~39歳(51.4%)で5割を超えている。一方、『そう思わない』は男性60~69歳(89.7%)で9割となっている。(図3-5-8)

政策目標 (4) 自転車利用に関するマナーが守られている  
(居住地区別) 図3-5-9



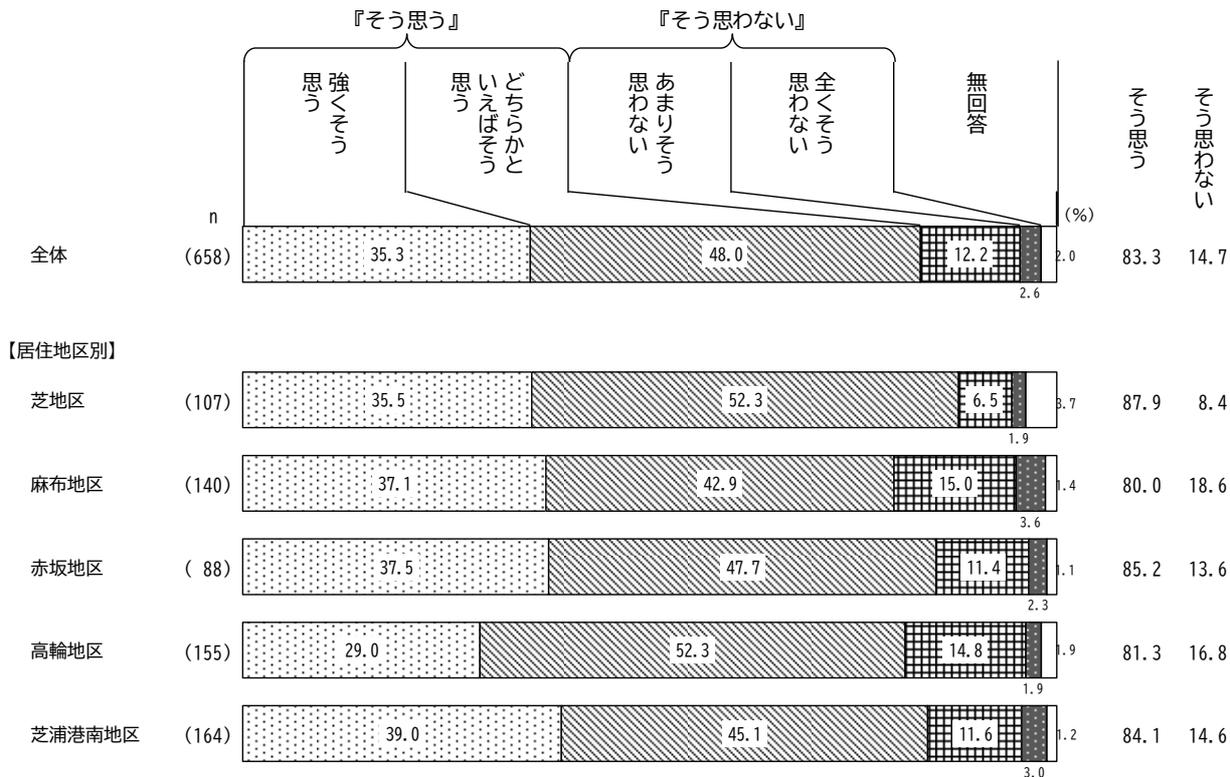
居住地区別で見ると、『そう思う』は赤坂地区 (34.1%) で3割半ば、芝浦港南地区 (33.5%) で3割を超えている。一方、『そう思わない』は高輪地区 (75.5%) で7割半ばとなっている。(図3-5-9)

政策目標 (5) バスや鉄道の利便性が高い  
(性・年代別) 図3-5-10



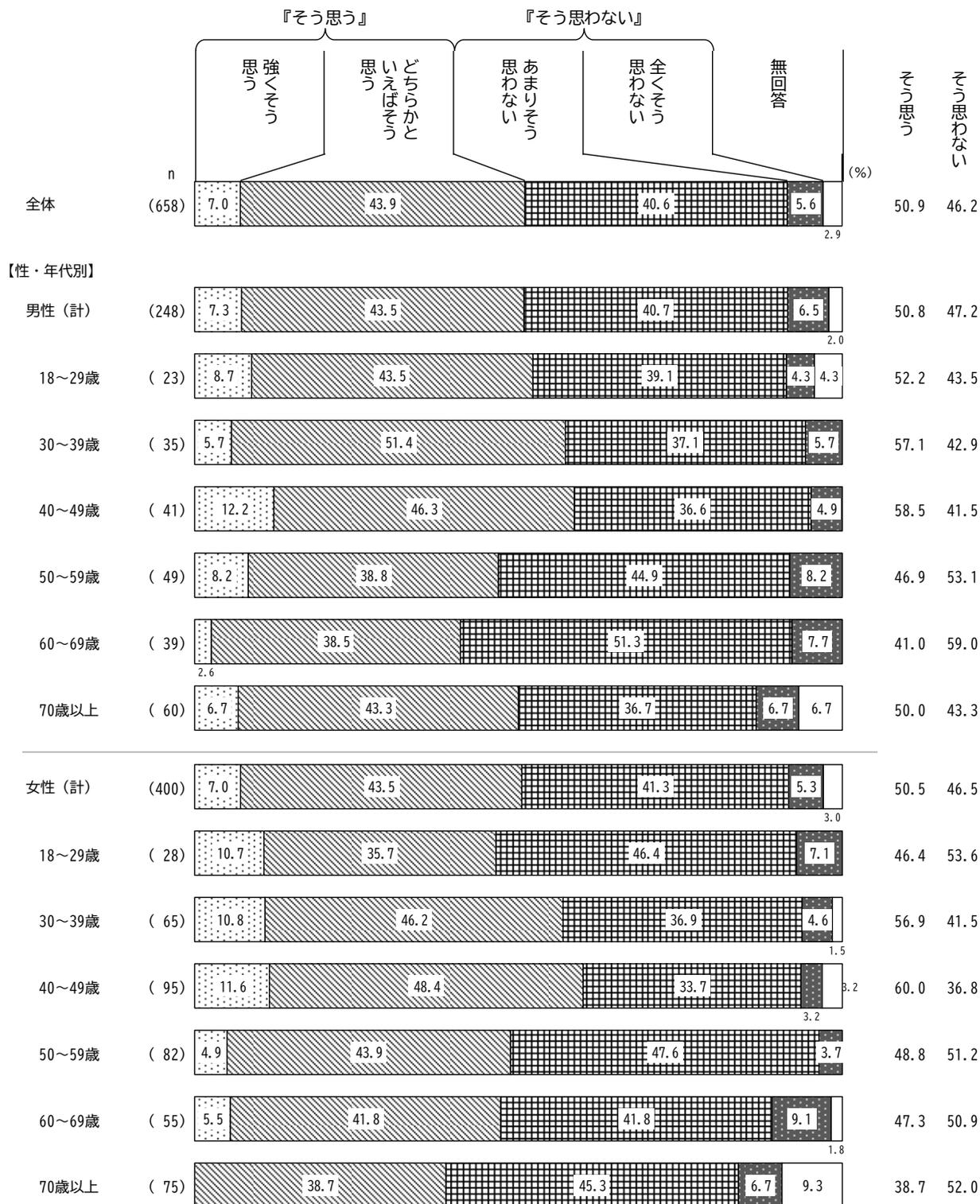
性別で見ると、『そう思う』は男性(84.3%)が女性(82.5%)より1.8ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性30~39歳(97.1%)で10割近くとなっている。一方、『そう思わない』は女性60~69歳(27.3%)で3割近くとなっている。(図3-5-10)

政策目標 (5) バスや鉄道の利便性が高い  
(居住地区別) 図3-5-11



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝地区（87.9%）で9割近く、赤坂地区（85.2%）で8割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は麻布地区（18.6%）で2割近くとなっている。（図3-5-11）

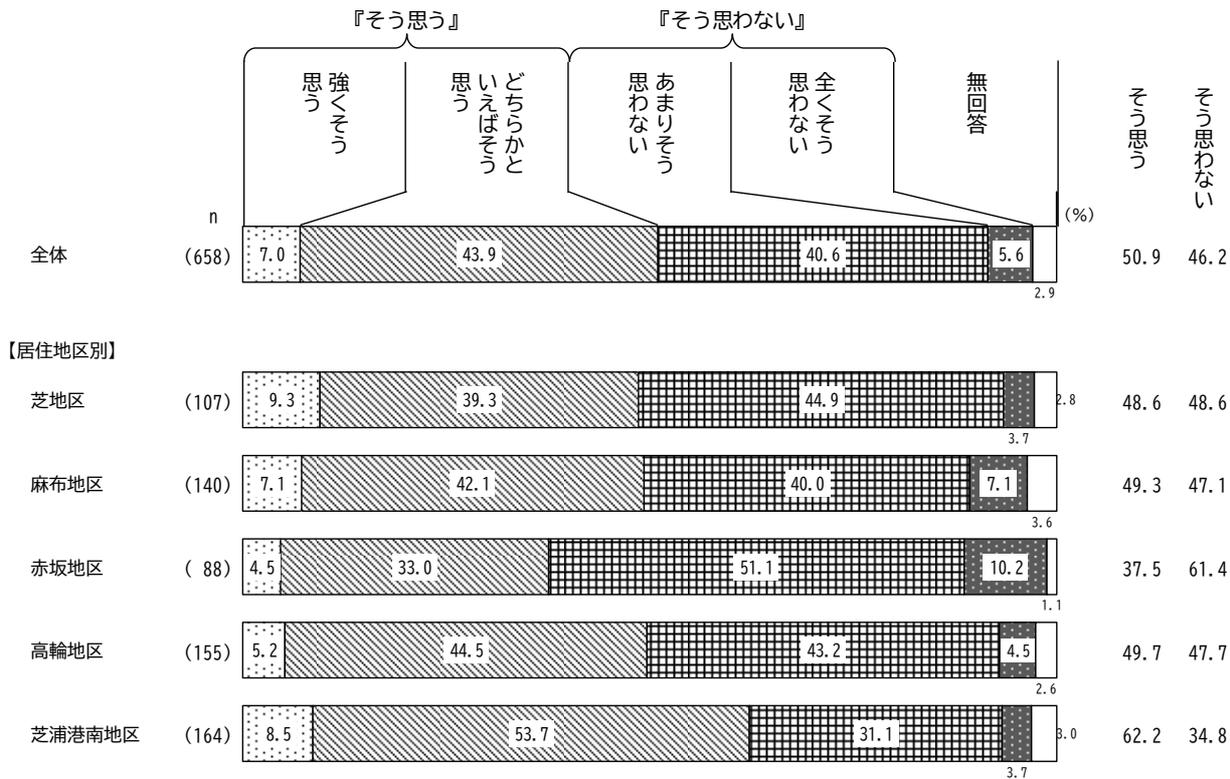
政策目標 (6) 地域の防災活動が活発に行われている  
(性・年代別) 図3-5-12



性別で見ると、『そう思う』は男女間で大きな違いは見られない。

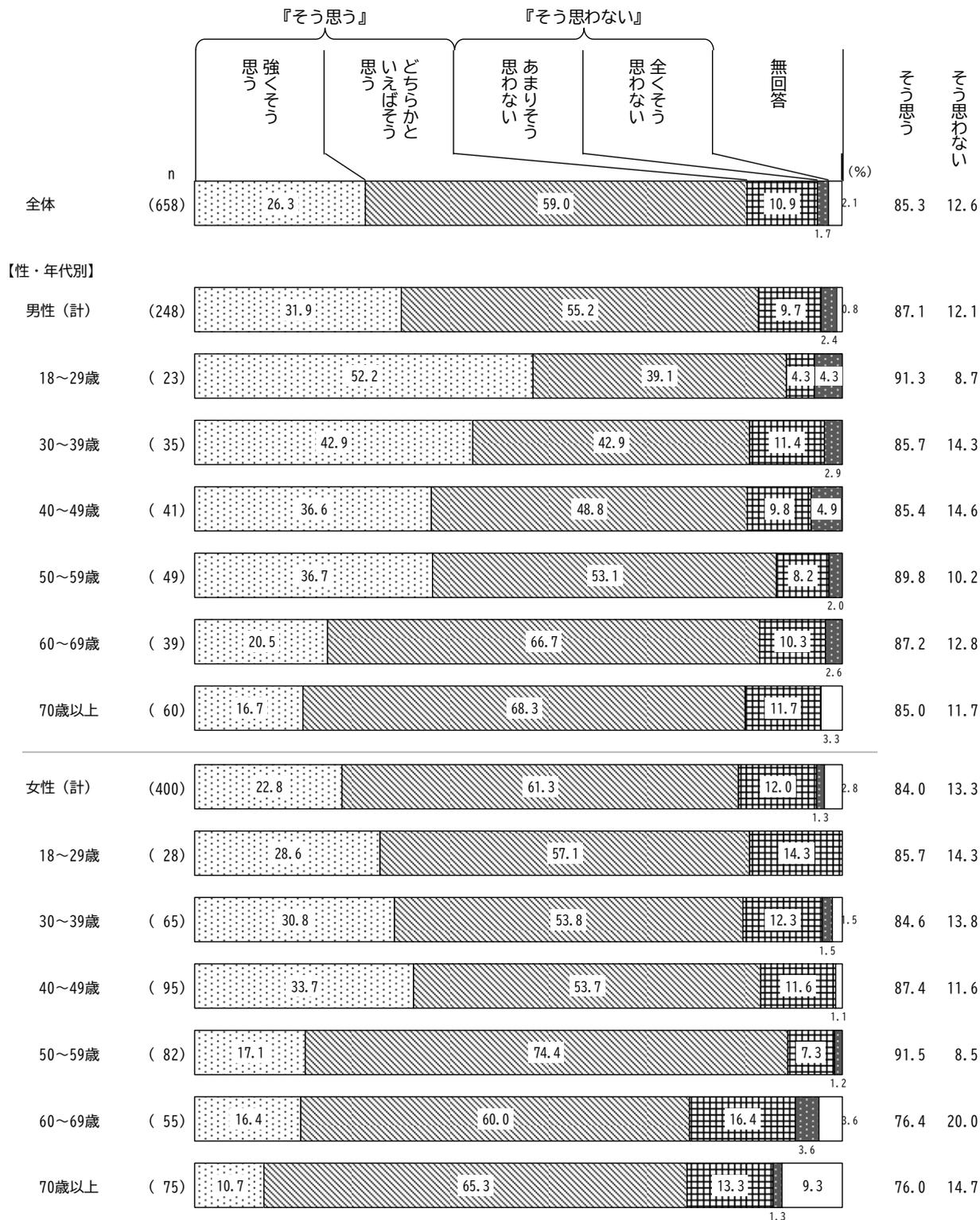
性・年代別で見ると、『そう思う』は女性 40~49 歳 (60.0%) で6割となっている。一方、「そう思わない」は男性 60~69 歳 (59.0%) で約6割となっている。(図3-5-12)

政策目標 (6) 地域の防災活動が活発に行われている  
(居住地区別) 図3-5-13



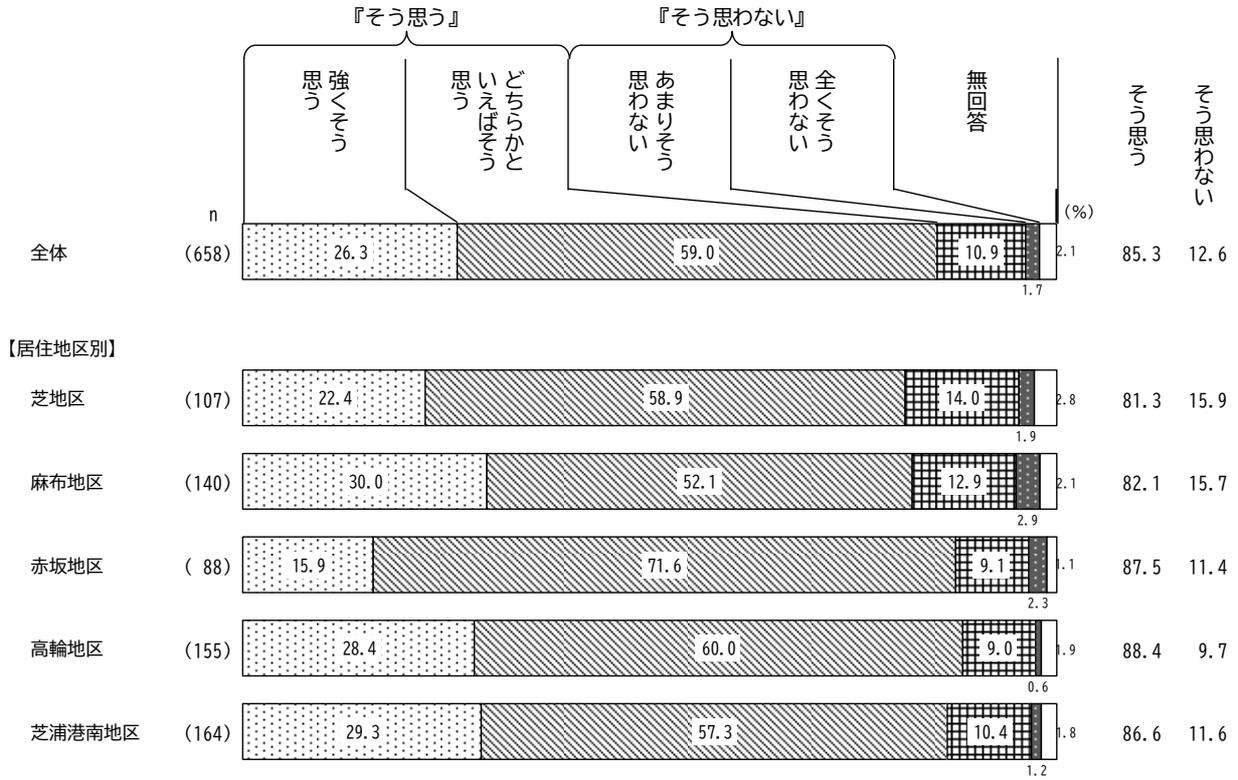
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（62.2%）で6割を超え、高輪地区（49.7%）で5割となっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（61.4%）で6割を超えている。（図3-5-13）

政策目標 (7) 治安が良く、安心して暮らすことができる  
(性・年代別) 図3-5-14



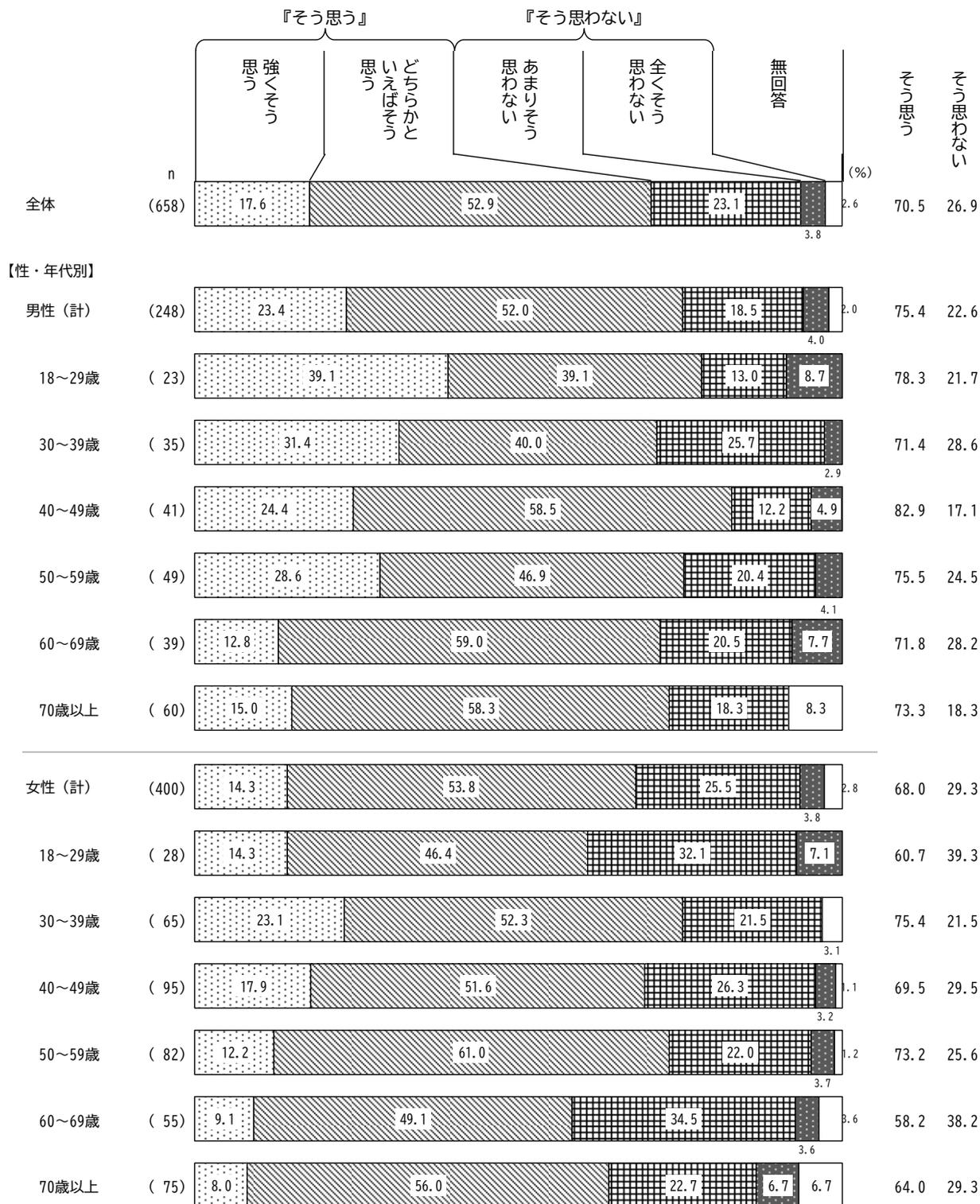
性別で見ると、『そう思う』は男性 (87.1%) が女性 (84.0%) より 3.1 ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は女性 50~59 歳 (91.5%) で 9 割を超えている。一方、『そう思わない』は女性 60~69 歳 (20.0%) で 2 割となっている。(図3-5-14)

政策目標 (7) 治安が良く、安心して暮らすことができる  
(居住地区別) 図3-5-15



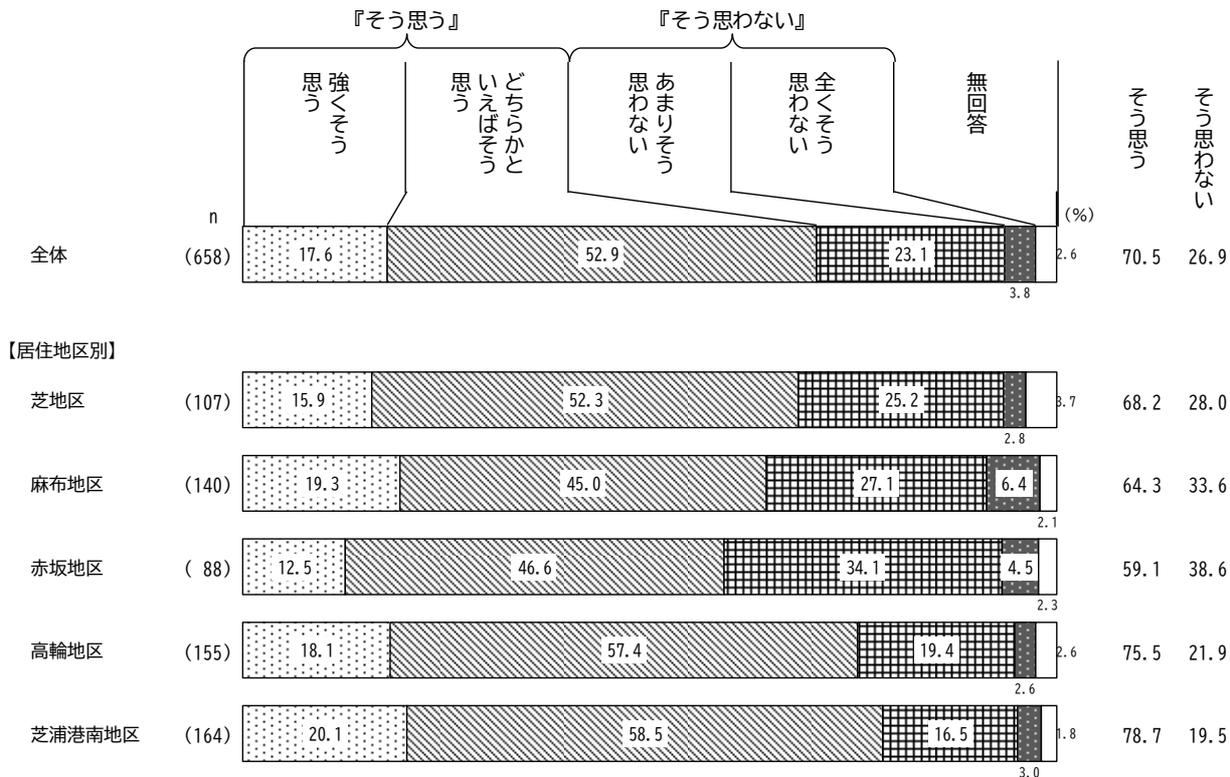
居住地区別で見ると、『そう思う』は高輪地区（88.4%）、赤坂地区（87.5%）でともに9割近くとなっている。一方、『そう思わない』は芝地区（15.9%）で1割半ばとなっている。（図3-5-15）

政策目標 (8) 路上にごみがなくきれいなまちである  
(性・年代別) 図3-5-16



性別で見ると、『そう思う』は男性 (75.4%) が女性 (68.0%) より 7.4 ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 40~49 歳 (82.9%) で 8 割を超えている。一方、『そう思わない』は女性 18~29 歳 (39.3%) で約 4 割となっている。(図3-5-16)

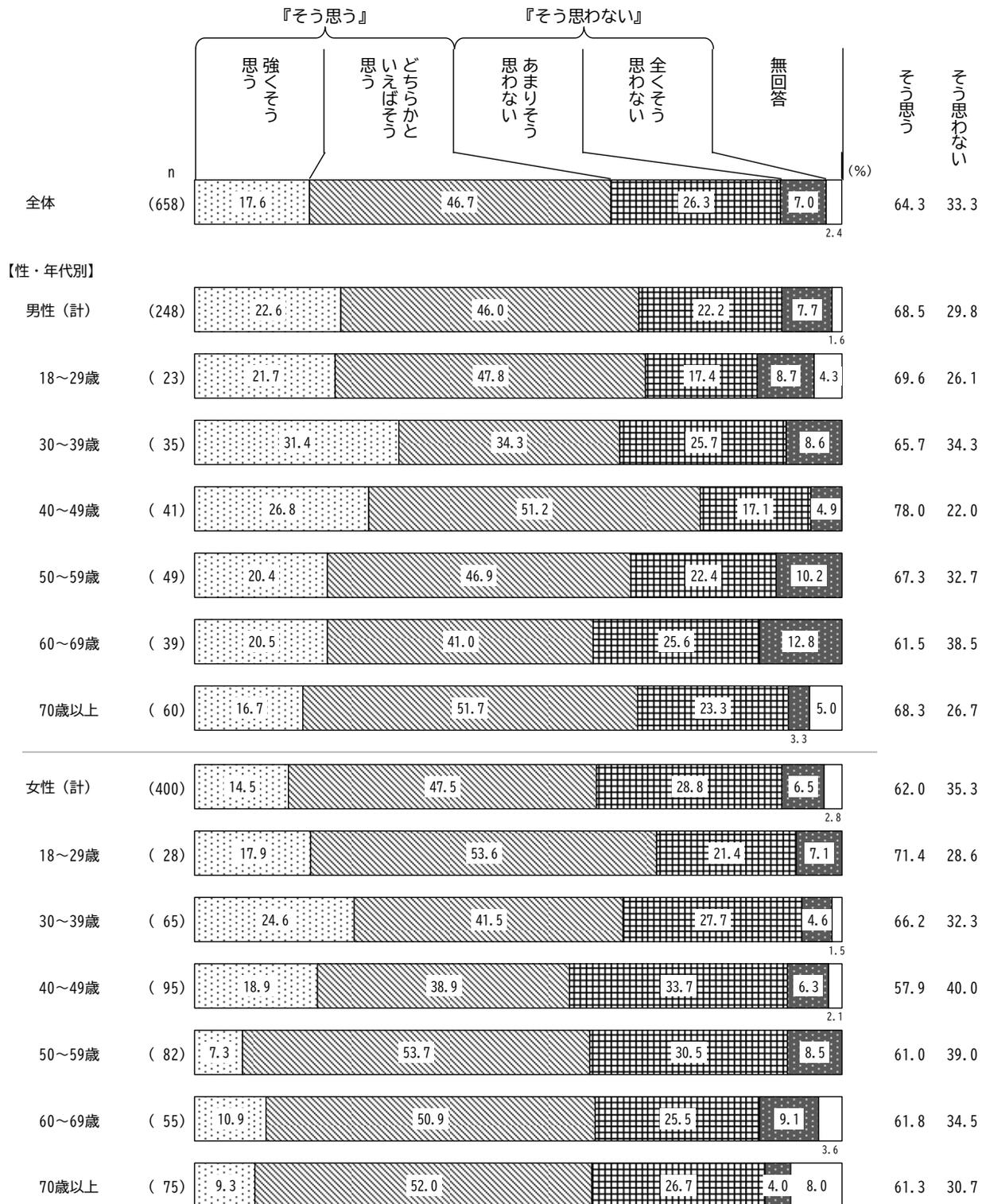
政策目標（8）路上にごみがなくきれいなまちである  
（居住地区別）図3-5-17



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（78.7%）で8割近く、高輪地区（75.5%）で7割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（38.6%）で4割近くとなっている。

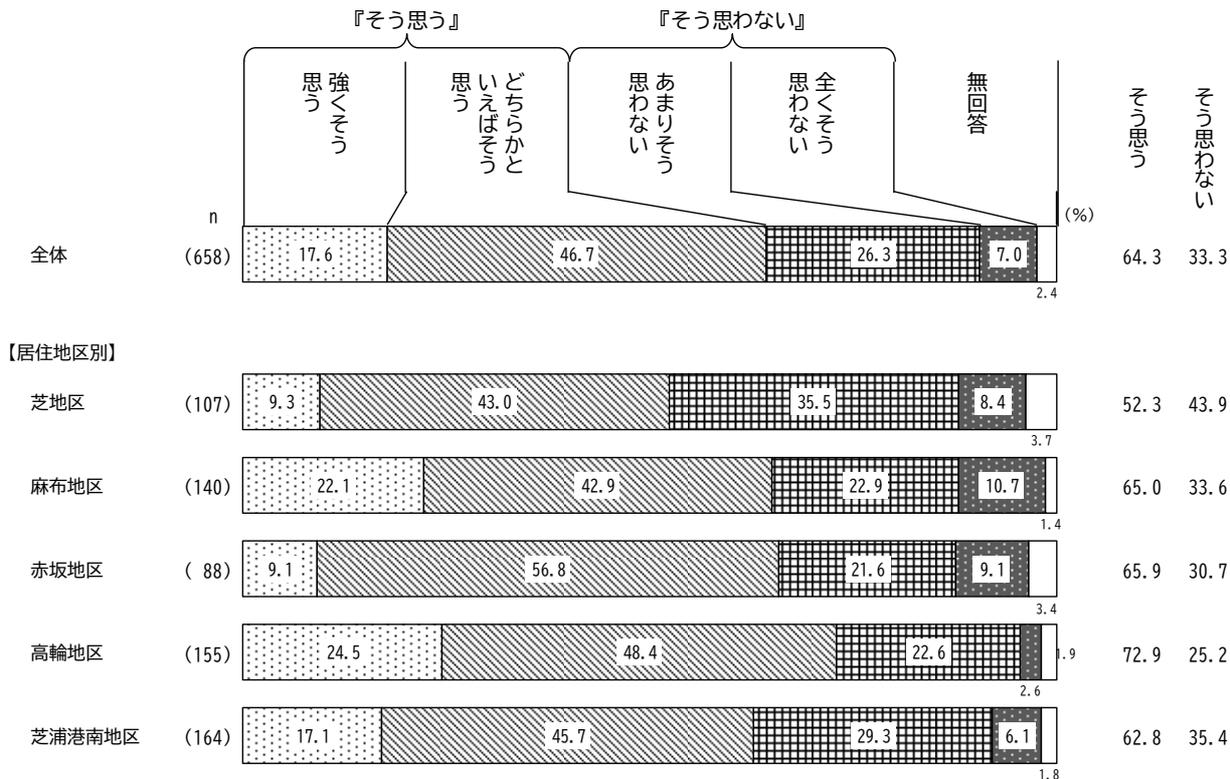
（図3-5-17）

政策目標 (9) 静かで住みやすい住環境である  
(性・年代別) 図3-5-18



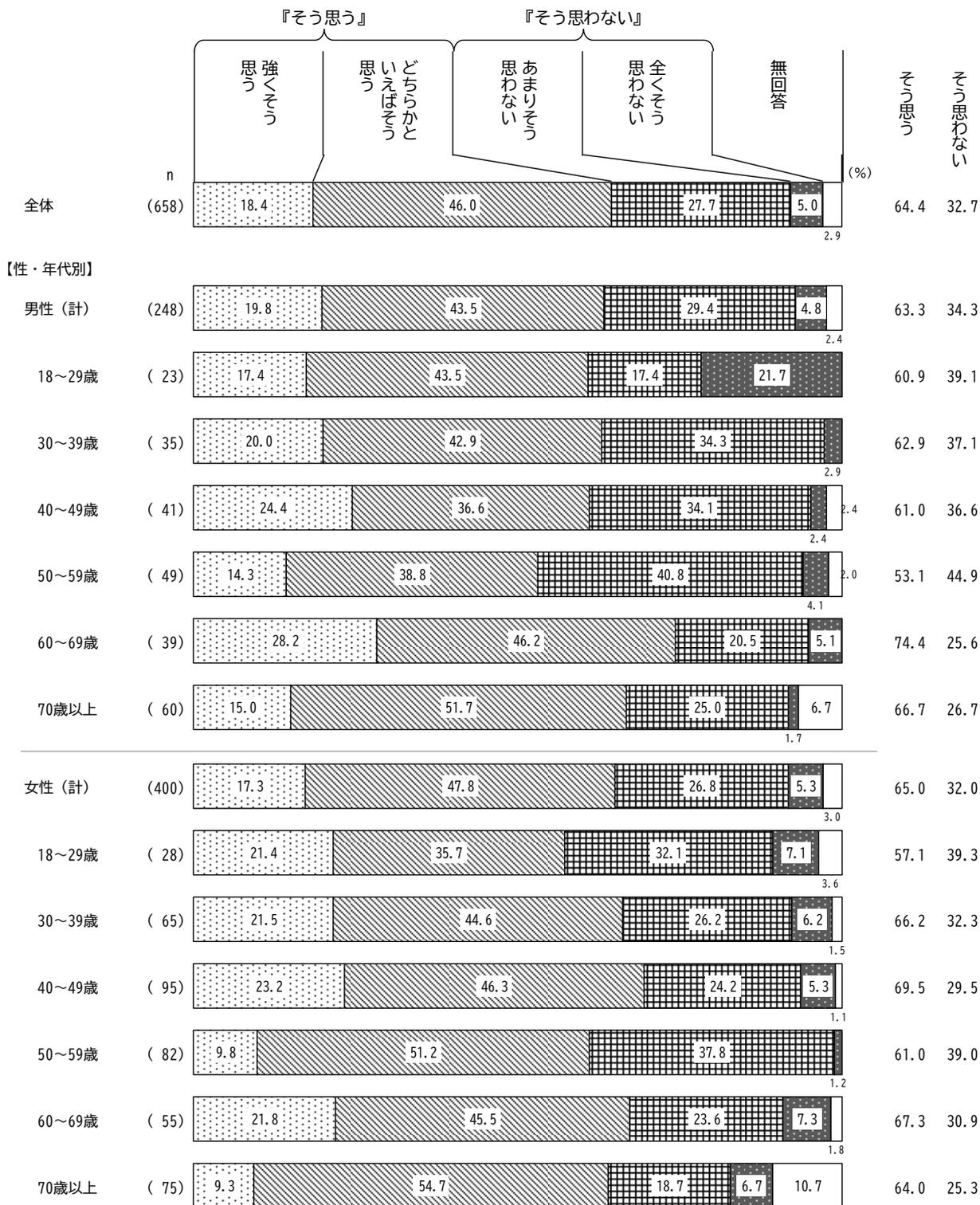
性別で見ると、『そう思う』は男性 (68.5%) が女性 (62.0%) より 6.5 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 40~49 歳 (78.0%) で 8 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は女性 40~49 歳 (40.0%) で 4 割となっている。(図3-5-18)

政策目標 (9) 静かで住みやすい住環境である  
(居住地区別) 図3-5-19



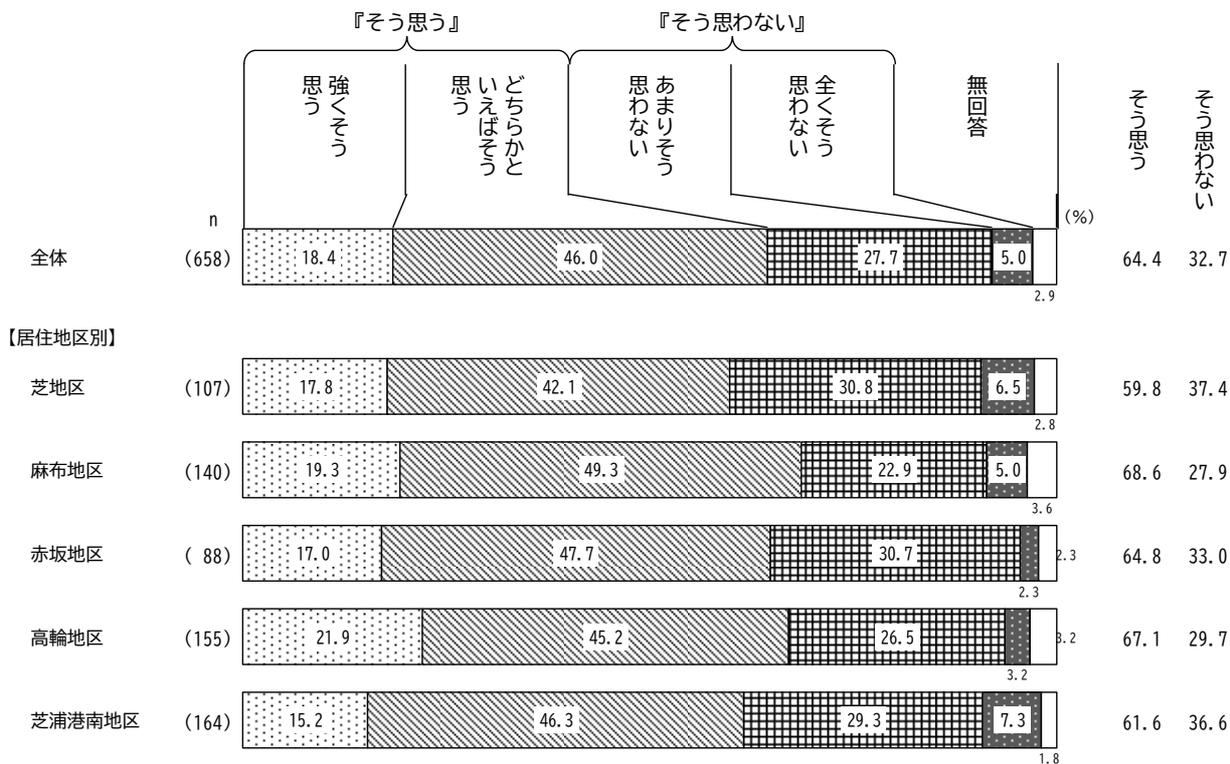
居住地区別で見ると、『そう思う』は高輪地区（72.9%）で7割を超え、赤坂地区（65.9%）、麻布地区（65.0%）で6割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は芝地区（43.9%）で4割を超えている。（図3-5-19）

政策目標 (10) 緑を身近に感じることができる  
(性・年代別) 図3-5-20



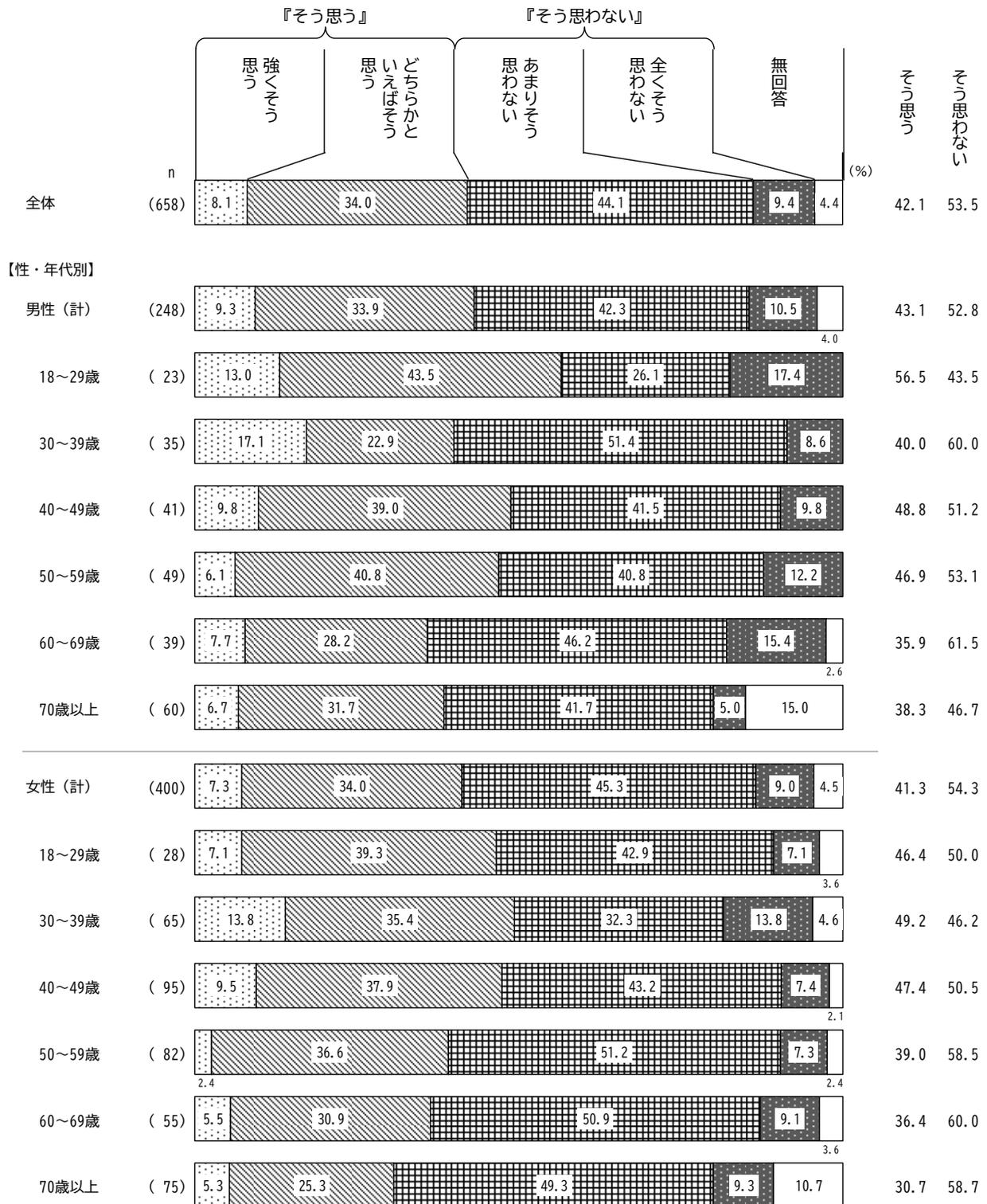
性別でみると、『そう思う』は女性 (65.0%) が男性 (63.3%) より 1.7 ポイント多くなっている。性・年代別でみると、『そう思う』は男性 60~69 歳 (74.4%) で 7 割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は男性 50~59 歳 (44.9%) で 4 割半ばとなっている。(図3-5-20)

政策目標 (10) 緑を身近に感じることができる  
(居住地区別) 図3-5-21



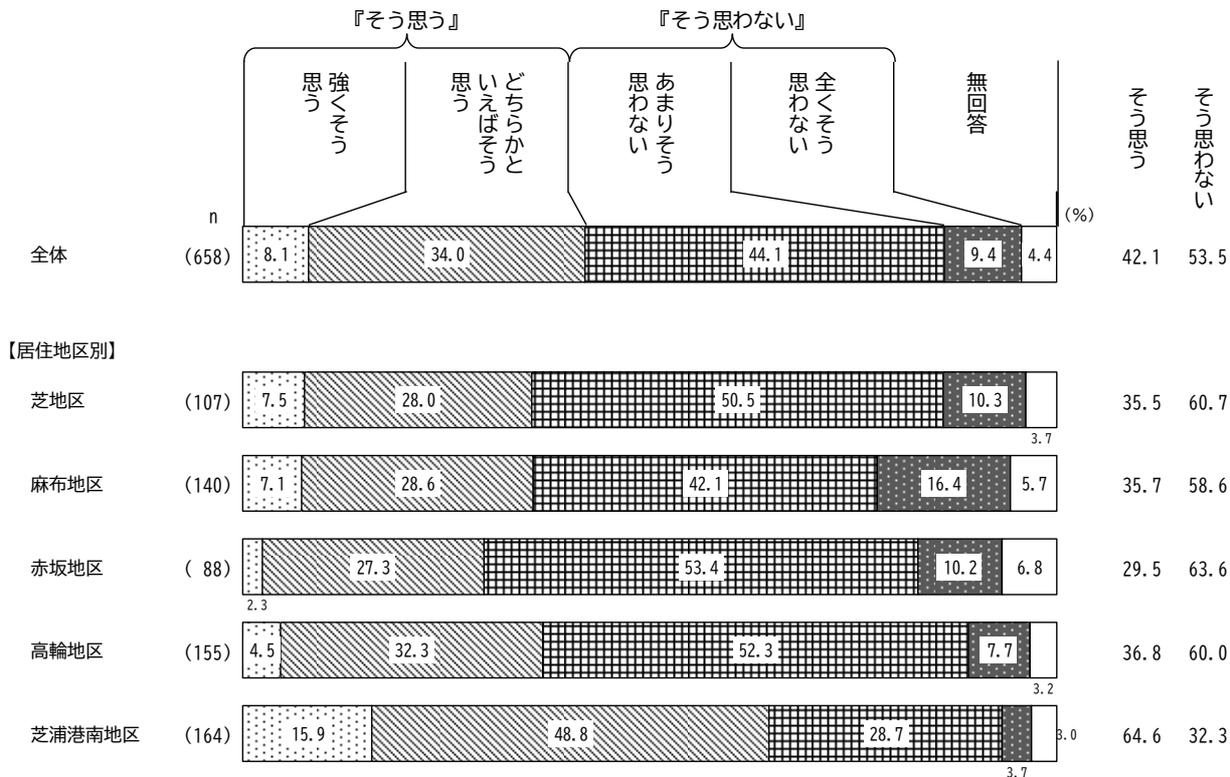
居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区 (68.6%)、高輪地区 (67.1%) で7割近く、一方、『そう思わない』は芝地区 (37.4%) で4割近くとなっている。(図3-5-21)

政策目標 (11) 運河沿いにおいて、にぎわいやうるおいを感じることができる  
(性・年代別) 図3-5-22



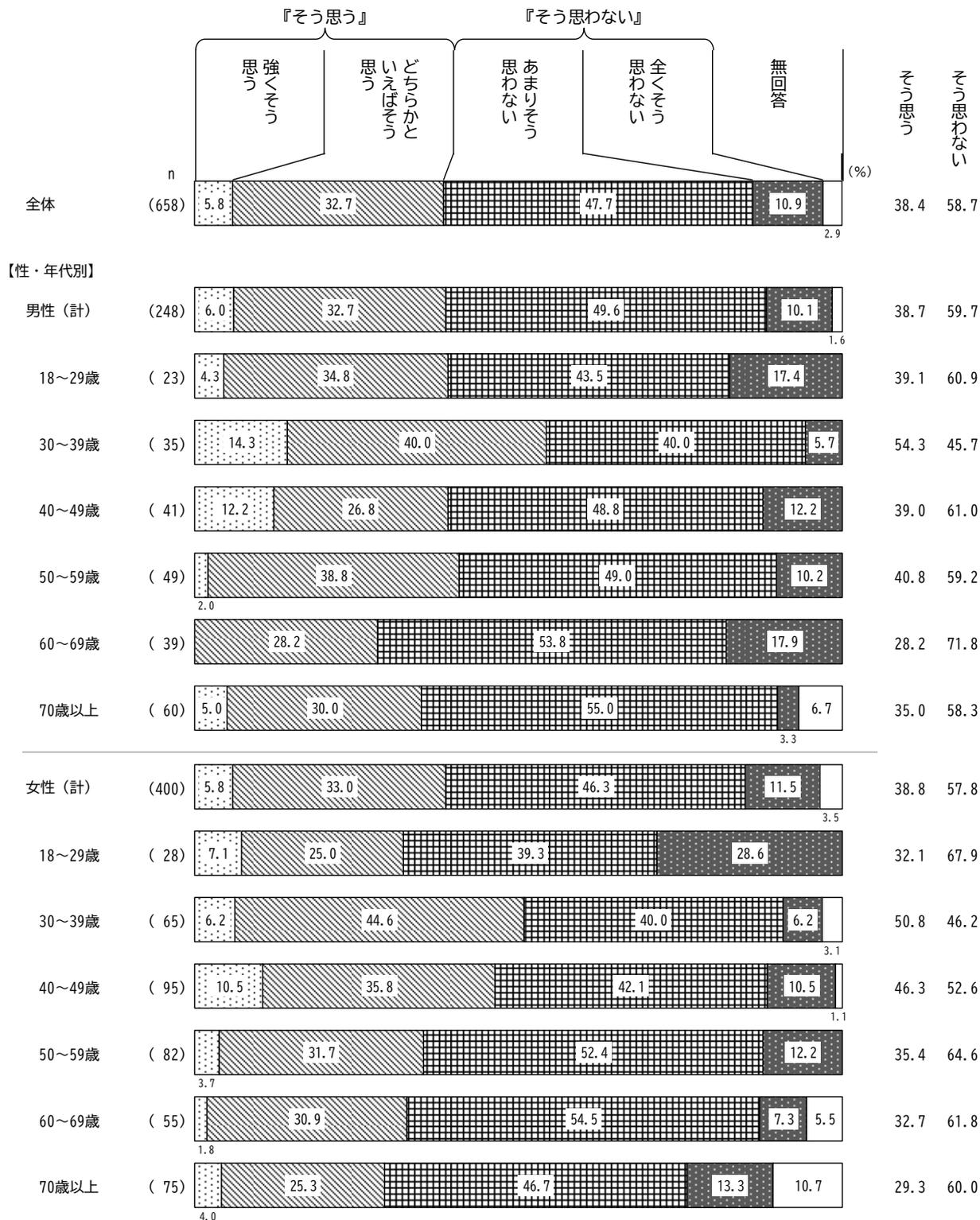
性別で見ると、『そう思う』は男性 (43.1%) が女性 (41.3%) より 1.8 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 18~29 歳 (56.5%) で 6 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (61.5%) で 6 割を超えている。(図3-5-22)

政策目標 (11) 運河沿いにおいて、にぎわいやうるおいを感じることができる  
(居住地区別) 図3-5-23



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（64.6%）で6割半ば、高輪地区（36.8%）で4割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（63.6%）で6割を超えている。（図3-5-23）

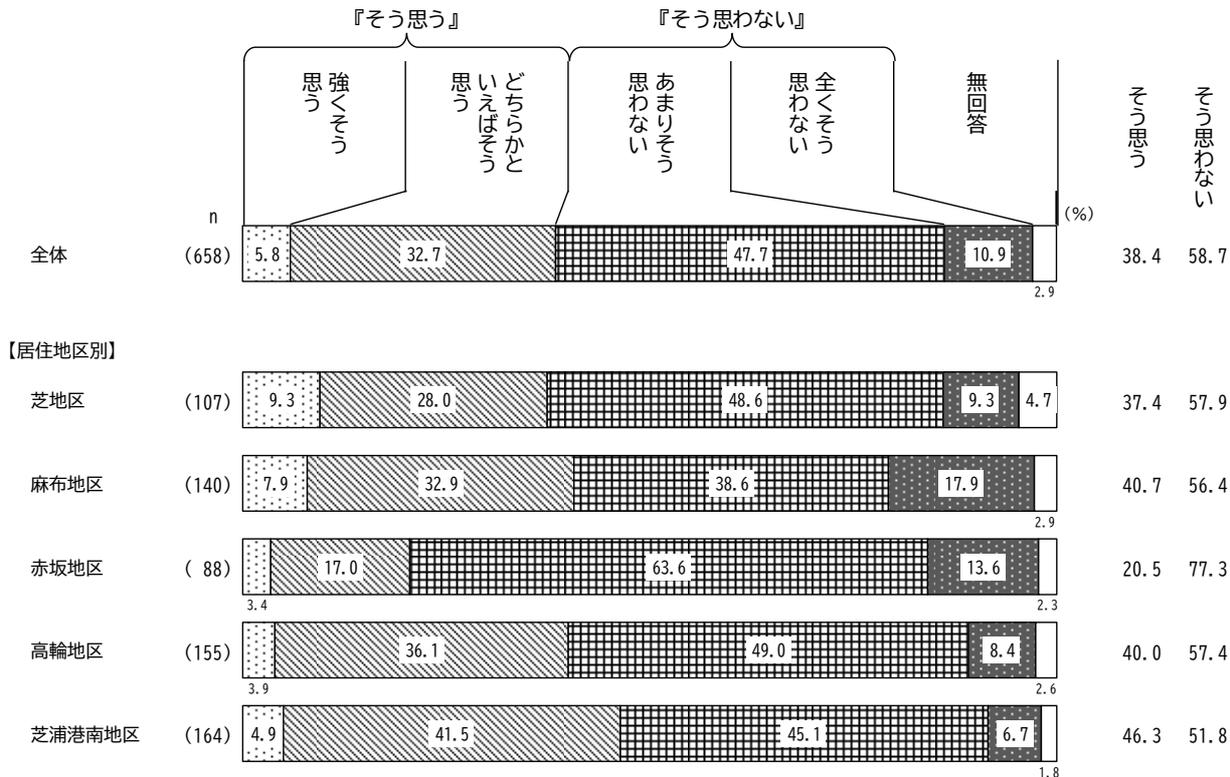
政策目標 (12) 地域における交流の機会が充実している  
(性・年代別) 図3-5-24



性別で見ると、『そう思う』は男女間で大きな違いは見られない。

性・年代別で見ると、『そう思う』は男性30~39歳(54.3%)で5割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は男性60~69歳(71.8%)で7割を超えている。(図3-5-24)

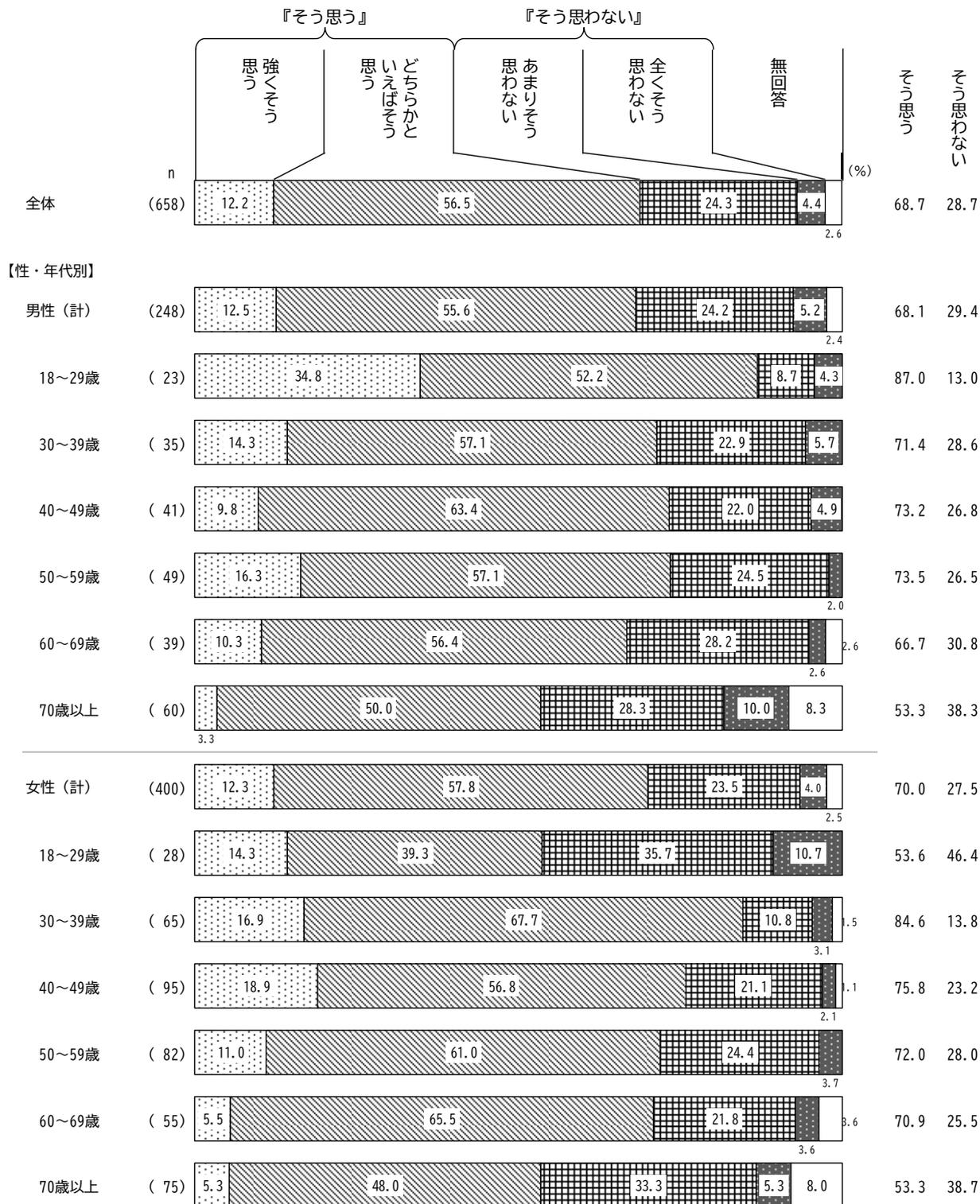
政策目標 (12) 地域における交流の機会が充実している  
(居住地区別) 図3-5-25



居住地区別でみると、『そう思う』は芝浦港南地区（46.3%）で4割半ば、麻布地区（40.7%）で約4割となっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（77.3%）で8割近くとなっている。

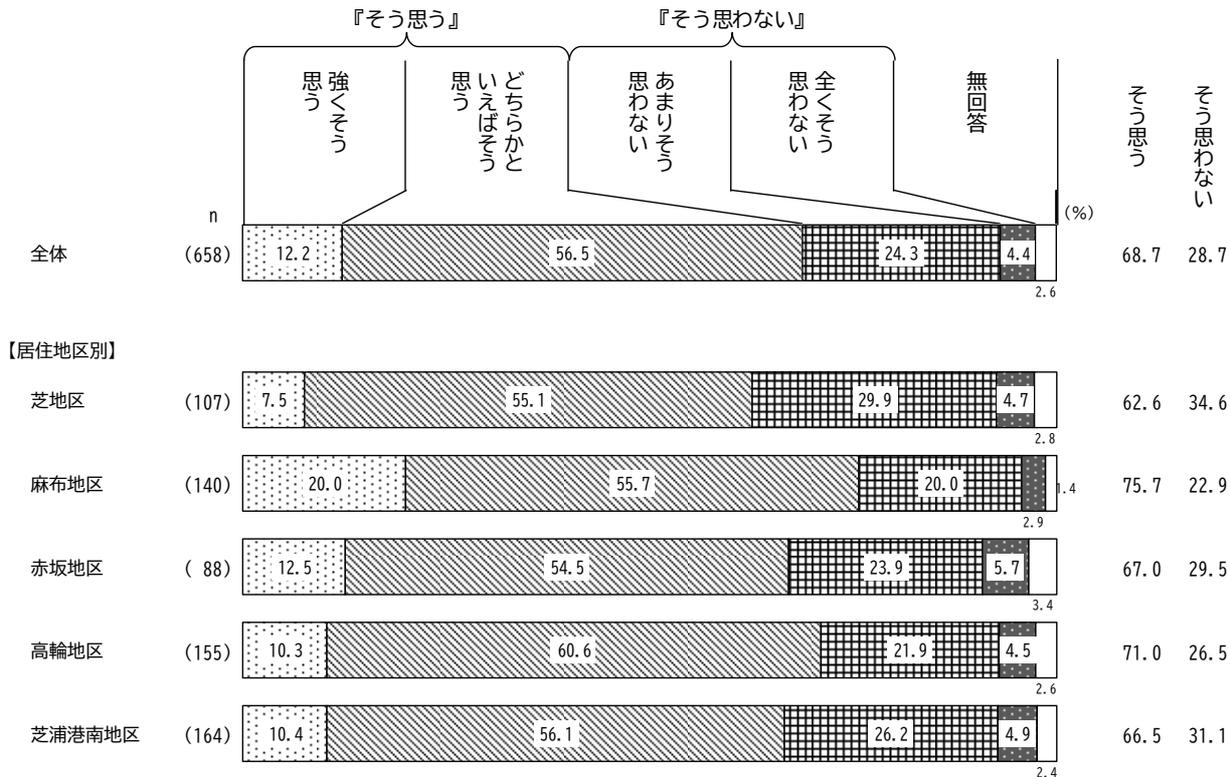
(図3-5-25)

政策目標 (13) 外国人が日本の習慣に馴染んで生活している  
(性・年代別) 図3-5-26



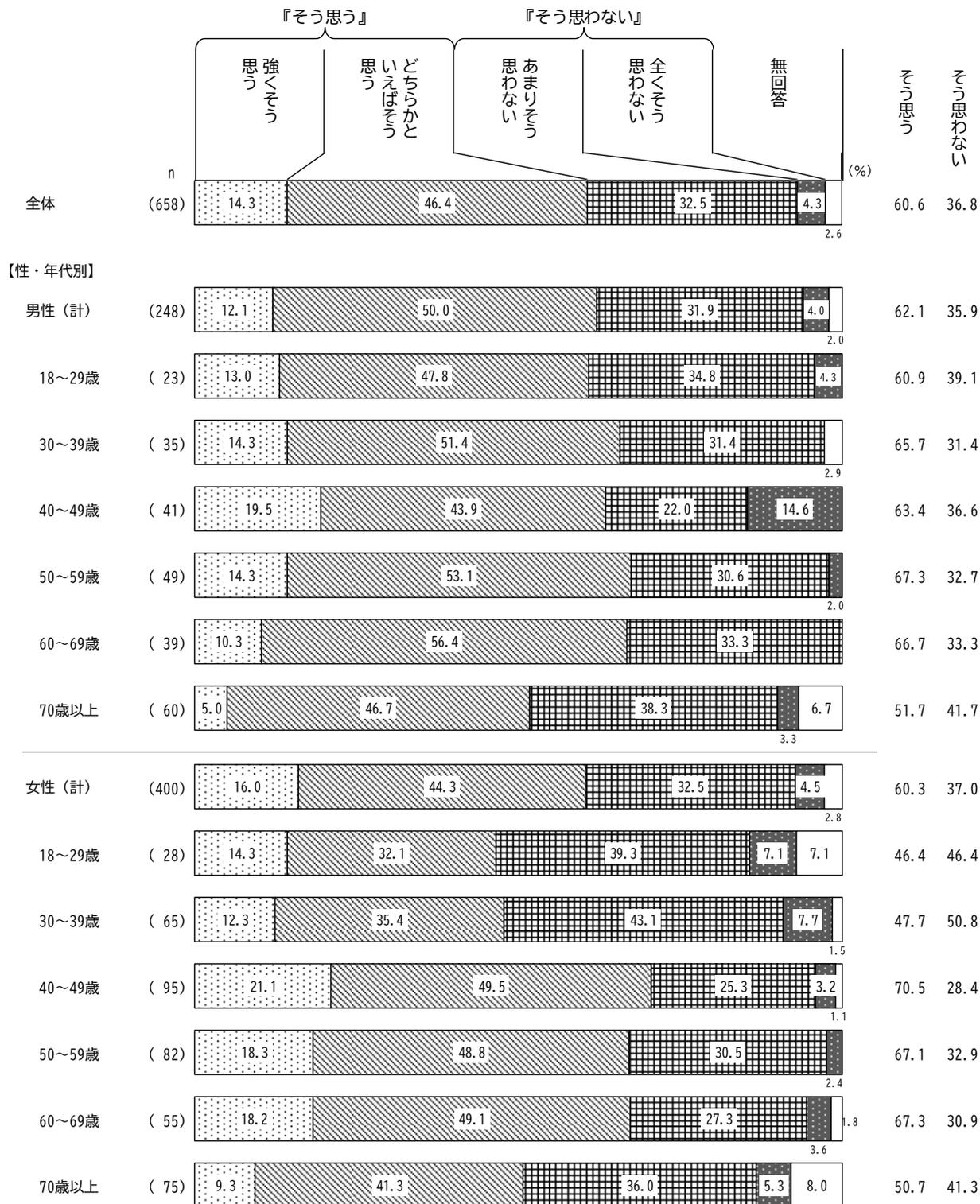
性別で見ると、『そう思う』は女性(70.0%)が男性(68.1%)より1.9ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性18~29歳(87.0%)で9割近くとなっている。一方、『そう思わない』は女性18~29歳(46.4%)で4割半ばとなっている。(図3-5-26)

政策目標 (13) 外国人が日本の習慣に馴染んで生活している  
(居住地区別) 図3-5-27



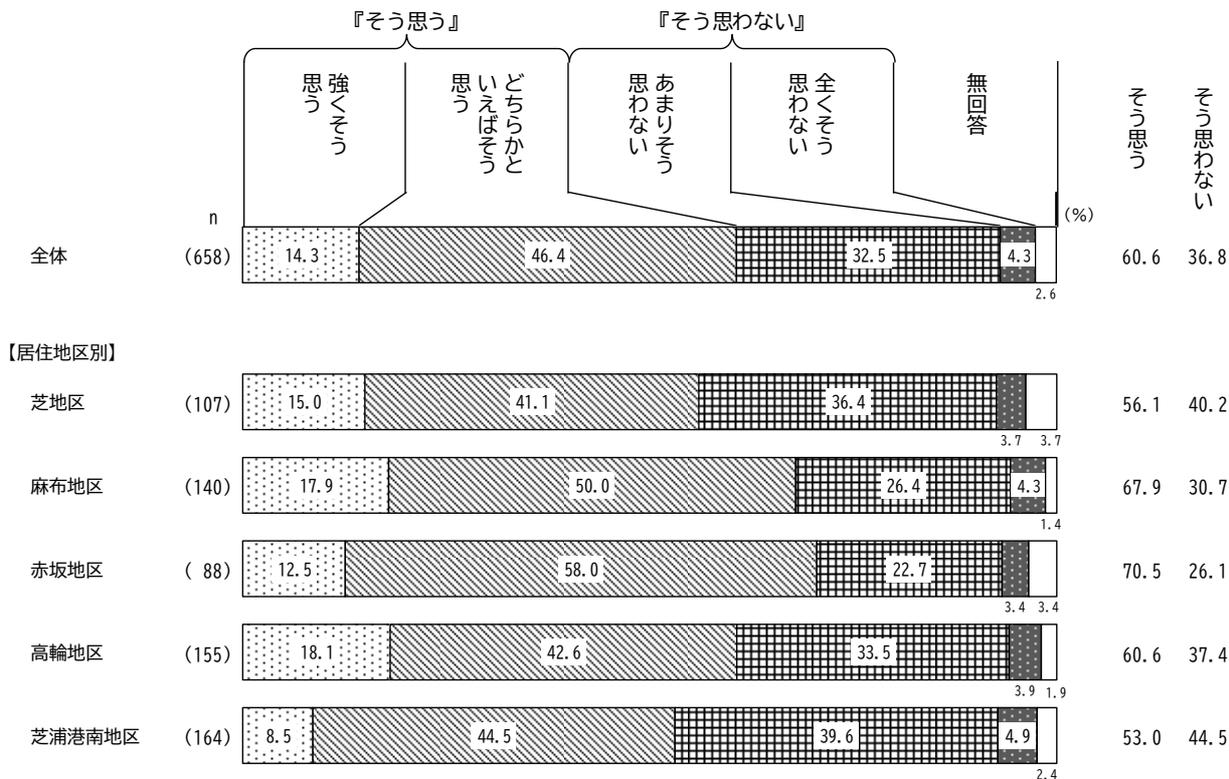
居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区（75.7%）で7割半ば、高輪地区（71.0%）で7割を超えている。一方、『そう思わない』は芝地区（34.6%）で3割半ばとなっている。（図3-5-27）

政策目標 (14) 文化芸術に触れられる機会が充実している  
(性・年代別) 図3-5-28



性別で見ると、『そう思う』は男性 (62.1%) が女性 (60.3%) より 1.8 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は女性 40~49 歳 (70.5%) で約 7 割となっている。一方、『そう思わない』は女性 30~39 歳 (50.8%) で約 5 割となっている。(図3-5-28)

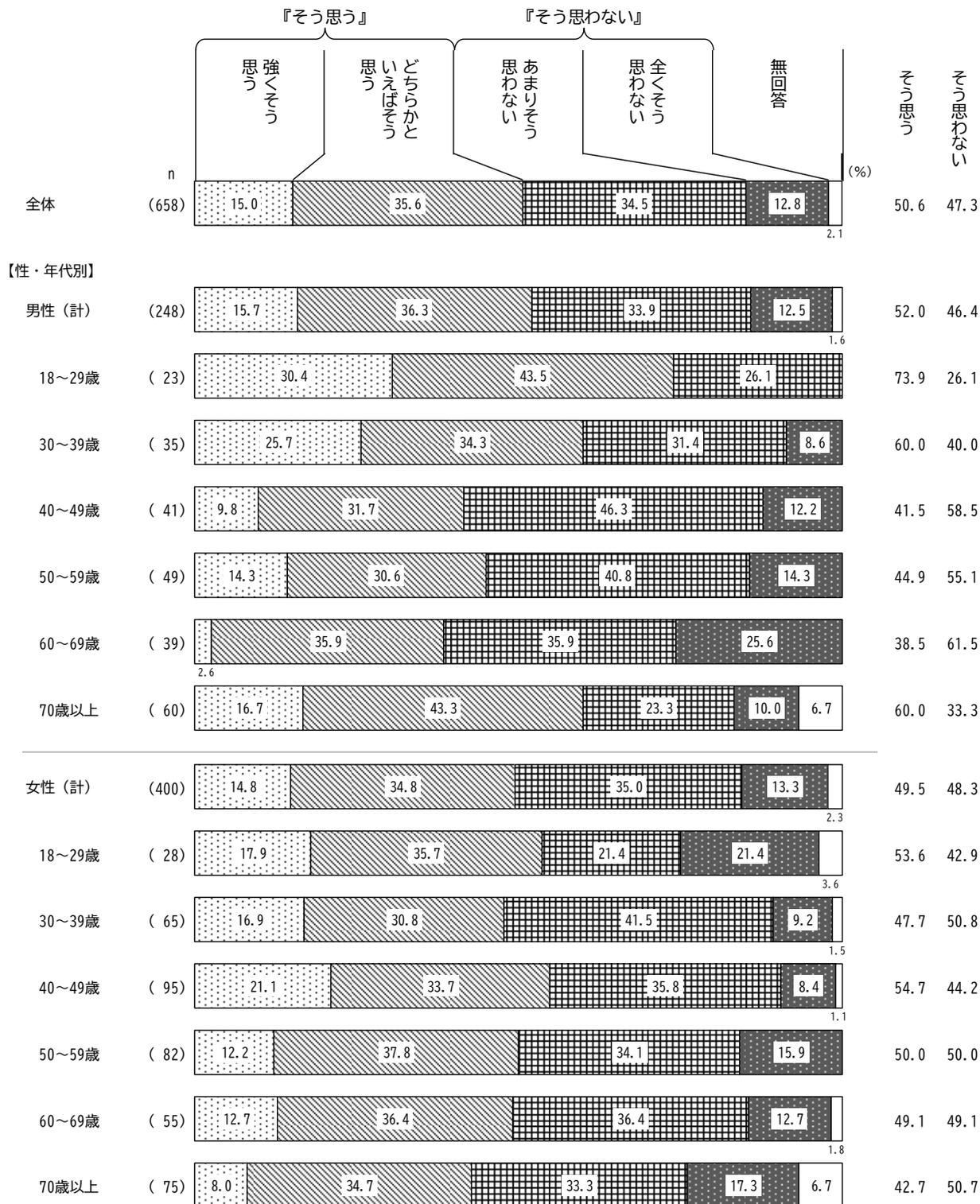
政策目標（14）文化芸術に触れられる機会が充実している  
（居住地区別）図3-5-29



居住地区別で見ると、『そう思う』は赤坂地区（70.5%）で約7割、麻布地区（67.9%）で7割近くとなっている。一方、『そう思わない』は芝浦港南地区（44.5%）で4割半ばとなっている。

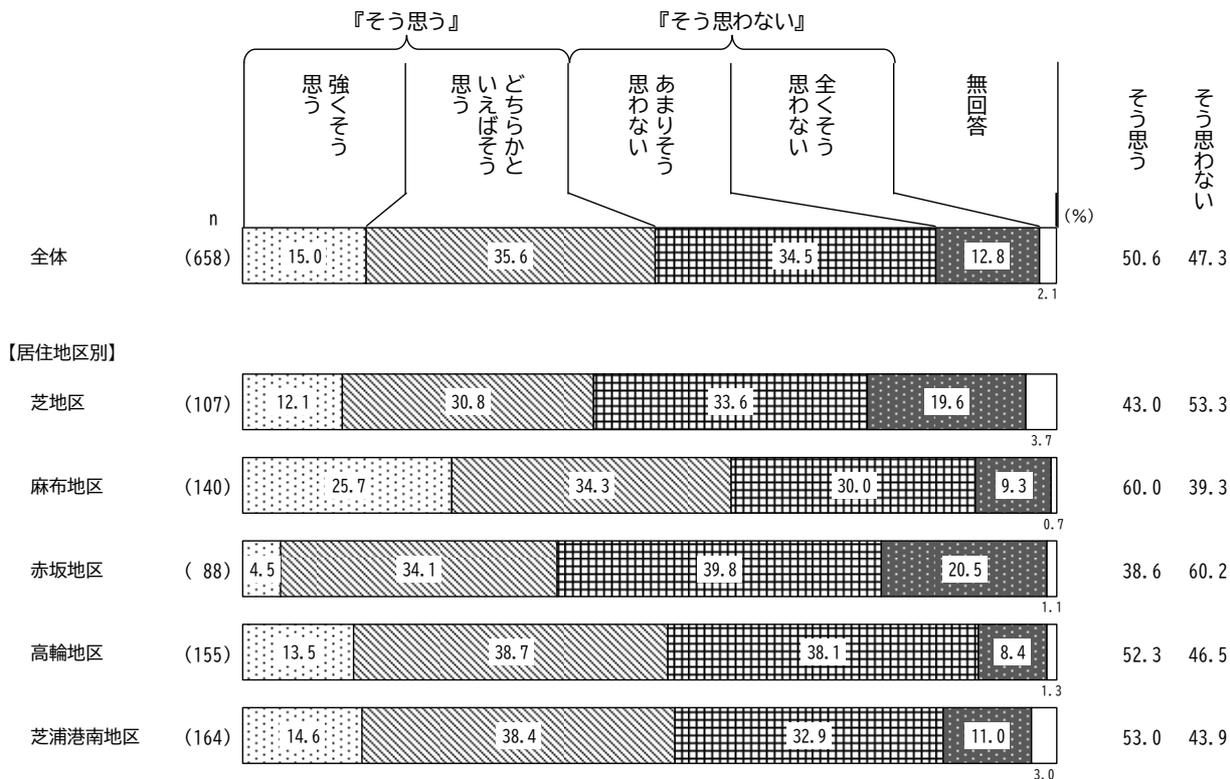
(図3-5-29)

政策目標 (15) 食料や日用品の店舗が充実している  
(性・年代別) 図3-5-30



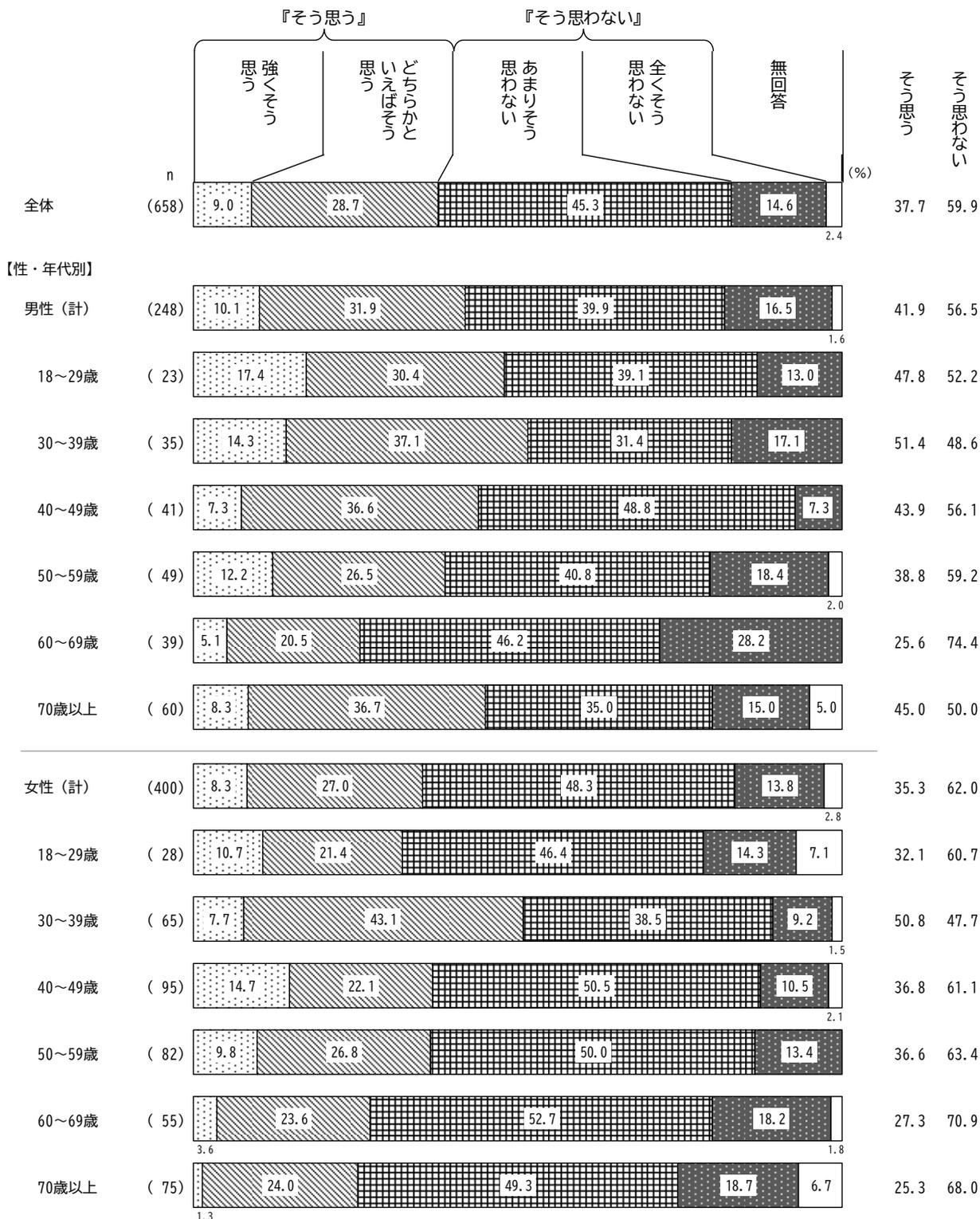
性別で見ると、『そう思う』は男性 (52.0%) が女性 (49.5%) より 2.5 ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 18~29 歳 (73.9%) で 7 割を超えている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (61.5%) で 6 割を超えている。(図3-5-30)

政策目標 (15) 食料や日用品の店舗が充実している  
(居住地区別) 図3-5-31



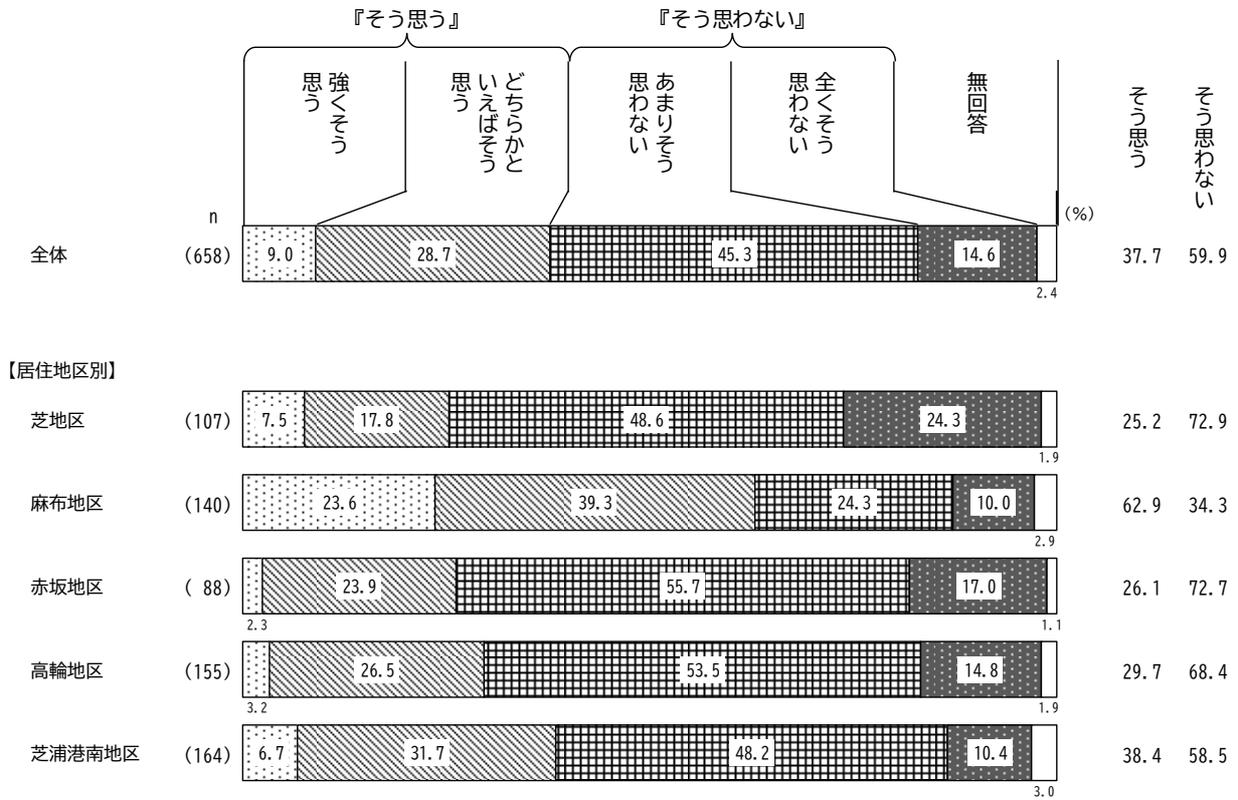
居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区（60.0%）で6割、芝浦港南地区（53.0%）で5割を超えている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（60.2%）で6割となっている。（図3-5-31）

政策目標 (16) 商店街に活気がある  
(性・年代別) 図3-5-32



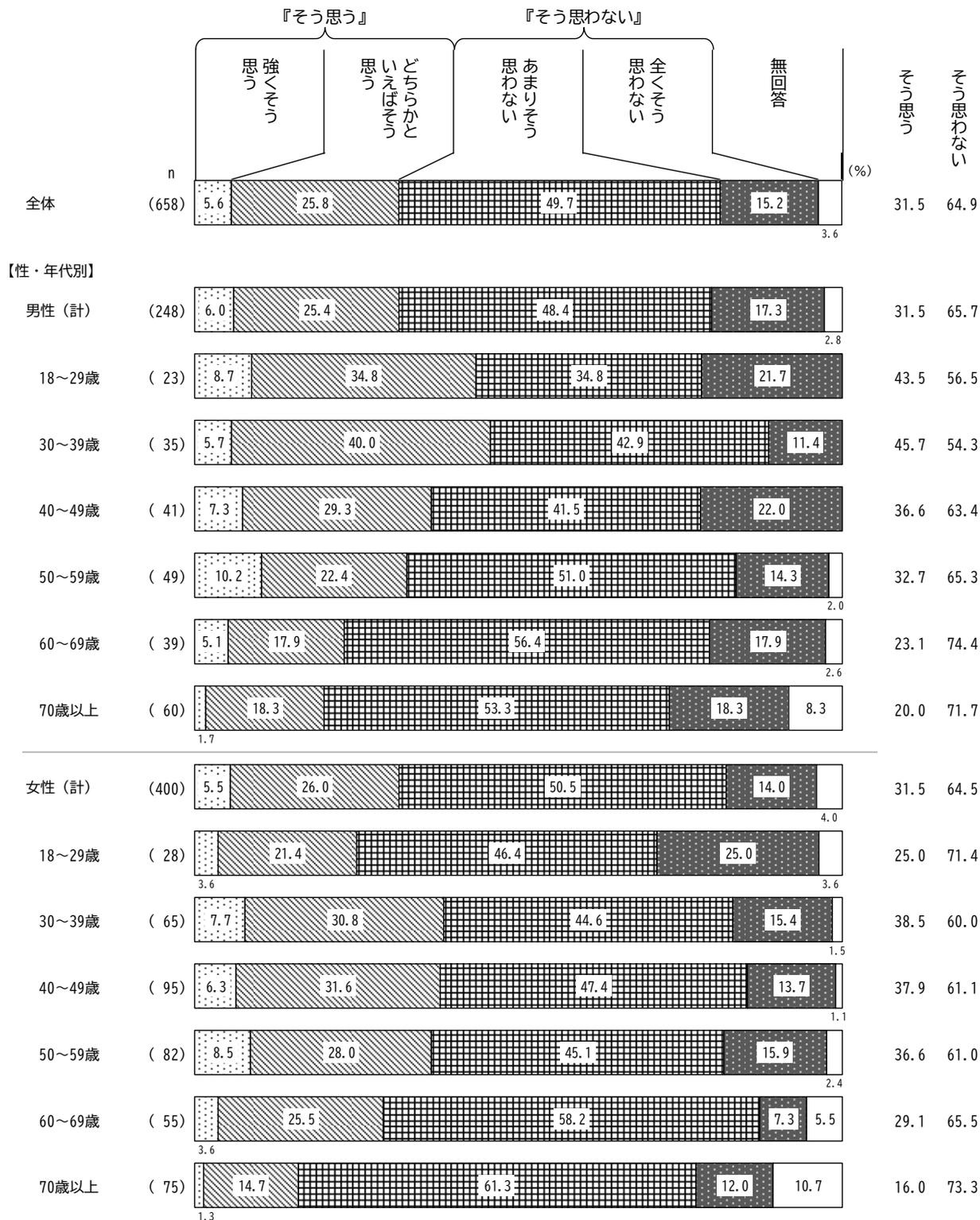
性別でみると、『そう思う』は男性 (41.9%) が女性 (35.3%) より 6.6 ポイント多くなっている。  
性・年代別でみると、『そう思う』は男性 30~39 歳 (51.4%) で 5 割を超えている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (74.4%) で 7 割半ばとなっている。(図3-5-32)

政策目標（16）商店街に活気がある  
（居住地区別）図3-5-33



居住地区別でみると、『そう思う』は麻布地区（62.9%）で6割を超えている。一方、『そう思わない』は芝地区（72.9%）、赤坂地区（72.7%）で7割を超えている。（図3-5-33）

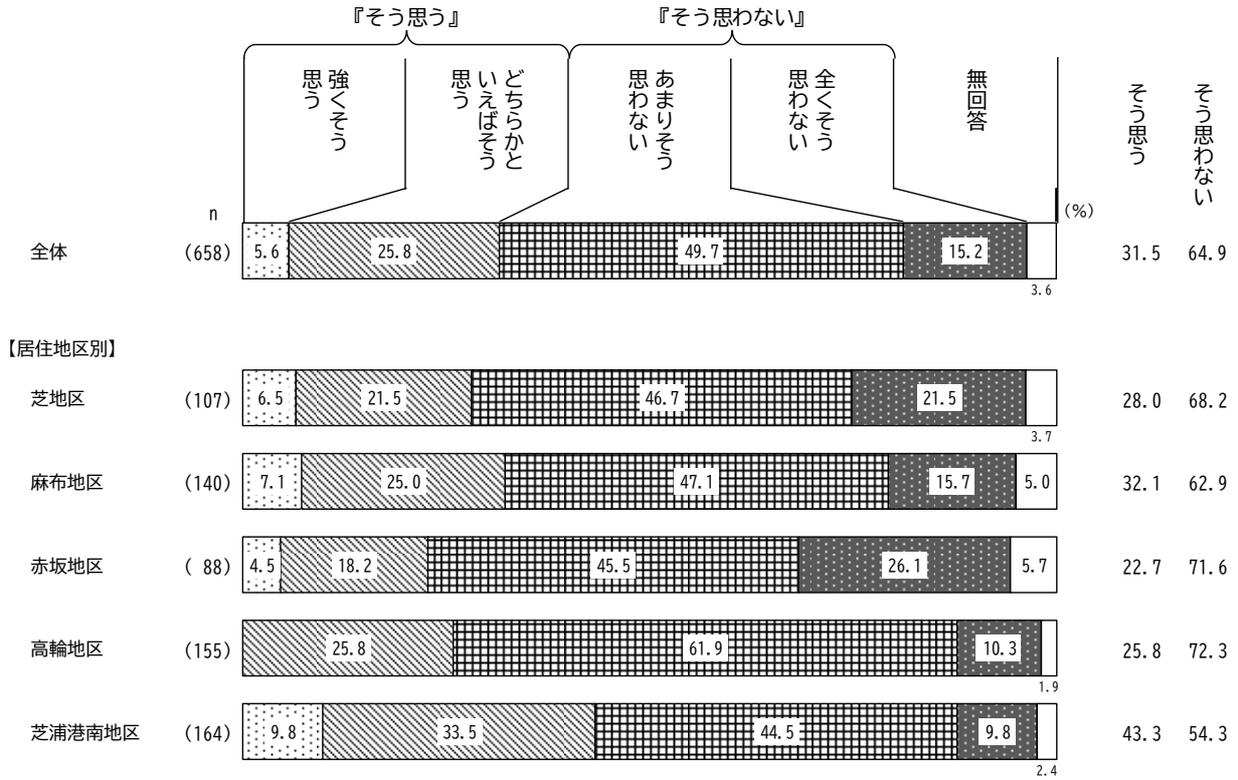
政策目標（17）子どもが放課後に遊べる場所が充実している  
（性・年代別）図3-5-34



性別でみると、『そう思う』は男女間で違いは見られない。

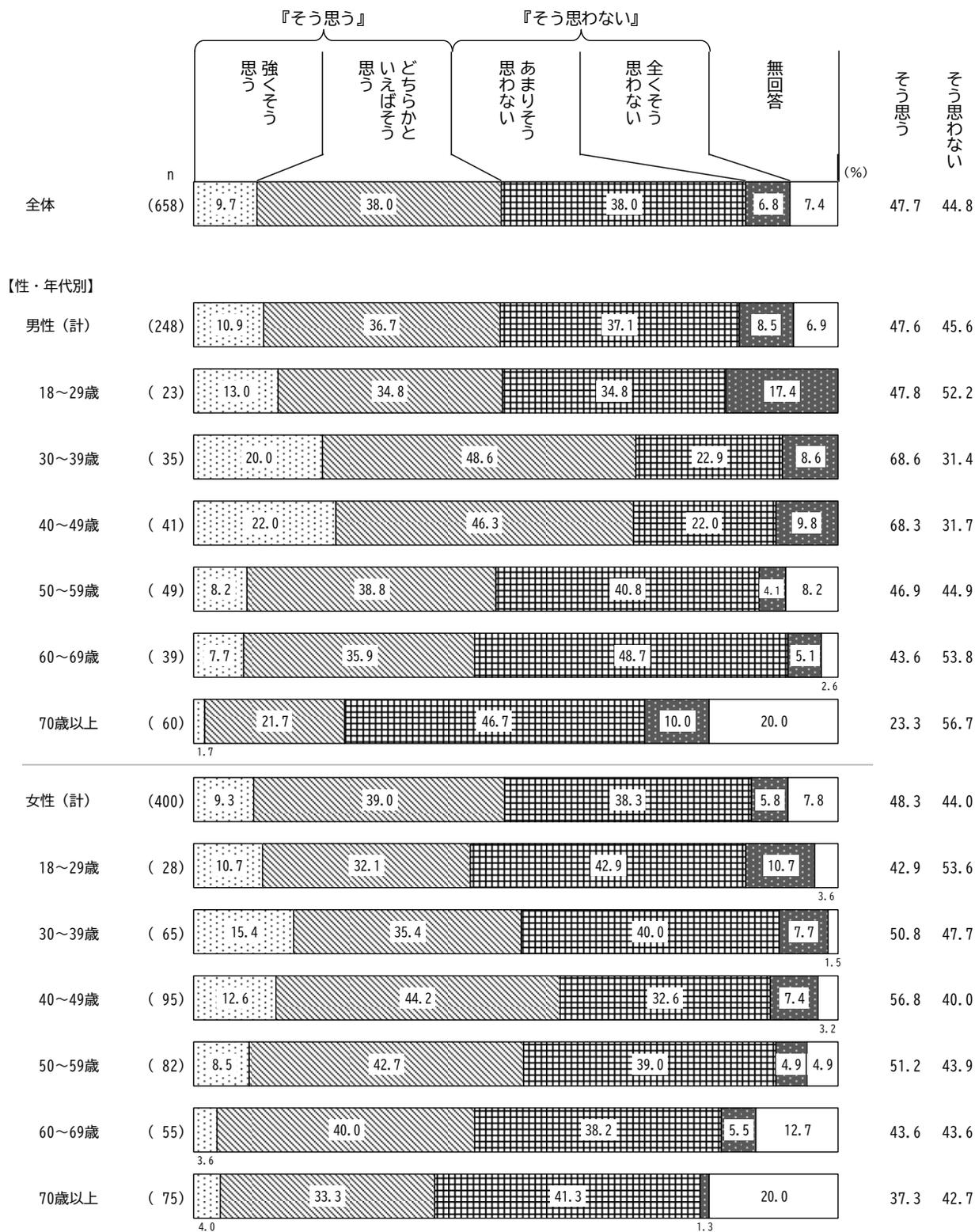
性・年代別でみると、『そう思う』は男性 30～39 歳（45.7%）で4割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は男性 60～69 歳（74.4%）で7割半ばとなっている。（図3-5-34）

政策目標（17）子どもが放課後に遊べる場所が充実している  
（居住地区別）図3-5-35



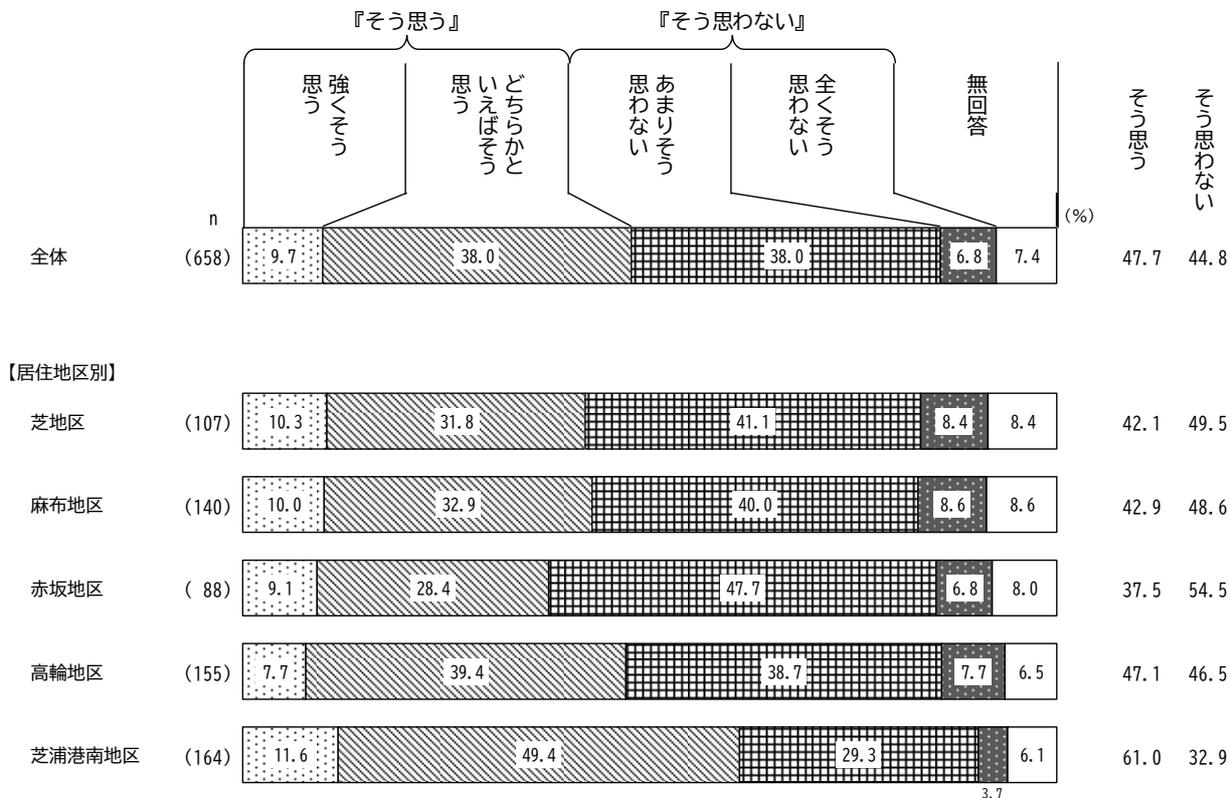
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（43.3%）で4割を超え、麻布地区（32.1%）で3割を超えている。一方、『そう思わない』は高輪地区（72.3%）で7割を超えている。（図3-5-35）

政策目標 (18) 子育て家庭に対する支援が充実している  
(性・年代別) 図3-5-36



性別で見ると、『そう思う』は女性 (48.3%) が男性 (47.6%) より 0.7 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 30~39 歳 (68.6%)、40~49 歳 (68.3%) で 7 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性 70 歳以上 (56.7%) で 6 割近くとなっている。(図3-5-36)

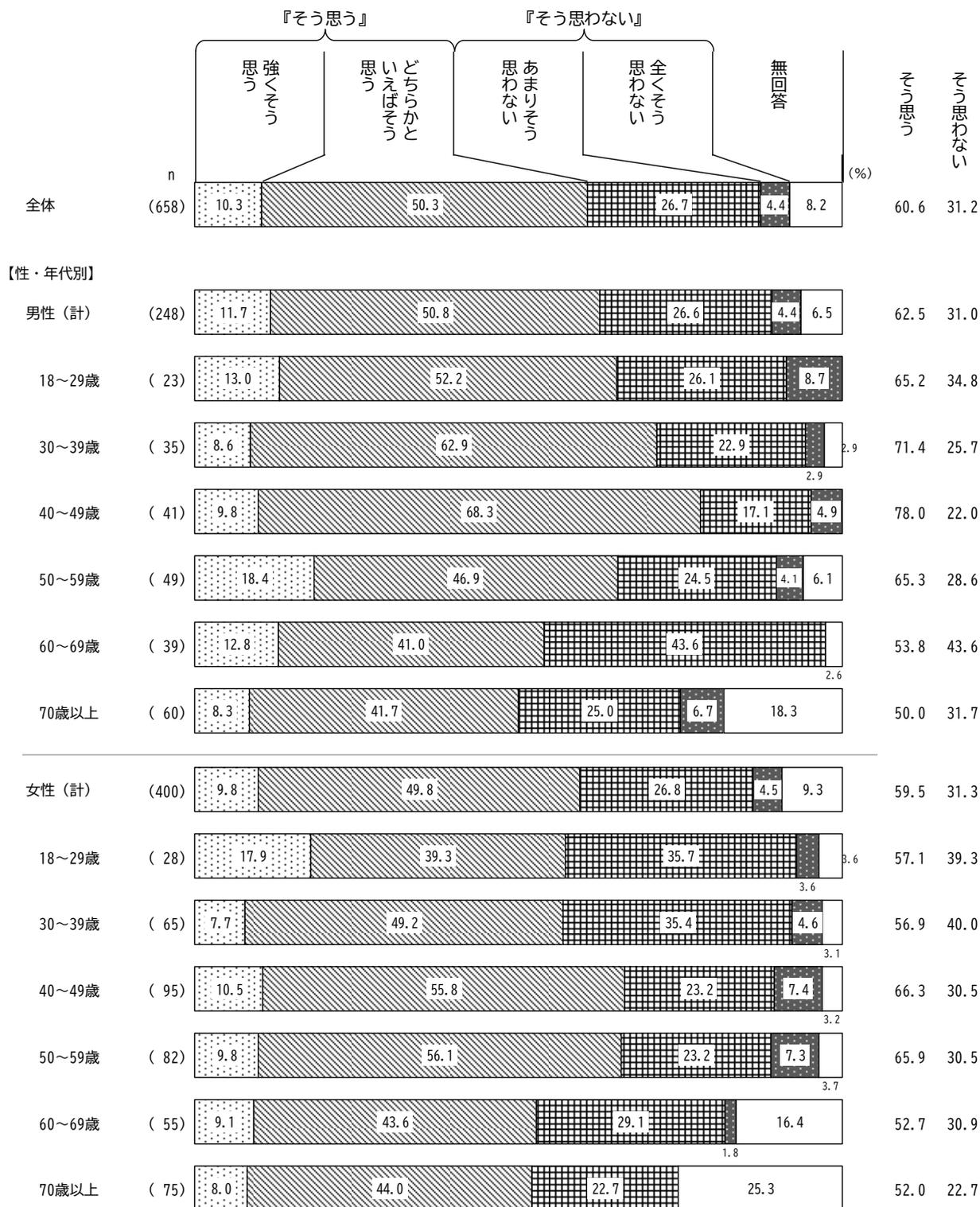
政策目標 (18) 子育て家庭に対する支援が充実している  
(居住地区別) 図3-5-37



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（61.0%）で6割を超え、高輪地区（47.1%）で5割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（54.5%）で5割半ばとなっている。

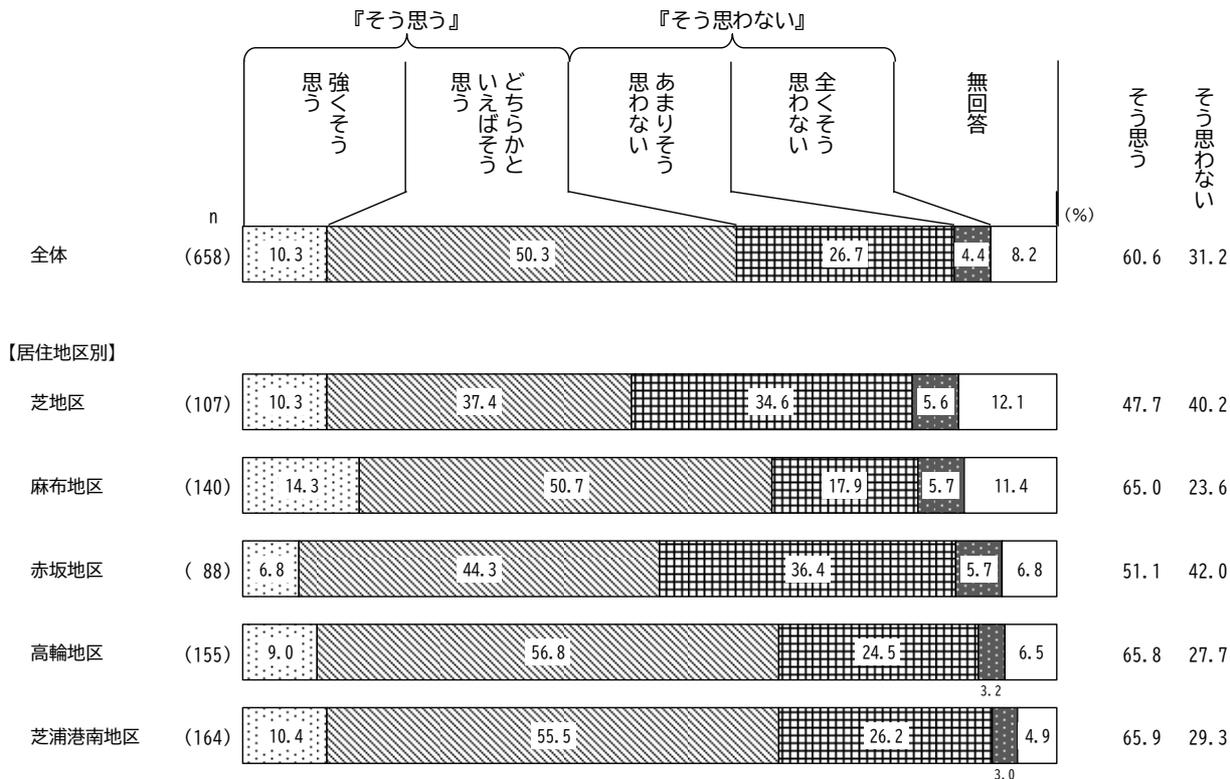
(図3-5-37)

政策目標（19）学校教育が充実している  
（性・年代別）図3-5-38



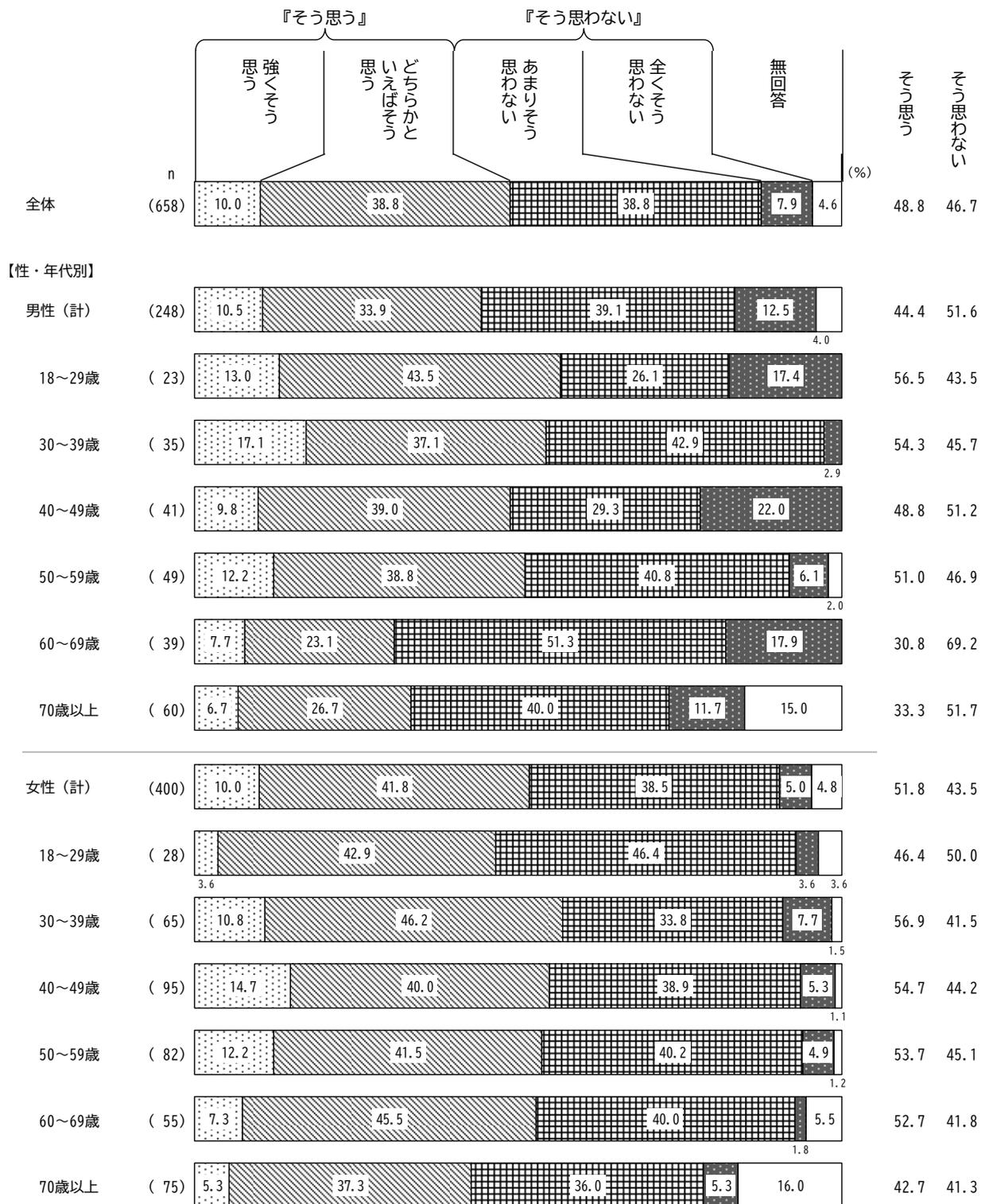
性別で見ると、『そう思う』は男性（62.5%）が女性（59.5%）より3.0ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性40～49歳（78.0%）で8割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性60～69歳（43.6%）で4割を超えている。（図3-5-38）

政策目標 (19) 学校教育が充実している  
(居住地区別) 図3-5-39



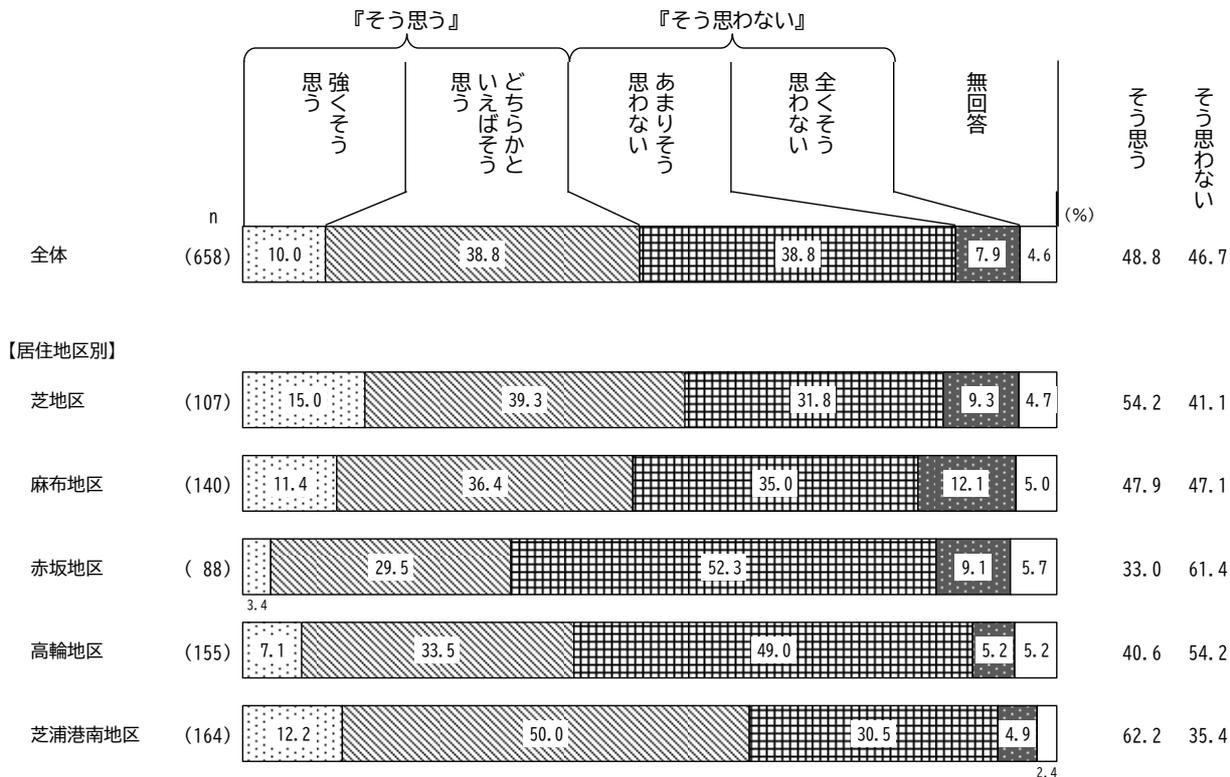
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（65.9%）、高輪地区（65.8%）で6割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（42.0%）で4割を超えている。（図3-5-39）

政策目標 (20) スポーツをできる環境が充実している  
(性・年代別) 図3-5-40



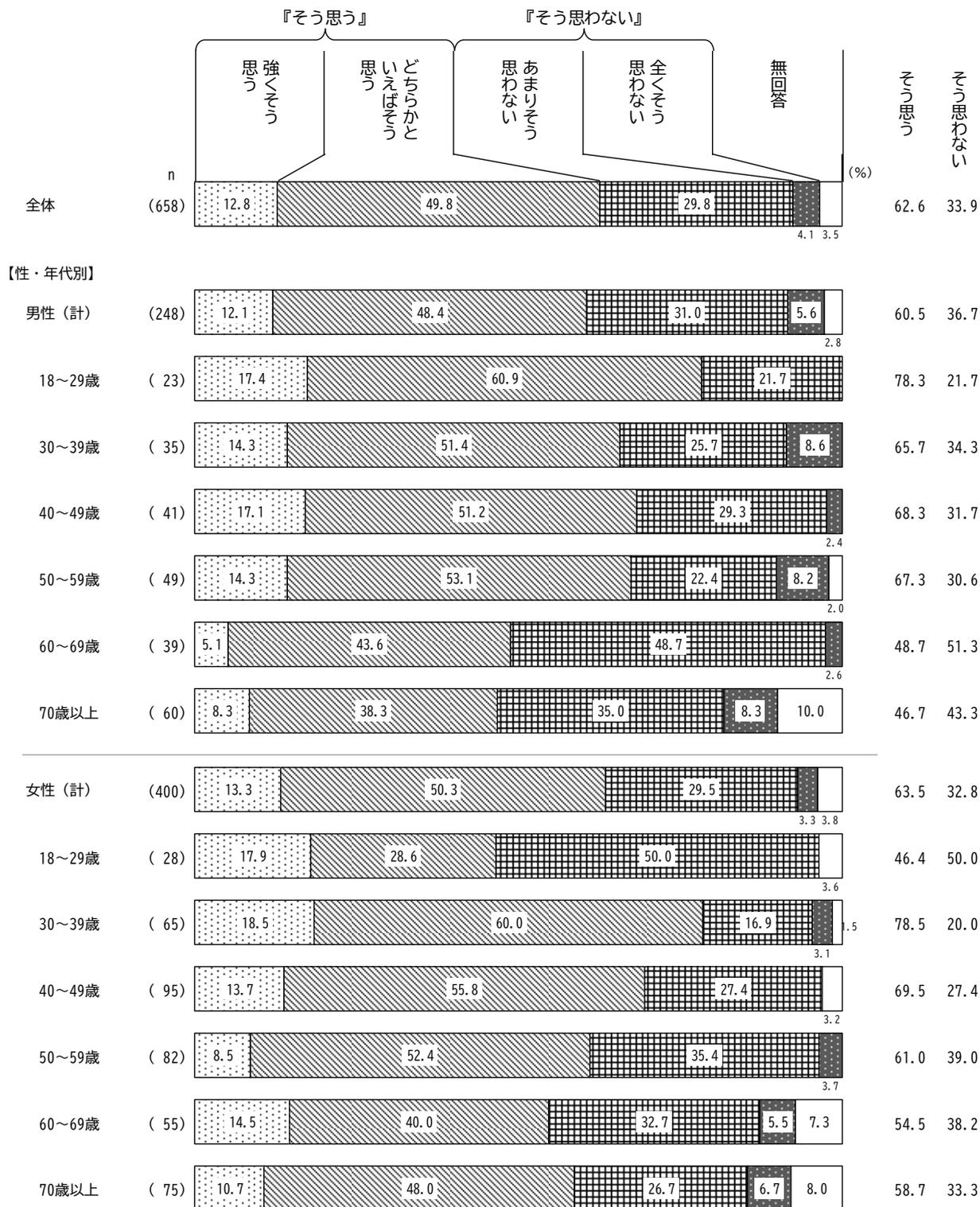
性別で見ると、『そう思う』は女性 (51.8%) が男性 (44.4%) より 7.4 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は女性 30~39 歳 (56.9%) で 6 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (69.2%) で約 7 割となっている。(図3-5-40)

政策目標 (20) スポーツをできる環境が充実している  
(居住地区別) 図3-5-41



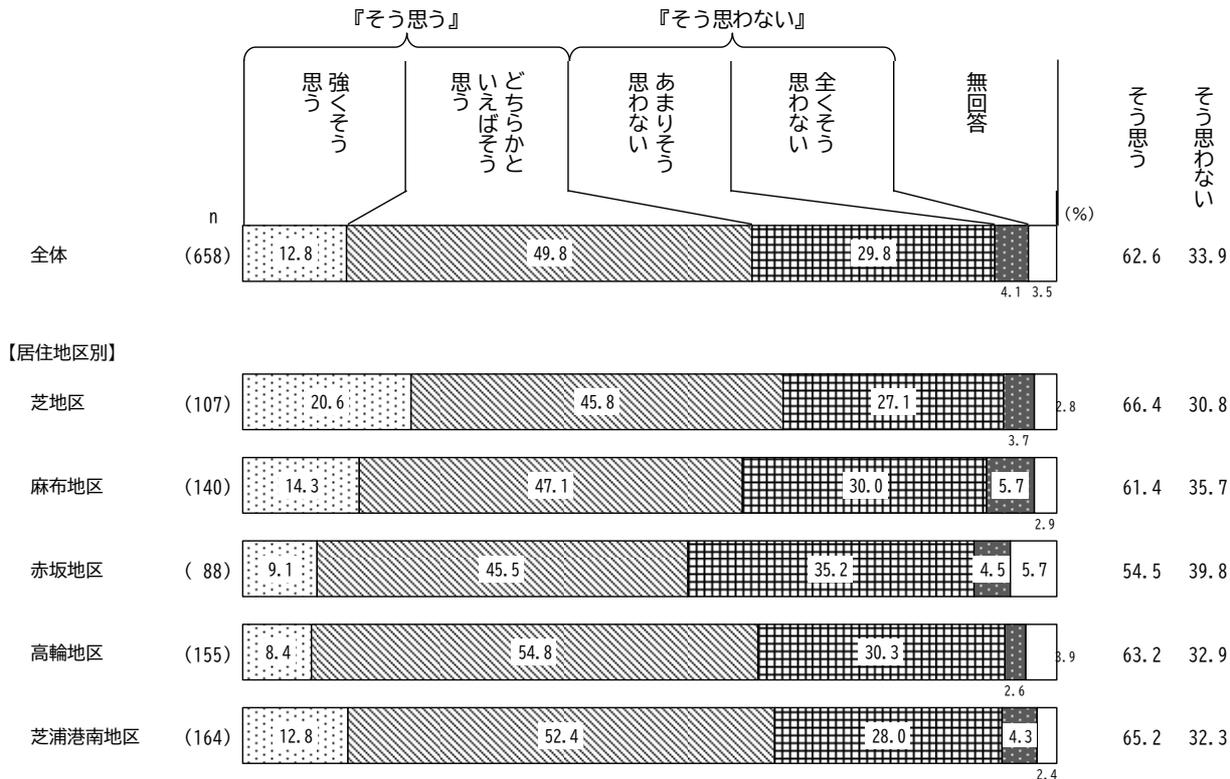
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（62.2%）で6割を超え、芝地区（54.2%）で5割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（61.4%）で6割を超えている。（図3-5-41）

政策目標 (21) 健康でいきいきと暮らす高齢者が増えている  
(性・年代別) 図3-5-42



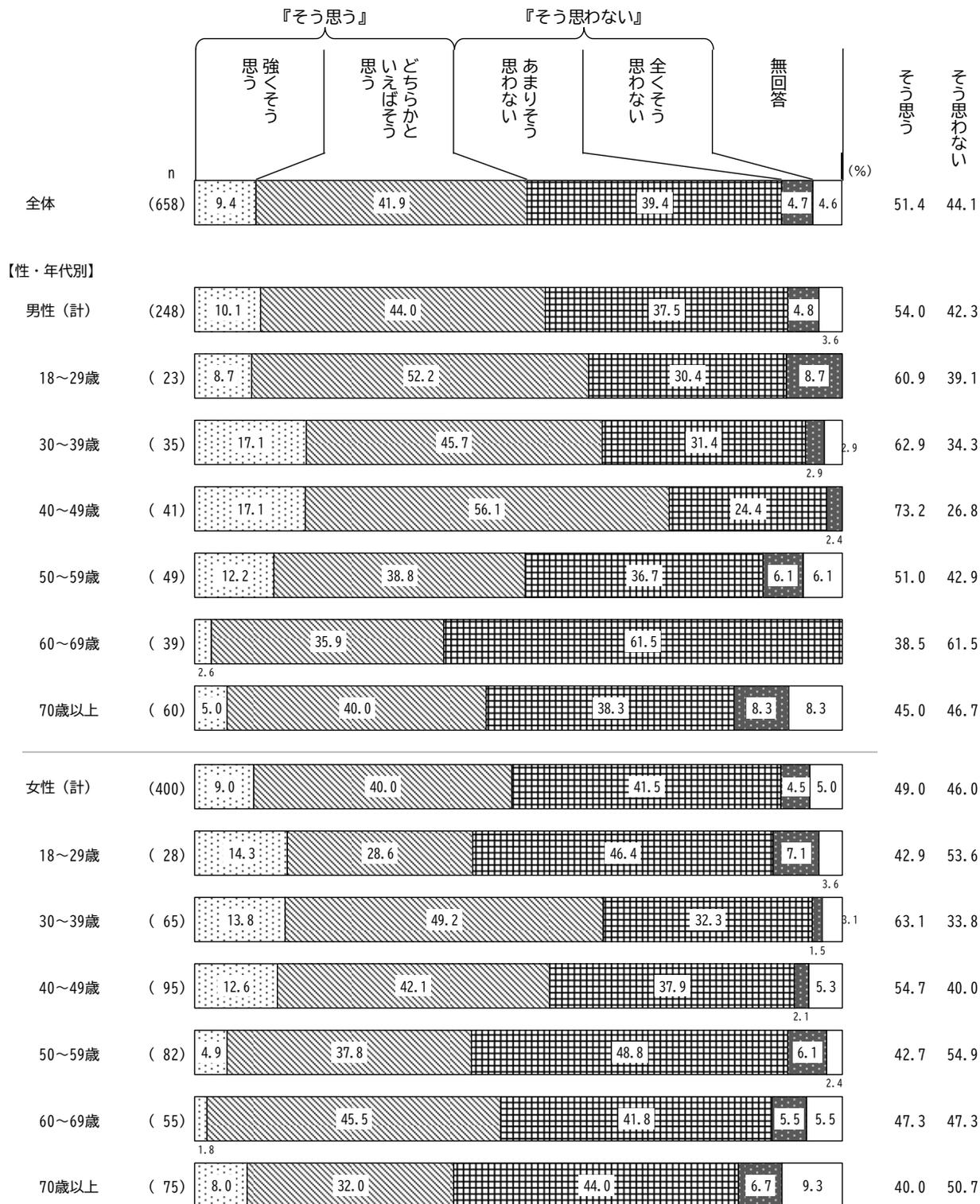
性別で見ると、『そう思う』は女性 (63.5%) が男性 (60.5%) より 3.0 ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は女性 30~39 歳 (78.5%)、男性 18~29 歳 (78.3%) で 8 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (51.3%) で 5 割を超えている。(図3-5-42)

政策目標 (21) 健康でいきいきと暮らす高齢者が増えている  
(居住地区別) 図3-5-43



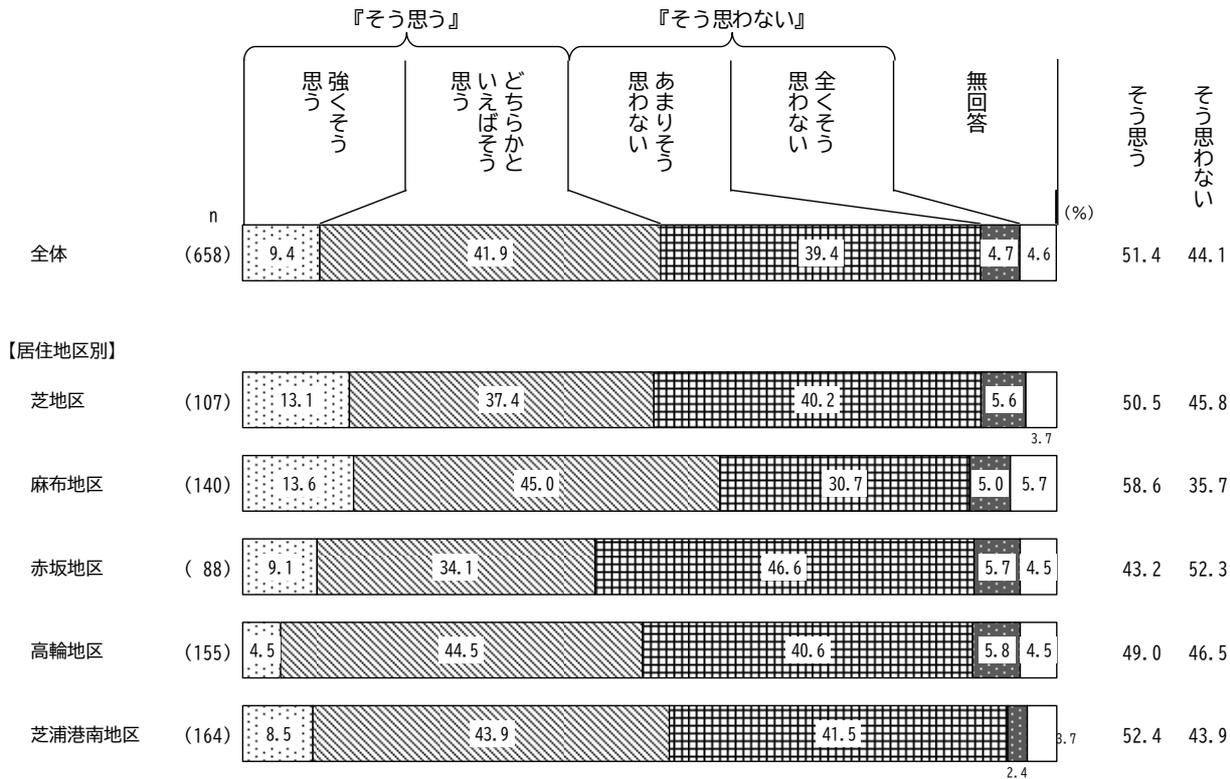
居住地区別でみると、『そう思う』は芝地区（66.4%）で6割半ば、芝浦港南地区（65.2%）で6割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（39.8%）で4割となっている。（図3-5-43）

政策目標 (22) 高齢者福祉が充実している  
(性・年代別) 図3-5-44



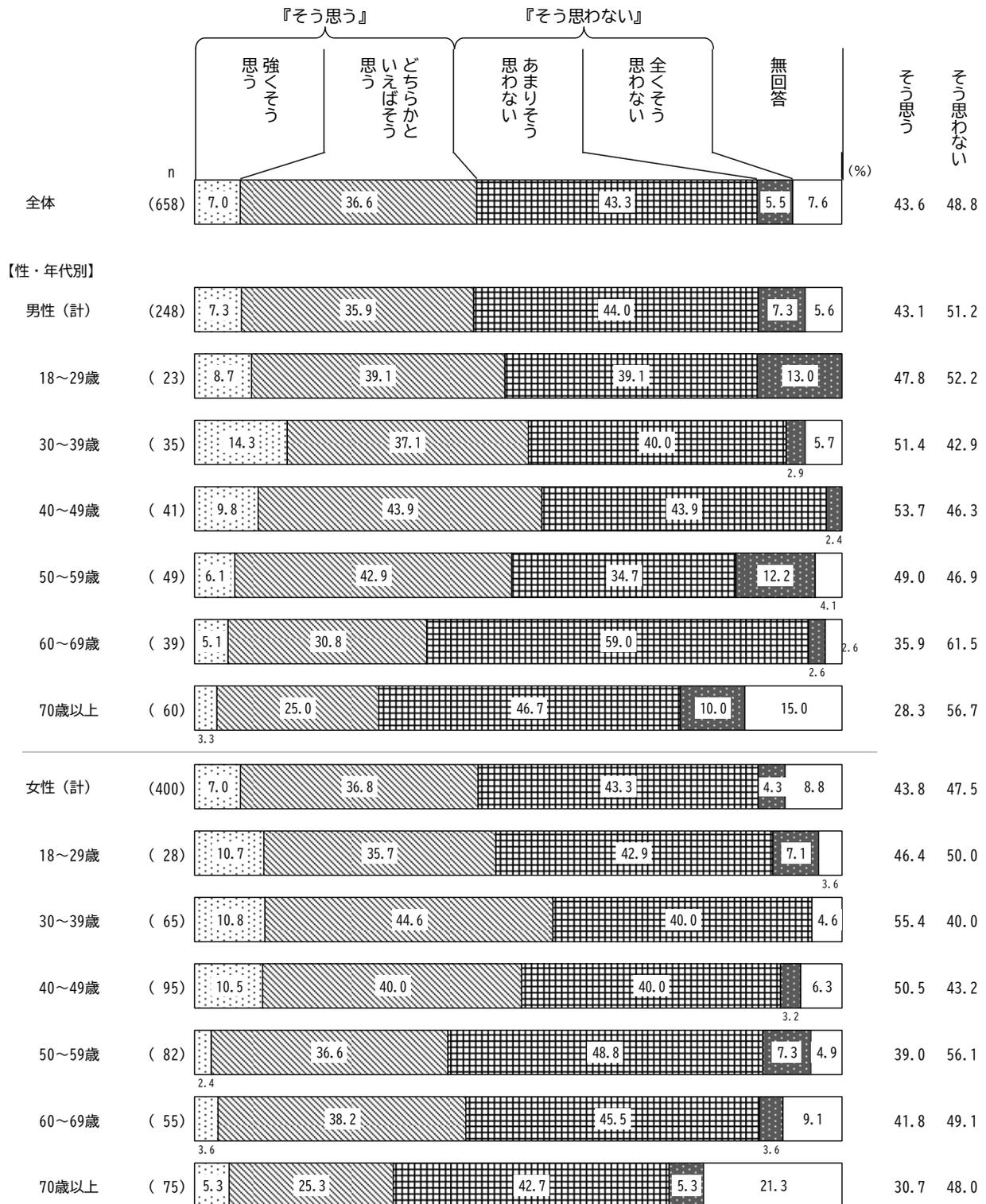
性別で見ると、『そう思う』は男性 (54.0%) が女性 (49.0%) より 5.0 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 40~49 歳 (73.2%) で 7 割を超えている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (61.5%) で 6 割を超えている。(図3-5-44)

政策目標 (22) 高齢者福祉が充実している  
(居住地区別) 図3-5-45



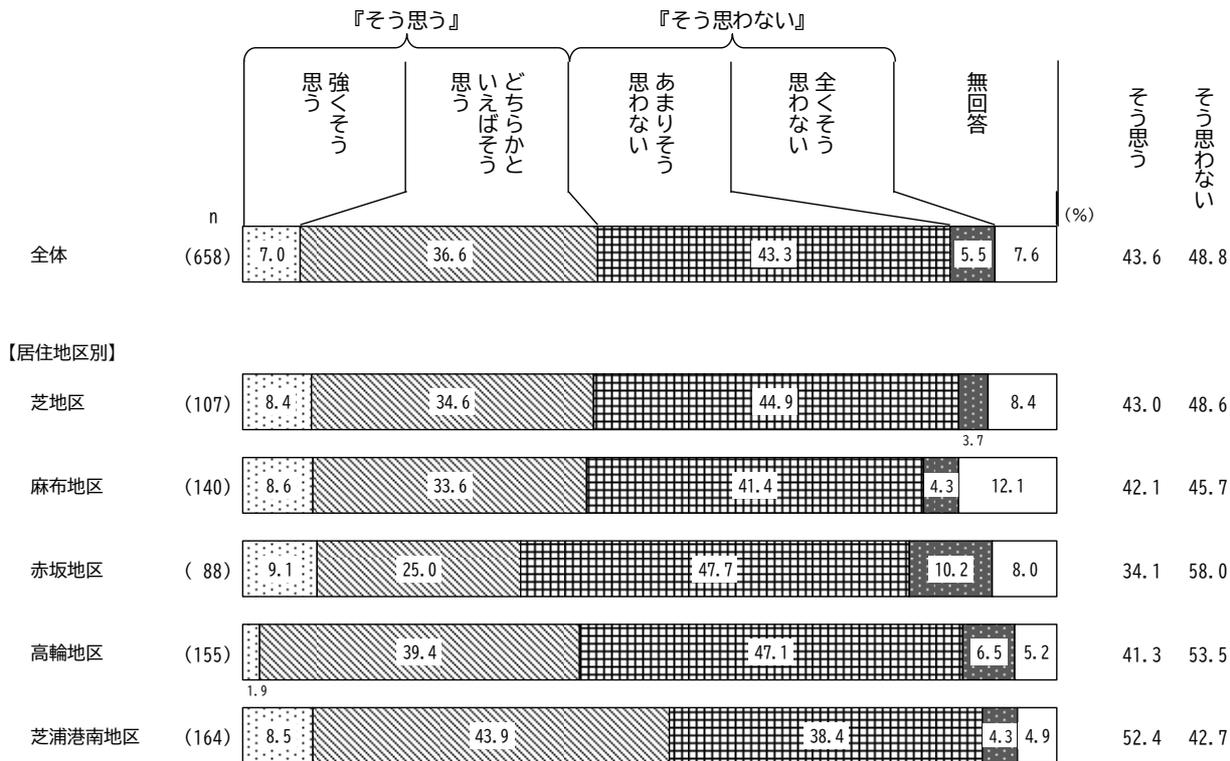
居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区（58.6%）で6割近く、芝浦港南地区（52.4%）5割を超えている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（52.3%）で5割を超えている。（図3-5-45）

政策目標 (23) 障害者福祉が充実している  
(性・年代別) 図3-5-46



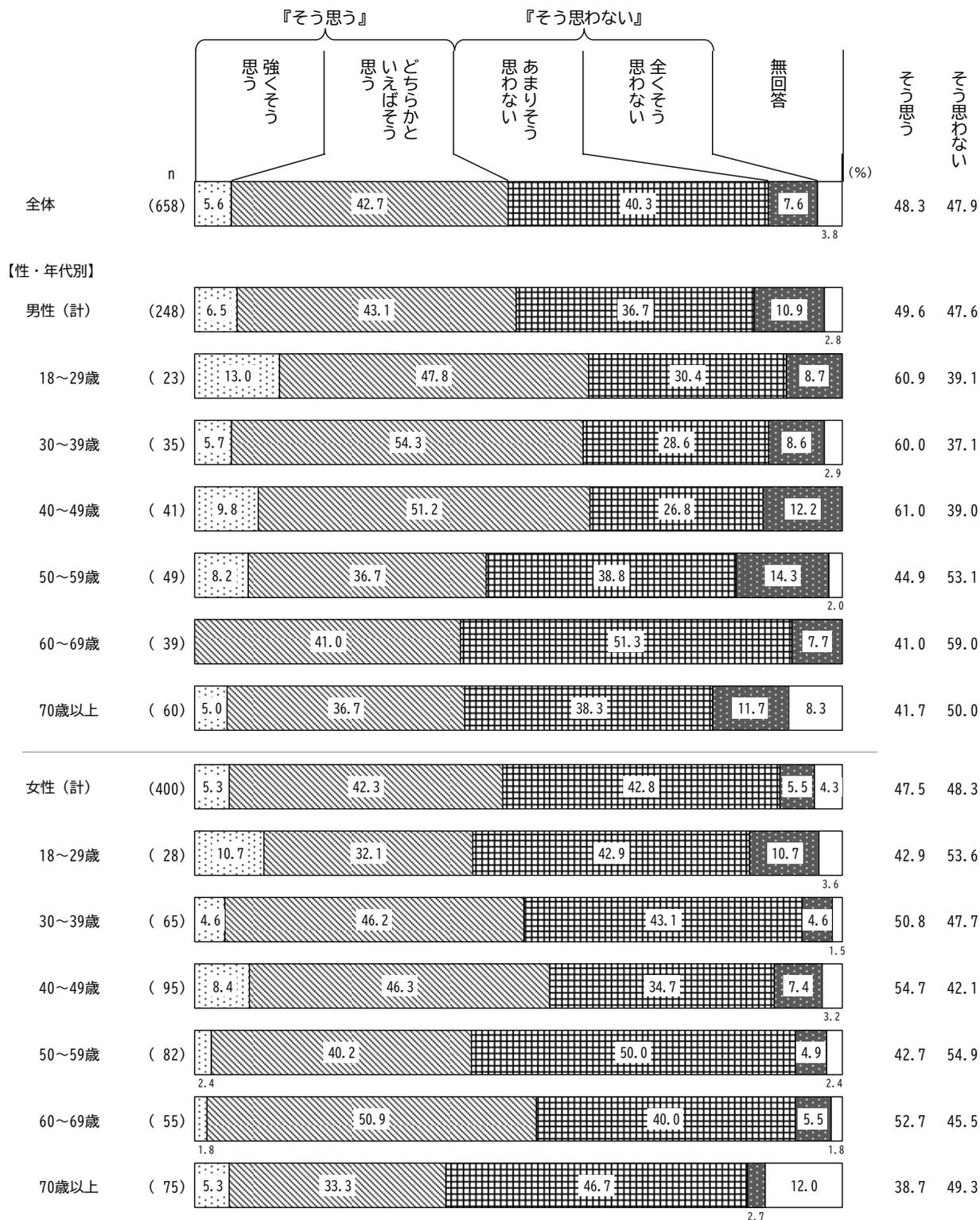
性別で見ると、『そう思う』は女性 (43.8%) が男性 (43.1%) より 0.7 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は女性 30~39 歳 (55.4%) で 5 割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は男性 60~69 歳 (61.5%) で 6 割を超えている。(図3-5-46)

政策目標 (23) 障害者福祉が充実している  
(居住地区別) 図3-5-47



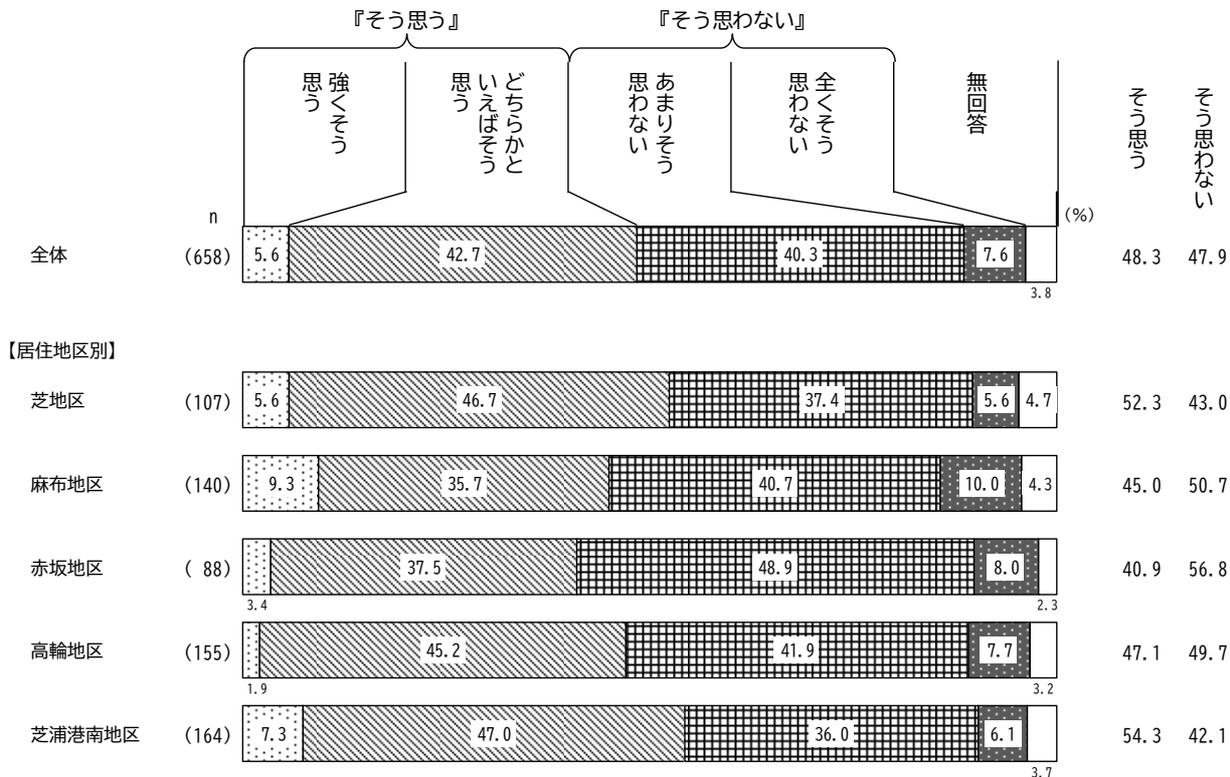
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（52.4%）で5割を超え、芝地区（43.0%）4割を超えている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（58.0%）で6割近くとなっている。（図3-5-47）

政策目標 (24) 区政に関する情報が十分に提供されている  
(性・年代別) 図3-5-48



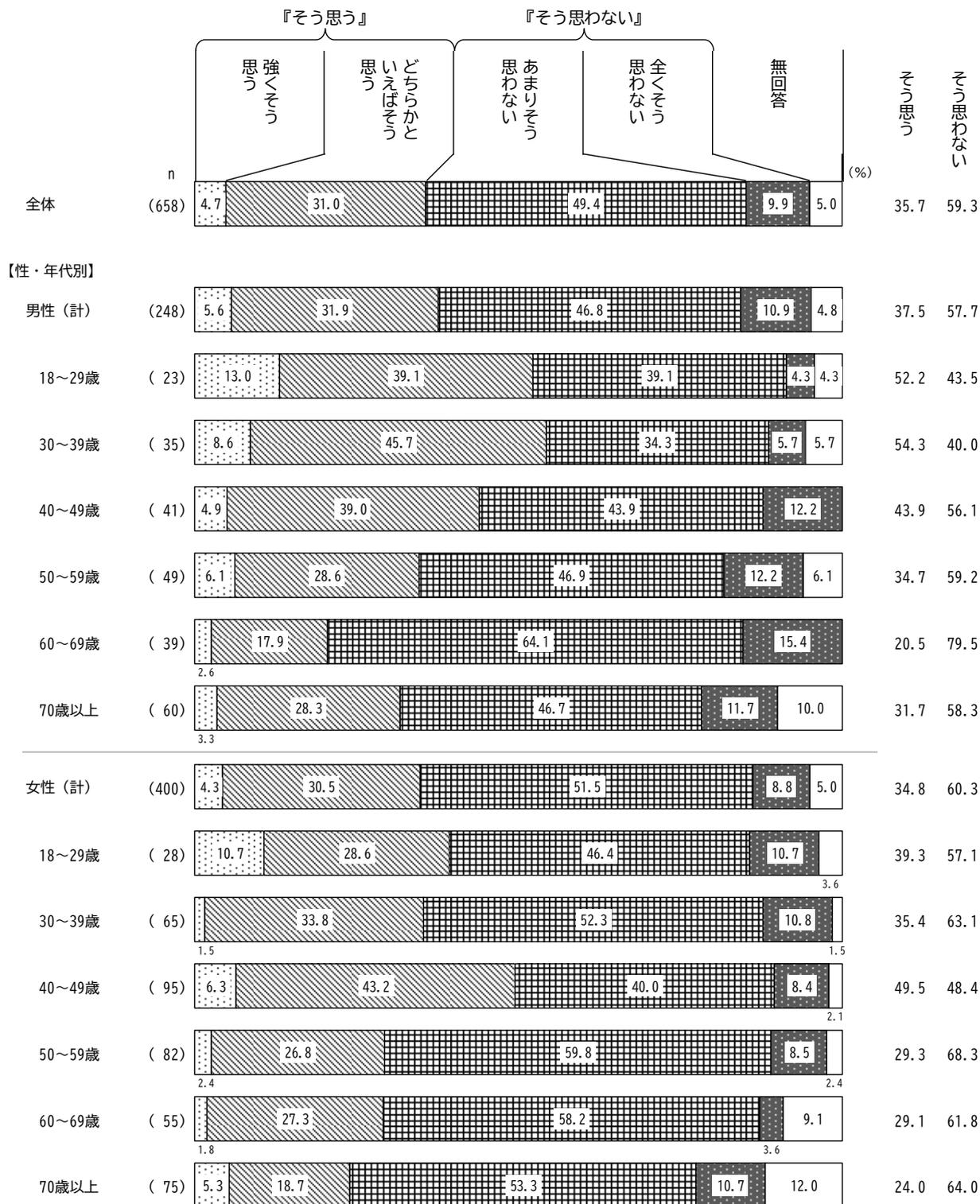
性別で見ると、『そう思う』は男性(49.6%)が女性(47.5%)より2.1ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性40~49歳(61.0%)で6割を超えている。一方、『そう思わない』は男性60~69歳(59.0%)で約6割となっている。(図3-5-48)

政策目標 (24) 区政に関する情報が十分に提供されている  
(居住地区別) 図3-5-49



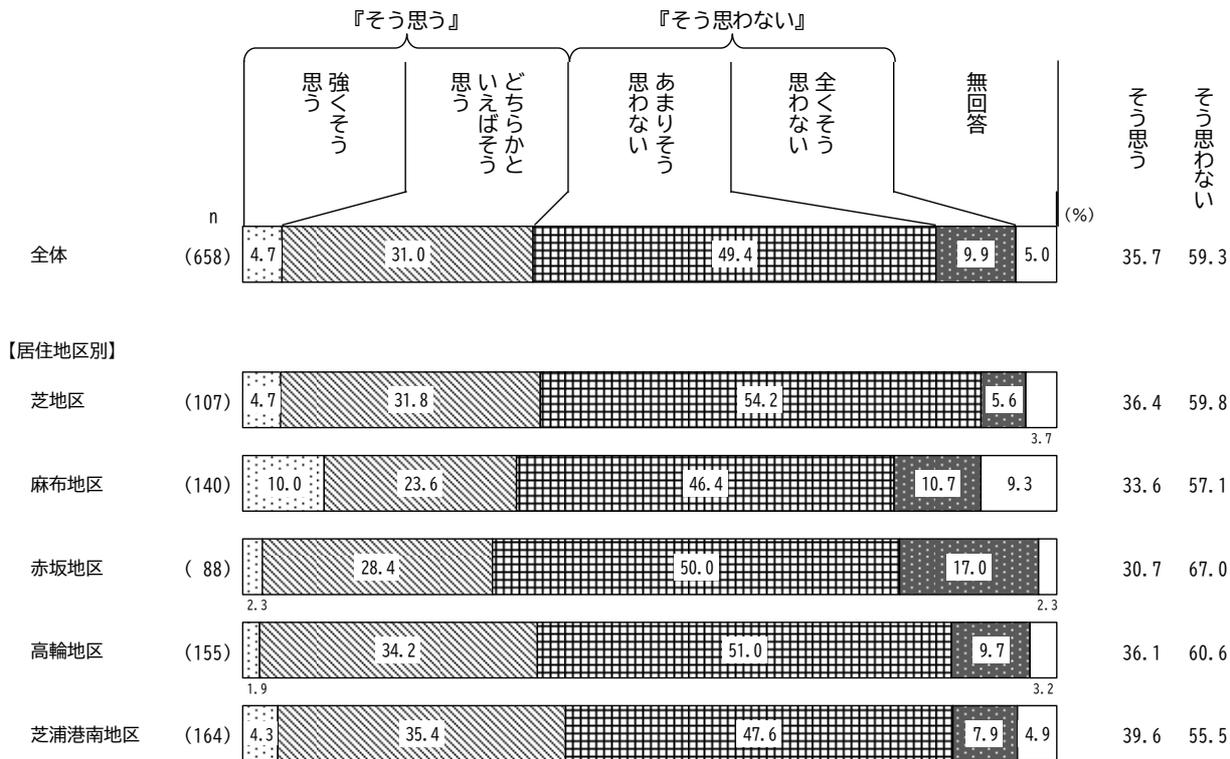
居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区（54.3%）で5割半ば、芝地区（52.3%）で5割を超えている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（56.8%）で6割近くとなっている。（図3-5-49）

政策目標 (25) 区の政策や事業の検討に参加する機会が充実している  
(性・年代別) 図3-5-50



性別で見ると、『そう思う』は男性(37.5%)が女性(34.8%)より2.7ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性30~39歳(54.3%)で5割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は男性60~69歳(79.5%)で8割となっている。(図3-5-50)

政策目標 (25) 区の政策や事業の検討に参加する機会が充実している  
(居住地区別) 図3-5-51

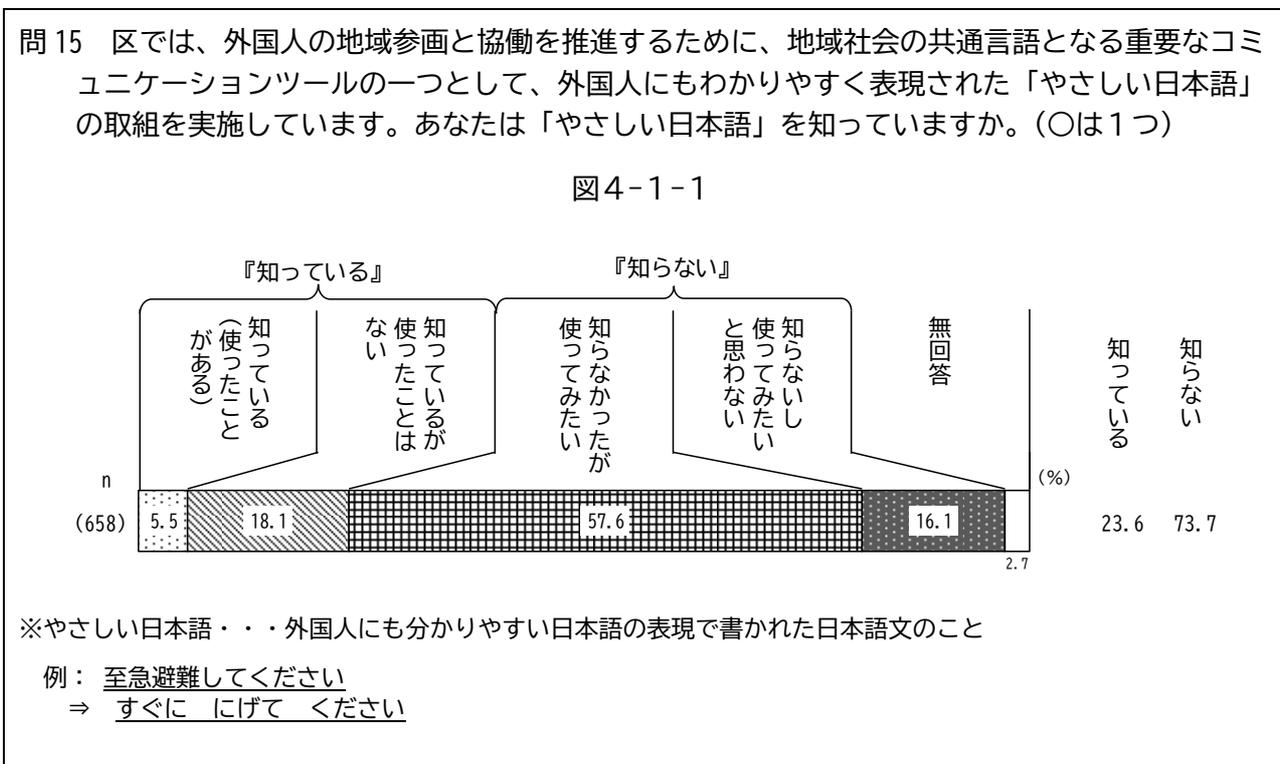


居住地区別でみると、『そう思う』は芝浦港南地区（39.6%）で4割、芝地区（36.4%）で3割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（67.0%）で7割近くとなっている。（図3-5-51）

## 4 やさしい日本語

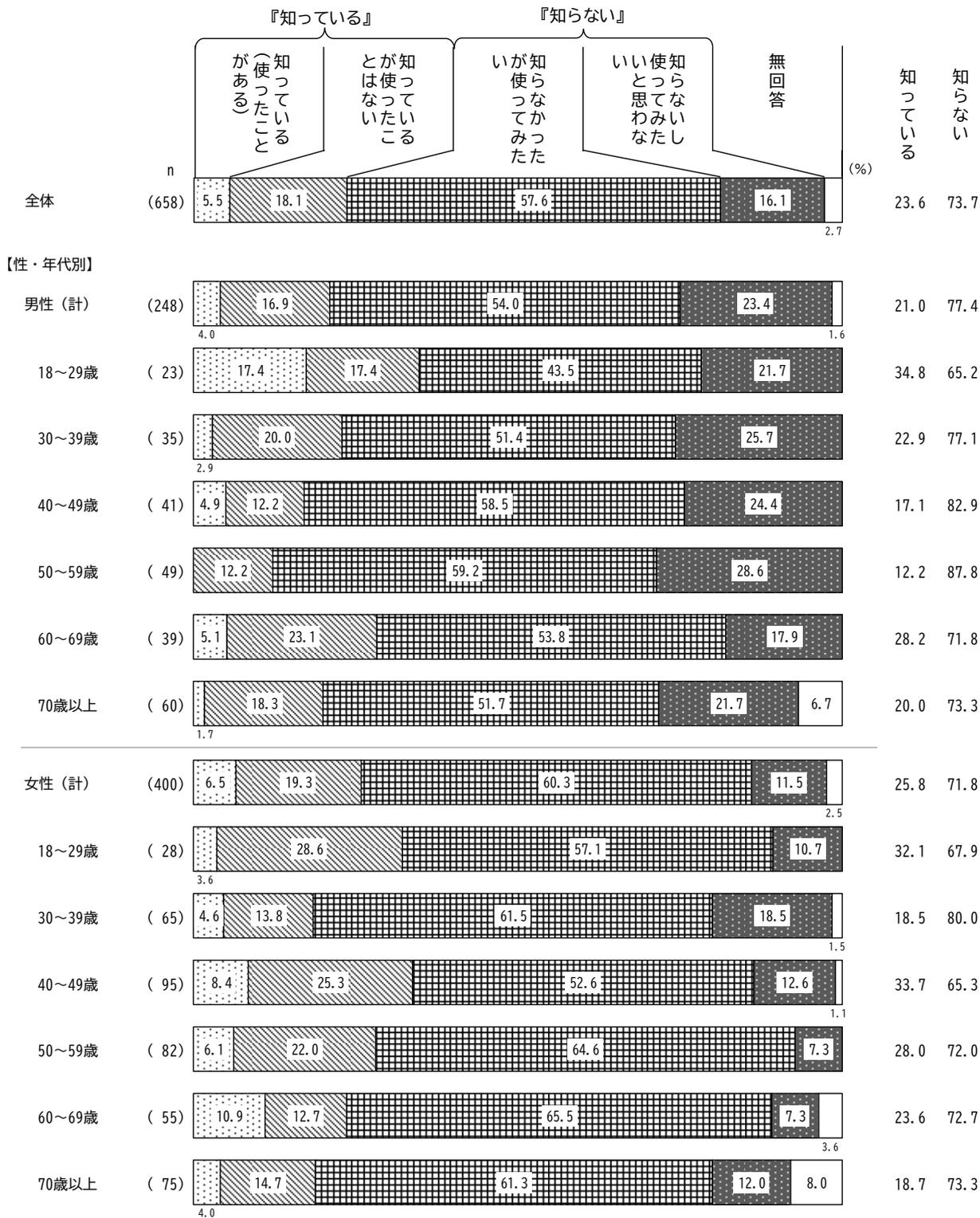
### (1) 「やさしい日本語」の認知状況

◇ 『知っている』が2割を超える



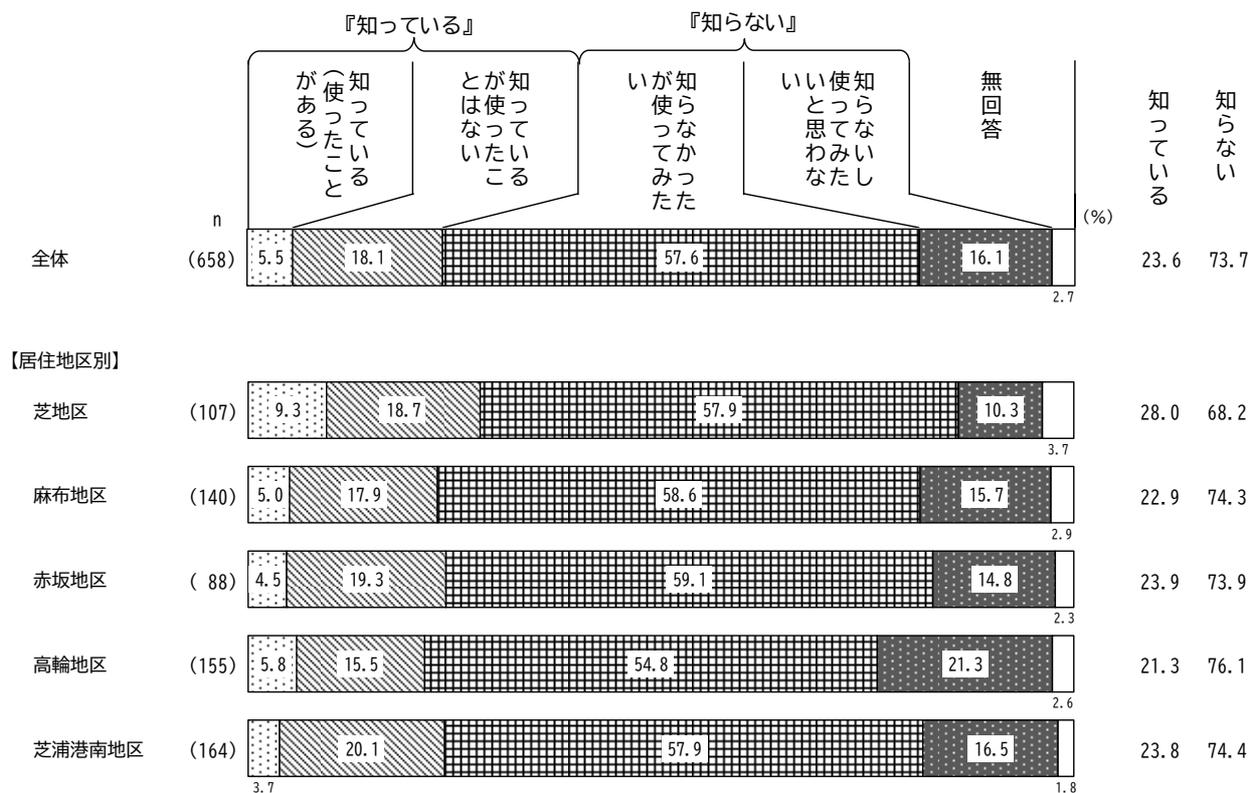
「やさしい日本語」を知っているか聞いたところ、「知っている（使ったことがある）」（5.5%）と「知っているが使ったことはない」（18.1%）を合わせた『知っている』（23.6%）は2割を超えている。  
 一方、「知らなかったが使ってみたい」（57.6%）と「知らないし使ってみたいと思わない」（16.1%）を合わせた『知らない』（73.7%）は7割を超えている。（図4-1-1）

図4-1-2 「やさしい日本語」の認知状況（性・年代別）



性別で見ると、『知っている』は女性(25.8%)が男性(21.0%)より4.8ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『知っている』は男性18~29歳(34.8%)で3割半ばとなっている。一方、『知らない』は男性50~59歳(87.8%)で9割近くとなっている。(図4-1-2)

図4-1-3 「やさしい日本語」の認知状況（居住地区別）

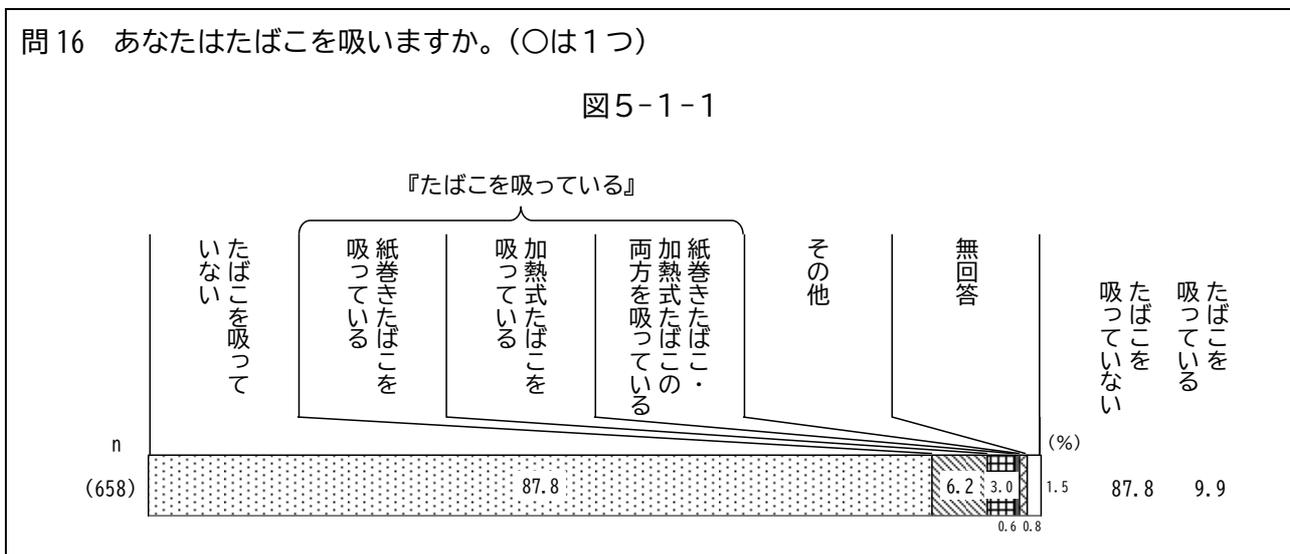


居住地区別で見ると、『知っている』は芝地区（28.0%）で3割近く、赤坂地区（23.9%）で2割を超えている。一方、『知らない』は高輪地区（76.1%）で7割半ばとなっている。（図4-1-3）

## 5 みなとタバコルール

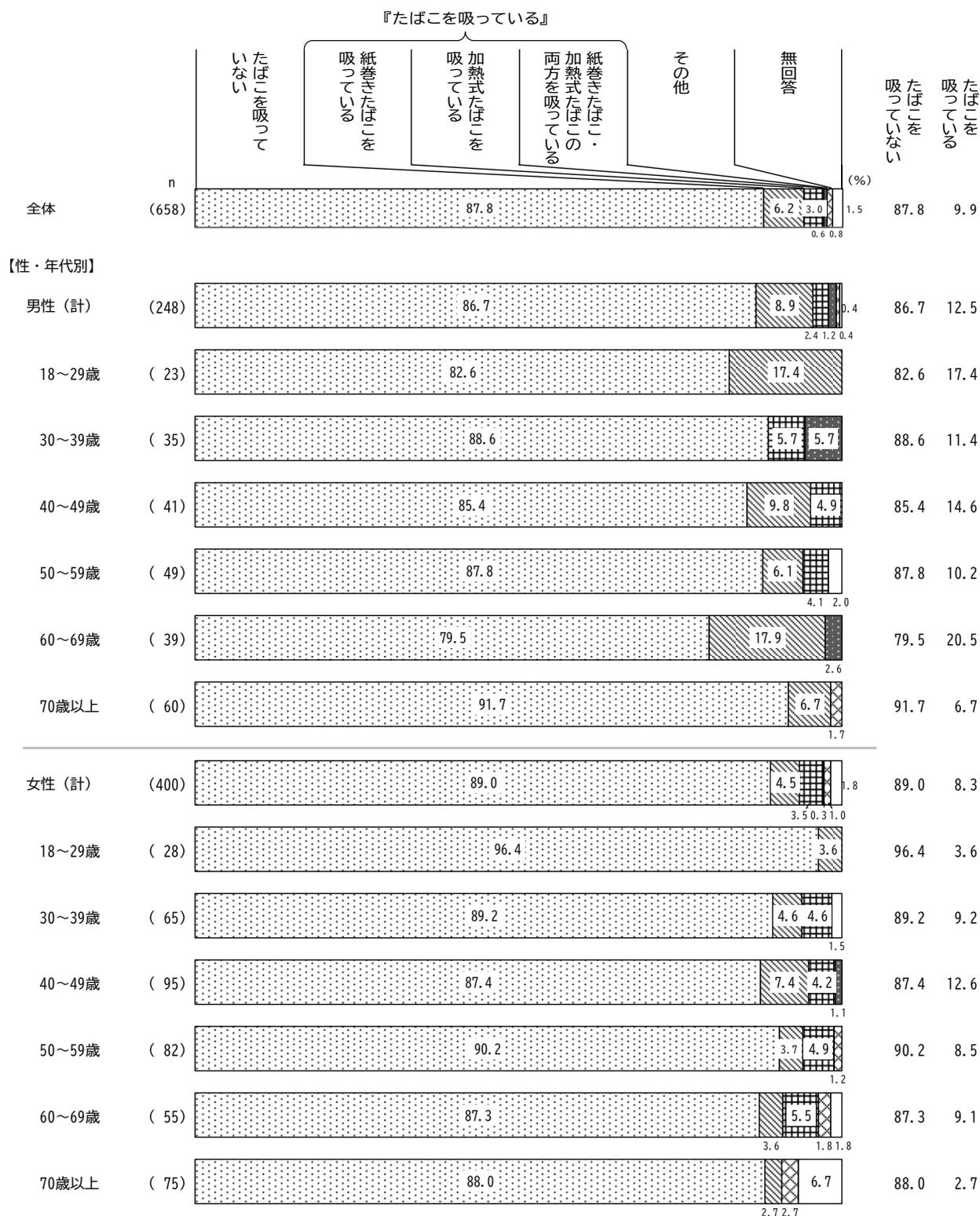
### (1) 喫煙の状況

◇ 「タバコを吸っていない」が9割近く



喫煙の状況について聞いたところ、「タバコを吸っていない」(87.8%)が9割近くで最も多く、「紙巻きたばこを吸っている」(6.2%)、「加熱式タバコを吸っている」(3.0%)、「紙巻きたばこ・加熱式タバコの両方を吸っている」(0.6%)を合わせた『タバコを吸っている』(9.9%)は1割となっている。(図5-1-1)

図5-1-2 喫煙の状況（性・年代別）



性別で見ると、『たばこを吸っている』は男性（12.5%）が女性（8.3%）より4.2ポイント多くなっている。一方、『たばこを吸っていない』は女性18歳～29歳（96.4%）で9割半ばとなっている。

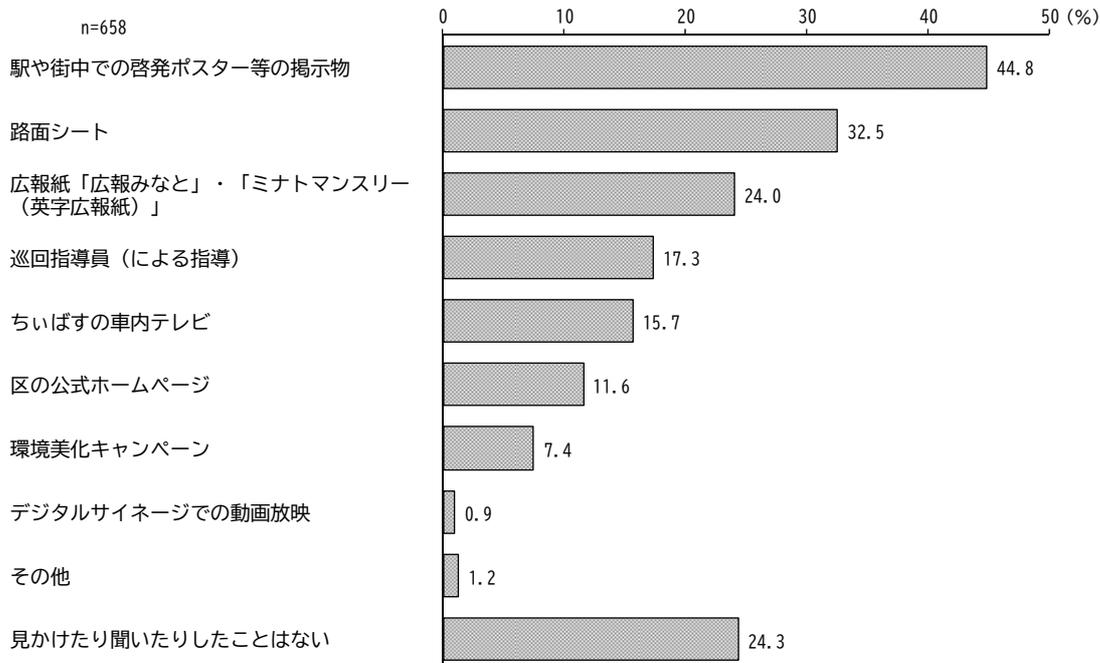
性・年代別で見ると、『たばこを吸っている』は男性60～69歳（20.5%）で約2割と最も多く、女性70歳以上（2.7%）で最も少なくなっている。（図5-1-2）

## (2) 「みなとタバコルール」に対する認知状況

◇ 「駅や街中での啓発ポスター等の掲示物」が4割半ば

問17 屋外の公共の場所での喫煙やポイ捨てを禁止する「みなとタバコルール」について、あなたは見かけたり聞いたりしたことがありますか。(○はいくつでも)

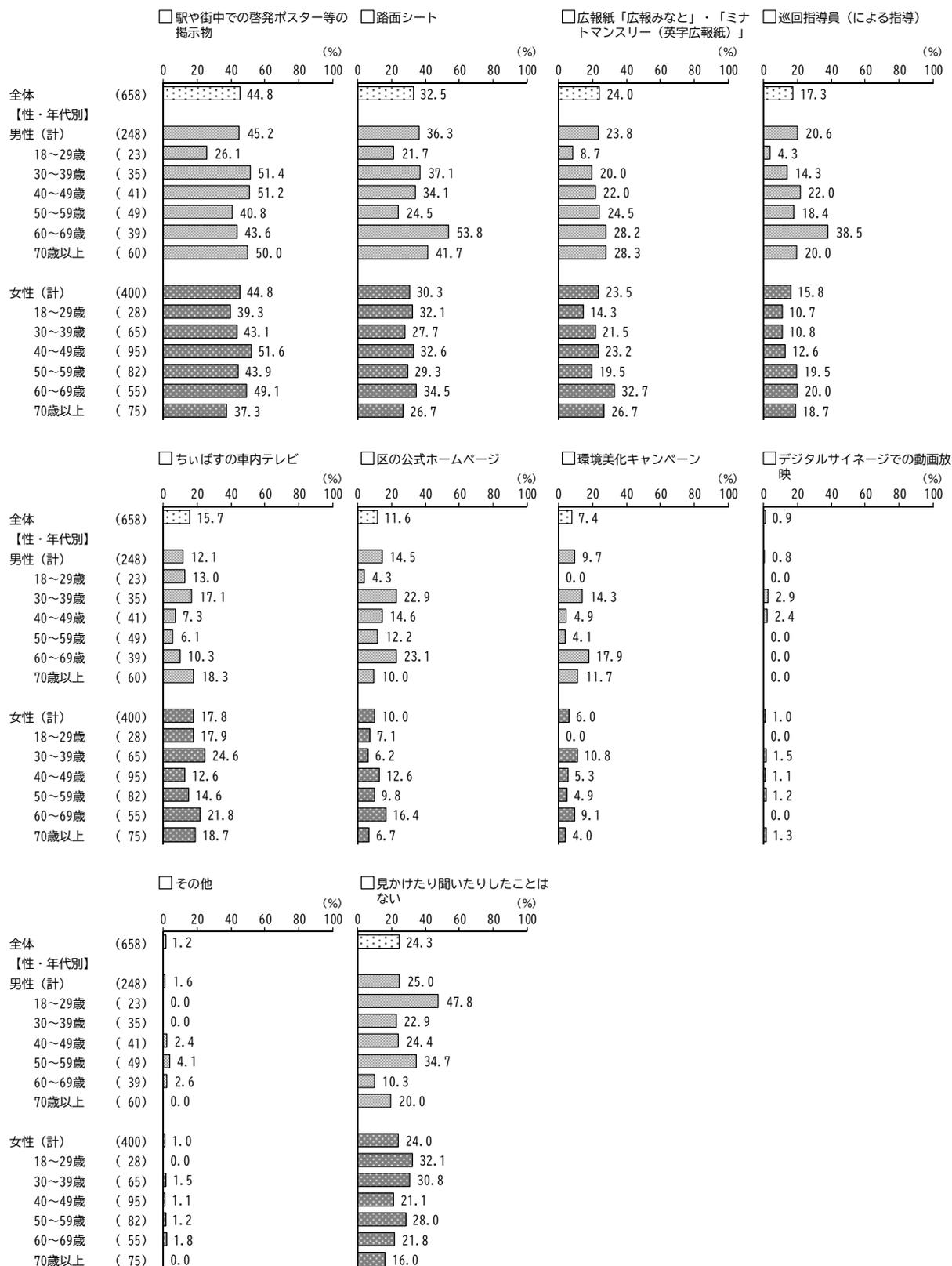
図5-2-1



「みなとタバコルール」をどのような場所で見かけたり聞いたりしたことがあるか聞いたところ、「駅や街中での啓発ポスター等の掲示物」(44.8%)が4割半ばで最も多く、次いで「路面シート」(32.5%)、「広報紙『広報みなと』・『ミナトマンスリー (英字広報紙)』」(24.0%)、「巡回指導員 (による指導)」(17.3%)、「ちいばすの車内テレビ」(15.7%)と続いている。

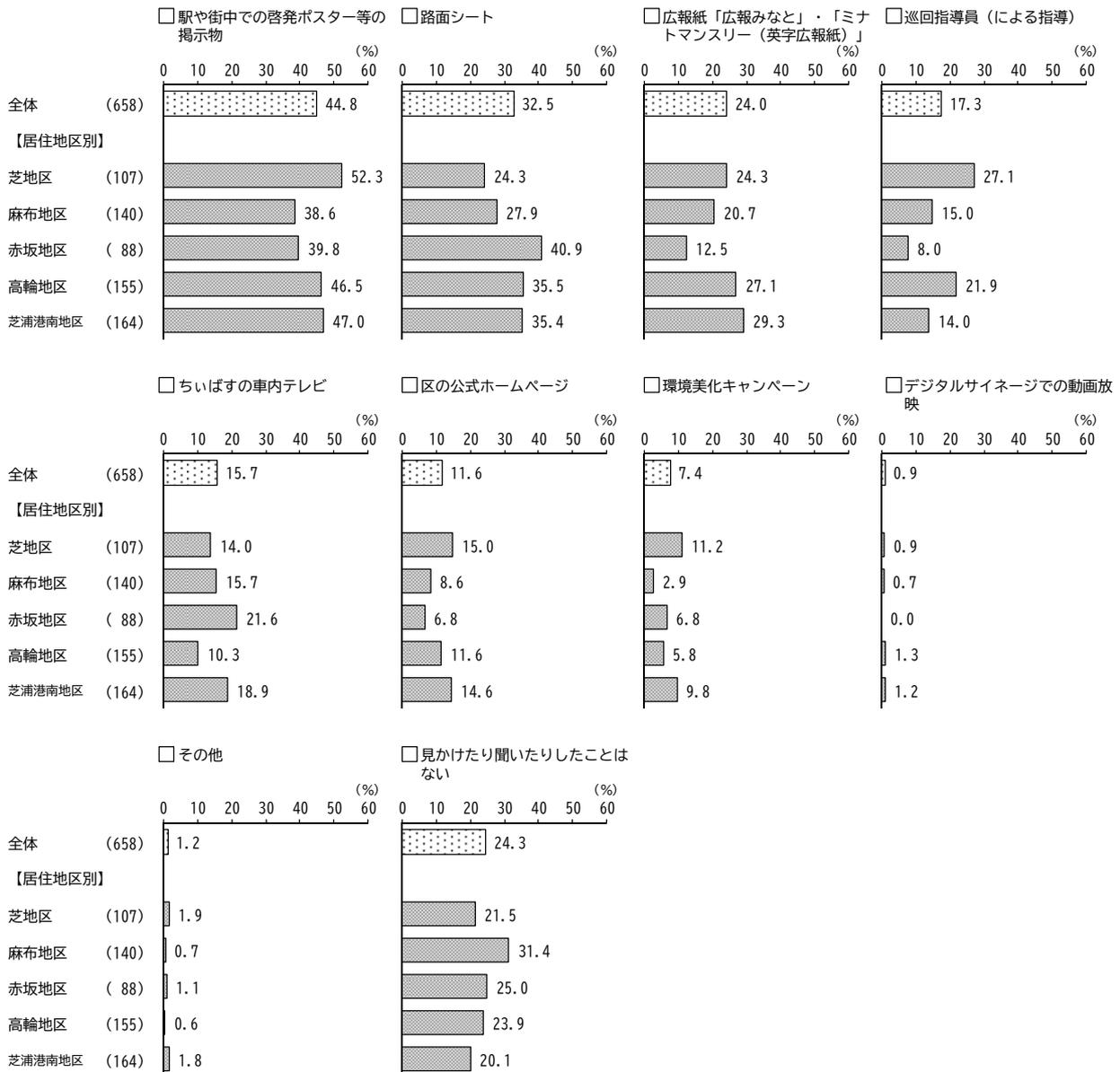
一方、「見かけたり聞いたりしたことはない」(24.3%)は2割半ばとなっている。(図5-2-1)

図5-2-2 「みなとタバコルール」に対する認知状況（性・年代別）



性・年代別でみると、「駅や街中での啓発ポスター等の掲示物」は女性 40～49 歳（51.6%）で 5 割を超えている。「路面シート」は男性 60～69 歳（53.8%）で 5 割を超えている。「広報紙『広報みなと』・『ミナトマンスリー（英字広報紙）』」は女性 60～69 歳（32.7%）で 3 割を超えている。「巡回指導員（による指導）」は男性 60～69 歳（38.5%）で 4 割近くとなっている。「ちいばすの車内テレビ」は女性 30～39 歳（24.6%）で 2 割半ばとなっている。（図5-2-2）

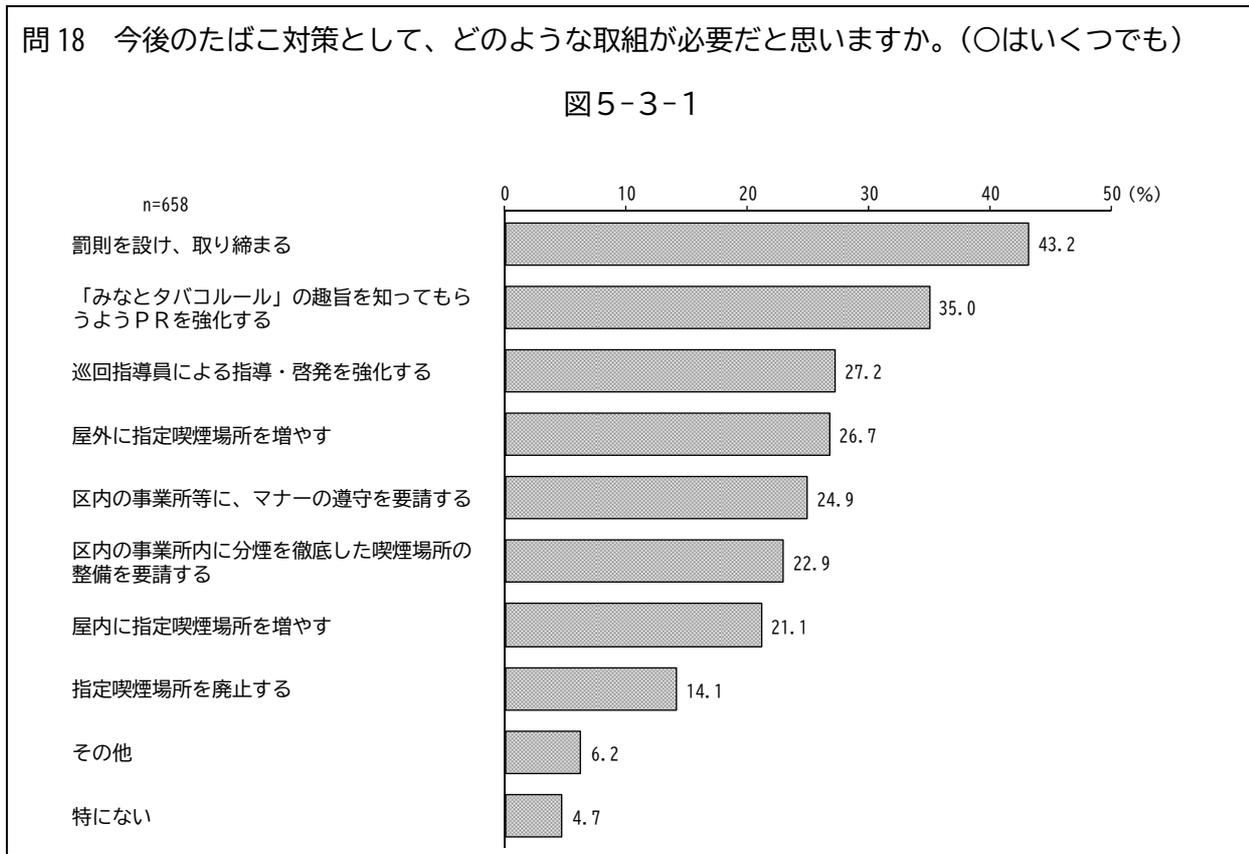
図5-2-3 「みなとタバコルール」に対する認知状況（居住地区別）



居住地区別でみると、「駅や街中での啓発ポスター等の掲示物」は芝地区（52.3%）で5割を超えている。「路面シート」は赤坂地区（40.9%）で約4割となっている。「広報誌『広報みなと』・『ミナトマンスリー（英字広報紙）』」は芝浦港南地区（29.3%）で約3割となっている。「巡回指導員（による指導）」は芝地区（27.1%）で3割近くとなっている。「ちいばすの車内テレビ」は赤坂地区（21.6%）で2割を超えている。（図5-2-3）

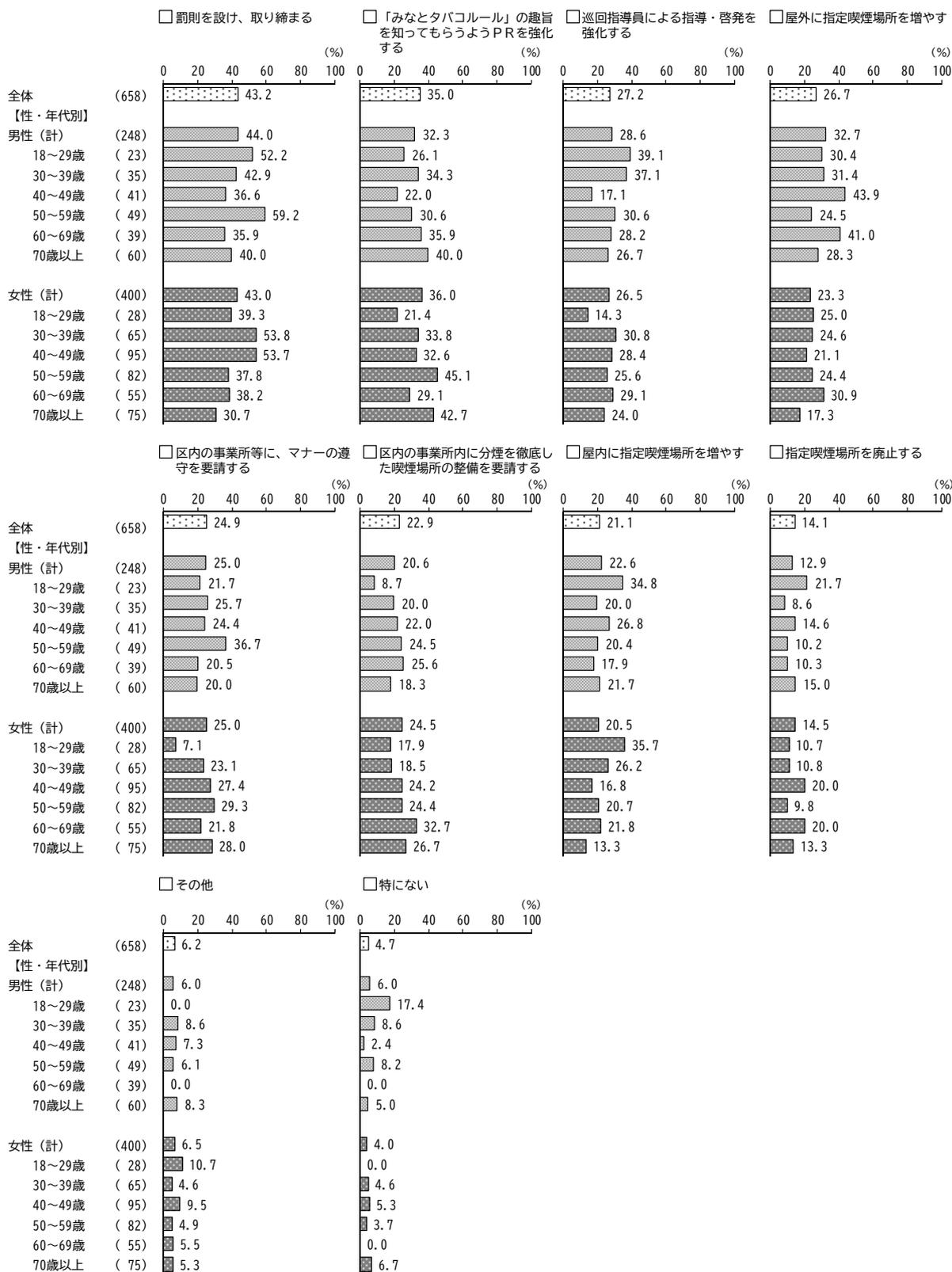
### (3) 今後のたばこ対策として必要だと思う取組

◇ 「罰則を設け、取り締まる」が4割を超える



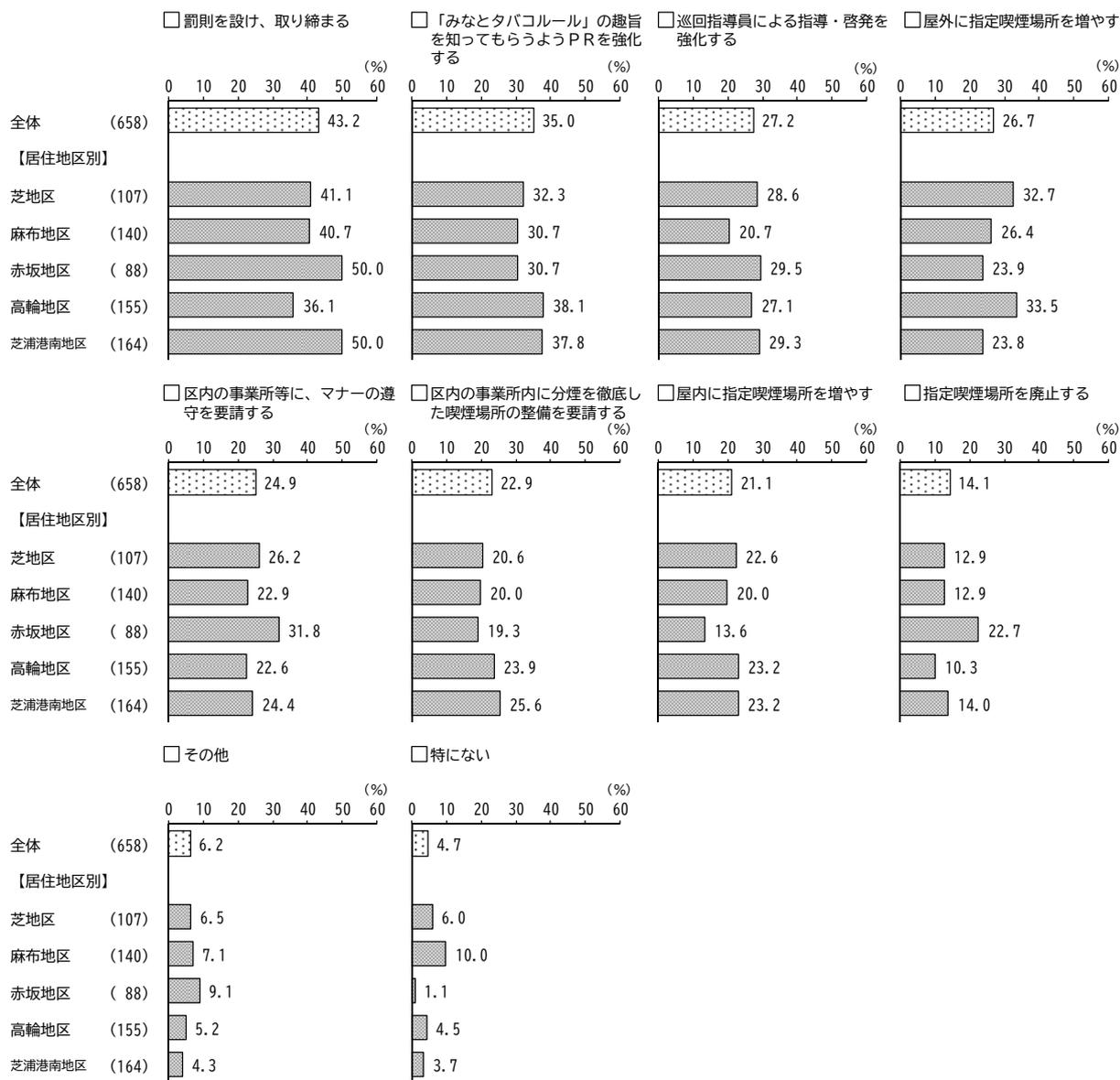
今後のたばこ対策として必要だと思う取組を聞いたところ、「罰則を設け、取り締まる」(43.2%)が4割を超えて最も多く、次いで『『みなとタバコルール』の趣旨を知ってもらうようPRを強化する』(35.0%)、「巡回指導員による指導・啓発を強化する」(27.2%)、「屋外に指定喫煙場所を増やす」(26.7%)と続いている。(図5-3-1)

図5-3-2 今後のたばこ対策として必要だと思う取組（性・年代別）



性・年代別でみると、「罰則を設け、取り締まる」は男性 50~59 歳 (59.2%) で約 6 割となっている。「『みなとタバコルール』の趣旨を知ってもらうよう PR を強化する」は女性 50~59 歳 (45.1%) で 4 割半ばとなっている。「巡回指導員による指導・啓発を強化する」は男性 18~29 歳 (39.1%) で約 4 割、「屋外に指定喫煙場所を増やす」は男性 40~49 歳 (43.9%) で 4 割を超えている。(図 5-3-2)

図5-3-3 今後のたばこ対策として必要だと思う取組（居住地区別）

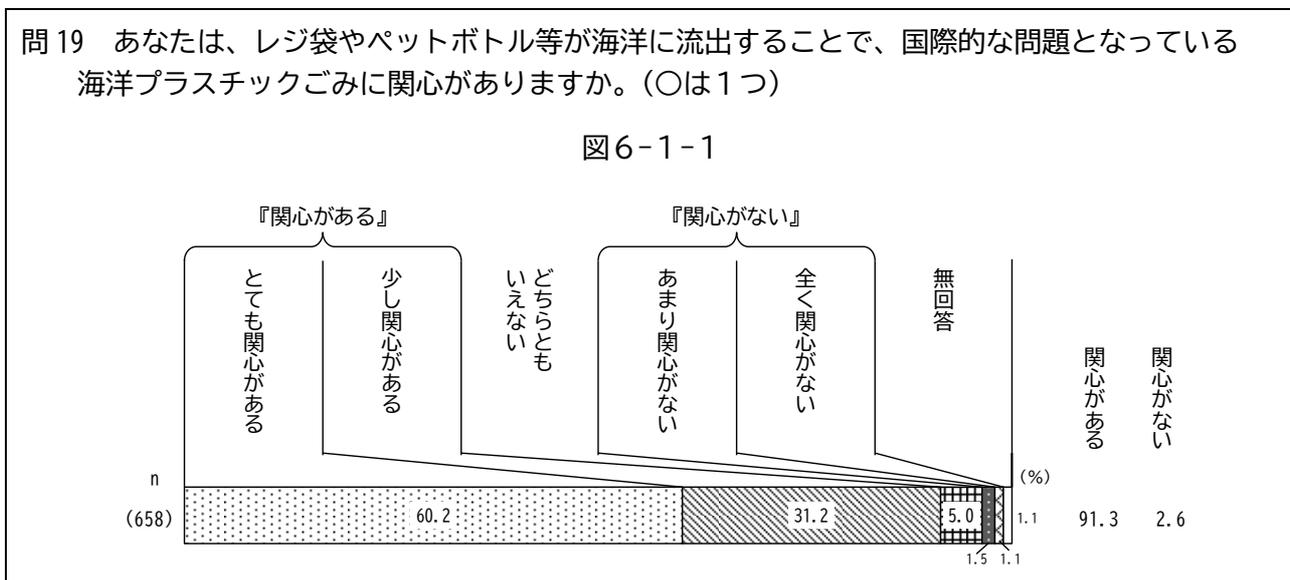


居住地区別でみると、「罰則を設け、取り締まる」は赤坂地区・芝浦港南地区（50.0%）で5割となっている。『『みなとタバコルール』の趣旨を知ってもらうようPRを強化する』は高輪地区（38.1%）で4割近くとなっている。「巡回指導員による指導・啓発を強化する」は赤坂地区（29.5%）で3割となっている。「屋外に指定喫煙場所を増やす」は高輪地区（33.5%）で3割を超えている。（図5-3-3）

## 6 プラスチックごみ

### (1) 海洋プラスチックごみに対する関心度

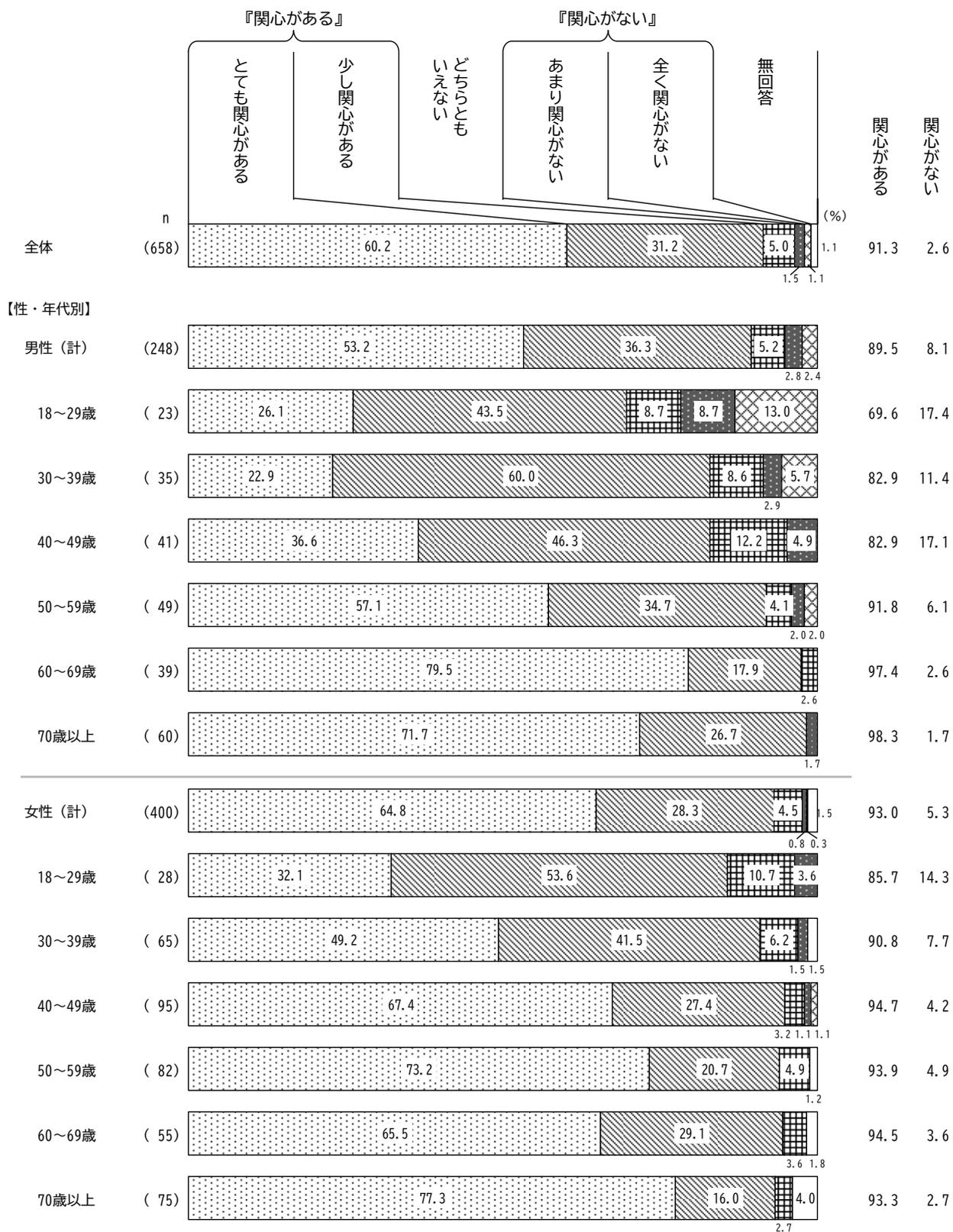
◇ 『関心がある』が9割を超える



海洋プラスチックごみに関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」(60.2%)と「少し関心がある」(31.2%)を合わせた『関心がある』(91.3%)は9割を超えている。一方、「あまり関心がない」(1.5%)と「関心がない」(1.1%)を合わせた『関心がない』(2.6%)は1割未満となっている。

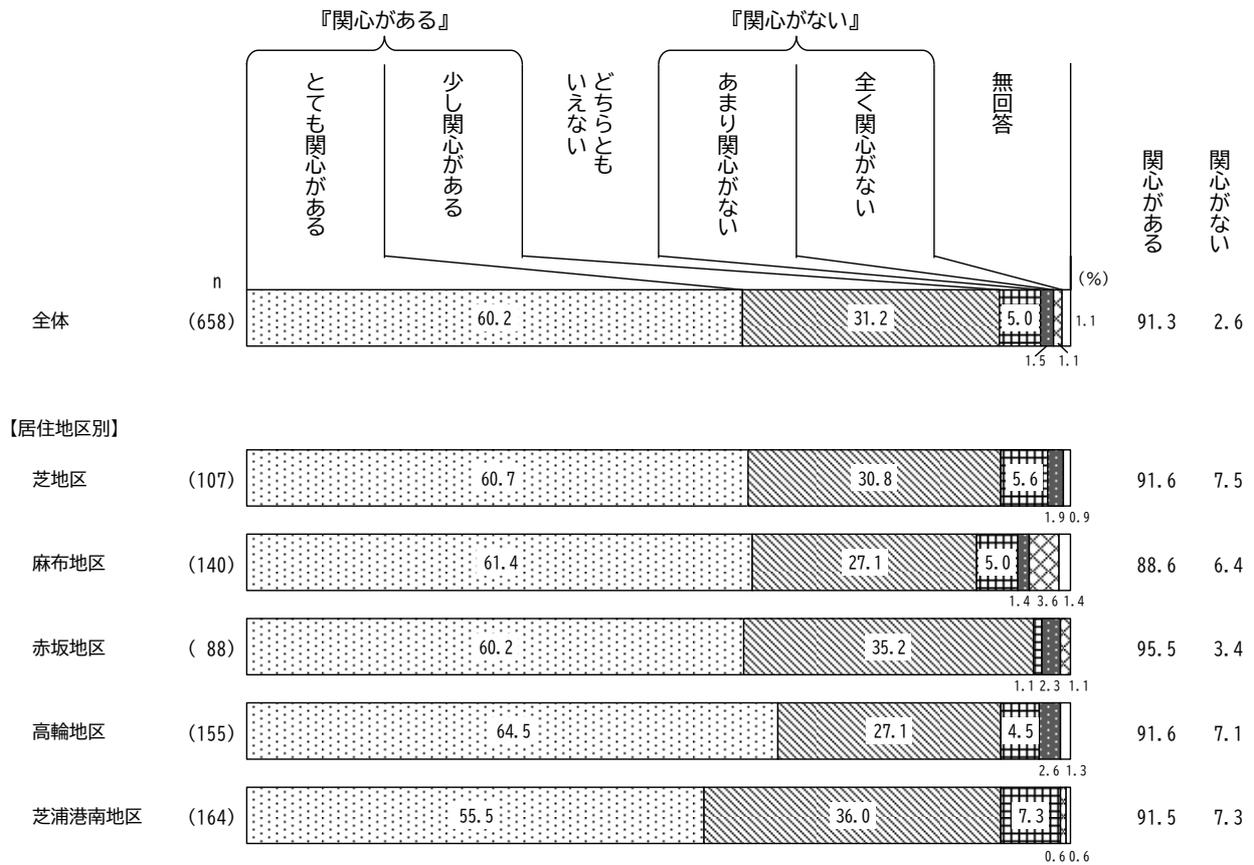
(図6-1-1)

図6-1-2 海洋プラスチックごみに対する関心度（性・年代別）



性・年代別で見ると、『関心がある』は男性70歳以上(98.3%)で10割近くとなっている。一方、『関心がない』は男性18~29歳(17.4%)で2割近くとなっている。(図6-1-2)

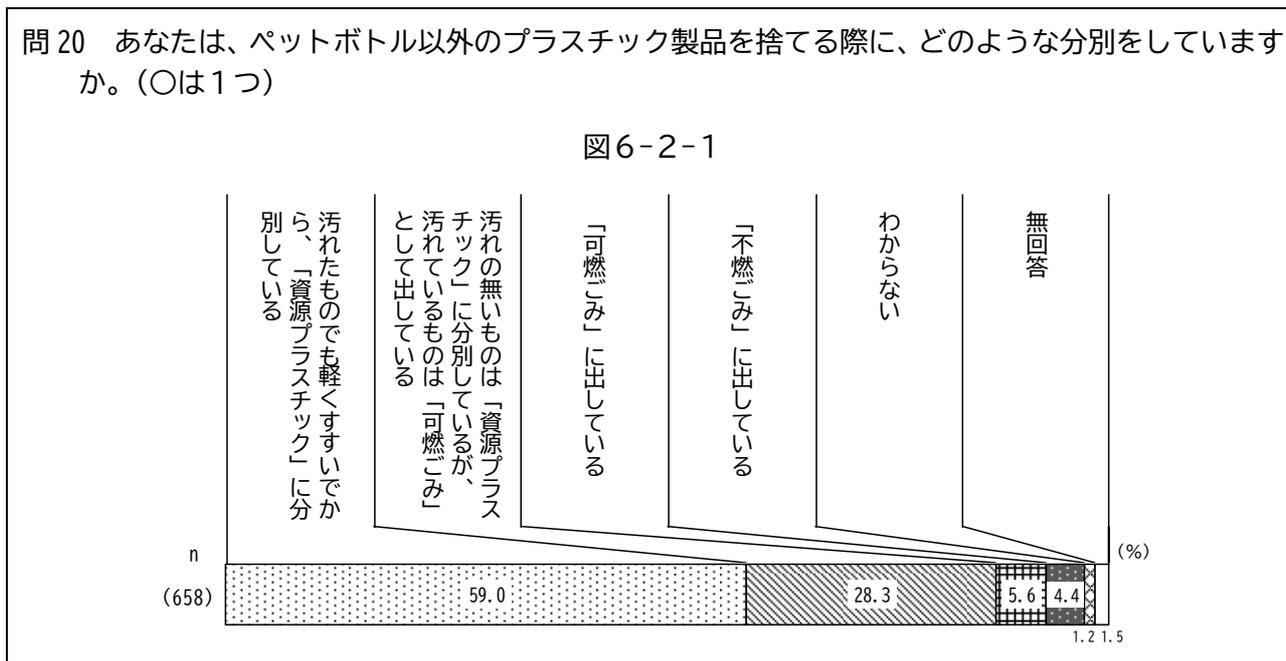
図6-1-3 海洋プラスチックごみに対する関心度（居住地区別）



居住地区別で見ると、『関心がある』は赤坂地区（95.5%）で9割半ば、芝地区、高輪地区（91.6%）で9割を超えている。一方、『関心がない』は芝地区（7.5%）で1割近くとなっている。（図6-1-3）

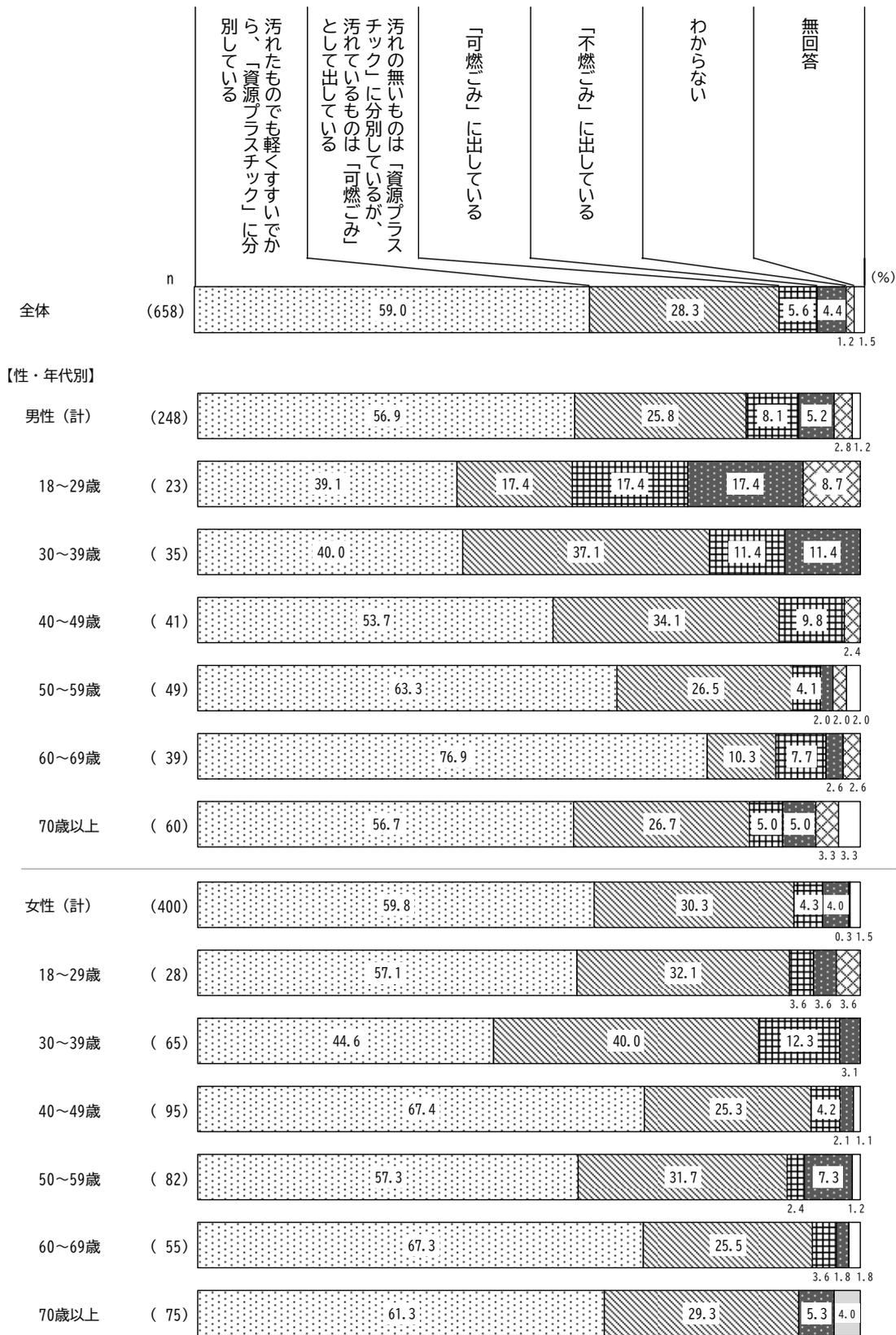
## (2) プラスチック製品を捨てる際の分別状況

◇ 「汚れたものでも軽くすすいでから、「資源プラスチック」に分別している」が6割近く



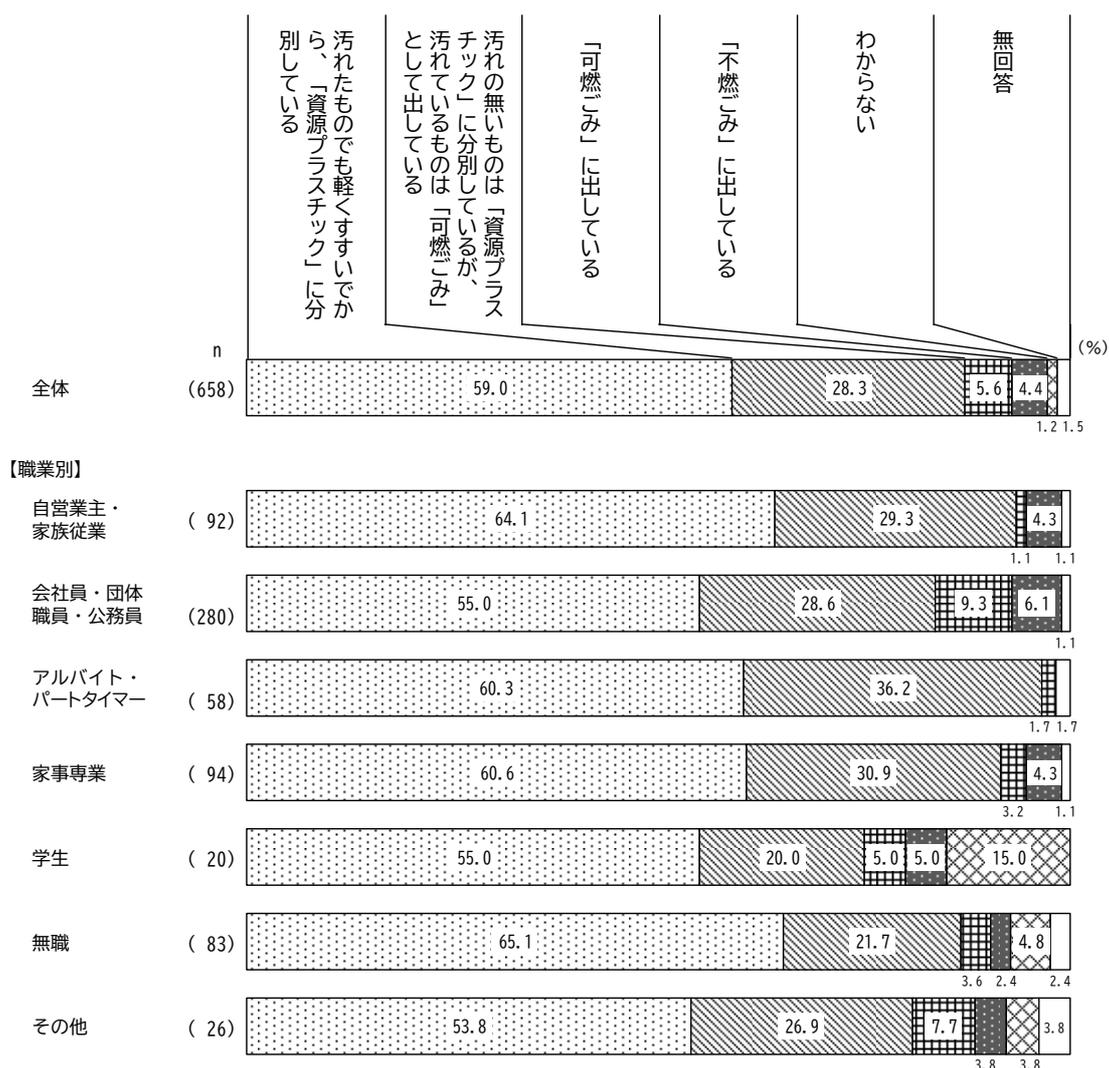
ペットボトル以外のプラスチック製品を捨てる際にどのように分別しているか聞いたところ、「汚れたものでも軽くすすいでから、『資源プラスチック』に分別している」(59.0%)が約6割で最も多く、次いで「汚れの無いものは『資源プラスチック』に分別しているが、汚れているものは『可燃ごみ』として出している」(28.3%)、「『可燃ごみ』に出している」(5.6%)と続いている。(図6-2-1)

図6-2-2 プラスチック製品を捨てる際の分別状況（性・年代別）



性・年代別でみると、「汚れたものでも軽くすすいでから、『資源プラスチック』に分別している」は男性60～69歳（76.9%）で8割近くとなっている。また、「汚れの無いものは『資源プラスチック』に分別しているが、汚れているものは『可燃ごみ』として出している」は女性30～39歳（40.0%）で4割となっている。（図6-2-2）

図6-2-3 プラスチック製品を捨てる際の分別状況（職業別）

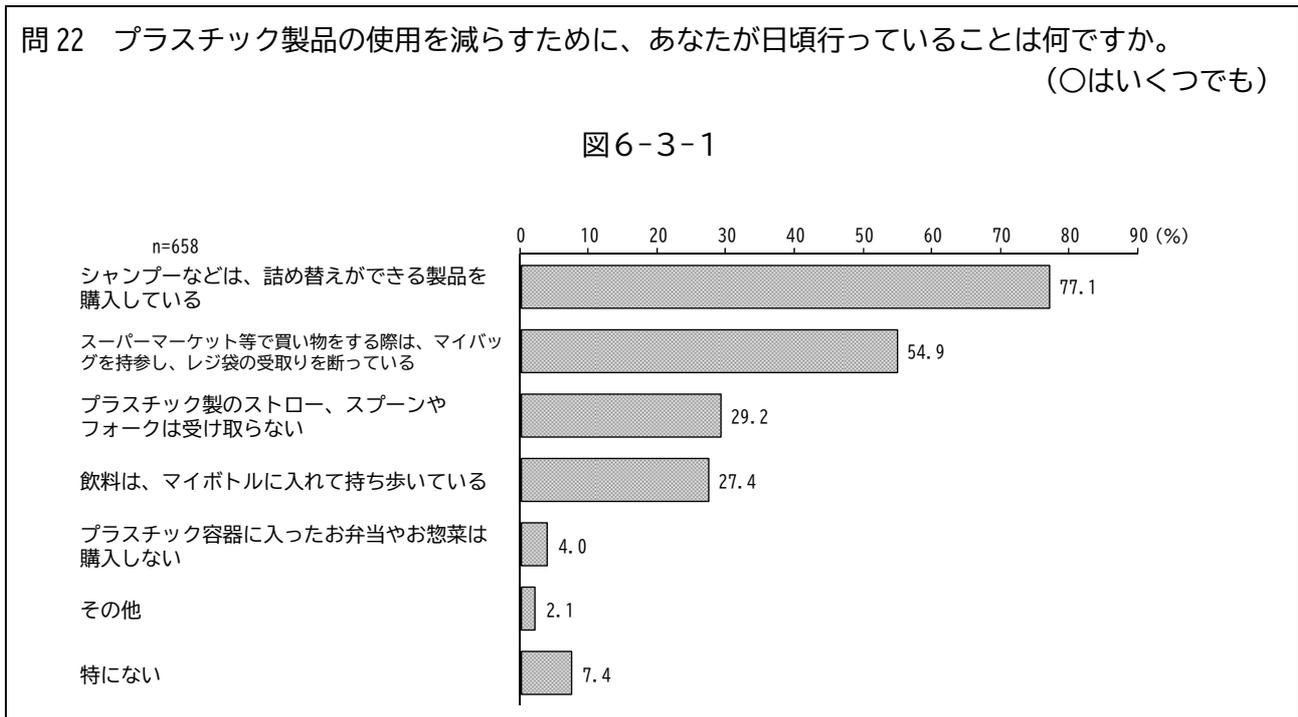


職業別でみると、「汚れたものでも軽くすすいでから、『資源プラスチック』に分別している」は無職（65.1%）が6割半ばで最も多くなっている。「汚れの無いものは『資源プラスチック』に分別しているが、汚れているものは『可燃ごみ』として出している」はアルバイト・パートタイマー（36.2%）で3割半ば、「『可燃ごみ』に出している」は会社員・団体職員・公務員（9.3%）で約1割となっている。

（図6-2-3）

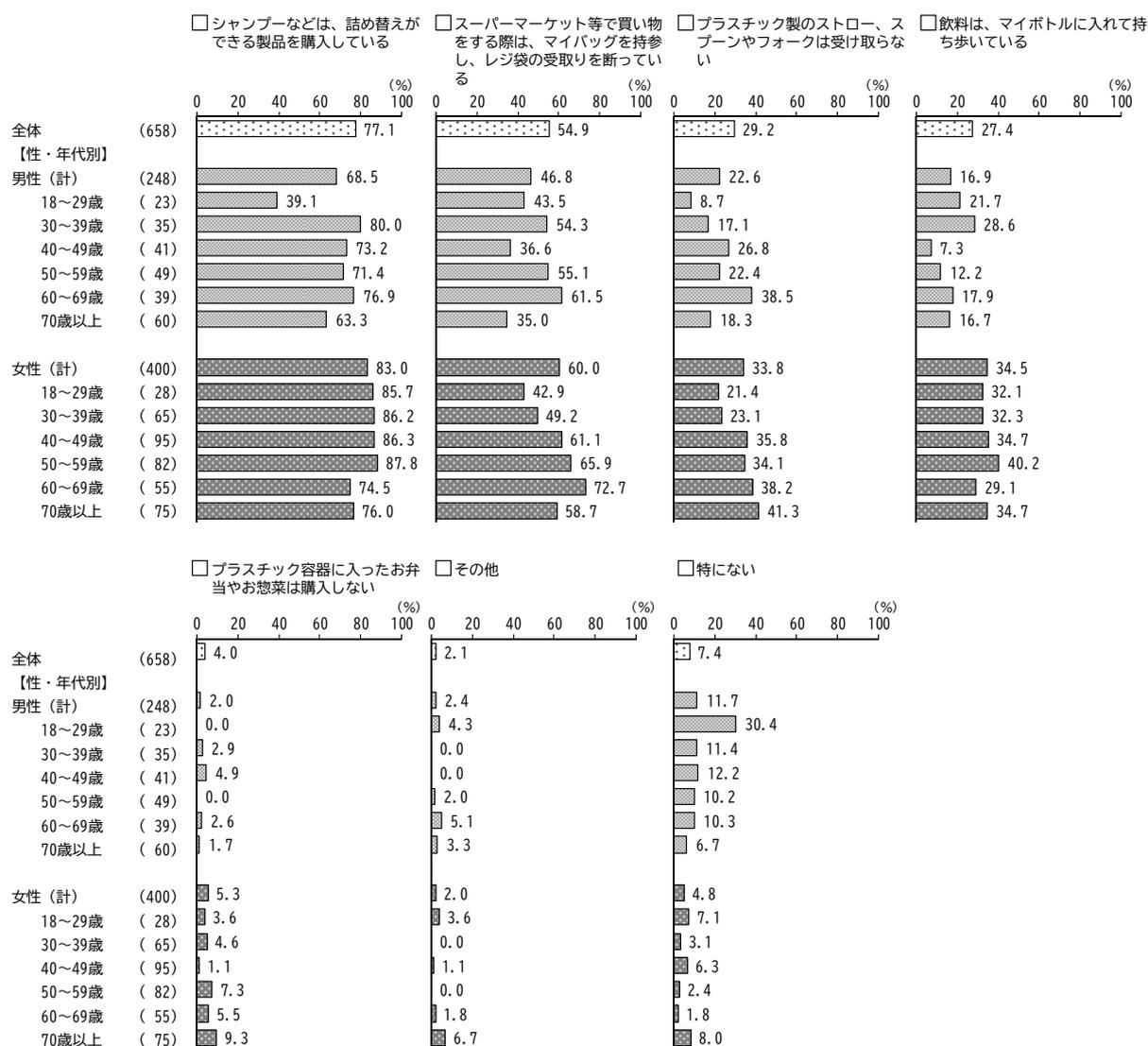
### (3) プラスチック製品を減らすために行っている取組

◇ 「シャンプーなどは、詰め替えができる製品を購入している」が8割近く



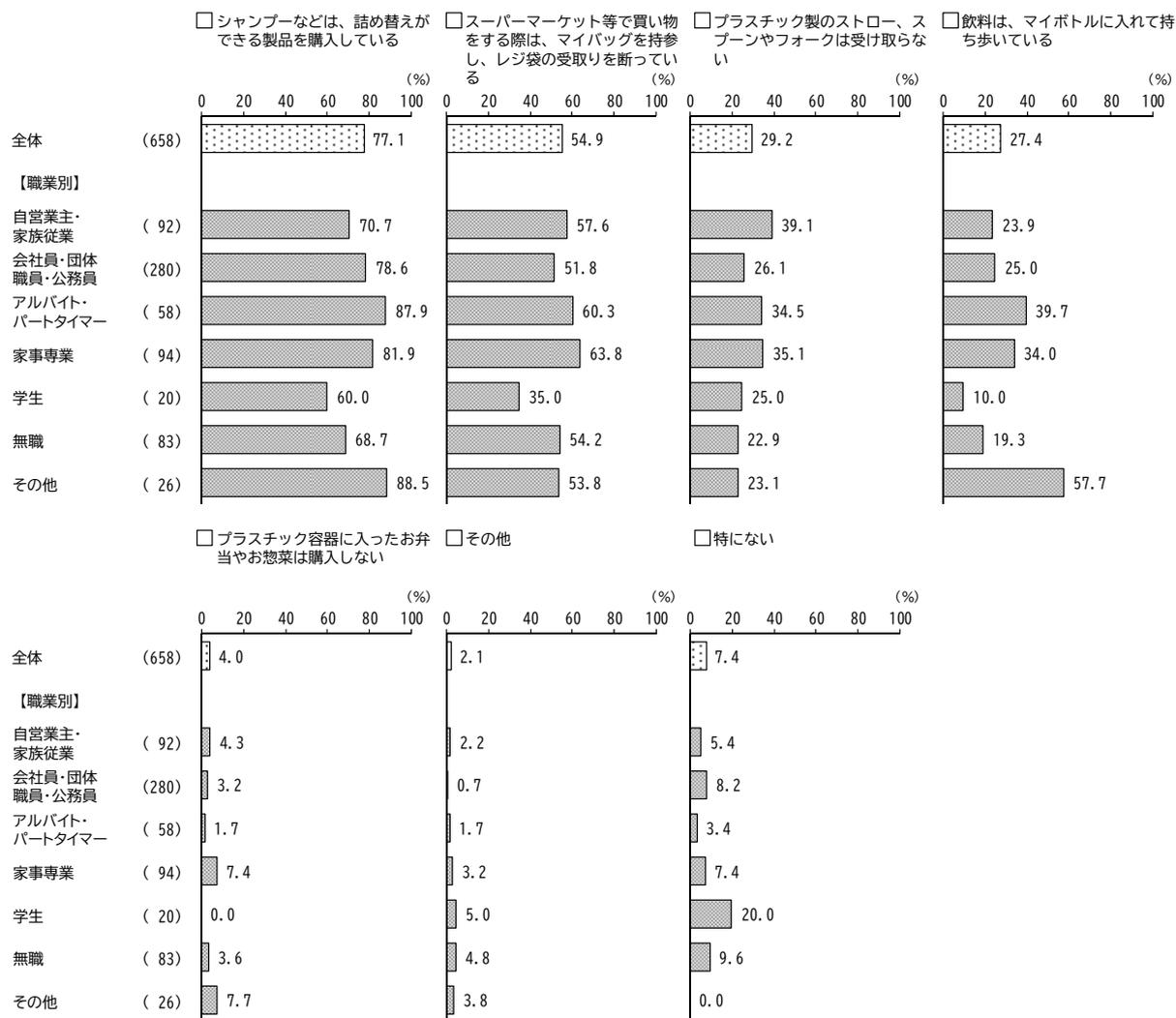
プラスチック製品の使用を減らすために日頃行っている取組を聞いたところ、「シャンプーなどは、詰め替えができる製品を購入している」(77.1%)が8割近くで最も多く、次いで「スーパーマーケット等で買い物する際は、マイバッグを持参し、レジ袋の受取りを断っている」(54.9%)、「プラスチック製のストロー、スプーンやフォークは受け取らない」(29.2%)、「飲料は、マイボトルに入れて持ち歩いている」(27.4%)と続いている。(図6-3-1)

図6-3-2 プラスチック製品を減らすために行っている取組（性・年代別）



性・年代別でみると、「シャンプーなどは、詰め替えが出来る製品を購入している」は女性50~59歳(87.8%)で9割近く、女性40~49歳(86.3%)、女性30~39歳(86.2%)で共に8割半ばとなっている。「スーパーマーケット等で買い物する際は、マイバッグを持参し、レジ袋の受取りを断っている」は女性60~69歳(72.7%)で7割を超えている。「プラスチック製のストロー、スプーンやフォークは受け取らない」は、女性70歳以上(41.3%)で4割を超えている。(図6-3-2)

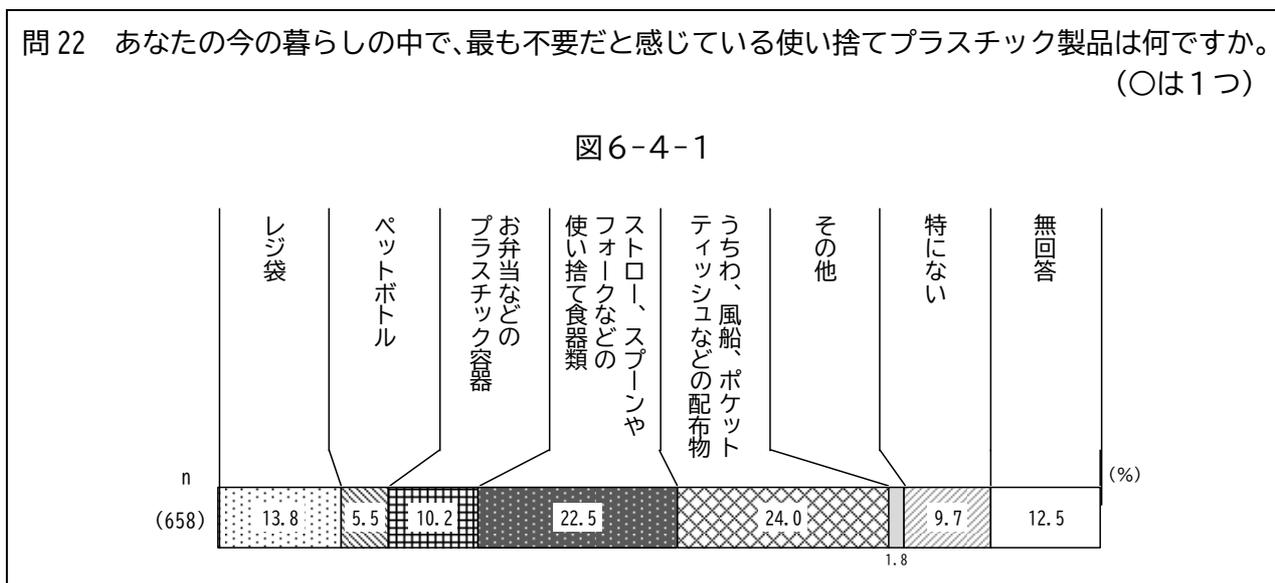
図6-3-3 プラスチック製品を減らすために行っている取組（職業別）



職業別でみると、「シャンプーなどは、詰め替えが出来る製品を購入している」はアルバイト・パートタイマー（87.9%）で9割近く、家事専業（81.9%）で8割を超えている。「スーパーマーケット等で買い物する際は、マイバッグを持参し、レジ袋の受取りを断っている」は家事専業（63.8%）で6割を超えている。「プラスチック製のストロー、スプーンやフォークは受け取らない」は自営業主・家族従業（39.1%）で約4割となっている。（図-6-3-3）

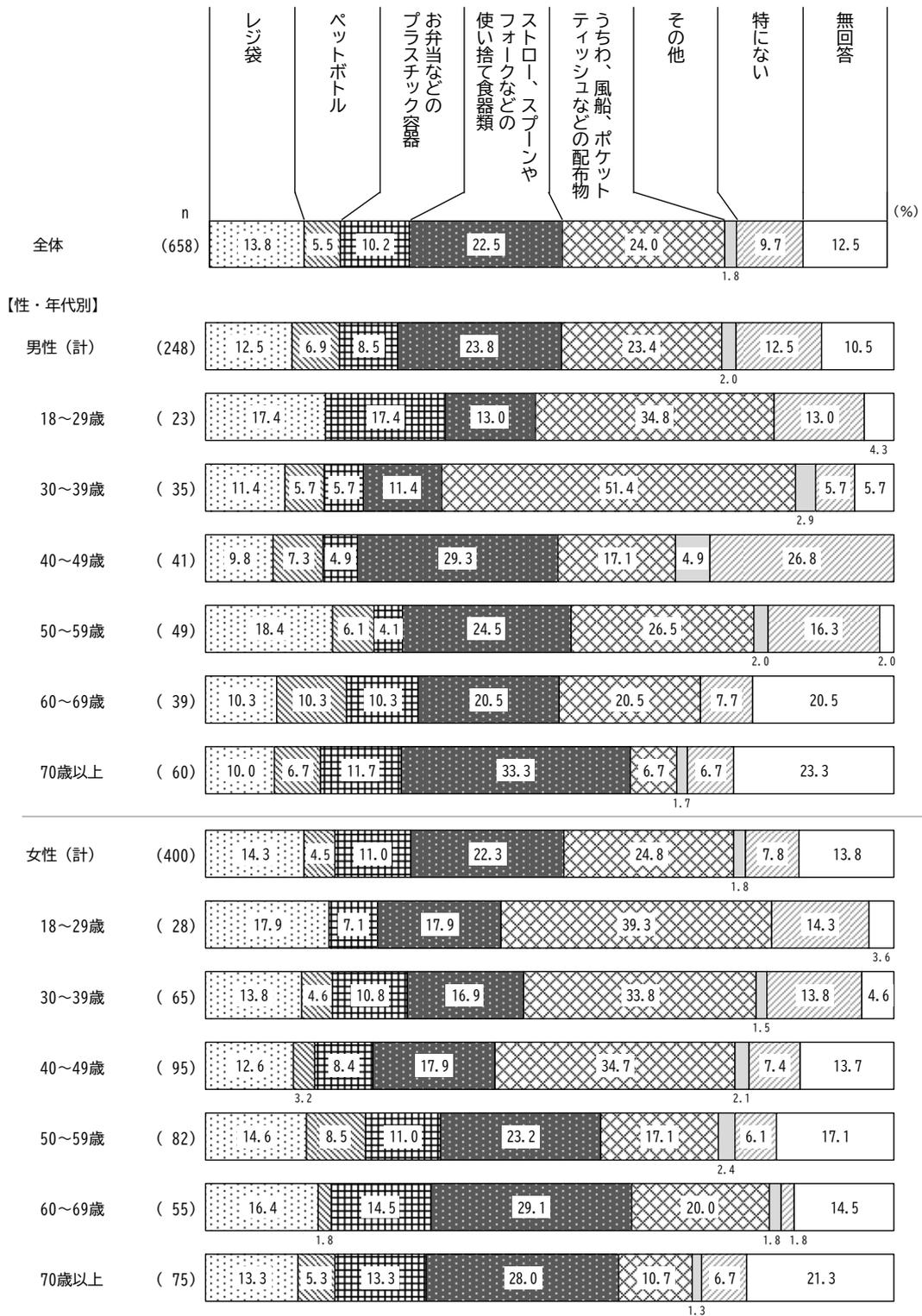
#### (4) 最も不要だと感じている使い捨てプラスチック製品

◇ 「うちわ、風船、ポケットティッシュなどの配布物」が2割半ば、「ストロー、スプーンやフォークなどの使い捨て食器類」が2割を超える



今の暮らしの中で最も不要だと感じている使い捨てプラスチック製品は何か聞いたところ、「うちわ、風船、ポケットティッシュなどの配布物」(24.0%)が2割半ばで最も多くなっている。次いで「ストロー、スプーンやフォークなどの使い捨て食器類」(22.5%)、「レジ袋」(13.8%)と続いている。  
(図6-4-1)

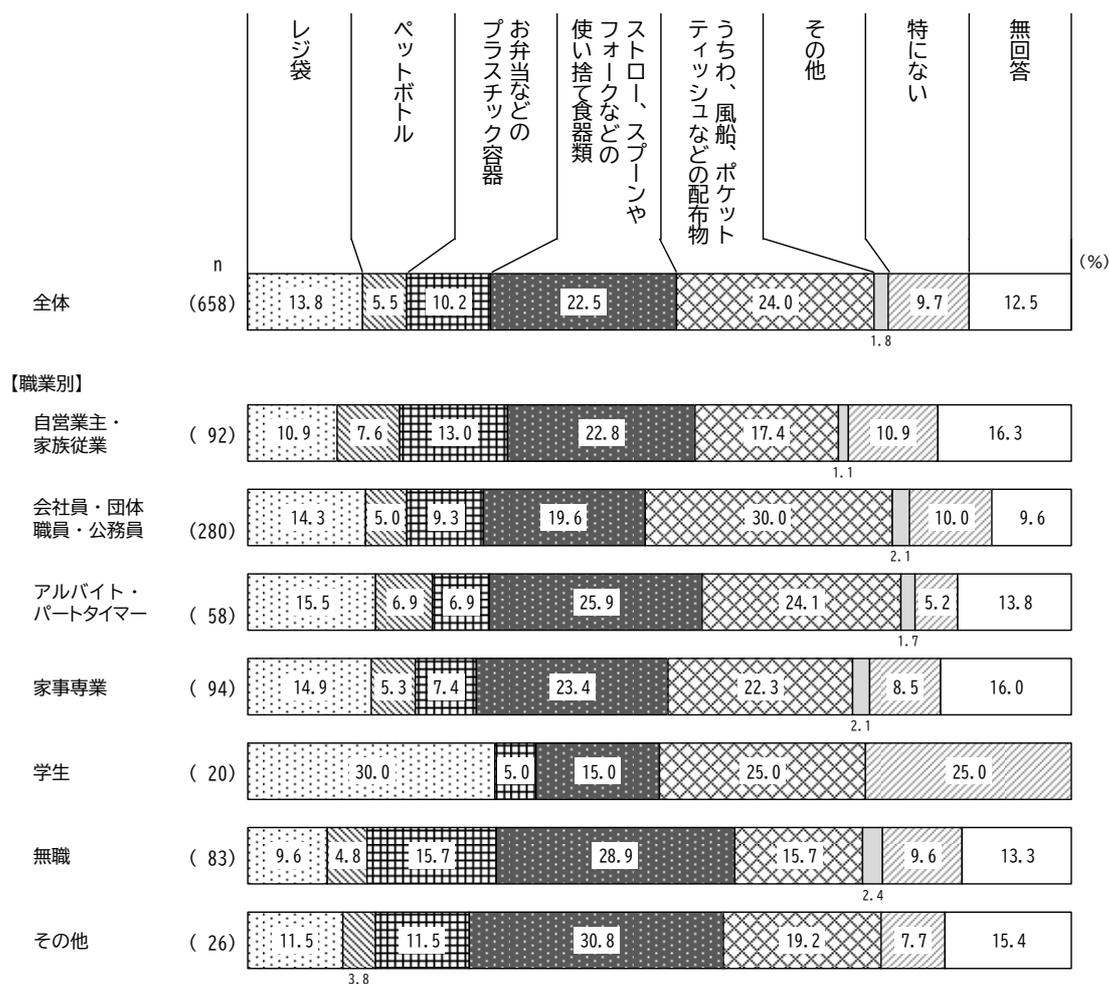
図6-4-2 最も不要だと感じている使い捨てプラスチック製品（性・年代別）



性別で見ると、「うちわ、風船、ポケットティッシュなどの配布物」は女性（24.8%）が男性（23.4%）より 1.4 ポイント多くなっている。一方、「ストロー、スプーンやフォークなどの使い捨て食器類」は男性（23.8%）が女性（22.3%）より 1.5 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、「うちわ、風船、ポケットティッシュなどの配布物」は男性 30~39 歳（51.4%）で 5 割を超えている。「ストロー、スプーンやフォークなどの使い捨て食器類」は男性 70 歳以上（33.3%）で 3 割を超えている。

(図6-4-2)

図6-4-3 最も不要だと感じている使い捨てプラスチック製品（職業別）



職業別で見ると、「うちわ、風船、ポケットティッシュなどの配布物」は会社員・団体職員・公務員(30.0%)で3割となっている。「ストロー、スプーンやフォークなどの使い捨て食器類」は無職(28.9%)で3割近くとなっている。(図6-4-3)

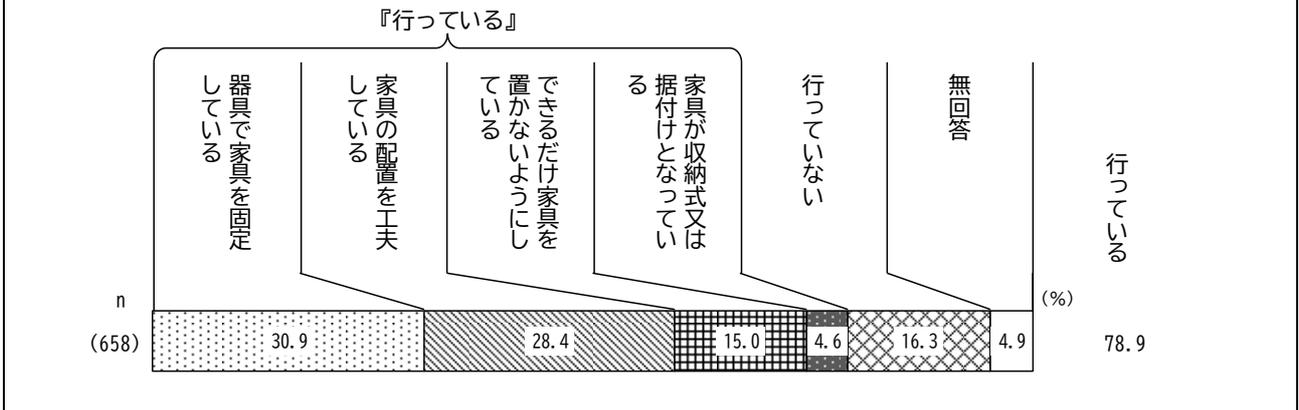
## 7 災害対策

### (1) 自宅で行っている家具の転倒・移動・落下対策

◇ 『行っている』が8割近く

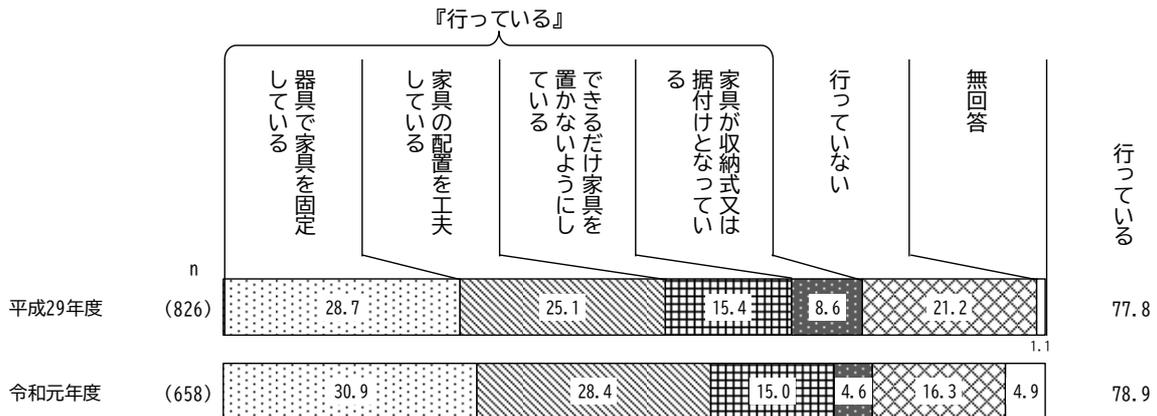
問23 震災時に自宅でケガをしないために、事前の備えである家具の転倒・移動・落下対策が重要です。あなたはご自宅で、どのような対策を行っていますか。(〇は1つ)

図7-1-1



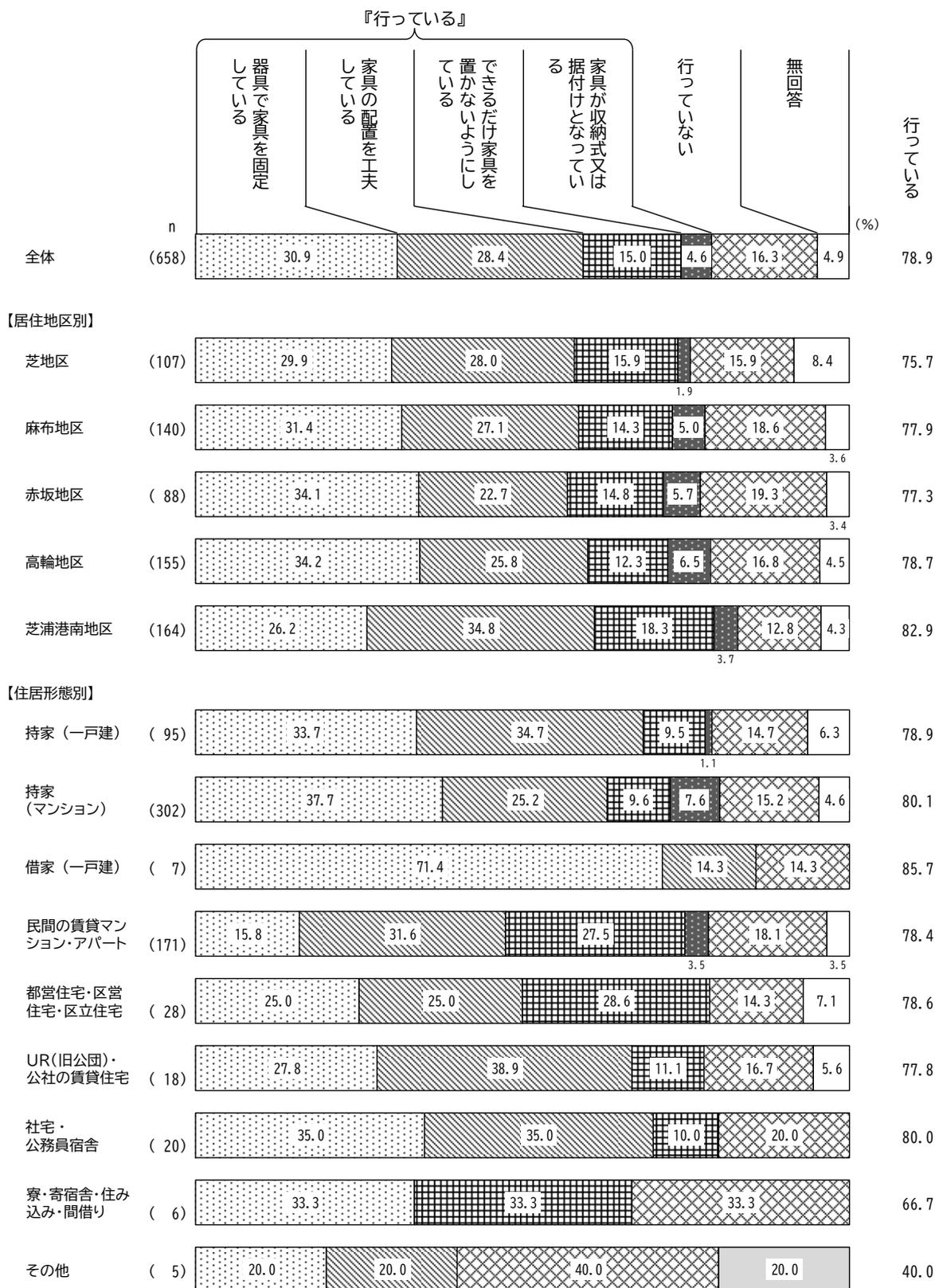
震災時に自宅でケガをしないためにどのような対策を行っているか聞いたところ、「器具で家具を固定している」(30.9%)、「家具の配置を工夫している」(28.4%)、「できるだけ家具を置かないようにしている」(15.0%)、「家具が収納式又は据付けとなっている」(4.6%)を合わせた『行っている』(78.9%)は8割近くとなっている。(図7-1-1)

図7-1-2 自宅で行っている家具の転倒・移動・落下対策 (時系列比較)



平成29年度調査と比較すると『行っている』は1.1ポイント増加している。一方、「行っていない」は4.9ポイント減少している。(図7-1-2)

図7-1-3 自宅で行っている家具の転倒・移動・落下対策（居住地区別）

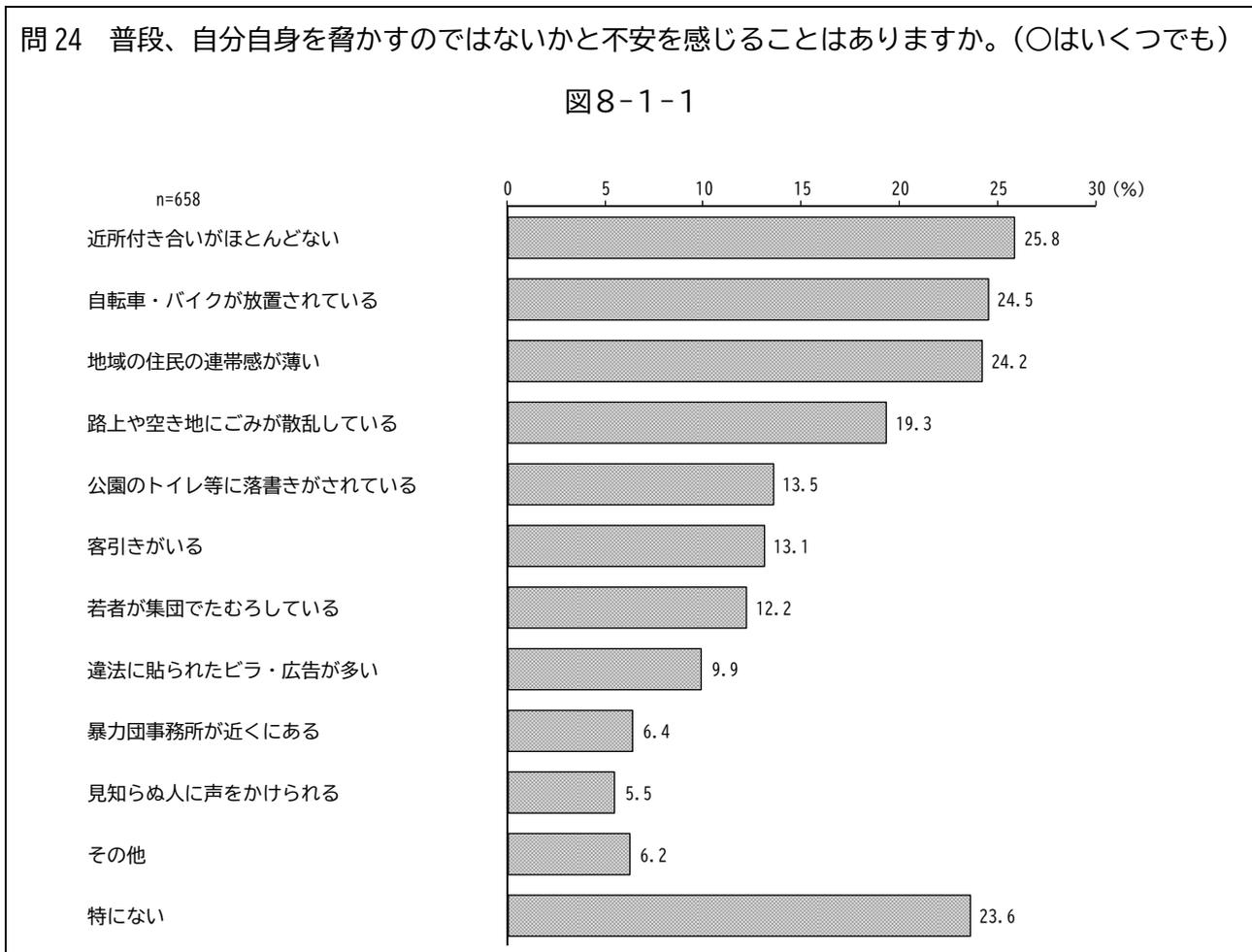


居住地区別でみると、『行っている』は芝浦港南地区（82.9%）で8割を超えている。また、母数の少ないケースを除き、住居形態による『行っている』の割合に大きな差は見られない。（図7-1-3）

## 8 生活安全

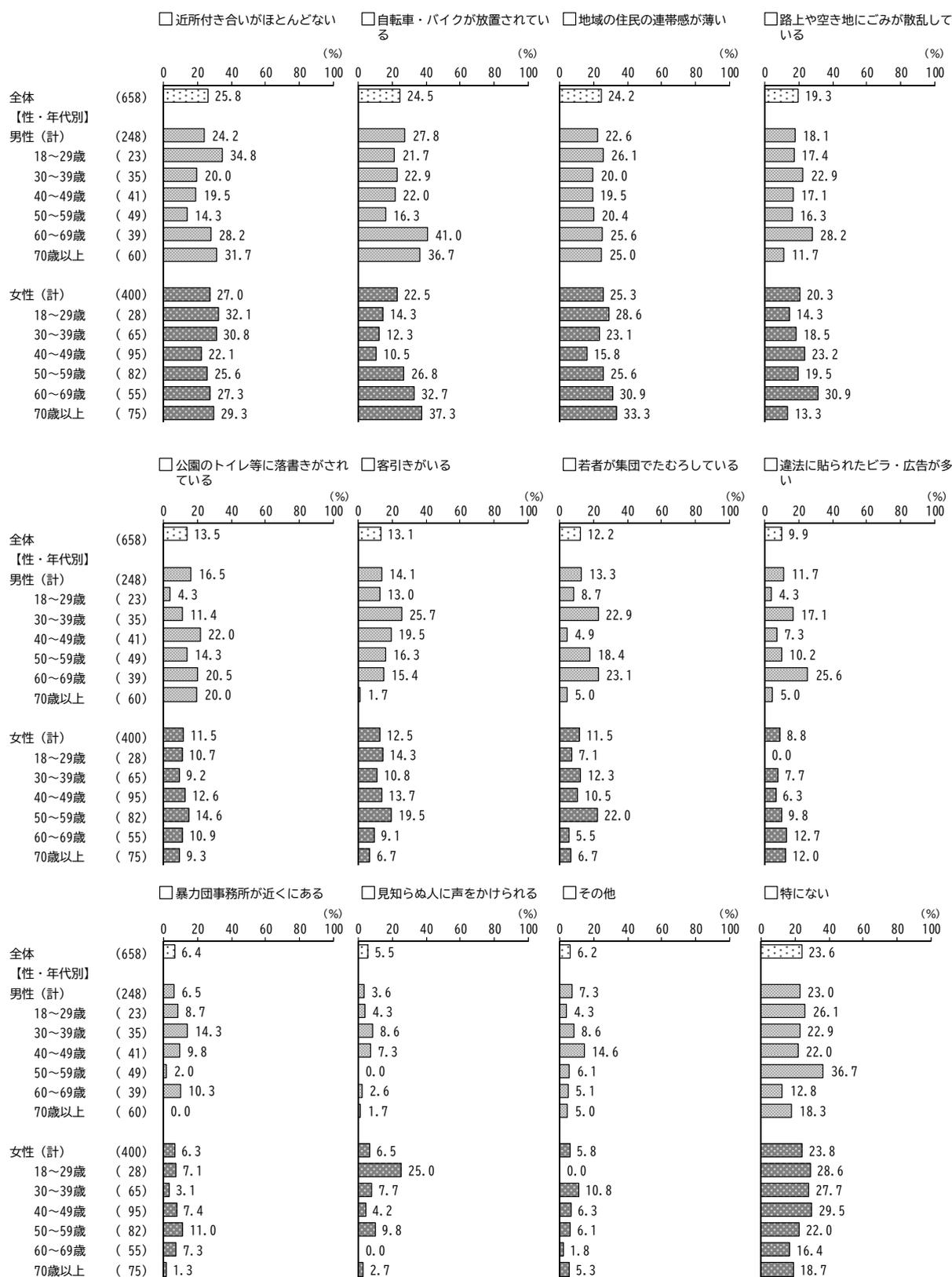
### (1) 普段の生活の中での不安

◇ 「近所付き合いがほとんどない」、「自転車・バイクが放置されている」、「地域の住民の連帯感が薄い」がともに2割半ば



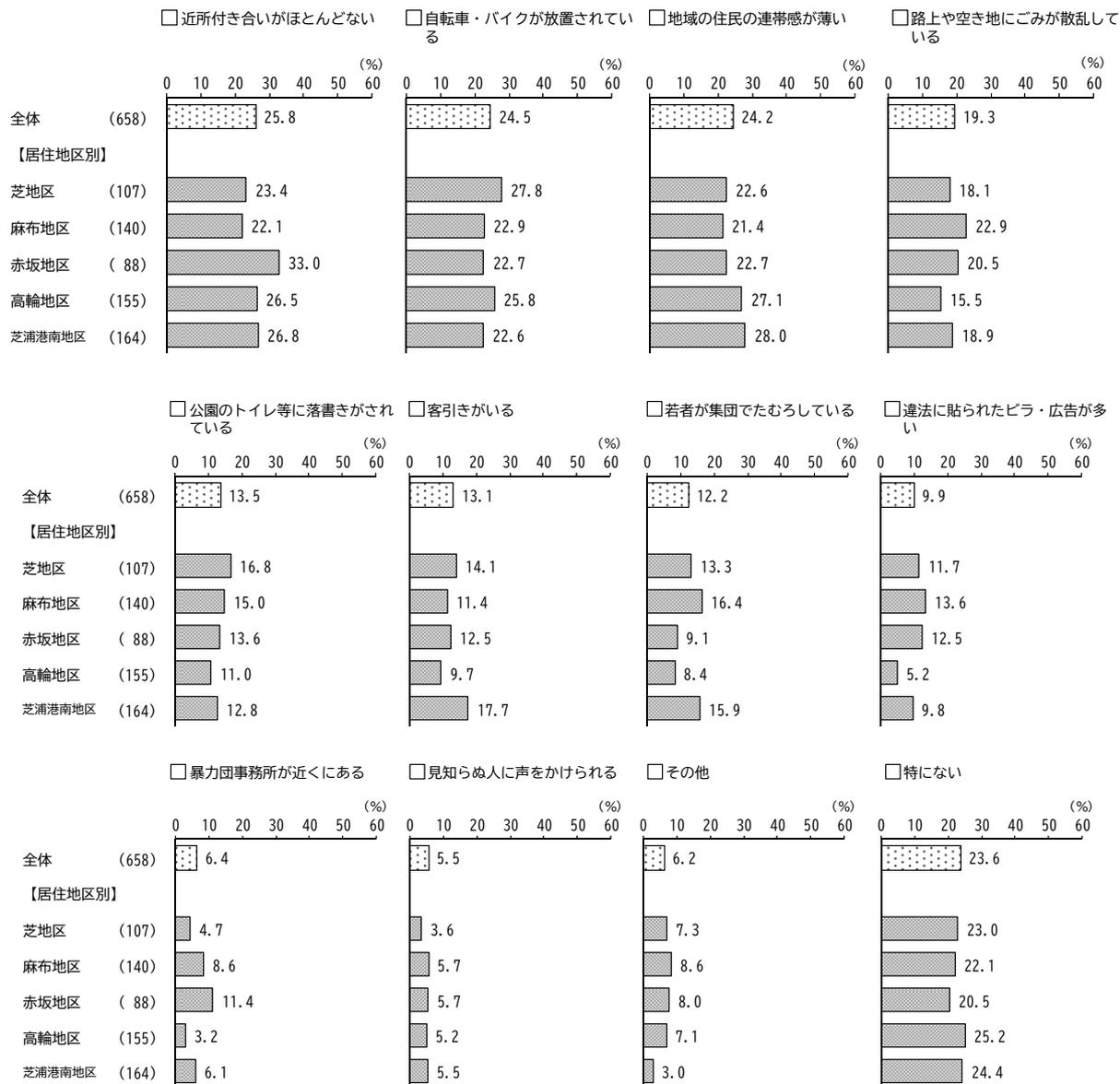
普段、自分自身を脅かすのではないかと不安を感じることはあるか聞いたところ、「近所付き合いがほとんどない」(25.8%)、「自転車・バイクが放置されている」(24.5%)、「地域の住民の連帯感が薄い」(24.2%)がともに2割半ばとなっている。次いで「路上や空き地にごみが散乱している」(19.3%)、「公園のトイレ等に落書きがされている」(13.5%)と続いている。(図8-1-1)

図8-1-2 普段の生活の中での不安（性・年代別）



性・年代別でみると、「近所付き合いがほとんどない」は男性18～29歳（34.8%）で3割半ば、女性18～29歳（32.1%）で3割を超えている。一方、「自転車・バイクが放置されている」は男性60～69歳（41.0%）で4割を超え、女性70歳以上（37.3%）で4割近くとなっている。（図8-1-2）

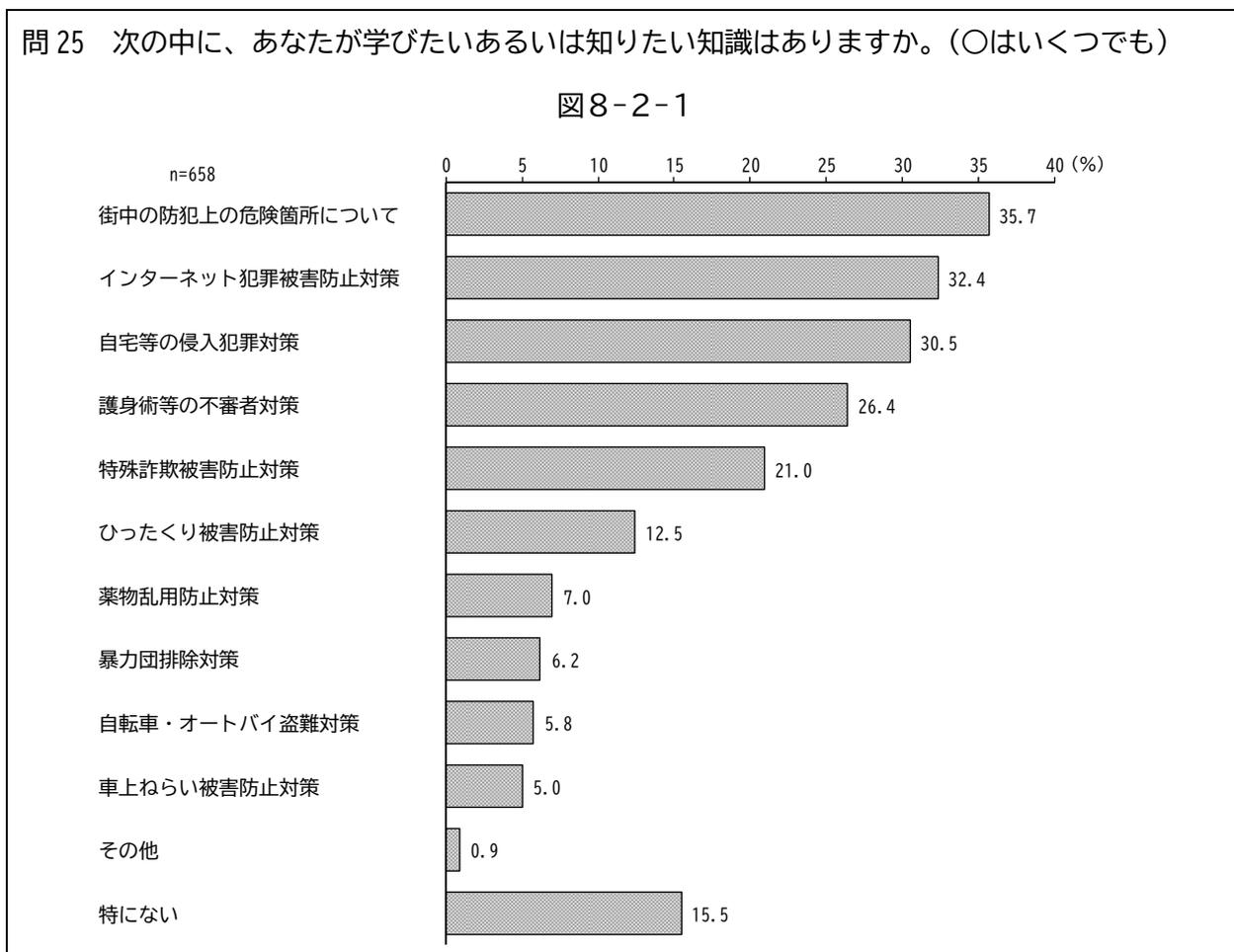
図8-1-3 普段の生活の中での不安（居住地区別）



居住地区別でみると、「近所付き合いがほとんどない」は赤坂地区（33.0%）で3割を超えている。「地域の住民の連帯感が薄い」は芝浦港南地区（28.0%）、高輪地区（27.1%）でともに3割近くとなっている。一方、「特にない」は高輪地区（25.2%）、芝浦港南地区（24.4%）で2割半ばとなっている。（図8-1-3）

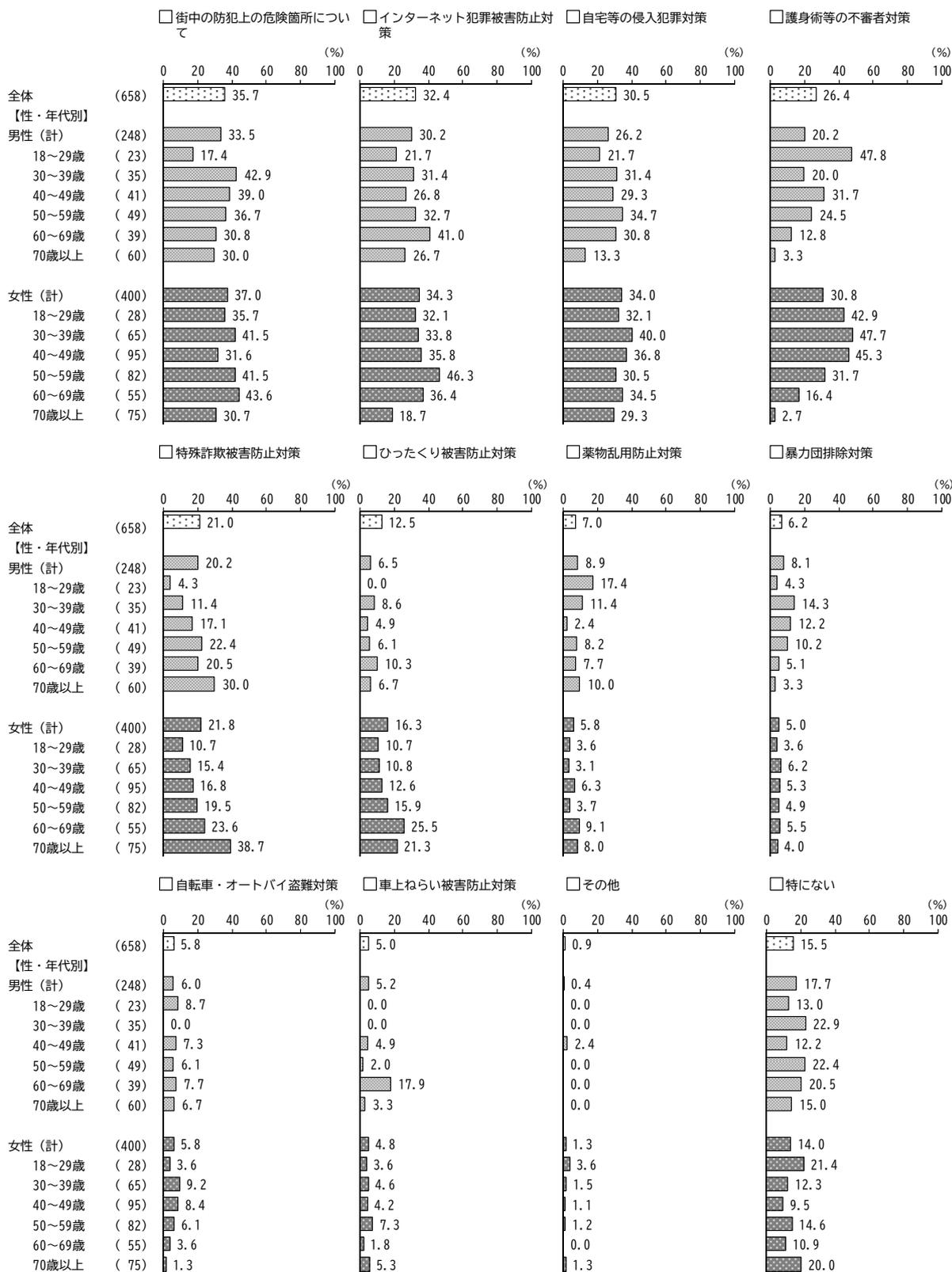
## (2) 学びたい知識

◇ 「街中の防犯上の危険箇所について」が3割半ば、「インターネット犯罪被害防止対策」が3割を超え、「自宅等の侵入犯罪対策」が約3割



学びたいあるいは知りたい知識はあるか聞いたところ、「街中の防犯上の危険箇所について」(35.7%)が3割半ばで最も多く、次いで、「インターネット犯罪被害防止対策」(32.4%)、「自宅等の侵入犯罪対策」(30.5%)、「護身術等の不審者対策」(26.4%)と続いている。一方、「特になし」(15.5%)は1割半ばとなっている。(図8-2-1)

図8-2-2 学びたい知識（性・年代別）



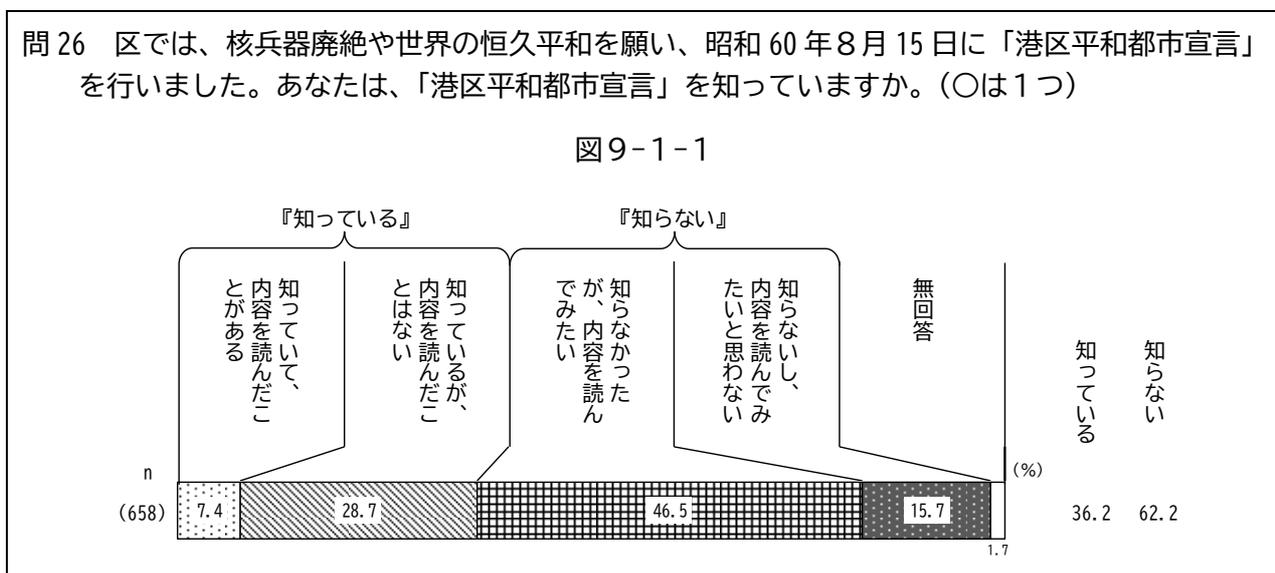
性別でみると、「護身術等の不審者対策」は女性（30.8%）が男性（20.2%）より10.6ポイント多くなっている。一方、「特にない」は男性（17.7%）が女性（14.0%）より3.7ポイント多くなっている。

性・年代別でみると、「特殊詐欺被害防止対策」は、男女ともに70歳以上が3割を超え最も多くなっている。「護身術等の不審者対策」は男性18~29歳（47.8%）と女性30~39歳（47.7%）で5割近くとなっている。（図8-2-2）

## 9 平和

### (1) 「港区平和都市宣言」の認知状況

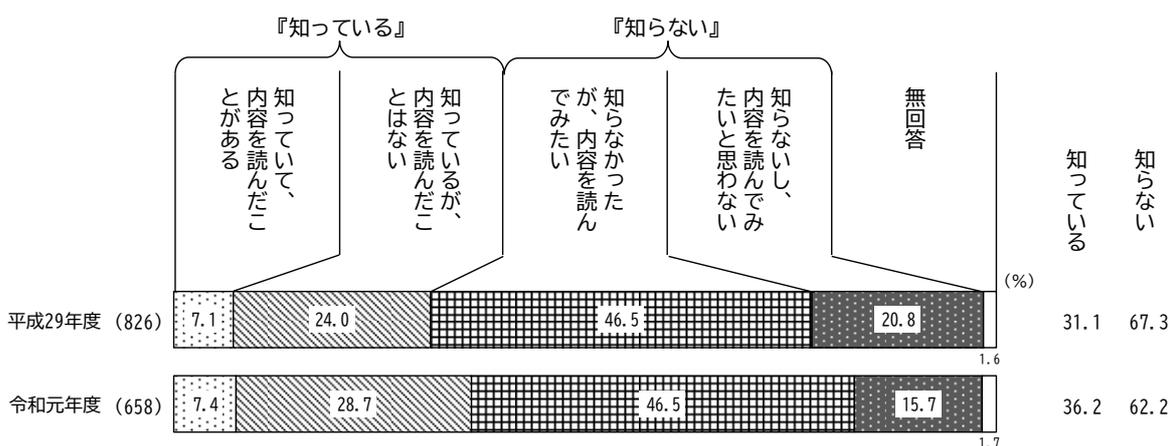
◇ 『知っている』が3割半ば



「港区平和都市宣言」を知っているか聞いたところ、「知っていて、内容を read したことがある」(7.4%)と「知っているが、内容を read したことはない」(28.7%)を合わせた『知っている』(36.2%)は3割半ばとなっている。

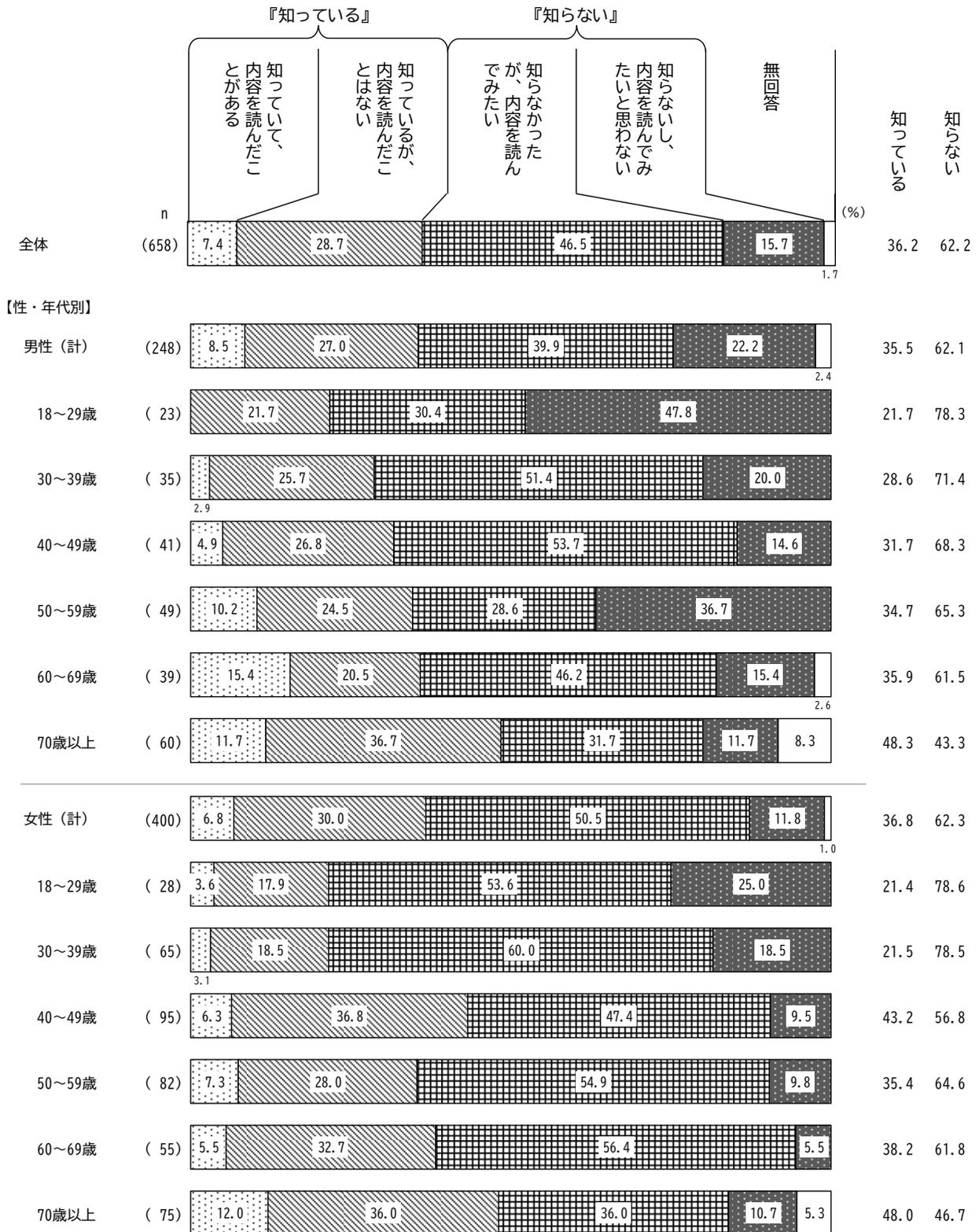
一方、「知らないが、内容を read してみたい」(46.5%)と「知らないし、内容を read してみたいと思わない」(15.7%)を合わせた『知らない』(62.2%)は6割を超えている。(図9-1-1)

図9-1-2 「港区平和都市宣言」の認知状況(時系列比較)



平成29年調査と比較すると、『知っている』は5.1ポイント増加している。(図9-1-2)

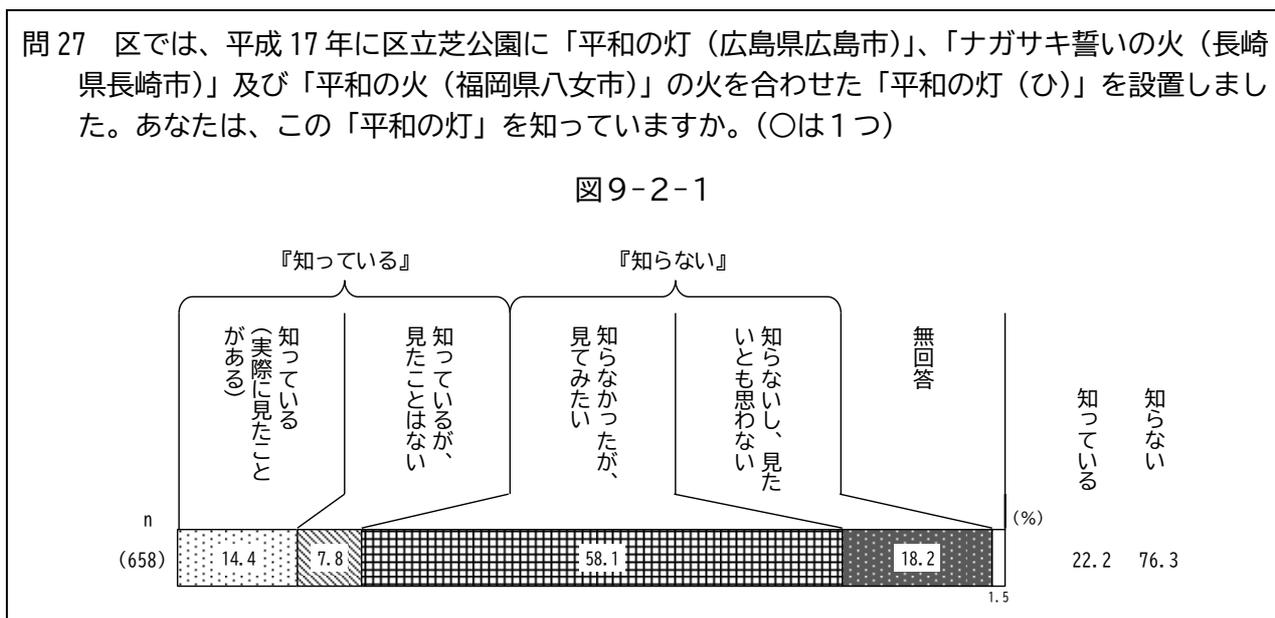
図9-1-3 「港区平和都市宣言」の認知状況（性・年代別）



性・年代別で見ると、『知っている』は男性70歳以上(48.3%)、女性70歳以上(48.0%)で5割近くとなっている。一方、『知らない』は女性18～29歳(78.6%)、女性30～39歳(78.5%)、男性18～29歳(78.3%)で8割近くとなっている。(図9-1-3)

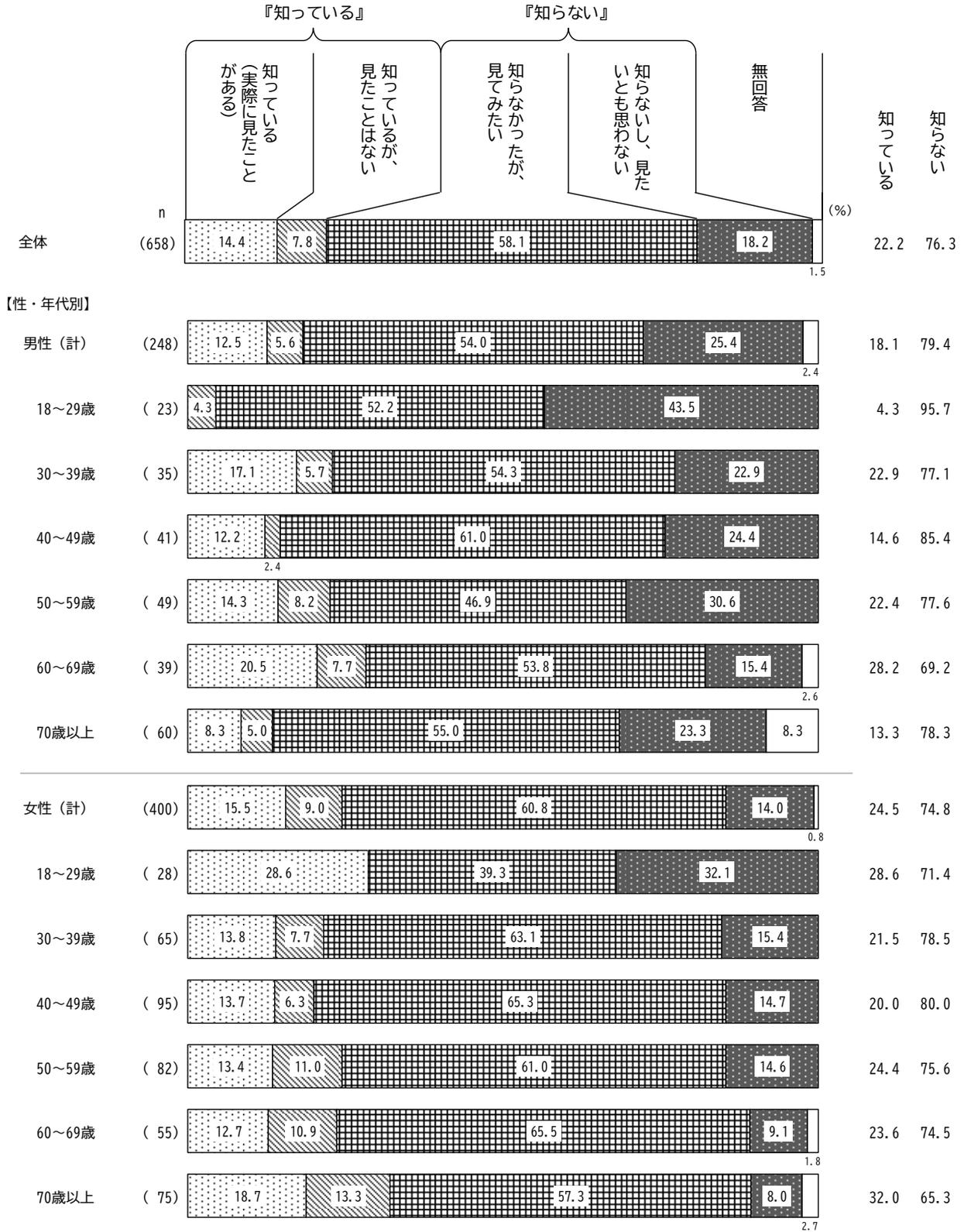
## (2) 「平和の灯」の認知状況

◇ 『知っている』が2割を超える



「平和の灯」を知っているか聞いたところ、「知っている（実際に見たことがある）」（14.4%）と「知っているが、見たことはない」（7.8%）を合わせた『知っている』（22.2%）は2割を超えている。一方、「知らなかったが、見てみたい」（58.1%）と「知らないし、見たいとも思わない」（18.2%）を合わせた『知らない』（76.3%）は7割半ばとなっている。（図9-2-1）

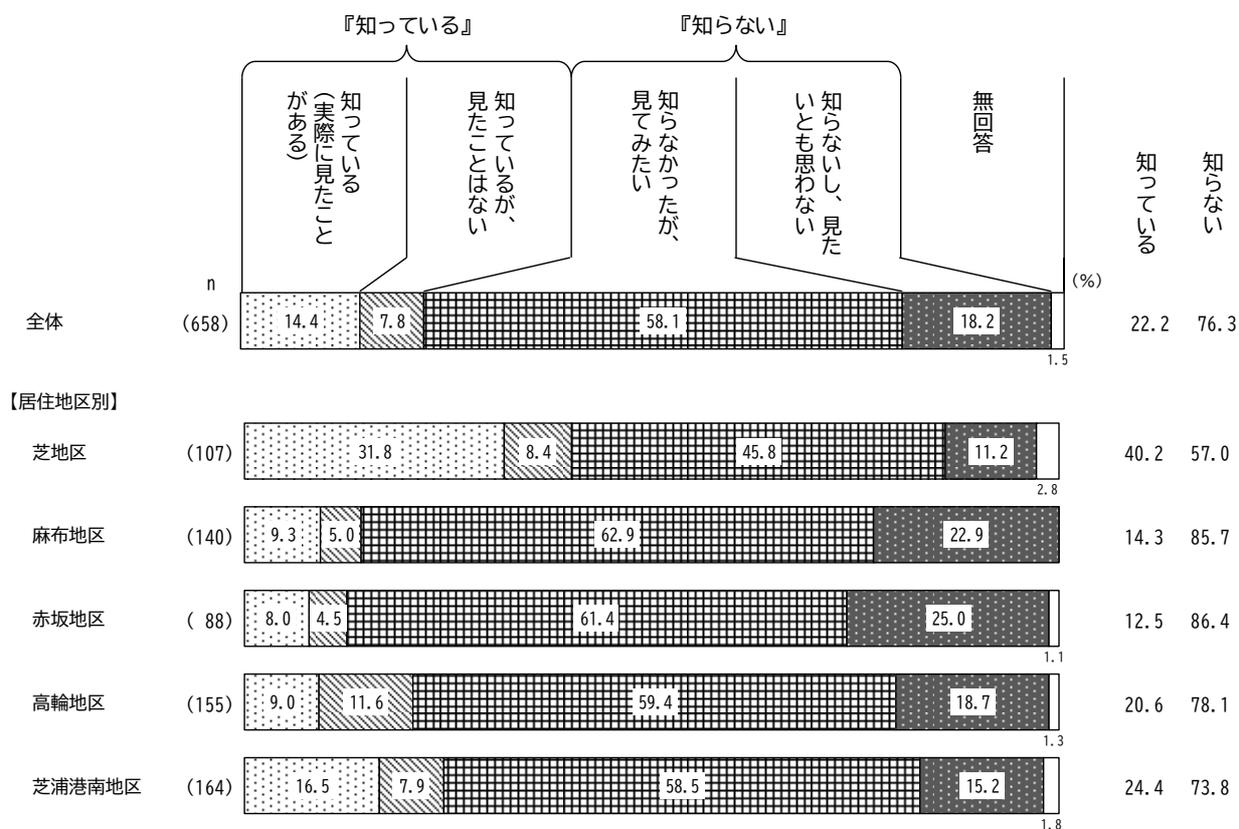
図9-2-2 「平和の灯」の認知状況（性・年代別）



性・年代別でみると、『知っている』は女性70歳以上(32.0%)で3割を超えて最も多く、次いで、女性18~29歳(28.6%)、男性60~69歳(28.2%)がともに3割近くとなっている。

一方、『知らない』は男性18~29歳(95.7%)で9割半ばと最も多く、次いで男性40~49歳(85.4%)で8割半ばとなっている。(図9-2-2)

図9-2-3 「平和の灯」の認知状況（居住地区別）

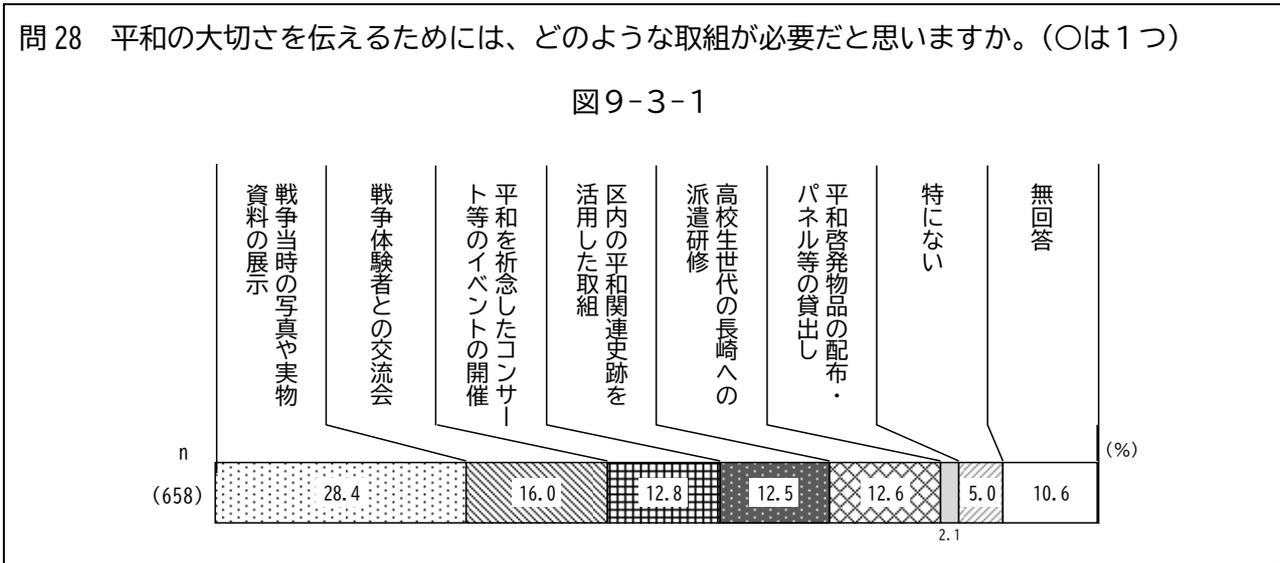


居住地区別でみると、『知っている』は芝地区（40.2%）で4割、芝浦港南地区（24.4%）で2割半ばとなっている。一方、『知らない』は赤坂地区（86.4%）、麻布地区（85.7%）で8割半ばとなっている。（図9-2-3）

(3) 平和の大切さを伝えるために必要な取組

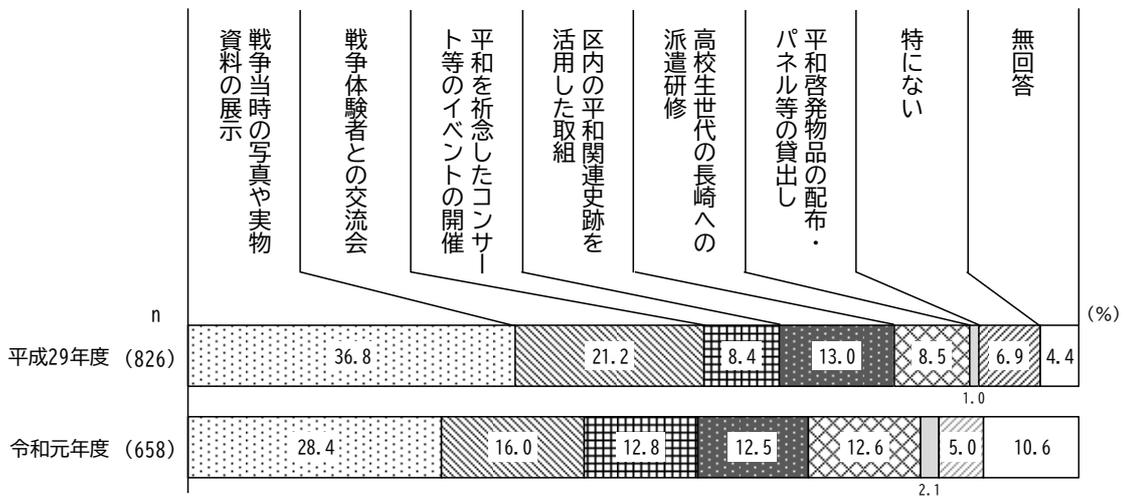
◇ 「戦争当時の写真や実物資料の展示」が3割近く

問 28 平和の大切さを伝えるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(○は1つ)



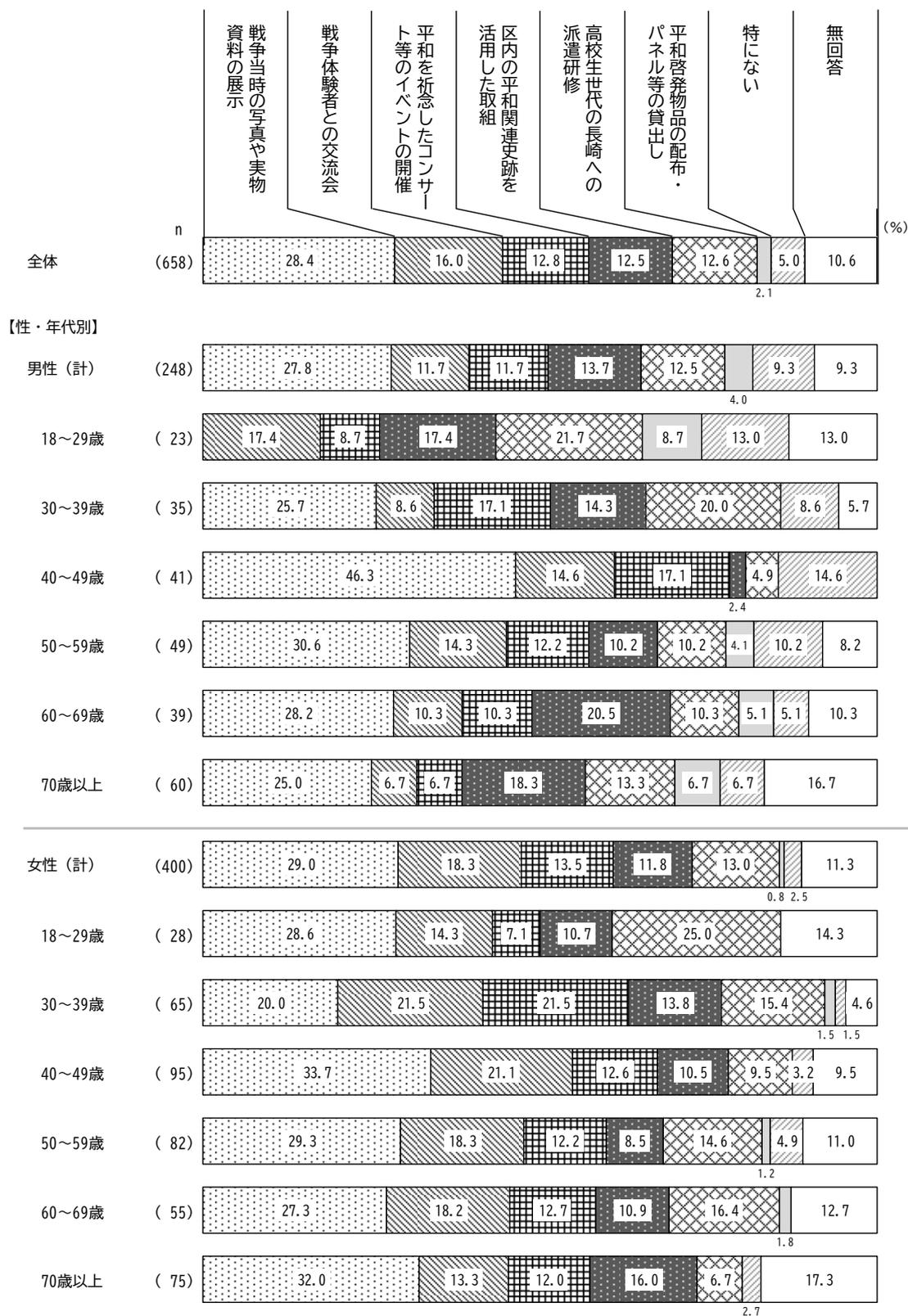
平和の大切さを伝えるためにどのような取組が必要か聞いたところ、「戦争当時の写真や実物資料の展示」(28.4%)が3割近くで最も多くなっている。(図9-3-1)

図9-3-2 平和の大切さを伝えるために必要な取組(時系列比較)



平成29年度調査と比較すると、「戦争当時の写真や実物資料の展示」は8.4ポイント減少し、「平和を祈念したコンサート等のイベントの開催」は4.4ポイント、「高校生世代の長崎への派遣研修」は4.1ポイント増加している。(図9-3-2)

図9-3-3 平和の大切さを伝えるために必要な取組（性・年代別）



性・年代別で見ると、「戦争当時の写真や実物資料の展示」は男性40~49歳（46.3%）で4割半ばとなっている。また、「高校生世代の長崎への派遣研修」は女性18~29歳（25.0%）で2割半ばとなっている。（図9-3-3）

## 10 港区の職員に対する印象

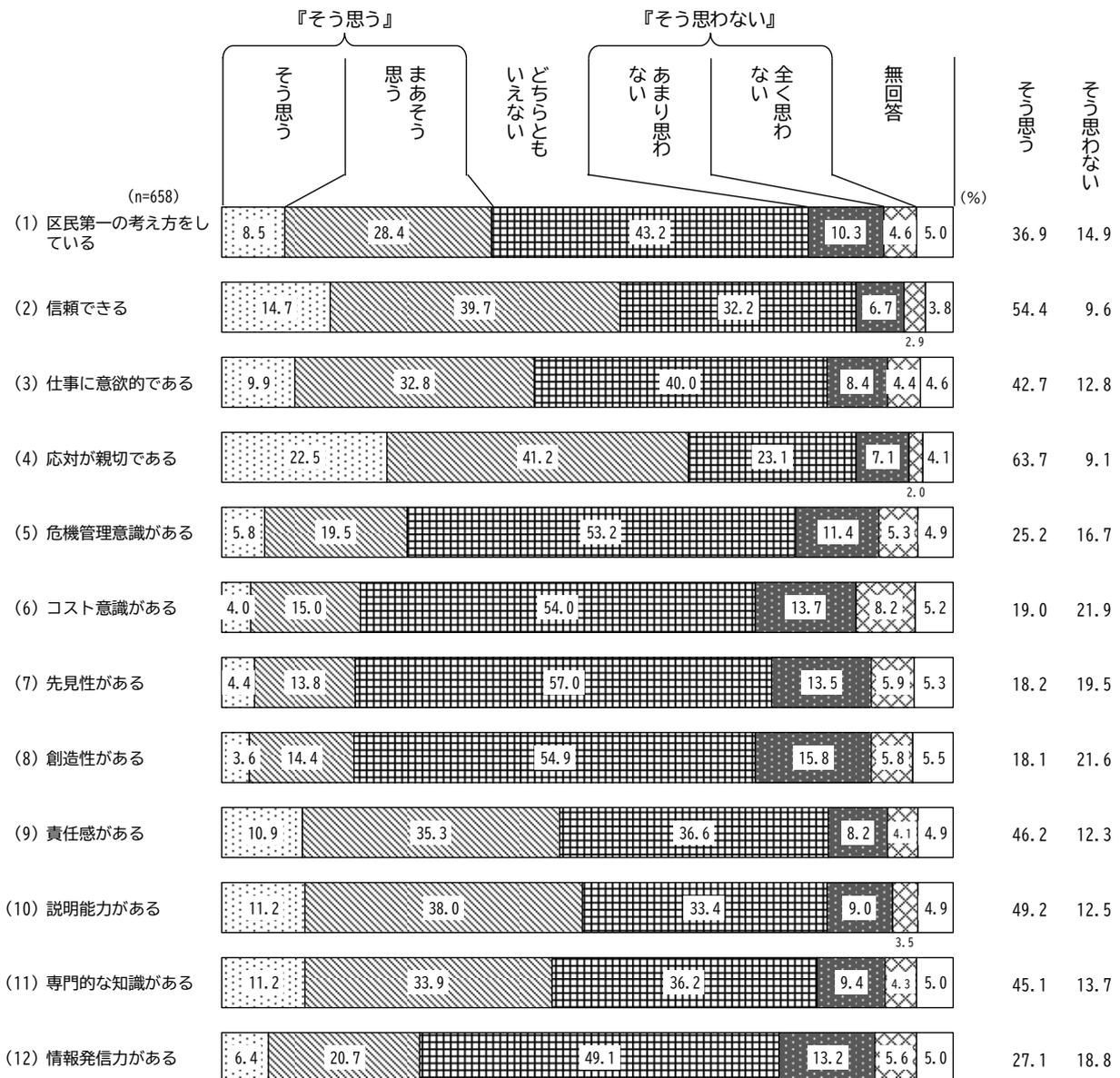
### (1) 港区の職員に対する印象

問 29 港区の職員に対する印象について、あなたはどのように感じていますか。以下の項目について、あなたのお考えに近いものをお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

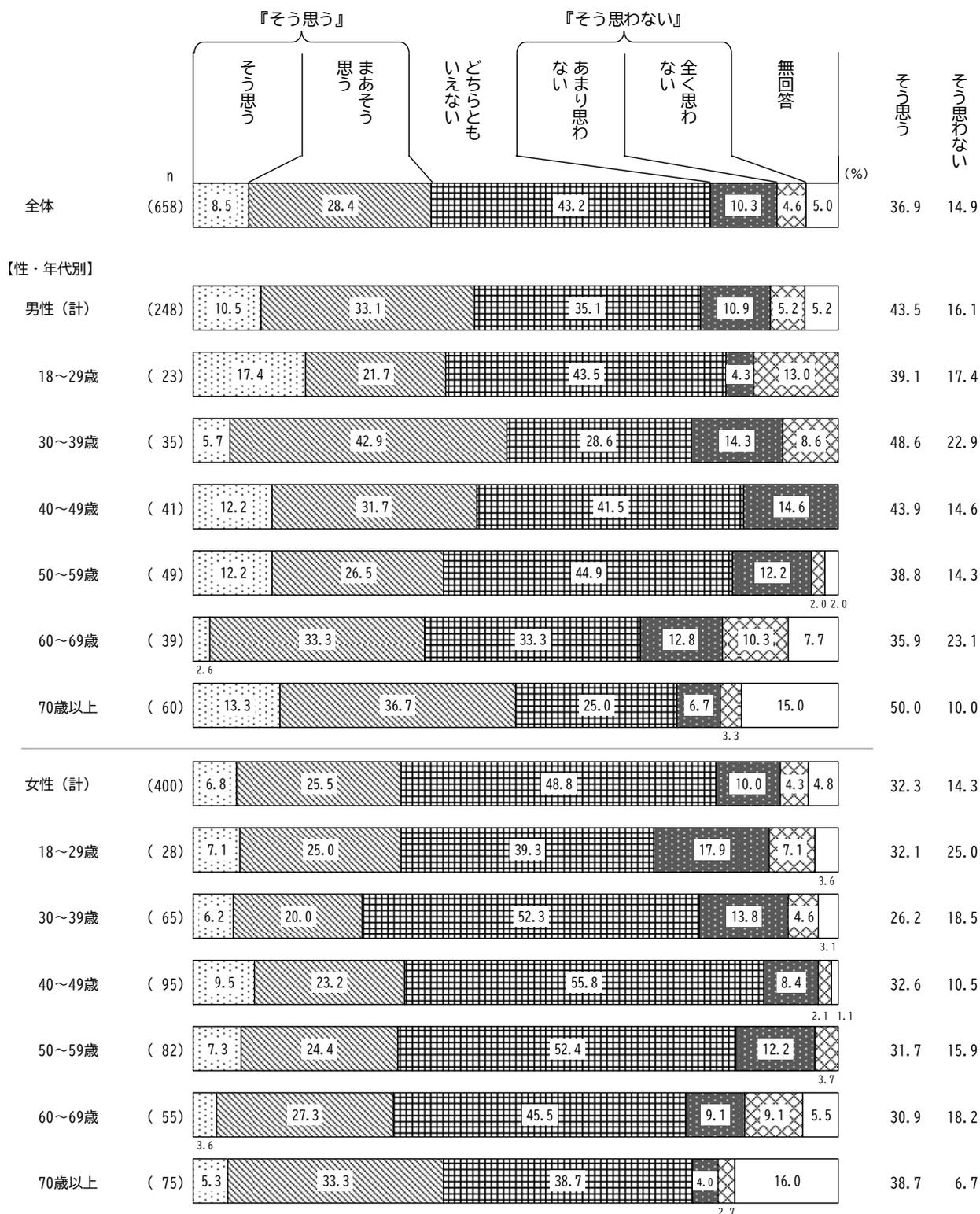
港区の職員に対する印象について、12の項目を挙げてどのように感じているか聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は「(4) 応対が親切である」(63.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「(2)信頼できる」(54.4%)で5割半ばとなっている。

一方、「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせた『そう思わない』は「(6) コスト意識がある」(21.9%)と「(8) 創造性がある」(21.6%)でそれぞれ2割を超えている。(図10-1-1)

図10-1-1

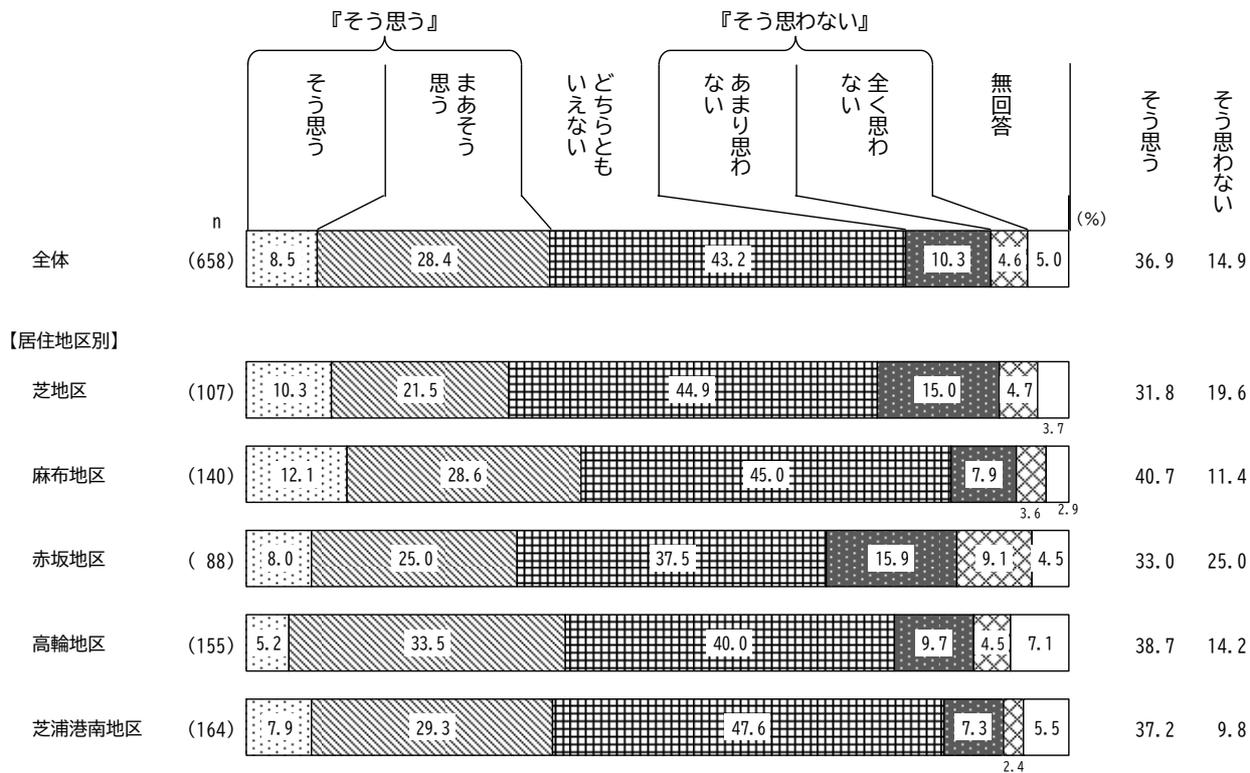


項目 (1) 区民第一の考え方をしている  
(性・年代別) 図 10-1-2



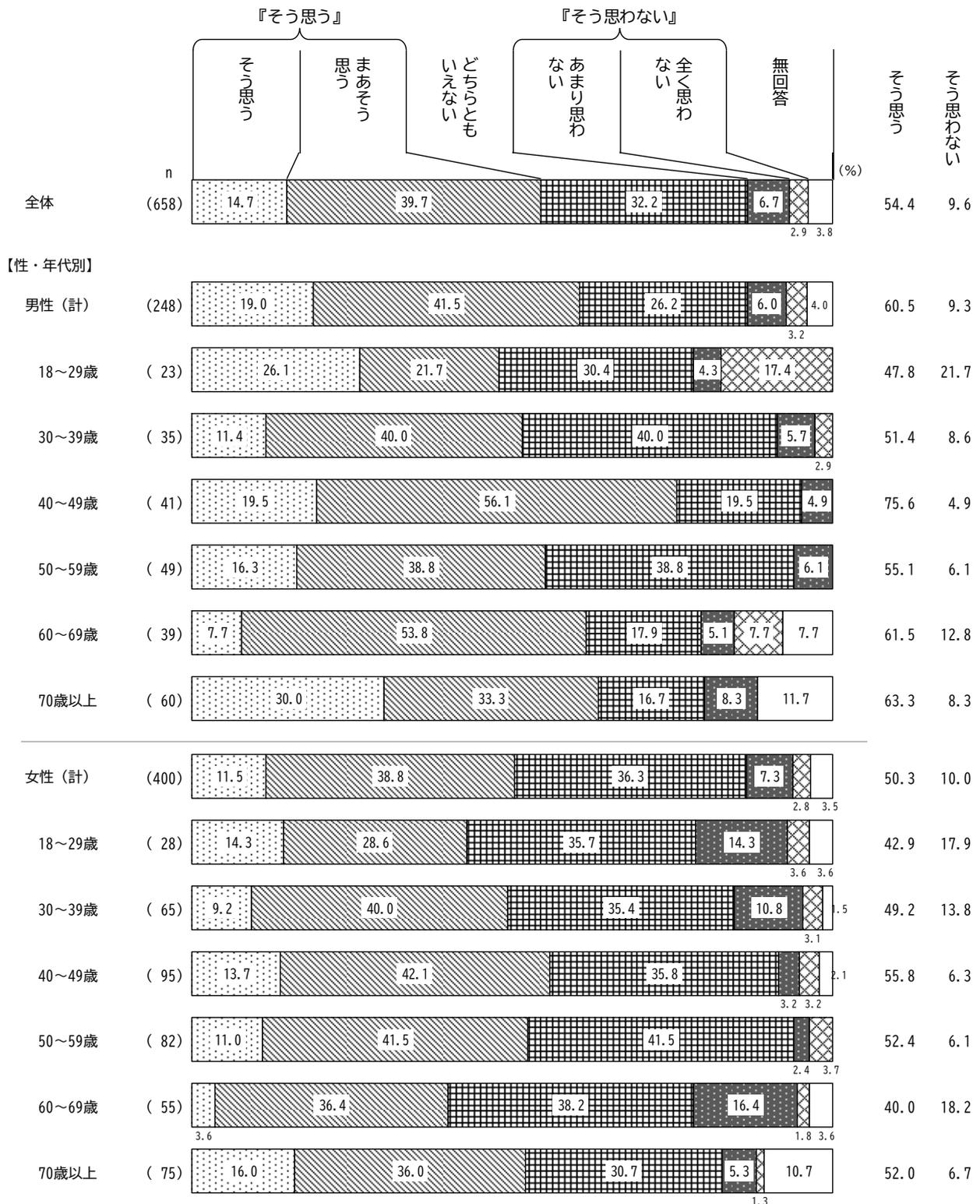
性別でみると、『そう思う』は男性 (43.5%) が女性 (32.3%) より 11.2 ポイント多くなっている。性・年代別でみると、『そう思う』は男性 70 歳以上 (50.0%) が 5 割で最も多く、男性 30~39 歳 (48.6%) で 5 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は、女性 18~29 歳 (25.0%) で 2 割半ばで最も多く、男性 60~69 歳 (23.1%) で 2 割を超えている。(図 10-1-2)

項目 (1) 区民第一の考え方をしている  
(居住地区別) 図 10-1-3



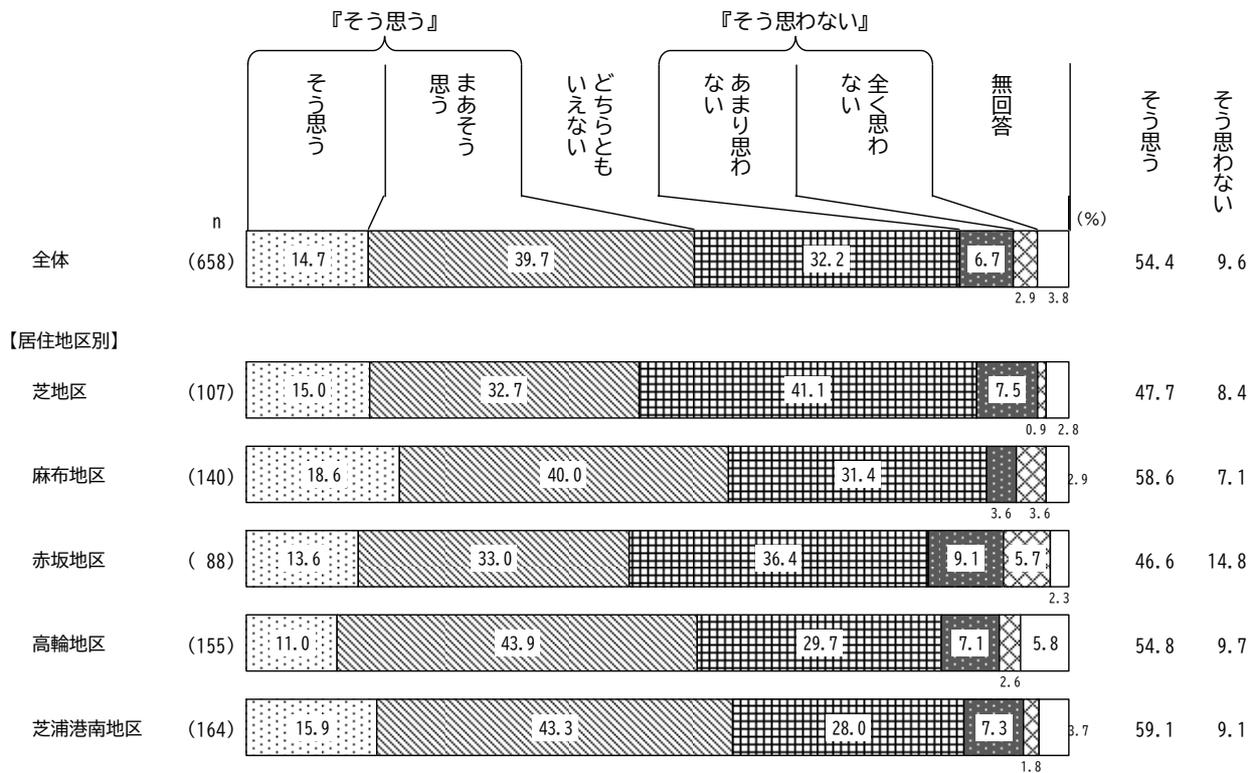
居住地区別でみると、『そう思う』は麻布地区（40.7%）で約4割、高輪地区（38.7%）で4割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（25.0%）で2割半ばとなっている。（図 10-1-3）

項目(2) 信頼できる  
(性・年代別) 図10-1-4



性別で見ると、『そう思う』は男性(60.5%)が女性(50.3%)より10.2ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性40~49歳(75.6%)が7割半ばで最も多く、男性70歳以上(63.3%)と男性60~69歳(61.5%)でともに6割を超えている。一方、『そう思わない』は男性18~29歳(21.7%)で2割を超えている。(図10-1-4)

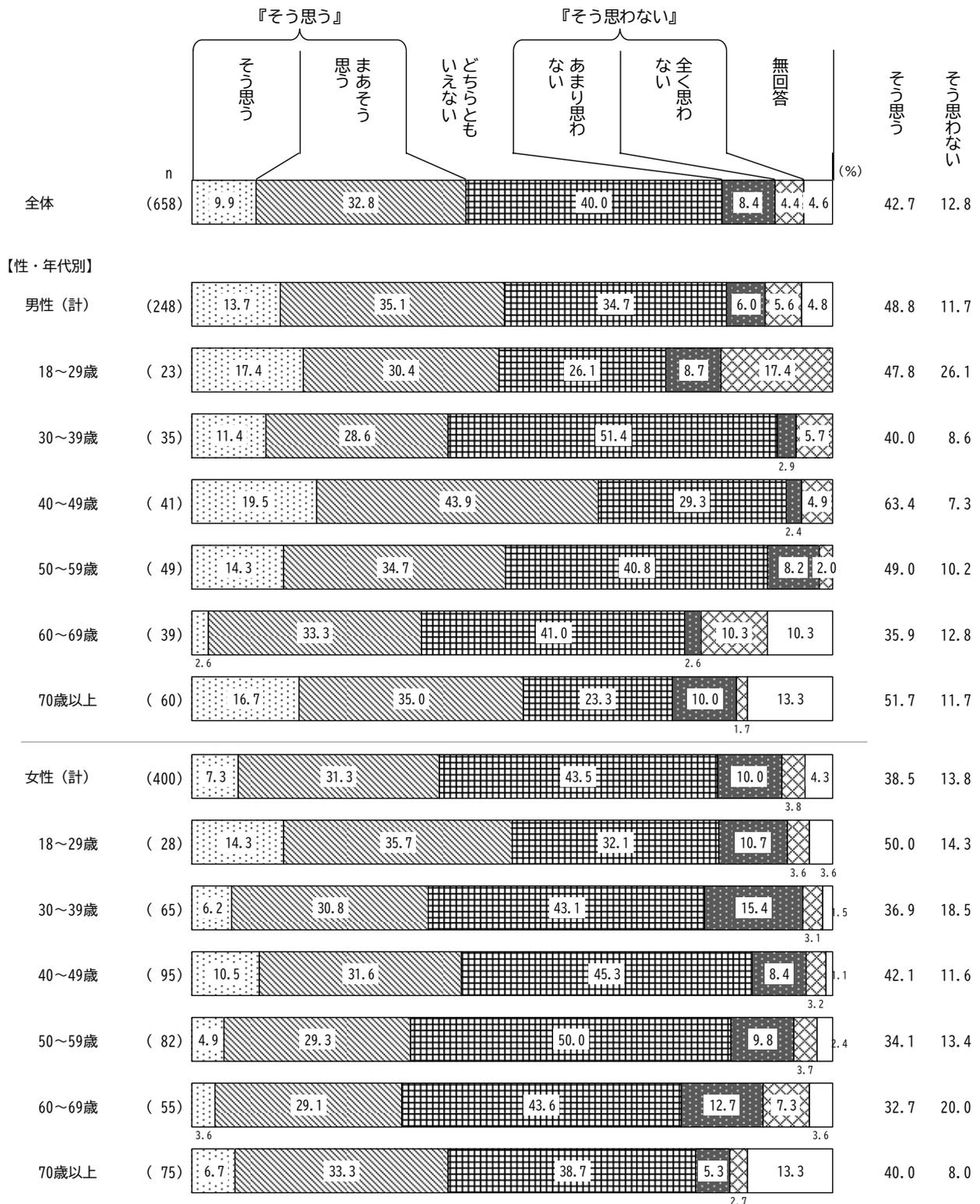
項目(2) 信頼できる  
(居住地区別) 図10-1-5



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区(59.1%)で約6割、麻布地区(58.6%)で6割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区(14.8%)で1割半ばとなっている。

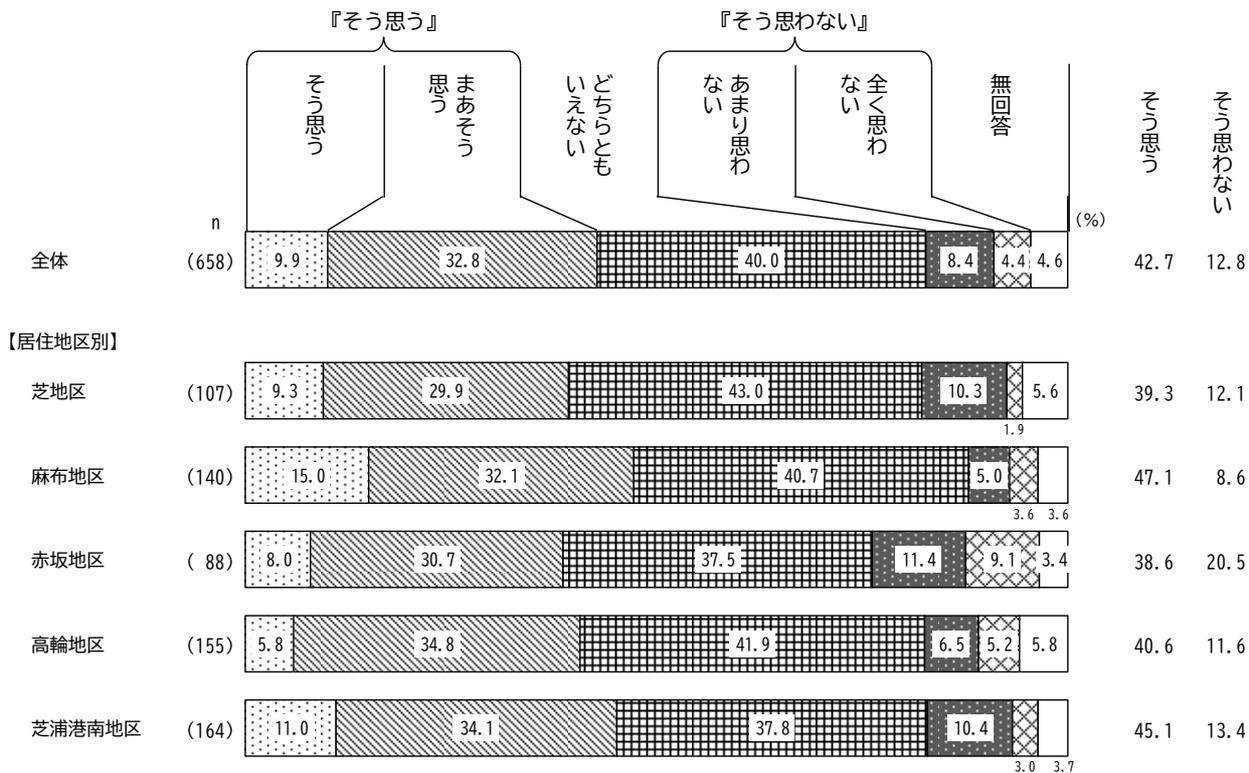
(図10-1-5)

項目 (3) 仕事に意欲的である  
(性・年代別) 図 10-1-6



性別でみると、『そう思う』は男性 (48.8%) が女性 (38.5%) より 10.3 ポイント多くなっている。性・年代別でみると、『そう思う』は男性 40~49 歳 (63.4%) が 6 割を超えて最も多く、男性 70 歳以上 (51.7%) で 5 割を超えている。一方、『そう思わない』は男性 18~29 歳 (26.1%) で 2 割半ばとなっている。(図 10-1-6)

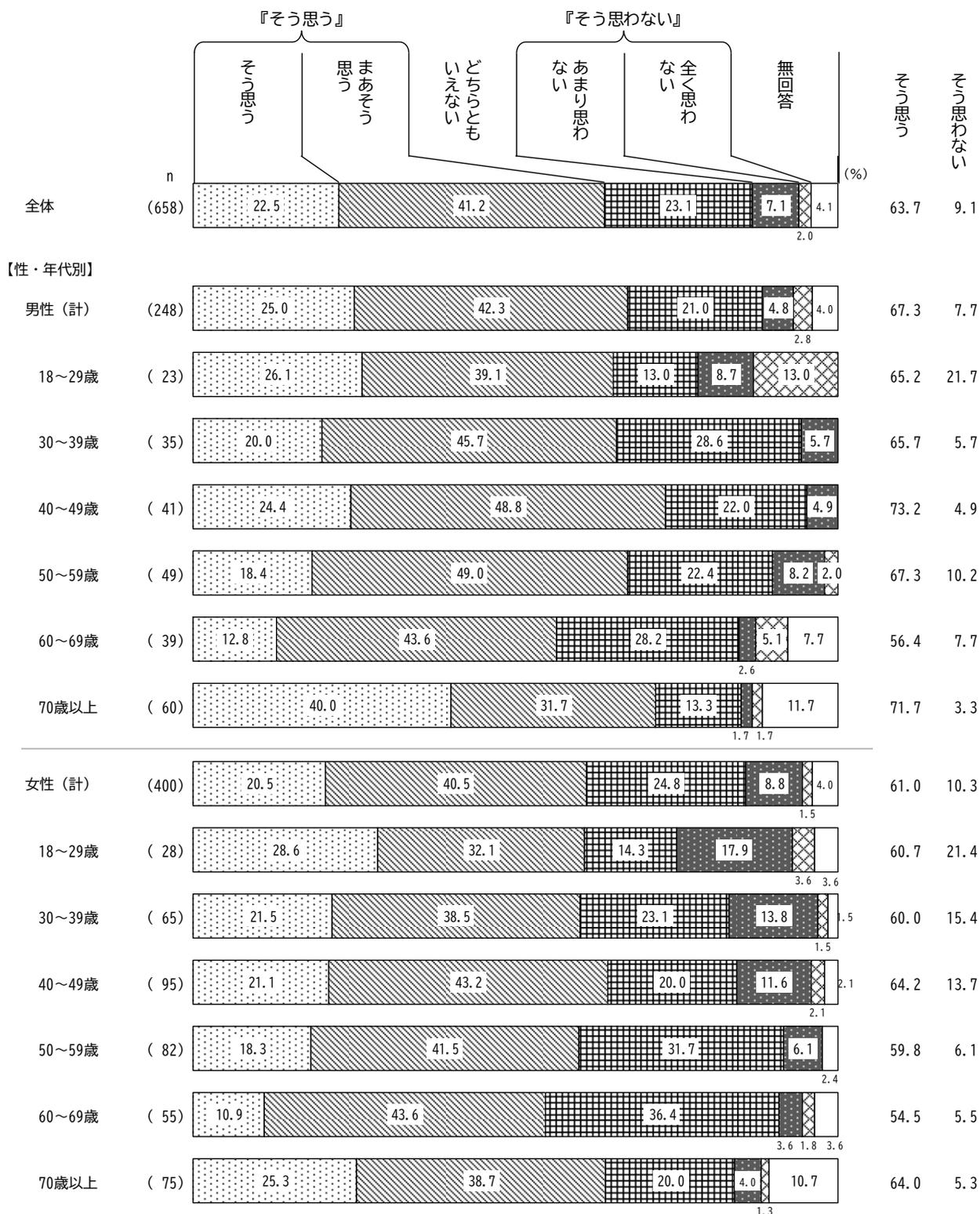
項目(3) 仕事に意欲的である  
(居住地区別) 図10-1-7



居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区(47.1%)で5割近く、芝浦港南地区(45.1%)で4割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区(20.5%)で約2割となっている。

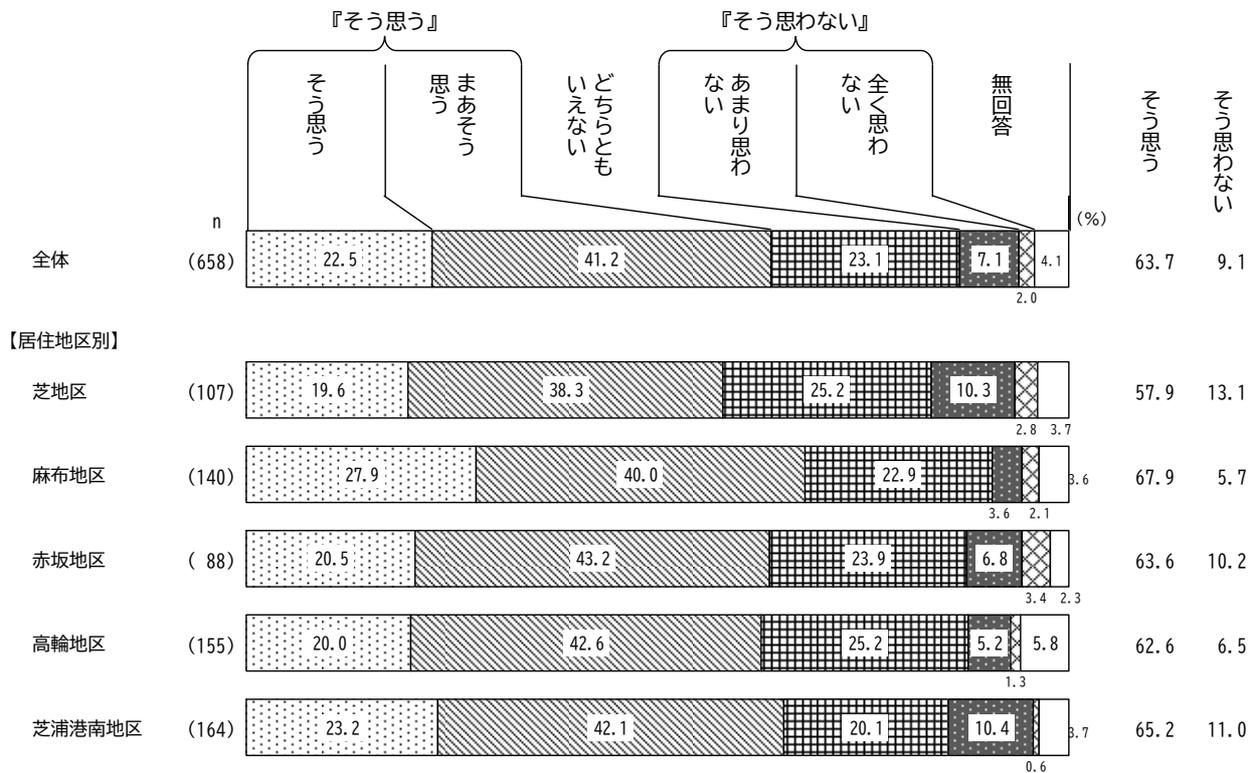
(図10-1-7)

項目(4) 応対が親切である  
(性・年代別) 図10-1-8



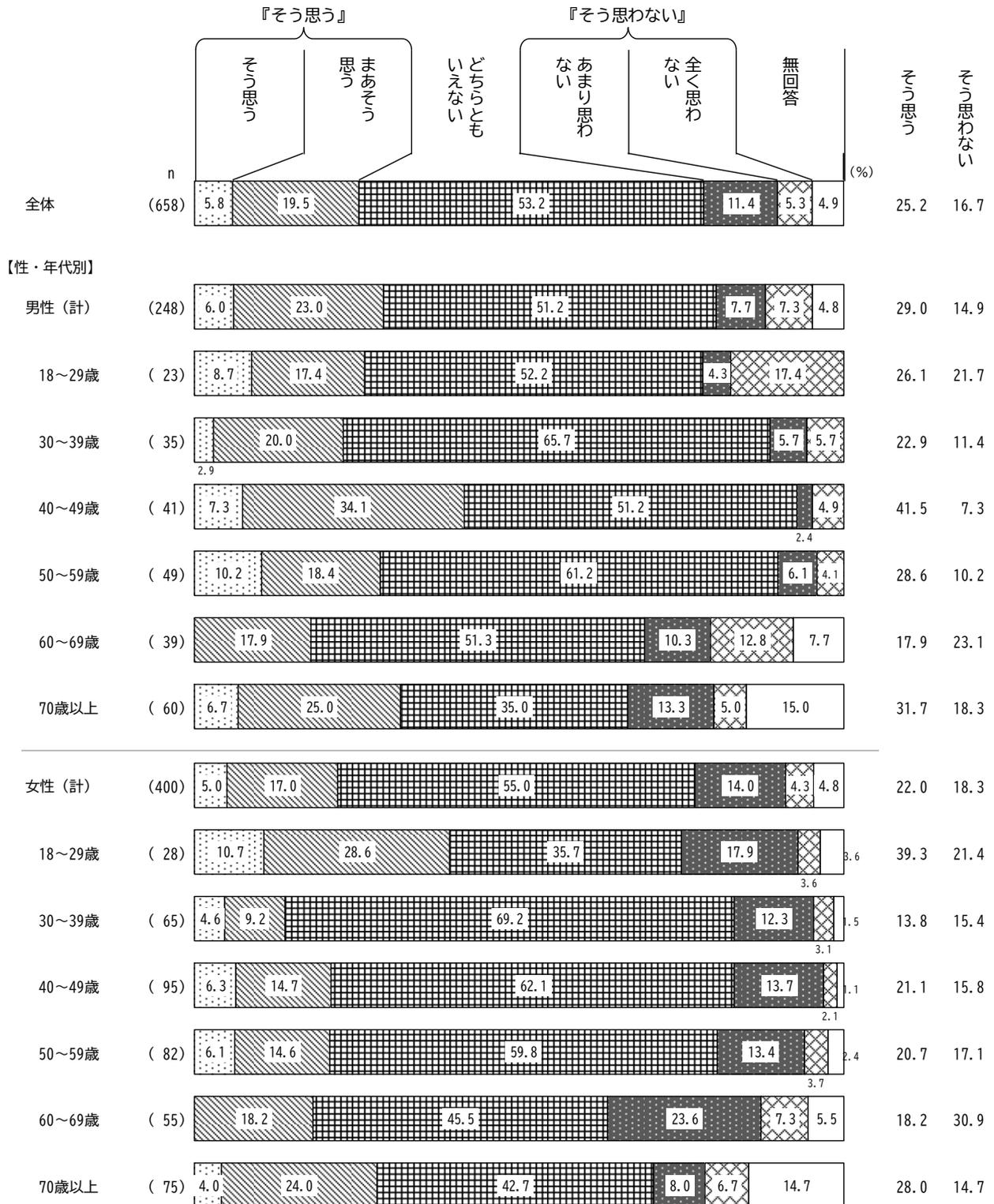
性別で見ると、『そう思う』は男性(67.3%)が女性(61.0%)より6.3ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性40~49歳(73.2%)、男性70歳以上(71.7%)がともに7割を超え、男性50~59歳(67.3%)で7割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性18~29歳(21.7%)と女性18~29歳(21.4%)ともに2割を超えている。(図10-1-8)

項目(4) 応対が親切である  
(居住地区別) 図10-1-9



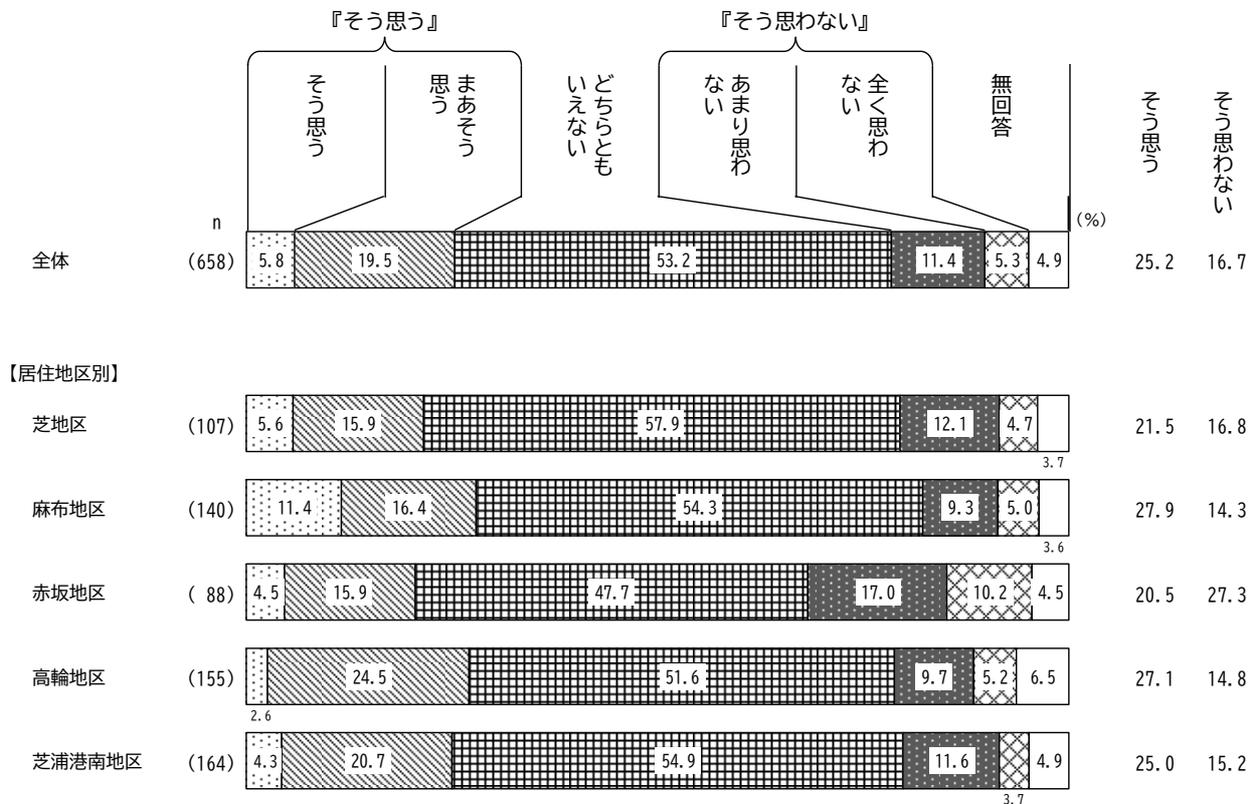
居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区(67.9%)で7割近く、芝浦港南地区(65.2%)で6割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は芝地区(13.1%)で1割を超えている。(図10-1-9)

項目 (5) 危機管理意識がある  
(性・年代別) 図 10-1-10



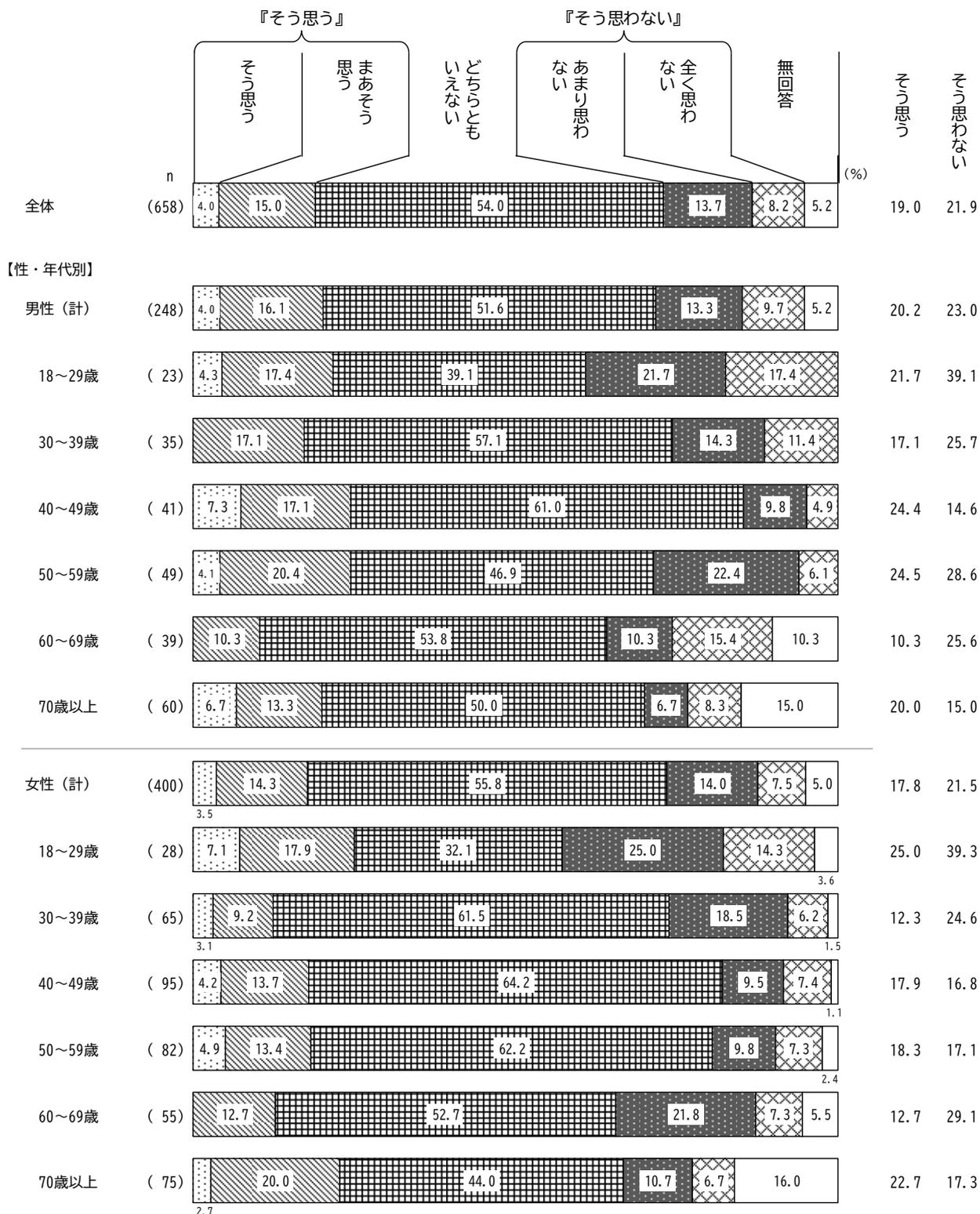
性別でみると、『そう思う』は男性 (29.0%) が女性 (22.0%) より 7.0 ポイント多くなっている。  
 性・年代別でみると、『そう思う』は男性 40~49 歳 (41.5%) で 4 割を超えて最も多く、次いで、女性 18~29 歳以上 (39.3%) で約 4 割となっている。一方、『そう思わない』は女性 60~69 歳 (30.9%) で約 3 割となっている。(図 10-1-10)

項目 (5) 危機管理意識がある  
(居住地区別) 図 10-1-11



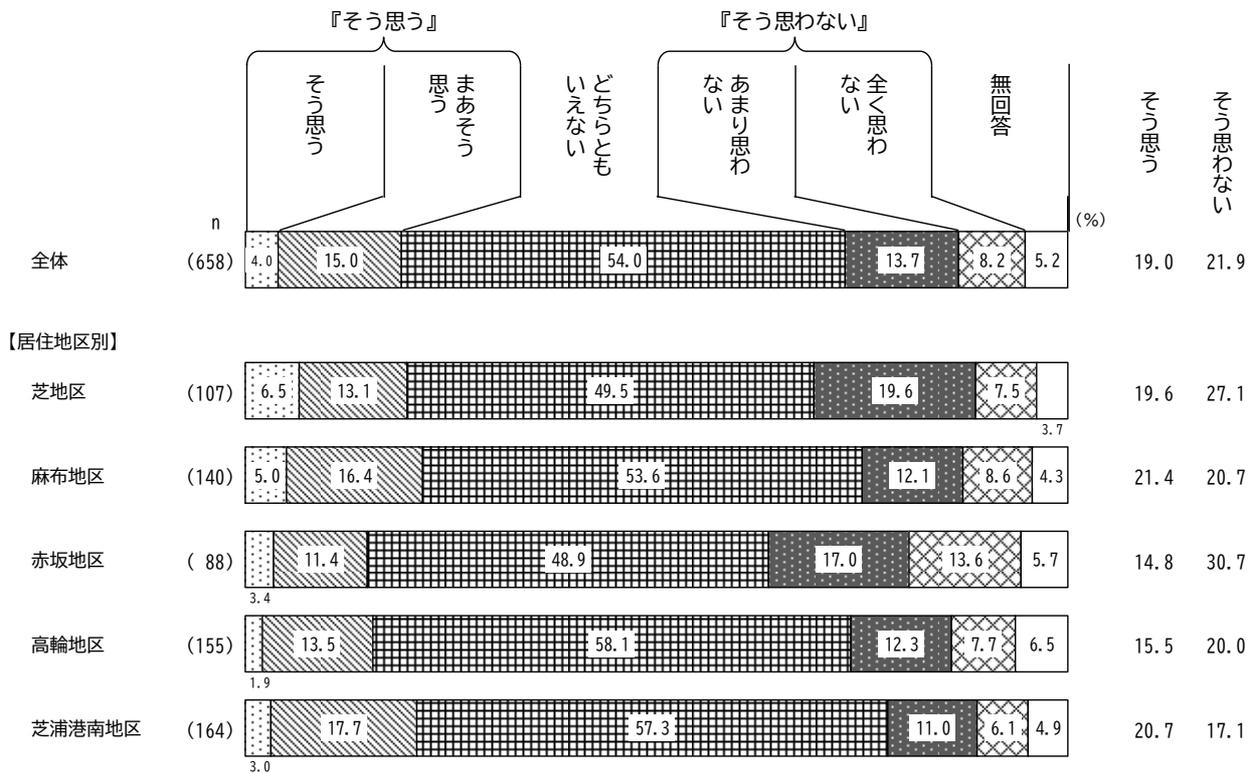
居住地区別でみると、『そう思う』は麻布地区 (27.9%)、高輪地区 (27.1%) で3割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区 (27.3%) で3割近くとなっている。(図 10-1-11)

項目(6) コスト意識がある  
(性・年代別) 図10-1-12



性別でみると、『そう思う』は男性(20.2%)が女性(17.8%)より2.4ポイント多くなっている。  
 性・年代別でみると、『そう思う』は女性18~29歳(25.0%)、男性50~59歳以上(24.5%)、男性40~49歳(24.4%)でいずれも2割半ばとなっている。一方、『そう思わない』は女性18~29歳(39.3%)、男性18~29歳(39.1%)でともに約4割となっている。(図10-1-12)

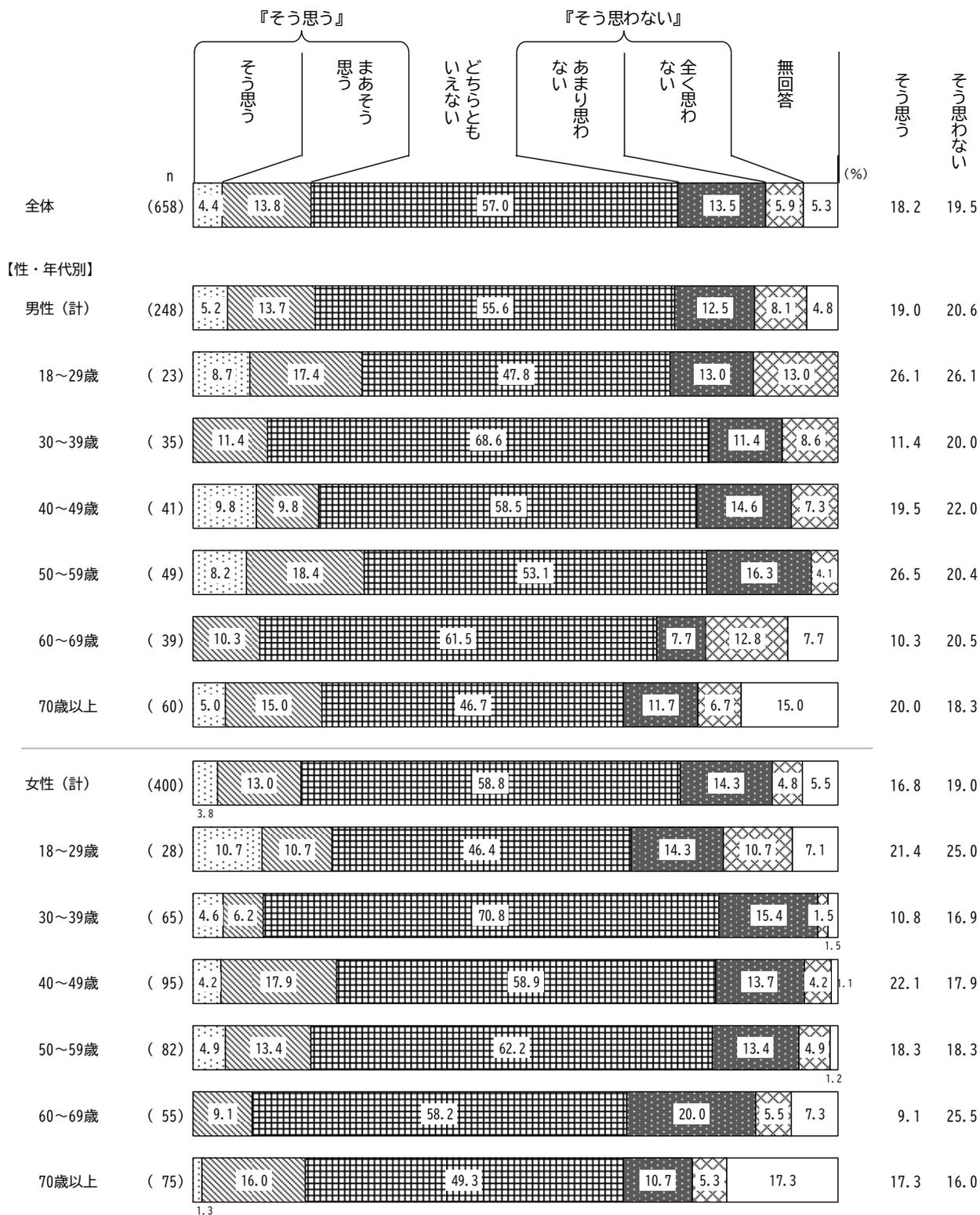
項目(6) コスト意識がある  
(居住地区別) 図10-1-13



居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区(21.4%)で2割を超え、芝浦港南地区(20.7%)で約2割となっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区(30.7%)で約3割となっている。

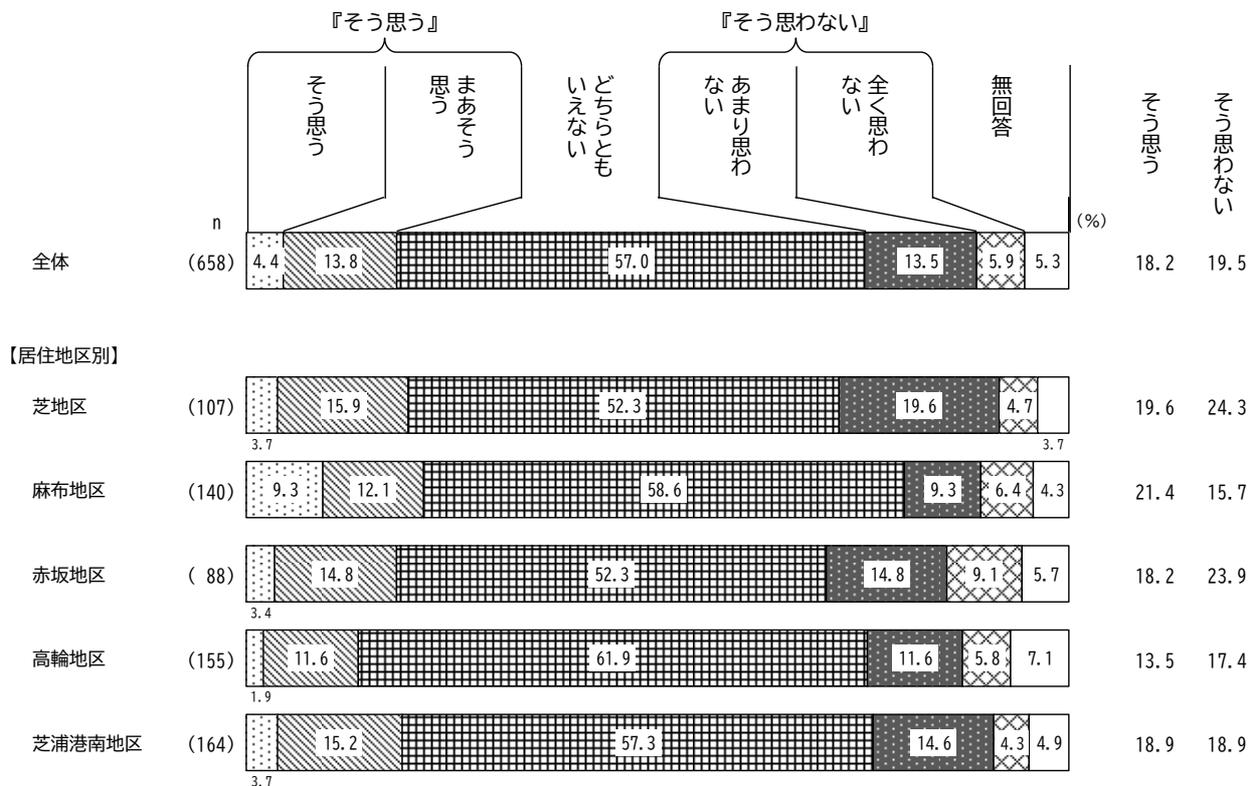
(図10-1-13)

項目(7) 先見性がある  
(性・年代別) 図10-1-14



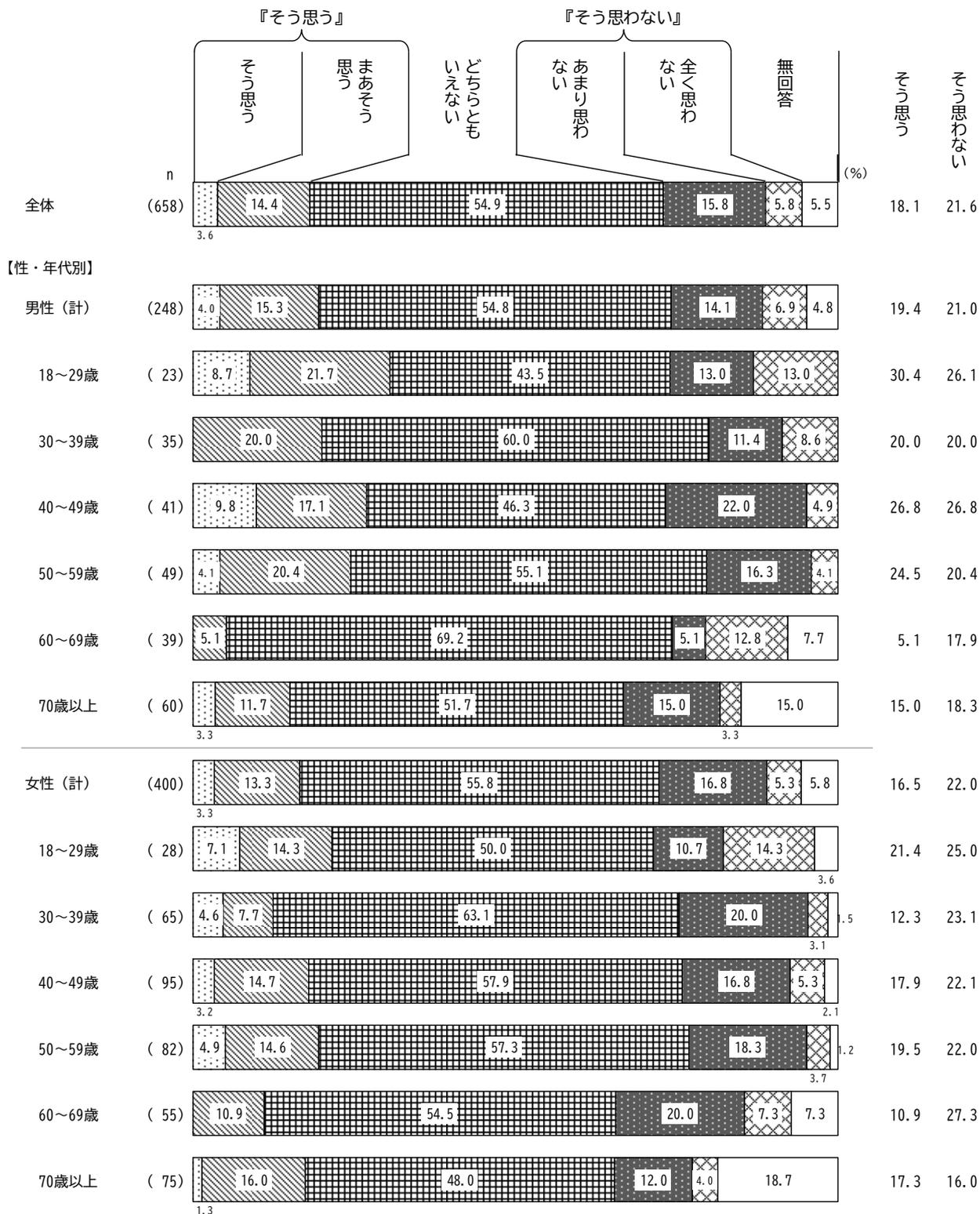
性別でみると、『そう思う』は男性(19.0%)が女性(16.8%)より2.2ポイント多くなっている。  
 性・年代別でみると、『そう思う』は男性50~59歳以上(26.5%)で3割近くとなっている。一方、『そう思わない』は男性18~29歳(26.1%)、女性18~29歳(25.0%)、女性60~69歳(25.5%)で2割半ばとなっている。(図10-1-14)

項目(7) 先見性がある  
(居住地区別) 図10-1-15



居住地区別でみると、『そう思う』は麻布地区(21.4%)で2割を超え、芝地区(19.6%)で2割となっている。一方、『そう思わない』は芝地区(24.3%)で2割半ばとなっている。(図10-1-15)

項目(8) 創造性がある  
(性・年代別) 図10-1-16

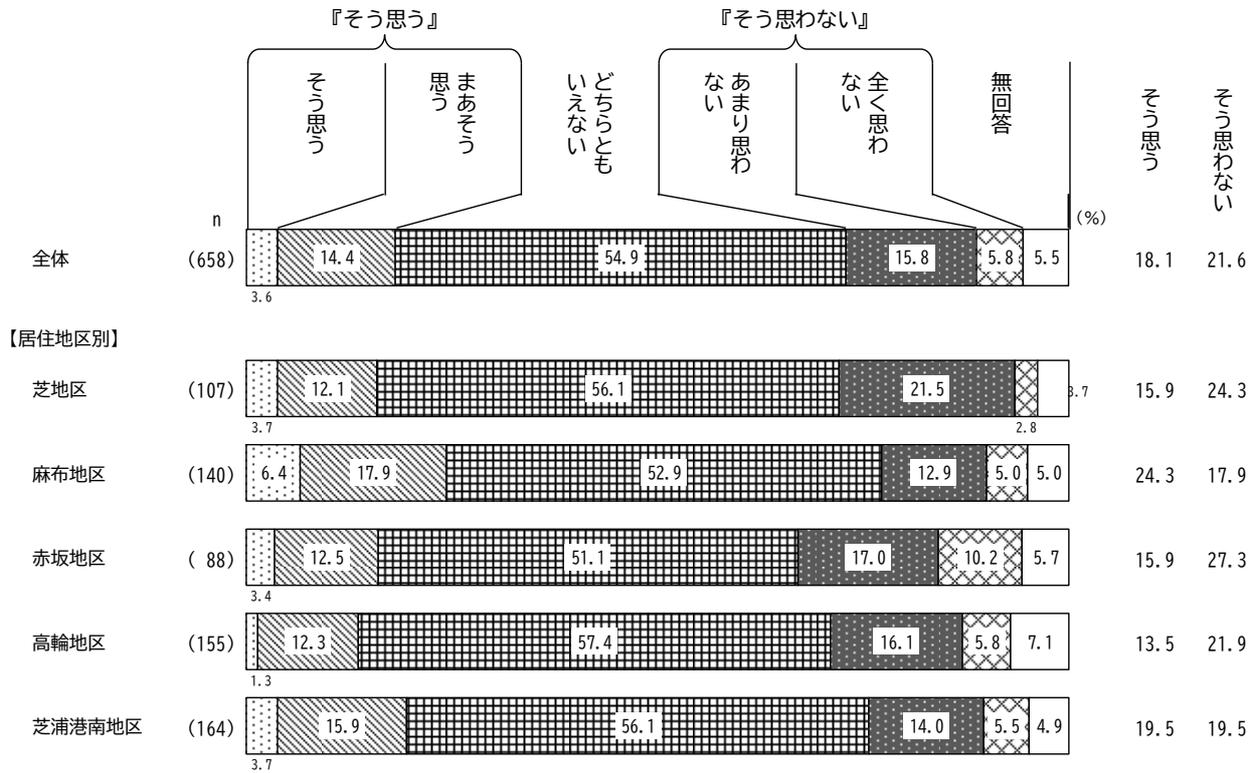


性別で見ると、『そう思う』は男性(19.4%)が女性(16.5%)より2.9ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性18~29歳以上(30.4%)で3割となっている。一方、『そう思わない』は女性60~69歳(27.3%)、男性40~49歳(26.8%)で3割近くとなっている。

(図10-1-16)

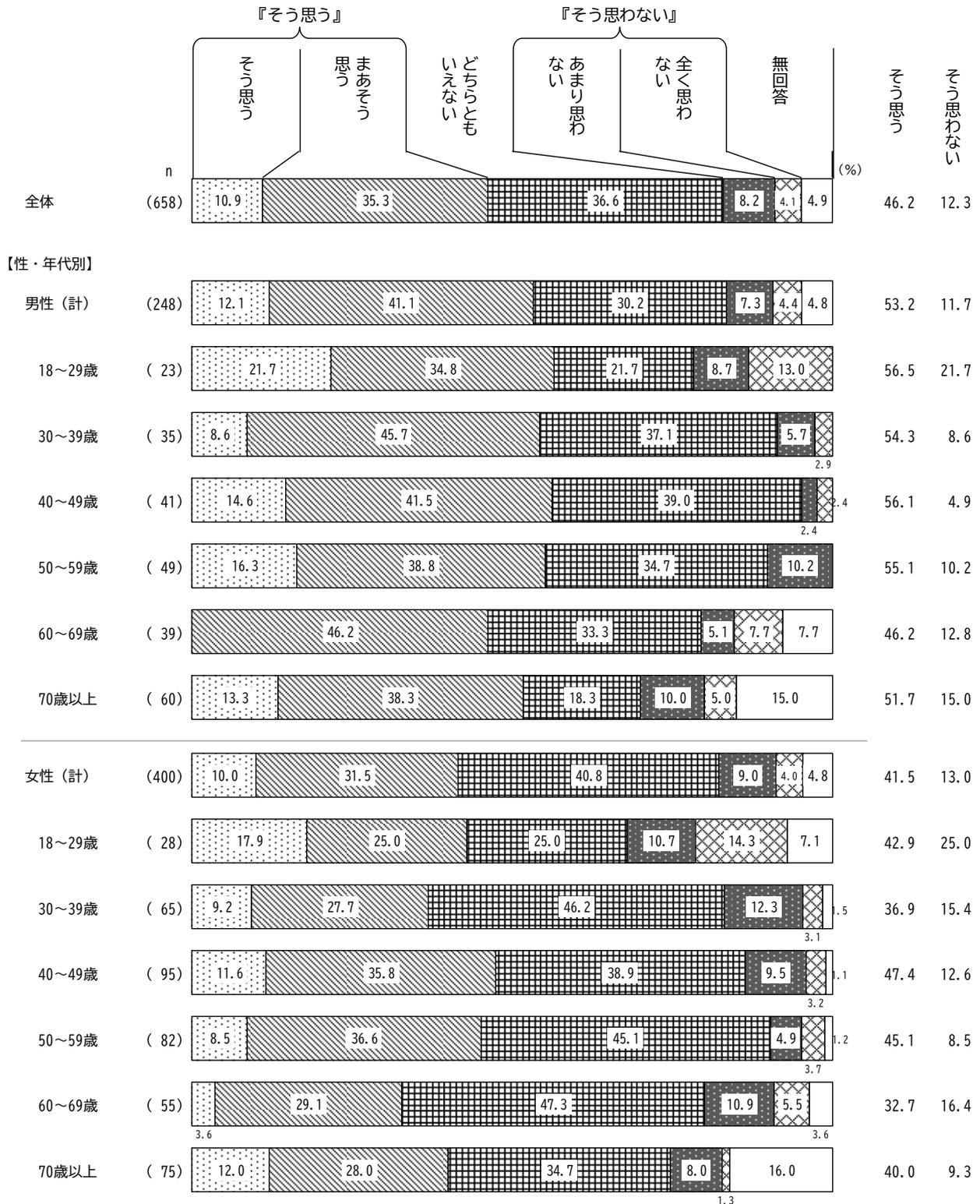
第3章 調査結果の詳細

項目(8) 創造性がある  
(居住地区別) 図10-1-17



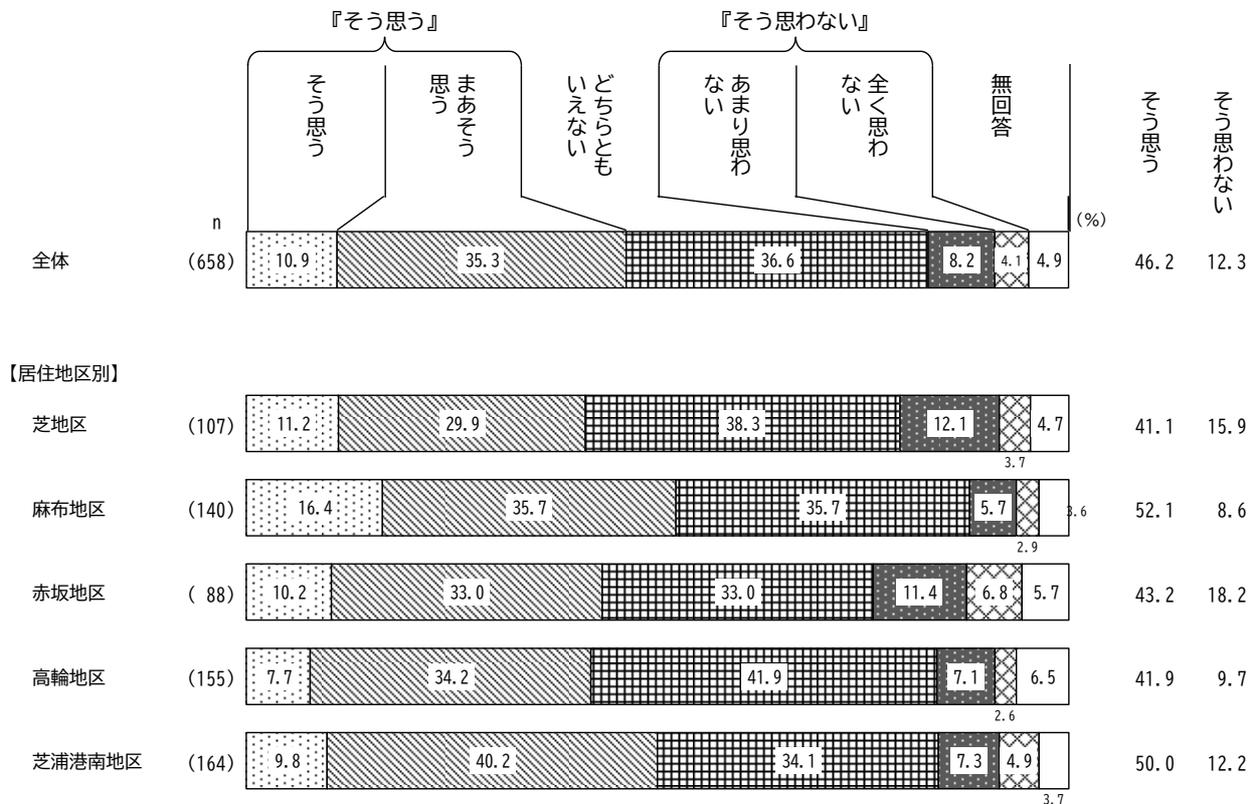
居住地区別でみると、『そう思う』は麻布地区(24.3%)で2割半ば、芝浦港南地区(19.5%)で2割となっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区(27.3%)で3割近くとなっている。(図10-1-17)

項目 (9) 責任感がある  
(性・年代別) 図 10-1-18



性別で見ると、『そう思う』は男性 (53.2%) が女性 (41.5%) より 11.7 ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『そう思う』は男性 18~29 歳以上 (56.5%) で 6 割近くとなっている。一方、『そう思わない』は女性 18~29 歳 (25.0%) で 2 割半ばとなっている。(図 10-1-18)

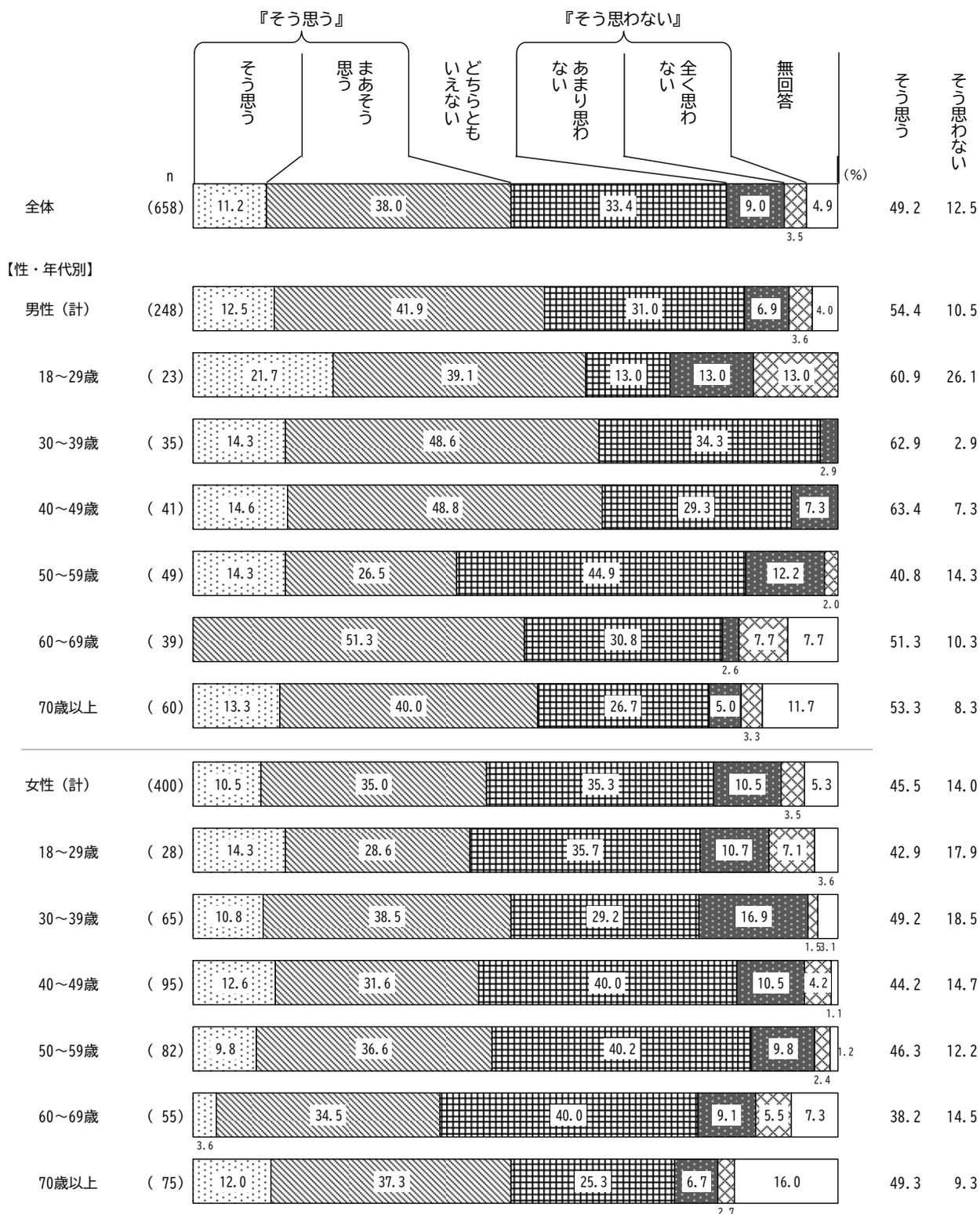
項目 (9) 責任感がある  
(居住地区別) 図 10-1-19



居住地区別でみると、『そう思う』は麻布地区（52.1%）で5割を超え、芝浦港南地区（50.0%）で5割となっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（18.2%）で2割近くとなっている。

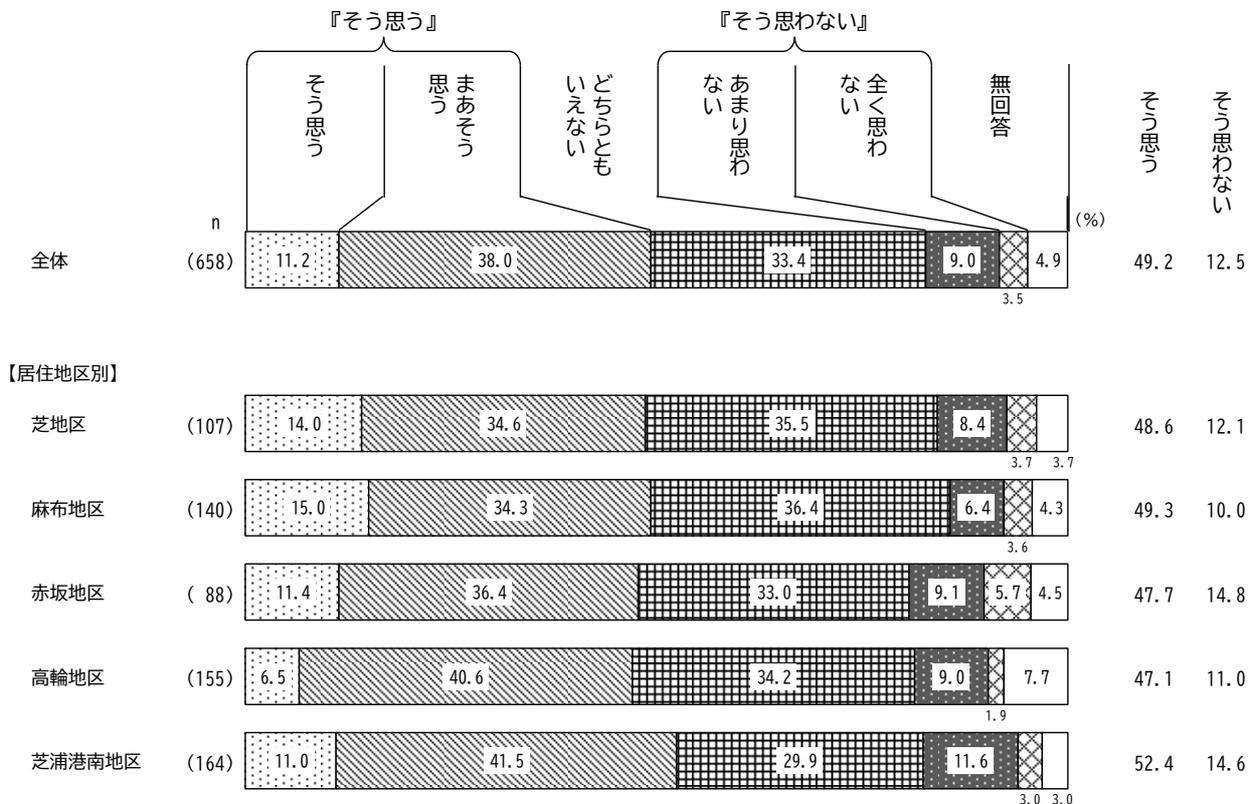
(図 10-1-19)

項目（10）説明能力がある  
（性・年代別）図 10-1-20



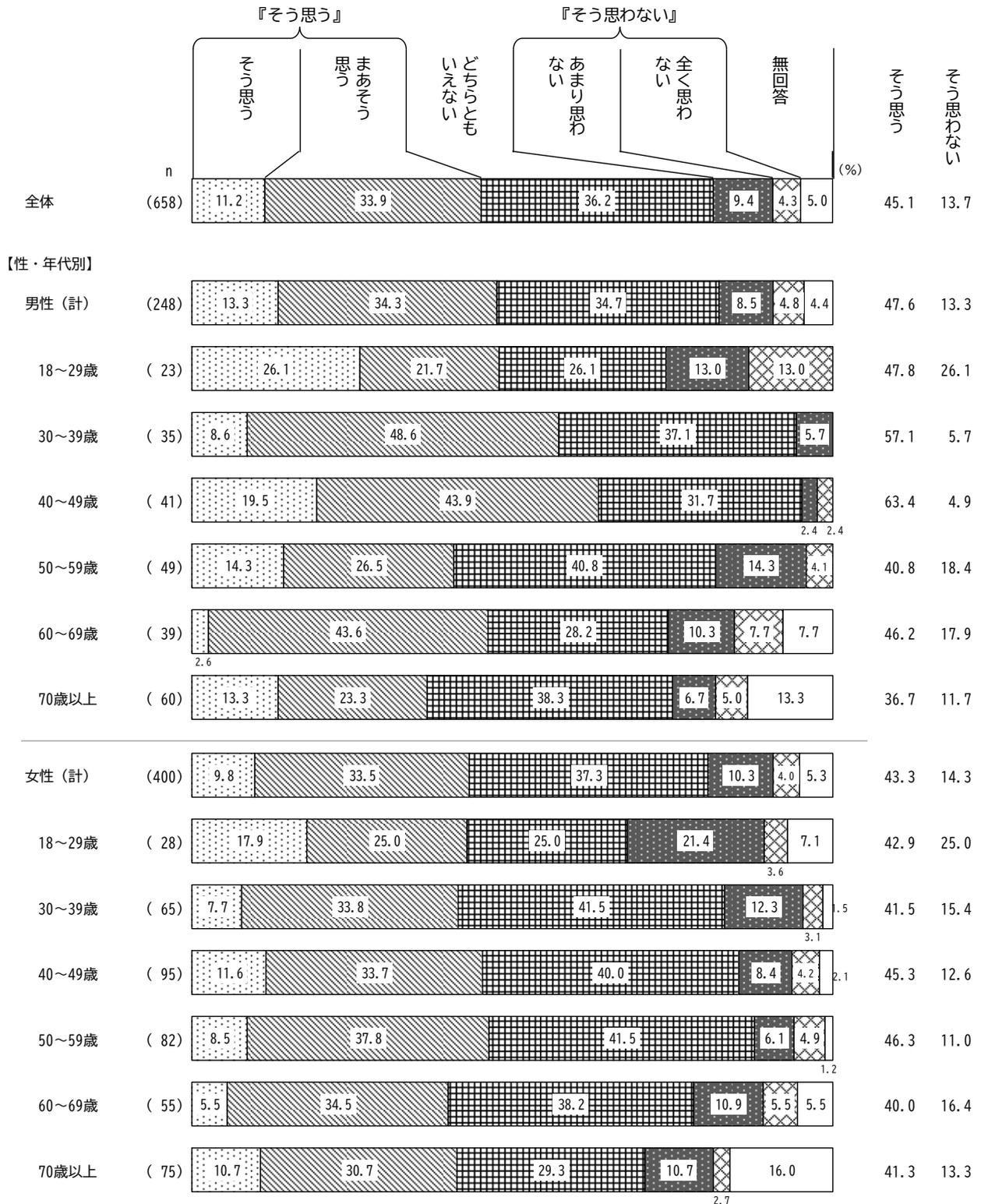
性別で見ると、『そう思う』は男性（54.4%）が女性（45.5%）より8.9ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『そう思う』は男性40~49歳以上（63.4%）、男性30~39歳（62.9%）、男性18~29歳（60.9%）でいずれも6割を超えている。一方、『そう思わない』は男性18~29歳（26.1%）で2割半ばとなっている。（図 10-1-20）

項目(10) 説明能力がある  
(居住地区別) 図10-1-21



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区(52.4%)で5割を超え、麻布地区(49.3%)で約5割となっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区(14.8%)、芝浦港南地区(14.6%)で1割半ばとなっている。(図10-1-21)

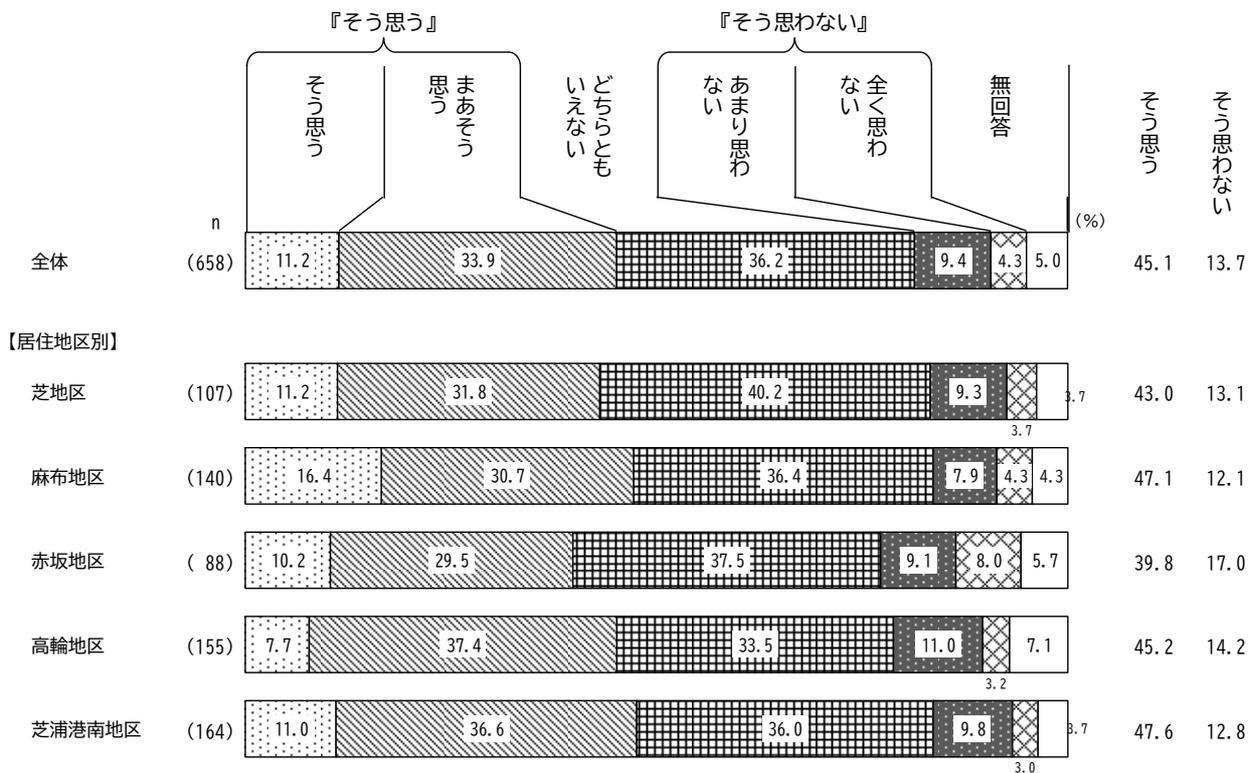
項目 (11) 専門的な知識がある  
(性・年代別) 図 10-1-22



性別で見ると、『そう思う』は男性(47.6%)が女性(43.3%)より4.3ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性40~49歳以上(63.4%)で6割を超えている。一方、『そう思わない』は男性18~29歳(26.1%)、女性18歳~29歳(25.0%)で2割半ばとなっている。

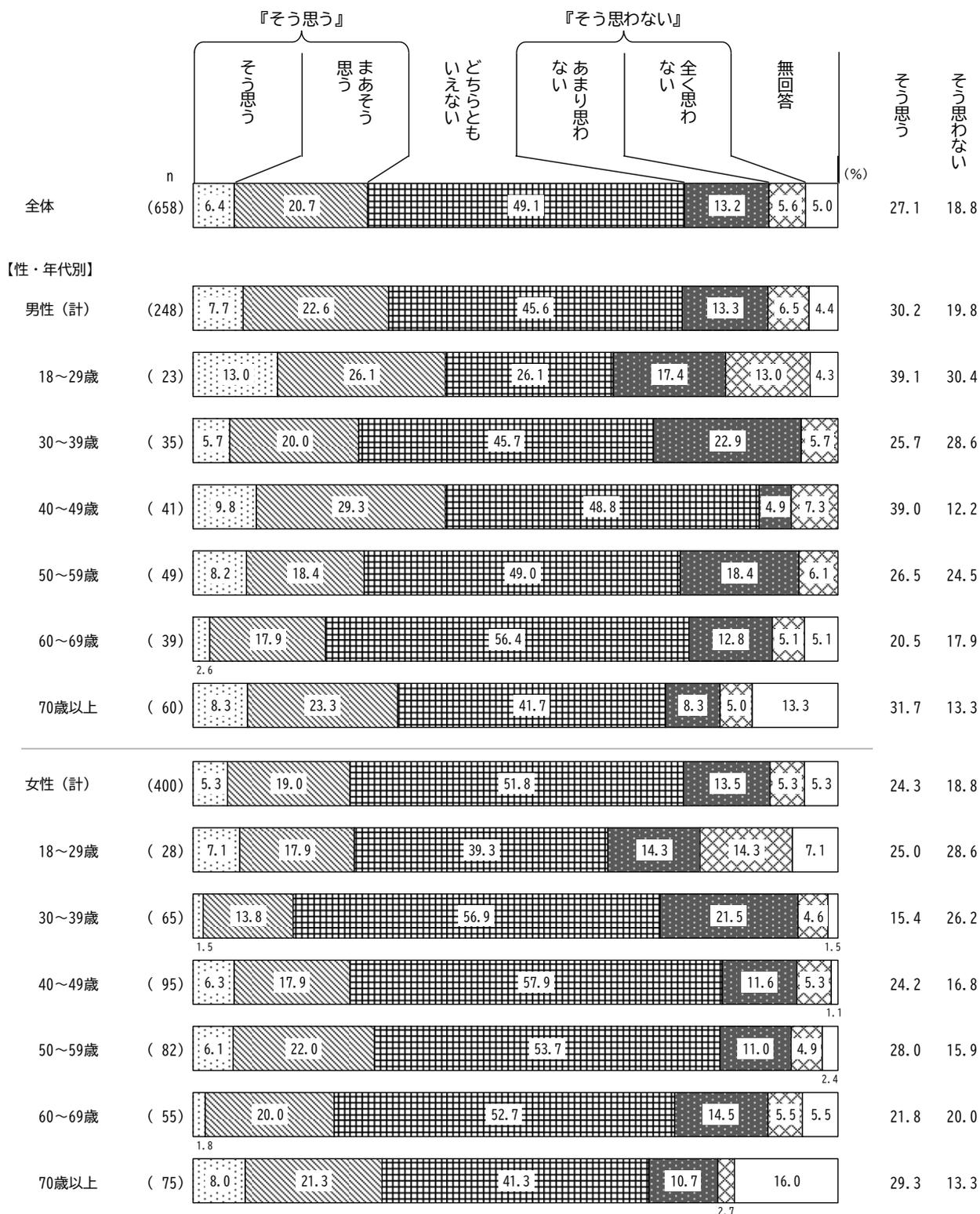
(図 10-1-22)

項目(11) 専門的な知識がある  
(居住地区別) 図10-1-23



居住地区別で見ると、『そう思う』は芝浦港南地区(47.6%)、麻布地区(47.1%)で5割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区(17.0%)で2割近くとなっている。(図10-1-23)

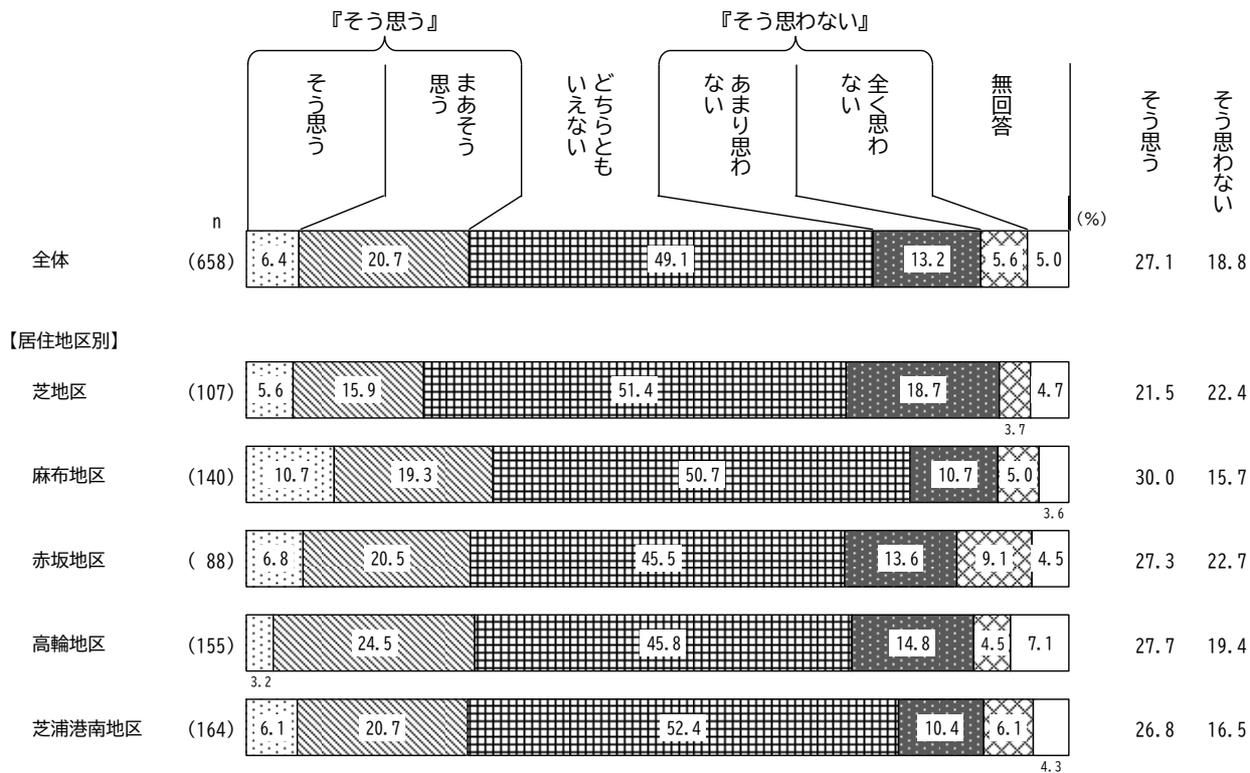
項目(12) 情報発信力がある  
(性・年代別) 図10-1-24



性別で見ると、『そう思う』は男性(30.2%)が女性(24.3%)より5.9ポイント多くなっている。  
性・年代別で見ると、『そう思う』は男性18~29歳(39.1%)と男性40~49歳以上(39.0%)でともに約4割となっている。一方、『そう思わない』は男性18~29歳(30.4%)で3割となっている。

(図10-1-24)

項目（12）情報発信力がある  
（居住地区別）図 10-1-25



居住地区別で見ると、『そう思う』は麻布地区（30.0%）で3割、高輪地区（27.7%）、芝浦港南地区（26.8%）で3割近くとなっている。一方、『そう思わない』は赤坂地区（22.7%）で2割を超えている。  
（図 10-1-25）

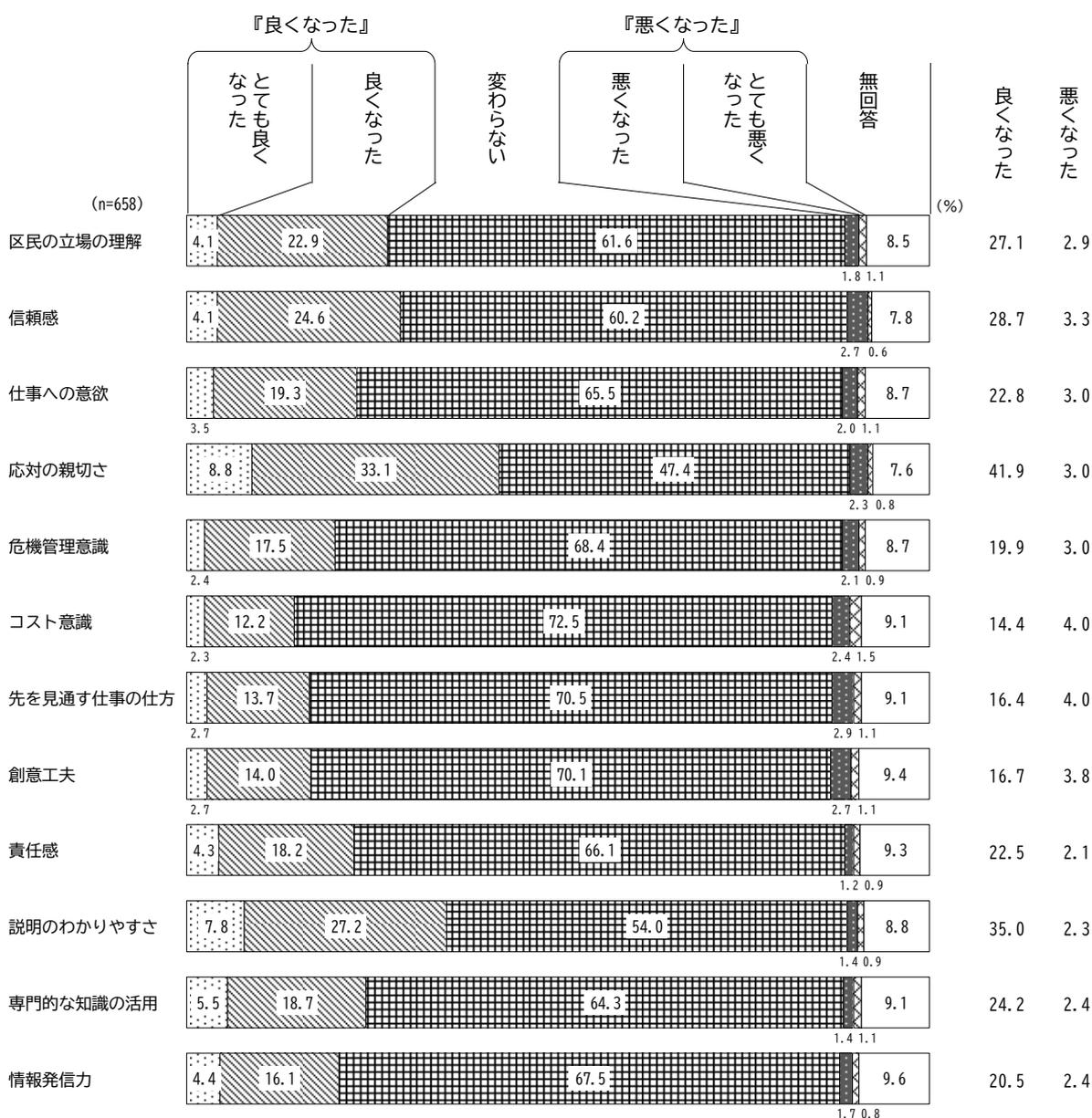
## (2) 港区の職員に対する近年の印象の変化

問 30 港区の職員に対する印象の変化について、近年、どのような変化を感じますか。以下の項目について、あなたのお考えに近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

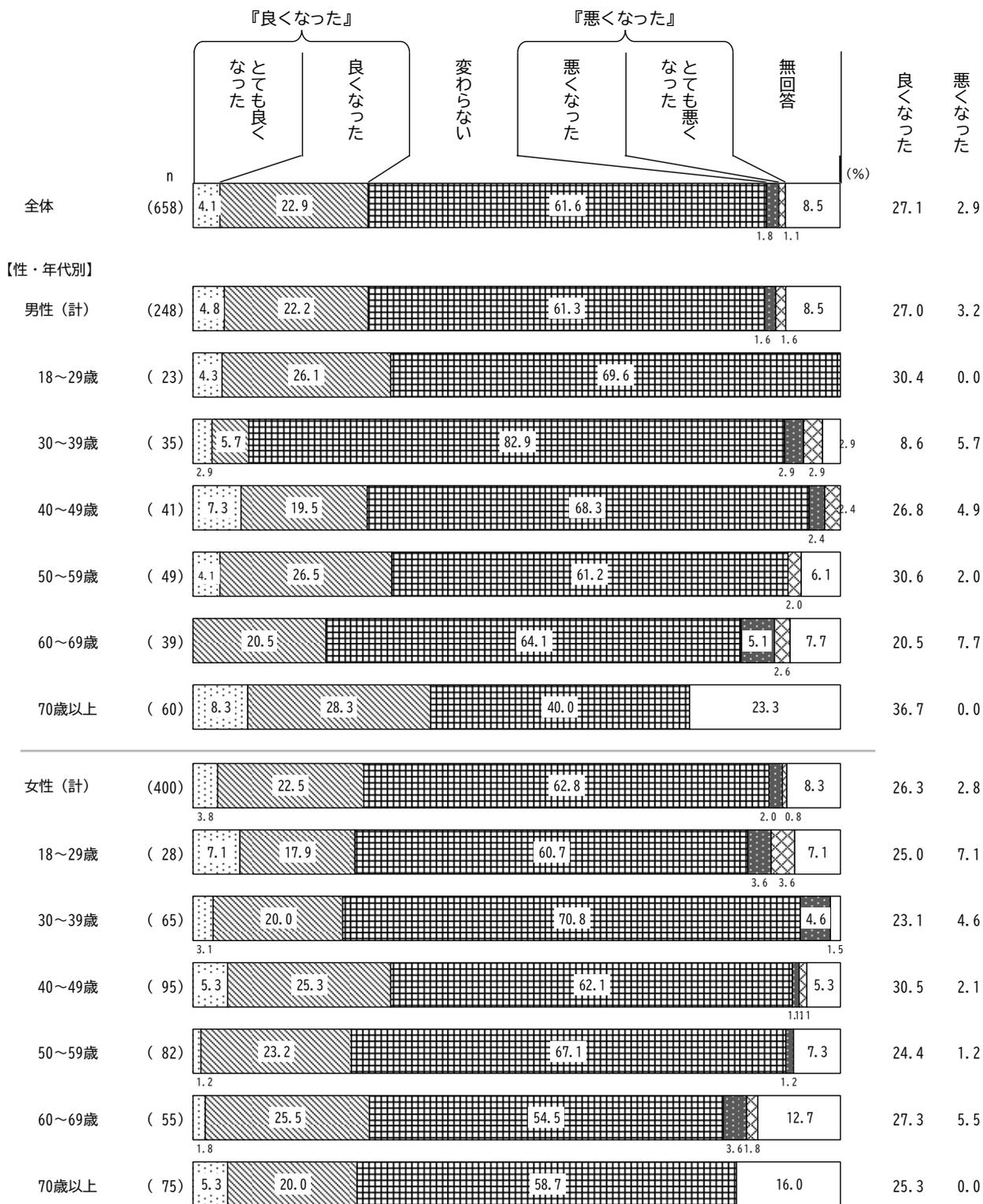
港区の職員に対する近年の印象の変化について 12 項目を挙げて聞いたところ、「とても良くなった」と「良くなった」を合わせた『良くなった』は「(4) 対応の親切さ」(41.9%)で4割を超えて最も多く、次いで、「(10) 説明のわかりやすさ」(35.0%)、「(2) 信頼感」(28.7%)と続いている。

一方、『悪くなった』は「(6)コスト意識」(4.0%)と「(7)先を見通す仕事の仕方」(4.0%)であるが、ともに1割未満となっている。(図 10-2-1)

図 10-2-1

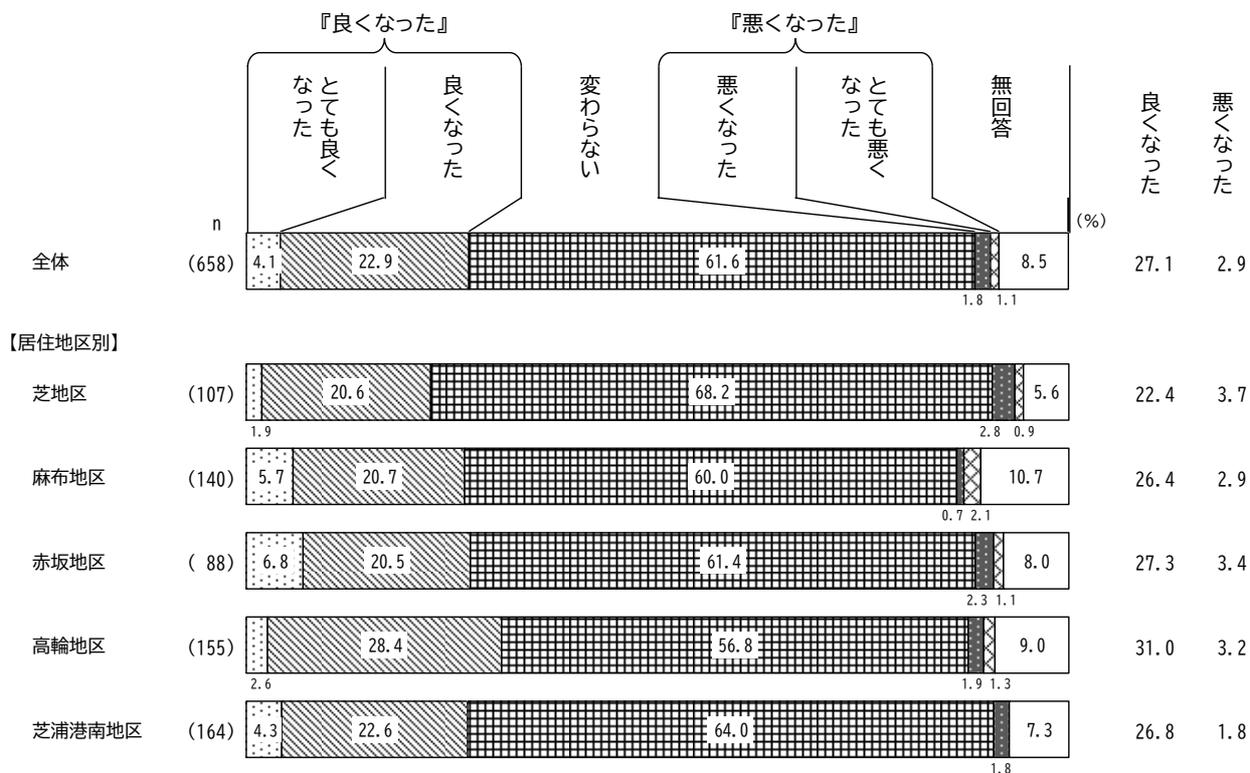


項目 (1) 区民の立場の理解  
(性・年代別) 図 10-2-2



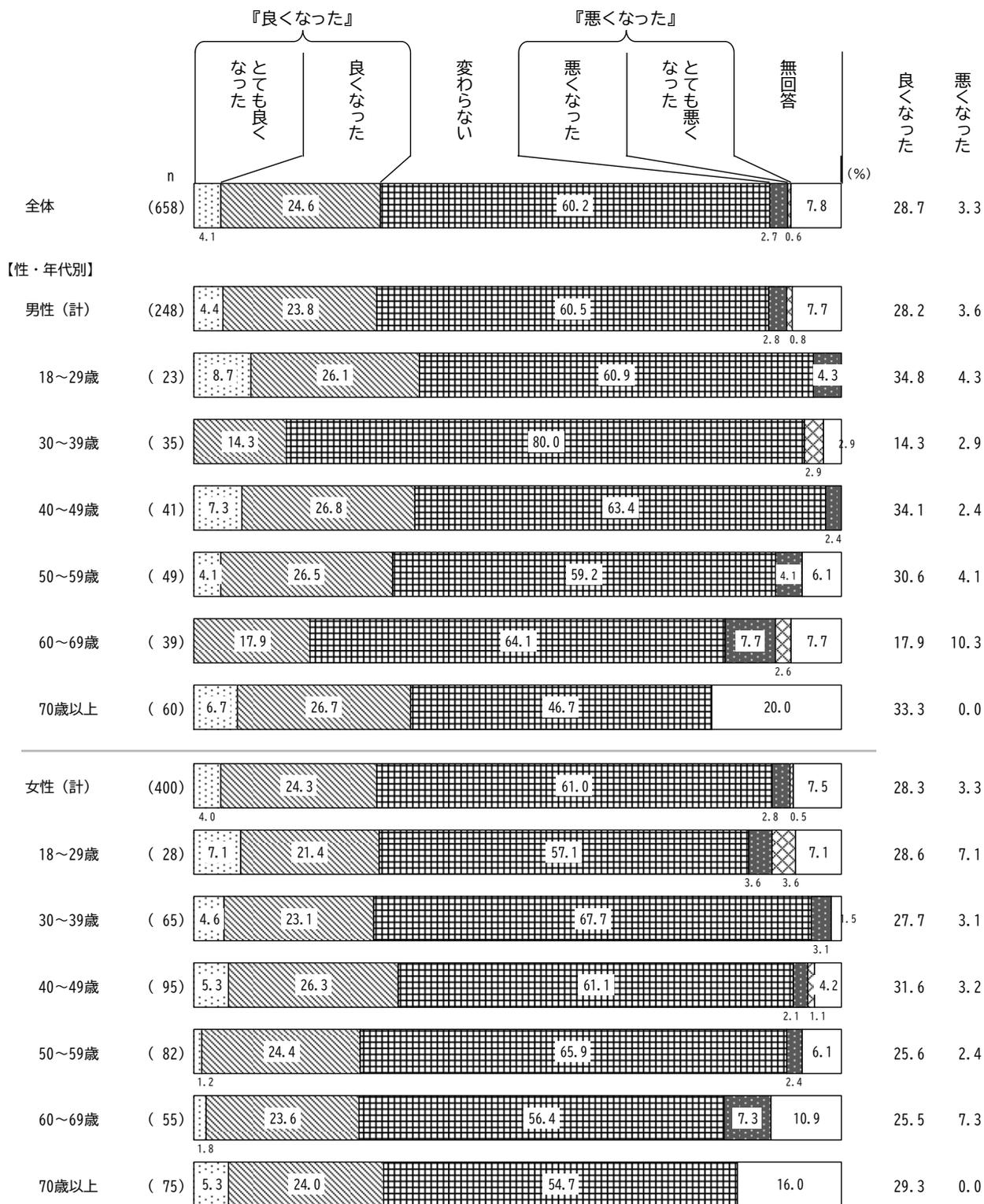
性別で見ると、『良くなった』は男性 (27.0%) が女性 (26.3%) より 0.7 ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性 70 歳以上 (36.7%) が 4 割近くで最も多く、次いで男性 50~59 歳 (30.6%) と女性 40~49 歳 (30.5%) でともに約 3 割となっている。一方、『悪くなった』は男性 60~69 歳 (7.7%) と女性 18~29 歳 (7.1%) でともに 1 割近くとなっている。(図 10-2-2)

項目(1) 区民の立場の理解  
(居住地区別) 図10-2-3



居住地区別で見ると、『良くなった』は高輪地区(31.0%)で3割を超え、赤坂地区(27.3%)で3割近くとなっている。一方、『悪くなった』は芝地区(3.7%)が最も多くなっている。(図10-2-3)

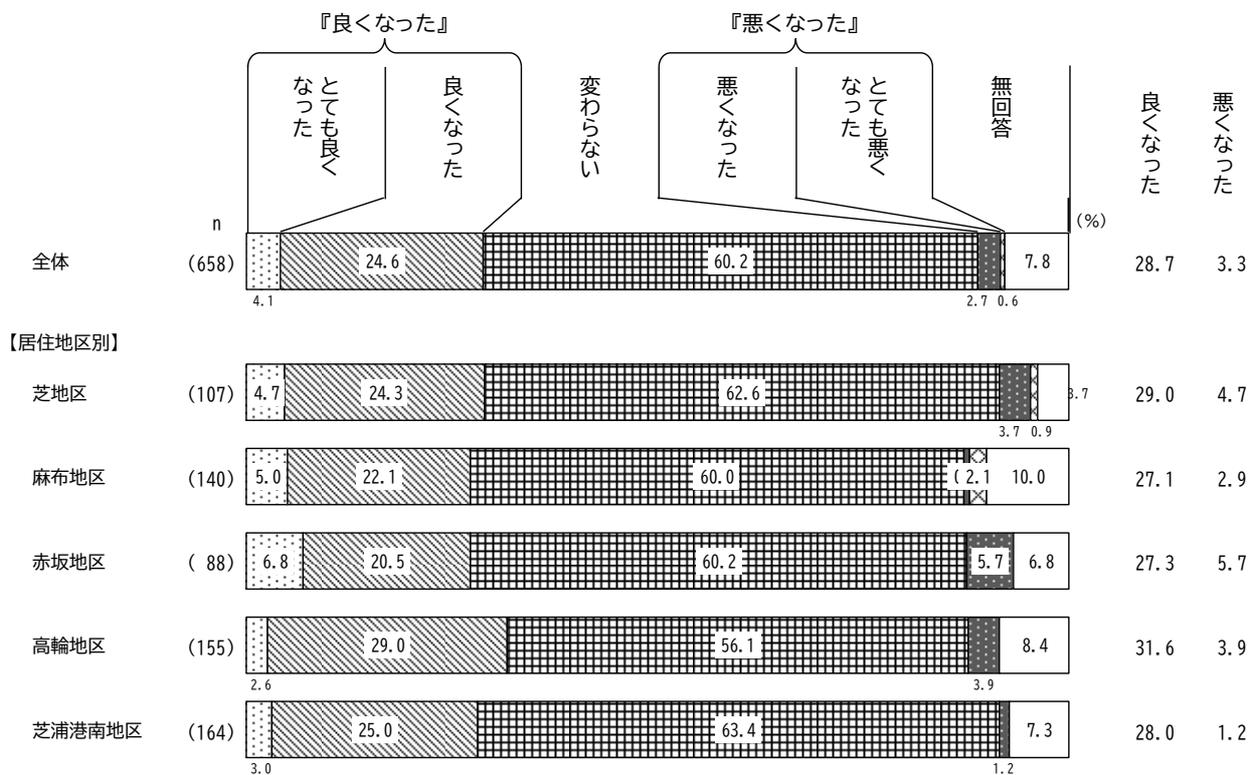
項目(2) 信頼感  
(性・年代別) 図10-2-4



性別で見ると、『良くなった』は男女間で大きな違いは見られない。

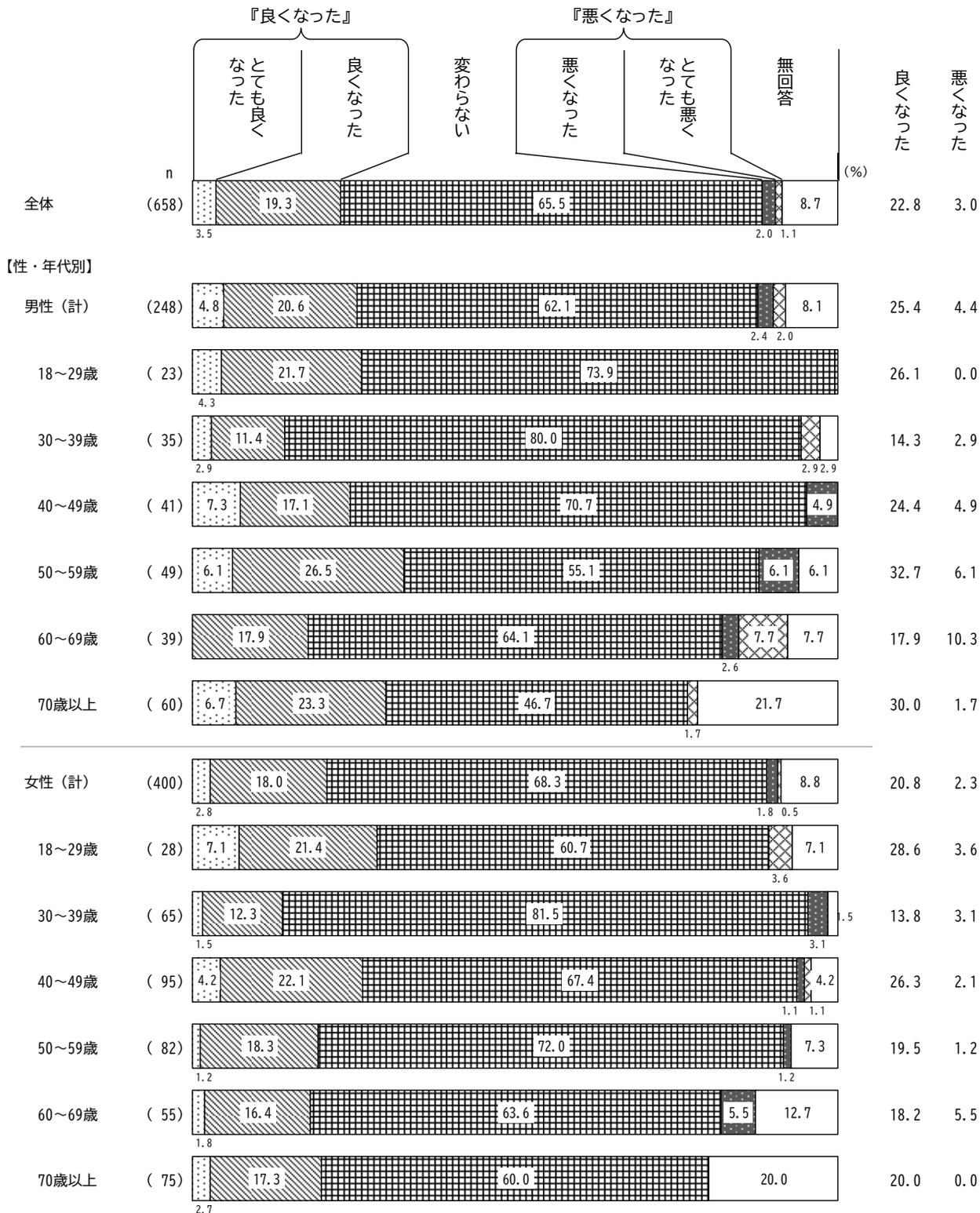
性・年代別で見ると、『良くなった』は男性 18~29 歳 (34.8%) と男性 40~49 歳 (34.1%) でともに 3 割半ば、男性 70 歳以上 (33.3%) と女性 40~49 歳 (31.6%) でともに 3 割を超えている。一方、『悪くなった』は男性 60~69 歳 (10.3%) で 1 割、女性 60~69 歳 (7.3%) と女性 18~29 歳 (7.1%) でともに 1 割近くとなっている。(図 10-2-4)

項目(2) 信頼感  
(居住地区別) 図10-2-5



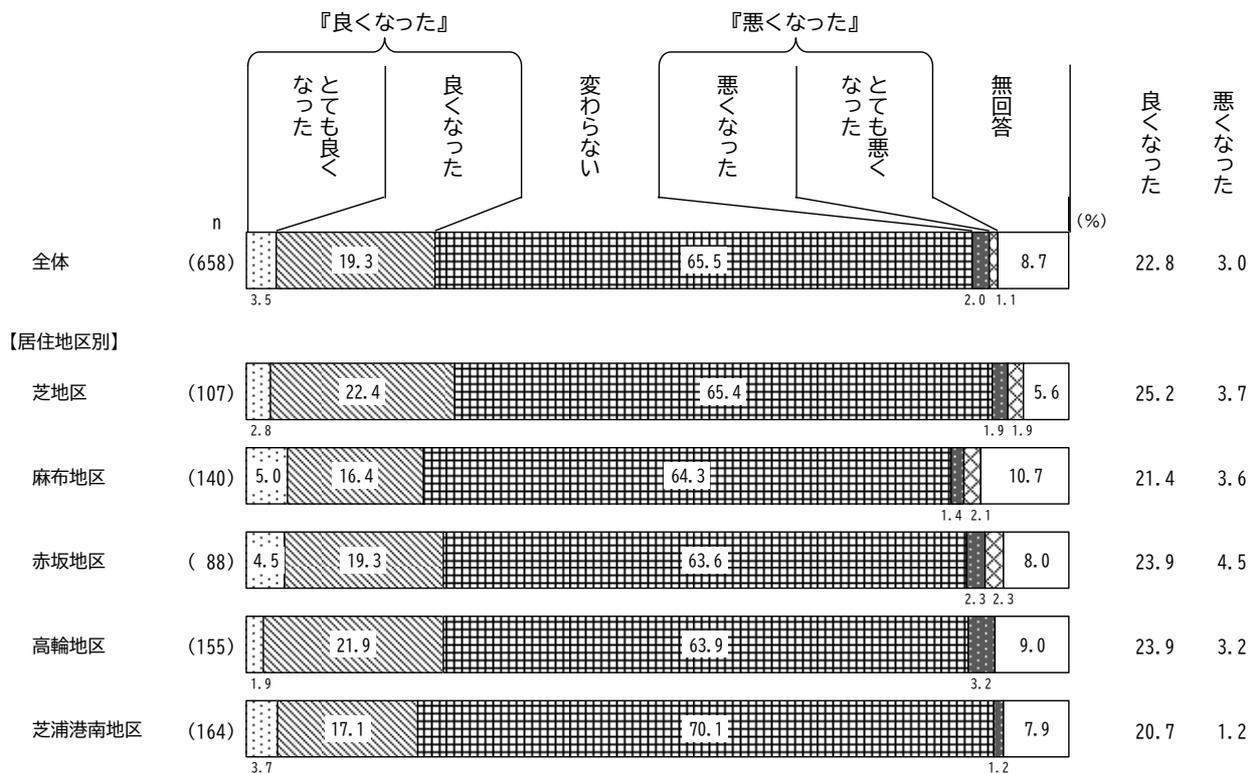
居住地区別でみると、『良くなった』は高輪地区（31.6%）で3割を超え、芝地区（29.0%）で約3割となっている。一方、『悪くなった』は赤坂地区（5.7%）が最も多くなっている。（図10-2-5）

項目 (3) 仕事への意欲  
(性・年代別) 図 10-2-6



性別で見ると、『良くなった』は男性 (25.4%) が女性 (20.8%) より 4.6 ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性 50~59 歳 (32.7%) が 3 割を超えて最も多く、次いで男性 70 歳以上 (30.0%) で 3 割となっている。一方、『悪くなった』は男性 60~69 歳 (10.3%) で 1 割となっている。(図 10-2-6)

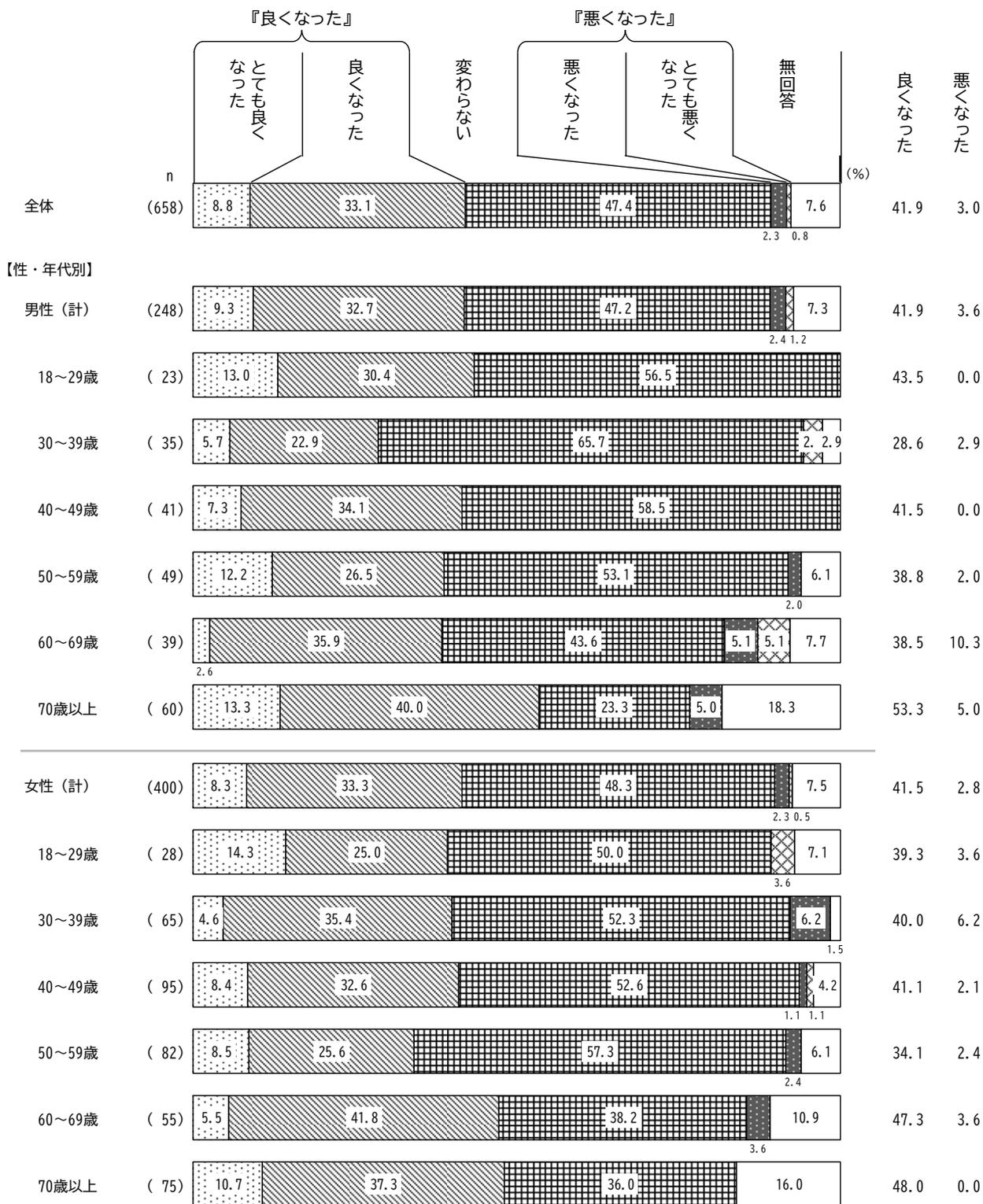
項目 (3) 仕事への意欲  
(居住地区別) 図 10-2-7



居住地区別でみると、『良くなった』は芝地区 (25.2%) で2割半ば、赤坂地区 (23.9%)、高輪地区 (23.9%) で2割を超えている。一方、『悪くなった』は赤坂地区 (4.5%) が最も多くなっている。

(図 10-2-7)

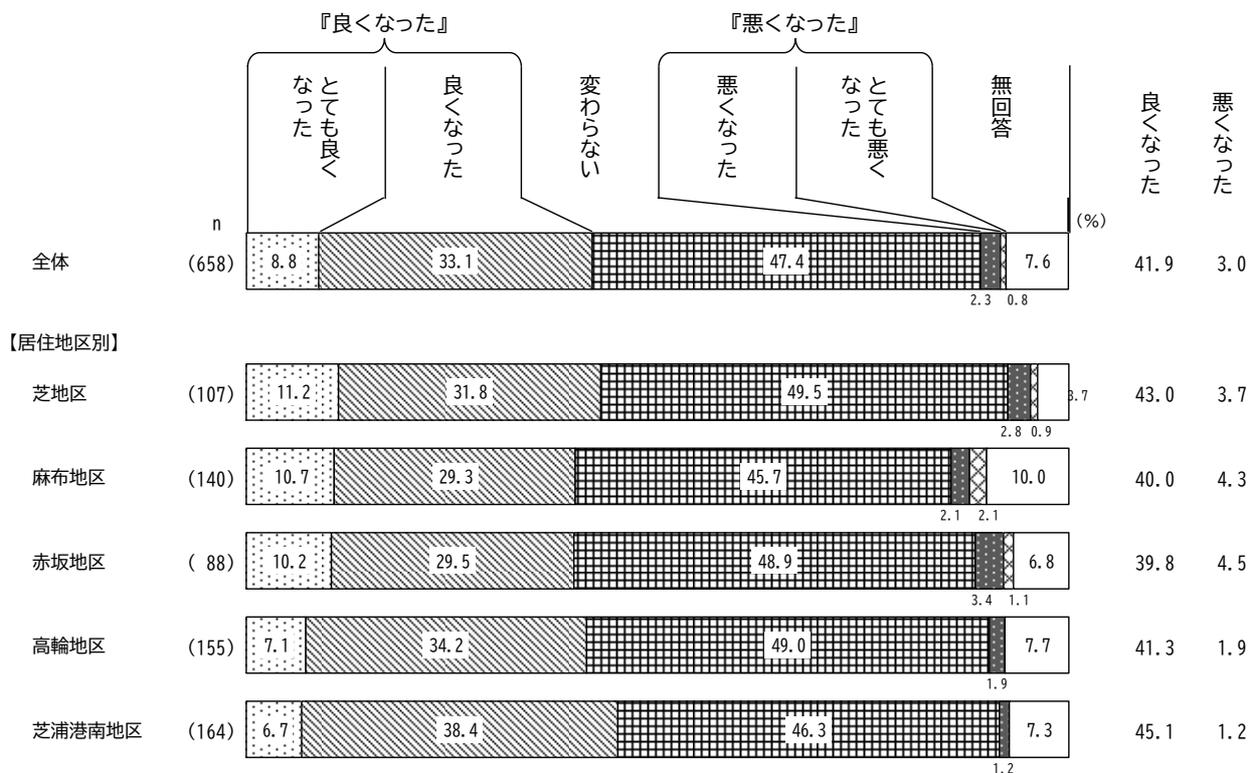
項目(4) 対応の親切さ  
(性・年代別) 図10-2-8



性別でみると、『良くなった』は男女間で大きな違いは見られない。

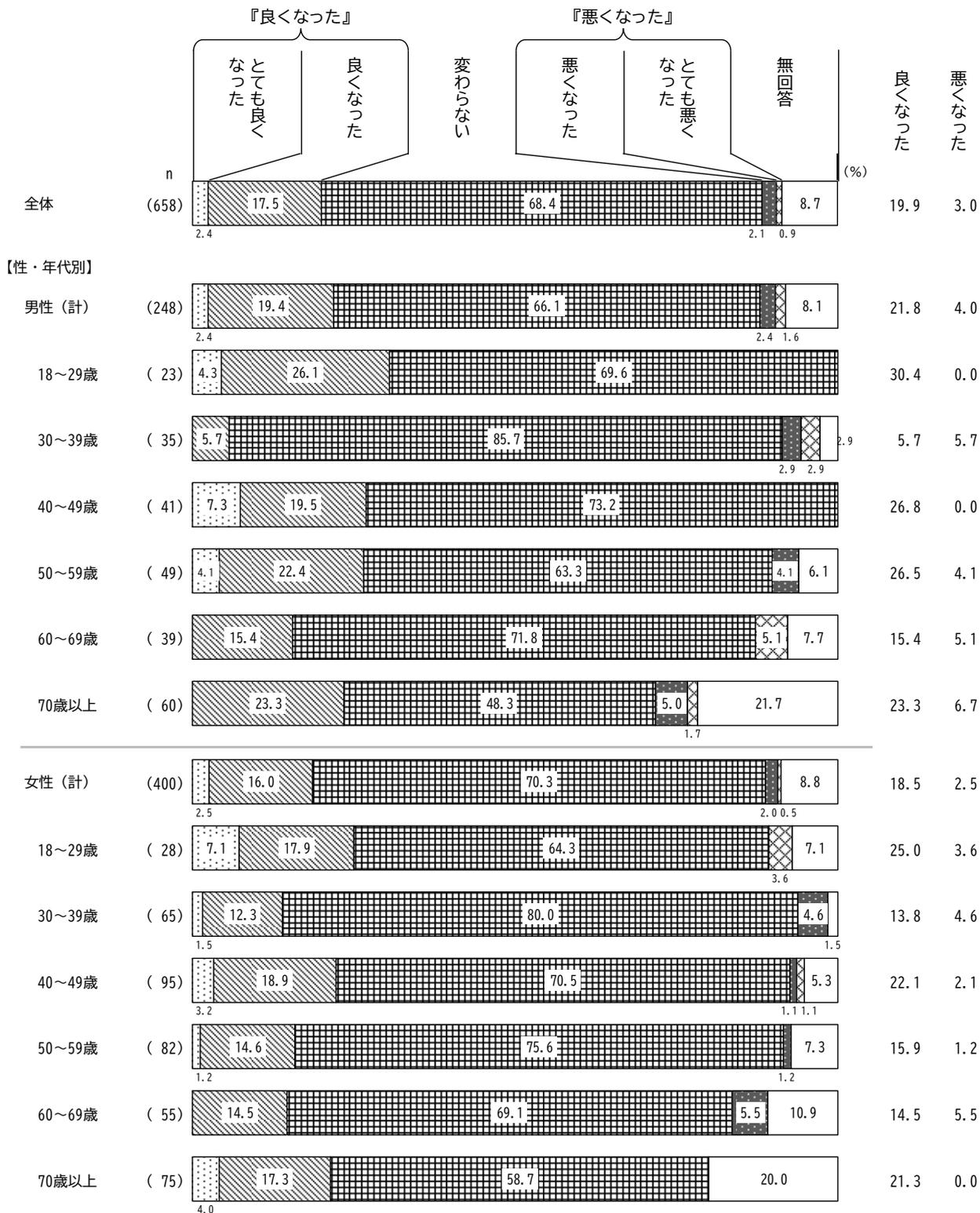
性・年代別でみると、『良くなった』は男性70歳以上(53.3%)で5割を超えて最も多く、次いで女性70歳以上(48.0%)と女性60~69歳(47.3%)でともに5割近くとなっている。一方、『悪くなった』は男性60~69歳(10.3%)で1割となっている。(図10-2-8)

項目(4) 対応の親切さ  
(居住地区別) 図10-2-9



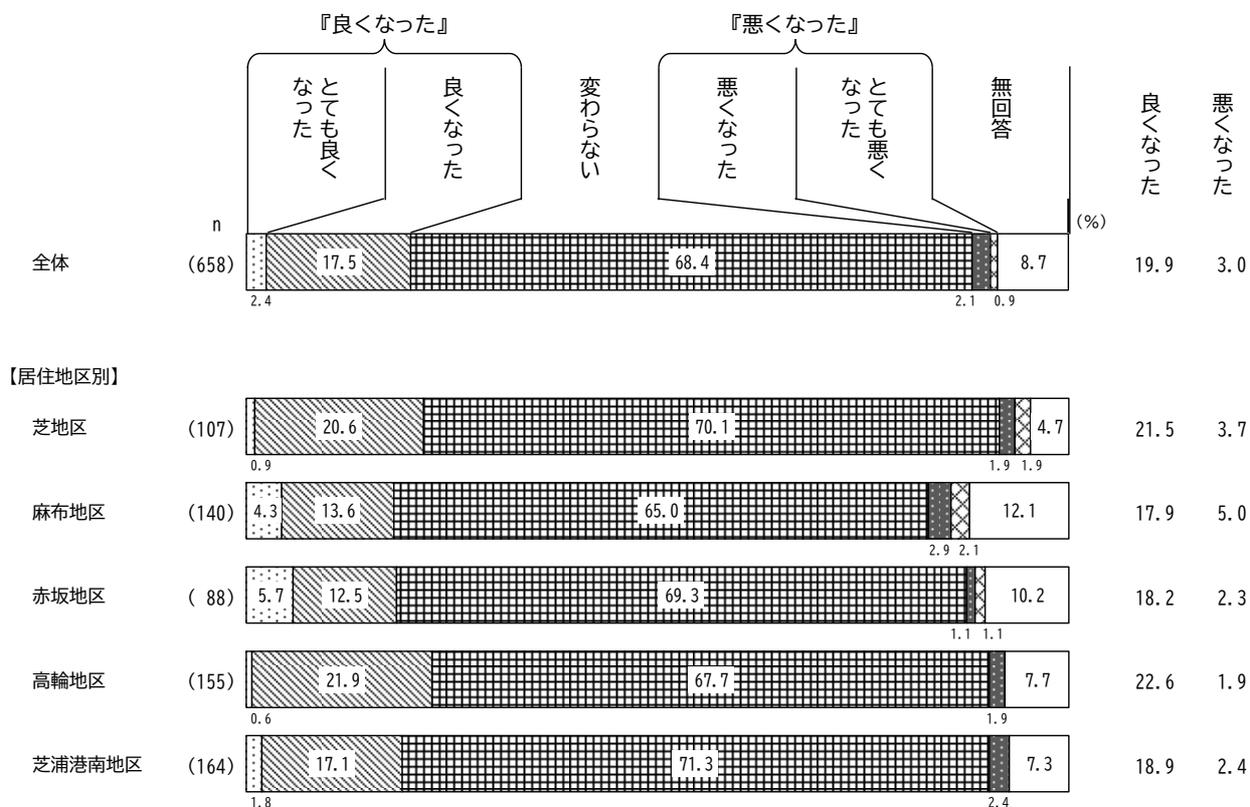
居住地区別で見ると、『良くなった』は芝浦港南地区(45.1%)で4割半ば、芝地区(43.0%)で4割を超えている。一方、『悪くなった』は赤坂地区(4.5%)が最も多くなっている。(図10-2-9)

項目 (5) 危機管理意識  
(性・年代別) 図 10-2-10



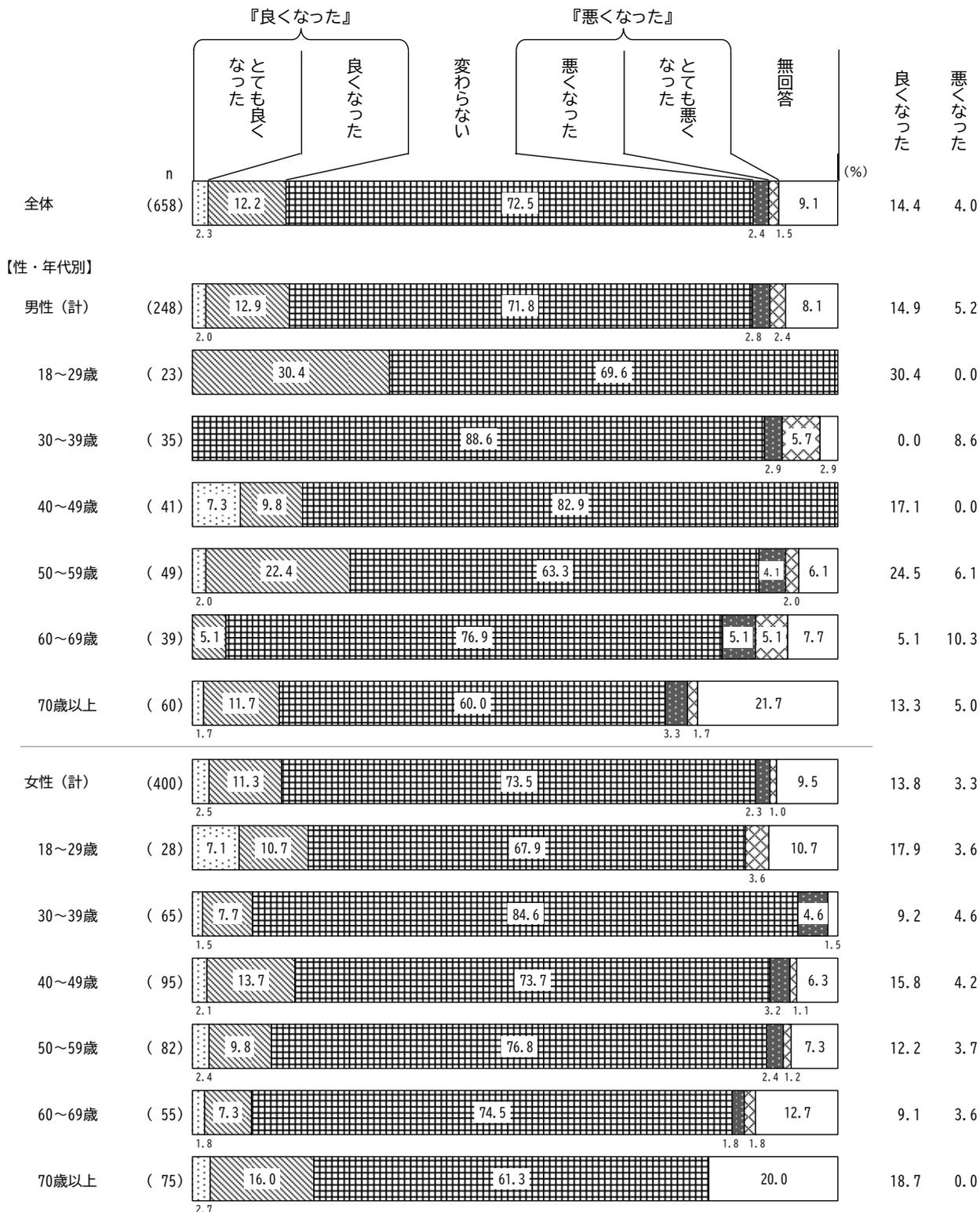
性別で見ると、『良くなった』は男性 (21.8%) が女性 (18.5%) より 3.3 ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性 18~29 歳 (30.4%) が 3 割で最も多く、次いで男性 40~49 歳 (26.8%) と男性 50~59 歳 (26.5%) でもともに 3 割近くとなっている。一方、『悪くなった』は男性 70 歳以上 (6.7%) で 1 割近くとなっている。(図 10-2-10)

項目(5) 危機管理意識  
(居住地区別) 図10-2-11



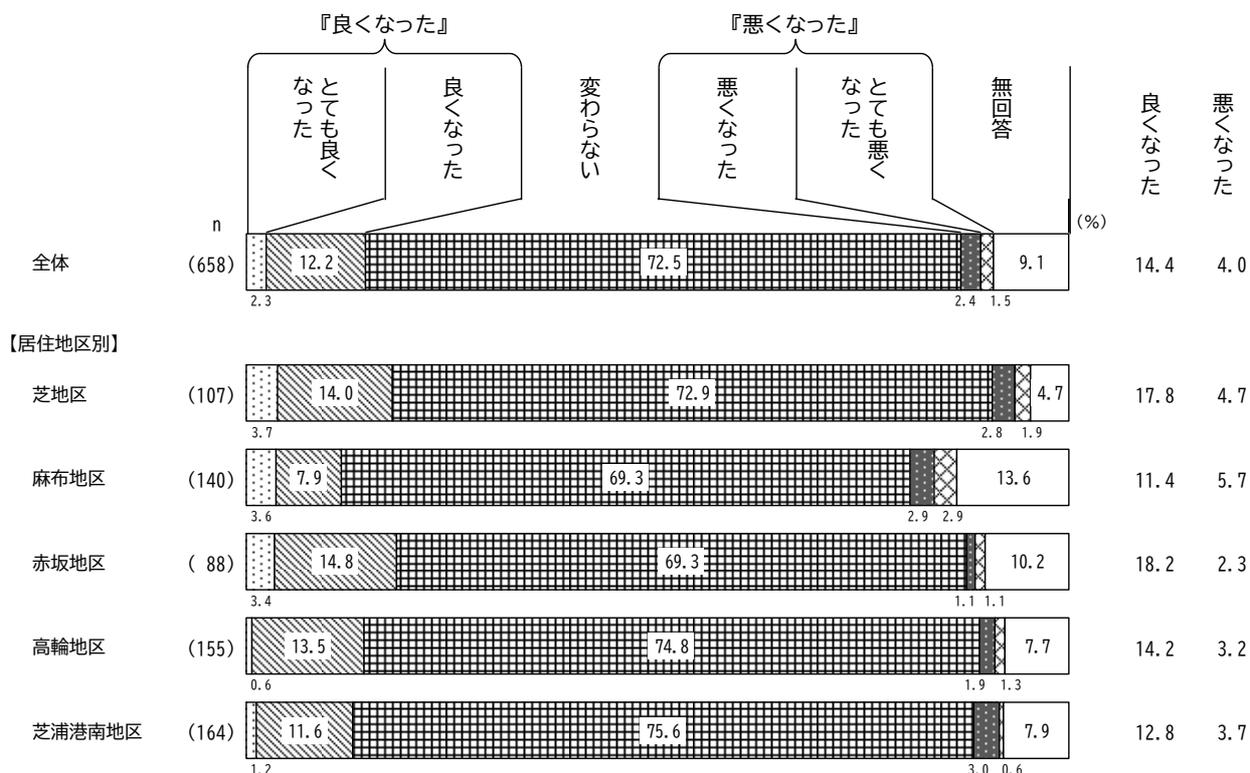
居住地区別で見ると、『良くなった』は高輪地区(22.6%)、芝地区(21.5%)でともに2割を超えている。一方、『悪くなった』は麻布地区(5.0%)が最も多くなっている。(図10-2-11)

項目 (6) コスト意識  
(性・年代別) 図 10-2-12



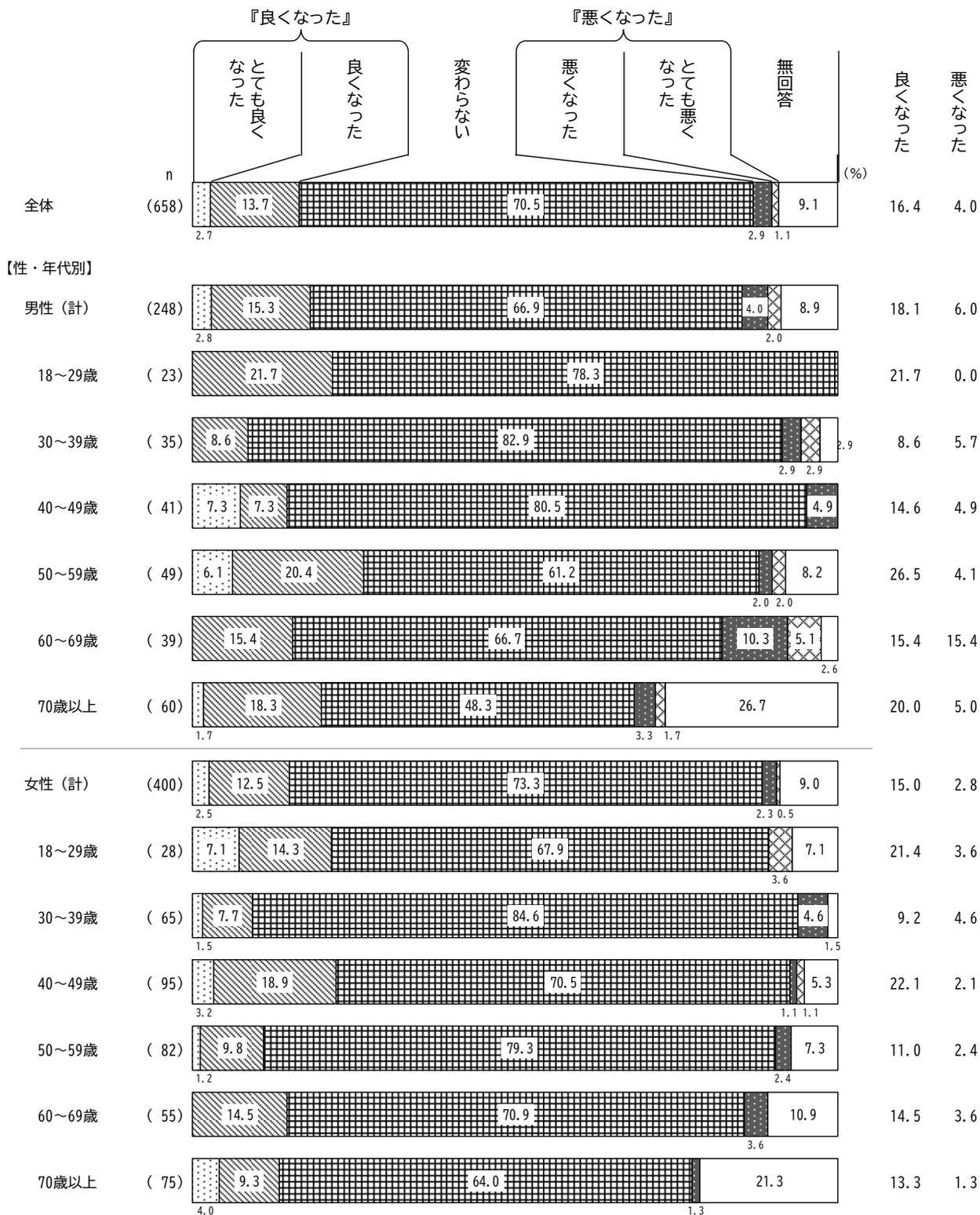
性別で見ると、『良くなった』は男性 (14.9%) が女性 (13.8%) より 1.1 ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性 18~29 歳 (30.4%) が 3 割で最も多く、次いで男性 50~59 歳 (24.5%) で 2 割半ばとなっている。一方、『悪くなった』は男性 60~69 歳 (10.3%) で 1 割となっている。(図 10-2-12)

項目 (6) コスト意識  
(居住地区別) 図 10-2-13



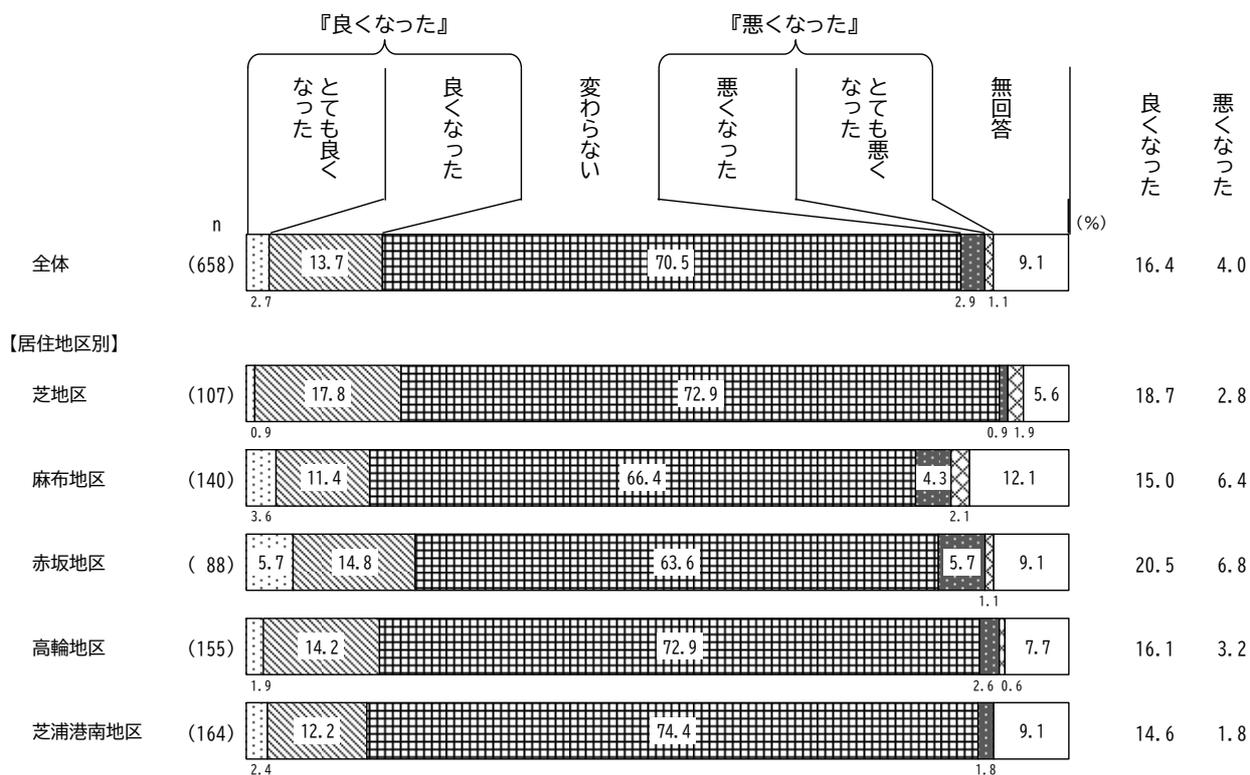
居住地区別で見ると、『良くなった』は赤坂地区 (18.2%)、芝地区 (17.8%) でともに2割近くとなっている。一方、『悪くなった』は麻布地区 (5.7%) が最も多くなっている。(図 10-2-13)

項目(7) 先を見通す仕事の仕方  
(性・年代別) 図10-2-14



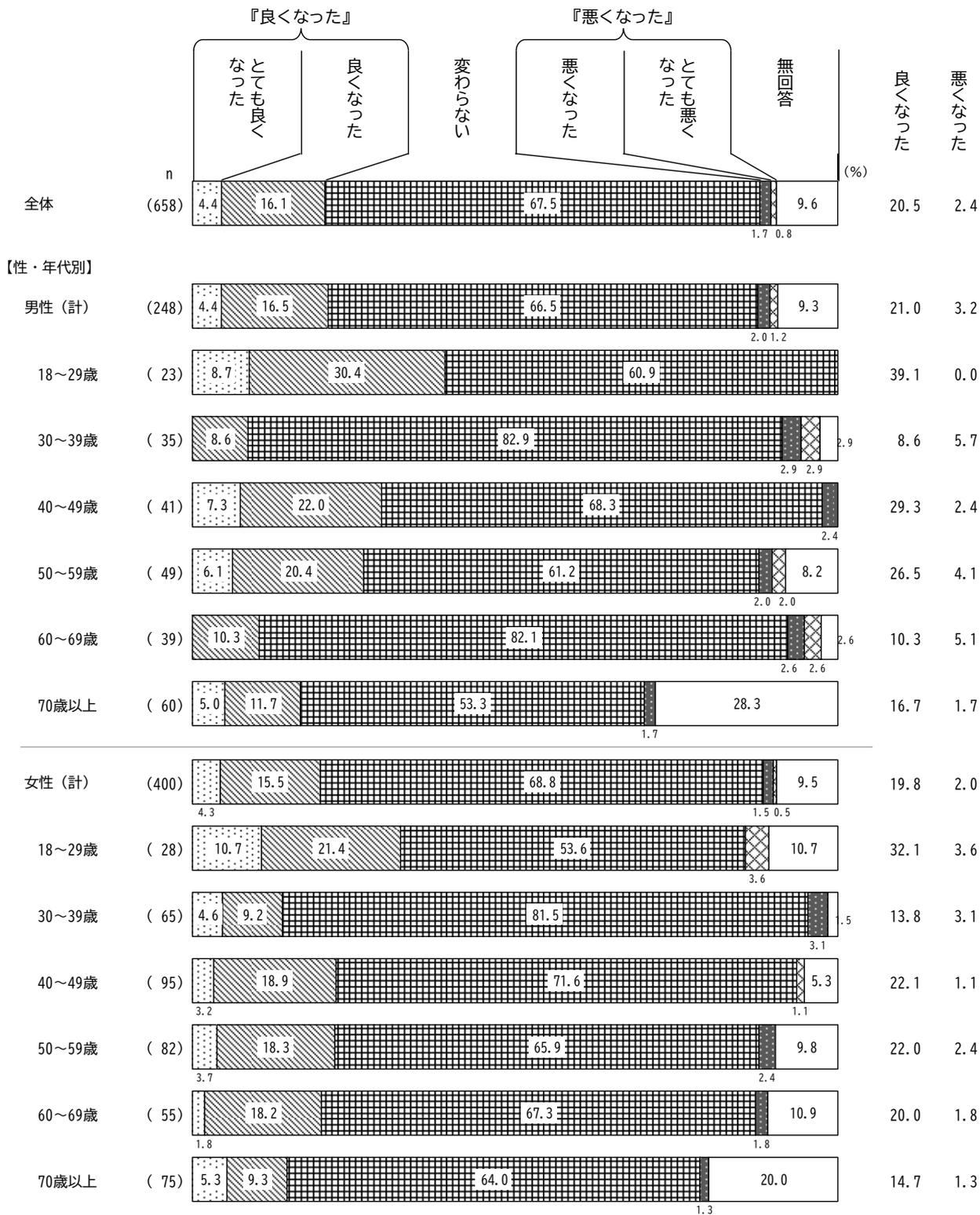
性別でみると、『良くなった』は男性(18.1%)が女性(15.0%)より3.1ポイント多くなっている。  
 性・年代別でみると、『良くなった』は男性50~59歳(26.5%)が3割近くで最も多く、次いで女性40~49歳(22.1%)で2割を超えている。一方、『悪くなった』は男性60~69歳(15.4%)で1割半ばとなっている。(図10-2-14)

項目(7) 先を見通す仕事の仕方  
(居住地区別) 図10-2-15



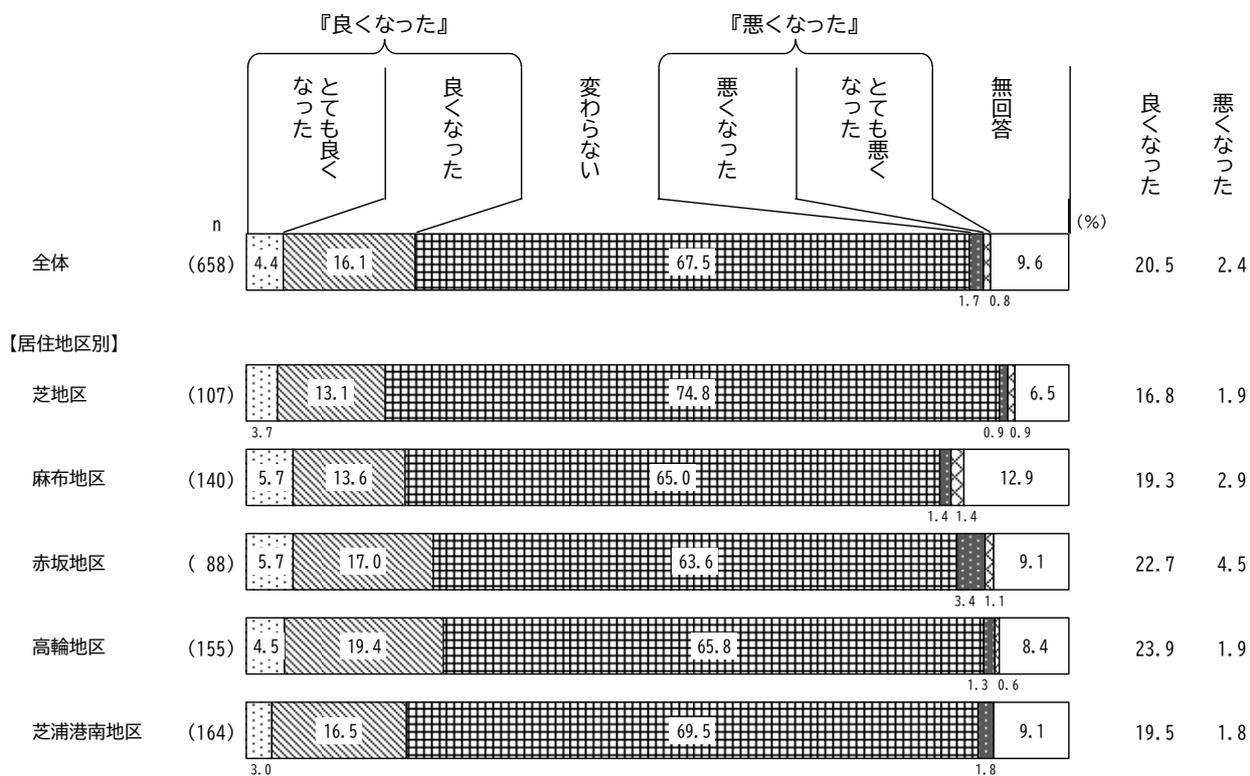
居住地区別で見ると、『良くなった』は赤坂地区（20.5%）で約2割、芝地区（18.7%）で2割近くとなっている。一方、『悪くなった』は赤坂地区（6.8%）が最も多くなっている。（図10-2-15）

項目(8) 創意工夫  
(性・年代別) 図10-2-16



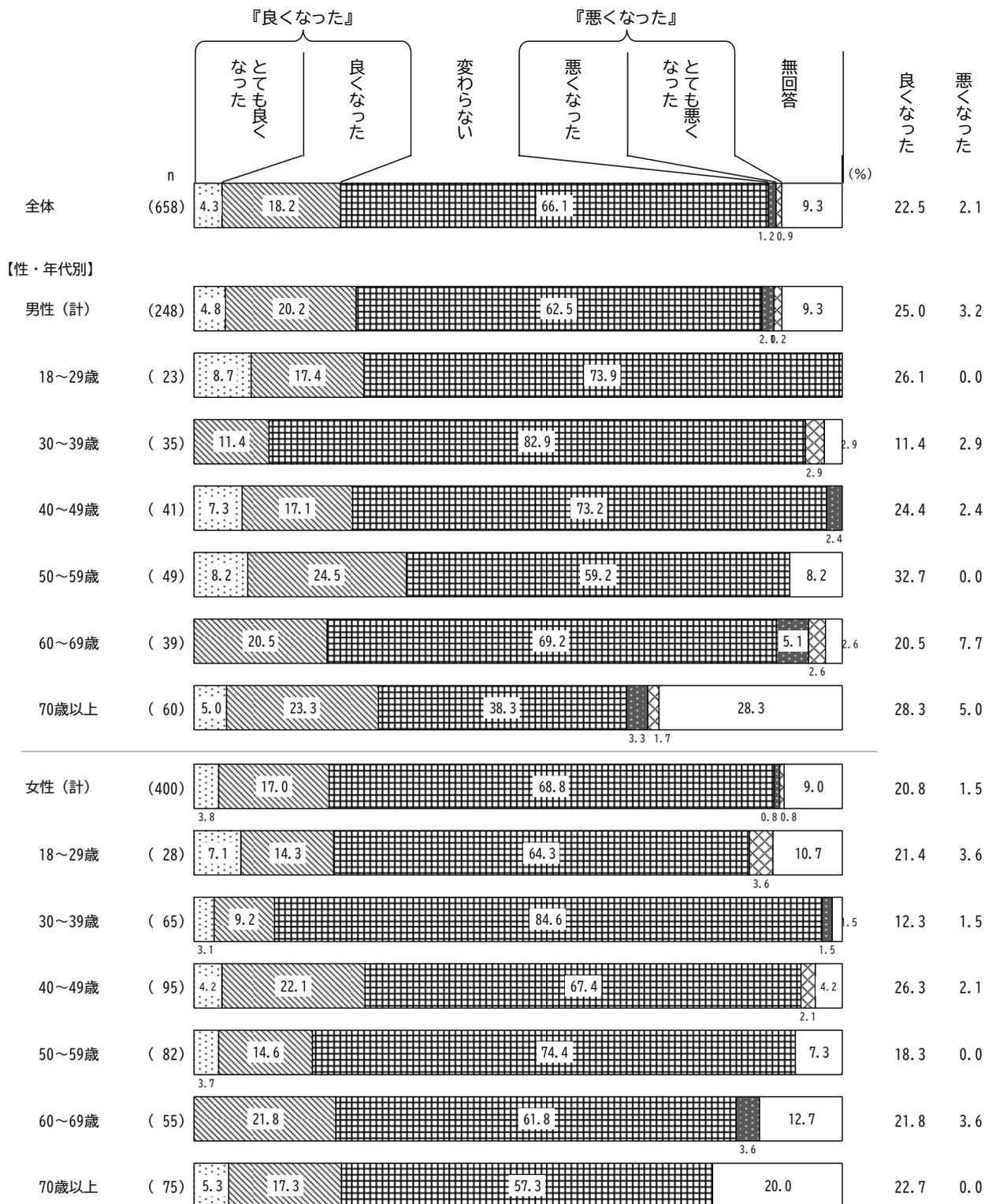
性別でみると、『良くなった』は男性(21.0%)が女性(19.8%)より1.2ポイント多くなっている。  
 性・年代別でみると、『良くなった』は男性18~29歳(39.1%)が約4割で最も多く、次いで女性18~29歳(32.1%)で3割を超えている。一方、『悪くなった』は男性30~39歳(5.7%)が最も多くなっている。(図10-2-16)

項目 (8) 創意工夫  
(居住地区別) 図 10-2-17



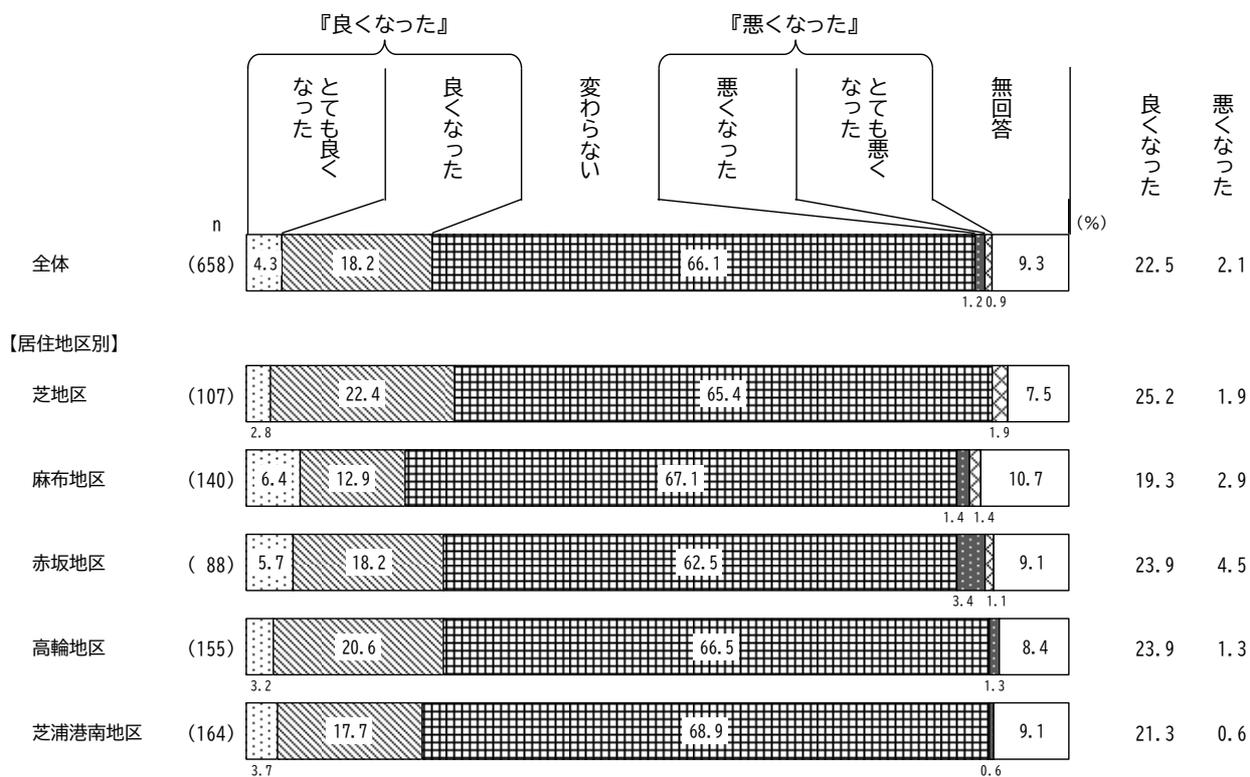
居住地区別でみると、『良くなった』は高輪地区 (23.9%)、赤坂地区 (22.7%) で2割を超えている。一方、『悪くなった』は赤坂地区 (4.5%) が最も多くなっている。(図 10-2-17)

項目 (9) 責任感  
(性・年代別) 図 10-2-18



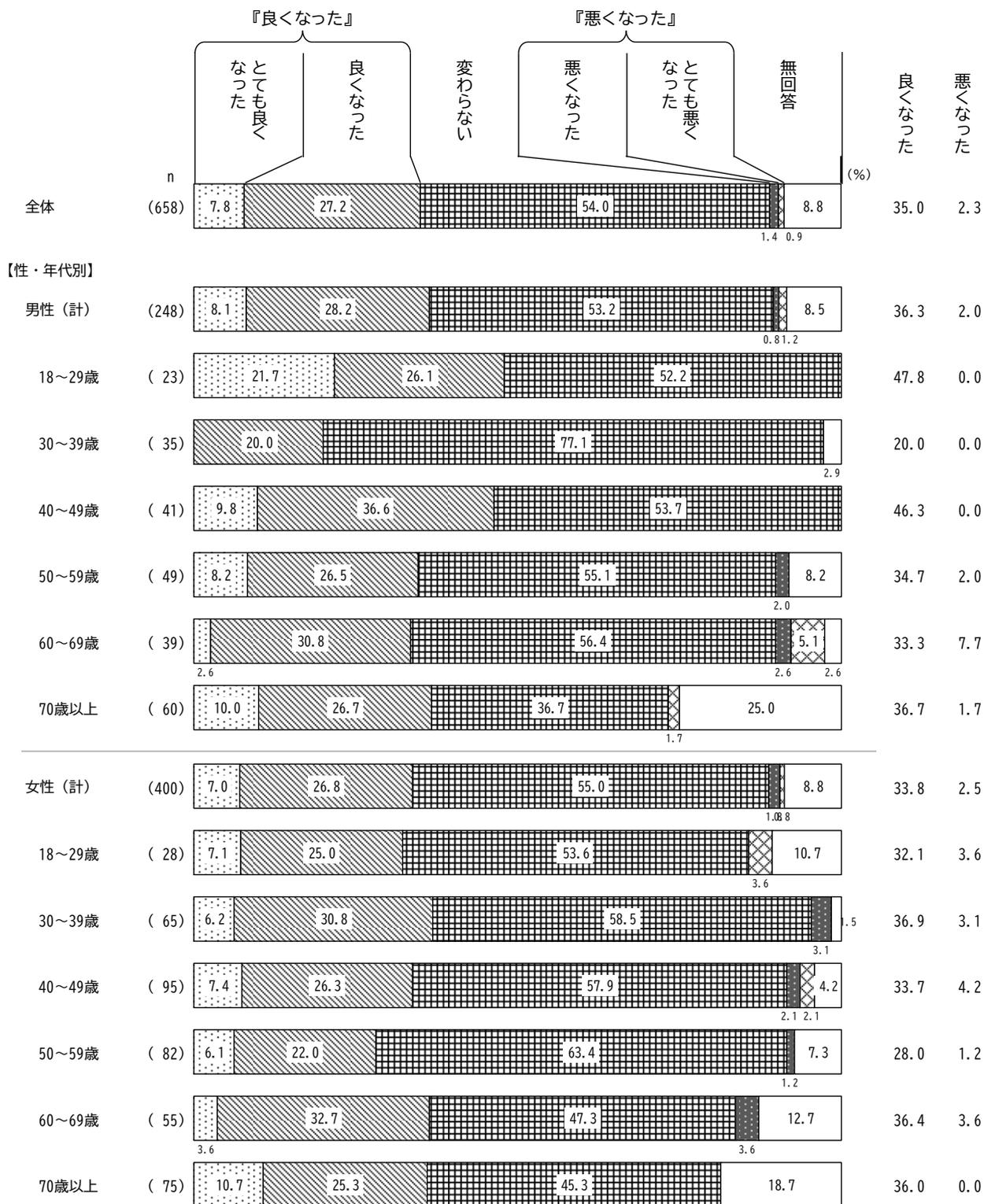
性別で見ると、『良くなった』は男性 (25.0%) が女性 (20.8%) より 4.2 ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性 50~59 歳 (32.7%) が 3 割を超えて最も多く、次いで男性 70 歳以上 (28.3%) で 3 割近くとなっている。一方、『悪くなった』は男性 60~69 歳 (7.7%) で 1 割近くとなっている。(図 10-2-18)

項目(9) 責任感  
(居住地区別) 図10-2-19



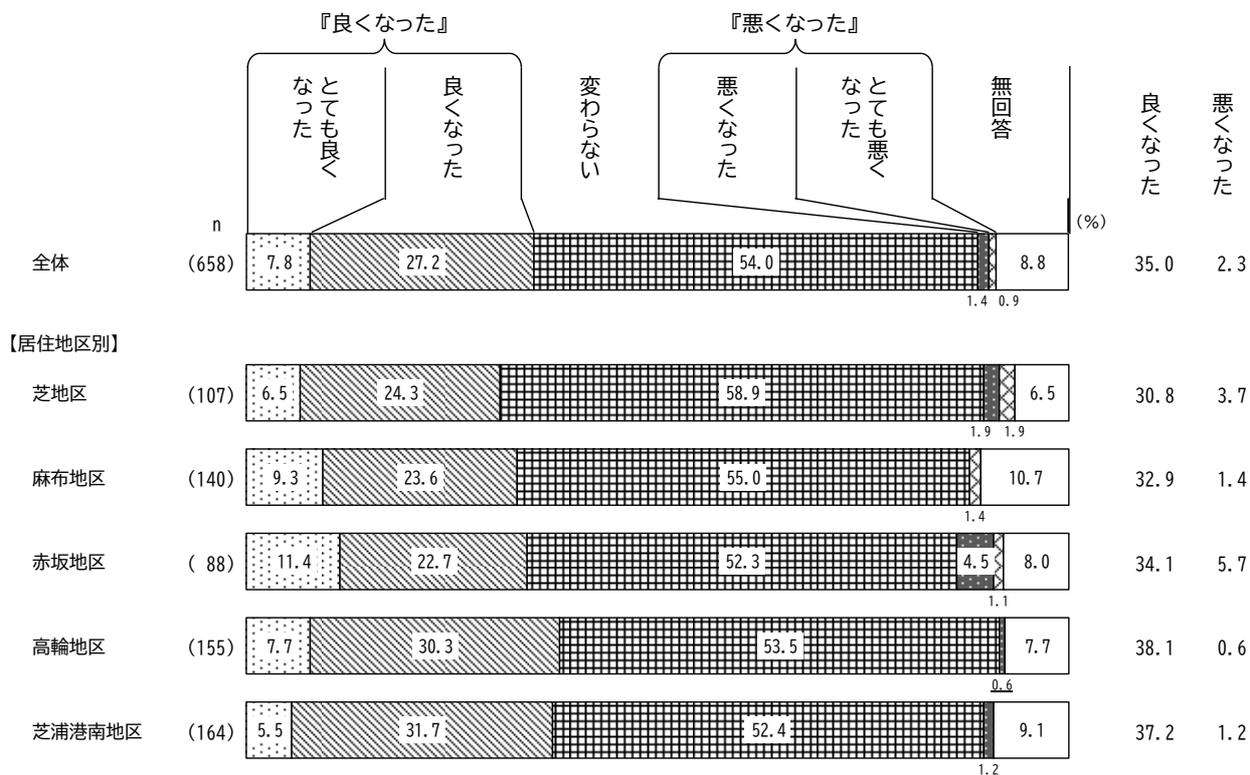
居住地区別で見ると、『良くなった』は芝地区（25.2%）で2割半ばとなっている。一方、『悪くなった』は赤坂地区（4.5%）が最も多くなっている。（図10-2-19）

項目(10) 説明のわかりやすさ  
(性・年代別) 図10-2-20



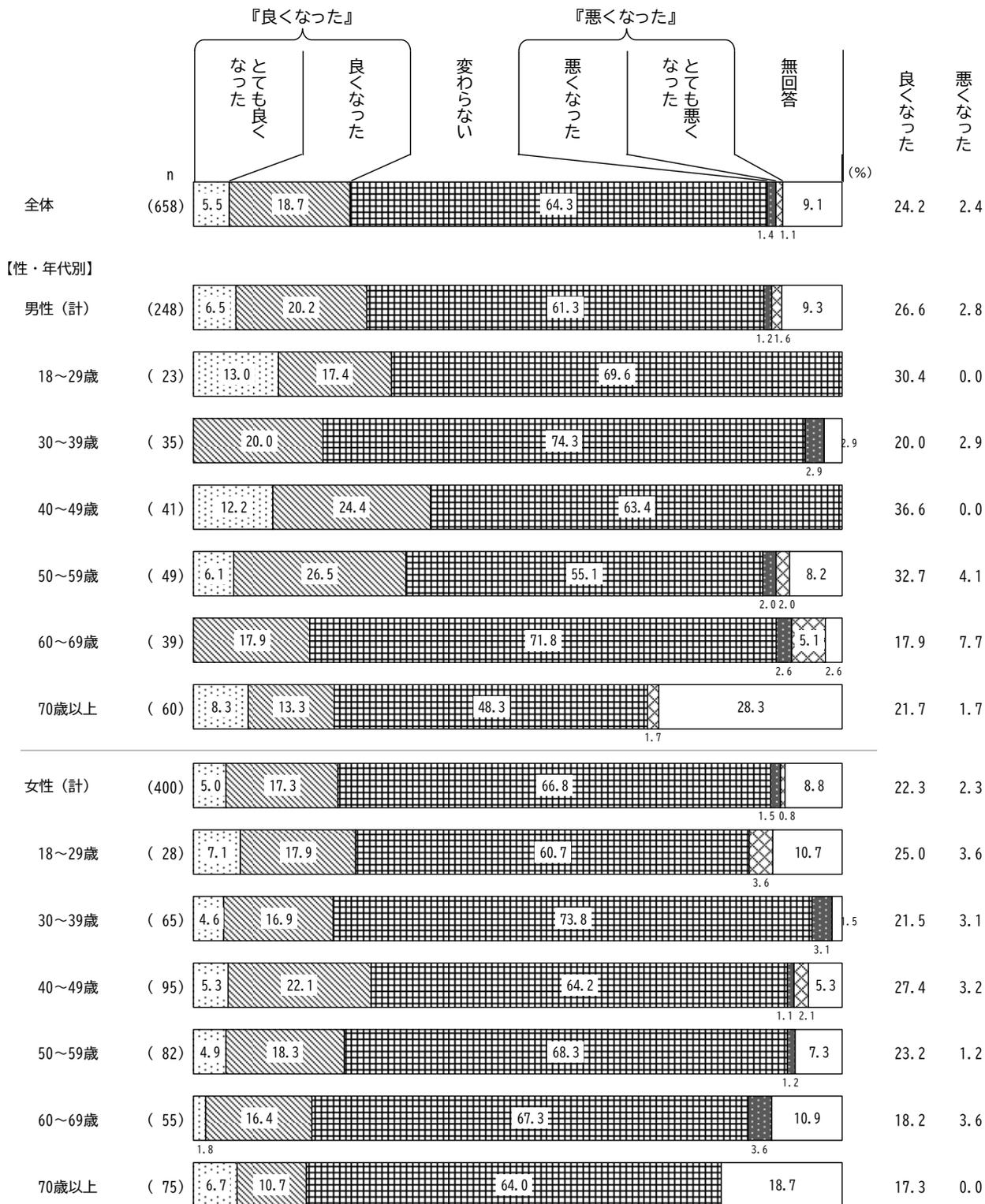
性別で見ると、『良くなった』は男性(36.3%)が女性(33.8%)より2.5ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性18~29歳(47.8%)で5割近くと最も多く、次いで男性40~49歳(46.3%)で4割半ばとなっている。一方、『悪くなった』は男性60~69歳(7.7%)で1割近くとなっている。(図10-2-20)

項目（10）説明のわかりやすさ  
（居住地区別）図 10-2-21



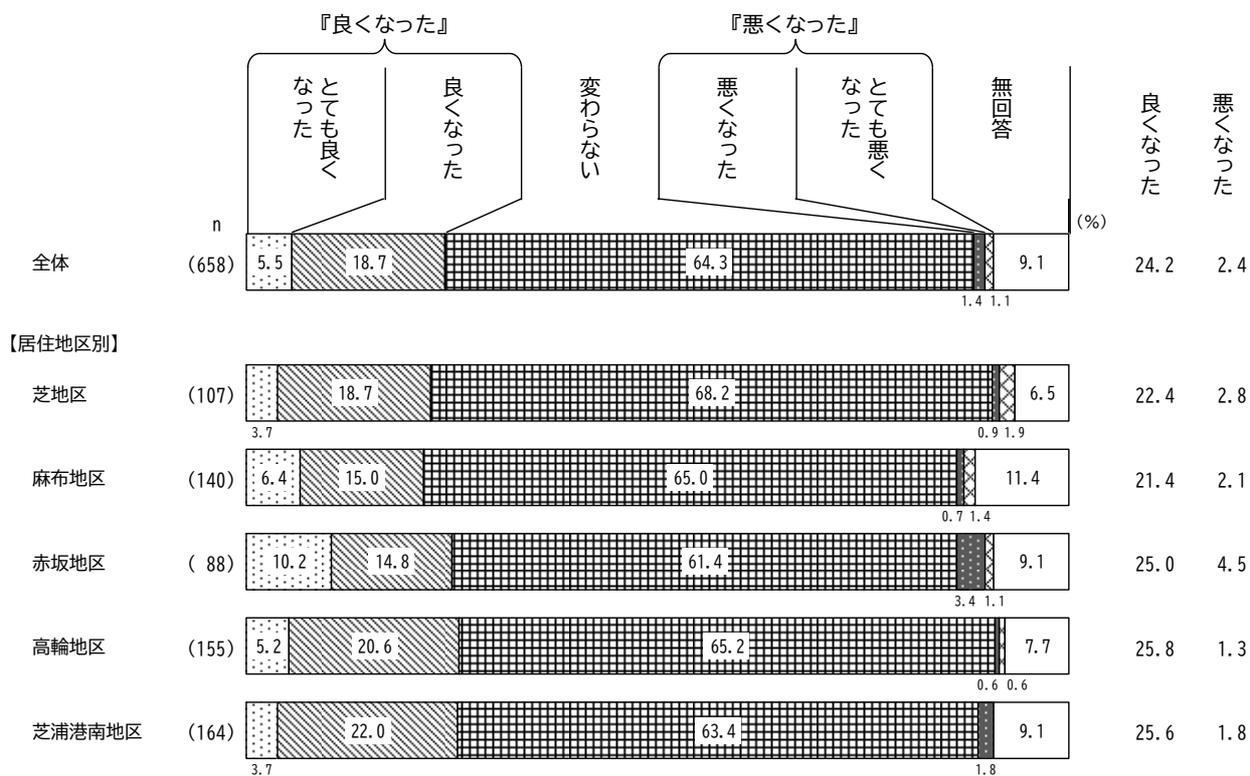
居住地区別で見ると、『良くなった』は高輪地区（38.1%）芝浦港南地区（37.2%）でともに4割近くとなっている。一方、『悪くなった』は赤坂地区（5.7%）が最も多くなっている。（図 10-2-21）

項目(11) 専門的な知識の活用  
(性・年代別) 図10-2-22



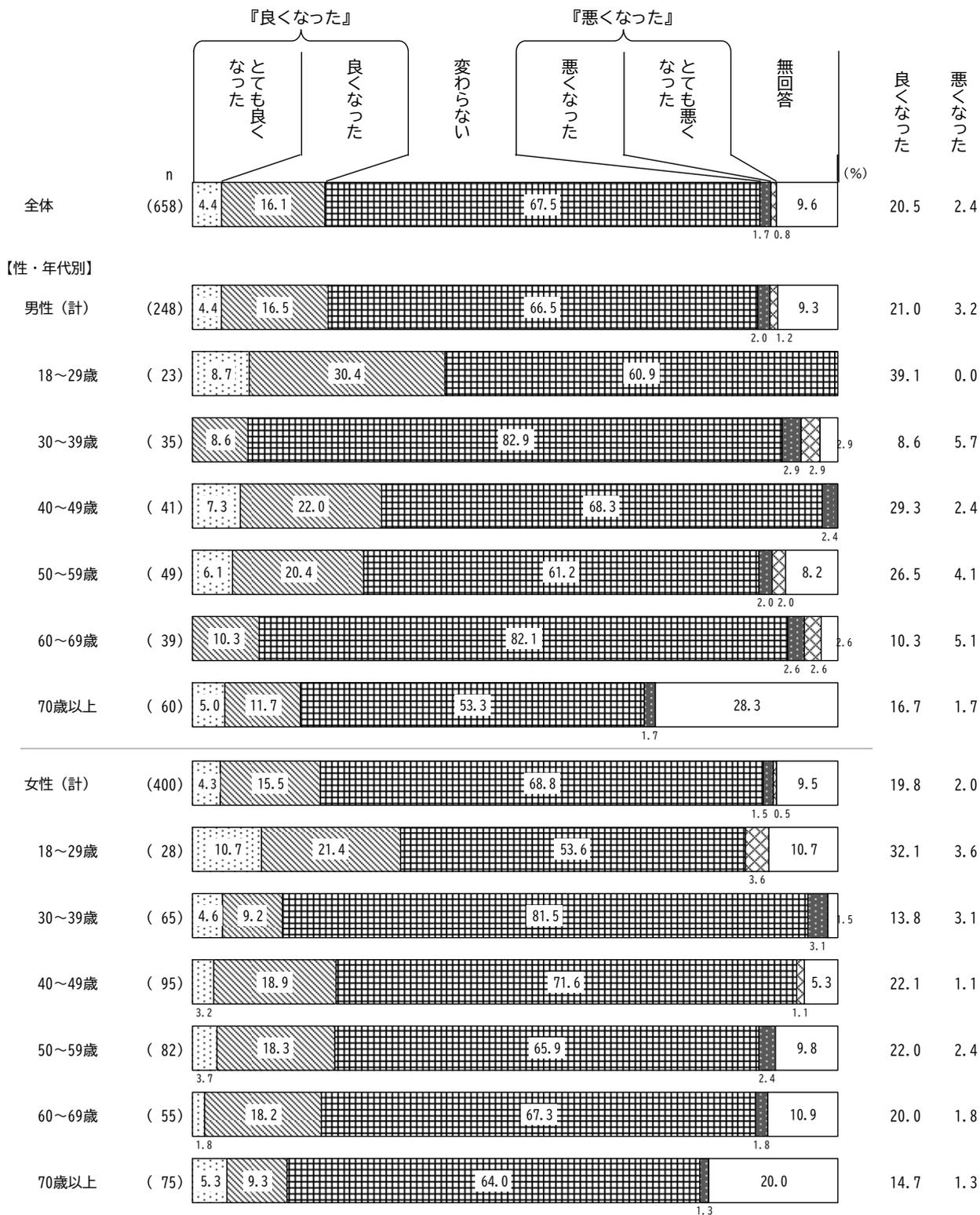
性別で見ると、『良くなった』は男性(26.6%)が女性(22.3%)より4.3ポイント多くなっている。性・年代別で見ると、『良くなった』は男性40~49歳(36.6%)が4割近くと最も多く、次いで男性50~59歳(32.7%)で3割を超えている。一方、『悪くなった』は男性60~69歳(7.7%)で1割近くとなっている。(図10-2-22)

項目（11）専門的な知識の活用  
（居住地区別）図 10-2-23



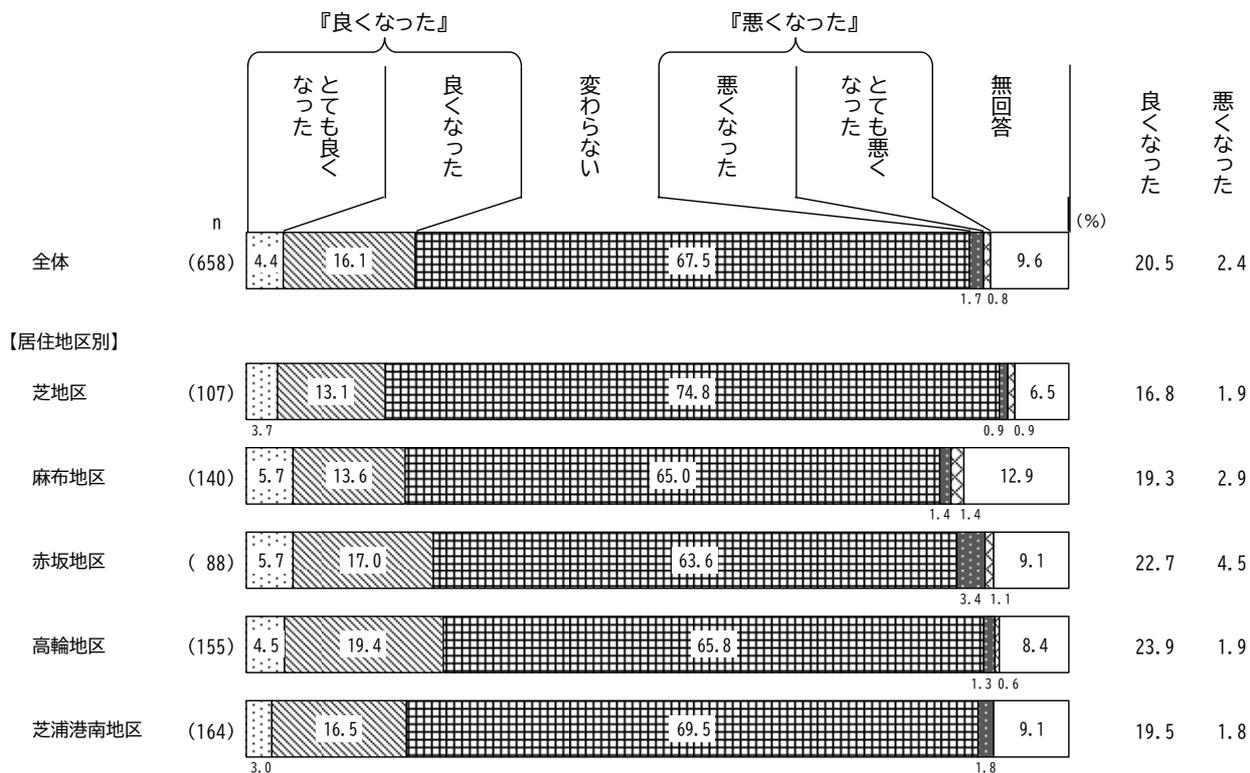
居住地区別で見ると、『良くなった』は高輪地区（25.8%）、芝浦港南地区（25.6%）、赤坂地区（25.0%）でいずれも2割半ばとなっている。一方、『悪くなった』は赤坂地区（4.5%）が最も多くなっている。（図 10-2-23）

項目(12) 情報発信力  
(性・年代別) 図10-2-24



性別で見ると、『良くなった』は男性(21.0%)が女性(19.8%)より1.2ポイント多くなっている。  
 性・年代別で見ると、『良くなった』は男性18~29歳(39.1%)が約4割で最も多く、次いで女性18~29歳(32.1%)で3割を超えている。一方、『悪くなった』は男性30~39歳(5.7%)が最も多くなっている。(図10-2-24)

項目(12) 情報発信力  
(居住地区別) 図10-2-25



居住地区別で見ると、『良くなった』は高輪地区(23.9%)、赤坂地区(22.7%)で2割を超えている。一方、『悪くなった』は赤坂地区(4.5%)が最も多くなっている。(図10-2-25)



